取扱説明書

操作
整備
仕様

本取扱説明書の情報は、発行時点の最新のものです。ただし、継続的な製品改善の方針に従い、弊社はいつでも変更を加える権利を保持しています。

本説明書はこの車両のすべてのモデルに適用され、オプションおよび標準装備の両方に関する描写および説明が含まれています。

その結果、お客様の車両に対応しない内容が説明書に含まれている場合があります。

注意：ヒョンデ車の改造

絶対にヒョンデ車の改造や改変を行わないでください。このような改造や改変は、ヒョンデ車の性能、安全性、耐久性に悪影響を与えかねないうえ、車両をカバーする限定保証の条件に違反する可能性があります。ある種の改造についても、国土交通省やお住まいの国の政府機関が定めた法規に違反している可能性があります。

送受信無線機または携帯電話の取り付け

車両には電子部品が搭載されています。送受信無線機または携帯電話の誤った取り付け / 調節を行うと、電子システムに悪影響を及ぼす可能性があります。したがって、このような機器を取り付ける場合は、無線機メーカーの指示に丁寧に従うか、弊社ディーラーに問い合わせて予防措置や特別な指示を確認することをお勧めします。

警告! (装備されている場合)

本車両は、緊急サービスを呼び出すことができる「Hyundaiエマージェンシーコール」を装備しています。車両システムおよび構成部品、Hyundaiエマージェンシーコールに対するご自身または第三者による不正なアクセスや、車両メーカーおよび/またはヒョンデ認定ディーラーが推奨していない機器の取り付けは、システム（の装置）の誤動作の原因となり、交通事故やその他の事故が発生し緊急の治療を必要とする場合にHyundaiエマージェーンシーコールが適切なコールを行えなくなる可能性があります。

これは危険であり、命にかかわることがあります。

安全と車両の損傷に関する警告

本取扱説明書には、危険、警告、注意、知識というタイトルの情報が含まれています。
これらのタイトルは、以下の内容を示します。

⚠ 危険

「危険」は、回避しなければ死亡または重傷を負う危険な状況を示します。

⚠ 警告

「警告」は、回避しなければ死亡または重傷のおそれがある危険な状況を示します。

⚠ 注意

「注意」は、回避しなければ軽傷または中程度の外傷のおそれがある危険な状況を示します。

知識

「知識」は、回避しなければ車両に損傷を与える恐れのある状況を示します。

目次

情報 /EV に乗る前に 1

車両情報 2

シートと安全システム 3

インストルメントクラスター 4

便利機能 5

運転にあたって 6

運転者アシストシステム 7

緊急事態 8

メンテナンス 9

索引 I

1. 情報/EVに乗る前に

情報 1-3
Hyundai Motor Company 1-3
安全に関するメッセージ 1-4
車両の改造 1-5
「EV に乗る前に」について 1-6
EV について 1-7
EV の特徴 1-7
高電圧バッテリー使用時の注意事項 1-9
EV 管理に関するその他の注意事項 1-10
EV の充電 1-11
EV 充電時の安全上の注意事項 1-11
EV の充電に関する基本的な情報の確認 1-17
急速充電器の使用 1-22
200V 普通充電ケーブルの使用（装備されている場合） 1-24
即時充電停止 1-30
EV モード 1-31
EV の画面構成を確認する 1-31
エネルギー情報の確認 1-33
次の出発時刻設定 1-35
普通充電設定 1-37
充電時目標充電量設定 1-39
電気使用設定（V2L） 1-40
EV 特有の機能の設定 1-41
V2L 機能を使用する 1-47
V2L 機能使用時の安全上の注意事項 1-47
車両の外で電気を使う 1-50
車内で電気を使う 1-51
V2L の問題を解決する 1-53
補助バッテリーセーバー + ... 1-54
EV の運転 1-55
車両の始動と停止 1-55
EV の走行情報の確認 1-57
事故や火災が発生したら 1-67
EV に火災が発生した場合 1-67
EV が浸水した場合 1-67

1

EV のけん引が必要な場合.....1-68
EV の事故に関するその他の注意事項 1-69

情報

このたびは、HYUNDAIをお選びいただき誠にありがとうございます。多くの皆様にHYUNDAI車をご購入いただいておりますが、そのような方々と同様に「違いがわかる」お客様を歓迎いたします。弊社は、製造しているHYUNDAI車一台一台に搭載された高度な技術と質の高い造りに誇りを持っています。

取扱説明書では、新しいHYUNDAI車の機能と操作方法を説明しています。新しいHYUNDAI車を熟知し、お楽しみいただくため、運転する前に本取扱説明書を丁寧にお読みいただくようお願い申し上げます。

本取扱説明書には、お客様が車両の制御機能および安全機能を把握し、安全に車両を取り扱えるようにするための重要な安全情報および説明が記載されています。

また、車両操作の安全性を強化するために設計されたメンテナンスに関する情報もあります。車両の整備およびメンテナンスは、弊社認定修理業者にお任せいただくことを推奨します。弊社認定修理業者は、高品質なサービス、メンテナンス、そしてその他必要なサポートを提供します。

本取扱説明書を車両の一部とみなし、いつでも参照できるように車両内に保管してください。車両を売却する場合に、お客様が操作、安全、メンテナンスに関する重要情報を確認できるよう、車両とともにお渡しください。

Hyundai Motor Company

⚠ 注意

弊社の仕様に満たない低品質な潤滑剤を使用した場合、車両に重大な損傷が生じるおそれがあります。取扱説明書の「EV仕様EV仕様」に記載されている仕様を満たす、高品質の潤滑油を使用してください。

Copyright 2025 Hyundai Motor Company.All rights reserved.本書の一部またはすべての複製、情報検索システムへの保存、あらゆる形式または方法での送信を、Hyundai Motor Companyの書面による事前の許可なく行うことを禁じます。

安全に関するメッセージ

お客様の安全、他者の安全は、非常に重要です。本取扱説明書には、安全上の注意事項と操作手順についての記述が多数あります。この情報は、お客様または他者、そして車両を傷つけるおそれがある潜在的な危険について注意を促します。

車両のラベルと本説明書にある安全に関する情報は、それらの危険とその回避方法またはリスク軽減方法を説明します。

本説明書に含まれる警告および指示は、お客様の安全のためにあります。安全に関する警告および指示に従わなかった場合、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

本説明書では、危険、警告、注意、知識、安全アラート記号が使用されています。



これが安全アラート記号です。潜在的な外傷の危険に関する注意を促すために使用されます。この記号の後に記載されているすべての安全に関するメッセージに従い、傷害または死亡の可能性がある状況を避けてください。安全アラート記号の後には、危険、警告、注意という注意喚起の用語が続きます。

⚠ 危険

「危険」は、回避しなければ死亡または重大な傷害を負う危険な状況を示します。

⚠ 警告

「警告」は、回避しなければ死亡または重大な傷害のおそれがある危険な状況を示します。

⚠ 注意

「注意」は、回避しなければ軽傷または中程度の外傷のおそれがある危険な状況を示します。

知識

「知識」は、回避しなければ車両に損傷を与えるおそれのある状況を示します。

車両の改造

- 車両に改造を加えてはなりません。車両を改造すると、性能、安全性、または耐久性に影響を与える可能性があり、さらには国の安全基準や規制の違反となる可能性があります。

  さらに、改造によって生じる損傷または性能に関する問題は、保証の対象となりません。
- 未承認の電子機器を使用すると、車両の異常な作動、配線の損傷、バッテリーの放電、火災が生じるおそれがあります。

「EV に乗る前に」について

「EVに乗る前に」では、車両に使われている新技術に関する情報を提供し、主な機能の使い方を説明します。「EVに乗る前に」では、新しい車両の機能や便利な操作方法を素早く簡単に理解できます。

- 運転する前に、車両に付属する説明書をよく読み、車両の各機能に関するすべての安全情報と注意事項に従ってください。
- 「EV に乗る前に」では、すべてのオプション仕様を網羅しているため、お客様の車両に装備されていない機能に関する記述が含まれている場合があります。
- 「EV に乗る前に」に掲載されている車両の外装および内装の画像は、実際の車両と異なる場合があります。

EV について

EVは、バッテリーと電気モーターを使用して駆動します。EVの特性を理解し、運転を始める前に理解する必要がある特徴を確認します。

EV の特徴

EVがガソリン車両やディーゼル車両と異なる特徴は次のとおりです。

- 走行に化石燃料を必要としない環境に優しい車です。さらに、ガソリン車両やディーゼル車両と異なり騒音や振動が少なく、車両自体も比較的長く使用できます。
- 減速時や下り坂で走行時に、回生ブレーキを使用します。回生ブレーキにより高電圧バッテリーが充電され、エネルギー損失を最小限に抑えます。
- 高電圧バッテリーの残量が低下した場合は、普通充電器、急速充電器、普通充電ケーブルを使って充電できます。詳細については、「EV の充電」を参照してください。

i 情報

回生ブレーキは、減速時や制動時の運動エネルギーを電気モーターで電気エネルギーに変換し、高電圧バッテリーを充電します。

バッテリー情報

EVが使用するバッテリーは次のとおりです。

- **高電圧バッテリー（大容量）**：モーターを駆動し、エアコンを作動させます。普通充電器、急速充電器、普通充電ケーブルで充電できます。
- **12V バッテリー**：すべてのライト、ワイパー、オーディオシステムに電力を供給します。インストルメントクラスターに READY インジケーターが表示されている間、または高電圧バッテリーを充電している間、自動的に充電されます。

EV の主要な構成要素

EVの主要な構成要素と機能は次のとおりです。

車載充電器(OBC)	送電網の交流電力を直流電力に変換して高電圧バッテリーを充電します。
インバーター	直流(DC)から交流(AC)に変換した電力をモーターに供給し、減速•制動時には交流から直流に変換した電力で高電圧バッテリーを充電します。
低電圧DC-DC コンバーター(LDC)	高電圧バッテリーの電力を低電圧(12V)電力に変換し、車内の電子機器に電力を供給します。
車両制御装置(VCU)	車両のさまざまなコントローラーやセンサーを制御します。
モーター	高電圧バッテリーに蓄積された電気を使い車両を駆動します(ガソリン車両やディーゼル車両のエンジンと同じ役割を果たします)。
変速機	モーターの回転力を適切な速度とトルクでタイヤに伝えます。
高電圧バッテリー(リチウムイオンバッテリー)	EV が動作するのに必要な電力を蓄え、供給します。(ACC またはOFF のときに電源を共有する12V バッテリーは別途設置されています)

⚠ 警告

- 高電圧バッテリーのコネクターやケーブルを外したり分解したりしないでください。感電事故などの重大な傷害が発生したり、車両の性能や耐久性が著しく低下するおそれがあります。
- 高電圧バッテリーと関連部品の点検および整備が必要な場合は、弊社認定修理業者にご連絡いただくことを推奨します。

高電圧バッテリー使用時の注意事項

高電圧バッテリーの走行時•保管時の注意事項は次のとおりです。

⚠ 注意

- 高電圧バッテリーのゲージが 10% 以下にならないようにしてください。長期にわたってバッテリ残量が低い状態で保管していた場合、バッテリーが損傷したり容量が減少したりすることがあり、バッテリーの交換が必要になることがあります。
- 衝突事故で車両に衝撃が加わった場合は、バッテリーの接続状態を確認するために、弊社認定修理業者で車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- V2L 機能は高電圧バッテリーのエネルギーを使用するため、この機能を使用すると航続可能距離が短くなる可能性があります。また、V2L 機能を繰り返し使用すると、高電圧バッテリーの寿命が短くなる可能性があります。
- 急速充電器を繰り返し使用すると、高電圧バッテリーの寿命が短くなる可能性があります。
- 高電圧バッテリー残量は、車両を走行させなくても自然劣化することがあります。
- 極度の高温または低温の場所で車両を保管すると、バッテリーの性能が低下する可能性があります。
- 航続可能距離や出力は、外気温などの走行条件によって異なる場合があります。高速走行や上り坂の走行ではバッテリー消費量が増加し、航続可能距離が短くなる場合があります。
- 高電圧バッテリーを電源とするエアコンやヒーターを使用すると、航続可能距離が短くなる場合があります。エアコンやヒーターは適切な温度で使用してください。
- 車両の使用期間に応じて、バッテリーの自然劣化が発生し、航続可能距離が短くなる場合があります。充電容量と航続可能距離が減少し続ける場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- 長期間車両を使用しない場合、バッテリーの完全放電を防ぐため、3ヶ月に 1 回以上充電してください。バッテリ残量が減少したら、直ちに車両を充電してください。
- バッテリーを最適な状態に保つには、普通充電を推奨します。高電圧バッテリ残量を 20%以下の状態まで使用してから完全充電することにより、高電圧バッテリーを最適な状態に維持できます。(月に 1 回以上行うことを推奨します)。
- インストルメントクラスターに表示される充電レベルの値は、充電状況（充電器の状態、外気温、バッテリー温度など）によっては低下する場合があります。バッテリー寿命を長く保ち安全に充電するため、一定の充電レベルに達した後は、充電電流を徐々に下げながらバッテリーを完全に充電します。

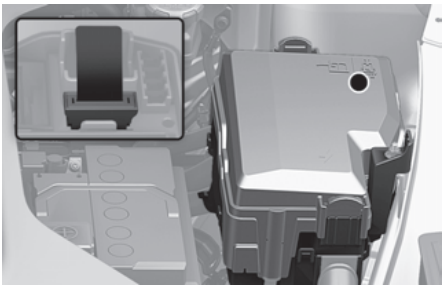
EV 管理に関するその他の注意事項

⚠ 注意

- 修理または塗装後に熱処理が必要な場合、高電圧バッテリーの性能が低下する可能性があります。熱処理が必要な場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。
- モーターコンパートメントを掃除する際は、高圧洗浄機を使用して洗浄しないでください高電圧の電気が流れ出て感電を引き起こしたり、車両の電気系統が損傷するおそれがあります。
- 車両に純正部品以外の部品や改造部品を取り付けないでください。電気系統が損傷するおそれがあります。純正部品のみを使用してください。

高電圧カットオフスイッチ

モーターコンパートメント内の高電圧カットオフスイッチは、弊社認定修理業者による車両点検時に高電圧バッテリーからの高電圧を遮断するために使用します。



⚠ 警告

- 高電圧カットオフスイッチには絶対に触れないでください。感電による重大な傷害や死亡の原因になる可能性があります。
- 高電圧カットオフスイッチの点検や修理が必要な場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。
- 緊急時を除き、絶対に高電圧カットオフスイッチを切ったり取り外したりしないでください。車両が始動しなくなるなど、重大な問題が発生するおそれがあります。

EV の充電

EVの充電について詳細情報を確認したうえで車両を充電してください。

ご自宅でのEVの充電には、EV充電用コンセントや普通充電器使用します。外出先では、公共充電ステーションの普通充電器や急速充電器を使用します。

最寄りの充電ステーションを探すには、本章の「最寄りの充電ステーションを探す」を参照してください。

EV 充電時の安全上の注意事項

EVを充電する前に、次の安全情報をよく読み、守ってください。そうしないと感電や火災の発生による重大な傷害、死亡、故障または物的損害につながるおそれがあります。

医療用電子機器に関する注意事項

⚠ 警告

充電器が発する電磁波は、植込み型心臓ペースメーカーなどの医療用電子機器に深刻な影響を及ぼすおそれがあります。このような機器を使用している場合は、EVの充電がご使用の医療機器の動作に影響することはないか、医師やメーカーに必ず確認してください。

充電に関する基本的な安全上の注意事項

⚠ 警告

- 充電を始める前に、ブレーキペダルを踏みながら電動パーキングブレーキ（EPB）を作動させ、シフトを P（パーキング）にしてから車両の電源を切ってください。充電中に車両を動かすと、物的損害、重大な傷害、または死亡につながるおそれがあります。
- 指定された EV 用充電器を使用してください。規定外の充電器の使用は、充電器、充電ケーブル、車両が損傷する原因となります。また、火災や爆発など、安全を脅かす危険につながるおそれもあります。
- 感電や火災による物的損害、重大な傷害、死亡事故を防ぐため、次の指示に従ってください。
  - 充電器と車両の充電口をケーブルで接続しているときは、充電コネクタ、充電プラグ、充電口に触れない。
  - 濡れた手で充電コネクタや充電プラグに触れたり、雨や雪の中で充電ケーブルを接続したりしない。
  - 充電ケーブルを接続したり取り外したりする際は、充電コネクタのハンドルと充電プラグを持つ。
  - 防水加工された充電器を使用する。充電ケーブルのコネクタと充電プラグの接続部に雨水がかかる場所で車両を充電しない。
  - 充電ケーブルのコネクタや充電プラグが水で濡れていたり、ほこりなどの汚れがないことを確認する。
  - 臭いや煙などの異常な状況が生じていると感じたら、すぐに充電を中止する。
  - 落雷のおそれがある場合は車両を充電しない。

i 情報

- 充電中は、シフトを P（パーキング）から他のポジションに変更できません。
- 充電コネクタを取り外す前に、車両のドアがロック解除されていることを確認してください。車両のドアがロックされていると、充電器コネクタのロック解除ボタンは機能しません。
- 充電中、または高電圧バッテリーの温度が高いときに、高電圧バッテリーの温度を制御するには、エアコンのシステムを利用してバッテリーを冷却します。エアコンのコンプレッサーと冷却ファンが動作するため騒音や振動が発生することがありますが、これは高電圧バッテリーを充電するときの正常の状態です。
- 充電中にエアコンを使用すると、冷却システムが作動する場合があります。これにより一時的にエアコンの性能が低下することがあります。
- 高電圧バッテリーの充電に要する時間や航続可能距離は、高電圧バッテリーの状態や耐久性、充電器の仕様や状態、周囲温度などにより変わる場合があります。
- 急速充電器で充電している場合、まれに車両の外で高周波ノイズ（極めて小さなビープ音）が聞こえることがあります。高周波ノイズは、急速充電をできるだけ安定させるために、車両自体が発する電磁波を減らそうとするときにのみ発生します。このビープ音は意図的に発しているため、充電性能や車両自体への影響はありません。

冷却ファン作動時の注意事項

⚠ 警告



充電中はモーターコンパートメント内の冷却ファンに手を近づけないでください。車両の電源がOFFになっている場合でも、バッテリーの温度を制御するために自動的に作動する場合があります。

充電口操作時の注意事項

充電口を操作する前に、次の安全情報をよく読み、守ってください。

⚠ 注意

- 充電口を開ける前に、開く向きを確認し、開閉の妨げになるものが近くにないことを確認してください。
- 充電口の開閉時に、顔や頭などをぶつけたり、ドアに手や体の一部を挟んだりしないように注意してください。
- 詳細については、第５章の「充電口」を参照してください。
- 充電口を力ずくで開けようとしないでください。充電口の破損や故障の原因となります。
- 充電口のヒンジ部分を持たないでください。部品が損傷または変形すると、車両の損傷や事故の原因となります。

充電ケーブルの使用、取り扱い、保管に関する注意事項

充電ケーブル使用時の注意事項

⚠ 注意

- 感電を防ぐため、被覆やコネクタが損傷している充電ケーブルは交換してください。
- 充電ケーブルを改造したり分解したりしないでください。火災、感電、事故の原因となります。
- 充電ケーブルを無理に引っ張ったり、ねじったりしないでください。また、充電ケーブルがねじれていないことを確認してください。停電やケーブルの絶縁被覆の損傷は、感電や火災の原因となります。
- 充電ケーブルを床の上で引きずったり、ケーブルの上に物を置いたりしないでください。ケーブルの被覆の損傷は、感電や火災の原因となります。
- 充電ケーブルを熱源や暖房器具の近くで使用しないでください。
- 充電ケーブルを落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、水や液体がケーブルにかからないようにしてください。
- 近くにお子さまがいる場合は、充電ケーブルを使用しないでください。
- 充電コネクタとプラグに損傷、腐食、錆の兆候がある場合、または充電コネクタとプラグの接続に緩みを感じる場合は、ケーブルを使用しないでください。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

充電ケーブルの取り扱い、保管に関する注意事項

⚠ 注意

- 充電コネクタとプラグは常に乾燥した清潔な状態を保ってください。
- 充電ケーブルのコネクタ、プラグ、制御ボックスに強い衝撃を与えない、また水に浸けないようにしてください。
- 充電ケーブルは水や湿気に触れないように、荷室に入れて保管してください。
- 充電ケーブルを熱源や暖房器具の近くで保管しないでください。
- 充電ケーブルはお子様の手が届かない場所で保管してください。
- 充電コネクタやプラグ内部にほこりや汚れが溜まっている場合は、ホコリ除去スプレーを使って取り除いてください。
- 充電ケーブルが汚れている場合は、ケーブルを充電器や電源から完全に外してから汚れを取り除いてください。
  - 中性洗剤 3%の水溶液に浸した柔らかな布で充電ケーブルを軽く拭いた後、きれいな布で水気を完全に拭き取り、風通しの良い日陰で乾かします。
  - 汚れを取り除く際は、充電コネクタと充電プラグが水に触れないようにしてください。
  - ベンジン、シンナー、洗剤などの有機溶剤は、充電ケーブルの変形や変色、故障の原因となるため使用しないでください。
  - カーシャンプーを使用する場合は、ベンゼン、シンナー洗剤などの有機溶剤を含まない製品であることを確認してください。

EV の充電に関する基本的な情報の確認

充電を始める前に、充電タイプごとの予想充電時間、充電状態(SOC)の確認、充電器ロックモードの設定などの情報を確認し、理解してください。

充電タイプと時間の確認

EVの充電タイプには次のものがあります

充電時間	説明
普通充電	EV充電用コンセントと普通充電ケーブル、またはケーブル付の普通充電器で行う充電方法です。
急速充電	公共の充電ステーションに設置されたCHAdeMO(チャデモ)規格に準拠した急速充電器を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間でEVを充電できます。

⚠ 警告

- 頻繁に急速充電器を使用すると、バッテリーの性能が低下し寿命が短くなることがあります。高電圧バッテリーの寿命を延ばすためには、急速充電器の使用は最小限に抑えてください。急速充電器が必要な場合以外は、普通充電を使用してください。
- 普通充電に用いるコンセントは、AC200V • AC100V いずれの場合も、専用の漏電遮断器が設置された 20A 以上の専用分岐回路に接続され、アース接続が施された、日本配線システム工業会規格 JWDS0033 準拠の EV 充電用コンセントを使用してください。それ以外のコンセントを使用した場合や、コンセントとプラグの間に延長コードやアース変換プラグ、変換アダプターなどを使用した場合、感電、発熱、発火などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 充電する前に、コンセントにプラグが根元まで差し込まれていることを確認してください。コンセントの差し込みがゆるい時や、プラグがコンセントにロックされないときは、ただちに使用を中止してください。発熱、発火などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- コンセントやプラグに破損、錆びなどがある場合や、異臭、煙などの異常に気が付いた時には、ただちに使用を中止してください。発熱、発火などの重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 200V 普通充電ケーブルを使用して充電する場合、100V 換算で 32A の契約容量が必要となります。契約容量が不足している場合、充電時にブレーカーが作動し、建物全体が停電となるおそれがあります。

充電タイプごとの充電時間の目安は次の通りです。

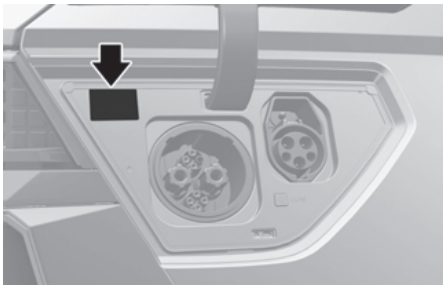
充電タイプ		充電タイプ	充電量 （最小～最大）	充電条件 （温度）
6kW普通充電器 （200V/30A）		約14時間55分	10～100%	バッテリー温度 （25° C）
急速充電	90kW （450V/200A）	約52分	10～80%	
	150kW （450V/350A）	約36分	10～80%	
200V普通充電ケーブル （200V/16A）		約29時間10分 （200V/16A）	10～100%	

i 情報

- この車両は、最大約 9.6kW までの普通充電に対応しています。また、急速充電は CHAdeMO 規格の急速充電器に対応しています。
- 充電に要する時間は、高電圧バッテリーの状態や温度などにより異なります。特に、低温時および高温時には充電時間が長くなります。摩耗や露出など何らかの損傷がある充電器は、安全のために充電が停止することがありますので正常に動作する別の充電器を使用してください。
- バッテリーを充電する際、バッテリー状態の確認のために 3 分ほどかかる場合があります。

充電ラベルの情報を確認する

充電口を開けて充電ラベルの情報を確認します。充電ラベルには、安全記号と充電のための定格入力仕様が記載されています。





番号	名称	説明
(1)	高電圧に対する警告	感電の危険性がある機器を示します。
(2)	警告/注意記号	物的損害、重大な傷害、死亡事故の原因となる可能性がある、操作に注意が必要な機器を示します。
(3)	定格電圧と最大充電電流	入力電圧の種別(AC)、普通充電時の定格電圧範囲(V)、充電電流(A)を示します。

充電コネクタロックモードの設定

普通充電中に充電コネクタをロックすると、充電コネクタが予期せず車両から脱落することを防ぐことができます。

i 情報

急速充電中またはV2L機能使用中のコネクタは、車両に設定した充電コネクタロックモードに関係なく自動的にロックされます。

- 急速充電が完了または停止すると、充電コネクタのロックは自動的に解除されます。
- 電気を使用した後は、V2L コネクタのスイッチを押して電源を切り、車両のドアをロック解除することで充電コネクタのロックを解除できます。
- 充電コネクタのロックモードを設定するには、インフォテインメントシステムのホーム画面で、**EV** > > **普通充電器** > **充電コネクタロックモード**を選択します。

  次のロックモードを設定できます。

  - **常時ロック**：充電コネクタを充電口に差し込むたびに、コネクタが自動的にロックされます。
  - **充電中ロック**：充電コネクタが車両に適切に接続されると、充電を行っている間のみコネクタが自動的にロックされます。

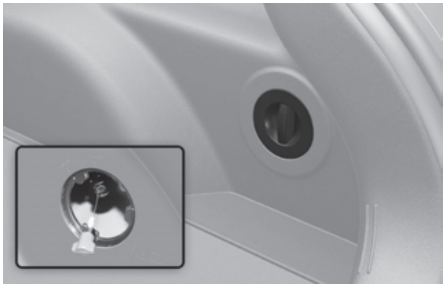
緊急時の充電コネクタの取り外し

バッテリーの完全放電や電気配線の異常によりロック解除ボタンが正常に機能しない場合は、充電コネクタを車両から外すことができません。

⚠ 注意

充電コネクタを無理に抜かないでください。そのようにすると、充電コネクタや車両の充電口が損傷するおそれがあります。

バッテリーの完全放電や配線の異常が原因で充電コネクタを外すことができない場合は、テールゲートを開けて、テールゲートの右側の壁にある緊急ケーブルを引きます。



- 緊急ケーブルを引いても充電コネクタを外せない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

急速充電器の使用

短時間での充電が必要な場合は、公共の充電ステーションに設置されている急速充電器を使用して急速充電できます。

- 最寄りの充電ステーションを探すには、本章の「最寄りの充電ステーションを探す」を参照してください。

⚠ 警告

感電、火災、爆発などによる物的損害や人身事故の発生を防ぐため、充電を始める前に「充電コネクタロックモードの設定充電コネクタロックモードの設定」の説明を注意深くよく読み、その指示に従ってください。

⚠ 注意

頻繁に急速充電器を使用すると、バッテリーの性能が低下し寿命が短くなることがあります。高電圧バッテリーの寿命を延ばすためには、急速充電器の使用は最小限に抑えてください。急速充電器が必要な場合以外は、普通充電を使用してください。

急速充電器コネクタについて

急速充電器コネクタの外観(一例)は次の通りです。



急速充電器による充電

急速充電器による充電に際しては､次の手順に従ってください。

1. 車両を始動した状態で、ブレーキペダルを踏みながら電動パーキングブレーキ（EPB）をかけます。
2. シフトを P（パーキング）にします。ライトなどの電装品を停止し、車両の電源を OFF にします。
3. 車両のドアがロック解除された状態で、充電口の記号を押して開けます。充電口の開け方は、第 5 章を参照してください。
4. 充電口カバーを開けて、充電コネクタと充電口にほこりなどの汚れがないか確認します。
   - 汚れや付着物がある場合は、ホコリ除去用スプレーなどで取り除きます。

⚠ 警告

充電ケーブルの充電コネクタや車両の充電口に触れないでください。

5. 充電器本体の手順に従い、急速充電コネクタを車両の急速充電口にカチッと音が聞こえるまで、奥まで確実に挿します。
   - 充電が開始されると、インストルメントクラスターに推定充電時間が約 1 分間表示されます。

i 情報

充電中に運転席側のドアを開けた場合にも、インストルメントクラスターに推定充電時間が約 1 分間表示されます。

6. 充電が完了したら、充電器本体の手順に従い、急速充電コネクタを取り外します。

⚠ 警告

急速充電中は急速充電コネクタを外すことはできません。急速充電コネクタを無理に外そうとしたり、ゆすったりしないでください。火災、感電、故障の原因となります。

7. 充電口カバーを確実に取り付けます。
8. close ボタンを押して充電口カバーを閉じます。充電口を閉じていることを確認します。

   充電口の閉じ方は、第 5 章を参照してください。

200V 普通充電ケーブルの使用（装備されている場合）

主に自宅の電源(EV充電用コンセント)に普通充電ケーブルを接続しておこなう、日常的な充電方法を普通充電といいます。普通充電は、公共の充電ステーションに設置されたケーブル付普通充電器や、家庭用に市販されているケーブル付普通充電器でおこなうこともできます。大容量のケーブル付普通充電器を使用した場合、普通充電ケーブルで充電するよりも短い時間で充電することができます。

i 情報

- この車両は、最大約 9.6kW までの普通充電に対応しています。
- 200V 普通充電ケーブルを使用した場合、最大約 3.2kW の充電となります。

⚠ 警告

火災や感電による物的損害や人身事故の発生を防ぐため、次の指示に従ってください。

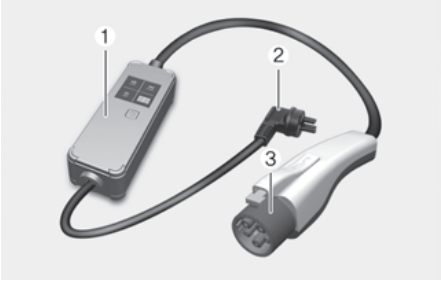
- 普通充電ケーブルは、HYUNDAI 純正の普通充電ケーブルのみを使用する。
- お子さまが普通充電ケーブルを操作したり触ったりしないように注意する。思わぬ
- 事故につながるおそれがあります。
- 普通充電に用いるコンセントは、AC200V・AC100V いずれの場合も、専用の漏電遮断器が設置された 20A 以上の専用分岐回路に接続され、アース接続が施された、日本配線システム工業会規格 JWDS0033 準拠の EV 充電用コンセントを使用してください。それ以外のコンセントを使用した場合や、コンセントとプラグの間に延長コードやアース変換プラグ、変換アダプターなどを使用した場合、感電、発熱、発火などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 充電する前に、コンセントにプラグが根元まで差し込まれていることを確認してください。コンセントの差し込みがゆるい時や、プラグがコンセントにロックされないときは、ただちに使用を中止してください。発熱、発火などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- コンセントやプラグに破損、錆びなどがある場合や、異臭、煙などの異常に気が付いた時には、ただちに使用を中止してください。発熱、発火などの重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 200V 普通充電ケーブルを使用して充電する場合、100V 換算で 32A の契約容量が必要となります。契約容量が不足している場合、充電時にブレーカーが作動し、建物全体が停電となるおそれがあります。

普通充電ケーブルについて

普通充電ケーブルの構成と動作インジケーターの表示は次の通りです。



(1) 制御ボックス
(2) 電源プラグ
(3) 充電コネクタ

インジケーター	名称	色	説明
POWER	電源	緑	電源ON時に点灯します。
CHARGE	充電	青	充電中に点灯し、電流制限時に点滅します(強制的に6Aに切り替わります)。
FAULT	故障	赤	漏電、通信エラー、過電流エラー発生時、またはプラグと充電器内部の高温保護機能作動時に点滅します。
06A	充電量	-	現在の充電電流設定(6A、8A、10A、12A、14A、16A)を表示します。

インジケーター	名称		色	説明
	E1	コントロールパイロット通信	-	車両通信エラー
	E2	漏洩	-	漏電
	E3		-	充電器エラー
	E4	プラグ温度	-	プラグ過熱警告
	E5		-	プラグ温度障害
	E6		-	充電器エラー
	E7	過電流	-	充電過電流警告
	E8	内部温度	-	充電器オーバーヒート
	E9		-	充電器エラー
	F1	リレー溶融	-	充電器エラー
	F2	接地監視/中断	-	パワーアウトレットの接地が不適切
	F3	電源の電源障害	-	電源エラー(電圧障害)
	F4		-	電源エラー(異常電圧)
	F5	コントロールパイロット電圧エラー	-	コントロールパイロット(-)電圧エラー
	F6		-	コントロールパイロット(+)電圧エラー
	F7	温度センサーエラー	-	プラグ温度センサーエラー
	F8		-	PCB内部温度センサーエラー

- エラーが発生したら、電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに差して、制御ボックスのボタンを 2 秒以上押すことで、普通充電ケーブルを初期化できます。
- 普通充電ケーブルを初期化しても同じエラーが発生する場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- ステータスが 1 分以上変化しない場合、普通充電ケーブルは省電力モードに切り替わり、ディスプレイのライトは消灯します。

普通充電ケーブルによる充電

普通充電ケーブルによる充電に際しては、次の手順に従ってください。

1. 車両の電源を ON にした状態で、ブレーキペダルを踏みながら電動パーキングブレーキ（EPB）をかけます。
2. シフトを P（パーキング）にします。ライトなどの電装品を停止し、車両の電源を OFF にします。
3. 普通充電ケーブルの電源プラグを EV 充電用コンセントに接続します。
   - 制御ボックスの電源インジケーターが緑色に点灯します
4. 充電電流インジケーターの数字が点滅するまで制御ボックスのボタンを 2 秒以上押して、充電電流を設定します。

知識

- ボタンを押すたびに、充電電流が「6A - 8A - 10A - 12A - 14A - 16A」の順に変化します。
- ボタンを押さずに 10 秒経過すると、点滅が停止し、前回設定した定格電流の値に戻ります。

5. ドアがロック解除されている状態で、充電口の ⁘ 記号を押して充電口を開けます。
   充電口の開け方は、第 5 章を参照してください。
6. 充電口カバーを開けて、充電コネクタと充電口にほこりなどの汚れがないか確認します。
   - 汚れや付着物がある場合は、ホコリ除去用スプレーなどで取り除きます。

⚠ 警告

- 充電ケーブルの充電コネクタや車両の充電口に触れないでください。
- 普通充電に用いるコンセントは、AC200V • AC100V いずれの場合も、専用の漏電遮断器が設置された 20A 以上の専用分岐回路に接続され、アース接続が施された、日本配線システム工業会規格 JWDS0033 準拠の EV 充電用コンセントを使用してください。それ以外のコンセントを使用した場合や、コンセントとプラグの間に延長コードやアース変換プラグ、変換アダプターなどを使用した場合、感電、発熱、発火などの重大な傷害につながるおそれがあります。EV 充電用コンセントが設置されていない場合、専門業者へご相談ください。

7. 普通充電ケーブルのコネクタ保護キャップを外し、充電コネクタのハンドルを持って、車両の普通充電口に接続します。カチッと音が聞こえるまで、奥まで確実に挿します。
   - 充電が開始されると、インストルメントクラスターに推定充電時間が約１分間表示されます。

i 情報

- 充電中に運転席側のドアを開けた場合にも、インストルメントクラスターに推定充電時間が約１分間表示されます。
- 充電予約を設定している場合、「充電予約が設定されています」と表示されます。
- 充電予約の待機中に予約済みのエアコンやヒーターが作動すると、推定充電時間の表示は「-」となります。

8. 充電を終了するときは、充電コネクタのロック解除ボタンを押しながら、充電口から充電コネクタを外します。

i 情報

充電コネクタのロックモードを**常時ロック**または**充電中ロック**に設定している場合には、スマートキーのボタンか運転席のドアのボタンを押してロックを解除し、充電コネクタを充電口から外します。

- 詳細については、本章の「充電コネクタロックモードの設定充電コネクタロックモードの設定」を参照してください。

9. 充電口カバーを確実に取り付けます。
10. close ボタンを押して充電口カバーを閉じます。充電口が閉じていることを確認します。充電口の閉じ方は、第５章を参照してください。

充電予約機能を使う

充電予約機能により、お客さまの契約している電気料金プランに合わせて、次の出発時刻までに充電をおこなうことができます。

i 情報

充電予約機能は、普通充電の場合のみ使用できます。急速充電およびV2Hでは使用できません。公共の充電ステーションで普通充電をおこなう際は、充電予約をOFFにしてください。

インフォテインメントシステムのホーム画面で、**EV** > > **普通充電器** > **充電予約**を選択します。

- 詳細については、本章の「普通充電設定普通充電器のオプション設定」を参照してください。
- 充電予約を設定し、普通充電コネクタを接続すると、インジケーターライトが 3 分間徐々に点灯し、充電予約が設定されていることを示します。
- 充電予約が設定されている場合は、普通充電ケーブルを接続しても、すぐには充電を開始しません。すぐに充電を開始する場合は、充電ドアを開けて ⊡ ボタンを 2 秒以上押すか、画面で **EV** > > **普通充電器** > **充電予約**を選択して、充電予約の設定を無効にします。

i 情報

- スマートフォンの Bluelink アプリでも、充電予約の設定やキャンセルが可能です。詳細については、インフォテインメントシステム Web マニュアルを参照してください。
- 充電予約の設定時に計算された充電時間によっては、充電器を車両に接続した直後に充電が開始される場合があります。

即時充電停止

普通充電器、急速充電器、普通充電ケーブルで充電中に、充電器からEVの充電を停止できない場合は、次の手順に従ってください。

1. 車両のドアのロックまたはロック解除ボタンを押します。
2. 15 秒以内に ⧈ ボタンを 2 秒以上押します。

充電が開始されない場合の確認項目

充電器を車両に接続しても充電が開始されない場合は、次の項目を確認してください。

- 充電コネクタが正しく接続されているかを確認します。接続状態を確認し、カチッと音が聞こえるまで奥まで確実に挿してください。また、急速充電器や普通充電器の電源が入っているかを確認します。
- 高電圧バッテリーの残量が、充電時目標充電量設定で設定した値を超えていないかを確認します。充電時目標充電量設定については、本章の「EV 特有の機能の設定」を参照してください。また、12V バッテリーがあがっていないかを確認します。12V バッテリーがあがっている場合には、充電はできません。
- 充電に関連する警告記号がインストルメントクラスターに表示された場合は、そのメッセージを確認します。
- 普通充電の場合、充電予約機能の設定を確認します。充電予約が設定されていると、車両に充電コネクタを接続しても、設定された条件が満たされるまで充電を開始しません。
- 適切な動作が確認されている別の充電器を接続して充電状態を確認します。
  - 別の充電器で正常に充電される場合は、充電器メーカーに対処方法をお問い合わせください。
  - 別の充電器でも充電されない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

EV モード

EVには、走行情報と高電圧バッテリー情報が用意されています。**EV**では、EVで使用するさまざまな機能を設定できます。

EV の画面構成を確認する

次の手順でEVモードを選択し、画面構成を確認してください。

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** を選択します。
   - **EV** モード画面が表示されます。

EVモード画面の詳細は次のとおりです。



番号	名称	説明
(1)		電力消費量と電費履歴を確認できます。
(2)		EVの充電に関するさまざまなオプションを設定できます。
	次の出発時刻	出発予定時刻を設定することで、その時刻までに充電を完了し、車内を快適な温度にしておくことができます。詳細については、本章の「次の出発時刻設定次の出発時刻の設定」を参照してください。
	普通充電設定	普通充電に関する設定を行うことができます。詳細については、本章の「普通充電設定普通充電器のオプション設定」を参照してください。
	充電時目標充電量設定	急速充電と普通充電の充電目標値を設定できます。詳細については、本章の「充電時目標充電量設定充電時目標充電量設定」を参照してください。
	電気使用量設定(V2L)	走行用高電圧バッテリーのバッテリー使用限度(%)を設定できます。詳細については、本章の「電気使用設定(V2L)V2L(Vehicle to Load)使用時のバッテリー放電制限の設定」を参照してください。
(3)		EV特有のさまざまな機能を設定できます。 • バッテリーコンディショニングモード • ユーティリティモード 詳細については、本章の「EV特有の機能の設定EV特有の機能の設定」を参照してください。
(4)		充電ステーション、ホーム画面の編集、オンラインマニュアルを確認できます。

エネルギー情報の確認

電力消費量と電費履歴を確認できます。

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** > を選択します。
   - エネルギー情報を確認します。

電力消費量の確認

インフォテインメント画面で**電力消費量**を選択します。

- 車両システムの現在の電力消費量を確認できます。



番号	名称	説明
(1)	駆動系	車両を走行させるためにモーターが消費した瞬間エネルギーと回生エネルギーの割合、および車両始動時からの総使用電力に占める動力走行システムの使用割合を表示します。
(2)	電装	インストルメントクラスター、インフォテインメントシステム(スピーカー、ナビ)、ヘッドライト、車両制御装置などの車両システムが使用した電力消費量、および車両システム始動時からの総使用電力に占める割合を表示します。
(3)	エアコンディショナーシステム	エアコンまたはヒーターが使用する電力消費量、および車両始動時からの総使用電力に占める空調システムの使用割合を表示します。
(4)	バッテリーケア	バッテリーの性能を最適な状態に保つために、バッテリー温度を上げたり下げたりするために使用した瞬時電力消費量、および車両始動時からの総使用電力に占めるバッテリー温度制御モード(バッテリーケアモード)の使用割合を示します。

電費履歴の確認

インフォテインメント画面で、**電費履歴**を選択します。

- 以前の走行日や走行距離を含む、電費履歴を確認できます。



次の出発時刻設定

予定出発時刻を設定することで、充電予約と空調目標温度が設定されます。

i 情報

- 空調システムは、出発時刻に基づいて起動します。
- 空調予約機能は、接続されている充電器の電力を直接使用します。車両とバッテリーの温度制御を高電圧バッテリーの電力を使用せずに行うため、快適な環境を維持しながら車両の性能を向上できます。

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** > > **次の出発時刻**を選択します。
3. 出発予定時刻を設定します。



4. 充電終了後の出発予定時刻 (1) と空調設定温度 (2) を設定します。

5.繰り返しオプションで、出発時刻の目標温度設定を有効にする曜日 (3) を選択します。



普通充電設定

充電予約や充電電流など、普通充電に関する設定を行うことができます。

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** > > **普通充電設定**を選択します。
3. 必要な機能を設定します。

充電予約の設定

充電予約を選択して機能を有効にします。



- 充電予約オプション画面が表示されます。充電オプションを選択します。
  - **割引時間帯のみ充電**：割引時間帯のみ充電を行います。目標充電量に達しない場合があります。
  - **割引時間帯時間に優先的に充電**：オフピーク時間帯 (割引時間帯) に充電を行います。割引時間帯に優先的に充電を行います。出発時刻、充電時目標充電設定により割引時間帯以外でも充電する可能性があります。
  - 目標バッテリー充電量の設定については、本章の「充電時目標充電量設定充電時目標充電量設定」を参照してください。



充電電流の設定

普通充電器使用時に充電電流を設定します。



充電時目標充電量設定

普通充電または急速充電をおこなう際の目標バッテリー充電量を設定できます。

- 高電圧バッテリーの状態、推定される航続可能距離、目標バッテリ残量の充電に必要な時間を確認できます。

i 情報

- 航続可能距離は、電力消費量と気温に基づいて推定されます。運転スタイルにより異なります。
- 航続可能距離は、運転スタイルの変化により同じ目標レベルであっても異なる場合があります。

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** > > **充電時目標充電量設定**を選択します。
3. 普通充電器と急速充電器の目標充電量を個別に設定します。
   - 充電レベルは 10% 単位で変更できます。
   - 目標バッテリー充電量が現在の高電圧バッテリー充電量より低い場合は、バッテリーは充電されません。



電気使用設定（V2L）

V2L機能使用時の高電圧バッテリーの使用限度(%)が設定できます。これにより、V2L機能を使用時の、過度なバッテリーの放電を防ぐことができます。

- V2L 機能の詳細については、本章の「V2L 機能を使用する V2L 機能を使用する」を参照してください。

i 情報

V2L 機能は、高電圧バッテリーに充電されている電力を用いて、AC100V の電気製品を使用するためのシステムです。キャンプなどの野外活動時に活用いただけます。

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** > > **電気使用設定（V2L）**を選択します。
3. バッテリー使用限度（%）を設定します。
   - バッテリー使用限度は、現在のバッテリー充電量以下にしか設定できません。
   - バッテリー充電量が設定したバッテリー使用限度に達すると、V2L 機能は自動的に停止します。



EV 特有の機能の設定

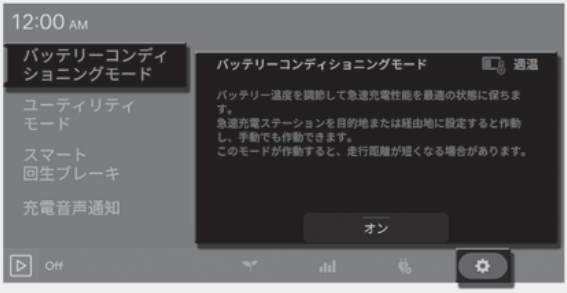
バッテリーコンディショニングモード、ユーティリティモードなど、EV特有のさまざまな機能を設定できます。

バッテリーコンディショニングモード

高電圧バッテリーの温度が低く、充放電性能の低下が懸念される場合には、ナビゲーションシステムと連動して、急速充電や走行性能に適したバッテリー温度を確保するバッテリーコンディショニングモード機能を使用できます。ナビゲーションシステムで急速充電ステーションを目的地や立ち寄り地点に設定すると、バッテリーコンディショニングモード機能が作動し、設定した急速充電ステーションへの到着時間に合わせて最適なバッテリー温度になるようにします。

手動操作

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** > ⚙ > **バッテリーコンディショニングモード**を選択し、手動で使用する場合は**オン**を選択します。



ナビゲーション経路との連動

急速充電ステーションをナビゲーションの目的地や中継地にセットすると、バッテリーコンディショニングモード機能は、到着時間を考慮しながら急速充電器に最適なバッテリー温度を維持します。

i 情報

- バッテリーコンディショニングモード機能は、バッテリーヒーター装着車両でのみ作動します。
- バッテリー充電量が低下すると、走行距離を確保するために、バッテリーコンディショニングモード機能は作動しません。また、バッテリー温度が充電に適している場合も、この機能は作動しません。
- 充電した電力をバッテリー温度を上げるために使用すると、航続可能距離が短くなる可能性があります。バッテリーが最適温度に達するまでには時間を要します。
- Bluelink 会員の場合は、Bluelink アプリを使って駐車中の車両のバッテリーコンディショニングモード機能を遠隔で操作できます。この場合、バッテリーコンディショニングモードは、バッテリー温度が適切な範囲に達するか、30 分経過すると終了します。Bluelink の詳細については、公式ホームページを参照してください。

ユーティリティモードの設定

ユーティリティモードでは、走行以外の目的で12Vバッテリーの代わりに高電圧バッテリーを使用できます。12Vバッテリーの放電を心配することなく、車両のオーディオやライト、車内のV2L機能も使うことができます。

i 情報

- ユーティリティモードが有効になっている間は走行することはできず、P（パーキング）にしかシフトできません。
- ユーティリティモードが有効になっている間は車両内のすべての電子機器を使用できます。
- ユーティリティモードを ON にすると、電動パーキングブレーキ（EPB）が自動的に作動します。必要に応じて EPB スイッチを押して EPB を解除できます。

ユーティリティモードは次の手順で設定します。

1. ユーティリティモードの動作条件を確認します。
   - インストルメントクラスターに、READY インジケーターが表示されているか確認します。
   - シフトが P（パーキング）にあるか確認します。
2. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。

3.**EV**> ⚙ > **ユーティリティモード**を選択し、**ユーティリティモードをオンにする**を選択して機能を有効にします（ユーティリティモード：オン）。



- インストルメントクラスターの READY インジケーターが消灯し、UTIL（ユーティリティインジケーター）が点灯して、電動パーキングブレーキ（EPB）が作動します。
- ユーティリティモードは、EV START/STOP ボタンを押して OFF の位置にすることで無効にできます。
- ユーティリティモードが有効な間に、車両で V2L 機能を利用したい場合は、本章の「車内で電気を使う車内で電気を使う」を参照してください。

i 情報

車両がReadyモード(READYインジケーターが点灯)でシフトをP(パーキング)に入れてもユーティリティモードがONにならない場合は、電動パーキングブレーキ(EPB)の作動状態を確認してください。

最寄りの充電ステーションを探す

ルート周辺、現在地周辺、選択した目的地周辺、お気に入りの充電ステーションを探します。充電ステーションを選択すると、詳細情報が表示されます。

i 情報

Bluelinkサービスにログインすると、各充電ステーションで利用できる充電器が表示されます。

最寄りの充電ステーションを探すには、次の手順に従ってください。

1. インフォテインメント画面でホーム画面に移動します。
2. ホーム画面で、**EV** > ☰ > **充電ステーションリスト**を選択します。



- 「**経路**」、「**現在地**」、「**目的地**」、「**お気に入り**」から選択できます。
- 選択したオプションに該当する充電ステーションの方向（矢印）と距離、充電器のタイプ、住所、地図上の位置が画面の右側に表示されます。



3.リストから充電ステーションを選択し、詳細情報を確認します。

V2L 機能を使用する

V2L機能では、高電圧バッテリーに充電されている電力を用いて、電子機器を使用することができます。

V2L 機能使用時の安全上の注意事項

V2L機能を使用する前に、次の安全情報をよく読み厳密に従ってください。感電や火災の発生による死亡事故、重大な傷害、車両故障、物的損害につながるおそれがあります。

V2L 機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- V2L コネクターや充電口、電源プラグ、ケーブルが損傷、腐食、または錆びている場合は、V2L 機能を使用しないでください。感電や火災の原因となります。
- 濡れた手で V2L コネクター、充電口、電源プラグに触れないでください。感電や火災の原因となります。
- V2L コネクターと充電口の接続部に緩みがある場合は、V2L 機能を使用しないでください。感電や火災の原因となります。
- コネクターとプラグを接続する前に、水やほこりなどの汚れがないことを確認してください。感電や火災の原因となります。
- V2L コネクターや充電口に金属や素手を近づけないでください。感電や火災の原因となります。
- 車両の外で電子機器を使用する場合は、防水機能の付いた製品を使用するか、防水対策が施された環境で機器を使用してください。電子機器、マルチタップ、延長コードなどに雨や湿気が入ると、感電、車両や機器の破損の原因となります。
- 落雷の危険性がある場合は、車両の外で V2L 機能を使用しないでください。
- 車両内で電気ポット、トースター、アイロンなどの電熱器具を使用しないでください。火災や事故の原因となります。

冷却ファン作動時の注意事項

⚠ 警告



V2Lの使用時は、車両の電源がオフになっていても、車両のモーターコンパートメントの冷却ファンが自動的に動作する可能性があります。V2Lの動作中は冷却ファンに手を近づけないようにしてください。けがをしたりするおそれがあります。

V2L コネクターの取り扱いおよび使用上の注意事項

⚠ 注意

- V2L コネクターを改造したり分解したりしないでください。火災、感電、事故の原因となります。改造や分解による車両の損傷は保証の対象外です。
- 電源プラグを V2L コネクターに接続する、または V2L コネクターから取り外すときや、V2L のコネクターカバーを開ける / 閉めるときは、手に擦り傷をつけないように注意してください。
- V2L の使用を終えたら、必ず車両から V2L コネクターを外してください。
- 車両の充電に V2L コネクターを使用しないでください。改造や分解などを行った電源ケーブルを使用して車両を充電すると、車両が破損するおそれがあります。
- V2L コネクターの上にものを置かないでください。ケーブルが損傷し、感電や火災の原因となるおそれがあります。
- V2L コネクターを落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。水や湿気のない乾燥した清潔な場所で保管してください。

電気 / 電子製品を使用する際の注意事項

⚠ 注意

- 製品を使用する前に、取扱説明書などで注意事項や使用方法を確認してください。
- 国の安全認証を取得している製品のみを使用してください。
- 車両が供給可能な最大電力容量を超えない電子機器のみを使用してください。ただし、消費電力が車両で供給可能な最大電力容量以内の場合でも、一部の電気製品は正常に動作しない場合があります。
  - 初期動作時に大きな電力を必要とする電子機器。
  - 正確なデータを処理する必要がある測定装置。
  - インバーター型普通充電器に反応する電子機器。
- 医療機器など、継続的な電力供給を必要とする製品は使用しないでください。車両の状態によっては、電力供給が中断する場合があります。
- 過電流が発生した場合は、V2L の電力供給は自動的に遮断されます。電力供給が遮断された場合、V2L コネクターまたは電源プラグが汚れたり、摩耗、腐食、または破損していないか確認してください。
  - 一定時間が経過すると温度が適切なレベルまで下がり、使用を再開できます。
  - 特定の電子機器を使用し過電流を繰り返す場合は、その電子機器を使用しないでください。
- 2 本以上の延長コードやマルチアウトレットを接続しないでください。延長ケーブルを使用する際は、ねじれのないケーブルを使用してください。ケーブルが重なると、その熱で火災が発生するおそれがあります。
- ケーブルに家電製品を吊り下げないでください。
- 家電製品のケーブルの被覆が損傷または破損している場合は使用しないでください。
- 電源に接続する際は、電源プラグをしっかりと差し込んでください。
- 規格に適合したアース付きプラグのみを使用してください。摩耗、腐食、破損したプラグや、規格に適合しない不適切なプラグは使用しないでください。

車両の外で電気を使う

V2L機能を使用する前に、「V2L機能使用時の安全上の注意事項V2L機能使用時の安全上の注意事項」に記載されているすべての安全情報と注意事項をよく読み、指示に従ってください。

以下の手順に従って、V2Lコネクターを車両の充電口に接続し、電子製品に電力を供給します。

1. V2L コネクターのカバーを開けます。
2. 電子製品のプラグを V2L コネクターのパワーアウトレットに接続した後、カバーを閉じます。

⚠ 警告

一部のプラグは V2L コネクターのパワーアウトレットカバーに収まらず、カバーが完全には閉まらない場合があります。パワーアウトレットカバーが完全に閉まっていない状態で、雨や雪の日に V2L コネクターを使用しないでください。火災や事故が発生するおそれがあります。

3. オープンスイッチを押しながら、コネクターの接続端子保護キャップを開けます。
4. 充電口を開け、V2L コネクターを車両の充電口に接続します。
   - 充電口を開けてから 60 秒以内に V2L コネクターを充電口に接続してください。
   - バッテリ残量が設定値に到達するまでの残り時間と、設定値での航続可能距離が、インストルメントクラスターまたはインフォテインメントシステムに表示されます。
5. V2L コネクターの電源スイッチを押します。
   - 電力が供給され、V2L コネクターのインジケーターが点灯します。

i 情報

- V2L コネクターを車両の充電口に接続すると、盗難や分離を防ぐために、すべてのドアとコネクターが自動施錠されます。V2L コネクターを外すには、ドアをロック解除し、オープンスイッチを押したままコネクターを引き抜きます。
- V2L 機能を使用する前に、「普通充電設定普通充電器のオプション設定」を参照して空調予約を無効にしてください。予約空調設定の内容によっては、V2L 機能が中断される場合があります。
- V2L 設定の確認と変更については、本章の「電気使用設定（V2L）V2L（Vehicle to Load）使用時のバッテリー放電制限の設定」を参照してください。
- 最大電力容量を超える電子機器を接続すると、インストルメントクラスターに警告メッセージが表示され、すぐに電力が遮断されます。

車内で電気を使う

必要に応じて、車内のパワーアウトレットに家電製品や電子機器を接続して使用できます。

⚠ 警告

車両内で電気ポット、トースター、アイロンなどの電熱器具を使用しないでください。火災やけがにつながるおそれがあります。

1. EV START/STOP ボタンを押して ON 位置にするか、**ユーティリティモード**を起動します。
   - **ユーティリティモード**の詳細については、本章の「ユーティリティモードの設定 ユーティリティモードの設定」を参照してください。



2. パワーアウトレットカバーを左にスライドさせて開け、電子機器の電源プラグをパワーアウトレットに接続します。
   - バッテリ残量が設定値に到達するまでの残り時間と、設定値での航続可能距離が、インストルメントクラスターまたはインフォテインメントシステムに表示されます。

i 情報

- パワーアウトレットのインジケーターに電源の状態が表示されます。



インジケーターの状態	説明
青	作動待機中
赤	パワーアウトレットは接続されているが、電力は供給されていない。
緑	パワーアウトレットを正常に接続すると電力の供給が可能な状態。

- V2L の電力供給は、車両が ON の状態で車両内 V2L を使用し、車両の電源が OFF になった場合に遮断されます。
- 充電口を開けるか、V2L コネクターを充電口に接続すると、V2L の電力供給が遮断されます。
- 車両内の V2L と車両の外の V2L を同時に使用する場合は、まず V2L コネクターを充電口に接続し、それから車両内の V2L を使用してください。
- 高電圧バッテリーの充電量が設定された放電限度（%）に達すると、動作が停止し、インストルメントクラスターに警告メッセージが表示されます。V2L を動作させる場合は、放電限度（%）を現在のバッテリー充電量より低く設定してください。
  - 放電限度の詳細については、本章の「電気使用設定（V2L）V2L（Vehicle to Load）使用時のバッテリー放電制限の設定」を参照してください。
  - 警告の詳細については、本章の「警報灯の確認」を参照してください。

V2L の問題を解決する

V2L機能の使用中に問題が発生した場合、V2Lは停止し、関連するメッセージがインストルメントクラスターに表示されます。

次の表を参照してメッセージの原因を確認し、適切に対処してください。

メッセージ	原因	対処法
バッテリー使用設定の上限に到達しました。V2L機能を終了します。設定された充電レベルに達しました。	高電圧バッテリー残量が放電限度設定レベルに達した。	引き続きV2Lを使用する場合は、放電限度設定レベルを現在のバッテリ残量より低くしてください。(本章の「電気使用設定(V2L)V2L(Vehicle to Load)使用時のバッテリー放電制限の設定」を参照してください。)
電力消費量超過のため、V2L機能を停止します。	車両が供給できる最大出力より大きな電力を使用する電気製品が接続された。	電気製品の総消費電力を確認し、V2Lの最大出力以内に収まる製品と交換します。
V2L機能作動条件ではありません。	V2Lが次の理由で停止している。 • V2L コネクターが OFF になっている • V2L コネクターがオーバーヒートしている • 車両内の V2L のパワーアウトレット使用中に充電口が開いた	V2Lコネクターと車両内のパワーアウトレットに問題がないか確認してください。

補助バッテリーセーバー +

⚠ 警告

この機能が作動すると、高電圧の電気が車両に流れます。感電や怪我を防ぐため、次の指示に従ってください。

- 高電圧ケーブル（オレンジ色）、コネクター、すべての電装品および電子機器に触れないでください。
- 車両内の電子機器を改造したり取り外したりしないでください。

補助バッテリーセーバー+は、バッテリー保護に特化した機能であり、12Vバッテリーの完全放電による故障を防ぎます。

車両を走行したり充電を開始すると、補助バッテリーセーバー+が自動的に作動し、12Vバッテリーの充電状態を監視します。必要に応じて高電圧バッテリーで12Vバッテリーを充電します。

⚠ 注意

補助バッテリーセーバー+機能は、次の場合に12Vバッテリーの放電を防ぐことができません。

- 12V バッテリーに損傷があるか、消耗している。
- 12V バッテリーを電源として使用している、または未承認の電子機器を使用している。

i 情報

- 補助バッテリーセーバー + 機能が作動している場合、高電圧バッテリー残量が低下している可能性があります。
- 車両や高電圧バッテリーの状態によっては、補助バッテリーセーバー + 機能が正常に動作しなかったり、停止したりする場合があります。

EV の運転

運転する前に、EVの始動、ブレーキ、シフトの機能をよく理解しておく必要があります。

車両の始動と停止

車両の始動と停止は、次の手順で行ってください。

⚠ 注意

- 安全のため、車両を始動する前には必ずシートベルトを締めてください。
- 車両を始動する前に、電動パーキングブレーキ（EPB）がかかっていることを確認してください。

車両始動方法

1. スマートキーを持ち、運転席に座ります。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、EV START/STOP ボタンを押します。
   - インストルメントクラスターに READY インジケーターが表示されます。

i 情報

READYインジケーターが表示されている状態でブレーキペダルを踏み、シフトポジションをD(ドライブ)またはR(リバース)にして電動パーキングブレーキ(EPB)を解除し、ブレーキペダルを離すと前進または後退します。アクセルペダルをゆっくり踏むと発進し、ブレーキペダルを踏むと減速するか停止します。

車両の停止方法

1. ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させます。
2. 車両が完全に停止したら、変速ダイヤルの **P** ボタンを押してシフトを P（パーキング）にし、EPB をかけます。
3. EV START/STOP ボタンを押します。
   - インストルメントクラスターの READY インジケーターが消えます。

i 情報

EV START/STOPボタンには、ON/OFF以外のポジションがあります。12Vバッテリーの放電に注意して適切に使用してください。

- **ACC**:12V バッテリーの電源が ON になり、インフォテインメントシステムやエアコンなど、一部の機器が作動します。EV START/STOP ボタンが OFF のときに押すと、ACC が ON になります。
- **ON**：12V バッテリーの電源が ON になり、インストルメントクラスターのチェックや車内のすべての電子機器を使用できるようになります。ACC の状態で EV START/STOP ボタンを押すと、ON になります。

仮想エンジンサウンドシステムについて

内燃機関を使用しないEVは、走行時のエンジン音がしません。仮想エンジンサウンドシステム(VESS)は、走行中にエンジン音を発生させることで車両の接近を歩行者に知らせます。

- 車両が Ready モード（READY インジケーターが点灯）で、シフトが P（パーキング）ではないときに VESS が作動します。
- シフトのシフトポジションを R（リバース）にすると、さらに警告音が鳴ります。

⚠ 注意

- 走行中にエンジン音がしないことに注意してください。
- 周囲の状況に注意を払い、慎重に運転してください。
- 駐車時や信号待ちの際は、周囲にお子さまや障害物などがないことを確認してから発進してください。
- 後退する際は後方を目視で確認してください。歩行者が車両の音に気付かない場合があります。

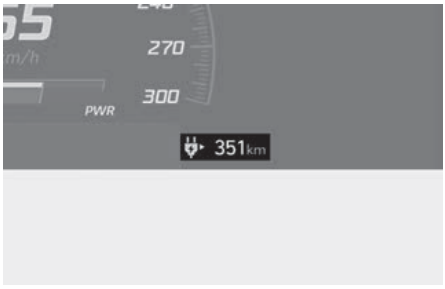
EV の走行情報の確認

車両操作時のインストルメントクラスターには、ユーザーインターフェースとインジケーターにより、航続可能距離、リアルタイムのエネルギー状態、バッテリー充電量、警告メッセージなどの重要な情報が表示されます。

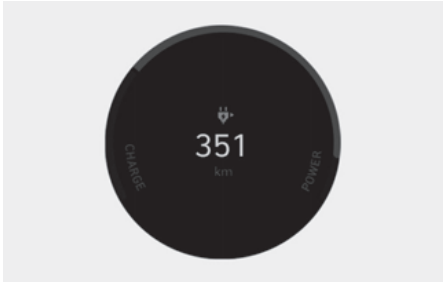
航続可能距離に影響する要因

航続可能距離は、その時点のバッテリ残量で走行可能な距離を意味し、EV走行中にインストルメントクラスターの下部に表示されます。

タイプA



タイプ B



航続可能距離は、運転方法、電力使用量、走行状況、高電圧バッテリーの状態など多くの要素により変化します。航続可能距離は、すべての要素を総合的に反映するものであるため、反映された値から増減する可能性があります。航続可能距離に考慮される要素は次のとおりです。

- 運転方法走行速度と加速、減速の傾向です。高速走行や頻繁な加速・減速により、航続可能距離は短くなります。
- 電力使用量：エアコン、ヒーター、ライトなど、追加の電力使用量です。電力使用量が増えると、航続可能距離が短くなります。
- 走行状況：天候、気温、地形などです。雪、雨、強風、低温下での走行により、航続可能距離は短くなります。また、上り坂や滑りやすい路面、荒れた路面の走行でも、航続可能距離は短くなります。
- 電気エネルギー：充電状態（SOC）に比例しますが、バッテリーの温度や健康状態（SOH）により異なる場合があります。

100% 充電時の航続可能距離の変化

運転技術の習得状況や運転状況により、航続可能距離が短くなった場合は、「航続可能距離を伸ばすヒント航続可能距離を伸ばすヒント」に従った運転を継続することにより、再び航続可能距離を伸ばすことができます。

- サービスセンターで学習した運転パターンを初期化すると、インストルメントクラスター下部に表示される航続可能距離が長くなる場合がありますが、実際の航続可能距離が長くなるわけではありません。航続可能距離は、学習が進むまで正確ではない可能性があります。
- 冬に高電圧バッテリーの温度が低下すると、航続可能距離が短くなりますが、これは一時的なものです。気温が上がると、航続可能距離も長くなります。
- 電力使用量を減らすと、航続可能距離が長くなる可能性があります。
- 高電圧バッテリーには、車両の使用年数による自然劣化が生じる場合があります。これにより、航続可能距離が短くなる場合があります。

目的地を設定した場合

目的地を設定すると、学習した電費の履歴の代わりに目的地の情報を使って航続可能距離を再計算するため、航続可能距離が変わる場合があります。

i 情報

航続可能距離は、交通状況や走行速度によって大きく変わる場合があります。

航続可能距離を伸ばすヒント

航続可能距離は、高電圧バッテリーの充電量、天候、気温、バッテリー使用期間、地形、運転方法などにより変わります。

次の指示に従って運転することで、航続可能距離を長くできます。

- 走行速度を上げると、EV の空気抵抗は急激に高くなります。航続可能距離を長くし電費を良くするためには、速度を出し過ぎないようにしてください。
- 急加速は走行エネルギーの消費量を増やし、急減速は回生ブレーキの効果が低減します。加速時や減速時は、アクセルペダルを徐々に踏んだり離したりして急な速度の変化を避けてください。
- エアコンやヒーターを過度に使用すると、高電圧バッテリーの電気も過度に消費されます。これにより、航続可能距離が短くなる場合があります。車内温度を 22 ° C AUTO レベル 2 に設定してください。特に冬季は、暖房の使用を控え、シートヒーターを使用することで、航続可能距離をかなり長くできます。不要な場合は、エアコンとヒーターを OFF にしてください。
- エアコンやヒーターを使用する場合でも、外気導入モードではなく内気循環モードを選択することで電力消費量が減少します。外気導入モードは外気を暖めたり冷やしたりしなければならないため、電力消費量が大幅に増加します。
- 走行中はウィンドウを閉めてください。ウィンドウを開けて走行すると空気抵抗が大きくなり、エアコンやヒーターの電力使用量も増えます。
- 同乗者がいない状態でエアコンやヒーターを使用する場合は DRIVER ONLY 機能を使用してください。
- EV 用のタイヤを使い、指定された空気圧を維持してください。
- 走行中は、必要のない電子機器を使用しないでください。
- 車両には、必要のないものを積まないでください。
- 空気抵抗を大きくするような部品を取り付けないでください。

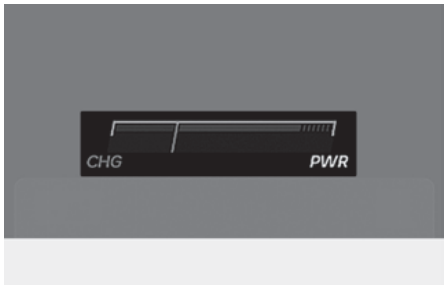
航続可能距離が十分ではない場合

- バッテリー警告灯が表示されたら、直ちに最寄りの充電ステーションで充電してください。
- 電費の良い運転をするには、「航続可能距離を伸ばすヒント航続可能距離を伸ばすヒント」に従ってください。
- バッテリ残量が 0% になったら走行しないでください。安全な場所に移動して救助を要請してください。

リアルタイムなエネルギー状態（CHARGE/POWER ゲージ）の確認

CHARGE/POWERゲージは、回生ブレーキが生成した電気エネルギーの充電/放電状態と、電気モーターの電力消費量を表示します。

タイプA



タイプ B

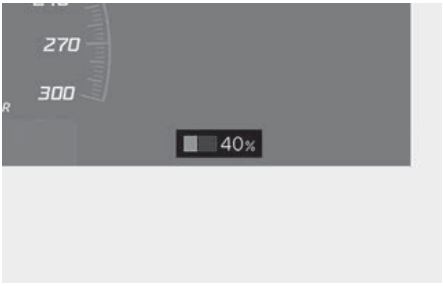


- **CHARGE**: 回生ブレーキによる充電状態を示しています。ブレーキペダルを踏んだ、または惰性走行により減速した際に回生ブレーキによって充電されます。電気エネルギーが充電されればされるほど、ゲージレベルは反時計回りに回ります。
- **POWER**: 通常走行時や加速時等の電力消費量を示しています。電気エネルギーが放電（使用）されればされるほど、ゲージレベルは時計回りに回ります。

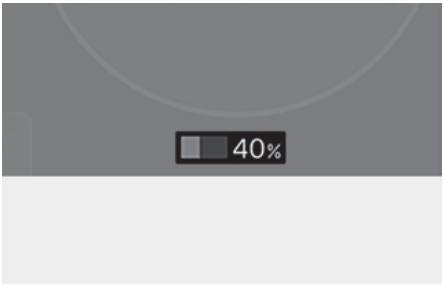
充電状態（SOC）の確認

CHARGE/POWERゲージの下部に表示されるSOCインジケーターは、高電圧バッテリーの充電量をパーセントで示します。数値が小さいほど充電の必要度が高く、100%は満充電を示します。

タイプA



タイプ B



- 高電圧バッテリーの残量が 15% 以下になると警告灯が表示されます。
- 警告灯が表示されたら車両を充電してください。

i 情報

- 最寄りの充電ステーションを探すには、本章の「最寄りの充電ステーションを探す」を参照してください。
- 高速道路や自動車専用道路を走行する前に、SOC が十分かを確認してください。
- 警告灯が表示されたら、直ちに最寄りの充電ステーションで充電してください。走行速度や天候などの走行条件により、車両が正常に動作しない場合があります。

警報灯の確認

EVの状態に応じて、走行前または走行中のインストルメントクラスター中央に警告灯が表示されます。警告灯の意味を理解するために次の説明を参照し、安全に運転してください。

⚠ 注意

走行中に警告灯が点灯したり、消灯しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

警告灯の確認

警告灯の原因を次の表で確認して、適切に対処してください。

警告灯	原因	対処法
サービス警告灯 	この警告灯は、次の場合に点灯します。 • センサーなど、EV 制御システムの関連部品に問題が発生している場合 • アクチュエーター、エアコン用電動コンプレッサーなどが故障した場合。	正常な状態では、EV START/STOPボタンがON位置にあるときに約3秒間点灯してから消灯します。 • 走行中に警告灯が点灯、または車両始動後に消灯しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
パワーダウンインジケーター 	この警告灯は、次の場合に点灯します。 • 高電圧バッテリ残量が低すぎる、または電圧が低下している。(充電量が不足すると出力が制限されます) • 高電圧バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎる。 • 駆動システムがオーバーヒートし、保護が必要である。	単独での点灯は、故障ではありません。 • パワーダウンインジケーターと、サービス警告灯が同時に点灯した場合には、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。 • インジケーターが点灯した場合は、直ちに充電してください。走行速度が制限され、上り坂を適切に走行できなくなる可能性があります。
高電圧バッテリー残量警告灯 	高電圧バッテリー残量が低下すると点灯する警告灯です。	直ちに車両を充電してください。点灯してから30～50km走行できます。 • 実際に航続可能距離は走行条件により異なります。

警告灯	原因	対処法
回生ブレーキ警告灯 	ブレーキシステムの誤作動により、回生ブレーキが作動せず、ブレーキが十分に効かなくなった場合に点灯する警告灯です。	弊社認定修理業者に車両の点検と修理をご依頼いただくことを推奨します。 • ブレーキペダルを通常より深く踏み込まないとブレーキが効かないと感じられたり、制動距離が長くなったりすることがあります。

インジケーターの確認

インジケーターの意味を次の表で確認して、必要な場合には適切に対処してください。

インジケーター	意味
充電インジケーター 	充電コネクターが高電圧バッテリーに接続されていることを示します。 • 充電コネクターを接続すると、緑色に点灯します。
READYインジケーター READY	EVがReady状態になると点灯し、走行可能であることを示します。 • 車両が故障すると、インジケーターは消灯するか点滅します。 • インジケーターが消灯または点滅する場合は、弊社認定修理業者に車両の点検および修理をご依頼いただくことを推奨します。

警告メッセージの確認

警告メッセージの意味を次の表で確認して、適切に対処してください。

⚠ 警告

- 警告メッセージが表示された状態では運転しないでください。
- 対処しても警告メッセージが消えない場合は、直ちに弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

警告メッセージ	原因	対処法
バッテリー残量不足です	高電圧バッテリ残量が15%未満になっています。 • インストルメントクラスターの（）警告灯も同時に点灯します。	直ちにバッテリーを充電してください。
充電してください。パワーが制限されます	高電圧バッテリー残量が10%未満になっている。 • インストルメントクラスターの（）警告灯も同時に点灯します。 • 高電圧バッテリーの電力消費量を最小限に抑えるため、車両のパワーを抑えます。	直ちにバッテリーを充電してください。
EVシステムを点検してください	EVの制御システムに問題ある。	• この警告メッセージが表示されているときは、運転しないでください。 • 車両を直ちに弊社認定修理業者に点検と修理をご依頼いただくことを推奨します。
パワーが制限されます	次の理由で高出力部品の安全性を確保するために、車両の出力が制限された場合に表示されます。 • 高電圧バッテリー残量が低すぎる、または電圧が低下している。 • 高電圧バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎる。 • 駆動システムがオーバーヒートし、保護が必要である。	単独での点灯は、故障ではありません。 • 充電量が低い場合は車両を充電します。 • パワーダウンインジケーターと、サービス警告灯が同時に点灯した場合には、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。 • この警告メッセージが表示されているときは、急加速や急発進を行わないでください。 • パワーダウンインジケーターが表示されている場合は注意が必要です。坂道を適切に走行できず、ロールバックする（ずり下がる）ことがあります。

警告メッセージ	原因	対処法
バッテリー温度が低下していますパワーが制限されます	外気温が低いときに車両を始動したり電源を切ったりすると、EVシステムを保護するために警告メッセージが表示されます。 • 高電圧バッテリーの充電量が低く、長時間屋外駐車した場合、バッテリー温度の低下により車両のパワーが制限される可能性があります。	• 運転の前にバッテリーを充電しておくと、外気低温時の出力抑制低減に役立ちます。 • 気温が上がってもこの警告メッセージが表示される場合は、弊社認定修理業者に車両の点検および修理をご依頼いただくことを推奨します。
バッテリー過熱！安全に停車してください	高電圧バッテリーの温度が高すぎる。	• 安全な場所に車両を止め、EV START/STOP ボタンを OFF にして、バッテリーの温度が下がるのを待ってから再始動してください。 • 車両の電源を切り、十分な時間が経過しても警告メッセージが表示される場合は、直ちに弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
電源供給装置点検！安全に停車してください	電源供給装置システムの故障です。	直ちに安全な場所に停車します。弊社認定修理業者に、点検と修理をご依頼いただくことを推奨します。
充電コネクタを外して始動してください	充電コネクターを接続したまま車両を始動しました。	充電ケーブルを外してから車両を始動します。
充電口が開いています	充電口が開いたまま車両を始動しました。	充電後は、充電口が完全に閉じていることを確認してください。
充電が停止しました。外部普通(急速)充電器を確認してください	次の理由により充電が停止した場合、この警告メッセージが表示されます。 • 外部普通 / 急速充電器に問題が発生した。 • 外部普通充電器が充電を停止した。 • 充電ケーブルが損傷している。	• 外部普通 / 急速充電器、充電ケーブルに問題がないか確認します。 • 適切な動作を承認された普通充電器か、HYUNDAI 純正ポータブル充電器を使用して車両を充電します。 • 問題が解決しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

警告メッセージ	原因	対処法
充電が停止しました。ケーブルの接続状態を確認してください	次の理由により充電が中断した場合、この警告メッセージが表示されます。 • 充電コネクターが充電口に正しく接続されていない。 • 充電コネクターのロック解除ボタンが押されている。	• 充電コネクターを車両から外し、接続し直します。 • 充電コネクターと充電口に外的損傷や異物などの問題がないか確認します。 • 適切な承認を受けた充電器か、HYUNDAI 純正ポータブル充電器を使用して車両を充電します。 • 問題が解決しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

事故や火災が発生したら

EVを運転中に事故が発生した場合は、ハザードランプを点灯させ、車両を安全な場所に移動し、他の人を現場に近づけないようにしてください。

⚠ 警告

事故で高電圧バッテリーが損傷した場合は、有害ガスや電解液が漏れるおそれがあります。

- 漏れた液体に触らないように注意してください。
- 可燃性ガスなどの有害ガスが漏れていると思われる場合は、ウィンドウを開け、直ちに安全な場所に避難してください。
- 漏れた流体が目に入ったり皮膚に付いたりした場合は、直ちに水道水または生理食塩水で患部を十分に洗い流し、できる限り早く医師の診察を受けてください。

EV に火災が発生した場合

火災が発生した場合は、安全な場所に避難し、他の人を現場に近づけないようにしてください。

- 消防署に EV の火災が発生したことを連絡し、指示に従ってください。

⚠ 注意

- 火災が発生したら、安全な場所に避難して消防隊をお待ちください。
- 高電圧バッテリーがある車両下部で火災が発生した場合、完全に消火するためには大量の水を長時間かけ続ける必要があります。十分な水と適切な消化器がない場合、消火は難かしく、不用意に車両に近づくと、感電事故などが発生し、重大な傷害を負うおそれがあります。

EV が浸水した場合

運転中にEVが浸水した場合は、次の手順に従ってください。

- 直ちに車両の電源をオフにして、鍵を持って安全な場所に避難します。
- 消防車などの緊急通報を行う、または弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

⚠ 警告

浸水したEVには絶対に触れないでください。感電や火災などの事故が発生するおそれがあります。

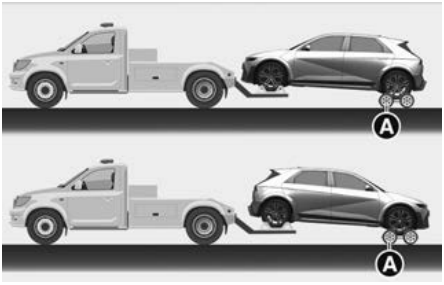
EV のけん引が必要な場合

けん引が必要な場合は、4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。車輪が地面に着いた状態でけん引すると、車両のモーター部品が損傷するおそれがあります。

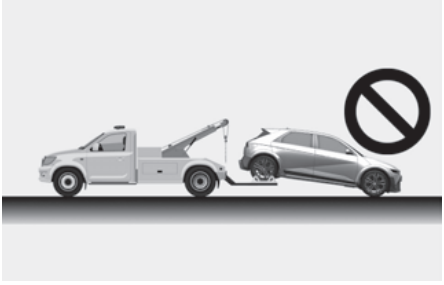
⚠ 警告

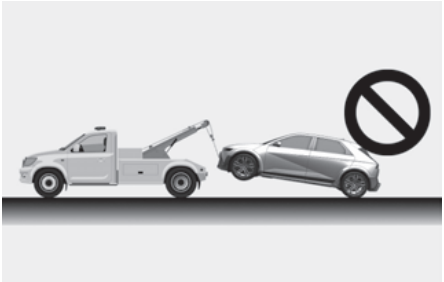
火災後の車両をけん引する場合は消防署に連絡してください。バッテリーが原因で車両火災が発生した場合は、二次火災の危険性があります。





[A] ドーリー





EV の事故に関するその他の注意事項

⚠ 警告

- 電気の安全には細心の注意を払ってください。高電圧電源の漏電による感電事故が発生するおそれがあります。

⚠ 注意

- 事故後の処理として、車両に塗装を施したり、熱処理を加えたりした場合は、高電圧バッテリーの性能が低下することがあります。熱処理が必要な場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。
- 純正部品のみを使用または装着してください。純正部品以外の部品や改造部品は電力系統を損傷するおそれがあります。

2. 車両情報

外装の概要（フロントビュー）.....2-2
外装の概要（リアビュー）.....2-3
内装の概要.....2-4
インストルメントパネルの概要.....2-6
ステアリングホイールコントロール概観図.....2-8
寸法.....2-9
モーターコンパートメント概要.....2-10
EV 仕様.....2-11
電球のワット数.....2-12
タイヤとホイール.....2-13
タイヤの荷重能力および速度能力.....2-14
エアコンディショナーシステム.....2-14
車両重量およびラゲッジ容量.....2-14
推奨潤滑剤および容量.....2-15
車台番号（VIN）.....2-16
車両証明ラベル.....2-16
タイヤの仕様および空気圧ラベル.....2-17
モーター番号.....2-17
エアコンコンプレッサーラベル.....2-18
適合宣言書.....2-18
オープンソースソフトウェア情報.....2-18

外装の概要（フロントビュー）



実際の形状は図と異なる場合があります。

(1) ボンネット 5-52
(2) ヘッドライト ..... 5-78、9-49
(3) タイヤとホイール 9-26
(4) アウトサイドミラー 5-42
(5) ビジョンルーフ 5-49
(6) フロントワイパーブレード ..... 5-92、9-20
(7) ウィンドウ 5-45

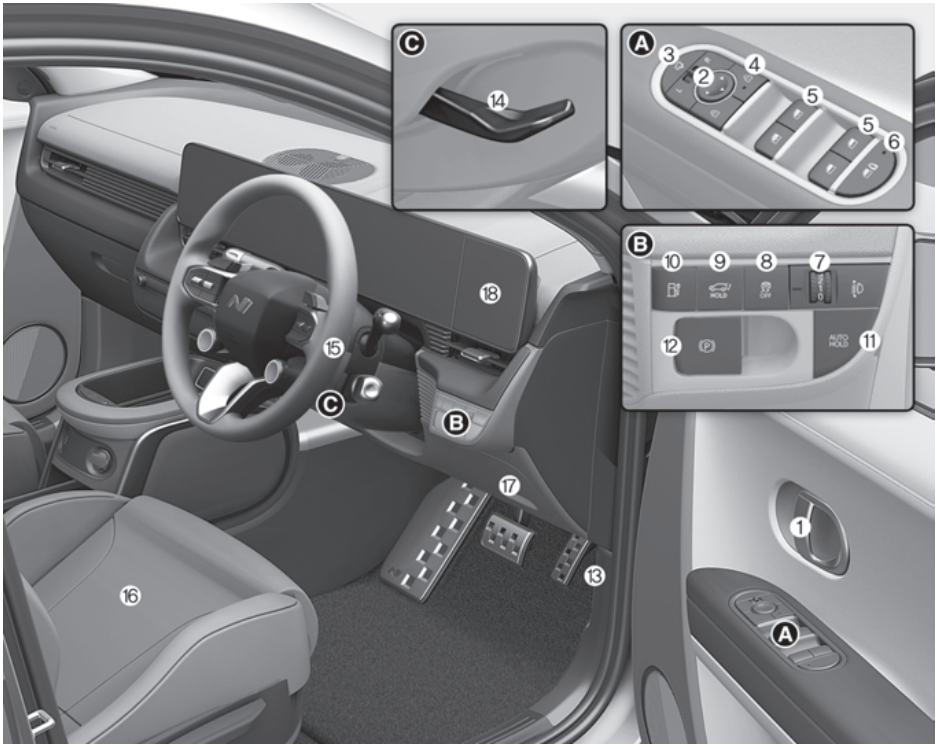
外装の概要（リアビュー）



実際の形状は図と異なる場合があります。

(1) ドア 5-22
(2) 充電口 5-60
(3) リアコンビネーションライト ..... 5-78、9-50
(4) パワーテールゲート 5-53
(5) ハイマウントストップライト 9-51
(6) リアウィンドウワイパーブレード ..... 5-94、9-20
(7) リアフォグライト 9-50
(8) アンテナ 5-132
(9) ナンバープレートライト 9-51

内装の概要



実際の形状は図と異なる場合があります。

(1) ドアハンドル（内側）..... 5-25
(2) アウトサイドミラーコントロールスイッチ 5-43
(3) アウトサイドミラー格納ボタン 5-43
(4) セントラルドアロック / ロック解除スイッチ 5-25
(5) パワーウィンドウスイッチ 5-46
(6) パワーウィンドウロックボタン 5-47
(7) ヘッドライトレベリングデバイス 5-81
(8) ESC（車体姿勢制御機能）OFF ボタン 6-36
(9) パワーテールゲートボタン 5-55
(10)充電口開閉スイッチ 5-60
(11)オートホールドボタン 6-32
(12)EPB（電動パーキングブレーキ）スイッチ 6-29
(13)ボンネットリリースレバー 5-52
(14)ステアリングホイールチルト / テレスコピックスイッチ 5-33
(15)ステアリングホイール 5-32
(16)シート 3-4

(17)ヒューズボックス 9-34
(18)クラスターディスプレイサイドパネル 5-124

インストルメントパネルの概要

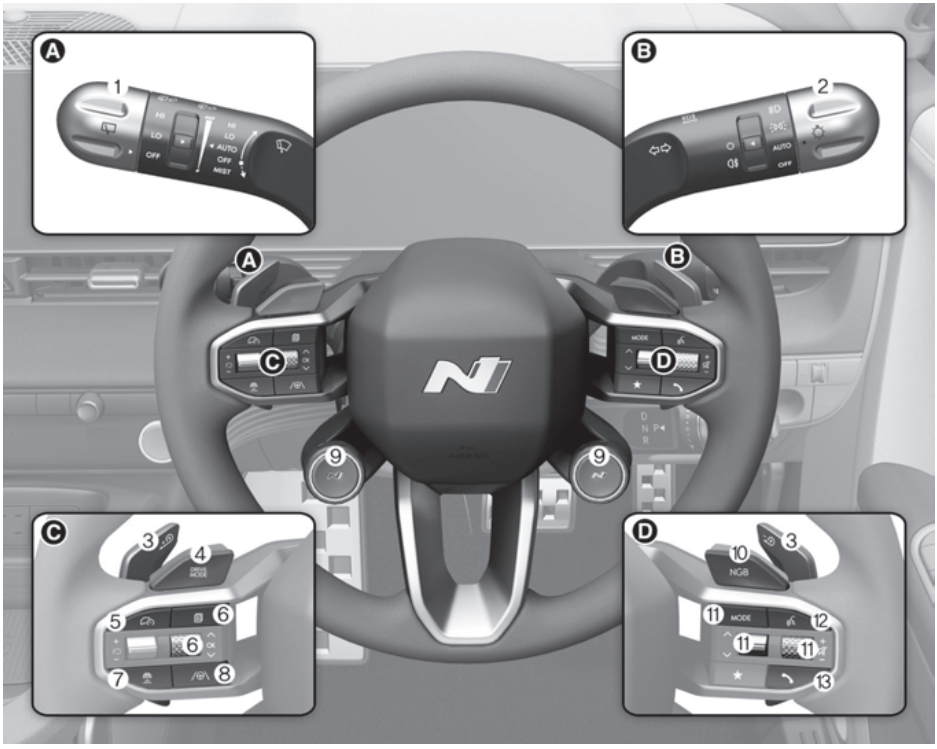


実際の形状は図と異なる場合があります。

(1) インストルメントクラスター 4-2
(2) ホーン 5-35
(3) 運転席エアバッグ 3-40
(4) EV START/STOP ボタン 6-5
(5) 変速ダイヤル（変速シフトダイヤル） 6-10
(6) インフォテインメントシステム 5-133
(7) ハザードランプスイッチ 8-2
(8) オートエアコン 5-96
(9) USB ポート / 充電器 5-123, 5-131
(10) USB ポート / 充電器変換ボタン 5-123
(11) USB 充電器 5-123
(12) ワイヤレス充電システムインジケーター 5-125
(13) スマートフォンワイヤレス充電システム 5-125
(14) パーキング / ビューボタン 7-100
(15) パーキングセーフティボタン 7-120
(16) パワーアウトレット 5-122

(17)センターコンソール.....5-119
(18)グローブボックス.....5-120
(19)助手席エアバッグ.....3-40

ステアリングホイールコントロール概観図



実際の形状は図と異なる場合があります。

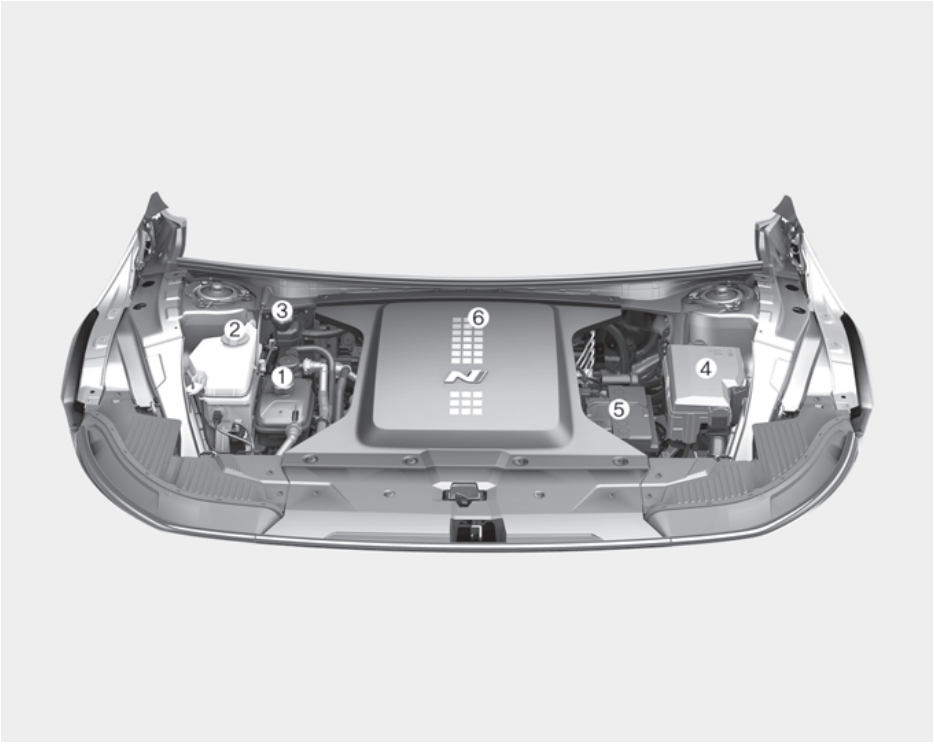
(1) ワイパーおよびウォッシャー操作レバー 5-78
(2) ライトコントロールレバー 5-92
(3) パドルシフト 6-16
(4) 運転モードボタン 6-50
(5) 走行アシストボタン 7-67
(6) クラスターディスプレイの制御 4-27
(7) 車間距離ボタン 7-68
(8) 車線走行アシストボタン 7-31
(9) N1/N2 ボタン 6-49
(10)NGB ボタン 6-60
(11)音声リモコンボタン 5-132
(12)音声認識ボタン 5-133
(13)Bluetooth® ハンズフリー通話ボタン 5-133

寸法

項目	mm
全長	4,715
全幅	1,940
全高	1,585
フロントトレッド	1,667
リアトレッド	1,672
ホイールベース	3,000

※ 寸法はメーカー参考値となり、実際に車検証に記載される数値は異なる場合があります。

モーターコンパートメント概要



実際のモーターコンパートメントは、イラストと異なる場合があります。

(1) クーラントリザーバー 9-14
(2) ウォッシャー液リザーバー 9-18
(3) ブレーキフルードリザーバー 9-17
(4) ヒューズボックス 9-33
(5) バッテリー（12V） 9-22
(6) 室内エアフィルター 9-19

EV 仕様

項目		標準
モーター	最大出力(kW)(Nグリンブースト装備車)	前輪166 + 後輪282 (前輪175 + 後輪303)
	最大トルク(N·m)(Nグリンブースト装備車)	前輪350 + 後輪390 (前輪370 + 後輪400)
バッテリー(リチウムイオン)	容量(kWh)	84.0
	出力(kW)	535/432
	電圧(V)	697
充電器 (OBC:車載バッテリー充電器)	最高出力(kW)	10.9(単相電流) 10.5(三相電流)

電球のワット数

電球			バルブタイプ	ワット数
フロント	ヘッドライト	ロー	LED	-
		ハイ	LED	-
	デイタイムランニングライト/ポジションランプ		LED	-
	方向指示器		LED	-
	ドアミラー内蔵ウィンカーライト		LED	-
リア	テールランプ/ストップライト		LED	-
	方向指示器		LED	-
	バックアップライト		LED	-
	ハイマウントストップライト		LED	-
	フォグライト		LED	-
	ナンバープレートライト		LED	-
ルーム	マップライト		LED	-
	ルームライト		LED	-
	ラゲッジルームライト		LED	-
	バニティミラーライト		LED	-
	ムードライト (前席ドアライト、助手席オープントレーライト)		LED	-
	グローブボックスライト		LED	-

タイヤとホイール

項目	タイヤサイズ	ホイールサイズ	空気圧 kPa（psi）						ホイールナットトルク kgf·m (lbf·ft、N·m)
							トラック走行*1		
			フロント	リア	フロント	リア	フロント	リア	
標準タイヤ	275/35 ZR21	9.5J X 21	240 (35)		250 (36)	300 (44)	230 (33)	220 (32)	18～20 (130～145、176～196)

*1: タイヤが暖まった状態の推奨空気圧を参照してください（タイヤ温度が上昇したときの状態）。乗員数は、積載なしで 2 人に制限されます。トラック走行が終了したら、通常の道路と走行状態に適した推奨タイヤ空気圧に変更してください。

知識

- 寒冷時のタイヤ空気圧は、標準タイヤ空気圧に 20kPa（3psi）を加えることができます。

  タイヤは、一般的に温度が 7° C 低下するごとに、空気圧が 7kPa（1psi）低下します。極端な温度変動が予想される場合は、膨張した状態を正確に保つために、必要に応じてタイヤ圧を再点検してください。
- タイヤ空気圧は、標高に応じて変化することがあります。(1km ごとに約 10kPa (2.4psi)) 標高が高い場所や低い場所で運転する場合は、タイヤ空気圧が適切か確認し調整してください。
- タイヤのサイドウォールに表示されている、最大空気圧を超えないでください。

⚠ 注意

タイヤを交換するときは、工場出荷時にこの車両に装着されていたタイヤと同じサイズ、タイプ、ブランド、構造、トレッドパターンのタイヤを必ず使用してください。そうでない場合は、関連部品が損傷したり、不規則な動作が発生したりするおそれがあります。

タイヤの荷重能力および速度能力

項目	タイヤサイズ	ホイールサイズ	荷重能力		速度能力	
			LI*1	kg	SS*2	km/h
標準タイヤ	275/35ZR21	9.5J X 21	103	875	Y	300

*1: ロードインデックス
*2:速度記号

エアコンディショナーシステム

項目	容積の重量	分類
冷媒	900±25g	R-1234yf
コンプレッサー潤滑剤	180±10g	POE

詳細については、弊社認定修理業者にお問い合わせください。

車両重量およびラゲッジ容量

項目			値
最大許容質量			2,660 kg
荷室容量	最大	1列目後方	1,540 ℓ
	最小	2列目後方	480 ℓ

※ 車両重量および車両総重量については、自動車検査証を参照してください。

推奨潤滑剤および容量

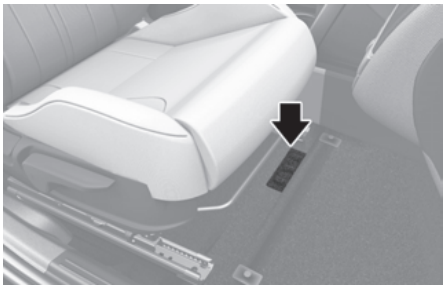
車両の適切な性能および耐久性が実現するように、適切な品質の潤滑剤のみ使用してください。

お使いの車両で推奨されている潤滑剤とフルードは次のとおりです。

潤滑剤		容量	分類
変速機のフルード	フロント	3.2 ℓ	HK ATF 65 SP4M-1
	リア	3.4 ℓ	
クーラント		16.62 ℓ	不凍液と水の混合液(アルミニウム製ラジエーター用リン酸塩エチレングリコールクーラントバッテリー)
ブレーキフルード		必要に応じて	SAE J1704 DOT-4 LV、FMVSS 116 DOT-4、ISO 4925 CLASS-6
電子制御式リミテッドスリップデファレンシャル(e-LSD)オイル		480 ± 15m ℓ	SHELL TF0870 C

車台番号（VIN）

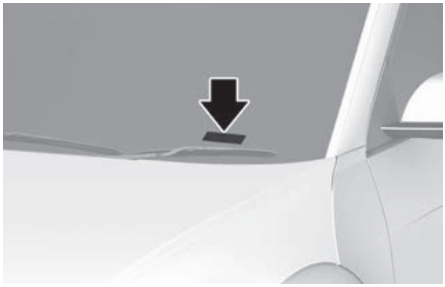
車台番号



車台番号(VIN)は、車両を登録する際に、その所有権などに関する全ての法的事項について使用される番号です。

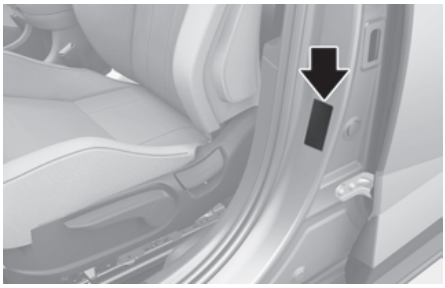
この番号は、右側のフロントシートの下のフロアに打刻されています。この番号を確認する場合は、カバーを開いてください。

VINラベル(装備されている場合)



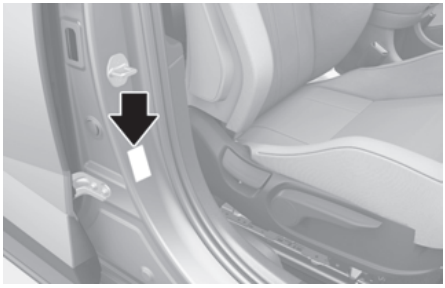
VINは、ダッシュボード左側上部に取り付けられたプレートにも記載されています。プレート上の番号は、フロントガラスを通して外から簡単に見ることができます。

車両証明ラベル



前部左側のセンターピラーに貼付された車両認証ラベルには、車台番号(VIN)が記載されています。

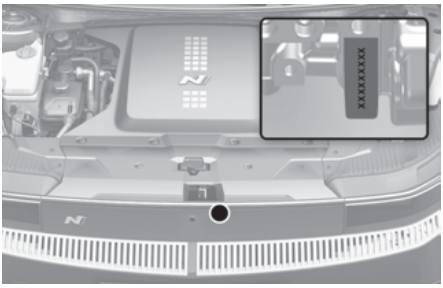
タイヤの仕様および空気圧ラベル

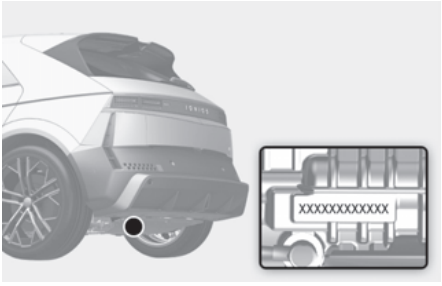


新規の車両に供給されるタイヤは、通常の運転に最適な性能を発揮するように選ばれています。

運転席側センターピラーにあるタイヤラベルには、お使いの車両の推奨タイヤ空気圧が記載されています。

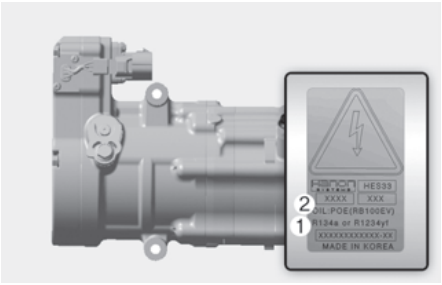
モーター番号





モーター番号は、車両の下部で確認できます。

エアコンコンプレッサーラベル



コンプレッサーラベルには、車両に搭載されているコンプレッサーのタイプ(モデル、メーカー部品番号、製造番号、冷媒(1)、冷媒オイル(2)など)が記載されています。

適合宣言書

装備されている場合

例



車両の無線周波コンポーネントは、指令1995/5/ECの要件およびその他の関連条項に適合しています。

メーカーの適合宣言書などの詳細については、ヒョンデWebサイトを参照してください。

http://service.hyundai-motor.com

オープンソースソフトウェア情報

この車両にはオープンソースライセンスのソフトウェアが含まれています。ソースコード、著作権表示、参照ライセンス条項を含むオープンソースソフトウェアの情報は、次のウェブサイトから提供されます。

https://www.hyundai.com/worldwide/opensource

HYUNDAIモーターカンパニーは、製品購入日から3年以内にopensource@hyundai.com宛てで電子メールによるリクエストがあった場合、ソースの配布に必要な最小限の費用で、オープンソースコードをCD-ROMなどの記憶媒体で提供します。

3. シートと安全システム

重要な安全上の注意事項 3-2
必ずシートベルトを着用する 3-2
お子さまを乗せるときは 3-2
エアバッグの注意点 3-2
不注意運転 3-2
飲酒の後や薬の服用後は運転しない 3-3
スピードを制御する 3-3
車両を安全な状態に保つ 3-3
シート 3-4
安全上の注意事項 3-7
前席 3-8
後席 3-10
ヘッドレスト 3-13
シートヒーター 3-15
シートベンチレーション 3-17
シートベルト 3-18
安全上の注意事項 3-18
シートベルト警告灯 3-19
シートベルトレストレイントシステム 3-20
シートベルトの追加の安全上の注意事項 3-24
シートベルトの手入れ 3-26
チャイルドシート（CRS） 3-26
弊社の推奨：お子さまは必ず後席に乗せる 3-26
チャイルドシート（CRS）の選択 3-27
チャイルドシートの取り付け 3-29
エアバッグ - 補助拘束装置 3-36
SRS コンポーネント 3-38
エアバッグの場所 3-40
エアバッグシステムの仕組み 3-44
エアバッグ展開 3-46
チャイルドシートは絶対に助手席には取り付けないでください 3-47
SRS 警告灯 3-47
エアバッグ展開時の注意 3-48
SRS のメンテナンス 3-52
追加の安全上の注意事項 3-53
エアバッグ警告ラベル 3-53

重要な安全上の注意事項

本セクションおよび取扱説明書には、安全上の注意事項と推奨事項が多数記載されています。その中でも、本セクションの安全上の注意事項が最も重要です。

必ずシートベルトを着用する

シートベルトはどのような事故の場合にも、最も効果的に乗員を保護します。エアバッグはシートベルトを補助するためのものであり、シートベルトの代わりにはなりません。この車両にはエアバッグが装備されていますが、ドライバーと同乗者は必ずシートベルトを正しく着用してください。

お子さまを乗せるときは

お子さまや小柄な方は前席ではなく後席に乗せる必要があります。シートベルトを装着できない乳幼児や小さなお子様は、適切なチャイルドシートに乗せてしっかりと固定してください。お子さまは、ブースターシートなしで正しくシートベルトを着用できるようになるまでは、ブースターシートとラップ／ショルダーベルトを合わせて使用してください。

エアバッグの注意点

エアバッグで命を救うことができる一方で、シートの位置がエアバッグに近すぎる場合や、身体がしっかり固定されていない場合、重傷や致命傷を負うおそれがあります。お子様や小柄な方は、エアバッグが展開する際に傷害を負う危険性が高くなります。この取扱説明書に記載された手順および警告を必ず守ってください。

不注意運転

不注意運転は、特に経験の浅い運転者の場合、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。運転中は安全を第一に考慮し、眠くなったり、ものを取ろうとして手を伸ばしたり、飲食をしたり、身だしなみを整えたり、他の乗員と会話したり、携帯電話を使用したりすることで、運転以外のことに気を取られないように注意してください。

運転者が運転以外のことに注意を向けようとして道路から目をそらしたり、ステアリングホイールから手を離したりすると、不注意運転につながります。不注意運転および事故の危険性を減らすために、次の点を守ってください。

- モバイルデバイス（MP3 プレイヤー、電話、ナビゲーションユニットなど）の設定は、車両を駐車状態にしているか、安全に停車しているときに行ってください。
- モバイルデバイスは、法律が許す範囲で、安全に使用できる状況でのみ使用してください。運転中は絶対にテキストメッセージやメールを使用しないでください。ほとんどの国の法律では、運転中のテキストメッセージの使用は禁止されています。一部の国や都市では、運転中に携帯電話を持って使用することが禁止されています。
- 運転中にモバイルデバイスを使用して気を取られないようにしてください。運転者には、ステアリングホイールを両手でしっかり握り、視線と注意を道路に向けて常に安全運転をすることで、乗員や通行者を守る義務があります。

飲酒の後や薬の服用後は運転しない

飲酒や薬の服用は、状況の変化や緊急時の対応能力を低下させます。飲酒や薬を服用したら運転しないでください。たとえば家族や友人にも飲酒や薬を服用したら運転させないでください。

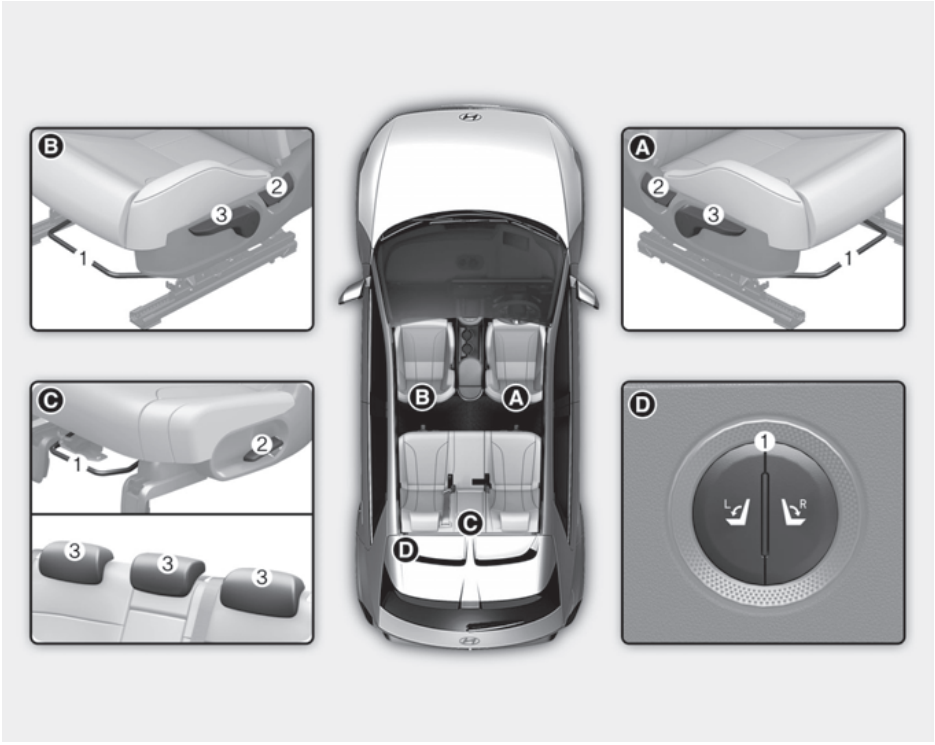
スピードを制御する

スピードの出し過ぎは、衝突によるけがや死亡の主な要因です。一般的に速度が速いほど危険性も高くなりますが、低速走行時でも重大な傷害を受けるおそれがあります。掲示された最高速度にかかわらず、現在の状況で安全と考えられる以上の速度は出さないでください。

車両を安全な状態に保つ

タイヤのパンクや機械の故障が発生すると非常に危険です。なるべくパンクや故障が発生しないように、タイヤの空気圧や状態をこまめに確認し、各種定期整備を欠かさず行ってください。

シート



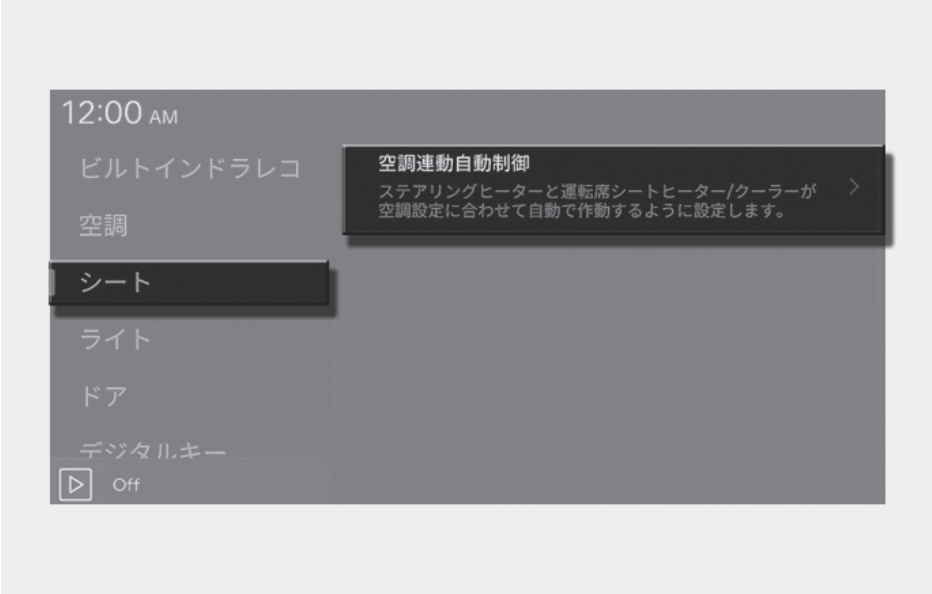
運転席［A］
(1) 前後移動
(2) シートバックの角度
(3) シートの高さ

助手席［B］
(1) 前後移動
(2) シートバックの角度
(3) シートの高さ

後席［C］
(1) 前後移動
(2) シートバック折りたたみレバー
(3) ヘッドレスト

ラゲッジルーム［D］
(1) 後席リモート格納ボタン

インフォテインメントシステム



SETUPボタンを押して、インフォテインメントシステムで**車両** > **シート**を選択します。さまざまな便利機能が用意されています。

- **空調連動自動制御**：シートヒーターとシートベンチレーションは、外気温と設定温度に応じて自動制御されます。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

- 提供される情報は、車両に適用されている機能によって異なる場合があります。

安全上の注意事項

事故の際に運転者と乗員の安全を守るためには、シートベルトやエアバッグの使用と合わせて、シートを安全かつ快適な位置に調節することが重要です。

⚠ 警告

シートと乗員の間の摩擦が低減するクッションを使用しないでください。事故や急停車の際に、乗員の腰がシートベルトのラップ部の下に入り込むおそれがあります。

シートベルトが正しく機能できないため、重大な内臓損傷や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エアバッグ

エアバッグが展開したときにけがをする危険性を減らすために、次の点に注意してください。シートの位置がエアバッグに近すぎると、エアバッグが展開したときにけがをする危険性が非常に高くなります。車両の制御に支障のない範囲で、シートをできるだけフロントエアバッグから遠い位置に動かしてください。

⚠ 警告

エアバッグの展開による重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、以下の点を守ってください。

- 車両の制御に支障のない範囲で、運転席のシートをできるだけ後ろに調整してください。
- 助手席のシートをできるだけ後ろに調整してください。
- 手や腕をけがする危険性を最小限に抑えるため、ステアリングホイールのリムを両手で、9 時と 3 時の位置で握ってください。
- 運転者とエアバッグの間には、絶対に物を置いたり人を乗せたりしないでください。
- 足をけがする危険性を最小限に抑えるため、助手席乗員はダッシュボードに足を乗せないようにしてください。

シートベルト

発進する前に必ずシートベルトを締めてください。乗員は常に背筋を伸ばし、シートベルトでしっかりと拘束された状態で座るようにしてください。乳幼児は適切なチャイルドシートで固定してください。ブースターシートを使用する必要のない大きなお子さまや大人は、シートベルトで固定してください。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡事故を防ぐために、以下の点を守ってください。

- 絶対に 1 つのシートベルトを複数の乗員で使用しないでください。
- 常にシートバックを直立の位置にし、シートベルトのラップ部を腰の低い位置に密着させてください。
- 絶対に、乳幼児やお子さまを乗員のひざの上に乗せないでください。
- シートベルトが乗員の首や鋭利なものにかからないようにしてください。また、ショルダーストラップが身体から離れないようにしてください。
- シートベルトが挟まったり引っかかったりしないようにしてください。

前席

⚠ 警告

重大な傷害や死亡事故を防ぐために、以下の点を守ってください。

- 走行中は絶対にシートの調節をしないでください。シートが予期しない動作をして車両の制御が失われ、事故につながるおそれがあります。
- 前席の下にものを置かないでください。運転席の足元にフロアマットなど固定されていないものがあると、フットペダル操作の邪魔になり、事故につながるおそれがあります。
- シートバックの正常位置および適切なロックの妨げになるものは置かないでください。
- ライターをフロアまたはシートに置かないでください。
- シートの下、またはシートとセンターコンソールの間に挟まった小さい物を取り出す際は、十分注意してください。シート機構の鋭利な部分で手を切ったりけがをしたりするおそれがあります。
- 後席に乗員がいるときに前席を調整する場合は、注意してください。
- シートの調節後は、所定の位置でロックされていることを確認してください。ロックされていない場合、突然動いて事故につながるおそれがあります。

シートバックの角度調節

走行中にシートバックを倒した状態で座るのは危険です。シートバックを倒すと、シートベルトを着用している場合でも、レストレイントシステム(シートベルトやエアバッグ)による保護性能は大幅に低下します。

シートベルトを正しく機能させるには、腰骨と胸部に密着させる必要があります。

シートバックを大きく倒すほど、乗員の腰がラップベルトの下に入り込んだり、首がショルダーベルトに直撃したりする可能性が高くなります。

⚠ 警告

走行中は絶対にシートバックを倒した状態で座らないでください。

シートバックを倒した状態で座ると、衝突や急停車の際に重大な傷害や死亡につながる可能性が高くなります。

運転者と乗員は、必ずシートバックを直立の位置にしてシートに深く座り、シートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを正しく機能させるには、腰骨と胸部に密着させる必要があります。シートバックを倒すと、ショルダーベルトが胸部に密着しないため正しく機能しません。この場合、ショルダーベルトが顔の前に来ることになります。事故の際に乗員の身体がシートベルトに向かって投げ出され、首などをけがするおそれがあります。

シートバックを大きく倒すほど、乗員の腰がラップベルトの下に入り込んだり、首がショルダーベルトに直撃したりする可能性が高くなります。

シートの調整

前席は、シートクッションの下にあるレバー、またはシート外側のレバーで調節できます。

前後の調節



シートを前後に動かすには、次の手順を実行します。

1. シートスライド調節レバーを引き上げ、その位置で保持します。
2. シートをお好みの位置にスライドさせます。
3. レバーを離し、シートがその位置でロックされていることを確認します。レバーを使用せずにシートを前後に動かします。シートが動いた場合は正しくロックされていません。

シートバックの角度



シートバックを倒すには、次の手順を実行します。

1. 少し前かがみになり、シートバックレバーを引き上げます。
2. 注意してシートにもたれ、シートバックをお好みの位置に調節します。
3. レバーを離し、シートバックがその位置でロックされていることを確認します。(シートバックがロックされるためには、レバーが元の位置に戻っている必要があります。)

シートの高さ



シートクッションの高さを変更するには、次の手順を実行します。

- レバーを数回押し下げると、シートクッションが下がります。
- レバーを数回引き上げると、シートクッションが上がります。

後席

シートの調整

前後の調節



シートを前後に動かすには、次の手順を実行します。

1. シートスライド調節レバーを引き上げ、その位置で保持します。
2. シートをお好みの位置にスライドさせます。
3. レバーを離し、シートがその位置でロックされていることを確認します。

i 情報

安全のため、後席は一番後ろの位置までスライドさせてください。

シートバックの角度



シートバックを倒すには、次の手順を実行します。

1. シートバックリクライニングレバーを引き上げます。
2. レバーを引き上げたまま、シートバックをお好みの位置に調節します。
3. レバーを離し、シートバックがその位置でロックされていることを確認します。（シートバックがロックされるためには、レバーが元の位置に戻っている必要があります。）

後席を折りたたむ

後席のシートバックを折りたたむことで、長い荷物を積みやすくなり、荷室を広げることができます。

後席を折りたたむ前に、ヘッドレストを一番低い位置まで下げ、シートベルトをシートの両側に収納します。

⚠ 警告

- 走行中は、折りたたんだシートバックの上に乗員が座らないようにしてください。これは正しい座席の位置でないので、使用できるシートベルトはありません。衝突事故や急停車時に、重大な傷害や死亡の原因となるおそれがあります。
- 折りたたんだシートバックの上に荷物を置いて運ぶ場合は、荷物が前席シートバックの最上部より高くならないようにしてください。衝突事故や急停車時に荷物が前方に滑り、物的損害や重大な傷害、死亡の原因となるおそれがあります。

後席のシートバックを折りたたむには、次の手順を実行します。

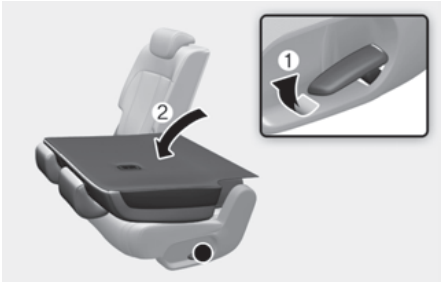
1. 前席のシートバックを直立位置に調節し、必要に応じて前席を前にスライドさせます。
2. リリースボタン（1）を押しながら後席のヘッドレストを押し下げ、最も低い位置までヘッドレストを下げます（2）。



3. シートベルトウェビングは、損傷を防ぐために後席シートの両側を通します。

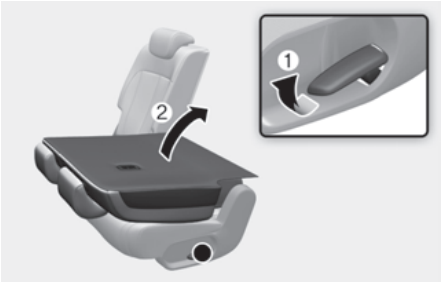


4. シートバックリクライニングレバー（1）を引き上げ、シートを車両の前方（2）に折りたたみます。



後席シートを使用するには、

1. シートバックリクライニングレバー（1）の前部を引き上げながら、シートバックを後方（2）に向けて押します。



2. カチッと音がするまでシートバックをしっかりと押します。シートバックが所定の位置でロックされていることを確認します。
3. 後席シートベルトを適切な位置に戻します。

⚠ 警告

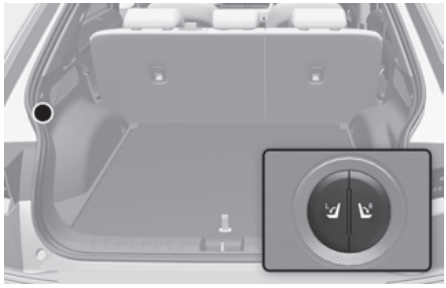
シートバックを確実にロックしてください。シートバックがロックされていないと、衝突事故や急停車時に荷物が急激に前方へと移動し、重大な傷害や死亡の原因となるおそれがあります。

⚠ 警告

衝突事故時に荷物が動いて乗員に重大な傷害を負わせたり死亡に至ることがないように、必ず荷物を固定してください。後席に物を置かないでください。確実な固定ができないため、衝突時に前席の乗員に当たるおそれがあります。

リモート格納ボタン

装備されている場合



この機能を使用すると、テールゲートが開いた状態で、簡単に後席シートバックを前方に折りたたむことができます。

1. ラゲージルームの左側にあるリモート格納ボタンを押します。
2. シートバックを前方に折りたたむと、そのスペースに荷物を置けるようになります。
3. シートバックが完全に折りたたまれない場合は、手で押して完全に折りたたみます。

⚠ 警告

折りたたむ前に後席に乗員がいないことを必ず確認してください。後席にペットがいる場合、荷物を置いている場合、乗員がいる場合、または乗員が降車している最中は、シートを折りたたまないでください。シートが突然動いて、怪我をするおそれがあります。

アームレスト



アームレストは、後席の中央に配置されています。使用する場合は、アームレストをシートバックから引き下げます。

i 情報

後席シートバックを折りたたむ際にアームレストが引き出されているとシートバックが折りたたみ出来ない場合があります。後席シートバックを折りたたむ際には十分に注意してください。

ヘッドレスト

本車両の後席には、調節可能なヘッドレストが装備されています。ヘッドレストは快適さを提供するだけでなく、事故(特に追突事故)の際に乗員をむち打ちや他の脊髄損傷から保護するという、より重要な目的のために設計されています。後席に乗員が乗っていない場合は、運転者の視界を確保するために、後席のヘッドレストを最も低い位置に調節してください。

⚠ 警告

事故の際に重大な傷害を受けたり死亡したりする危険性を減らすために、ヘッドレストを調節する際は次の点を守ってください。

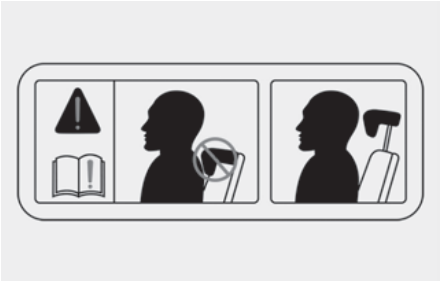
- 発進する前に、必ず乗員に合わせてヘッドレストを適切に調節してください。
- ヘッドレストを取り外したり、逆向きに取り付けたりしているシートには、絶対に乗員を座らせないでください。
- ヘッドレストの中央部分が目の上部と同じ高さになるように調整してください。



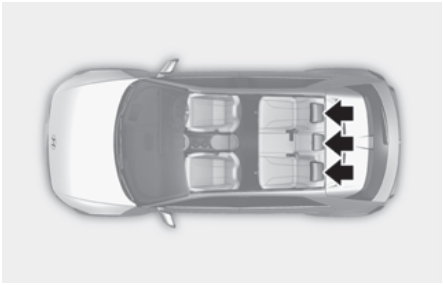
- ヘッドレストと乗員の頭部ができるだけ近づくように調節してください。身体がシートバックから離れるようなシートクッションは使用しないでください。
- 調節後は、ヘッドレストが所定の位置でロックされていることを確認してください。

⚠ 警告

乗員がいる場合には、必ず乗員に合わせてヘッドレストを使用してください。

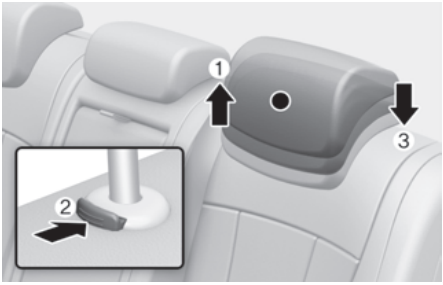


後席ヘッドレスト



後席のすべてのシートには、乗員が安全かつ快適に座れるようにヘッドレストが装備されています。

高さの調節



ヘッドレストを上げるには、次の手順を実行します。

1. ヘッドレストを目的の位置まで引き上げます①。

ヘッドレストを下げるには、次の手順を実行します。

1. ヘッドレストサポートのリリースボタン②を押したままにします。
2. ヘッドレストを目的の位置まで下げます③。

取り外し / 取り付け

ヘッドレストを取り外すには、次の手順を実行します。

1. ヘッドレストを一番上の位置まで引き上げます。
2. ヘッドレストリリースボタン（1）を押しながら、ヘッドレスト（2）を引き抜きます。



ヘッドレストを取り付けるには、次の手順を実行します。

1. リリースボタン（1）を押した状態で、ヘッドレストポールを穴に差し込みます（2）。



2. ヘッドレストを適切な高さに調節します。

シートヒーター

シートヒーターは、気温が低いときにシートを温めるために用意されています。

暖かい時期や使用しない場合はシートヒーターをOFFにしてください。

⚠ 警告

シートヒーターは、特に長時間使用する場合に、低温でも重度のやけどを引き起こすおそれがあります。

乗員は、シートが高温になりすぎていると感じた場合、必要に応じて、シートヒーターをOFFにする必要があります。

シートヒーターは大量の電力を消費します。バッテリーが放電しないように、車両の電源がOFFのときにはシートヒーターの使用を避けてください。

特に次のような、温度変化や皮膚の痛みを感じることのできない乗員には、十分に注意する必要があります。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、体の不自由な方、病人
- 皮膚の弱い方、やけどしやすい方
- 疲労の激しい方
- 酔っている方
- 眠気を誘う薬を服用している方

シートヒーターの使用中は、毛布やシートクッションなどの保温性の高いものをシートの上に置かないでください。

知識

シートヒーターとシートの損傷を防ぐために、次の点を守ってください。

- シートの清掃に塗料用シンナー、ベンゼン、アルコール、ガソリンなどの溶剤は絶対に使用しないでください。
- シートヒーターを装備したシートの上に、重いものや鋭利なものを置かないでください。
- シートカバーを交換しないでください。シートヒーターが損傷するおそれがあります。

前席シートヒーター



前席の空調パネルにあるTEMPボタンを押します。

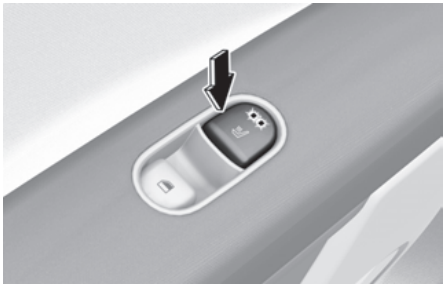


前席の各シートヒーターを有効にするには、インフォテインメント画面のボタンをタッチします。

- スイッチを押すたびに、高温、中温、低温、OFF の順に温度が切り替わります。

- 低温やけどを防ぐため、シートヒーターの温度は自動的に下がり、一定の時間が経過すると OFF になります。シートヒーターが OFF になった後に高温を選択すると、再び温度は自動的に制御されます。
- EV START/STOP ボタンを ON の位置にすると、シートヒーターはデフォルトの OFF の位置に戻ります。

後席シートヒーター



走行中にシートヒータースイッチを押すと後席シートヒーターが作動します。

- スイッチを押すたびに、高温、低温、OFF の順に温度が切り替わります。
- 低温やけどを防ぐため、シートヒーターの温度は自動的に下がり、一定の時間が経過すると OFF になります。シートヒーターが OFF になった後に高温を選択すると、再び温度は自動的に制御されます。
- EV START/STOP ボタンを ON の位置にすると、シートヒーターはデフォルトの OFF の位置に戻ります。

前席から後席シートヒーターを作動させる

後席シートヒーターは前席から調節できます。



前席の空調パネルにあるボタンを押します。



後席の各シートヒーターを有効にするには、インフォテインメント画面のボタンをタッチします。

シートベンチレーション

装備されている場合

シートベンチレーションは、シートクッションとシートバックの表面にある小さい送風口から空気を送ることで、前席を冷却します。

必要のない場合は、シートベンチレーションをOFFにしてください。

知識

シートベンチレーションの損傷を防ぐために、次のことを守ってください。

- シートの清掃に塗料用シンナー、ベンゼン、アルコール、ガソリンなどの溶剤は絶対に使用しないでください。
- 前席やシートバックの表面に液体をこぼさないでください。送風口が塞がれ、正常に機能しなくなるおそれがあります。
- シートの下にビニール袋や新聞紙などを入れないでください。吸気口がふさがれて、送風口が正常に動作しなくなるおそれがあります。
- シートカバーを交換しないでください。
- 送風口が動作しない場合は、車両を再始動してください。再始動しても改善しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことをお勧めします。

前席シートベンチレーション



前席の空調パネルにあるTEMPボタンを押します。



前席の各シートベンチレーションを有効にするには、インフォテインメント画面のボタンをタッチします。

- ボタンを押すたびに、風量が強、中、弱、OFF の順に切り替わります。
- EV START STOP ボタンを ON の位置にすると、シートベンチレーションはデフォルトの OFF の位置に戻ります。

シートベルト

本章では、シートベルトを適切に使う方法を説明しています。また、シートベルトの使用時にしてはいけないことについても説明します。

安全上の注意事項

必ず乗員全員がシートベルトを締めていることを確認してから発進してください。エアバッグは追加の安全装置としてシートベルトを補助するために設計されていますが、シートベルトの代わりにはなりません。ほとんどの国では、乗員全てのシートベルトの着用が義務付けられています。

⚠ 警告

走行中は必ず乗員全員がシートベルトを着用してください。重大な傷害や死亡事故を防ぐために、以下の点を守ってください。

- お子様や小柄な方は後席に乗せてしっかりと固定する必要があります。
- エアバッグが有効になっている間は、絶対にお子さまを助手席に座らせないでください。お子さまを助手席に座らせる場合は、できるだけシートを後ろに下げ、身体をシートにしっかり固定してください。
- 絶対に乳幼児やお子さまをひざの上に乗せないでください。
- 走行中は絶対にシートバックを倒した状態で座らないでください。
- お子さまがシートやシートベルトを共有しないようにしてください。
- ショルダーベルトを腕の下または背中に通した状態で着用しないでください。
- シートベルトをねじれた状態で使用しないでください。シートベルトがねじれていると、衝突の際に乗員を適切に保護できなくなります。
- ベルトやハードウェアが損傷している場合はシートベルトを使用しないでください。
- シートベルトを他のシートのバックルに差し込まないでください。
- 走行中はシートベルトを絶対に外さないでください。これにより、車両が制御不能になり、衝突につながるおそれがあります。
- バックル内にシートベルトの固定の妨げになるような異物がないことを確認してください。
- シートベルトを改造したり、シートベルトの巻き戻りを妨げるような装置を取り付けたりしないでください。
- ベルトやハードウェアが損傷している場合はシートベルトを使用しないでください。シートベルトの交換は、弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

シートベルトおよびシートベルトアセンブリーが損傷していると正しく動作しません。次のような場合は必ず該当部分を交換してください。

- ベルト（擦り切れ、汚れ、損傷の場合）
- ハードウェア（損傷の場合）
- シートベルトアセンブリー全体（事故時に着用していた場合。外見ではベルトやシートベルトアセンブリーの損傷がわからない場合も交換すること）

シートベルト警告灯

運転席のシートベルト警告

インストルメントクラスター



EV START STOPボタンをONにすると、運転者がシートベルトを着用しているかどうかにかかわらず、運転席のシートベルト警告灯が約6秒間点灯します。

20km/h未満で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、シートベルト警告灯が点灯します。

20km/h以上で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、シートベルト警告チャイムが一定時間鳴り、警告灯が点滅します。

助手席のシートベルト警告

EV START STOPボタンをONにすると、助手席乗員がシートベルトを着用しているかどうかにかかわらず、シートベルト着用を助手席乗員に促すために助手席のシートベルト警告灯が約6秒間点灯します。

助手席乗員が、20 km/h未満で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、シートベルト警告灯が点灯します。

助手席乗員が、20 km/h以上で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、シートベルト警告チャイムが一定時間鳴り、警告灯が点滅します。

⚠ 警告

助手席乗員の着座姿勢が正しくない場合、助手席のシートベルト警告システムが正常に作動しないおそれがあります。助手席乗員に、車両走行中は正しい着座姿勢で座るように指示してください。

i 情報

- 助手席に誰も座っていない場合、シートベルト警告灯は 6 秒間点滅または点灯します。
- 助手席にラゲッジを置いているときに助手席のシートベルト警告が作動する場合があります。

後席のシートベルト警告



左右後席の場合

- 後席のシートベルト警告灯が毎回約 6 秒間点灯します。
- 後席乗員が、20 km/h 未満で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、シートベルトを締めるまで対応する警告灯が点灯します。
- 後席乗員が、20 km/h 以上で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、シートベルト警告チャイムが 35 秒間鳴り、対応する警告灯が点滅します。

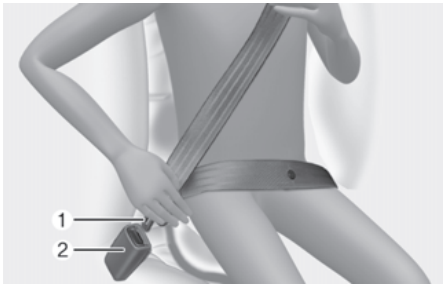
中央後席の場合

- 後席のシートベルト警告灯が毎回約 6 秒間点灯します。
- EV START STOP ボタンを ON にしたときに後席乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告灯が約 70 秒間点灯します。
- 後席乗員が、20 km/h 未満で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、約 70 秒間対応する警告灯が点灯します。
- 後席乗員が、20 km/h 以上で走行中にシートベルトを締めずにいたり、シートベルトを外したりすると、シートベルト警告チャイムが 35 秒間鳴り、対応する警告灯が点滅します。
- 後席ドアを 10km/h 以下で開閉した場合、20km/h 以上で走行してもシートベルト警告チャイムと対応する警告灯は作動しません。

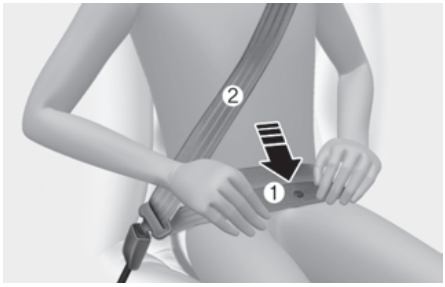
シートベルトレストレイントシステム

ラップ／ショルダーベルト

シートベルトを着用するには、次の手順を実行します。



シートベルトをリトラクターから引き出し、タング(1)をバックル(2)に差し込みます。タングがバックルでロックされると、「カチッ」と音がします。シートベルトにねじれがないことを確認してください。



シートベルトのラップベルト(1)を腰骨に、ショルダーベルト(2)を胸部にかけます。

ラップベルト部が腰骨に密着するように手動で調節すると、シートベルト全体が自動的に適切な長さに調節されます。身体をゆっくり前に傾けると、その動きに合わせてベルトが伸びます。

急停車するか衝撃があれば、ベルトは所定の位置でロックされます。身体を前に傾ける速度が速すぎる場合も、ロックがかかります。

知識

シートベルトをリトラクターからスムーズに引き出せない場合は、一度強く引いてから手を離してください。これでスムーズに引き出せるようになります。

⚠ 警告

シートベルトの位置が正しくない場合、事故の際に重大な傷害を受ける危険性が高くなります。シートベルトを調節するときは次の点を守ってください。

- ラップベルト部は、腰のくびれ部分ではなく、腰骨のできるだけ低い位置に密着するようにかけてください。これにより衝突時に発生する力が丈夫な骨盤骨で吸収され、内臓損傷を負う可能性が低くなります。
- 図に示すように、片方の腕がショルダーベルトの下に、もう片方の腕がショルダーベルトの上に来るようにしてください。
- ショルダーベルトアンカーが必ず適切な高さでロックされるようにしてください。
- ショルダーベルトが首や顔にかからないようにしてください。

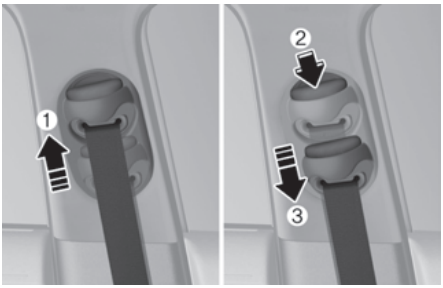
高さの調節

ショルダーベルトの高さは、首ではなく、胸部とドア側の肩にかかるように調節します。

シートベルトアンカーの高さを調整するには

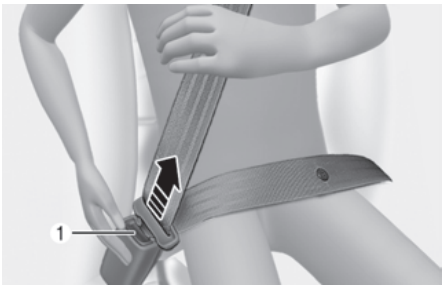
- アンカーを引き上げて（1）、高くします。高さを下げるときは、アジャスターボタン（2）を押しながら下（3）に動かします。ボタンを離すと、アンカーがその位置でロックされます。アジャスターをスライドさせてみて、しっかりロックされていることを確認します。

前席



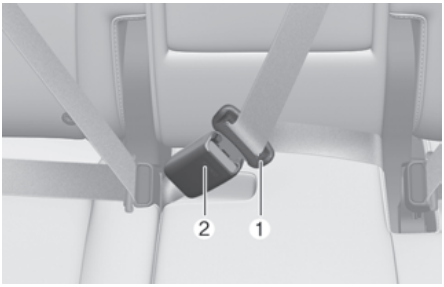
シートベルトを外すには、次の手順を実行します。

バックルの解除ボタン(1)を押します。



外したシートベルトは、自動的にリトラクターに巻き取られます。巻き取りがうまくいかない場合は、ベルトにねじれがないか確認し、再度試してください。

リアセンターシートベルト（3 点式リアセンターシートベルト）



タング(1)をバックル(2)に、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。ベルトの肩部分を引いて、ベルトが腰にフィットするようにたるみを取ります。シートベルトにねじれがないことを確認してください。

リアセンターシートベルトには、「CENTER」マークの付いたバックルを使用してください。

i 情報

シートベルトをリトラクターから引き出せない場合は、一度強く引いてから手を離してください。これで、シートベルトをスムーズに引き出せます。

プリテンショナーシートベルト



本車両の運転席、助手席、および後席には、プリテンショナーシートベルト(リトラクタープリテンショナー)が装備されています。プリテンショナーは、特定の正面衝突または側面衝突の際に、シートベルトで乗員の身体をしっかりと固定する機構です。プリテンショナーシートベルトは、激しい正面衝突または側面衝突が発生した際に、エアバッグとともに作動します。

車両が急停車した場合、または乗員が勢いよく身体を前に傾けた場合、シートベルトリトラクターはその位置でロックされます。

一部の正面衝突ではプリテンショナーが作動してシートベルトが身体に密着するように引き込みます。

プリテンショナーシステムが有効になっているときに、運転席または助手席シートベルトに過度の張力がかかっていることをシステムが検知すると、リトラクタープリテンショナー内のロードリミッターが、シートベルトにかかっている張力の一部を解放します。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡事故を防ぐために、以下の点を守ってください。

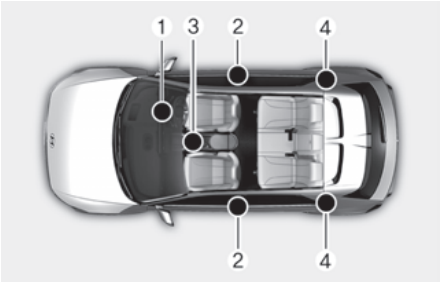
- 必ずシートベルトを着用し、シートの正しい位置に座ってください。
- シートベルトをたるんだまま、またはねじれたまま使用しないでください。
- バックルの近くに物を置かないでください。
- プリテンショナーの作動後または事故の後には、必ずプリテンショナーを交換してください。
- プリテンショナーの点検、保守、修理、または交換を自身で行うことは絶対にしないでください。プリテンショナーの点検、修理、または交換は弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。
- シートベルトアセンブリーをたたかないでください。

⚠ 警告

作動後の数分間は、プリテンショナーシートベルトアセンブリーに触れないでください。衝突時にプリテンショナーシートベルト機構が作動すると、プリテンショナーが高温になりやけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

車両前部の車体修理を行う際に、プリテンショナーシートベルトシステムが損傷するおそれがあります。損傷を避けるため、システムの点検修理は弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。



プリテンショナーシートベルトは、主に次のコンポーネントで構成されています。上の図は各コンポーネントの位置を示しています。

(1) SRS エアバッグ警告灯
(2) リトラクタープリテンショナー（フロント）
(3) SRS 制御モジュール
(4) リトラクタープリテンショナー（リア）

知識

SRS制御モジュールを作動させるセンサーは、プリテンショナーシートベルトに接続されています。インストルメントクラスターのSRSエアバッグ警告灯は、EV START/STOPボタンがON位置になってから約3～6秒間点灯し、その後消灯します。

プリテンショナーが正常に動作していない場合、SRSエアバッグに異常がなくても警告灯が点灯します。始動時に警告灯が点灯しなかったり、点灯したまま消灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯した場合は、できるだけ早くプリテンショナーシートベルトとSRS制御モジュールの点検を弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

- プリテンショナーシートベルトは、特定の正面衝突、側面衝突、転覆時に作動することがあります。
- プリテンショナーシートベルトが作動すると、車内で大きな音が聞こえたり、煙のような粉塵が見えたりする場合があります。これは正常な現象です。
- この粉塵は無毒ですが、皮膚の炎症の原因となる場合があります。また、長時間吸い込まないようにしてください。事故でプリテンショナーシートベルトが作動した場合は、肌の露出部分をしっかり洗ってください。

シートベルトの追加の安全上の注意事項

妊娠中のシートベルトの使用

妊娠中の方は必ずシートベルトを着用してください。常時シートベルトを着用して自分を守ることが、胎児を守るための最善の方法です。

妊娠中の方は、必ずラップ／ショルダーベルトを着用してください。ショルダーベルトは胸部の中央を通るようにかけ、首から離してください。ラップベルトは腹部ではなく腰骨の上を通るようににかけ、肩の部分を引っ張ってぴったりと密着させます。

⚠ 警告

- 妊娠中の方は、急ブレーキや衝突事故の際に腹部に衝撃を受けやすくなります。妊娠中に事故に遭った場合は、医師に相談してください。
- 事故の際に、生まれてくる子供に対して、重大な傷害を負うか、死に至るリスクを低下させるために、妊娠中の方は決して、生まれてくる子供の位置する腹部の範囲よりも上か、その上にシートベルトのひざ部分を掛けてはいけません。

お子さまのシートベルトの使用

乳幼児

ほとんどの国では、お子さまを車に乗せる際には、認可されたチャイルドシート（ブースターシートも含む）を使用することが法律で義務付けられています。チャイルドシートの代わりにシートベルトを使用できるようになる年齢は国によって異なるため、お住まいの国および渡航先ごとの要件を確認してください。チャイルドシートは後席に正しく取り付けてください。

詳細については、本章の「安全上の注意事項」を参照してください。

⚠ 警告

乳幼児は、身長や体重に合ったチャイルドシートでしっかり拘束してください。

お子さまや他の乗員が重大な傷害を受けたり死亡したりする危険性を減らすために、走行中は、絶対にお子さまをひざの上に乗せたり抱いたりしないでください。事故の際に激しい力が加わり、お子さまが車内に投げ出されるおそれがあります。

事故の際に小さなお子さまをけがから守る最善の方法は、お住まいの国の安全基準を満たすチャイルドシートを後席に設置して、お子さまをしっかり拘束することです。チャイルドシートを購入する際は、お住まいの国の安全基準を満たしていることを示す認定ラベルが付けられていることを確認してください。

お子さまの身長と体重に合ったチャイルドシートを使用してください。この情報については、チャイルドシートに表示されているラベルを確認してください。本章の「チャイルドシート（CRS）チャイルドシート（CRS）」を参照してください。

大きなお子さま

13歳未満で、ブースターシートを使用するには大きいお子さまは、使用可能なラップ／ショルダーベルトを使用して後席に座ってください。シートベルトでお子さまを安全に拘束するためには、腰部、肩、胸部にぴったりとフィットしている必要があります。お子さまが体を動かすとベルトの位置がずれてしまう場合があります。保護者がベルトのかかり具合を頻繁に確認してください。事故の際に、お子さまにとって最も安全な後席で、お子さまに適したチャイルドシートを使用してください。

13歳以上のお子さまを助手席に乗せる場合は、使用可能なシートベルトでしっかり拘束し、シートを一番後ろの位置に調節してください。

ショルダーベルト部分がお子さまの首や顔に触れる場合は、車両の中央寄りにお子さまを座らせてください。それでも改善しない場合は、後席のブースターシートに座らせる必要があります。

⚠ 警告

- 大きなお子さまがシートベルトが着用し、シートベルトが正しく調節されていることを必ず確認してください。
- 絶対にショルダーベルトがお子さまの首や顔に触れないようにしてください。
- 複数のお子さまが１つのシートベルトを使用しないようにしてください。

けがをされている方のシートベルトの使用

けがをされている方を乗せるときにも、シートベルトを使用してください。具体的な推奨事項については、医師に相談してください。

１人につき１つのベルトを使用する

2人（お子さまを含む）で、1つのシートベルトを使用しないでください。事故の際にけがの程度が重くなるおそれがあります。

横にならない

走行中にシートバックを倒した状態で座るのは危険です。シートバックを倒すと、シートベルトを着用している場合でも、レストレイントシステム（シートベルトやエアバッグ）による保護性能は大幅に低下します。

シートベルトを正しく機能させるには、腰骨と胸部に密着させる必要があります。

事故の際に乗員の身体がシートベルトに向かって投げ出され、首などをけがするおそれがあります。

シートバックを大きく倒すほど、乗員の腰がラップベルトの下に入り込んだり、首がショルダーベルトに直撃したりする可能性が高くなります。

⚠ 警告

- 走行中は絶対にシートバックを倒した状態で座らないでください。
- シートバックを倒した状態で座ると、衝突や急停車の際に重大な傷害や死亡につながる可能性が高くなります。
- 運転者と乗員は、常にシートバックを立てた状態でシートに深く座り、身体をしっかりシートベルト固定してください。

シートベルトの手入れ

シートベルトシステムの分解や改造はしないでください。

定期点検

すべてのシートベルトを定期的に点検し、摩耗や損傷がないか確認してください。損傷部分はできるだけ早く交換してください。

ベルトを常に清潔で乾燥した状態に保つ

シートベルトは常に清潔で乾燥した状態に保ってください。ベルトが汚れた場合は、中性洗剤とぬるま湯できれいにしてください。漂白剤、染色液、強力な洗剤、または研磨剤は使用しないでください。ベルトの繊維が傷つき強度が低下するおそれがあります。

シートベルトの交換

車両が事故にあった場合、シートベルトアセンブリーの全体、または個別のアセンブリーを交換してください。目に見える損傷がない場合でも、必ず交換してください。ご不明な点等ございましたら、弊社認定修理業者にご相談いただくことを推奨します。

チャイルドシート（CRS）

弊社の推奨：お子さまは必ず後席に乗せる

⚠ 警告

必ずお子さまを車内でしっかりと着席させてください。お子さまの年齢にかかわらず、後席に着席させることで安全性が向上します。エアバッグが無効になっていない限り、チャイルドシートを後ろ向きで助手席に取り付けないでください。

小さなお子さまは、衝突、急停車、急ハンドル時にけがを負う危険性を最小限に抑えるため、必ず後席に座らせてしっかり固定してください。

事故統計によると、お子さまを前席よりも後席でしっかりと着席させるほうが安全です。チャイルドシートが使用できない場合には、車両に備え付けのシートベルトを必ず使用してください。

ほとんどの国では、子供を乗せて運転する際には認可されたチャイルドシートを使用することが義務付けられています。

チャイルドシートの代わりにシートベルトを使用できる年齢、身長、体重に関する法律は国によって異なるため、渡航先の個別の要件を確認してください。

チャイルドシートは車両のシートに正しく取り付けてください。お住まいの国の安全基準の要件を満たした市販のチャイルドシートを使用してください。

一般的なチャイルドシートは、シートベルト、トップテザー、ISOFIXアンカーなどを使い、車両の後席に固定するように設計されています。

チャイルドシート

乳幼児は、車両のシートに正しく固定された、後ろ向きまたは前向きの適切なチャイルドシートで固定してください。チャイルドシートの取り付けと使用については、チャイルドシートの取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告

正しく固定されていないチャイルドシートを使用しないでください。衝突時に重大な傷害を負ったり死亡に至る危険性が高くなります。チャイルドシートを使用するときは、以下の内容にご注意ください。

- チャイルドシートの取り付けと使用については、必ず製造業者が提供する取扱説明書に従ってください。
- お子さまは必ずチャイルドシートでしっかり着席させてください。
- シートバックに「かける」タイプの乳幼児用キャリアやチャイルドシートは使用しないでください。事故時にお子さまが適切に保護されない恐れがあります。
- 事故後は、弊社認定修理業者にチャイルドシート、シートベルト、ISOFIXアンカー、トップテザーアンカーの点検をご依頼いただくことを推奨します。

チャイルドシート（CRS）の選択

チャイルドシートを選ぶときは、次の点に注意してください。

- チャイルドシートに、お住まいの国の安全基準を満たしていることを示す認定ラベルが表示されていることを確認してください。

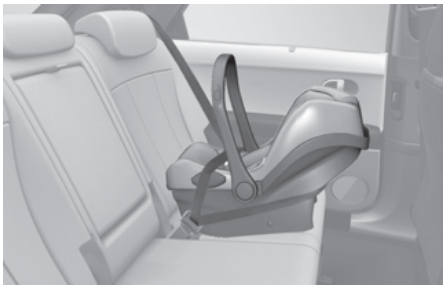
  ECE-R44 または ECE-R129 の要件に適合し、認可を受けているチャイルドシートのみを取り付けてください。
- お子さまの身長と体重に合ったチャイルドシートを選んでください。この情報は通常、認定ラベルまたは取扱説明書に記載されています。
- 車両のシートのサイズに合ったチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付けと使用については、取扱説明書および警告に従ってください。

チャイルドシートの種類

チャイルドシートには、大きく分けて「後ろ向き」、「前向き」、「ブースターシート」の3つの種類があります。

これらの種類はお子さまの年齢、身長、体重に応じた分類です。

後ろ向きチャイルドシート



後向きチャイルドシートでは、衝突時の力をお子さまの体ではなくシェルで吸収します。シェルはまた、システムのクレードルを支え、お子さまの頭、首、背骨を保護します。1歳未満のすべてのお子さまには、必ず後ろ向きのチャイルドシートを使用してください。コンバーチブルチャイルドシートおよび3イン1チャイルドシートは、後ろ向きで使用する場合の身長および体重制限が一般的に高く設定されているため、長期間にわたってお子さまを後ろ向きで座らせることができます。

お子さまの身長と体重がチャイルドシートの製造業者が指定した制限値を超えるまでは、チャイルドシートを後ろ向きで使用してください。これがお子さまの安全を守る最善の方法です。お子さまが成長し、後ろ向きチャイルドシートが小さくなったら、ハーネス付きの前向きチャイルドシートを使います。

前向きチャイルドシート



前向きチャイルドシートは、お子さまの身体をハーネスで固定します。お子さまの身長と体重がチャイルドシートの製造業者が指定した上限に達するまでは、ハーネスを使用した前向きチャイルドシートに着席させてください。

お子さまの身長と体重が前向きチャイルドシートの制限を超えたら、ブースターシートを使用してください。

ブースターシート

ブースターシートは、車両のシートベルトの密着度を高めるように設計されたチャイルドシートです。ブースターシートを使用することで、シートベルトがお子さまの体の比較的丈夫な部分にかかるように配置できます。お子さまが大きくなりシートベルトを身体に密着させて使用できるようになるまでは、お子さまをブースターシートに座らせてください。

シートベルトを正しく装着するためには、ラップベルトが腹部ではなく太ももの上部にかかるようにします。ショルダーベルトは肩と胸にかかるようにし、首や顔にかからないようにしてください。13歳未満のお子さまは、事故、急停車、急ハンドル時にけがを負う危険性を最小限に抑えるため、必ずしっかりと固定してください。

チャイルドシートの取り付け

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付ける前に、必ずチャイルドシートの取扱説明書を読み、記載内容に従ってください。

衝突事故発生時の重大な傷害や死亡事故を防ぐため、チャイルドシートと車両の取扱説明書を参照してください。

⚠ 警告

車両のヘッドレストがチャイルドシートの正しい取り付け(チャイルドシートの取扱説明書に記載されています)の妨げになる場合、そのシートのヘッドレストを調節するか完全に取り外してください。

お子さまに合ったチャイルドシートを選び、設置するシートにフィットすることを確認したら、正しく取り付けるために次の3つの手順を実行します。

- **チャイルドシートを車両にしっかり固定する。**すべてのチャイルドシートは、ラップ / ショルダーベルト、ISOFIX トップテザー、ISOFIX アンカー、サポートレッグなどを使用して車両に固定してください。
- **チャイルドシートがしっかり固定されていることを確認する。**チャイルドシートを車両に取り付けたら、シートを前後左右に押したり引いたりして、シートにしっかりと固定されていることを確認します。シートベルト固定式のチャイルドシートは、できるだけしっかりと取り付けてください。ある程度の左右に動きは問題ありません。
- **お子さまをチャイルドシートに固定する。**チャイルドシートの取扱説明書に従って、お子さまをチャイルドシートに正しく固定します。

⚠ 注意

やけどをしないように、お子さまをチャイルドシートに座らせる前に座面とバックルが熱くなっていないか確認します。閉め切った車内では、チャイルドシートがかなり高温になる場合があります。

国連規則に基づくベルト式および ISOFIX チャイルドシート（CRS）のシートへの適合性

（車両ユーザーおよびCRS製造業者向けの情報）

- ○ :CRS の指定カテゴリーに適合している。
- x :CRS の指定カテゴリーに適合していない。
- -: 該当なし。
- 表は左ハンドル車両の場合です。この表は、助手席を除き右ハンドル車両でも有効です。右ハンドル車両の助手席については、シート位置番号 3 の情報を使用してください。

CRS カテゴリー		シート位置					
		1、2	3		4	5	6
			エアバッグ ON	エアバッグ OFF			
汎用ベルト式CRS	すべてのグループ	-	×	○*1 (F、R)	○ (F、R)	○ (F、R)	○ (F、R)
i-size CRS	ISOFIX CRF :F2、F2X、R1、R2	-	×	×	○ (F、R)	×	○ (F、R)
キャリーコット（ISOFIX横向きCRS）	ISOFIX CRF :L1、L2	-	×	×	×	×	×
ISOFIX乳児(infant)用* CRS (*:ISOFIX乳児用CRS)	ISOFIX CRF :R1	-	×	×	○ (R)	×	○ (R)
ISOFIX幼児用CRS - 小	ISOFIX CRF :F2、F2X、R2、R2X	-	×	×	○ (F、R)	×	○ (F、R)
ISOFIX幼児用CRS – 大型* (*：ブースターシートではありません)	ISOFIX CRF :F3、R3	-	×	×	○ (F、R)	×	○ (F、R)
ブースターシート - 幅狭サイズ	ISO CRF:B2	-	×	×	○	×	○
ブースターシート - 通常サイズ	ISO CRF:B3	-	×	×	○	×	○

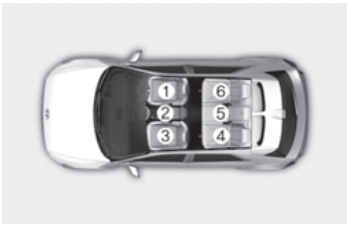
*1: 汎用ベルト式 CRS を取り付けるには、最前席のシートを安定した取り付けの妨げにならない適切な位置に調整する必要があります。（可能な高さまたは直立位置に調整する）

i 情報

F:前向き(Forward facing)、R:後ろ向き(Rearward facing)

i 情報

- ヘッドレストがチャイルドシートの正しい取り付けの妨げになる場合は、シート位置のヘッドレストを調節するか、完全に取り外してください。
- エアバッグが無効になっていない限り、チャイルドシートを後ろ向きで助手席に取り付けないでください。

シート番号	車両内の位置	シート位置
1	前部右側	
2	前部中央	
3	前部左側	
4	2列目左側	
5	2列目中央	
6	2列目右側	

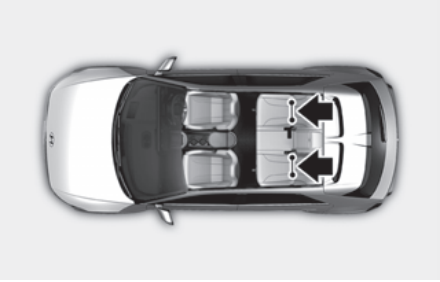
お子さま用 ISOFIX アンカーおよびトップテザーアンカー（ISOFIX アンカーシステム）

ISOFIXシステムは、走行中や衝突時にチャイルドシートを固定します。このシステムにより、チャイルドシートの取り付けが簡単になり、誤って取り付ける可能性が少なくなります。ISOFIXシステムは、車両のアンカーとチャイルドシートのアタッチメントを使用します。従って、チャイルドシートを後席に固定するためにシートベルトを使用する必要がなくなります。

ISOFIXアンカーとは、車両に装備されている金具です。ISOFIX対応シートには2つのロアアンカーがあり、チャイルドシートの下部アタッチメントを取り付けることができます。

ISOFIXシステムを使用するには、ISOFIXアタッチメントを備えたチャイルドシートを備える必要があります。(安全基準ECE-R44またはECE-R129の要件に適合し、認可を受けているISOFIXチャイルドシートのみを取り付けることができます)

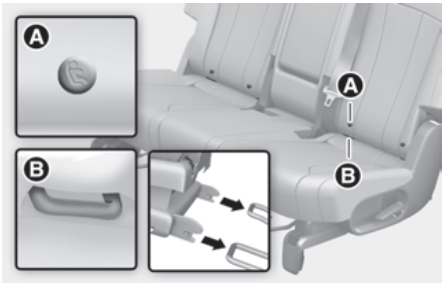
ISOFIXアンカー対応アタッチメントが付いたチャイルドシートの使用方法については、製造業者の取扱説明書を参照してください。



ISOFIXアンカーは、後席左右シートに装備されています。上の図はその位置を示しています。後席中央にはISOFIXアンカーがありません。

⚠ 警告

ISOFIXアンカーを使用して、中央後席にチャイルドシートを取り付けようとしないでください。中央後席にはISOFIXアンカーが装備されていません。中央シートに左右のシート用アンカーを使用して取り付けないでください。アンカーが損傷し、衝突時に破損または故障して重大な傷害や死亡事故が発生するおそれがあります。



[A] ISOFIX アンカー位置インジケーター（）
[B] ISOFIX アンカー

後席左右シートのシートバックにあるISOFIXアンカー位置記号は、車両のロアアンカーの位置を示します。

後席左右両方のシートには、ISOFIXアンカー2つと、対応するトップテザーアンカーが後席の後ろ側に用意されています。

(ECE-R44またはECE-R129によるユニバーサル認可を受けたチャイルドシートの場合、さらに後席の後ろ側に接続されたトップテザーを使用して固定する必要があります)

ISOFIXアンカーは、左右後席シートバック位置のシートバックとシートクッションの間にあります。

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付ける前に、ISOFIXアンカーの近くにおもちゃ、ペン、ケーブルなどの物がないことを確認してください。取り付け時にシートベルトやチャイルドシートを損傷するおそれがあります。必要な場合には、弊社認定修理業者に点検をご依頼いただくことを推奨します。

ISOFIX アンカーシステムを使用したチャイルドシートの固定

i-SizeまたはISOFIX対応チャイルドシートを後席左右シートのいずれかに取り付けるには

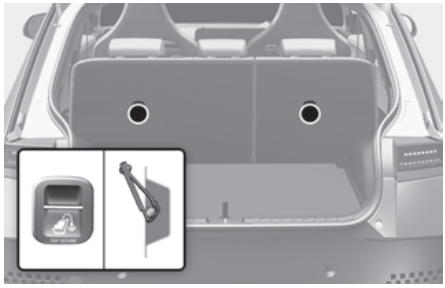
1. シートベルトバックルを ISOFIX アンカーから遠ざけます。
2. その他、チャイルドシートと ISOFIX アンカーをしっかり接続するのに邪魔になるものがあればアンカーの周りから取り除きます。
3. チャイルドシートを車両のシートの上に置き、取扱説明書に従ってチャイルドシートを ISOFIX アンカーに取り付けます。
4. チャイルドシートの ISOFIX アタッチメントを ISOFIX アンカーに正しく取り付ける方法については、チャイルドシートの取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告

ISOFIXシステムを使用するときは次の点を守ってください。

- チャイルドシートの取扱説明書に従ってください。
- お子さまがシートベルトに手を伸ばしてつかまないように、使用していない後席のシートベルトはすべてバックルに差し込み、ベルト部分はお子さまの後ろに格納してください。ショルダーベルトが首に巻き付きシートベルトが締まると、お子さまが窒息するおそれがあります。
- 絶対に複数のチャイルドシートを１つのアンカーに取り付けないでください。アンカーやアタッチメントが緩んだり、損傷したりするおそれがあります。
- 事故の後は、必ず ISOFIX システムを弊社認定修理業者に点検をご依頼いただくことを推奨します。事故により ISOFIX システムが損傷し、チャイルドシートをしっかり固定できないおそれがあります。

トップテザーアンカーシステムを使用したチャイルドシートの固定



最初にISOFIXアンカーまたはシートベルトでチャイルドシートを固定します。チャイルドシートの製造業者がトップテザーストラップの取り付けを推奨している場合は、トップテザーストラップをトップテザーストラップアンカーに取り付けて締め付けます。

トップテザーアンカーは、シートバックの背面にあります。



トップテザーアンカーの取り付け

1. チャイルドシートのトップテザーストラップをシートバックの上に通します。テザーストラップをヘッドレストの下とヘッドレストの支柱の間に通すか、トップテザーストラップを車両のシートバックの上部に通します。ストラップがねじれていないことを確認してください。
2. トップテザーストラップのフックをトップテザーアンカーに接続し、チャイルドシートの取扱説明書に従ってトップテザーストラップを締め、チャイルドシートをしっかりと固定します。
3. チャイルドシートを前後左右に押したり引いたりして、しっかりと固定されていることを確認します。

⚠ 警告

トップテザーアンカーを取り付けるときは次の点を守ってください。

- チャイルドシートの取扱説明書に従ってください。
- 絶対に複数のチャイルドシートを1つの ISOFIX トップテザーアンカーに取り付けないでください。アンカレッジまたはアタッチメントがゆるんだり、損傷したりするおそれがあります。
- トップテザーストラップは、そのシートのトップテザーアンカーにのみ取り付けてください。
- チャイルドシートのアンカーは、正しく取り付けられたチャイルドシートの負荷にのみ耐えるように設計されています。

  いかなる場合でも、アンカーを大人用のシートベルトやハーネスに使用したり、その他の道具や器具を車両に取り付けるために使用したりしないでください。

ラップ / ショルダーベルトを使用したチャイルドシートの固定

ISOFIXを使用しない場合は、ラップ/ショルダーベルトを使用してチャイルドシートを後席に固定してください。



ラップ / ショルダーベルトを使用したチャイルドシートの取り付け

チャイルドシートを後席に取り付けるには、次の手順を実行してください。

1. チャイルドシートを後席に置き、チャイルドシートの取扱説明書に従ってラップ / ショルダーベルトをチャイルドシートの周り、または中に通します。シートベルトウェビングにねじれがないことを確認してください。
2. ラップ / ショルダーベルトのラッチをバックルに差し込みます。「カチッ」という音がはっきり聞こえることを確認してください。



i 情報

緊急時に押しやすい位置に解除ボタンを配置してください。

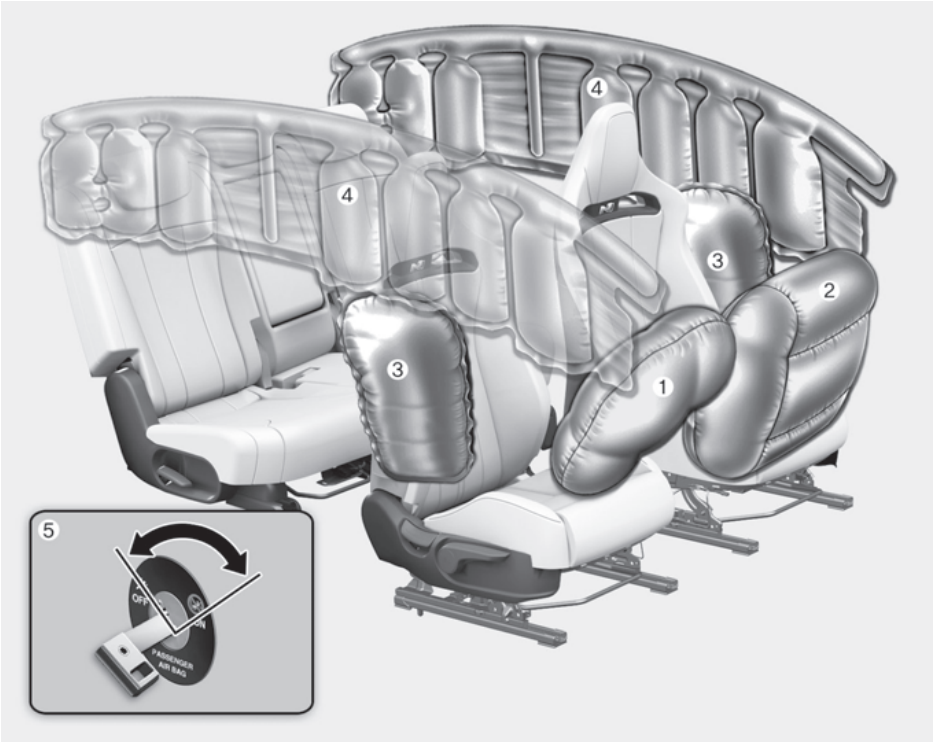
3. ショルダーベルトをリトラクターに戻しながら、チャイルドシートを押し下げてベルトからたるみをできるだけ取り除きます。
4. チャイルドシートを押したり引いたりして、シートベルトでチャイルドシートがしっかり固定されていることを確認します。



チャイルドシートの製造業者がラップ/ショルダーベルトと一緒にトップテザーを使用することを推奨している場合は、「トップテザーアンカーシステムを使用したチャイルドシートの固定トップテザーアンカーシステムを使用したチャイルドシートの固定」の詳細を参照してください。

チャイルドシートを取り外すには、バックルの解除ボタンを押してから、シートベルトをチャイルドシートから引き抜いて、シートベルトを完全に格納します。

エアバッグ - 補助拘束装置



車両に実際に装備されているエアバッグは、イラストと異なる場合があります。

(1) 運転席エアバッグ
(2) 助手席エアバッグ
(3) サイドエアバッグ
(4) カーテンエアバッグ
(5) 助手席フロントエアバッグON/OFFスイッチ

運転席と助手席には、補助エアバッグシステムが装備されています。

前席のエアバッグは、3点式シートベルトを補助するように設計されています。エアバッグが保護機能を発揮するためには、運転中は必ずシートベルトを正しく着用する必要があります。

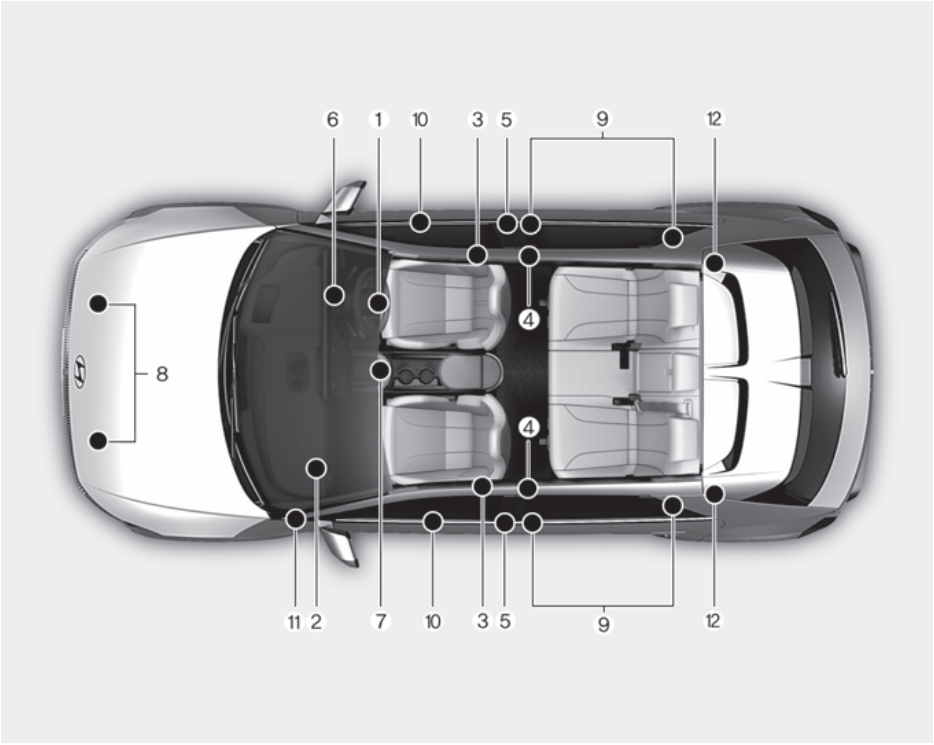
事故の際にシートベルトを着用していない場合、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。エアバッグはシートベルトを補助するためのものであり、シートベルトの代わりにはなりません。また、衝突の程度によってはエアバッグが展開しない場合もあります。そのため一部の事故では、シートベルトだけが乗員を保護する拘束装置として機能します。

⚠ 警告

エアバッグの安全上の注意事項

- 走行時は、常に全員がシートベルトおよびチャイルドシートを装着してください。エアバッグが作動しても、エアバッグの展開時にシートベルトの着用が不適切である場合、またはシートベルトを着用していない場合、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。
- エアバッグが有効になっている間は、決して助手席にチャイルドシートやブースターシートを取り付けてお子さまを座らせないでください。エアバッグが展開してお子さまに強く当たり、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。
- 13 歳未満のお子さまは常に後席に座らせます。お子さまの年齢にかかわらず、後席が最も安全な乗車位置です。13 歳以上のお子さまを前席に座らせる必要がある場合は、身体をシートベルトでしっかり固定し、できるだけシートを後ろに移動してください。
- 停車して車両の電源を切るまでは、すべての乗員がシートバックを直立の位置にしてまっすぐな姿勢をとり、シートベルトを着用して、脚をフロアに楽に伸ばした状態で、シートクッションの中央に座るようにしてください。事故の際に乗員が所定の位置に座っていない場合、エアバッグが急激に展開したときに乗員に強く当たり、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。
- エアバッグに不必要に近い位置に座ったり寄りかかったりしないでください。また、ドアやセンターコンソールに寄りかからないでください。
- 車両の制御に支障のない範囲で、シートをできるだけフロントエアバッグから遠い位置に動かしてください。

SRS コンポーネント



SRSは次のコンポーネントで構成されています。
(1) 運転席エアバッグモジュール
(2) 助手席エアバッグモジュール
(3) サイドエアバッグモジュール
(4) カーテンエアバッグモジュール
(5) フロントリトラクタープリテンショナー
(6) エアバッグ警告灯
(7) SRS制御モジュール(SRSCM)/ロールオーバーセンサー
(8) フロントインパクトセンサー
(9) サイドインパクトセンサー(加速度)
(10)サイドインパクトセンサー(圧力)

(11)助手席フロントエアバッグON/OFFスイッチ
(12)リアリトラクタープリテンショナー

i 情報

助手席エアバッグON/OFFインジケーターはダッシュボード中央上部にあります。

エアバッグの場所

運転席および助手席のエアバッグ

運転席エアバッグ



助手席エアバッグ



SRSは、ステアリングホイールの中央と、助手席のグローブボックスの上にあるフロントパネルパッドに配置されたエアバッグで構成されます。

エアバックの位置は「AIRBAG」と加工された文字で示されます。

SRSの役割は、一定以上の衝撃を伴う正面衝突が発生した際に、シートベルトシステムでは足りない補助的な保護機能を運転者と助手席の乗員に提供することです。

⚠ 警告

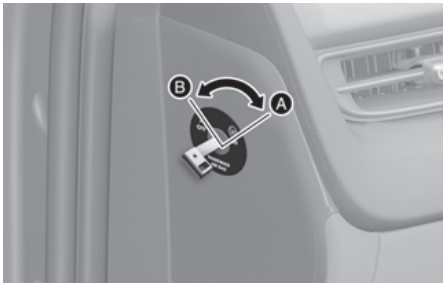
エアバッグの展開による重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、次の点を守ってください。

- 必ずにシートベルトを着用し、シートの正しい位置に身体が固定されるようにしてください。
- 車両の制御に支障のない範囲で、シートをできるだけフロントエアバッグから遠い位置に動かしてください。
- ドアやセンターコンソールに寄りかからないでください。
- 手や腕のけがの危険性を最小限に抑えるため、ステアリングホイールは 9 時と 3 時の位置で握ってください。
- 助手席の乗員がダッシュボードに足を乗せないようにしてください。
- ステアリングホイール、インストルメントパネル、フロントガラス、助手席グローブボックス上のパネルに配置されているエアバッグモジュールの上や近くには、絶対に物（ダッシュボードカバー、携帯電話ホルダー、カップホルダー、芳香剤、ステッカーなど）を置いたり、貼ったりしないでください。激しい衝突によりエアバッグが展開した場合に非常に危険です。
- フロントガラスおよびルームミラーには、物を取り付けないでください。

助手席エアバッグ ON/OFF スイッチ

このスイッチは、助手席エアバッグを無効にすることで、助手席乗員の年齢、体格、健康状態に応じて、エアバッグの展開によるけがや死亡の危険を軽減するためのものです。

助手席エアバッグを無効にする



[A] 助手席エアバッグ ON
[B] 助手席エアバッグ OFF



キーなど硬い器具を助手席エアバッグON/OFFスイッチに差し込み、OFFの位置[B]まで回します。助手席エアバッグOFF(🚫)インジケーターが点灯し、助手席エアバッグが再度有効になるまで点灯したままになります。

助手席エアバッグを有効にする



キーなど硬い器具を助手席エアバッグON/OFFスイッチに差し込み、ONの位置[A]まで回します。助手席エアバッグON(🚫)インジケーターが点灯します。

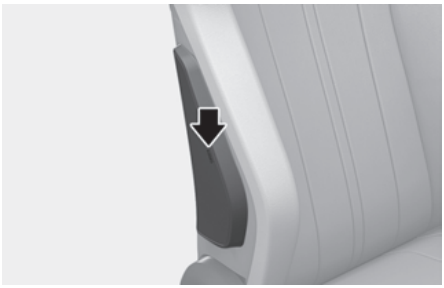
i 情報

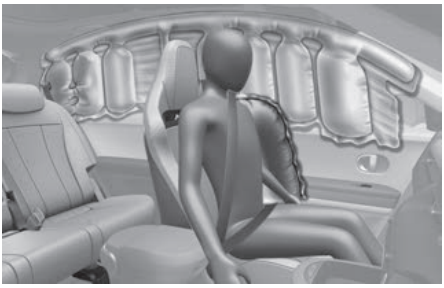
助手席エアバッグON/OFFインジケーターは、EV START/STOPボタンをONの位置にしてから約4秒間点灯します。車両の電源をOFFにしてから3分以内にEV START/STOPボタンをONの位置にした場合、インジケーターは点灯しません。

⚠ 警告

助手席エアバッグOFFインジケーターが点灯している時は、大人の乗客が助手席に座らせないでください。インジケーターが点灯している場合、衝突時にエアバッグは展開しません。助手席エアバッグをオンにするか、同乗者を後席に乗せてください。

サイドエアバッグ





サイドエアバッグは運転席側と助手席側の両方にあります。

サイドエアバッグは、側面衝突の際に、衝突の程度が一定の条件を満たした場合に展開します。

ロールオーバーセンサーが装備されている場合、横転(またはその可能性)を検知すると、サイドエアバッグとカーテンエアバッグのいずれかまたは両方、および車両両側のプリテンショナーが展開します。

サイドエアバッグは、側面衝突や転覆の状況によっては展開しないこともあります。

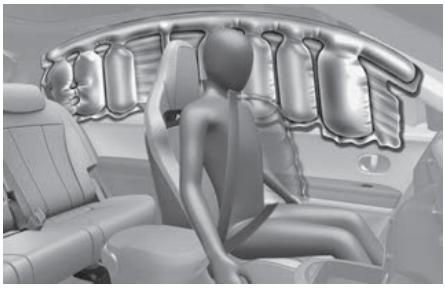
⚠ 警告

サイドエアバッグの展開による重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、以下の点を守ってください。

- 必ずにシートベルトを着用し、シートの正しい位置に身体が固定されるようにしてください。
- 乗員が頭や身体をドアにもたせかけたり、腕をドアに乗せたり、ウィンドウから腕を出したり、ドアとシートの間に物を置いたりしないようにしてください。
- シートカバーにアクセサリーを取り付けないでください。システムの有効性が損なわれるおそれがあります。
- 衣服以外の物を掛けないでください。事故の際、特にエアバッグが展開したときに、車両の損傷やけがにつながるおそれがあります。
- エアバッグの上、またはエアバッグと身体の間に物を置かないでください。また、ドア、サイドドアガラス、フロントピラー、リアピラーなどの、エアバッグ展開部の周辺に物を取り付けないでください。
- ドアとシートの間に物を置かないでください。サイドエアバッグが展開するときにこれらの物が飛散し、けがをするおそれがあります。
- サイドエアバッグの側面またはその近くにアクセサリーを取り付けないでください。
- EV START/STOP ボタンが ON または START の位置にあるときに、ドアに衝撃を与えないでください。サイドエアバッグが展開する可能性があります。
- シートやシートカバーが破損している場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

カーテンエアバッグ





カーテンエアバッグは、前席ドアと後席ドアの上にあるルーフレールの両側に沿って配置されています。

カーテンエアバッグは、一定以上の側面衝突の際に、前席および左右後席の乗員の頭部を保護します。

カーテンエアバッグは、側面衝突の際に、衝突の程度が一定の条件を満たした場合に展開します。

ロールオーバーセンサーが装備されている場合、横転(またはその可能性)を検知すると、サイドエアバッグとカーテンエアバッグのいずれかまたは両方、および車両両側のプリテンショナーが展開します。

カーテンエアバッグは、側面衝突や横転状況によっては展開しないこともあります。

⚠ 警告

カーテンエアバッグの展開による重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、以下の点を守ってください。

- 必ずにシートベルトを着用し、シートの正しい位置に身体が固定されるようにしてください。
- チャイルドシートはできるだけドアから離れた位置に、しっかり固定してください。
- エアバッグの上にものを置かないでください。また、ドア、サイドドアガラス、フロントピラー、リアピラー、ルーフサイドレールなどのエアバッグ展開部周辺に、物を取り付けないでください。
- エアバッグの近くに、衣服以外の物(特に固い物や壊れやすい物)をかけないでください。事故の際に車両の損傷やけがにつながるおそれがあります。
- 乗員が頭や身体をドアにもたせかけたり、腕をドアに乗せたり、ウィンドウから腕を出したり、ドアとシートの間に物を置いたりしないようにしてください。
- ご自身でサイドカーテンエアバッグを開けたり修理したりしないでください。必要な場合には、弊社認定修理業者にエアバッグの点検をご依頼いただくことを推奨します。

エアバッグシステムの仕組み

補助拘束装置制御モジュール(SRSCM)は、EV START/STOPボタンがONになっている間、すべてのSRSコンポーネントを継続的に監視し、衝突の衝撃がエアバッグまたはプリテンショナーシートベルトの作動を必要とするほど激しいかどうかを判断します。

中程度以上の正面衝突が起こると、センサーは車両の急激な減速を検知します。減速度が一定以上高くなると、SRSCMが必要な衝撃を加えてエアバッグを展開させます。

フロントエアバッグは、シートベルトだけでは運転者と助手席乗員を十分に固定できないような正面衝突の際に作動し、保護機能を補助する役割を果たします。サイドエアバッグは、側面衝突や横転の際に必要に応じて上半身の側面を支えて保護します。

- エアバッグは、EV START/STOP ボタンが ON または START の位置にあるときにのみ作動（必要に応じて展開）し、車両の電源を OFF にしてから 3 分以内は作動する場合があります。
- エアバッグは、一定以上の正面衝突または側面衝突の際に展開し、乗員を重大な傷害から保護する機能を補助します。
- エアバッグが展開する速度は、状況に応じて変わります。一般的に、エアバッグは衝突の程度と方向に基づいて展開します。エアバッグの展開は、車速、衝突の角度、衝突相手の車両や物の密度や剛性など、多くの要素に基づいて決まります。上記以外にも決定要因は複数あります。
- フロントエアバッグは一瞬のうちに完全に展開し、その後すぐにしぼみます。事故の際にエアバッグが展開していく過程を見るのは事実上不可能です。衝突後に、しぼんだエアバッグが収納部から垂れ下がっていることに気づくだけという場合がほとんどです。
- 激しい側面衝突の場合以外にも、ロールオーバーセンサーが装備された車両では、センサーシステムが転覆を検知すると、サイドエアバッグとカーテンエアバッグのいずれかまたは両方が展開します。

  横転を検知すると、乗員が車外へ投げ出されないように、カーテンエアバッグは長い時間展開したままになり、特にシートベルトと併用することで効果が高まります。
- 人体保護のためエアバッグは急速に展開しなければなりません。これは非常に短い時間で膨らむことにより、乗員が車両各部にぶつかることを防ぎ、乗員を保護するためです。エアバッグは急速に展開させることで重大な傷害や命の危険の減少を目指せるため、この様な設計になっています。

  ただし、エアバッグは非常に強い力で急激に展開するため、顔の擦り傷、打撲、骨折などの怪我を負うおそれもあります。
- 特に乗員がエアバッグに近すぎる位置に座っている場合、エアバッグとの接触が致命的な怪我につながるおそれがあります。

⚠ 警告

エアバッグの展開による重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、以下の点を守ってください。

- 絶対にチャイルドシートを助手席に取り付けないでください。13 歳未満のお子さまは必ず正しい姿勢で後席に座らせてください。
- 助手席と運転席の位置は、車両の完全な制御に支障がない範囲で、できるだけ下げてください。
- ステアリングホイールは 9 時と 3 時の位置に手を置いて握ってください。
- エアバッグと乗員の間に絶対に物を置いたり人を乗せたりしないでください。
- 助手席の乗員がダッシュボードに足を乗せないようにしてください。

運転席エアバッグ(1)



SRSCMが車両前部に一定以上の激しい衝撃を検知すると、自動的にエアバッグが展開します。

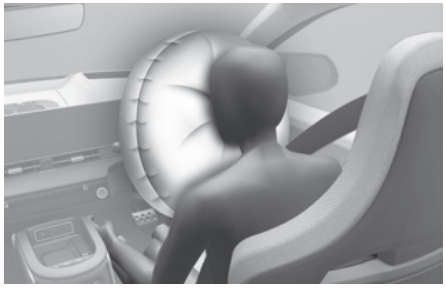
運転席エアバッグ(2)



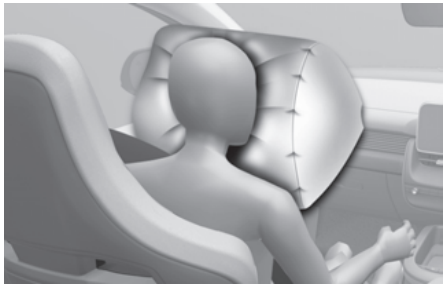
エアバッグが展開することでパッドカバーのティアシームが剥離します。

完全に展開したエアバッグは、適切に装着されたシートベルトと組み合わせて、運転者または助手席の前方への動きを遅くし、頭と胸の怪我のリスクを軽減します。

運転席エアバッグ(3)



助手席エアバッグ（4）



エアバッグは完全に展開した後すぐにしぼむため、運転者は前方の視界を維持したままハンドル操作や他の操作を行うことができます。

⚠ 警告

エアバッグが展開したときに物が飛散してけがをしないように、次の点を守ってください。

- 助手席エアバッグが装備されているグローブボックスの上の助手席パネルには、ドリンクホルダーや CD ホルダーなどを取り付けたり、ステッカーを貼ったりしないでください。
- インストルメントクラスターの近く、またはインストルメントパネルの表面には、液体芳香剤の容器等を取り付けないでください。

エアバッグ展開

フロントエアバッグやサイドエアバッグは、展開後すぐにしぼみます。エアバッグが展開しても、運転者はフロントガラスから外を見たりステアリングを操作したりすることができます。カーテンエアバッグは、展開後もしばらく一部が展開したままになる場合があります。

⚠ 警告

エアバッグの展開後は、次の点を守ってください。

- エアバッグが展開したときに放出される粉塵に長時間さらされないように、衝突後は、できるだけ早くウィンドウとドアを開けてください。
- エアバッグの展開直後は、エアバッグ収納部の内部コンポーネントに触らないでください。エアバッグが展開したときに接触する部分が高温になっているおそれがあります。
- 必ず肌の露出部分を冷水と石けんでしっかり洗ってください。
- エアバッグ展開後は、走行を再開する前に弊社認定修理業者にエアバッグの交換と車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。エアバッグは再使用できません。

エアバッグの展開による騒音と煙

エアバッグが展開すると大きな音がし、車内に粉塵が飛び散る場合があります。エアバッグが展開すると、呼吸時に不快感を感じる場合があります。これは、エアバッグやシートベルトが胸に当たった衝撃による場合であったり、空気中や車両の周囲に残留する粉塵を吸い込んだことによる場合があります。この粉塵により、喘息が悪化するおそれもあります。エアバッグの展開後に呼吸の問題が生じた場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

粉塵自体は無毒ですが、皮膚、目、鼻、のどなどに刺激を与える可能性があります。その場合は、すぐに冷水で洗い流し、症状が持続する場合は医師の診察を受けてください。

チャイルドシートは絶対に助手席には取り付けないでください



エアバッグが無効になっていない限り、絶対にチャイルドシートを助手席に取り付けないでください。

⚠ 警告

エアバッグによる保護が有効なシートでは、絶対にチャイルドシートを後ろ向きで使用しないでください。お子さまの死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS 警告灯



インストルメントパネルのSRS(補足拘束システム)エアバッグ警告灯には、図に示すエアバッグマークが表示されます。横転時の保護(ロールオーバーセンサーを搭載している場合)に使用するサイドエアバッグやカーテンエアバッグを含む、エアバッグシステムの異常を検知した場合に点灯します。

⚠ 警告

SRSが故障していると衝突時にエアバッグが正しく膨らまず、重大な傷害や死亡の危険性が高くなります。

SRSの異常は次のように示されます。

- EV START/STOP スイッチで ON の位置にしたときに、警告灯が約 3 ～ 6 秒間点灯しない。
- 警告灯が約 3 ～ 6 秒間点灯した後も消灯しない。
- 走行中に警告灯が点灯する。
- 走行中に警告灯が点滅する。

できるだけ早く、弊社認定修理業者にエアバッグの点検をご依頼いただくことを推奨します。

エアバッグ展開時の注意

後方からの衝突または多重衝突の2番目、3番目､低速での衝突などではエアバッグ展開のために必要な減速度を車両が検知できずエアバッグが展開しない場合があります。

エアバッグ衝突センサー

⚠ 警告

エアバッグが誤って展開して重大な傷害や死亡につながる危険性を減らすために､次の点を守ってください。

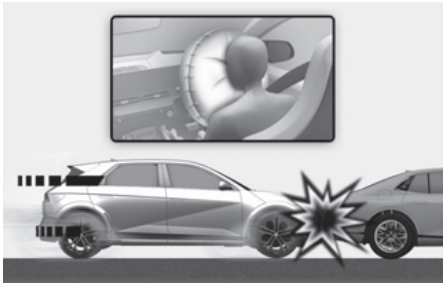
- エアバッグやセンサーが設置されている場所を叩いたり、物が当たったりしないようにしてください。
- エアバッグセンサーやその周辺部分のメンテナンスを行わないでください。センサーの位置や角度が変わると、エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- HYUNDAI 純正品またはその同等品ではないバンパーガードを取り付けた場合、衝突時にエアバッグが正しく展開できないおそれがあります。
- 車両をけん引する前に、エアバッグが意図しない展開を防ぐため、EV START/STOP ボタンを OFF または ACC の位置にしてから 3 分間経過するまで待ってください。
- エアバッグの修理は、必ず弊社認定修理業者で行うことをお勧めします。



(1) SRS制御モジュール/ロールオーバーセンサー
(2) フロントインパクトセンサー
(3) サイドインパクトセンサー(圧力)
(4) サイドインパクトセンサー(加速度)
(5) サイドインパクトセンサー(加速度)

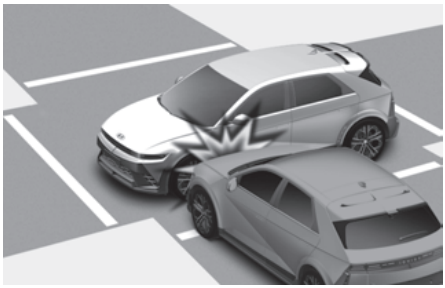
エアバッグが展開する場合

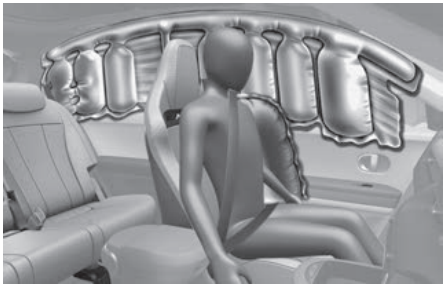
フロントエアバッグ



フロントエアバッグは、衝突の程度が一定の条件を満たした場合に展開します。

サイドエアバッグおよびカーテンエアバッグ





サイドエアバッグおよびカーテンエアバッグは、サイドインパクトセンサーによって検知された側面衝突の程度が一定の条件を満たした場合に展開します。

運転席エアバッグおよび助手席エアバッグは正面衝突時に、サイドエアバッグとカーテンエアバッグは側面衝突時に展開するように設計されていますが、他の種類の衝突でも、フロントインパクトセンサーが一定以上の衝撃を検知した場合には展開する場合があります。

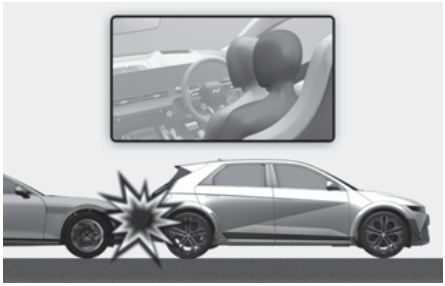
また、ロールオーバーセンサーが転覆を検知すると、サイドエアバッグとカーテンエアバッグが展開します。

車両のシャーシが、未舗装道路での隆起や物体の影響を受ける場合、エアバッグが展開することがあります。

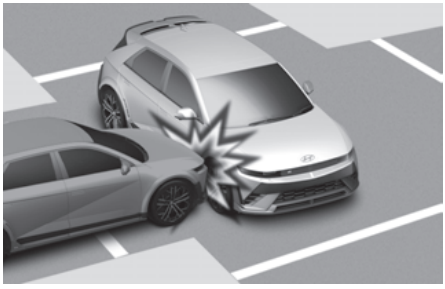
エアバッグが展開しない場合



低速走行での衝突時(車庫入れ等)では、エアバッグは展開しない場合があります。そのような衝突では、シートベルト単独の保護機能を上回るほどの補助ができないため、エアバッグは展開しない場合があります。

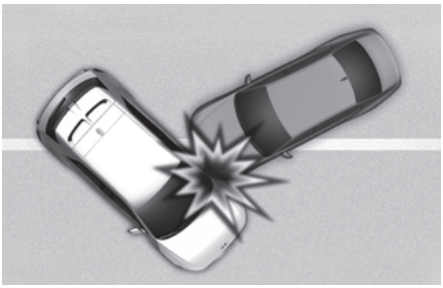


後方からの追突の場合、乗員の身体は衝撃力により後方に動くためフロントエアバッグは展開しません。

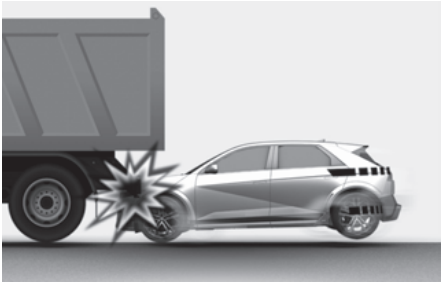


側面衝突の場合、乗員は衝突方向に動くため、フロントエアバッグが展開しないことがあります。

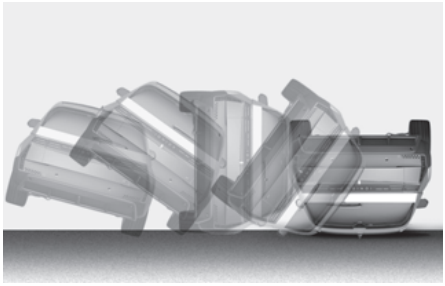
サイドエアバッグとカーテンエアバッグは、衝突の程度が一定の条件を満たした場合に展開します。



斜め衝突の場合、衝撃力により乗員の身体が向かう方向に対して、エアバッグが追加の保護機能を提供できない場合には、センサーはエアバッグを展開しないことがあります。



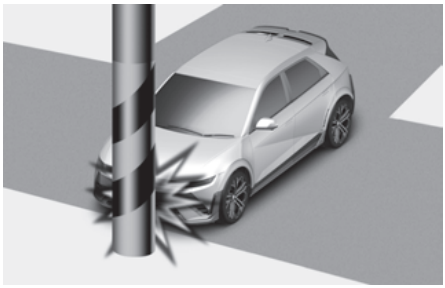
運転者は多くの場合、衝突の直前に急ブレーキをかけます。このような急ブレーキにより車両前部が下がる「ノーズダイブ」が発生します。このことは、先行車の最低地上高が高い場合に特に重要になります。車両が「ノーズダイブ」状態にある場合、センサーが検知した衝突力は大幅に減少している可能性があるため、エアバッグが展開しないことがあります。



フロントエアバッグの展開では追加の乗員保護が提供されないため、転覆事故でフロントエアバッグが展開しない場合があります。

i 情報

サイドエアバッグとカーテンエアバッグは、転覆時にロールオーバーセンサーが転覆を検知すると展開します。



電柱や樹木など、衝撃を受ける部分が1点に集中し、衝突エネルギーが車両構造によって吸収される物体に車両が衝突した場合、エアバッグが展開しないことがあります。

SRS のメンテナンス

SRSは事実上メンテナンス不要であり、自分で安全に保守できる部品ではありません。車両のEV START/STOPボタンをONの位置にしてもSRSエアバッグ警告灯が点灯しない場合や、点灯し続ける場合は、すぐに弊社認定修理業者にシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。

SRSシステムの取り外し、取り付け、修理、ステアリングホイール、助手席パネル、前席、ルーフレールの点検修理は、弊社認定修理業者に依頼することを推奨します。SRSシステムが正しく扱われないと、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、次の点を守ってください。

- SRS のコンポーネントや配線を、改造したり切断したりしないでください。これにはパッドカバーへのバッジの追加や、車体構造の改造も含まれます。
- 各エアバッグモジュール（ステアリングホイール、インストルメントパネル、助手席のグローブボックスの上にあるパネルに配置）の上または近くに物を置かないでください。
- エアバッグパッドカバーは、水で湿らせたやわらかい布で清掃してください。溶剤やクリーナーを使用すると、エアバッグカバーが損傷し、システムが正しく展開しなくなるおそれがあります。
- 展開したエアバッグは、弊社認定修理業者で交換することを推奨します。
- エアバッグシステムのコンポーネントを廃棄する場合、または廃車する場合には、安全上の注意事項を守ってください。必要な情報については、弊社認定修理業者にご確認いただくことを推奨します。

追加の安全上の注意事項

車両が動いている間、乗客は席を外したり、座席を変更したりしないでください。衝突時や緊急停車時にシートベルトを着用していない乗員は、身体が車内や他の乗員に向かって投げ出されたり、車外に放り出されたりするおそれがあります。

シートベルトにアクセサリーを取り付けないでください。シートベルトの不快感を和らげたり位置を調節したりすることを目的とした器具を取り付けると、シートベルトの保護性能が低下し、衝突時に重大な傷害を受ける危険性が高くなります。

前席を改造しないでください。前席を改造すると、補助拘束システムのセンサーコンポーネントやサイドエアバッグの動作に干渉するおそれがあります。

前席の下に物を置かないでください。前席の下に物を置くと、補助拘束システムのセンサーコンポーネントおよびワイヤーハーネスの動作に干渉するおそれがあります。

ドアに衝撃を与えないでください。EV START/STOPボタンがONまたはSTARTの位置にあるときにドアに衝撃が加わると、エアバッグが展開するおそれがあります。

エアバッグ装備車両への機器の追加または車両の改造

車両のフレーム、バンパーシステム、フロントエンド、サイドシートメタル、最低地上高などを変更する改造を行うと、補助拘束システムの動作に影響を与えるおそれがあります。

エアバッグ警告ラベル



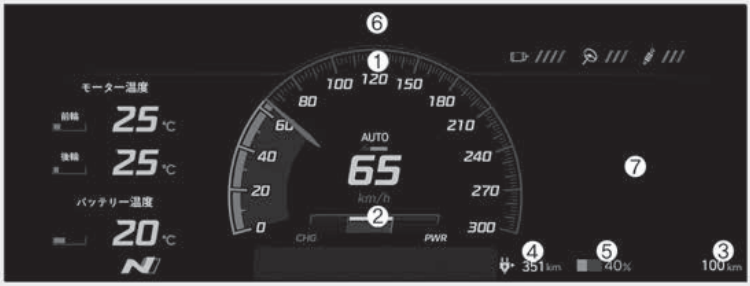
エアバッグ警告ラベルは、エアバッグシステムの潜在的なリスクを乗客に警告するために貼られています。この取扱説明書に記載された、車両に装備されたエアバッグに関するすべての情報を必ずお読みください。

4. インストルメントクラスター

インストルメントクラスター 4-2
制御 4-4
ゲージとクラスターディスプレイ 4-4
シフトインジケーター 4-8
警報インジケーター 4-9
クラスターディスプレイのメッセージ 4-23
クラスターディスプレイ 4-27
操作 4-27
表示モード 4-27
車両設定（インフォテインメントシステム） 4-31
車両の設定 4-31

インストルメントクラスター

タイプ A（N モード）

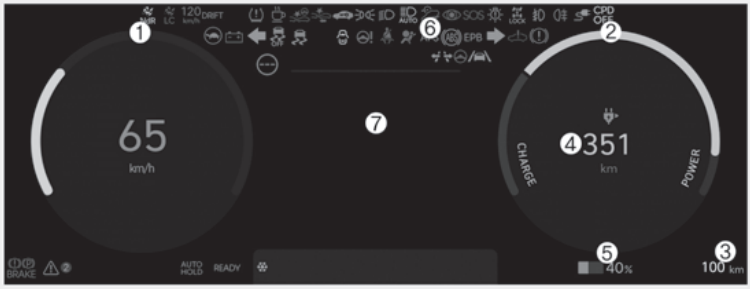




車両に実際に装備されているクラスターディスプレイは、イラストと異なる場合があります。
詳細については、本章の「ゲージとクラスターディスプレイゲージとクラスターディスプレイ」を参照してください。

(1) スピードメーター
(2) パワー／充電ゲージ
(3) オドメーター
(4) 航続可能距離
(5) バッテリー充電状態(SOC)ゲージ
(6) 警報インジケーター
(7) クラスターディスプレイ

タイプB(NORMALモード)



車両に実際に装備されているクラスターディスプレイは、イラストと異なる場合があります。
詳細については、本章の「ゲージとクラスターディスプレイゲージとクラスターディスプレイ」を参照してください。

(1) スピードメーター
(2) パワー／充電ゲージ
(3) オドメーター
(4) 航続可能距離
(5) バッテリー充電状態(SOC)ゲージ
(6) 警報インジケーター
(7) クラスターディスプレイ

制御

明るさ設定

インフォテインメントシステム

インストルメントパネルの画面の明るさは、インフォテインメントシステムで調節できます。**設定** > **メーター/HUD** > **画面の明るさ**を選択します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

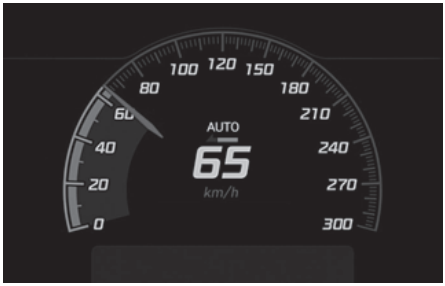
⚠ 警告

運転中は、絶対にインストルメントクラスターを調節しないでください。車両の制御を失い、死亡、重大な傷害、車両の損傷につながる事故を引き起こすおそれがあります。

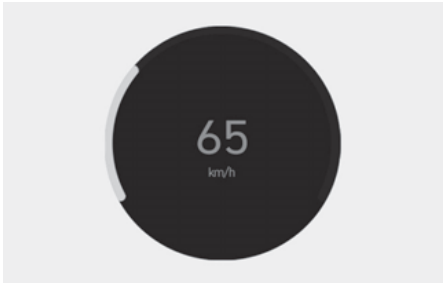
ゲージとクラスターディスプレイ

スピードメーター

タイプ A



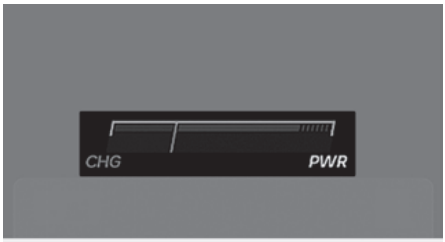
タイプ B



スピードクラスターディスプレイは車両の速度を時速(km/h)で表示します。

パワー／充電ゲージ

タイプ A



タイプ B

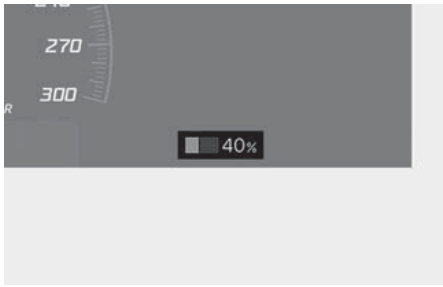


パワー／充電ゲージには、車両の電力消費量ならびに回生ブレーキの充放電状態が表示されます。

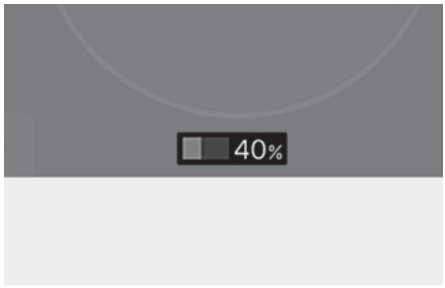
- **CHARGE**: 回生ブレーキによる充電状態を示しています。ブレーキペダルを踏んだ、または惰性走行により減速した際に回生ブレーキによって充電されます。電気エネルギーが充電されればされるほど、ゲージレベルは反時計回りに回ります。
- **POWER**: 通常走行時や加速時等の電力消費量を示しています。電気エネルギーが放電（使用）されればされるほど、ゲージレベルは時計回りに回ります。

高電圧バッテリーの充電状態（SOC）ゲージ

タイプ A



タイプ B



- SOC ゲージには、高電圧バッテリーの充電状態が表示されます。
- インジケーターのパーセント値が低いときは、高電圧バッテリーのエネルギーが不十分であることを示しています。100% は、走行用バッテリーが完全に充電されていることを示します。
- 高速道路を走行するときは、走行用バッテリーが十分充電されているか事前に確認してください。

SOCゲージのバッテリー残量が15%を下回ると、高電圧バッテリー残量(🔋)警告灯が点灯してバッテリー残量の低下を知らせます。

高電圧バッテリ残量(🔋)警告灯が点灯してから走行可能な距離は30～40kmです(走行速度、ヒーター/エアコン、天候、運転スタイルなどの要因によって異なります)が、早めに車両を充電することを推奨します。

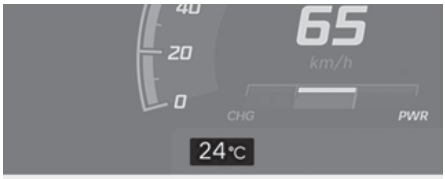
知識

高電圧バッテリー残量が低下すると、パワーダウンインジケーターが点灯し、車両のパワーが制限されます。

直ちにバッテリーを充電してください。インジケーターライトが点灯した状態では、走行できなくなったり、坂道でロールバック(ずり下がり)したりする可能性があります。

外気温表示

タイプ A



タイプ B



インストルメントクラスターの下部に外気温が表示されます。温度はインフォテインメントシステムで選択した単位に応じて摂氏(°C)または華氏(°F)で表示されます。

設定 > **一般** > **単位設定** > **温度の単位**を選択します。

インストルメントクラスターと空調システム画面の温度の単位が変わります。

i 情報

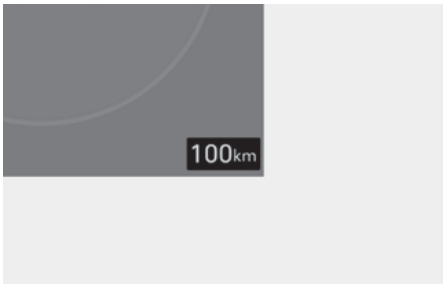
インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

オドメーター

タイプ A



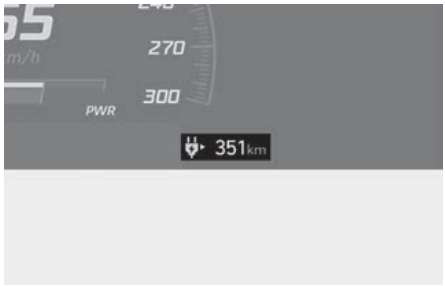
タイプ B



オドメーターには車両の積算走行距離が表示されます。この数値を基に、定期整備を行う時期を判断してください。

航続可能距離

タイプ A



タイプ B



航続可能距離は、残りの電気エネルギーで走行可能な推定距離です。

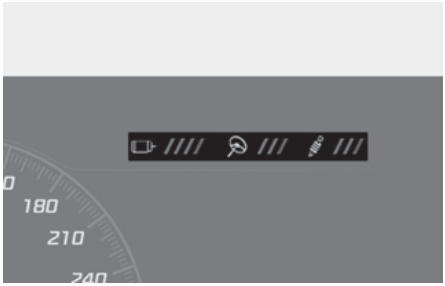
- 航続可能距離はどのドライブモード（ECO、NORMAL、SPORT）を選択するかによって異なります。

詳細については、第1章の「航続可能距離に影響する要因」を参照してください。

i 情報

- 航続可能距離は走行可能な距離の推定値であるため、実際に走行できる距離とは異なる場合があります。
- 航続可能距離は、運転状況、運転方法、車両の状態によって大きく異なる場合があります。
- 車両が平坦な場所にない場合や、バッテリー電力が遮断されている場合は、航続可能距離の機能が正しく動作しないことがあります。

CUSTOM モード設定

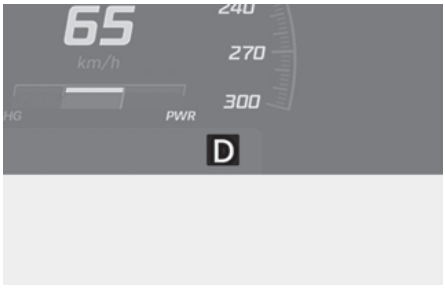


CUSTOMモードのメイン設定は、メーターの上部に表示されます。CUSTOMモードはインフォテインメントシステムで設定できます。

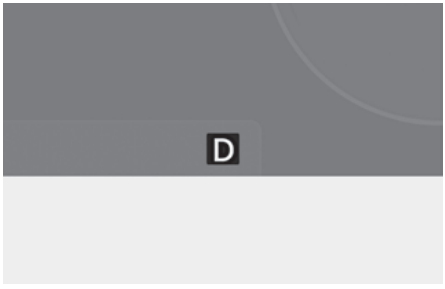
CUSTOMモードの詳細については、第6章の「Nモード」を参照してください。

シフトインジケーター

タイプ A

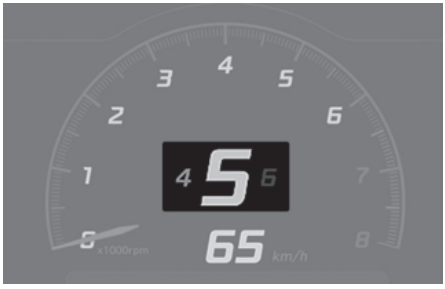


タイプ B



クラスターディスプレイ下部のシフトインジケーターに、現在のシフト(D、N、R)またはP(パーキング)が表示されます。

マニュアルシフトモード

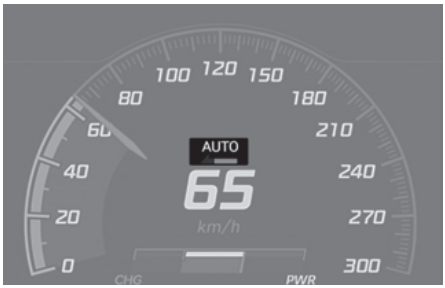


マニュアルシフトモードでは、走行中にエネルギーの節約に適したシフトが表示されます。

システムが正常に機能していない場合、インジケーターは表示されません。

回生ブレーキレベルインジケーター

タイプ A



タイプ B



設定した回生ブレーキのレベルが表示されます。また、スマート回生ブレーキの動作状態も表示します。回生ブレーキレベルインジケーターは車両がREADYの場合に表示されます。

詳細については、第6章の「Nブレーキ回生Nブレーキ回生」と「スマート回生ブレーキ」を参照してください。

警報インジケーター

i 情報

車両の始動後、すべての警告灯が消灯していることを確認してください。いずれかの警告灯が点灯している場合は、注意を要する状況であることを示しています。

READY インジケーター

READY

このインジケーターは、次の場合に点灯します。

車両が走行可能になったとき。

点灯	通常の走行が可能
消灯	通常の走行は不可能、または問題発生
点滅	緊急走行

READYインジケーターが消灯または点滅する場合は、システムに問題があります。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

サービス警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- センサーなど、EV 制御システムの関連部品に問題が発生している場合

走行中に警告灯が点灯、または車両始動後に消灯しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

パワーダウンインジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

EVの高出力部品の安全のため、パワーが制限されている場合。パワーが制限される理由は次のとおりです。

- 高電圧バッテリー残量が低すぎる、または電圧が低下している
- 高電圧バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎる
- モーターの温度が高

知識

- パワーダウンインジケーターが点灯しているときは、車両の急加速や急発進を行わないでください。
- インジケーターが点灯しているときは車両のパワーが制限されるため、走行できなくなったり、坂道でロールバック（ずり下がり）したりする可能性があります。

i 情報

サービス警告灯とパワーダウンインジケーターの両方が同時に点灯しない限り、故障ではありません。

充電コネクターインジケーター



このインジケーターは充電コネクターの接続状態を示します。車両に充電コネクタを接続すると、緑のライトが約1分間点灯します。

高電圧バッテリ残量警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

高電圧バッテリー残量が低い場合

この警告灯が点灯したら、直ちに高電圧バッテリーを充電してください。

シートベルト警告灯



この警告灯は、シートベルトが着用されていないことを運転者に知らせます。

詳細については、第3章の「シートベルト」を参照してください。

エアバッグ警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（3 ～ 6 秒間点灯してから消灯します。）
- 安全拘束装置（SRS）に異常がある場合

  走行中にエアバッグ警告灯が点灯したまま消えない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

回生ブレーキ警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

回生ブレーキが動作せず、ブレーキがうまく動作しない場合。これにより、ブレーキ警告灯(赤)と回生ブレーキ警告灯(黄)が同時に点灯します。

このような場合は、十分に注意して運転し、弊社認定修理業者で点検を受けることを推奨します。

ブレーキペダルの操作が通常より重くなり、制動距離が長くなる可能性があります。

パーキングブレーキおよびブレーキフルード警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（パーキングブレーキが解除されている場合、約 3 秒点灯してから消灯します。）
- パーキングブレーキを作動させたとき
- リザーバー内のブレーキフルードレベルが低いとき
  - パーキングブレーキを解除した状態で警告灯が点灯している場合は、リザーバー内のブレーキフルードレベルが低いことを示しています。

リザーバー内のブレーキフルードレベルが低い場合は、次のことを実行してください。

1. 最も近い安全な場所まで慎重に運転し、車両を停止します。
2. 車両を停止した状態で、すぐにブレーキフルードのレベルを確認し、必要に応じてフルードを補充します（詳細については、第 9 章の「ブレーキフルード」を参照してください）。ブレーキフルードを補充したら、フルード漏れがないか、すべてのブレーキコンポーネントを調べます。ブレーキフルードの漏れが見つかった場合や、警告灯が点灯したままになっている場合、またはブレーキが適切に動作しない場合は、運転しないでください。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

デュアルダイアゴナルブレーキシステム

車両にはデュアルダイアゴナルブレーキシステムが搭載されています。デュアルシステムの片方が故障したとしても、2つのホイールに対する制動能力は保持されます。

デュアルシステムの片方しか動作していない場合に車両を停止するには、ペダルを通常より深く、より強い力で踏み込む必要があります。

また、ブレーキシステムの一部しか動作していない場合、車両が停止するまでの距離は長くなります。

⚠ 警告

パーキングブレーキを解除した状態でパーキングブレーキ警告灯が点灯する場合は、ブレーキフルードレベルが低いことを示しています。ブレーキフルードレベルが低い場合、ブレーキシステム内に気泡が混入するおそれがありブレーキが適切に作動しない場合があります。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

アンチロックブレーキシステム（ABS）の警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- ABS に異常がある場合

  ABS に異常がある場合でも、ハイドロリックブレーキシステムは引き続き作動します。走行中に ABS 警告灯が点灯したまま消えない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

電子制御ブレーキ力配分（EBD）システムの警告灯



これらの 2 つの警告灯は、運転中に同時に点灯します。

ABSとブレーキシステムが正常に動作しない場合

走行中にABS警告灯とパーキングブレーキ警告灯の両方が点灯したまま消えない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

ABS警告灯とパーキングブレーキ警告灯の両方が点灯した場合は、ブレーキシステムが正常に動作していないため、急ブレーキ時に予期しない危険な状況に陥るおそれがあります。

高速走行や急ブレーキは行わないようにしてください。

できるだけ早く弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

ABS警告灯が点灯している場合、またはABS警告灯とパーキングブレーキ警告灯の両方が点灯している場合は、スピードメーター、オドメーター、またはトリップメーターが動作していない可能性があります。また、MDPS警告灯が点灯し、ハンドルの操作が重くなったり軽くなったりする場合もあります。

電動パワーステアリング（MDPS）警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 電動パワーステアリングに異常があるとき

  走行中に MDPS 警告灯が点灯したまま消えない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

マスター警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

次のシステムのいずれかに異常がある場合

- 故障
- 前方衝突防止アシストレーダー感知制限
- 後側方衝突防止アシストの故障（装備されている場合）
- 後側方衝突防止アシストのレーダー感知制限（装備されている場合）
- 斜め後方衝突防止アシストの故障（装備されている場合）
- 斜め後方衝突防止アシストのレーダー感知制限（装備されている場合）
- エクステリアライトの故障
- LED ヘッドライトの故障（装備されている場合）
- ハイビームアシストの故障（装備されている場合）
- スマートクルーズコントロールの故障（装備されている場合）
- スマートクルーズコントロールのレーダー感知制限（装備されている場合）
- 車線維持アシストの故障（装備されている場合）
- ウォッシャー液量不足（装備されている場合）
- タイヤ空気圧監視システム（TPMS）の故障

問題が解決すると、マスター警告灯が消灯します。

電動パーキングブレーキ（EPB）警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 電動パーキングブレーキ（EPB）に異常がある場合

  走行中に EPB 警告灯が点灯したまま消えない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

車体姿勢制御システム(ESC)が正しく動作していないことを示すためにESCインジケーターが点灯するとき、電動パーキングブレーキ(EPB)警告灯が点灯する場合があります。これは、電動パーキングブレーキ(EPB)の故障ではない場合があります。

タイヤ空気圧低下警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 1本または複数のタイヤの空気圧が著しく低下したとき（空気圧が不足しているタイヤの位置がクラスターディスプレイに表示されます）

詳細については、第8章の「タイヤ空気圧監視システム(TPMS)」を参照してください。

ウォッシャー液低下警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

リザーバー内のウォッシャー液レベルが空に近いとき

ウォッシャー液リザーバーに補充してください。

四輪駆動（4WD）警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

4WDシステムに異常がある場合

頻繁に発生する場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

詳細については、第6章の「四輪駆動(4WD)全輪駆動(AWD)」を参照してください。

前方安全警告灯

装備されている場合



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 黄：前方衝突防止アシストの前方安全が選択されていないか無効、または異常を検知したとき

  前方安全設定時にセンサーのカバーやブロックを外しても黄色の警告灯が点灯したままの場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

この警告灯は、次の場合に点滅します。

- 赤：前方安全または斜め前方安全機能が作動しているとき

詳細については、第7章の「前方衝突防止アシスト(FCA)」を参照してください。

緊急ステアリング警告灯

装備されている場合



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START STOP ボタンを ON 位置にしたとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 黄 : 前方 / 側方安全が選択されていないか、前方衝突防止アシストが無効 / 異常時

この警告灯は、次の場合に点滅します。

- 赤 : 前方衝突防止アシストの前方 / 側方安全の動作時

設定で前方安全を選択後、センサー前方の異物を取り除いても黄色の警告灯が点灯している場合は、直ちに弊社認定修理業者で点検を受けることを推奨します。

詳細については、第7章の「前方衝突防止アシスト（FCA）」を参照してください。

不注意運転警告灯

装備されている場合



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 黄 : 運転者注意警告が無効のとき、または異常を検知したとき

  フロントカメラのカバーや障害物を取り除いても黄色のインジケーターが点灯したままの場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

このインジケーターは、次の場合に点滅します。

- 黄 : 運転者注意警告により休憩が推奨されるとき

詳細については、第7章の「運転者注意警告（DAW）」を参照してください。

車線維持アシストインジケーター

装備されている場合



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 緑 : 車線維持アシストが動作しているとき
- 灰色：車線維持アシストの動作条件を満たしていないとき

このインジケーターは、次の場合に点滅します。

- 白 : ステアリングホイールアシストが解除されたとき

詳細については、第7章の「車線維持アシスト（LFA）」を参照してください。

車線安全インジケーター

装備されている場合



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- 灰色：車線逸脱防止アシストの動作条件を満たしていないとき
- 緑 : 車線逸脱防止アシストの動作条件を満たしているとき
- 黄 : 車線安全が選択されていないか無効、または異常を検出したとき

  車線安全設定時にセンサーのカバーや障害物を取り除いても黄色の警告灯が点灯したままの場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

このインジケーターは、次の場合に点滅します。

- 緑 : 車線逸脱防止アシストが動作しているとき

詳細については、第7章の「車線逸脱防止アシスト（LKA）」を参照してください。

LED ヘッドライト警告灯



この警告灯は、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- LED ヘッドライトに異常があるとき

  走行中に LED ヘッドライト警告灯が点灯したまま消えない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

この警告灯は、次の場合に点滅します。

LEDヘッドライト関連部品に異常がある場合

このような場合は、できるだけ早く弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

知識

LEDヘッドライト警告灯が点灯または点滅した状態で走行すると、LEDヘッドライトの寿命が短くなる可能性があります。

路面凍結通知

装備されている場合



この警告灯は、道路が凍結している可能性があることを運転者に警告するためのものです。

外気温表示の温度が約4℃を下回ると、路面凍結通知と外気温表示が点滅し、その後点灯します。また、警告チャイムが1回鳴ります。

路面凍結通知機能は、インフォテインメントシステムの設定メニューで有効または無効にすることができます。以下を選択します。

- **設定** > **クラスターディスプレイ /HUD** > **クラスターディスプレイ** > **表示情報** > **路面凍結通知**を選択します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

i 情報

走行中に路面凍結通知が表示された場合、スピードの出し過ぎ、急加速、急ブレーキ、急な方向転換などを避け、慎重かつ安全に運転してください。

ドアオープンインジケーターライト



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

ドアやテールゲートが開いているとき

⚠ 警告

運転する前にドアやテールゲートが完全に閉まっていることを確認してください。

⚠ 注意

ドアオープンインジケーターライトが点灯したまま車両を離れると、12Vバッテリーが放電する可能性があります。

車体姿勢制御機能（ESC）インジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- ESC システムに異常がある場合

  このような場合は、できるだけ早く弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

このインジケーターは、次の場合に点滅します。

ESCが作動している間

詳細については、第6章の「車体姿勢制御機能（ESC）車体姿勢制御機能（ESC）」を参照してください。

車体姿勢制御機能（ESC）OFF インジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- EV START/STOP ボタンを ON 位置したとき（黄色の警告灯が約 3 秒間点灯してから消灯します。）
- ESC OFF ボタンを押して ESC システムを停止したとき

詳細については、第6章の「車体姿勢制御機能(ESC)車体姿勢制御機能(ESC)」を参照してください。

ECS SPORT インジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- ESC SPORT がオンのとき

詳細については、第6章の「車体姿勢制御機能(ESC)車体姿勢制御機能(ESC)」を参照してください。

イモビライザーインジケーター



このインジケーターは、次の場合に最長30 秒間点灯します。

EV START/STOPボタンがACCまたはONの位置にあるとき(車内でスマートキーが検知された場合)

- この時点で、車両を始動できます。
- 車両を始動すると、このインジケーターは消灯します。

次の場合、このインジケーターは数秒間点滅します。

スマートキーが検知されない場合(この場合、車両を始動できません。)

次の場合、このインジケーターは数秒間点灯してから消灯します。

EV START/STOPボタンがONの位置にあるにもかかわらず、スマートキーを検知できない場合

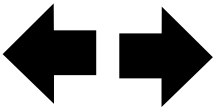
このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを`推奨します。

このインジケーターは、次の場合に点滅します。

イモビライザーシステムに異常がある場合

このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを`推奨します。

ウィンカーインジケーター



このインジケーターは、次の場合に点滅します。

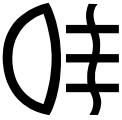
ウィンカーインジケーターのレバーを操作したとき

次のいずれかが発生した場合は、ウィンカーシステムに異常がある可能性があります。

- ウィンカーインジケーターが点灯するが、点滅しない
- ウィンカーインジケーターが速く点滅する
- ウィンカーインジケーターが速く点滅する

このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

リアフォグライトインジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

リアフォグライトが点灯しているとき

ロービームインジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

ヘッドライトが点灯しているとき

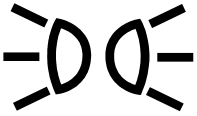
ハイビームインジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- ヘッドライトが点灯している状態でウィンカーレバーがハイビームの位置にあるとき
- ウィンカーレバーを引いてパッシングライトの位置にしたとき

ライト ON インジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

ポジションランプまたはヘッドライトが点灯しているとき

ハイビームアシストインジケーター

装備されている場合



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

ライトスイッチがAUTOの位置でハイビームをオンにしたとき

- 白 : ハイビームアシストが作動可能になったとき
- 緑 : ハイビームアシスト作動時

対向車両や先行車両を検知すると、ハイビームアシストが自動的にハイビームをロービームに切り替えます。

詳細については、第5章の「ハイビームアシスト(HBA)ハイビームアシスト(HBA)」を参照してください。

N モードインジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- ハイビームアシスト作動時

詳細については第6章の「Nモード」を参照してください。

オートホールドインジケーター



このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- 白 :**AUTO HOLD** ボタンが押されオートホールド機能が有効になっているとき
- 緑 : オートホールド機能が有効になっている状態でブレーキペダルを踏み、車両が完全に停止したとき
- 黄 : オートホールド機能の異常を検知したとき

  走行中に AUTO HOLD インジケーターが黄色で点灯したままの場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

詳細については、第6章の「電動パーキングブレーキ(EPB)電動パーキングブレーキ(EPB)」を参照してください。

DRIFT モードインジケーター

DRIFT

このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- ドライブモードがN ドリフトオプティマイザーの場合

詳細については、第6章の「Nドリフトオプティマイザー Pro」を参照してください。

N ローンチコントロールインジケーター



LC

このインジケーターは、次の場合に点灯します。

- N ローンチコントロールが有効な場合

詳細については、第6章の「Nローンチコントロール」を参照してください。

クラスターディスプレイのメッセージ

スマートキーの電池残量が少なくなっています

EV START/STOPボタンをOFFの位置まで押すと、スマートキーの電池の残量が低下していることを示すメッセージが表示される場合があります。スマートキーのバッテリーを交換してください。

ブレーキペダルを踏んで始動してください

ブレーキペダルを踏まずに、繰り返しEV START/STOPボタンを押した場合に表示されます。

ブレーキペダルを踏んでからEV START/STOPボタンを押して車両を始動させます。

スマートキーが車室内にありません

EV START/STOPボタンがONまたはSTARTの位置にある状態で車両を離れたときに、スマートキーが車両内にない場合に表示されます。

車両を離れる前に必ず車両を停止してください。

始動ボタンをもう一度押してください

EV START/STOPボタンを押しても始動できない場合は、もう一度EV START/STOPボタンを押して始動を試みてください。

EV START/STOPボタンを押すたびにこの警告メッセージが表示される場合、弊社認定修理業者で車両の点検を受けることを推奨します。

スマートキーで始動ボタンを直接押してください

スマートキーでアクセスした後でEV START/STOPボタンを押したとき、スマートキーが検知されない場合に表示されます。

スマートキーシステムを点検してください

スマートキーシステムに問題がある場合、このメッセージが表示されます。弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

ブレーキスイッチヒューズを点検してください

ブレーキスイッチのヒューズが切れている場合に表示されます。車両を始動する前にヒューズを交換してください。

交換できない場合、EV START/STOPボタンをACCの位置で10秒間押して車両を始動します。

P にシフトして車両を始動します

P(パーキング)またはN(ニュートラル)以外のポジションで車両を始動しようとした場合に表示されます。

回生ブレーキを点検してください

回生ブレーキシステムが正しく動作していない場合、この警告メッセージが表示されます。

この場合、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

仮想エンジン音システムを点検してください

このメッセージは、仮想エンジンサウンドシステム(VESS)に問題がある場合に表示されます。

この場合、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

駐車状態で電子機器を使用するとバッテリーが消耗することがあります

装備されている場合

車両の12Vバッテリーの電圧が低い場合や、車両のバッテリーを消耗させる可能性がある電流の引き込みが検出された場合に表示されます。

バッテリーシステムに外部の電子機器を接続しないでください。バッテリーが放電するおそれがあります。

このメッセージがメーターに表示され、車両に外部の電子機器が接続されていない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことをお勧めします。

ドア、ボンネット、テールゲートオープンインジケーター



ドア、ボンネット、テールゲートが開いたままになっている場合に表示されます。警告は、どのドアが開いているかをクラスターディスプレイに表示します。

⚠ 注意

運転する前にドア、ボンネット、テールゲートが完全に閉まっていることを確認してください。

タイヤ空気圧低下



タイヤ空気圧が低い場合に表示されます。該当するタイヤが点灯します。

詳細については、第8章の「タイヤ空気圧監視システム(TPMS)」を参照してください。

ライト



ライトコントロールレバーでどのエクステリアライトを選択しているかを表示します。

インフォテインメントシステムで、ワイパー/ライトモード表示機能を有効、または無効にできます。**設定** > **メーター/HUD**> **メーター** > **表示情報** > **ワイパー/ライトモード表示**を選択します。

ワイパー



このインジケーターは、ワイパーコントロールを使用して選択されたワイパー速度を表示します。

インフォテインメントシステムで、ワイパー/ライトモード表示機能を有効、または無効にできます。**設定** > **メーター/HUD**> **メーター** > **表示情報** > **ワイパー/ライトモード表示**を選択します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

方向指示器を点検してください

方向指示器が適切に動作していない場合に表示されます。

切れた電球を同じワット数の新しい電球に交換してください。

ステアリング振動警告機能を点検してください

装備されている場合

ステアリングホイール振動機能に問題がある場合、このメッセージが表示されます。弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

ヘッドライト LED を点検してください

LEDヘッドライトに問題がある場合に表示されます。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

アクティブエアフラップを点検してください

次の状況のときに表示されます。

- アクチュエーターフラップに異常がある
- アクチュエーターエアフラップコントローラーに異常がある
- エアフラップが開かない

上記の問題がすべて解決すると、警告メッセージは消えます。

クラスターディスプレイ

操作



スイッチ	機能
🗐	表示モードを変更するMODEボタン
∧、∨	項目を変更するダイヤルスイッチ
OK	選択した項目を設定•初期化するSELECT/RESETボタン

表示モード

表示モード	説明
走行アシスト	車線逸脱防止アシスト(LKA)、スマートクルーズコントロール(SCC)、車線維持アシスト(LFA)などの運転者アシストシステムを表示するモードです。
走行経路案内	ナビゲーションガイダンスを表示するモードです。
ユーティリティ	走行距離や電費などの走行情報を表示するモードです。

提供される情報は、車両に適用されている機能によって異なる場合があります。

走行アシスト表示



LKA/SCC/LFA

車線逸脱防止アシスト(LKA)、スマートクルーズコントロール(SCC)、車線維持アシスト(LFA)の状態を表示します。詳細については、第7章の各システムの情報を参照してください。

走行経路案内（TBT）表示



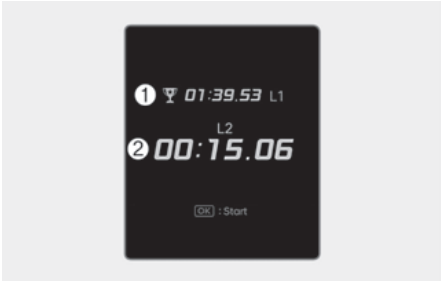
走行経路案内モードを選択すると、走行経路案内ナビゲーションと目的地までの距離/時間が表示されます。

モーター温度表示



モーター温度情報を表示します。

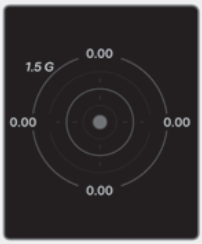
ラップタイマー



(1) ベストラップタイム
(2) 現在のラップ

- 開始方法
  ステアリングホイールの OK ボタンを短く押します。ラップタイマーが現在のラップ（2）の計測を始めます。
- 停止方法
  ラップタイマーが現在のラップ（2）を計測している間にステアリングホイールの OK ボタンを 1 秒以上長押しします。

G フォース



走行中に車両に加わる横方向の力が表示されます。

エネルギーの流れ / 駆動力配分



- EV システムは、各種動作モードのエネルギーフローを運転者に知らせます。
- 自動 4WD モードが有効になっているときは、前輪および後輪の駆動力の配分状況が表示されます。

詳細については、第6章の「四輪駆動(4WD)」を参照してください。

ユーティリティ表示

ユーティリティ表示では、へ、∨(上下)スイッチを使用して、以下の順序で項目を変更できます。

走行情報



走行距離、総走行時間、平均電費、瞬間電費が表示されます。

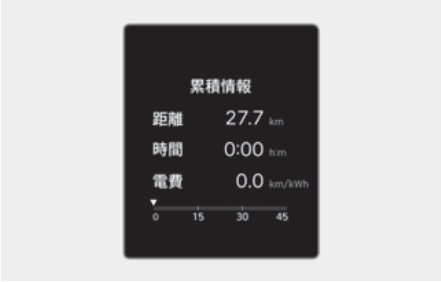
情報は、車両のON/OFFサイクルごとに合算されます。ただし、車両が3分以上OFFになっている場合、走行情報は初期化されます。

充電後の情報



充電後の走行距離、総走行時間、平均電費、瞬間電費が表示されます。手動で初期化するには、「充電後の情報」と表示されている状態で、ステアリングホイールの**OK**ボタンを1秒以上押します。

累積情報



区間走行距離(トリップメーター)、総走行時間、平均電費が表示されます。

この情報は、前回の初期化以降に累積された情報です。

手動で初期化するには、「累積情報」と表示されている状態で、ステアリングホイールの**OK**ボタンを1秒以上押します。

タイヤ空気圧



各タイヤ空気圧が表示されます。

詳細については、第8章の「タイヤ空気圧監視システム(TPMS)」を参照してください。

その他の情報表示

運転者アシスト



マニュアル速度制限アシスト(MSLA)、スマートクルーズコントロール(SCC)、車線維持アシスト(LFA)などの現在の動作状況が表示されます。

車両設定（インフォテインメントシステム）

インフォテインメントシステムの車両設定では、ドアロック/ロック解除機能、便利機能、運転者アシスト設定などのオプションを利用できます。

車両設定メニューメーター

- 運転者アシスト
- ドライブモード
- N Active Sound+
- 空調
- シート
- ライト
- ドア
- デジタルキー
- 便利機能

提供される情報は、車両に適用されている機能によって異なる場合があります。

⚠ 警告

走行中に車両設定を操作しないでください。注意散漫になり、事故につながるおそれがあります。

車両の設定



設定 > **車両**を選択し、機能の設定を変更します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

5. 便利機能

車両アクセス 5-5
スマートキー 5-5
イモビライザーシステム 5-10
デジタルキー（UWB 通信式）..... 5-10
デジタルキー（スマートフォン）..... 5-10
デジタルキー（NFC カードキー）..... 5-17
中古車 / デジタルキーメンテナンス 5-21
システム制限 5-21
ドアロック 5-22
ドアロック解除操作（車外）..... 5-22
ドアロック操作（車外）..... 5-23
ドアロック解除操作（車内）..... 5-25
自動ドアロック / ロック解除機能 5-27
電子チャイルドロック 5-27
盗難警報システム 5-29
後部座席乗員通知（センサー付）（ROA）..... 5-30
設定 5-30
作動 5-30
注意事項 5-31
ステアリングホイール 5-32
電動パワーステアリング（MDPS）..... 5-32
チルト / テレスコピックステアリング 5-33
ステアリングホイールヒーター 5-34
ホーン 5-35
ミラー 5-35
インサイドミラー 5-35
デジタルセンターミラー（DCM）..... 5-36
アウトサイドミラー 5-42
ウィンドウ 5-45
パワーウィンドウ 5-46
ビジョンルーフ 5-49
初期化 5-51
ボンネット 5-52
ボンネットオープン 5-52
ボンネットクローズ 5-52

パワーテールゲート 5-53
作動条件 5-53
操作 5-55
設定 5-56
初期化 5-57
緊急時パワーテールゲート安全開放 5-58
スマートテールゲート 5-58
使用方法 5-58
機能無効化 5-59
検出エリア 5-60
充電口 5-60
ヘッドアップディスプレイ 5-62
設定 5-62
情報 5-62
使用時の注意事項 5-63
ビルトインドライブレコーダー 5-64
設定 5-65
作動 5-68
録画確認 5-71
スマートフォンアプリケーションに接続する 5-72
ソフトウェアアップデート 5-73
仕様 5-73
ビデオの保存場所と保存基準 5-74
OTA アップデート（車両システム） 5-75
ソフトウェアダウンロード 5-75
ソフトウェアアップデートの承認 5-75
ソフトウェアアップデートの準備 5-76
ソフトウェアアップデート 5-76
エクステリアライト 5-78
ライト操作 5-78
ハイビーム操作 5-79
方向指示器と車線変更信号 5-80
リアフォグライト 5-80
バッテリーセーバー機能 5-80
ヘッドライトレベリングデバイス 5-81
ヘッドライトエスコート機能 5-81

5. 便利機能

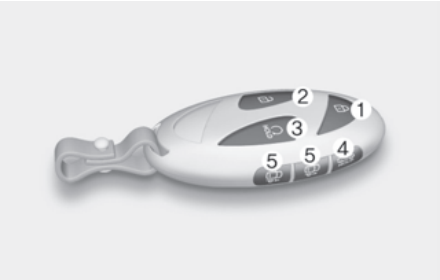
ルームライト自動点灯 / 消灯 5-82
デイタイムランニングライト（DRL）..... 5-82
ハイビームアシスト（HBA）..... 5-82
設定 5-83
作動 5-83
故障と制約 5-84
インテリジェントフロントライトシステム（IFS）..... 5-85
設定 5-85
作動 5-86
故障と制約 5-87
ルームライト 5-89
自動消灯 5-89
フロントライト 5-89
リアライト 5-90
バニティミラーライト 5-90
グローブボックスライト 5-90
ドアムードライト 5-91
ラゲッジルームライト 5-91
ワイパーとウォッシャー 5-92
フロントワイパー 5-92
フロントウォッシャー 5-93
リアワイパーとウォッシャー 5-94
リアウォッシャー 5-95
エアコンディショナーシステム 5-96
エアコンディショナーシステム 5-98
オートマチックエアコンディショナー 5-98
マニュアルエアコンディショナー 5-100
空気清浄モード 5-107
作動 5-110
システムのメンテナンス 5-111
フロントガラスの除霜と防曇 5-112
エアコンディショナーシステム 5-113
防曇ロジック 5-114
リアウィンドウの除霜（ヒーター）..... 5-114
リアウィンドウデフォッガー 5-114
エアコンディショナーシステムの追加機能 5-115

エアコンディショナーシステム自動乾燥 5-115
オートデフロスター 5-116
自動除湿 5-117
ウォッシャー液使用時の内気循環 5-117
トンネル進入時の内気循環 5-118
収納部 5-119
センターコンソールストレージ 5-119
スライド式アームレスト 5-119
グローブボックス 5-120
内装機能 5-120
カップホルダー 5-120
サンバイザー 5-121
シガーソケット 5-122
USB 充電器 5-123
クラスターディスプレイサイドパネル 5-124
スマートフォンワイヤレス充電システム 5-125
ビークルトゥロード（V2L） 5-127
時計 5-127
コートフック 5-127
フロアマットアンカー 5-128
後席サイドウィンドウサンシェード 5-128
ラゲッジネットホルダー 5-129
ラゲッジスクリーン 5-129
インフォテインメントシステム 5-131
USB ポート 5-131
アンテナ 5-132
ステアリングホイールリモートコントロール 5-132
インフォテインメントシステム 5-133
音声認識 5-133
Bluetooth® ワイヤレス技術 5-133

5

車両アクセス

スマートキー



HYUNDAI車では、運転席と助手席のドアおよびリアテールゲートのロックとロック解除、ならびに車両の始動にスマートキーを採用しています。
(1) ドアロック
(2) ドアロック解除
(3) リモート始動
(4) テールゲート開閉
(5) 前進と後退（装備されている場合）

車両のロック（1）



ドアハンドルのタッチセンサーまたはスマートキーを使用して車両をロックするには、次の手順を実行します。

1. すべてのドア、ボンネット、テールゲートが閉まっていることを確認します。
2. スマートキーのドアロックボタン（1）を押します。すべてのドアがロックされハザードランプが点滅し、ハンドルが格納されます。
- また、スマートキーを携帯した状態でドアハンドルのタッチセンサー（くぼんだ部分）をタッチすると、すべてのドアがロックされ、ドアハンドルが格納されます。

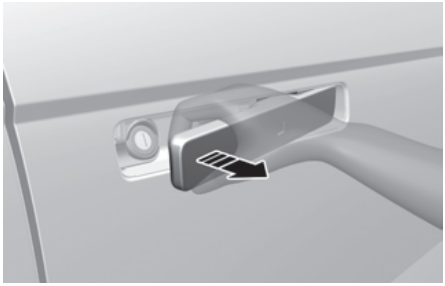
i 情報

- インフォテインメントシステムの設定メニューで「**ドア解錠時**」を選択している場合は、アウトサイドミラーが格納されます。**設定** > **車両** > **ライト** > **ウェルカムミラー** > **ドア解錠時**を選択します。
- ドアハンドルのタッチセンサーは、スマートキーが外側ドアハンドルから 0.7 ~ 1m 以内にあるときにのみ作動します。
- ドアハンドルのタッチセンサーをタッチしても、ドアはロック解除されません。ドアをロック解除するには、以降のページを参照してください。
- 以下のいずれの場合も、ドアハンドルのタッチセンサーを使用して車両をロックすることはできません。
  - スマートキーが車内にある。
  - EV START/STOP ボタンが ACC または ON の位置にある。
  - テールゲート以外のドアが開いている。

⚠ 警告

スマートキーを車内に置いたままお子さまを車両に残さないでください。お子様が意図せずにEV START STOPボタンを押したり、パワーウィンドウやその他の車両制御装置を操作したり、車両自体を動かしたりして、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

車両のロック解除（2）



ドアハンドルのタッチセンサーまたはスマートキーを使用して車両をロック解除するには、次の手順を実行します。

1. スマートキーを持っていることを確認します。
2. ドアハンドルのタッチセンサー（くぼんだ部分）をタッチするか、スマートキーのドアロック解除ボタン（2）を押します。すべてのドアハンドルが飛び出してドアがロック解除され、ハザードランプが 2 回点滅します。
3. ドアのロック解除後にドアを開けない場合、ドアは 30 秒後に自動的に再ロックされます。

i 情報

- インフォテインメントシステム画面の設定メニューで「**ドア解錠時**」を選択している場合は、アウトサイドミラーが展開します。**設定** > **車両** > **ライト** > **ウェルカムミラー** > **ドア解錠時**を選択します。
- ドアハンドルのタッチセンサーは、スマートキーが外側ドアハンドルから 0.7 ~ 1m 以内にあるときにのみ作動します。
- 洗車時、または大雨によって外側ドアハンドルのタッチセンサーが接触を感知した場合、ドアがロックまたはロック解除されることがあります。
- 以下の場合に、ドアがロックまたはロック解除されないことがあります。
  - 手袋をしてタッチセンサーにタッチした場合
  - ドアに急に近づいた場合
- インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

i 情報

洗車中や雨天時には、タッチセンサーの意図しない操作を最小限に抑えるため、タッチセンサーの感度が低下することがあります。これは故障ではありません。

スマートキーリマインダー

スマートキーが車内にあり、ドアが開いた状態で車内のセントラルドアロック/アンロックボタンでドアをロックすると、ドアはロックされずに再度ロック解除されます。

車両のリモート始動（3）

車両を離れた場所から始動するには、次の手順を実行します。

1. 車両から約 10m 以内で、スマートキーのドアロックボタンを押します。
2. ドアロックボタンを押してから 2 秒以内に、スマートキーのリモート始動ボタン（3）を長押しします。車両が始動します。
3. 車両の電源をオフにするには、リモート始動ボタン（3）を 1 回押します。

i 情報

- リモート始動機能を作動させるには、シフトポジションが P（パーキング）に入っている必要があります。
- 登録されているスマートキーを持たずに乗車すると、「**始動を維持するにはスマートキーを所持してください**」と表示され、シフト操作（D レンジに入れる等）すると車両の電源はオフになります。
- 車両をリモート始動してから 10 分以内に乗車しなかった場合、車両の電源は OFF になります。
- スマートキーが車両から 10m 以内にない場合、リモート始動ボタン（3）は機能しないことがあります。
- ボンネットやテールゲートが開いている場合、車両をリモート始動することはできません。

テールゲートをロック解除する / 開ける（4）

テールゲートを開けるには、次の手順を実行します。

1. スマートキーを携帯します。
2. 車両のテールゲート開閉ボタンを押すか、スマートキーのテールゲート開閉ボタン（4）を 1 秒以上長押しします。ハザードライトが 2 回点滅してテールゲートが開きます。

テールゲートを閉めるには、次の手順を実行します。

スマートキーのテールゲート開閉ボタン(4)を長押しして、開いているテールゲートを閉じます。テールゲートが閉じている途中でボタンを離すと、作動が停止し約5秒間チャイムが鳴ります。(パワーテールゲートで使用可能)

i 情報

テールゲート開閉ボタンは、スマートキーがテールゲートから1m以内にあるときにのみ機能します。

前進と後退（5）

装備されている場合

スマートキーの前進または後退ボタンを押すと、車両をリモートで前進または後退させることができます。この機能は、リモートスマートパーキングアシストが装備されている場合にのみ利用可能です。

詳細については、第7章の「リモートスマートパーキングアシスト2(RSPA 2)」を参照してください。

⚠ 注意

スマートキーは、以下の条件下では機能しないことがあります。

- 動作範囲（約 10m）外の場合
- スマートキーの電池残量が少ない場合
- 電波が他の車や物により遮られている場合
- 寒さが非常に厳しい場合

スマートキーの紛失

1台の車両に最大2つのスマートキーを登録できます。スマートキーを紛失した場合は、必要に応じて車両をけん引の上、直ちに弊社認定修理業者に車両と残りのスマートキーをお持ち込みいただくことを推奨します。

スマートキーの注意事項

- スマートキーは、以下の場合に機能しない可能性があります。
  - スマートキーの送信機が、ラジオ局や空港など、無線の送信が行われる場所の近くにあり、スマートキーの通常の動作に干渉を受けている。
  - スマートキーが携帯型無線送受信機または携帯電話の近くにある。
  - 自分の車両の近くで別の車両のスマートキーが操作されている。
  - スマートキーが車両システム以外の電子機器やクレジットカードの近くにある。
  - 車両のバッテリーが放電状態にある。
  - 外部デバイスをパワーアウトレットに接続し、スマートキーをその外部デバイスの近くに置いている。

  スマートキーが正常に機能しない場合は、メカニカルキーでドアの開閉を行ってください。車両を始動するには、スマートキーで EV START/STOP ボタンを直接押します。スマートキーに問題がある場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

  スマートキーが携帯電話のすぐ近くにある場合、携帯電話の通常の動作時に発生する信号によって、スマートキーの信号が遮断されることがあります。これは、電話の発信や受信、テキストメッセージ、電子メールの送受信など、電話がアクティブな場合に特に関係があります。デバイス同士の干渉を防ぐため、可能な場合はスマートキーとスマートフォンを同じ場所（ズボンやジャケットのポケットなど）に入れないようにしてください。
- 窓に色が付いている場合、特にメタリックな着色は、周波数干渉を引き起こし、スマートキーの信号が遮断されることがあります

知識

- スマートキーの表面への電磁波が遮断されるため、電磁波を発するものにスマートキーを近づけないでください。
- 車を離れる時は、常にスマートキーを携帯してください。スマートキーを車両の近くに置いている場合、車両のバッテリーが放電する可能性があります。

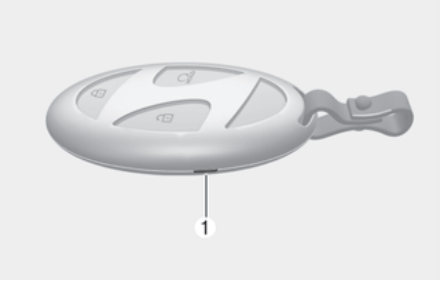
電池の交換

スマートキーが正常に機能していない場合は、電池を新しいものに交換してください。

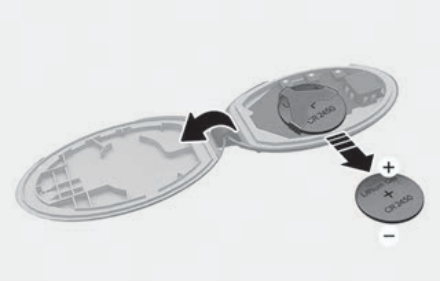
電池のタイプ:CR2450

電池を交換するには、次の手順を実行します。

1. 細い工具をスロット（1）に差し込み、無理な力を加えずに背面カバーを開けます。



2. 古い電池を取り外し、新しい電池を挿入します。電池の向きが正しいことを確認してください。電池の向きが誤っていると、放電によるスマートキーの故障が発生する可能性があります。



3. スマートキーの背面カバーを再度取り付けます。

スマートキーが損傷を受けた可能性がある場合や、正常に機能していないと思われる場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

⚠ 警告

本製品にはボタン電池が内蔵されています。

リチウムボタン電池を飲み込んだ場合、2時間以内に重傷または致命傷を負う可能性があります。バッテリーは子どもの手の届かないところに置いてください。

電池を飲み込んだり、体内に入れたりしたと思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

i 情報



不適切な方法で廃棄された電池は、環境および人の健康に有害な影響を与えることがあります。使用済みの電池を廃棄する際は、必ず地域の法律および規制に従ってください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは、車両の盗難防止に役立ちます。コードが一致しない(または他の車両の)キーが使用された場合、車両の電源がオフになります。

EV START/STOPボタンをONにすると、イモビライザーシステムインジケーターが短時間点灯し、すぐに消灯します。インジケーターが点滅する場合、システムはキーのコードを認識していません。

EV START/STOPボタンをOFFの位置にしてから、再度ONの位置にします。

別のイモビライザーキーまたは他の金属性の物(キーチェーンなど)がキーの近くにある場合、システムはキーのコードを認識しない場合があります。金属がトランスポンダ信号の正常な送信を妨げる可能性があるため、車両が始動しない可能性があります。

システムがキーのコード認識に繰り返し失敗する場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

このシステムに変更を加えたり、他のデバイスを追加したりしないでください。電気的な問題が発生し、車両が正常に動作しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

車両の盗難を防止するため、車両内にスペアキーを置いたままにしないでください。イモビライザーのパスワードはお客様に固有のものです。他人には教えないでください。

知識

キーのトランスポンダーは、イモビライザーシステムの重要な要素です。何年もトラブルのないサービスを提供するように設計されていますが、湿気、静電気、乱暴な取り扱いをしないようにする必要があります。キーを湿気や静電気にさらしたり、乱暴に扱ったりしないでください。イモビライザーシステムが誤動作する可能性があります。

デジタルキー（UWB 通信式）

装備されている場合

デジタルキーを使用することにより、運転者の利便性が向上します。運転者はデジタルキーを使用して、運転席•助手席のドアのロック/ロック解除、および車両の始動をすることができます。

デジタルキー（スマートフォン）

i 情報

- デジタルキーは、デジタルキー機能に対応したスマートフォンでのみ利用可能で、スマートフォンのデジタルキー機能はスマートフォンメーカーが提供しています。
- スマートフォンの対応機種は、スマートフォンメーカーのホームページまたは Hyundai Mobility Japan 公式ホームページの Bluelink 紹介ページにてご確認ください。
- 車両で対応しているサービスに応じて、一部の機能が作動しない場合があります。

スマートフォンの設定

デジタルキー(スマートフォン)を使用するには、Bluelinkアプリをダウンロードし、HYUNDAIのアカウントでサービスにログインします。

Bluelinkの詳細については、インフォテインメントシステムWebマニュアルを参照してください。

デジタルキーの登録（スマートフォン）





[A] 車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）

1. スマートキーで車両の電源を入れ、2本のスマートキーを車内に持ち込みます。

i 情報

デジタルキーを登録するには、登録済みの 2 本のスマートキーを車内に持ち込む必要があります。

2. シフトを P（パーキング）に入れ、インフォテインメントシステムの設定メニューから、**設定** > **車両** > **デジタルキー** > **デジタルキー** > **マイデジタルキー**を選択します。
3. スマートフォンの Bluelink アプリから**デジタルキー** > **デジタルキー登録**を選択後、スマートフォン画面のガイダンスに従ってデジタルキーを登録します。

- UWB（超広帯域）非対応のスマートフォン
  - スマートフォンを車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）の上に、画面が上になるように置きます。
  - Google Pixel の NFC アンテナの位置は次の手順で見つけることができます：**設定** > **接続されたデバイス** > **優先させる接続** > **NFC**。
  - スマートフォンの NFC アンテナの位置が車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に適切にかざされているを確認してください。
  - Apple iPhone の NFC アンテナの位置は背面上部［B］にあり、Apple Watch の場合は画面中央［C］にあります。



  - スマートフォンの NFC アンテナの位置は機種によって異なりますので、詳しくはスマートフォンメーカーにお問い合わせください。
  - スマートフォンの内部構造によっては、車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）での認識が不十分な場合があります。認識がスムーズに行われない場合には、スマートフォンを車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）の上に置き直してください。

- UWB（超広帯域）対応のスマートフォン
  - スマートフォンを車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に置かなくても、車内に持ち込めば、デジタルキーを登録できます。

4.インフォテインメントシステムで**登録**ボタンを押して、登録を開始します。

デジタルキー（スマートフォン）を登録すると、インフォテインメントシステムの画面にメッセージが表示されます。

i 情報

- 別のデジタルキー（スマートフォン）を登録する場合は、「デジタルキーの削除（スマートフォン）」を参照してデジタルキー（スマートフォン）を削除してから再登録してください。
- デジタルキーの登録処理中に以下の動作が行われると処理がキャンセルされることがあります。
  - 車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）からスマートフォンが取り除かれた
  - インフォテインメントシステムのデジタルキー登録中画面から切り替えられた。
  - 車両の電源が OFF になっている
  - シフトを切り替えた
- 車両に登録済みの 2 本のスマートキーが車内に無い場合、登録処理は開始されません。
- スマートフォンの内部構造によっては、登録処理が開始されない場合があります。登録処理が開始されない場合には、スマートフォンを車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）の上に置き直してください。
- UWB（超広帯域）とは、非常に低いエネルギーレベルを使用して、電波スペクトルの大部分にわたって短距離で広帯域の通信を行うことができる無線技術です。

デジタルキー（スマートフォン）の使用

デジタルキーのタッチ制御

運転者は、スマートフォンを外側ドアハンドルにかざすことでドアのロック/ロック解除ができ、スマートフォンを車載認証パッド(ワイヤレス充電パッド)に置くことで車両を始動させることができます。

i 情報

スマートフォンのNFCアンテナの位置は機種によって異なりますので、詳しくはスマートフォンメーカーにお問い合わせください。

デジタルキーのキーレスエントリー

- スマートフォンを携帯していれば、スマートフォンをドアハンドルにかざすのではなく、ドアハンドルのドアロック / ロック解除センサー（くぼんだ部分）をタッチすることでドアのロック / ロック解除を行うことができます。また、スマートフォンを車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に置かなくても、EV START/STOP ボタンを押せば、車両を始動させることができます。
- スマートフォンと車両が Bluetooth 接続されている場合は、ドアロック / ロック解除、空調機能をスマートフォンメーカーが提供するウォレットアプリを使用して利用できます。

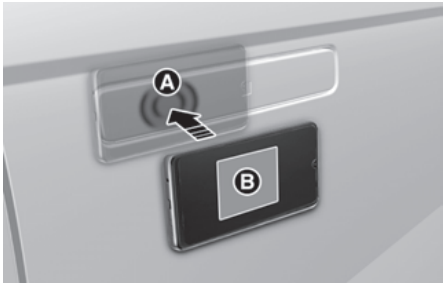
情報

- この機能は、UWB（超広帯域）対応のスマートフォンデジタルキーでのみ利用できます。この機能を使用するには、スマートフォンの Bluetooth を有効にする必要があります。
- Bluetooth 接続に必要なスマートフォンと車両の距離は、車両とスマートフォンの周囲の環境によって異なる場合があります。
- リモートスタート、パニック、テールゲート / フランク開閉機能は、国や車両タイプ（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、EV）によっては利用できない場合があります。

ドアのロック / ロック解除

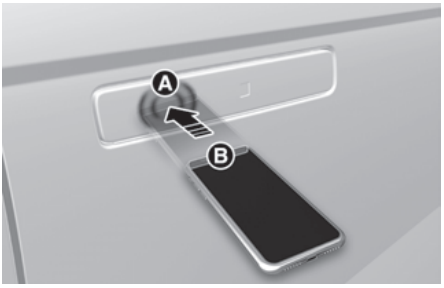
- UWB（超広帯域）非対応のスマートフォン

Android のスマートフォン
※ 対応機種の詳細は HYUNDAI Mobility Japan 公式ホームページで Bluelink 紹介ページをご確認ください。



[A] ドアハンドル認証パッド
[B] NFC アンテナ

Apple iPhone



[A] ドアハンドル認証パッド
[B] NFC アンテナ

- 運転者がデジタルキー（スマートフォン）の NFC アンテナを運転席側または助手席側のドアハンドル認証パッド [A] に 2 秒以上かざすと、ドアがロックまたはロック解除されます。

- UWB（超広帯域）対応のスマートフォン
  - スマートフォンを携帯してドアハンドルのドアロック / ロック解除センサー（くぼんだ部分）をタッチすると、ドアがロックまたはロック解除されます。

ドアのロック解除後にドアを開けない場合、ドアは30秒後に自動的に再ロックされます。

スマートフォンのデジタルキーが動作しない場合は、スマートフォンをドアハンドル認証パッドから離して（0.1m以上）から再度お試しください。

i 情報

- 以下の場合には、デジタルキー（スマートフォン）を使用して車両をロックすることはできません。
  - スマートキーが車内にある。
  - EV START/STOP ボタンが ACC または ON の位置にある。
  - ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている。
- UWB（超広帯域）対応のスマートフォンを携帯して数分間車両の近くにいた場合、ドアが自動でロック解除されない場合があります。
- スマートフォンを後ろポケットやバッグに入れたままにしておくと、Bluetooth の接続不良を引き起こしたり、ドアのロック / ロック解除や車両の起動が遅れることがあります。

車両の始動方法

- UWB（超広帯域）非対応のスマートフォン
  - 登録されているデジタルキー（スマートフォン）を車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に置いた後、ブレーキペダルを踏み込み、EV START/STOP ボタンを押します。
  - 始動後は、デジタルキー（スマートフォン）は車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）から取り外すことができます。
  - スマートフォンの内部構造によっては、車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）での認識が不十分な場合があります。認識がスムーズに行われない場合には、スマートフォンを車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）の上に置き直してください。
- UWB（超広帯域）対応のスマートフォン
  - スマートフォンを車内に置いた状態で、ブレーキペダルを踏んで、EV START/STOP ボタンを押します。
  - 車両をリモートで始動するには、スマートフォンメーカーが提供するアプリのドアロックボタンを使用して車両をロックし、アプリよりリモート始動操作を行います。

    車両が始動し、ハザードライトが点滅します。
  - 車両の電源を OFF にするには、リモート始動ボタンを再度押します。

車両の基本的な始動方法の詳細については、第6章の「EV START/STOPボタンEV START/STOPボタン」を参照してください。

i 情報

共有されたデジタルキー(スマートフォン)を初めて使用する場合は、起動に時間がかかることがあります。

- ドアのロック / ロック解除が作動するまで、共有デジタルキー（スマートフォン）をドアハンドル認証パッドにかざしてください。
- 共有されたデジタルキー（スマートフォン）を初めて車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）で使用する場合、初回認証時に動作が遅れる場合があります。動作しない場合はスマートフォンを車内認証パッド（ワイヤレス充電パッド）から離して（0.1m 以上）から再度お試しください。
- 共有されたデジタルキー（スマートフォン）は、ドアのロック / ロック解除を共有されたデジタルキー（スマートフォン）で作動させるか、車内認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に置いて車両を始動させることで登録されます。車両での設定は必要ありません。

⚠ 警告

デジタルキーを登録したスマートフォンが車載認証パッド(ワイヤレス充電パッド)に置かれると、車両を始動させてしまうおそれがあります。重大な傷害や死亡事故につながる可能性があるため、お子さまやシステムを知らない方を車内に置き去りにしないでください。また、車両を離れる際は、車両盗難防止のため、登録したスマートフォンを常に携帯してください。

テールゲートの操作

- UWB（超広帯域）対応のスマートフォン
  - 車両がロックされている場合は、スマートフォンを携帯した状態でテールゲート開閉ボタンを押してテールゲートを開きます。
  - **スマートテールゲート**を設定している場合は、スマートフォンを携帯した状態でテールゲート後方の検出エリアに 3 秒以上入ると、自動的にテールゲートが開きます。

⚠ 警告

デジタルキーを登録したスマートフォンが車載認証パッド(ワイヤレス充電パッド)に置かれると、車両を始動させてしまうおそれがあります。重大な傷害や死亡事故につながる可能性があるため、お子さまやシステムを知らない方を車内に置き去りにしないでください。また、車両を離れる際は、車両盗難防止のため、登録したスマートフォンを常に携帯してください。

i 情報

- UWB（超広帯域）対応のスマートフォンデジタルキーは、スマートフォンと車両が Bluetooth で接続されているときのみ使用できます。
  - Bluetooth 接続に必要なスマートフォンと車両の距離は、周囲環境によって異なる場合があります。
  - カーフィルムなどを取り付けると、Bluetooth の接続不良を引き起こす場合があります。
  - スマートフォンを後ろポケットやバッグに入れたままにしておくと、Bluetooth の接続不良を引き起こしたり、ドアのロック / ロック解除や車両の起動が遅れることがあります。
- UWB（超広帯域）対応のスマートフォンに発行したデジタルキーは、スマートフォンと車両のバッテリー性能を最適化するために、一定時間しか使用できません。UWB（超広帯域）対応のスマートフォンを携帯して数分間車両の近くにいた場合、自動ロック解除機能が作動しない場合があります。
- スマートフォンの設定メニューかスマートフォンメーカーが提供するアプリで、車両とスマートフォンの接続を確認してください。
- UWB（超広帯域）対応のスマートフォンデジタルキーでは、NFC 機能も使用できます。

デジタルキーの削除（スマートフォン）

スマートキーで車両を始動します。スマートキーを車内に持ち込んでください。

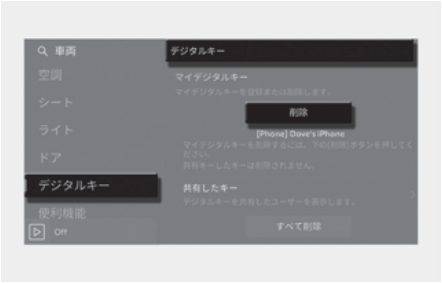
登録したデジタルキーをすべて削除する（スマートフォン）



登録したデジタルキー(スマートフォン)をすべて削除するには、インフォテインメントシステムの設定メニューから**設定** > **車両** > **デジタルキー** > **デジタルキー** > **すべて削除**を選択します。

- 登録されたデジタルキー（スマートフォン）がない場合は、「**すべて削除**」ボタンは使用できません。

登録したデジタルキーを削除する（スマートフォン）



自身が登録したデジタルキー(スマートフォン)のみを削除するには、インフォテインメントシステムの設定メニューから**設定** > **車両** > **デジタルキー** > **デジタルキー** > **マイデジタルキー** > **削除**を選択します。

- 共有デジタルキー（スマートフォン）が登録されている場合は、全て削除されます。
- 「**マイデジタルキー**」メニューから既存のデジタルキー（スマートフォン）を削除すると、新しいスマートフォンを登録することができます。

i 情報

- 登録したデジタルキー（スマートフォン）を削除すると、スマートフォンに登録されているデジタルキーも削除されます。
- スマートフォンからデジタルキーを削除すると、車両に登録されているデジタルキー（スマートフォン）も削除されます。
- 車両に登録されている共有されたデジタルキーを個別に削除することはできません。
- Bluelink アプリがスマートフォンから削除されても、スマートフォンに登録されているデジタルキーは削除されません。
- スマートフォンに登録されたデジタルキーの管理は、スマートフォンメーカーが提供する「ウォレットアプリ」から行います。

デジタルキー（NFC カードキー）

デジタルキー（NFC カードキー）の登録方法

NFCカードキーをデジタルキーとして使用するには、以下の手順に従います。





[A] 車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）

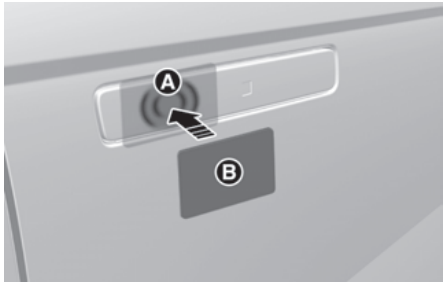
1. 車両に登録された 2 本のスマートキーを車内持ち込みます。
2. SETUP ボタンを押してから、インフォテインメントシステムで**車両** > **デジタルキー** > **NFC カードキー**を選択し、「**カードキーを使用**」が選択されているかを確認します。
3. 車両電源が ON の状態でカードキーを車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に置きます。
4. インフォテインメントシステムの設定メニューから**設定** > **車両** > **デジタルキー** > **NFC カードキー** > **登録**を選択して、NFC カードキーを登録します。

i 情報

- 車両に登録できるデジタルキー（NFC カードキー）は 1 つのみです。交換が必要な場合は、新しい NFC カードキーを登録する前に既存の NFC カードキーを削除してください。
- デジタルキー（NFC カードキー）を登録するには、車両に登録された 2 本のスマートキーが車内にある必要があります。
- デジタルキー（NFC カードキー）を一度登録すると、他の車両には登録できなくなります。元の車両に再登録することは可能です。

デジタルキー（NFC カードキー）の使用

運転者は、NFCカードキーを外側ドアハンドルにかざすことでドアのロック/ロック解除ができ、NFCカードキーを車載認証パッド(ワイヤレス充電パッド)に置くことで車両を始動させることができます。



[A] ドアハンドル認証パッド
[B] NFC カードキーの NFC アンテナ

ドアのロック / ロック解除

運転者がデジタルキー(NFCカードキー)を運転席側または助手席側のドアハンド

ル認証パッド[A]に2秒以上かざすと、ドアがロックまたはロック解除されます。

ドアのロック解除後にドアを開けない場合、ドアは30秒後に自動的に再ロックされます。

i 情報

以下の場合には、デジタルキー(NFCカードキー)を使用して車両をロックすることはできません。

- スマートキーが車内にある。
- EV START/STOP ボタンが ACC または ON の位置にある。
- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている。

車両の始動方法

登録したデジタルキー(NFCカードキー)を車載認証パッド(ワイヤレス充電パッド)に置いた後、ブレーキペダルを踏み込み、EV START/STOPボタンを押します。

車両の基本的な始動方法については、第6章の「EV START/STOPボタンEV START/STOPボタン」を参照してください。

⚠ 警告

登録済みのNFCカードキーが車載認証パッド(ワイヤレス充電パッド)に置かれると、車両を始動させてしまうおそれがあります。重大な傷害や死亡事故につながる可能性があるため、お子さまやシステムを知らない方を車内に置き去りにしないでください。また、車両を離れる際は、車両盗難防止のため、登録したNFCカードキーを常に携帯してください。

知識

- デジタルキー（NFC カードキー）は、以下の条件では機能しない場合があります。
  - デジタルキー（NFC カードキー）がドアハンドル認証パッドまたは車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に正しく置かれていない。
  - デジタルキー（NFC カードキー）が、クレジットカードやスマートフォンなどの NFC 対応カードや端末の近くにある。

    デジタルキー（NFC カードキー）が動作しない場合は、デジタルキーをドアハンドル認証パッドから離して（0.1m 以上）から再度お試しください。
- デジタルキー（NFC カードキー）は衝撃で破損することがあります。デジタルキー（NFC カードキー）が破損した場合は、デジタルキー（NFC カードキー）を新しいものに交換し、再度登録してください。
- 高温に長時間さらされると、デジタルキー（NFC カードキー）が故障することがあります。デジタルキー（NFC カードキー）を直射日光や高温にさらさないように注意してください。

- 走行中にデジタルキー（NFC カードキー）を車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）に置いたままにすると、デジタルキー（NFC カードキー）が誤作動することがあります。始動後は、デジタルキー（NFC カードキー）を車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）から取り除いてください。
- スマートフォンを充電する前に、デジタルキー（NFC カードキー）を車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）から取り除いてください。スマートフォンの充電中に、デジタルキー（NFC カードキー）がスマートフォンと車載認証パッド（ワイヤレス充電パッド）の間に置かれていると、デジタルキー（NFC カードキー）の誤作動を引き起こすおそれがあります。※デジタルキー（NFC カードキー）をスマートフォンケースの背面に取り付けたままスマートフォンを充電する場合などが考えられます。

デジタルキーの削除（NFC カードキー）



1. スマートキーで車両を始動します。スマートキーを車内に持ち込んでください。
2. インフォテインメントシステムの設定メニューから、**設定** > **車両** > **デジタルキー** > **NFC カードキー** > **削除**を選択します。
   - デジタルキー（NFC カードキー）が登録されていない場合は、「**削除**」ボタンは使用できません。

パーソナライズされたプロファイルと車両設定

登録されたデジタルキー(スマートフォン)のプロファイルを運転者1または、運転者2に設定できます。デジタルキー(スマートフォン)を使用すると、ユーザーが定義したパーソナライズされたプロファイル(車両設定やオーディオの好みなどの項目を含む)に車両を設定することができます。

プロファイルの連携 / 連携解除

ユーザープロファイルの連携方法

1. インフォテインメントシステムの設定メニューから**設定** > **ユーザープロファイル** > **プロファイルの設定** > **デジタルキー連携 (スマートフォン)** を選択します。
2. 「**連携**」を選択すると、登録したスマートフォンのデジタルキーとユーザープロファイルが紐付けられます。
3. インフォテインメントシステムに表示される指示に従ってください。

ユーザープロファイルの連携解除方法

インフォテインメントシステムの設定メニューから**設定** > **ユーザープロファイル** > **プロファイルの設定**を選択し、**デジタルキー連携(スマートフォン)**の選択を解除します。

- 連携解除は、ユーザープロファイルが連携している場合にのみ可能です。

i 情報

- ユーザープロファイルを運転者 1 と運転者 2 の両方に連携させることはできません。それぞれ 1 台のスマートフォンに紐づけられます。それぞれ 1 台のスマートフォンに紐づけられます。
- ユーザープロファイルの連携は、デジタルキーが車両に登録されている場合のみ機能します。
- デジタルキー（NFC カードキー）をユーザープロファイルと連携させることはできません。
- スマートフォン内のユーザープロファイルと連携したデジタルキーを削除した場合、デジタルキーを再登録し、ユーザープロファイルを再度連携させることでパーソナライズする必要があります。

車両のパーソナライズ作動

- デジタルキーと連携したパーソナライズ機能は、プロファイルと連携したスマートフォンを外側ドアハンドル認証パッドにかざすことで機能し、ドアのロック / ロック解除を行います。
- デジタルキーで設定したプロファイルは、インフォテインメントシステムから手動で変更できます。
- デジタルキーを使用したパーソナライズ機能は、インフォテインメントシステムのプロファイルメニューでデジタルキーを連携させると動作できるようになります。
- パーソナライズ機能は、車両の電源が OFF のとき、またはリモートで車両を始動させたときにのみ機能します。車両をリモートで始動していない場合、パーソナライズ機能はデジタルキーでは機能しません。

i 情報

ドアロック/ロック解除システムによるユーザープロファイル動作は以下の通りです。

項目	パーソナライズ動作
初期値	ゲスト
プロファイルが連携されたデジタルキー	連携されたプロファイル
プロファイル連携が解除されたデジタルキー	前回作動したプロファイル
NFCカードキー	
スマートキー	

中古車 / デジタルキーメンテナンス

中古車の購入

デジタルキーデバイス(デジタルキー、NFCカードキー)が車両に登録されている場合、ドアのロック解除後にEVSTART/STOPボタンをON位置にした際に、インフォテインメントシステムの画面またはインストルメントクラスターに「デジタルキーが登録されています」というメッセージが1回表示されます。中古車として購入する際は、前オーナーが登録したデジタルキーとNFCカードキー(車載されていない場合)を削除してください。

NFCカードキーが車両に付属している場合は、正常に作動するかどうかを確認します。

デジタルキーのメンテナンス

デジタルキーシステムの修理や交換が必要な場合は、登録したデジタルキーやNFCカードキーを削除することができます。

システム制限

- デジタルキー
  - スマートフォンのバッテリーまたは車両のバッテリーが放電状態にある。
  - スマートフォンの設定で NFC または Bluetooth が OFF になっている。
  - クレジットカードがスマートフォンの近くにある、または金属製や分厚いスマートフォンケースを使用している。
  - NFC カードキーが財布やカードホルダーに入っているか、他のカードと重なっている。
  - 他の車両や物による電子干渉がある。
  - 無線通信を使用するスマートフォンカバーや金属製のスマートフォンカバーをお使いの場合は、カバーを取り外してください。
- 次のいずれかに該当する場合は、スマートフォンで車両を制御できない場合があります。
  - 他のスマートフォン機能（通話、緊急通話、オーディオまたは NFC 決済)、アプリ、またはワイヤレスイヤホンが作動している。
  - Bluelink アプリの基本的な設定やアプリの起動などの機能が、メーカーによる方針などによって制限されている。

ドアロック

ドアロック解除操作（車外）

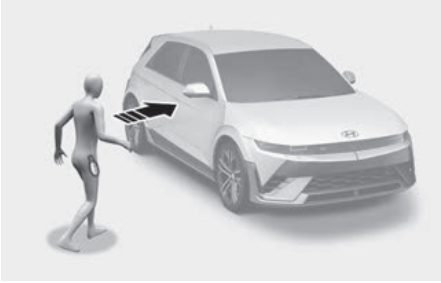
スマートキーを使用する場合

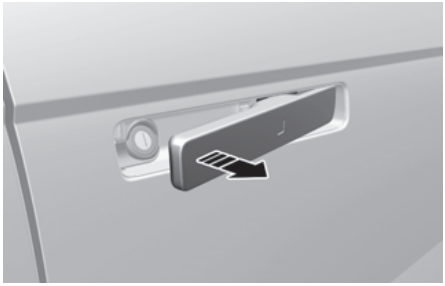
接近ロック解除システム

運転者がスマートキーを備えた車両に近づくと、ドアのロックが解除され、外側のドアハンドルが飛び出します。

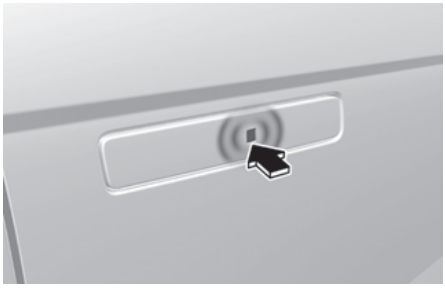
運転者は、インフォテインメントシステム画面で「接近ロック解除」システムの有効/無効を切り替えることができます。

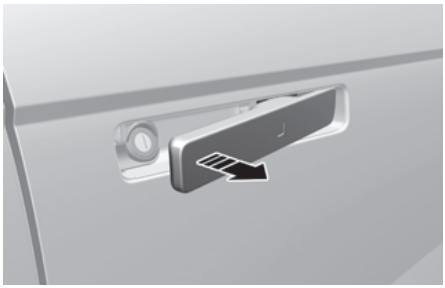
接近ロック解除システムを有効にするには、インフォテインメントシステムで、**設定** > **車両** > **ドア** > **接近ロック解除**を選択します。運転者がスマートキーを携帯して車両に近づくと、外側ドアハンドルが飛び出し、ドアがロック解除されます。接近ロック解除システムを無効にした場合、運転者がスマートキーを携帯して車両に近づいても、ドアのロック解除は行われず、外側ドアハンドルは飛び出しません。接近ロック解除システムが無効になっているときにドアをロック解除するには、ハンドルのロック/ロック解除センサー（くぼんだ部分）をタッチします。





- 「接近ロック解除」が有効になっている場合：
  - スマートキーを携帯して運転席または助手席のドアハンドルの 1m 以内に近づくと、外側ドアハンドルが飛び出し、ドアがロック解除されます。この場合、ハザード緊急警告灯が 2 回点滅します。
  - 接近後、車両は 5 秒ごとにスマートキーの検知を試み、スマートキーを検知できないと、ドアは自動的にロックされ、ハンドルが格納されます。





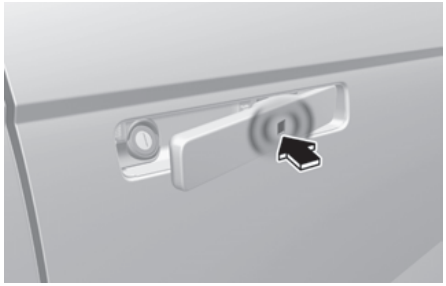
- 「接近ロック解除」が無効になっている場合：スマートキーを携帯して近づいても、ハンドルは飛び出しません。近接ロック解除を無効に設定している状態でもハンドルのロック / ロック解除センサー（くぼんだ部分）をタッチすることでドアロックの解除が可能です。
- ドアを開けない場合、30 秒後に自動的にドアがロックされ、外側のドアハンドルが格納されます。

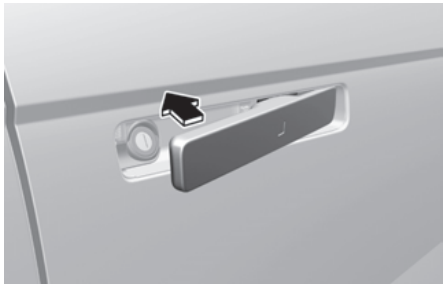
i 情報

バッテリー上がりなど、緊急の場合は、ドアハンドルの前部を押してドアハンドルを手動で飛び出させることができます。ドアハンドルが飛び出たら、メカニカルキーを使用してドアのロックを解除し、ドアをあけることができます。

ドアロック操作（車外）

スマートキーを使用する場合





すべてのドアが閉まっているときに、スマートキーを携帯した状態で前席ドアの外側ドアハンドルのタッチセンサー(くぼんだ部分)にタッチすると、外側ドアハンドルが格納され、ドアがロックされます。

ハザード警告灯が1回点滅します。

知識

- スマートキー、ドアロックボタン、またはドアロックスイッチを使用して、短時間に複数回続けてドアをロック / ロック解除した場合、システムは回路を保護するために、一時的に動作を停止することがあります。また、「接近ロック解除」システムも動作しない可能性があります。複数回の操作でシステムが作動しない場合は、十分な時間をおいてから操作してください。
- 「接近ロック解除」システムは、連続的に作動しません。すべてのドアを閉め、一定時間をおいてから再度試してください。

i 情報

- 寒冷湿潤な気候では、凍結状態によりドアロックとドア機構が正常に機能しない場合があります。
- 車両のキーまたはドアロックスイッチを使用して、短時間に複数回続けてドアをロック / ロック解除した場合、システムは回路の保護、およびシステムコンポーネントの損傷防止のために、一時的に動作を停止することがあります。
- 洗車時
  - 手洗いの場合

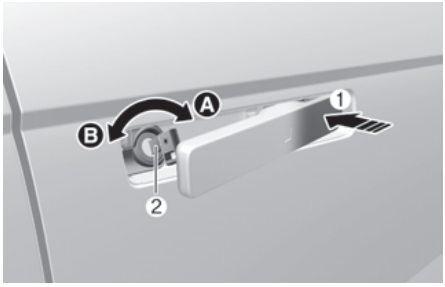
    外側ドアハンドルを格納した状態でドアをロックしてください。

    ドアをロック解除されたままにする場合、外側ドアハンドルを手動で格納してください。これにより、ドアハンドルの損傷を防止することができます。ロック解除ボタンを押すと、再度ドアハンドルが飛び出します。
  - 自動洗車の場合

    外側ドアハンドルを格納した状態でドアをロックしてください。

    スマートキーを車内に置かない場合は、外側ドアハンドルが作動しないように、車両の電源をオフにし、スマートキーを車両から 2m 以上離れた場所に置いてください。

メカニカルキーを使用する場合



[A] ロック解除
[B] ロック

ドアハンドルの前部(1)を押して、ドアハンドルの後部を引き出します。ドアハンドルの前部を押したまま、メカニカルキーを鍵穴に差し込みます(2)。

ドアをロックするには、車両の後方[B]に向かってキーを回します。ドアをロック解除するには、車両の前方[A]に向かってキーを回します。

知識

ドアやドアハンドルに過剰な力をかけないでください。ドアやドアハンドルが損傷するおそれがあります。

i 情報

鍵穴が凍結して開かない場合は、軽く叩くか、鍵穴を手の体温などで間接的に温めてください。

ドアロック解除操作（車内）

車内側のドアハンドルを使用する場合



前席ドア

ドアがロックされた状態で内側ドアハンドルを引くと、ロックが解除されドアが開きます。

後席ドア

ドアがロックされた状態で内側ドアハンドルを1回引くと、ドアのロックが解除されます。内側ドアハンドルをもう1回引くと、ドアが開きます。

セントラルドアロック / ロック解除スイッチを使用する場合

運転席ドア



スイッチの🔒の部分(1)を押すと、車両のすべてのドアがロックされます。

- いずれかのドアが開いている場合は、ドアのロックスイッチ（1）を押してもドアはロックされません。
- 車内にスマートキーがあって、いずれかのドアが開いている場合は、ドアのロックスイッチ（1）を押してもドアはロックされません。

スイッチの🔓の部分(2)を押すと、車両のすべてのドアがロック解除されます。

緊急の場合



バッテリーが放電したときなど、緊急の場合にドアをロックする唯一の方法は、外側の鍵穴にメカニカルキーを差し込むことです。

外側に鍵穴のないドアは、以下の方法でロックできます。

1. ドアを開けます。
2. 小さな薄い板状の道具（スクリュードライバーなど）を非常用ドアロックホールに差し込み、左側ドアの場合は時計回りに、右側ドアの場合は反時計回りに回します。
3. ドアをしっかり閉めます。

i 情報

車両のバッテリー切れなどで電動ドアロックスイッチが作動しない状態で、テールゲートが閉じている場合、電力が回復するまでテールゲートを開けることはできません。

⚠ 警告

- 走行中は必ずドアを閉めてロックしてください。ドアがロック解除されている場合、衝突時に車両から投げ出されるリスクが高くなります。
- 走行中は、運転席ドアまたは助手席ドアの内側ドアハンドルを引かないでください。

⚠ 警告

お子様、動物を車内に置き去りにしないでください。閉め切った車内が極度の高温になり、放置されたお子様や動物が車両から脱出できず、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

車は常時適切に駐車してください。ブレーキペダルを踏み、シフトをP(パーキング)の位置に入れてパーキングブレーキをかけ、すべてのウィンドウを閉め、EV START/STOPボタンをOFF位置にして、すべてのドアをロックした上で、キーを常に携帯してください。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡事故を避けるため、ドアを開けるときは十分注意し、車両、バイク、自転車、歩行者などが近づいてきていないか確認してください。

i 情報

電動ドアロックが機能しない場合に車外に出るには、以下に従ってください:

- ドアハンドルを引きながら、ドアロック解除機能（電子ロック解除と手動ロック解除の両方）を繰り返し操作します。
- 他のドアロックとハンドルを操作します。
- 運転席ウィンドウを下げ、メカニカルキーを使用して外側からドアをロック解除します。

自動ドアロック / ロック解除機能

この車両には、インフォテインメントシステムで選択した設定に基づいて、自動的に車両をロック/ロック解除する機能が搭載されています。

走行時自動ロック

インフォテインメントシステムでこの機能を設定した場合、車両速度が15km/hを超えるとすべてのドアが自動的にロックされます。

走行時またはシフト時自動ロック

インフォテインメントシステムでこの機能を設定した場合、車両速度が15km/hを超えたとき、または車両の電源の入った状態でP(パーキング)からシフトを切り替えたときに、すべてのドアが自動的にロックされます。

シフトを P に移動時自動ロック解除

インフォテインメントシステムでこの機能を設定した場合、車両の電源の入った状態でP(パーキング)にシフトを切り替えると、すべてのドアが自動的にロック解除されます。

電源 OFF 時自動ロック解除

インフォテインメントシステムでこの機能を設定した場合、車両の電源をOFFにするとすべてのドアが自動的にロック解除されます。

詳細については、別途提供されるインフォテインメントシステムマニュアルを参照してください。

エアバッグ展開時の追加のセーフティーロック解除機能

追加の安全機能として、衝突によりエアバッグが展開した場合、すべてのドアが自動的にロック解除されます。

電子チャイルドロック



電子チャイルドロックボタンを押してボタンのインジケーターが点灯しているときは、車両の内側から後席ドアを開けることはできません。

- 電子チャイルドロックボタンが LOCK の位置にあるとき（インジケーター点灯）は、後席ウィンドウの開閉はできません。

  詳細については、本章の「ウィンドウ ウィンドウ」を参照してください。
- 電子チャイルドロックは、運転者が電子チャイルドロックボタンを押さない限り、自動的にオンになることはありません。
- EV START/STOP ボタンを OFF または ACC にしてから 3 分が経過すると、ボタンのインジケーターが消灯し、運転者はボタンを押しても電子チャイルドロックを解除できなくなります。電子チャイルドロックを OFF にするには、EV START/STOP ボタンを ON にしてから、電子チャイルドロックボタンを押します。
- 電子チャイルドロックボタンが LOCK の位置にあるときに、バッテリーを取り外すかバッテリーが放電状態になり、その後電力が再度供給された場合は、もう一度ボタンを押して、電子チャイルドロックボタンのインジケーターの状態と、電子チャイルドロック機能の実際の状態を一致させてください。

- 電子チャイルドロックボタンが LOCK の位置にあるとき（インジケーター点灯）にエアバッグが作動した場合、後席ドアは自動的にロック解除されます。
- 電子チャイルドロック機能が搭載されている車両には、手動チャイルドロックは装備されていません。

⚠ 警告

車両の走行中にお子様が誤って後席ドアを開けた場合、お子様が車両から転落する可能性があります。お子さまが乗車しているときは、必ず電子チャイルドロックを使用してください。

知識

チャイルドロックを点検してください



ボタンを押しても電子チャイルドロックが作動しない場合、メッセージが表示され、アラームが鳴ります。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

降車安全アシスト（電子チャイルドロックが搭載されている場合）

降車安全アシストは、後席乗員が後席ドアを開けられないようにする機能です。停車後に後方から近づいてくる車両を検知した場合、運転者が電子チャイルドロックボタンで後席ドアをロック解除しようとしても後席ドアはロック解除されません。

詳細については、第7章の「降車安全アシスト（SEA）降車安全アシスト（SEA）」を参照してください。

盗難警報システム

このシステムは、車両や貴重品の盗難防止に役立ちます。以下のいずれかの場合、クラクションが鳴り、ハザードライトが点滅し続けます。

- スマートキーを使用せずにドアが開けられた。
- スマートキーを使用せずにテールゲートが開けられた。
- ボンネットが開けられた。

アラームは30秒間続き、その後システムが初期化されます。アラームをオフにするには、スマートキーを使用してドアをロック解除します。

盗難警報システムは、ドアとテールゲートをロックしてから30秒後に自動的に設定されます。システムを作動させるには、以下のいずれかの方法により、車両の外側からドアとテールゲートをロックする必要があります。

- スマートキーを使用する。
- スマートキーを持った状態で外側ドアハンドルにあるボタンを押す（ボタンタイプで利用可能）。
- スマートキーを持った状態で外側ドアハンドルにあるタッチセンサーに触れる（タッチセンサータイプで利用可能）

システムが設定されるとハザードライトが点滅します。

セキュリティシステムの設定後は、スマートキーを使用せずにドア、テールゲート、またはボンネットを開けるとアラームが作動します。

ボンネット、テールゲート、またはドアが完全に閉まっていない場合、盗難警報システムは設定されません。システムが設定されない場合は、ボンネット、テールゲート、またはドアが完全に閉まっているか確認してください。

このシステムに変更を加えたり、他のデバイスを追加したりしないでください。

i 情報

- すべての乗員が降車するまではドアをロックしないでください。システムの設定後にドアを開けると、アラームが作動します。
- スマートキーを使用してもシステムを解除できない場合、メカニカルキーを使用してドアを開け、スマートキーを携帯した状態で EV START/STOP ボタンを押して車両を始動してください。
- 車両のロック解除によりシステムを解除した場合、30 秒以内にドアやテールゲートを開かないと、ドアは再ロックされ、システムは自動的に再設定されます。

i 情報



盗難警報システムが搭載されている車両には、以下の文言が記載されたラベルが貼られています。

1. 警告
2. セキュリティシステム

後部座席乗員通知（センサー付）（ROA）

後部座席乗員通知は、後席の乗員を車内に残したまま運転者が車両を離れることを防ぐためのものです。

このシステムは乳幼児やお子さまが後席にいることを検知できるように設計されています。

設定

後部座席乗員通知を使用するには、インフォテインメントシステム画面の設定メニューで有効にする必要があります。**設定** > **車両** > **便利機能** > **後部座席乗員通知**を選択します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

作動

- 1 回目の通知

  以下のすべての条件が満たされている場合、車両の電源を切り、運転席ドアを開けると、メーターに警告メッセージが表示されます。

  - 運転後
  - 走行前後に後席ドアが開閉された

- 2 回目の通知

  1 回目の通知後、運転席ドアが閉まり、すべてのドアがロックされた後に、乳幼児やお子さまの存在を検知すると、2 回目の通知が作動します。約 25 秒間ホーンが鳴ります。システムがその後も引き続き動きを検知した場合は、この通知が最大 8 回作動します。

  スマートキーでドアをロック解除すると、通知が停止します。

- 本システムは、ドアのロック後 10 分間にわたって車内の動きを検知します。

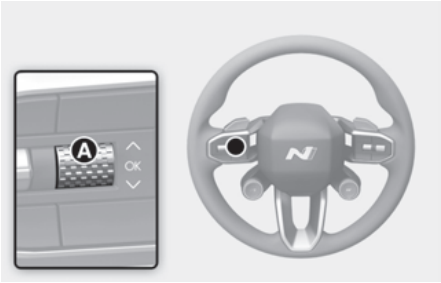
i 情報

- 2 回目の通知は、1 回目の通知が作動した場合にのみ作動します。
- 後部座席乗員通知を使用しない場合は、1 回目の通知がクラスターディスプレイに表示されたときに、ステアリングホイールの OK ボタン [A] を押します。これにより、2 回目の通知が一度だけ無効になります。

クラスターディスプレイ



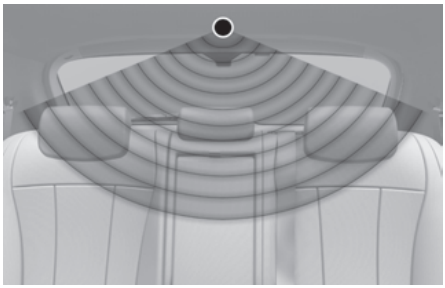
ステアリングホイール



- リモートで車両を始動すると、車内の動きの検知が停止します。

注意事項

センサー



- すべてのウィンドウが閉まっていることを確認してください。ウィンドウが開いている場合、センサーが予期せぬ動き（風や虫など）を検知して機能が作動する可能性があります。
- このシステムは、後席に座っている乳幼児の動きを検知することを目的としていますが、以下の状態でも作動する場合があります。
- システムがペットや他の生き物をお子さまと誤って認識した場合
- システムが運転席や助手席の動きを検知した場合（シートのリクライニングやリラクゼーションモードなど）
- 車両がロックされた後に、衝撃を受けたり、押されたり、揺らされたりした場合（洗車中、および外部の騒音や振動などにより）
- 車内に金属や液体の物体がある場合
- 車内にある積み重ねられた箱などが崩れた場合

⚠ 警告

車両にこのシステムが装備されている場合でも、必ず車両を離れる前に後席を確認してください。

次のようなとき、このシステムは作動しない場合があります。

- 動きが一定時間継続しないか、動きが小さい
- お子さまがチャイルドシートに座っていない
- 信号が座席やチャイルドシートによって遮られると、検知が弱くなる場合があります
- 乗員が 6 歳を超える子供である
- 乗員が金属物質を含む生地（ブランケットなど）を羽織っている
- 車内にある物体でセンサーが遮断されている
- センサーが異物で汚れている
- 後席の動物が、センサーが検知できないほど小さいか、ほとんど動かない
- 車内の天井に物を取り付けてある、車内の天井が改造されている、または変形、損傷している
- 車両周辺が電子的干渉を受けている
- その他の環境的要因により、システムが影響を受けている

ステアリングホイール

電動パワーステアリング（MDPS）

このシステムはステアリングホイール操作をアシストします。車両の電源がOFFの場合、または電動パワーステアリングが動作していない場合、ステアリングホイールを操作することは可能ですが、より多くの力が必要となります。

通常の車両操作中にステアリングホイール操作に必要な力の変化に気づいた場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

⚠ 注意

電動パワーステアリングが正常に動作していない場合、インストルメントクラスターに警告灯が点灯し、「**パワーステアリングシステムを点検してください**」というメッセージが表示されます。ステアリングを操作することは可能ですが、通常より多くの力が必要となります。なるべく早く車両を弊社認定修理業者に持ち込み、システムの点検をご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

通常の車両操作時:

- EV START/STOP ボタンを ON の位置にした直後は、ステアリングホイール操作により多くの力が必要になることがあります。

  これは、システムが MDPS システムの診断を行うためです。診断が終わると、ステアリングホイール操作に必要な力は通常レベルに戻ります。
- バッテリーの電圧が低い場合、ハンドル操作により多くの力が必要になることがあります。これは一時的な状態であり、バッテリー充電後に通常の状態に戻ります。
- EV START/STOP ボタンを ON または OFF の位置にした後で、MDPS リレーからカチッという音が聞こえる場合があります。
- 停車中または低速走行中に、モーター音が聞こえることがあります。
- 気温が低いときにステアリングホイールを操作した場合、異音が発生する場合があります。気温が上昇すると異音はなくなります。これは正常な状態です。
- MDPS のエラーが検知された場合、死亡事故を防ぐため、ステアリング操作アシスト機能は作動しません。インストルメントクラスターの警告灯が点灯するか、ステアリング操作により多くの力が必要になります。このような兆候が見られた場合は、周囲に危険がないことを確認でき次第、車両を安全な位置に移動してください。なるべく早く弊社認定修理業者にシステムの点検をご依頼いただくことを推奨します。

チルト / テレスコピックステアリング

ステアリングホイールを使いやすい位置に調節する際は、ステアリングホイールが顔ではなく胸の方を向くように調節します。インストルメントクラスターの警告灯や計器が見えることを確認してください。調節後、ステアリングホイールを上下に押して、所定の位置にロックされていることを確認します。

運転を開始する前に、必ずステアリングホイールの位置を調節してください。

⚠ 警告

運転中はステアリングホイールを調整しないでください。これにより、車両が制御不能になり、衝突につながるおそれがあります。

知識

ステアリングホイールの高さを調整する際は、強い力で押したり引いたりしないでください。固定具が損傷することがあります。

手動調節

調節方法：

1. ロック / ロック解除レバー（1）を下に引きます。
2. ステアリングホイールの角度（2）と前後の距離（3）をお好みに合わせて調節します。



3. ロック / ロック解除レバーを上に引き上げて、ステアリングホイールの位置をロックします。

i 情報

時々、ロック/ロック解除レバーが完全にかみ合わないことがあります。これは、ロック機構のギアが完全にかみ合っていない場合に起こります。この場合は、ロック / 解除レバーを下に引き、ステアリングホイールを再調節してからロック / 解除レバーを上に戻し、ステアリングホイールを所定の位置でロックします。

ステアリングホイールヒーター



前席の空調パネルにあるボタンを押します。



車両の電源が入っている状態でボタンをタッチすると、ステアリングホイールが温まります。

- 手動温度調節

  ボタンを押すたびに、温度は以下のように変化します。

  - OFF > HIGH > LOW
  - LOW の状態で ボタンを押すと、ステアリングホイールヒーターは OFF になります。

- 自動温度調節

  手動で ON にすると、ステアリングホイールヒーターが、ステアリングホイール温度を自動で制御し始めます。

  - HIGH が手動で選択されている場合：

    ステアリングホイールヒーターは、30 分後に LOW の位置に自動的に切り替わります。ボタンを押して OFF の位置にすると、ステアリングホイールヒーターを OFF にすることができます。

  - LOW が手動で選択されている場合：

    ステアリングホイールヒーターは自動で制御されません。

知識

- ステアリングホイールヒーターシステムへの損傷を防ぐため、ステアリングホイールにカバーやアクセサリーを取り付けないでください。
- 先の尖った物でステアリングホイールを叩かないでください。ステアリングホイール内部のヒーター部品が損傷する可能性があります。

ステアリングホイール振動警告

ステアリングホイール振動警告が利用可能な場合、システムが危険な状況を知らせる際に、運転者アシストシステムがステアリングを振動させて運転者に警告します。

ステアリング振動警告の設定

車両の電源をONにした状態で、以下を選択します。

インフォテインメントシステムの**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > > **ステアリング振動警告**。

ホーン



クラクションを鳴らすには、ステアリングホイールのクラクションマークのある場所を押します(図を参照)。この場所を押したときにのみ、クラクションが作動します。

知識

クラクションを鳴らすときに強く叩いたり、拳で叩いたりしないでください。先の尖ったものでホーンパッドを押さないでください。

知識

以下の物を使用して、ステアリングホイールを清掃しないでください。

- シンナー、アルコール、ガソリンなどの有機溶剤
- レザークリーナー、コーティング剤、ワックスなどの化学製品

ミラー

インサイドミラー

運転を開始する前に、インサイドミラーが適切な位置にあることを確認してください。インサイドミラーの中央にリアウィンドウ越しの視界が映るように調節してください。

⚠ 警告

視界が遮られないようにしてください。後席上やラゲッジルーム内、または後席ヘッドレストの後ろに物を置かないでください。リアウィンドウ越しの視界が遮られる場合があります。

⚠ 警告

事故の際、またはエアバッグ展開時に重大な傷害を負わないように、インサイドミラーを改造したり、幅の広いミラーを取り付けたりしないでください。

⚠ 警告

運転中は絶対にミラーを調節しないでください。これにより、車両が制御不能になり、衝突事故につながるおそれがあります。

知識

ミラーを掃除する時は、ガラスクリーナーで湿らせたペーパータオルなどを使用してください。ガラスクリーナーを直接ミラーに噴射しないでください。クリーナーの液体がミラーハウジング内に入り込むおそれがあります。

ECM ルームミラー（ECM）



[A] センサー

車両が走行中の場合(READYインジケーターがオン)、後続車両のヘッドライトの眩しさがインサイドミラーに取り付けられたセンサーによって自動的に制御されます。

シフトがR(リバース)にされると、ミラーは自動的に最も明るい設定になり、運転者の車両後方の視界を向上させます。

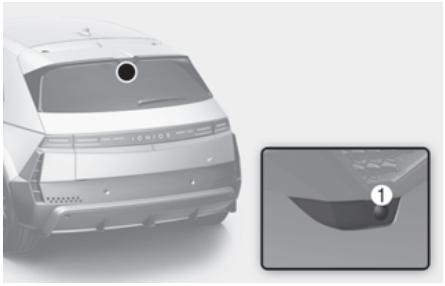
デジタルセンターミラー（DCM）

装備されている場合

デジタルセンターミラーは車両後方にあるカメラを使用するシステムで、その映像をデジタルセンターミラーの画面に表示します。デジタルセンターミラーを使用すると、運転者はヘッドレストや荷物などの障害物があったとしても、後方の視界を確保することができます。

⚠ 警告

- デジタルセンターミラーの適切な使用に関する警告や指示に従わなかった場合、重大な事故につながるおそれがあります。
  - デジタルセンターミラーは便利機能であり、適切な車両操作に取って代わるものではありません。このシステムには物体を視認できない領域があります。車両の操作前にデジタルセンターミラーの死角を確認してください。運転者には常に安全に運転する責任があります。
  - 運転中にデジタルセンターミラーを操作しないでください。操作を行うと運転に集中できず、車両のコントロールを失い、事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
  - デジタルセンターミラー、カメラユニット、配線は、分解したり改造したりしないでください。事故や火災が発生する場合があります。デジタルセンターミラーから煙が出ていたり、異臭がしたりする場合は、直ちにシステムの使用を中止してください。弊社認定修理業者に点検をご依頼いただくことを推奨します。
- 運転前に必ずデジタルセンターミラーを調整してください。
  - システムを従来のインサイドミラーモードに切り替え、運転席に正しく座ります。その後、リアウィンドウが適切に映るようミラーを調整します。
  - レバーを奥まで押してデジタルミラーモードに切り替え、表示設定を調整します。ミラーを調整せずに運転すると、ミラー表面からの反射により、デジタルミラーモード（カメラビューモード）の表示が見づらくなる場合があります。
  - デジタルセンターミラーが映し出す映像の範囲は従来のインサイドミラーと異なるため、運転前にこの差を必ず確認してください。
- デジタルセンターミラーに故障が発生した場合は、直ちに従来のインサイドミラーモードに切り替えてください。
- 強い光（直射日光や後続車のハイビームなど）がカメラに当たると、光線や眩しい光がデジタルセンターミラーのモニター画面に現れる場合があります。この場合は、適宜、従来のインサイドミラーモードに切り替えてください。



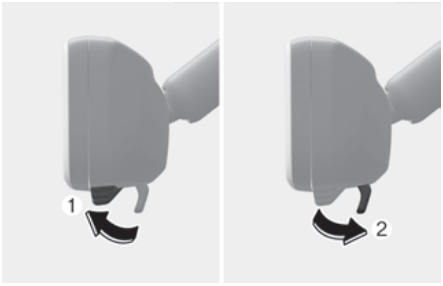
- カメラレンズ（1）が汚れていると、表示される映像が不鮮明になる場合があります。このような場合は、水で湿らせた柔らかい布や綿棒で清掃してください。

システムコンポーネント



1. アイコン表示部：アイコンの表示、明るさと傾きの調整
2. レバー：デジタルミラーモードとインサイドミラーモードを切り替えます。
3. メニューボタン：押すとアイコン表示部が表示され、調整する項目（明るさと傾き）を選択できます。
4. 選択 / 調整ボタン：押すと調整する項目の設定を変更できます。
5. カメラインジケーター：カメラが正常に作動していることを示します。

モードの変更方法



モードは、スイッチがON位置にある場合に切り替えることができます。

1. モード選択レバーを完全に引くと、デジタルセンターミラーモード（カメラビューモード）に切り替わります。

i 情報

車両後方の映像が表示されます。このモードでは、カメラ（□）インジケーターが表示されます。

2. モード選択レバーを完全に押すと、光学インサイドミラーモードに切り替わります。

i 情報

デジタルセンターミラーの表示をオフにすると、光学インサイドミラーとして使用できます。

ミラーの高さの調整



インサイドミラーの高さは、運転姿勢に合わせて調整できます。

インサイドミラーモードに切り替え、インサイドミラーを上下に動かして角度を調整します。

表示設定（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの表示を設定します。



1. メニューボタン（1）を押します。表示の明るさと垂直方向の角度を調整できます。

アイコン表示	設定
	選択すると、表示の明るさを調整できます。
	選択すると、表示を調整できます。

2. メニューボタンを繰り返し押して、調整する項目を選択します。
3. ボタン（2）またはボタン（3）を押して、設定を変更します。

   ボタンが 5 秒以上操作されないと、アイコンの表示が消えます。

i 情報

デジタルミラーモードの明るさ設定が高すぎる場合、目が疲れる場合があります。

デジタルミラーモードを適切な明るさに調整してください。目が疲れてきた場合は、インサイドミラーモードに切り替えてください。

ライトセンサーの故障を防ぐ



ライトセンサーの故障を防ぐために、センサーを触ったり、覆ったりしないでください。

デジタルミラーモードの作動条件

EV START STOPボタンがONの位置にある。

EV START STOPボタンがONの位置からOFFやACCの位置に変えられると、映像は表示されなくなります。

デジタルミラーモードでデジタルセンターミラーを使用している場合

- テールゲートが開いている場合、デジタルセンターミラーの映像が適切に表示されない場合があります。運転前に、テールゲートが閉じていることを確認してください。
- 反射光により表示が見にくい場合は、サンルーフのサンシェード（搭載されている場合）を閉じてください。
- 夜間など暗いところを走行すると、次のような状態が発生する場合があります。いずれも故障の発生を示しているわけではありません。
  - 映像に映っている物体の色が実際の色と異なる場合があります。
  - 体調や年齢によっては、表示された映像に焦点が合うまで、通常より時間がかかる場合があります。このような場合は、インサイドミラーモードに切り替えてください。
  - 走行中は表示された映像を同乗者に凝視させないでください。乗物酔いになる場合があります。

システムの故障時



デジタルミラーモードでデジタルセンターミラーを使用している際に、図に示されているような記号が表示された場合は、システムが故障している可能性があります。この記号は、数秒で消えます。レバーを操作してインサイドミラーモードに切り替えて、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 注意

デジタルセンターミラーの故障を防ぐには

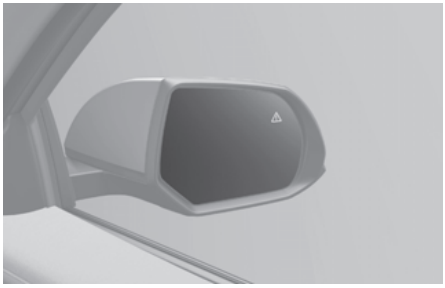
- ミラーの清掃には、シンナー、ベンジン、アルコールなどの洗剤を使用しないでください。ミラー表面が変色したり、劣化したり、損傷したりする可能性があります。
- ミラーおよびカメラの取り外し、分解、改造は行わないでください。
- 有機溶剤、車用ワックス、窓用クリーナー、ガラスコーティング剤をカメラに付着させないでください。もし付着した場合は、できるだけ早くふき取ってください。
- カメラレンズを清掃する際は、湿らせた柔らかい布を使用してください。
- カメラレンズを強くこすらないでください。傷がついて鮮明な映像が送信できなくなる場合があります。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。故障する場合があります。もし衝撃を与えてしまった場合は、なるべく早く弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

- 車両の電源が入っていないときにシステムを ON の位置で操作すると、バッテリーが放電してしまう場合があります。
- デジタルセンターミラーの近くに無線機器のアンテナを取り付けないでください。無線機器の電波により、デジタルセンターミラーの映像が乱れる場合があります。
- 過度にボタンを押したり、レバーを乱暴に操作したりしないでください。システムの故障やデジタルセンターミラー本体の落下につながるおそれがあります。
- デジタルセンターミラーの本体を 90° 以上回さないでください。デジタルセンターミラーが破損するおそれがあります。デジタルセンターミラー本体に強い衝撃を与えないでください。システムが故障するおそれがあります。
- 外部からの強い光によりデジタルセンターミラーの表示画面が見づらい場合は、使いやすくするために従来の光学インサイドミラーモードに切り替えてください。

デジタルセンターミラーのエラーアイコンと解決策

兆候	考えられる原因	解決策
画面右側に高温(⇨)アイコンが表示されている場合	デジタルセンターミラーが非常に高温になっています。(表示は徐々に暗くなります。温度が上がり続ける場合、デジタルセンターミラーはOFFになります。)	ミラーの温度を下げるために、車内温度を下げることを推奨します。(アイコンの表示は、ミラーが冷却されるとなくなります。)ミラーが冷却されてもアイコンが消えない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
表示(▭)アイコンが表示(▭)エラーアイコンに切り替わった場合	システムが故障している可能性があります。	インサイドミラーモードに切り替えて、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

アウトサイドミラー



この車両には、左右にアウトサイドミラーが装備されています。アウトサイドミラーは、アウトサイドミラーコントロールスイッチを使用して調節できます。運転する前に、アウトサイドミラーをお好みの位置に調節します。自動洗車時や狭い道路の通過時は、アウトサイドミラーが損傷しないように格納することができます。

⚠ 警告

左右のアウトサイドミラーは凸面です。アウトサイドミラーに映っている対象物は、実際にはもっと近くにあります。

車線を変更する前に、インサイドミラーを使用したり、直接確認したり、他の車両との実際の距離を確認してください。

⚠ 警告

運転中はアウトサイドミラーの調節や格納を行わないでください。これにより、車両が制御不能になり、衝突につながるおそれがあります。

知識

- ミラー表面の氷を削り取らないでください。ガラスの表面が損傷するおそれがあります。
- 氷が付着してミラーが動作しない場合は、無理にミラーを調節しないでください。承認されている除氷剤（ラジエーター不凍液は使用しないでください）や、高温の温水で濡らしたスポンジまたは柔らかい布を使用するか、車両を暖かい場所に移動して氷を溶かしてください。
- 強力な研磨剤、燃料、その他の石油ベースのクリーニング製品を使用してミラーを掃除しないでください。

調整



調整

1. スイッチ（1）を L（左側）または R（右側）に切り替えて、調整したいアウトサイドミラーを選択します。
2. アウトサイドミラーコントロールスイッチ（2）を使用して、選択したアウトサイドミラーの位置を上下左右に調整します。
3. 調整後、誤作動を防ぐため、スイッチ（1）を中央に戻してください。

知識

- 最大調節角度に達するとミラーの動作は停止しますが、スイッチを押している間、モーターは動作し続けます。モーターが損傷するおそれがあるため、必要以上に長くスイッチを押さないでください。
- モーターの損傷を防ぐため、アウトサイドミラーは手動で調節しないでください。

格納

格納ボタン



このボタンを押すことで、アウトサイドミラーの格納と展開を行うことができます。

インフォテインメントシステムの設定

- ドアロック解除時

  設定 > **車両** > **ライト** > **ウェルカムミラー** > **ドア解錠時**がインフォテインメントシステムで選択されている場合、次のように動作します。

  - スマートキーを使用してドアをロックまたはロック解除すると、アウトサイドミラーが格納または展開されます。
  - 外側ドアハンドルのタッチセンターに触れてドアをロックまたはロック解除すると、アウトサイドミラーが格納または展開されます。
- 運転者接近時に有効にする

  設定 > **車両** > **ライト** > **ウェルカムミラー** > **運転者接近時**がインフォテインメントシステムで選択されている場合、スマートキーを持って車両に近づくとアウトサイドミラーが展開されます。

i 情報

- インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。
- 安全のため、15km/h 以上の速度で走行しているときは、アウトサイドミラーを自動で格納することはできません。

知識

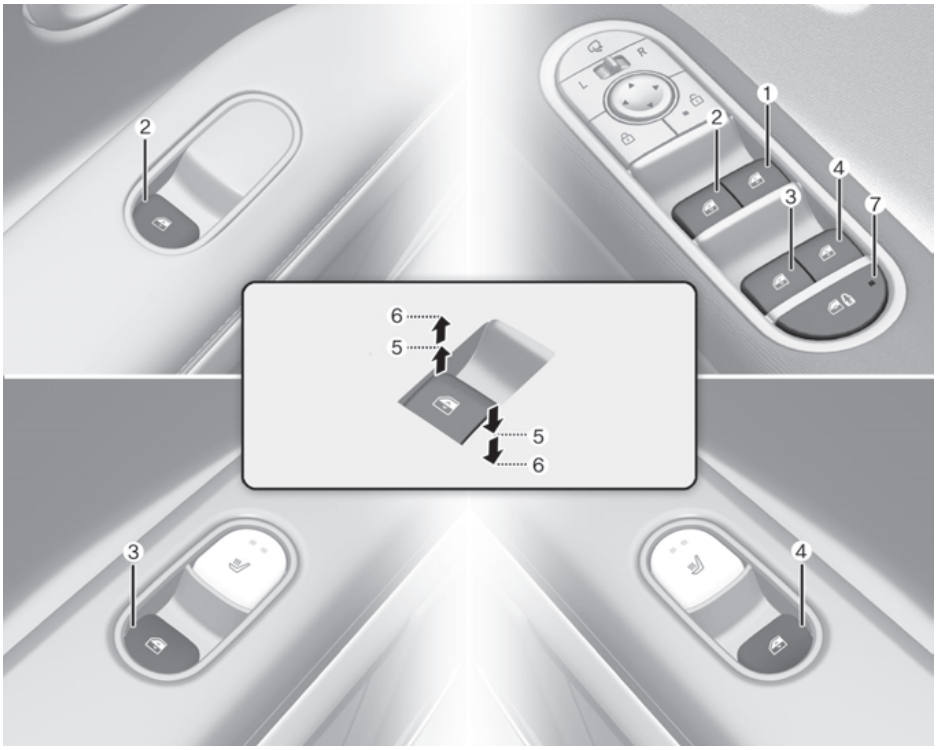
バッテリーの不要な放電を避けるため、車両の電源がONになっていないときは、必要以上に長くアウトサイドミラーを調整しないでください。

知識

電動タイプのアウトサイドミラーを手動で格納しないでください。モーターが損傷するおそれがあります。

ウィンドウ

前席 / 後席



(1) 運転席ドアのパワーウィンドウスイッチ
(2) 助手席ドアのパワーウィンドウスイッチ
(3) 後席ドア（左）のパワーウィンドウスイッチ
(4) 後席ドア（右）のパワーウィンドウスイッチ
(5) ウィンドウの開閉
(6) 自動パワーウィンドウ
(7) パワーウィンドウロックスイッチ / 電子チャイルドロック（装備されている場合）

パワーウィンドウ

ウィンドウを開閉するには、EV START/STOPボタンをONの位置にしている必要があります。各ドアには、それぞれのウィンドウを制御するためのパワーウィンドウスイッチが付いています。運転席には、後席でウィンドウ操作をできないようにするパワーウィンドウロックボタンが付いています。パワーウィンドウは、EV START/STOPボタンをACCまたはOFFの位置にした後も、約3分間作動します。前席ドアを開けるとバッテリーの電源がOFFになり、パワーウィンドウは作動しません。

ウィンドウ開閉



開け方:

ウィンドウスイッチを下方向に、第1段階位置まで押します(5)。ウィンドウを止めたいところでスイッチを離します。

閉め方:

ウィンドウスイッチを上方向に、第1段階位置まで引きます(5)。ウィンドウを止めたいところでウィンドウスイッチを離します。

ウィンドウ自動開閉

パワーウィンドウスイッチを第2段階位置(6)まで一瞬でも押すと、スイッチを離した後も全開または全閉するまでウィンドウが動きます。ウィンドウの自動作動中にお好みの位置で止めるには、スイッチを第1段階位置まで上に引くか下に押してから、スイッチを離します。

⚠ 警告

- 車両の電源を ON にした状態でキーを車内に置いたまま、お子さまを車両に残さないでください。お子さまがウィンドウを操作して重大な傷害を負うおそれがあります。
- 走行中は、頭や腕などの体の一部、またはものをウィンドウから出さないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。

パワーウィンドウ初期化

パワーウィンドウが正常に動作しない場合は、次の手順に従って自動パワーウィンドウシステムを初期化する必要があります。

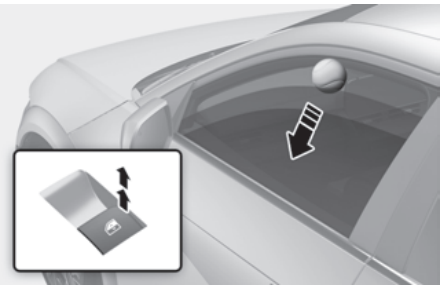
1. EV START/STOP ボタンを ON の位置にします。
2. ウィンドウを閉めた後、パワーウィンドウスイッチを 1 秒以上、上に引き続けます。

再設定してもパワーウインドウが正常に動作しない場合は、弊社認定修理業者にご連絡いただくことを推奨します。

⚠ 警告

ウィンドウを閉める前に、身体の一部やその他のものが挟まる危険がないか確認してください。パワーウィンドウシステムを初期化している間、オートマチックリバース機能は作動しません。

オートマチックリバース



ウィンドウが自動的に閉まっている途中で障害物が検知されると、障害物を取り除けるようにウィンドウが停止し、約30cm下がります。

パワーウィンドウスイッチを引き上げている状態でウィンドウが抵抗を検知すると、ウィンドウは上方向への移動を停止し、約2.5cm下がります。

オートマチックウィンドウリバース機能によってウィンドウが下がった後、5秒以内に再度パワーウィンドウスイッチを引き上げ続けた場合、オートマチックウィンドウリバースは作動しません。

i 情報

オートマチックリバース機能は、スイッチを第2段階位置まで完全に引き上げて「オートアップ」機能を使用している場合にのみ有効になります。

知識

ウィンドウにはアクセサリーを取り付けないでください。自動リバース機能が作動しない場合があります。

⚠ 警告

けがや車両の損傷を防ぐため、ウィンドウを閉じる前に身体の部分やその他のものが挟まる危険がないかを十分に確認してください。

直径4mm未満の物がウィンドウガラスとウィンドウ上部の溝の間に挟まった場合はオートマチックウィンドウリバースが検知せず、ウィンドウが停止やリバース動作を行わないことがあります。

パワーウィンドウロックボタン



運転者は、パワーウィンドウロックボタンを押すことで後席ドアのパワーウィンドウスイッチを無効することができます。

パワーウィンドウロックボタンを押すと、以下のようになります。

- 運転席のパワーウィンドウスイッチは、すべてのパワーウィンドウを操作できます。
- 助手席のパワーウィンドウスイッチは、助手席のパワーウィンドウを操作できます。
- 後席のパワーウィンドウスイッチでは、後席のパワーウィンドウを操作できません。

⚠ 警告

お子さまがパワーウィンドウで遊ばないようにしてください。運転席ドアのパワーウィンドウロックボタンはLOCKの位置にしたままにしてください。お子さまが誤ってウィンドウを操作し、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

知識

- パワーウィンドウシステムの損傷を防ぐため、同時に 2 つ以上のウィンドウの開閉を行わないでください。これを避けることで、ヒューズの寿命を延ばすこともできます。
- 運転席ドアのメインスイッチと、それ以外の各ドアのウィンドウスイッチを、同時に反対方向に操作しないでください。これを行うと、ウィンドウが停止して開閉できなくなります。

リモートウィンドウ開閉機能

装備されている場合



- ドアロックボタン（1）を 3 秒以上長押しすると、ドアのロック後に前席ウィンドウが上がります。ドアロックボタンを離すとウィンドウの動きは止まります。
- ドアロック解除ボタン（2）を 3 秒以上長押しすると、ドアのロック解除後に前席ウィンドウが下がります。ドアロック解除ボタンを離すとウィンドウの動きは止まります。
- リモートウィンドウ開閉機能は、インフォテインメントシステムでオン / オフを切り替えることができます。**設定** > **車両** > **ドア** > **リモートウィンドウ制御**を選択して、オンまたはオフにします。

i 情報

- リモートウィンドウ開閉機能は、セーフティーパワーウィンドウが装備されている場合にのみ作動します。
- リモートウィンドウ開閉機能は、操作中に車両を離れた場合に、突然停止することがあります。ウィンドウが動いている間は車両のそばを離れずに、ウィンドウの動作を確認してください。
- ウィンドウの 1 枚が一定の力で妨害されると、そのウィンドウの動作が停止する場合があります。ただし、他のウィンドウは引き続き動作します。すべてのウィンドウが閉まっていることを確認してください。
- リモートウィンドウ開閉機能を使用してウィンドウを開けた場合、ドアがロック解除されます。

⚠ 警告

リモートウィンドウ開閉機能を使用する前に必ず、ウィンドウに腕、手、頭その他の障害物が挟まる危険がないかを十分確認してください。

⚠ 注意

盗難や水の浸入による損傷を防ぐため、車両から離れるときはウィンドウを開けたままにしないでください。

ビジョンルーフ

装備されている場合



車両にビジョンルーフが装備されている場合、パワーサンシェードをスライドさせて開けると、全面ガラスのサンルーフが現れます。

パワーサンシェード

パワーサンシェードを使用すると、ビジョンルーフのガラスから差し込む直射日光を防ぐことができます。





パワーサンシェードは、EV START/STOPボタンで車両の状態をONまたは、READYモードに切り替えることで操作できます。

- ビジョンルーフスイッチを後ろに押すと、パワーサンシェードが自動的にスライドして開きます。
- ビジョンルーフスイッチを前に押すと、パワーサンシェードが自動的に閉まります。

パワーサンシェードの動作を停止させるには、スイッチをいずれかの方向に押します。

i 情報

- パワーサンシェードは、EV START/STOP ボタンを ACC または OFF の位置にしてから約 3 分間操作できます。ただし、前席ドアが開いている場合、3 分以内であってもパワーサンシェードを操作することはできません。
- パワーサンシェードにできるシワは、素材の特性によるものであり、異常ではありません。

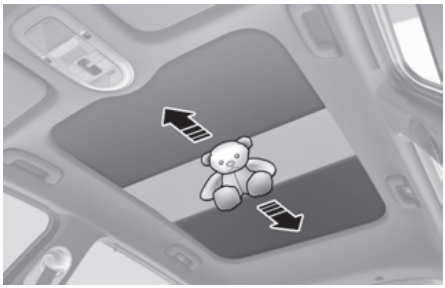
⚠ 警告

- パワーサンシェードは車両が停止しているときに操作してください。車両の制御を失って事故を引き起こし、けがや物的損害につながるおそれがあります。
- 車両の電源を ON にした状態でキーを車内に置いたまま、お子さまを車両に残さないでください。お子さまがパワーサンシェードを操作してけがをするおそれがあります。
- 車両の上に座らないでください。けがや車両の損傷につながるおそれがあります。

知識

パワーサンシェードを手で引いたり押したりしないでください。パワーサンシェードが損傷したり、誤作動したりするおそれがあります。

オートマチックリバース



パワーサンシェードが自動的に閉じている間に障害物を感知すると、反対方向に動作してから一定の位置で停止します。

薄いものや柔らかいものがパワーサンシェードとビジョンルーフサッシの間に挟まった場合、オートリバース機能が動作しないことがあります。

⚠ 警告

- パワーサンシェードを操作する前に、頭や腕などの体の一部や、ものが挟まる危険がないか十分に確認してください。体の一部や物が挟まった場合、けがや車両の損傷につながるおそれがあります。
- 体の一部を使用してオートリバース機能をテストすることは絶対にしないでください。パワーサンシェードの動作方向が反対になる場合にも、けがをするおそれがあります。

知識

パワーサンシェードが完全に開閉した後もスイッチを押し続けることはしないでください。パワーサンシェードのモーターが損傷する可能性があります。

初期化



状況によっては、パワーサンシェードの動作の初期化を行う必要があります。以下の場合に、パワーサンシェードの初期化が必要になります。

- 12V バッテリーが切断されたか、放電した場合
- パワーサンシェードのヒューズを交換した場合
- パワーサンシェードのワンタッチ自動開閉操作が正常に機能しない場合

ビジョンルーフの初期化手順:

1. 初期化手順は、車両を Ready モードにしてから行うことを推奨します。車両を始動して、シフトが P（パーキング）に入っていることを確認します。
2. パワーサンシェードが完全に閉まっていることを確認します。パワーサンシェードが開いている場合は、完全に閉まるまでスイッチを前方に押します。
3. パワーサンシェードが完全に閉まったらスイッチを離します。
4. パワーサンシェードが少し動くまでスイッチを前方に押します。その後、スイッチを離します。
5. パワーサンシェードがスライドして開閉するまで、もう一度スイッチを前方に押し続けます。この動作が完了するまで、スイッチを離さないでください。

   動作中にスイッチを離した場合は、ステップ 2 から手順をやり直してください。

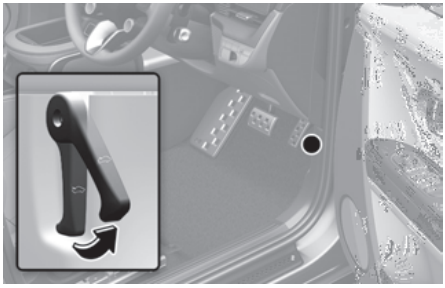
i 情報

車両のバッテリーが切断された場合や放電した場合、またはパワーサンシェードのヒューズが飛んだ場合、パワーサンシェードの初期化を行わないと、パワーサンシェードが正常に動作しない可能性があります。

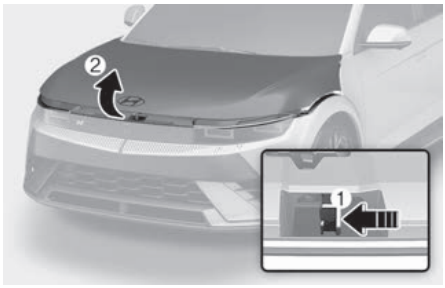
ボンネット

ボンネットオープン

1. 車両を駐車し、パーキングブレーキをかけます。
2. ボンネット解除レバーを引いてボンネットのラッチを外します。ボンネットがわずかに開きます。



3. 車両の前側に行き、ボンネットを少し持ち上げ、ボンネット中央内側にある第 2 ボンネット解除レバー（1）を左に押し、ボンネット（2）を持ち上げます。



ボンネットを半分ほど持ち上げると、残りは自動で開きます。

ボンネットクローズ

1. ボンネットを閉じる前に、モーターコンパートメント内とその周囲を点検し、次のことを確認します。
   - 工具やその他の付属品以外のものがすべて取り除かれている。
   - 手袋、布切れ、その他の可燃物がすべて取り除かれている。
   - すべてのフィラーキャップがしっかりと正しく取り付けられている。
2. ボンネットを、閉じた位置から約 30cm 上の位置まで下げ、それから手を離して落とします。
3. ボンネットが適切にロックされていることを確認します。ボンネットが少し上がっていたら、再度開け、もう少し高いところから落とします。再度確認します。

⚠ 警告

- ボンネットを閉める前に、ボンネット開口部から障害物がすべて取り除かれていることを確認してください。
- 発進する前には、必ずボンネットのラッチがしっかりと掛かっていることを確認してください。ボンネットが開いていることを示す警告灯やメッセージがインストルメントクラスターに表示されていないことを確認してください。ボンネットが開いたまま走行すると、視界が完全に遮られて衝突につながるおそれがあります。
- ボンネットを上げたまま車両を移動させないでください。視界が遮られ、衝突につながるおそれがあります。

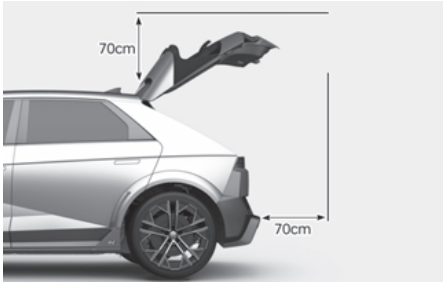
パワーテールゲート

作動条件

パワーテールゲートは、EV START/STOPボタンがON位置にある状態で、シフトをP(パーキング)に入れているときに作動します。車両の電源がOFFになっている場合、パワーテールゲートはシフトの位置にかかわらず作動します。

⚠ 警告

- お子様や動物を車内に放置しないでください。お子様がパワーテールゲートを操作する と、重大な傷害や物的損害につながるおそれがあります。
- 使用前に、パワーテールゲートまたはスマートテールゲートの通り道に人や物がないことを確認してください。パワーテールゲートに接触すると、重大な傷害や車両の損傷、周囲の物（壁、天井、車両など）の破損につながるおそれがあります。



- テールゲートは、次の状況では開かなかったり意図せずに閉じたりして、周囲の人がけがをする可能性があります。
  - テールゲートに多量の雪が積もっている。
  - 自転車のキャリア、はしごなど、テールゲート上に重い物がある。

  テールゲート上の雪や重い物を取り除いてから、テールゲートを開けるようにしてください。

知識

- 手動でパワーテールゲートを開閉しないでください。パワーテールゲートが損傷するおそれがあります。バッテリーが放電した場合や切断された場合に、パワーテールゲートを手動で開閉する必要があるときは、強い力をかけないでください。
- 車両の電源が OFF のときは、パワーテールゲートを連続して 10 回以上操作しないでください。バッテリーの放電を防ぐため、パワーテールゲートを繰り返し使用する場合は、車両の電源がオンの状態で使用してください。
- パワーテールゲートを長時間開けたままにしないでください。バッテリーを消耗する可能性があります。
- パワーテールゲートを長時間開けたままにすると、パワーテールゲートが作動しなくなることがあります。作動しない場合は、手動でゆっくりと最後まで閉じてください。
- パワーテールゲート作動中に無理な力を加えないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。
- 走行前に必ずテールゲートを閉めてください。損傷の危険があるため、テールゲートサポートストラットを強く掴んだり、握ったりしないでください。テールゲートサポートストラットが変形すると、車両の損傷や人身傷害を招くおそれがあります。



- パワーテールゲートを自分で改造または修理しないでください。弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。
- 以下の状況では、パワーテールゲートを操作しないでください。パワーテールゲートが正しく作動しない可能性があります。
  - 車両の片側を持ち上げて、車両の点検やタイヤ交換を行っている。
  - 坂道など平坦ではない道路に駐車している。
- 自動洗車機を使用する前に、テールゲートを完全に閉め、セントラルドアロックボタンですべてのドアとテールゲートをロックしてください。
- 外側のパワーテールゲート開閉ボタンに直接高圧水をかけないでください。パワーテールゲートが意図せずに開くことがあります。

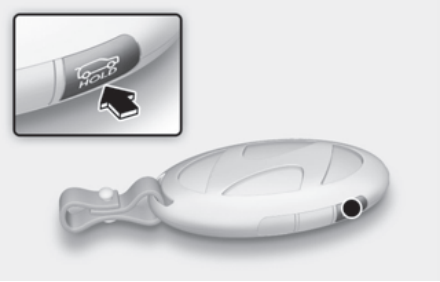
i 情報

- 寒冷湿潤な気候では、凍結状態により外側のパワーテールゲート開閉ボタンが正常に機能しない場合があります。このような場合は、外側のパワーテールゲート開閉ボタンを使用する前に氷を取り除くか、スマートキーまたはインストルメントパネルのパワーテールゲート開閉ボタンを使用してください。
- スマートキーをパワーテールゲートに入れたままパワーテールゲートを閉じると、数秒間警告音が鳴ります。このような場合は、パワーテールゲートの外側にあるパワーテールゲート開閉ボタンを押してパワーテールゲートを開けてください。
- パワーテールゲートの上に雪などの障害物がある場合は、パワーテールゲートが自動的に開かないことがあります。障害物を取り除いた後、もう一度開けてみてください。
- 傾斜のある場所では、全開前にパワーテールゲートリッドを停止すると、わずかに下がることがあるので注意してください。

操作

パワーテールゲート開閉ボタン（スマートキー、インストルメントパネル）

スマートキー



インストルメントパネル



テールゲートが閉じているときにパワーテールゲート開閉ボタンを約1秒間押します。警告音とともにパワーテールゲートが開きます。

パワーテールゲートが開いている途中でボタンを押すと、パワーテールゲートの動作が停止します。

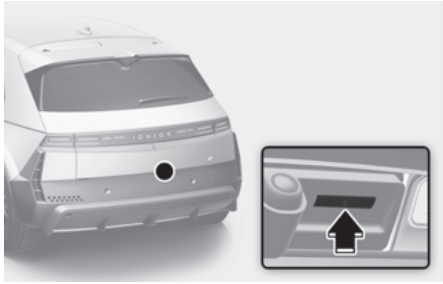
パワーテールゲートが開いているときにパワーテールゲート開閉ボタンを長押しすると、テールゲートが閉じます。パワーテールゲートが閉じている途中でボタンを離すと、パワーテールゲートの動作が停止し、警告音が5秒間鳴ります。

また、スマートキーが車両の操作範囲内にない場合も、パワーテールゲートの動作が停止し、警告音が5秒間鳴ります。

i 情報

スマートキーやパワーテールゲート内の開閉ボタンを押す前に、テールゲートの可動範囲に人や物がないことを確認してください。確認を怠ると、重大な傷害や、車両や物の損傷につながるおそれがあります。

パワーテールゲート開閉ボタン（パワーテールゲート外側）



テールゲートが閉じているときにパワーテールゲート開閉ボタンを押すと、パワーテールゲートが開きます。

車両がロックされている場合は、スマートキーを所持した状態でパワーテールゲート開閉ボタンを押してください。

パワーテールゲートのロックが解除されている場合、スマートキーを携帯せずにパワーテールゲート開閉ボタンを押すと、警告音とともにテールゲートが開閉します。

パワーテールゲート開閉ボタン（パワーテールゲート内側）



パワーテールゲート開閉ボタンを押します。パワーテールゲートが自動的に開閉します。

オートマチックリバース

パワーテールゲート作動中にパワーテールゲートが障害物を感知すると、パワーテールゲートは停止または全開します。オートマチックリバース機能は、次の状況において正しく動作しない場合や、突然作動する場合があります。

- オートマチックリバース機能は、検知された抵抗が一定レベル以下の場合、またはパワーテールゲートがラッチ位置付近でほぼ完全に閉じている場合、抵抗を検知しないことがあります。
- 障害物がない状態でも強い衝撃が加わると、オートマチックリバース機能が作動することがあります。

⚠ 警告

決して故意に物を置いたり、体の一部を使って自動逆転機能を試したりしないでください。

i 情報

テールゲートの開閉中に自動逆転機能が2回以上作動すると、スマートパワーテールゲートの動作が停止する場合があります。このような場合は、パワーテールゲートを手動で慎重に開くか閉じるかして、30秒経ってから再びパワーテールゲートの自動操作を試みてください。

設定

各機能を使用するには、インフォテインメントシステムで開口速度または開口高さを選択する必要があります。機能を使用しない場合は、設定の選択を解除してください。

パワーテールゲートの開口速度

パワーテールゲートの開口速度を調整するには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ドア** > **パワーテールゲート開口速度**を選択します。

パワーテールゲート開口高さ

パワーテールゲートの開口高さを調整するには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ドア** > **パワーテールゲート開口高さ**を選択します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

ユーザー体高設定

1. パワーテールゲートを設定したい高さに手動で動かします。
2. パワーテールゲート内にあるパワーテールゲート開閉ボタンを 3 秒以上押します。

テールゲート開口高さに「**ユーザー体高設定**」を選択した場合、テールゲートはユーザーが手動で設定した高さに自動的に開くようになります。

i 情報

- テールゲート開口高さを手動で設定していない状態で、インフォテインメントシステムで「**ユーザー体高設定**」を選択した場合、テールゲートは全開します。
- インフォテインメントシステムで高さ設定（**全開 /3 段階 /2 段階 /1 段階**）のいずれかを選択してから、「**ユーザー体高設定**」を選択すると、テールゲートは手動で設定した高さに開きます。
- パワーテールゲートの開口速度と開口高さの設定は、連携しているユーザープロファイルに応じて変更されます。ユーザープロファイルを変更すると、パワーテールゲートの開口速度と開口高さの設定もそれに応じて変更されます。

初期化

パワーテールゲートを初期化するには、以下の手順を実施します。

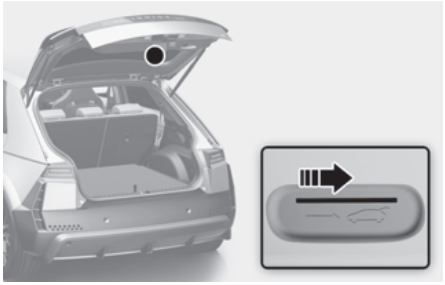
1. 車両の電源がオフまたはオンの状態で、シフトを P（パーキング）に入れます。
2. チャイムが鳴るまで、内側と外側のパワーテールゲート開閉ボタンを同時に押します。
3. パワーテールゲートを手動でゆっくりと閉めます。
4. 外側のパワーテールゲート開閉ボタンを押します。チャイム音とともにパワーテールゲートが開きます。

   初期化を完了させるために、パワーテールゲートが全開するまで待機します。パワーテールゲートが全開する前に停止すると、初期化は完了できません。

i 情報

- 車両のバッテリーが遮断された場合や放電した場合、またはパワーテールゲートのヒューズが飛んだ場合、パワーテールゲートの初期化を行わないと、パワーテールゲートが正常に作動しない可能性があります。
- 上記の手順を実行してもパワーテールゲートが正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことをお勧めします。

緊急時パワーテールゲート安全開放



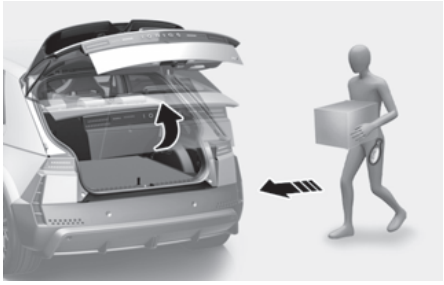
ラゲッジスペースからテールゲートを手動でロック解除して開けるには、次の手順を実行します。

1. テールゲートの下部にある開口部に、鍵のような長くて平らなものを差し込みます。
2. ラッチを矢印の方向にスライドさせ、テールゲートをロック解除します。
3. テールゲートを押して開けます。

⚠ 警告

- 車両のパワーテールゲートには、いかなる時も人を乗せてはいけません。ラゲッジスペースは車両のクラッシュゾーンの一部であるため、衝突時には非常に危険な場所です。
- リリースレバーは緊急時にのみ使用してください。

スマートテールゲート



スマートキーが装備されている車両では、スマートテールゲートシステムを使用して、ハンズフリーでテールゲートを開けることができます。

使用方法

ハンズフリースマートテールゲートシステムは、次のような場合に使用できます。

- インフォテインメントシステム画面の設定メニューで、スマートテールゲートオプションが有効になっている。
- スマートテールゲートが有効になっており、すべてのドアを閉めてロックしてから 15 秒経過し、作動準備が整っている。
- 車両の後方でスマートキーが 3 秒間検知されたときにスマートテールゲートが開く。

i 情報

スマートテールゲートは、次の場合には作動しません。

- ドアがロックされていないか、閉まっていない。
- ドアを閉めてロックしてから 15 秒以内にスマートキーが検知された。
- ドアを閉めてロックしてから 15 秒以内に、前席ドアハンドルから 1.5m 以内でスマートキーが検知された（ウェルカムミラーが搭載されている車両の場合）。
- スマートキーが車内にある。

1. **設定**

   スマートテールゲートを使用するには、インフォテインメントシステムで有効にする必要があります。

   - **設定** > **車両** > **ドア** > **スマートテールゲート**を選択します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

2. **検知と警告**

   スマートテールゲートの検知エリアは、車両後方の約 50 ~ 100cm の範囲に広がっています。スマートキーを携帯した状態で検知エリアに入ると、開く前にハザードランプが点滅してチャイムが鳴ります。

i 情報

誤って検知エリアに入り、ハザードランプが点滅してチャイムが鳴り始めた場合は、スマートキーを持って車両から離れてください。スマートテールゲートの作動は停止します。

3. **自動開口**

   ハザードライトが点滅してチャイムが 6 回鳴った後で、スマートテールゲートが開きます。

機能無効化

検知と警告の段階でスマートキーのいずれかのボタンを押すと、スマートテールゲートは無効になります。

スマートキーを使用する場合:

- ドアロック解除ボタンを押すと、スマートテールゲートは一時的に無効になります。30 秒間ドアを開けないと、スマートテールゲートの設定は再度有効になります。
- テールゲート開閉ボタンを 1 秒以上押すと、スマートテールゲートの作動は中断されますが、パワーテールゲートが機能し、テールゲートは開かれます。
- スマートテールゲートが検知と警告の段階にない限り、ドアロックボタンまたはテールゲート開閉ボタンを押しても、スマートテールゲートの設定は引き続き有効のままになります。

検出エリア



- スマートテールゲートの検知エリアは、車両後方の約 50 ~ 100cm の範囲に広がっています。スマートキーを携帯した状態で検知エリアに入ると、ハザードライトが点滅してチャイムが数秒間鳴り、テールゲートが開くことを警告します。
- 3 秒以内にスマートキーを検知エリアの外に移動すると、警告が停止します。

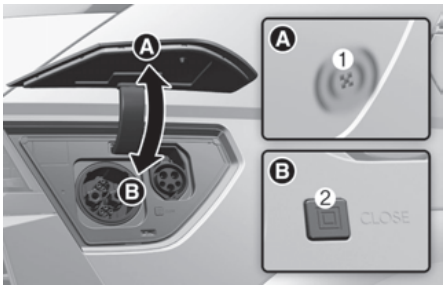
i 情報

- スマートテールゲートは、以下のいずれかの場合には正常に動作しない可能性があります。
  - スマートキーの送信機が、ラジオ局や空港など、無線の送信が行われる場所の近くにあり、スマートキーの通常の動作が干渉を受けている。
  - スマートキーが携帯型無線送受信機またはスマートフォンの近くにある。
  - 自分の車両の近くで別の車両のスマートキーが操作されている。
  - 気温が 0 ℃を下回っている。
- 以下の場合、スマートテールゲートの検知エリアが変わることがあります。
  - 車両が傾斜地に駐車している。
  - 車両の片側が反対側より高くなっているか、低くなっている。

充電口

運転者は以下の方法で充電口の開閉を行うことができます。

- シフトを P（パーキング）に入れた状態で、充電口を押して開きます（1）
- 充電口の内部にある閉ボタン（2）を押します



[A] 充電口を開く
[B] 充電口を閉じる

- インストルメントパネルの充電口ボタンを押す



知識

- 充電口の周りが凍って開かない場合は、軽くたたくか充電口を押し、氷を砕いて充電口を開放してください。必要に応じて、温めて氷を溶かすか、暖かい場所に車両を移動して氷を溶かしてください。充電口をこじ開けたり、工具を使って充電口を開けたりしないでください。
- 充電口を閉めた後で、完全に閉まっていることを確認してください。

- 走行を開始する前に、充電口が閉まっていることを確認してください。充電口が開いている場合、充電口の機械部品が損傷する可能性があります。
- 充電口を閉めた後は、警告灯が消灯していることを確認してください。
- 車両の充電後は、充電口に充電口カバーを適切に装着してください。充電口カバーが適切に装着されていないと、充電口が損傷するおそれがあります。
- 充電口を開ける際は充電口をこじ開けないでください。充電口の動作が停止する可能性があります。また、充電口の電気的メカニズムとその関連部品が激しく損傷するおそれがあります。
- 洗車中は、充電口に高圧水を直接噴射しないでください。高圧により充電口が損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

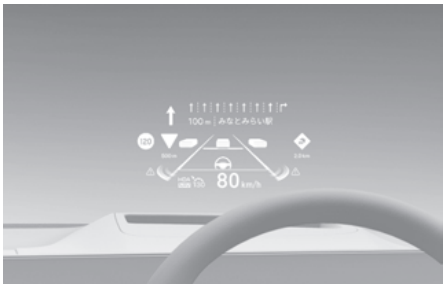
- 充電口は上向きに開きます。充電口を開閉する際は周囲に注意してください。充電口に頭や手足をぶつけたり、挟んだりしないよう注意してください。
- 充電口のヒンジを押さえないでください。充電口の損傷や、その他の事故につながるおそれがあります。

i 情報

- 以下の場合、充電口が自動的に閉まります。
  - 充電コネクターを外した
  - 充電口を開けた後、一定時間充電コネクターが接続されなかった
  - シフトがP（パーキング）に入っていない
- バッテリー（12V）の交換後は、一度充電口を開閉して、充電口の自動開口機構が正常に機能していることを確認してください。

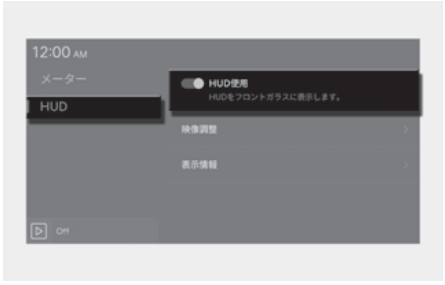
詳細については、第1章の「EVの充電EVの充電」を参照してください。

ヘッドアップディスプレイ



ヘッドアップディスプレイは、運転中に前方の道路を注視したまま、フロントガラス上に投影された情報を確認できるオプション機能です。

設定



- ヘッドアップディスプレイは、インフォテインメントシステムの設定メニューで有効にできます。

  設定 > **メーター /HUD** >**HUD** > **HUD使用**を選択します。
- ヘッドアップディスプレイをオンにした後で、ヘッドアップディスプレイの「**映像調整**」と「**表示情報**」の設定を変更できます。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

情報



レーシングテーマ

レーシングテーマ（N e- シフト運転モード）



(1) 走行経路案内（TBT）ナビゲーション
(2) 交通標識や制限速度情報
(3) スピードクラスターディスプレイ情報
(4) SCC 設定速度情報（装備されている場合）
(5) SCC 車間距離情報（装備されている場合）
(6) 車線維持アシスト情報（装備されている場合）
(7) 車線安全情報（装備されている場合）
(8) 後側方安全情報装備されている場合）
(9) 高速道路走行速度自動調節情報（搭載されている場合）
(10)高速道路走行アシスト情報（搭載されている場合）
(11)周辺車両情報（搭載されている場合）
(12)充電 / 電源状態情報
(13)現在のシフト情報
(14)回生ブレーキの強度情報
(15)シフトライト情報
(16)仮想エンジン状態情報

使用時の注意事項

- 以下のような状況では、ヘッドアップディスプレイの情報が読みにくい場合があります。
  - 運転者が運転席の不適切な位置に座っている。
  - 運転者が偏光サングラスをかけている。
  - ヘッドアップディスプレイカバーの上に物が載っている。
  - 濡れた路面を走行している。
  - 不適切な照明アクセサリーが車内に取り付けられているか、車外から光が入射している。
  - 運転者がメガネをかけている。
  - 運転者がコンタクトレンズを使用している。
  - 運転者の身長が高すぎる、または低すぎる。

  ヘッドアップディスプレイの情報が読みにくい場合は、インフォテインメントシステムで表示位置や画面の明るさのレベルを調整してください。
- ヘッドアップディスプレイに表示される情報は、前方の道路と重なる部分があるため、運転中に疲労感や不快感を感じることがあります。疲れを感じたり、不快に感じたりする場合は、表示を調整し、症状が続く場合は、運転前にヘッドアップディスプレイをオフにしてください。
- 安全のため、必ず停車してから設定を調節してください。
- フロントガラスにフィルムを貼付したり、周囲にクロームメッキ加工等を施したりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示が見えなくなるおそれがあります。
- ダッシュボードの上にアクセサリーを置いたり、フロントガラスにものを取り付けたりしないでください。

- フロントガラスを交換する際は、ヘッドアップディスプレイに対応したフロントガラスに交換してください。それ以外のフロントガラスに交換した場合、情報が重なって表示される可能性があります。

⚠ 警告

- ヘッドアップディスプレイに表示される後側方安全の警告情報は、補助的なものです。車線変更時は警告情報のみに依存しないでください。車線変更を行う前に、必ず周囲を確認してください。

  拡張現実モードのドライブ経路案内画面は、補助的な機能です。必ずナビゲーション画面も一緒に確認してください。
- ヘッドアップディスプレイを ON にして運転する場合は、常に道路状況に注意してください。

i 情報

ヘッドアップディスプレイには、GPL、LGPL、MPLなどのオープンソースライセンスのソフトウェアが含まれています。すべてのライセンス表示と関連するソースコードは、以下のURLから確認できます。

http://www.mobis.co.kr/opensource/list.do

本製品購入後3年以内に、搭載ソフトウェアのオープンソースコードをMOBIS_OSSrequest@mobis.co.krへリクエストしていただくと、ストレージ機器費用と配送料を含めた最小限の費用でCD-ROMをお送りします。

ビルトインドライブレコーダー

装備されている場合

ビルトインドライブレコーダーは、ビルトインドライブレコーダー用のフロントカメラとリアビューカメラを使用して車両前後の画像と音声を記録します。

i 情報

- 車両納品時のデフォルトでは、カメラ録画機能は運転中や停車中はオフになっています。本機能を使用するには、イベントを設定する必要があります。
- 説明は車両に搭載されているソフトウェアのバージョンによって異なる場合があります。ビルトインドライブレコーダーのアップデートのホームページで最新バージョンのソフトウェアを確認し、最新バージョンにアップデートしてください。

設定

設定



ビルトインドライブレコーダーの動作に関するさまざまなオプションを設定するには、インフォテイメントシステムの**設定**メニューから**ドライブレコーダー** > **ドライブレコーダー設定**を選択します。

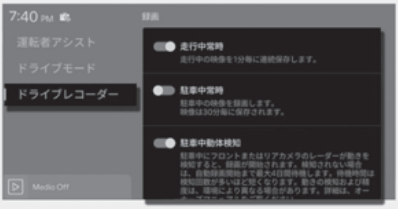
i 情報

ドライブレコーダー設定は、ユーザープロファイルに紐づけされています。プロファイルごとに異なる録画オプションを設定できます。

- ユーザーのプロファイルが変更されると、ビルトインドライブレコーダーの設定が変更される場合があります（デジタルキーを使用して車両にアクセスすると、ユーザーのプロファイルは、手動または自動で変更できます）。
- 映像はユーザープロファイルごとに個別に記録はされません。
- ユーザープロファイルを削除したり、インフォテインメントシステム設定を初期化したりすると、ドライブレコーダー設定も初期化されます。

録画

運転中 / 駐車中の録画と音声録音



いつ記録するか、音声を同時に記録するかどうかを設定できます。しかし、音声録画は**駐車中**イベントとタイムラプス画像では利用できません。

i 情報

車両の納車後に**運転者1**または**運転者2**プロファイルの初期設定が完了した場合、**走行中常時録画**、**走行中イベント録画**、**駐車イベント**は、ゲストプロファイルを含め、すべてのプロファイルで自動的に有効になります。

ただし、**運転者1**または**運転者2**プロファイルを設定する前にゲストプロファイルでビルトインドラレコ設定をすでに設定していた場合は、ゲストプロファイルのドライブレコーダー設定が維持されます。

走行情報の表示



映像に表示するさまざまな走行情報を設定することができます。

- **時間** : 映像にインフォテインメントの時間 / 日付を表示します。
- **速度** : 映像に車両速度を表示します。車両の速度情報はクラスターから受信します。
- **シフト** : 映像にシフトギアの位置を表示します。シフトギアの位置情報はクラスターから受信します。
- **方向指示器** : 映像に方向指示器の状態を表示します。
- **衝撃検知感度** : ビルトインドライブレコーダーの衝撃センサーの検知レベルを 5 段階で設定できます。
- **位置** : 車両の GPS 座標を映像に表示します。

i 情報

- クラスターに表示されている速度は、法定速度に沿っていても、実際の車両の速度と異なっていたり、速かったりする場合があります。
- GPS 座標は、車両の位置や衛星電波の受信環境によって正確に表示できない場合があります。
- 走行情報なしに映像が記録されると、後から走行情報を映像に表示することはできません。

録画時間



駐車時やイベント時の録画時間の長さ、およびタイムラプス録画の期間と間隔を指定できます。

i 情報

- ビルトインドライブレコーダーメニューまたは BlueLink アプリケーションで残りの駐車録画時間を確認できます。残りの録画時間は、12V バッテリーの充電量により異なります。スマートフォンから駐車時の録画可能な時間を確認するには、BlueLink を利用している必要があります。
- 12V バッテリーの充電が不十分な場合、駐車時の録画には高電圧バッテリーが使用されます。車両や高電圧バッテリーの状態によっては、設定時間や駐車時の録画可能な予定時間よりも録画が早く終了する場合があります。

衝突検知感度



衝突を検知した場合、記録を行うかどうかを決定する衝突検知の感度レベルを設定できます。次の感度レベルから1つを選択します: レベル1(最弱)、レベル2(弱)、レベル3(普通)、レベル4(強)、レベル5(最強)

ディスプレイ設定



カメラの撮影角度を上または下に調整できます。カメラ画面で変化を確認しながら角度を調整します。

アプリ接続



Wi-Fi 設定

Wi-Fiを有効にしてスマートフォンのアプリに接続したり、パスワードを設定したりすることができます。

駐車中イベント通知

車両が駐車しているときに盗難警報システムが作動し、イベントが記録されると、衝撃を検知したことがBlueLinkアプリのメッセージと映像で通知されます。本サービスは、車両を駐車後に5回まで利用することができます。本サービスを使用するには、**駐車中イベント通知**を選択してください。

i 情報

- イベント通知サービスは、BlueLinkを利用している場合にのみ利用できます。
- 他にさらなる通知がなくても、録画は継続します。
- 駐車中イベント通知を使用する場合、車両のバッテリーを消費し、駐車時の録画可能な時間が短くなる場合があります。

SD メモリー



映像録画に使用するSDメモリーの状態とSDメモリーのソケットの位置を確認することができます。

SDメモリーカードを安全に取り出さないと、保存したファイルやファイルシステムが破損する場合があります。SDカードを安全に取り出すには、SDカードを取り出す前に**接続解除**を選択します。

SDメモリーを初期化すると、すべてのファイルが消去されます。初期化する前に、重要なファイルはバックアップすることを推奨します。

i 情報

純正SDメモリーカードを使用しないと、SDメモリーの状態は表示されません。

作動

ビルトインドライブレコーダーの SD メモリーの取り出し / 挿入



車両が引き渡されるとき、SDメモリーカードはメモリーソケットに差し込まれています。メモリーを安全に取り出したり挿入したりすることができるように、SDメモリーの取り出し/挿入方法を事前に確認しておいてください。

SD メモリーの取り出し

SDメモリーを取り出す場合、**ドライブレコーダー** > **SDメモリ**で**接続解除**を選択します。その後、爪や先の細い器具を使用してメモリーカードを押してソケットから取り出してください。動作時に取り出してしまうなど、メモリーカードは安全に取り出さないと、保存したファイルやファイルシステムが破損する場合があります。

SD メモリーの挿入

SDメモリーカードが正しい向きに挿入されているか確認するようにしてください。カチッという音が聞こえるまで押します。正しくない向きに挿入されてしまうと、メモリーカードソケットやメモリーが破損する場合があります。

i 情報

- SD メモリーを取り出すと、映像の録画ができなくなります。メモリーカードのソケット LED が点滅します。
- SD メモリーカードを正しく挿入しても、正常に認識されない場合は、メモリーをフォーマット（exFAT）して再度試みてください。
- 適切でない取り扱いにより生じた破損は、保証の対象外となる場合があります。
- 純正 SD メモリーカード以外のメモリーを使用した場合は、互換性や適切な動作を保証しておりません。

録画の起動条件

ビルトインドライブレコーダーの録画は、以下の場合に起動します：

- 車両電源が ON の状態（READY インジケーターが ON）で、走行中は常時録画、または走行中はイベント検知録画に設定する場合
- 車両電源が OFF の状態（READY インジケーターが ON）で、駐車中は常時録画、または駐車中はイベント検知録画に設定する場合
- 64GB 以上の SD メモリが正しく挿入されており、残容量が 32GB 以上である場合

録画の終了条件

ビルトインドライブレコーダーの録画は、以下の場合に終了します：

- 最初に設定した駐車時の録画時間が経過した場合
- 駐車時の録画中に 12V バッテリーの充電が不十分である場合
- SD メモリーが摩耗または破損している場合

駐車時に録画を終了した場合の通知

録画の終了条件により録画が終了すると、BlueLinkアプリから通知が届きます。

- この通知は、BlueLink を利用している場合のみ有効です。

手動録画



ビルトインドライブレコーダーの手動録画ボタンを使用して、ボタンを押す前後の状況を録画できます。

走行中(車両電源状態がACCまたは、ON)に手動録画ボタンを押すと、ビルトインドライブレコーダーの設定にかかわらず録画が開始されます。手動で録画する場合に、車両の電源を切ったり、ビルトインドライブレコーダーメニューを選択したりすると、録画が終了することがあります。

- イベント録画 : ボタンを短く押すと、イベントが記録されます。
- タイムラプス録画 : ボタンを押したままにすると、タイムラプス録画が開始されます。もう一度ボタンを押したままにすると、録画が停止します。

i 情報

タイムラプスについて

タイムラプスでは、一定間隔で画像の各フレームを録画した後に画像を圧縮し、高速で再生します。

ビルトインドライブレコーダーの手動ボタンインジケーター

ビルトインドライブレコーダーの動作状態は、ビルトインドライブレコーダーの手動録画ボタンにあるインジケーターで確認できます。

作動状態	インジケーター
運転中/駐車中の常時ON、またはイベント検出に設定されていない	OFF
常時録画	ON
衝撃検知によるイベント録画	1秒間隔で点滅
手動ボタンによるイベント録画	1秒間隔で点滅
タイムラプス録画	2秒間隔で点滅

ビルトインドライブレコーダー用カメラのインジケーター

ビルトインドライブレコーダーの動作状態は、フロントおよびリアのビルトインドライブレコーダー用カメラにあるインジケーターで確認できます。

作動状態	インジケーター
運転中/駐車中の常時ON、またはイベント検出に設定されていない	OFF
運転中/駐車中は常時録画	2秒間隔で点滅
衝撃検知によるイベント録画	1秒間隔で点滅
手動ボタンによるイベント録画	1秒間隔で点滅
タイムラプス録画	2秒間隔で点滅

録画確認



インフォテインメントシステムからビルトインドライブレコーダーを選択します。

- ビルトインドライブレコーダーメニューの使用時は録画できません。
- ビルトインドライブレコーダーメニューを選択しているときは、録画が停止し、ビデオを表示するのに時間がかかります。ビルトインドライブレコーダーがうまく接続されていない場合は、少ししてからもう一度お試しください。

ビルトインドライブレコーダー画面



1. メニュー：自動録画ビデオ、手動録画ビデオ、リアルタイム映像、スマートフォンとの接続
2. タップメニュー：録画ビデオのリスト
   - 自動録画ビデオ：**走行中常時 / 駐車中常時**、**走行中イベント / 駐車中イベント**
   - 手動録画ビデオ：手動録画、タイムラプス、保存ボックス
3. 録画ビデオサムネイルのリスト：
   - **走行中常時**：運転中のビデオを収集
   - **駐車中常時**：駐車中のビデオを収集
4. 録画ビデオの日時



5. 記録された走行情報の表示：時間、速度、シフト、方向指示器、衝撃検知感度、GPS 位置
6. フロント / リアビデオの選択
7. フル画面 ON/OFF、再生のコントロール
8. プレイバー：再生時間（場所）の確認、タッチして再生したい時間の映像を表示
9. 録画場所：ナビゲーションの地図でビデオが録画された場所を探し、タッチおよびフリック操作で周辺を確認可能

スマートフォンアプリケーションに接続する

ビルトインドライブレコーダーに保存されている映像を、ビルトインドライブレコーダー用スマートフォンアプリケーションを使用して再生、ダウンロード、および共有できます。

アプリケーションインストール

本サービスを利用するには、スマートフォンに「BlueLink」アプリケーションをインストールする必要があります。お使いのスマートフォンに合わせて、Google PlayまたはApp Storeから「BlueLink」アプリケーションをインストールしてください。

スマートフォン接続

ビルトインドライブレコーダー専用のWi-Fi経由でスマートフォンと接続できます。

1. BlueLink アプリを起動し、**ビルトインドライブレコーダー**メニューを選択します。



2. 接続には、ビルトインドライブレコーダー画面のメニューから **Wi-Fi オン**を有効にします。
3. **ビルトインドライブレコーダーに接続する**を選択して、Wi-Fi に接続します。
4. Wi-Fi 設定画面からビルトインドライブレコーダー用の Wi-Fi ネットワークを選択し、パスワードを入力します。
5. BlueLink アプリに戻ると接続が完了します。

i 情報

- 初めてビルトインドライブレコーダーの Wi-Fi に接続する場合は、Wi-Fi パスワードを作成する必要があります。パスワードは数字、アルファベット、特殊文字の組み合わせで、10 文字以上でなければなりません。
- ビルトインドライブレコーダー用の Wi-Fi ネットワークの名称については、インフォテインメントシステム画面のメッセージを参照してください。
- ビルトインドライブレコーダーの Wi-Fi に接続すると、スマートフォンのモバイルネットワークは切断されます。モバイルネットワークを使用するには、ビルトインドライブレコーダーの Wi-Fi を終了する必要があります。

ソフトウェアアップデート

ワイヤレスアップデート

ビルトインドライブレコーダーのソフトウェアアップデートが可能な場合は、ワイヤレスアップデートで実行することができます。サービスセンターへの訪問やUSBアップデートの必要なく、最新のビルトインドライブレコーダーソフトウェアを使用できます。

USB アップデート

ナビゲーションのアップデートには、ビルトインドライブレコーダーのソフトウェアアップデートが含まれます。詳細については、ナビゲーションUSBのアップデートに関するガイダンスを参照してください。

i 情報

- ビルトインドライブレコーダーは、アップデート中は録画しません。
- ワイヤレスアップデートは、Bluelinkサービスのメンバーである場合のみご利用いただけます。

仕様

項目	仕様
メモリー	Micro SD 64GB (exFATファイル形式、最低64GB/最大512GB)
録画	運転中/駐車中は常時オン 運転中/駐車中のイベント 手動録画、タイムラプス、ボイスレコーディング
ビデオアングル	約120度(対角線上)
ビデオ解像度	フロントビデオ:2560x1440 ピクセル (QHD) リアビデオ:2560x1440 ピクセル (QHD)
ビデオフレームレート	運転中常時オン:30fps 駐車中常時オン:2fps 運転中のイベント:30fps 駐車中のイベント:10fps 運転中手動録画:30fps 駐車中手動録画:10fps

ビデオの保存場所と保存基準

項目	SD メモリー（フォルダー名）	保存基準（64GB を基本にします）
運転中常時オン	OWD	4時間以下(1分おきにビデオを保存)
駐車中常時オン	OWP	40時間以内(30分おきにビデオを保存)
運転中のイベント	DEV	40ケース以下
駐車中のイベント	PEV	40ケース以下
手動録画	MAR	40ケース以下
タイムラプス	TML	1fps:20分以内 0.5fps:40分以内 0.2fps:100分以内
ストレージ	MVD	約1.3GB

i 情報

- ストレージ容量が足りない場合、古いファイルは自動的に削除されます。
- 長距離運転、頻繁な衝撃検出、またはビルトインドライブレコーダーの手動ボタン操作により映像が頻繁に録画された場合、最近録画されたファイルも自動的に削除されます。必要に合わせて、重要なファイルをダウンロードするか、ファイルを保存してください。

⚠ 注意

- ボイスレコーダーを録音したことを同乗者に知らせ、了解を得てください。録音された音声が本人の同意なく使用・保存された場合、運転者はあらゆる法的責任を問われる可能性があります。
- 車両の電費は、運転中または駐車中のビルトインドライブレコーダーの録画によって影響を受ける可能性があります。
- イベント（衝撃検出）録画は、すべてのイベントや衝撃を録画するとは限りません。
- 「走行中イベント録画」（衝撃検知）の作動中には、車両の操作や車内機器の使用による衝撃で映像が記録されることがあります。
- フロントビルトインドライブレコーダーのカメラレンズ、リアビューカメラのレンズ、フロントガラスが汚れていると、適切に映像を記録できません。カメラのレンズはきれいな状態に保ってください。
- ガラスにフィルム等が貼付してある場合、映像品質が低下することがあります。
- フロントガラスにフィルム等は貼付しないでください。カメラのレンズが部分的に覆われている場合、着色フィルムのためにビデオは作動しません。
- 車両が ON になる際のフロントガラスにフィルム等は貼付しないでください。ビルトインドライブレコーダーのシステム起動中は、ビデオは記録されません。
- 保存されている映像ファイルは、ソフトウェアのアップデートや修理の際に削除されることがあります。アップデートや修理の前に、ファイルをバックアップしてください。
- スマートフォンの機種や OS のバージョンにより、一部のアプリケーションが正常に動作しない場合があります。

- 中古車売買やレンタルなどで車両を他人に渡す場合は、個人情報の流出を防ぐために、保存されている映像を削除してください。
- ビルトインドライブレコーダーのWi-Fi パスワードが漏洩しないようにしてください。さもないと、他人があなたの承認を受けずに設定を確認、ダウンロード、削除、変更するおそれがあります。
- 車両の時刻を変更すると、保存されているファイルの順番が変化することがあります。時刻設定を変更する前に、保存されているファイルの順番を確認してください。
- 記録ファイルをコンピュータにダウンロードして再生する場合、お使いのビデオプレイヤーによっては時間差が生じることがあります。
- フロントビルトインドライブレコーダーカメラ、リアビューカメラ、12Vバッテリーのコネクターを無理に取り外すと、システムが破損するおそれがありますのでご注意ください。
- クラスターに「**走行映像記録システムを点検してください**」という警告メッセージが表示された場合は、弊社認定修理業者での車両点検を推奨します。

i 情報

ビルトインドライブレコーダーには、GPLやLGPLなどのオープンソースライセンスソフトウェアが含まれています。すべてのライセンス表示と関連するソースコードは、https://www.yuracorp.co.krで確認できます。

本製品購入後3年以内に搭載ソフトウェアのオープンソースコードをopensource@hyundai.comへリクエストしていただくと、ストレージ機器費用と配送料を含めた最小限の費用でCD-ROMをお送りします。

OTA アップデート（車両システム）

OTA(Over-the-Air)ソフトウェアアップデート機能により、ソフトウェアを最新バージョンにワイヤレスでアップデートすることができます。この機能を使用すると、車両システムのソフトウェアを最新の状態にしておくことができます。

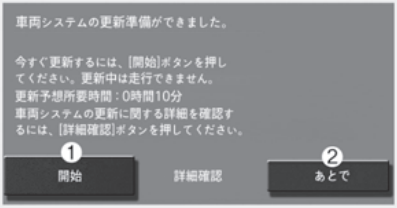
i 情報

OTAソフトウェアアップデート機能は、Bluelinkユーザーのみご利用いただけます。

ソフトウェアダウンロード

最新版ソフトウェアは運転中に自動でダウンロードされます。最新版ソフトウェアのダウンロードが正常に終了すると、車両の画面にソフトウェアのアップデートが利用可能であることを示す通知が届きます。

ソフトウェアアップデートの承認



車両の電源をOFFにすると、車両システムによりアップデートの開始が許可されます。

- アップデートを開始するには、「**今すぐ更新**」(1) を押します。
- アップデートを延期するには、「**あとで**」(2) を押します。

ソフトウェアアップデートの準備

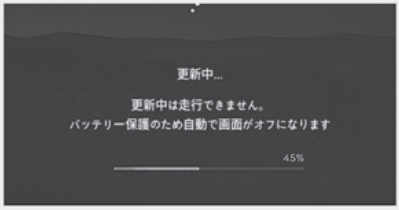
画面の「**今すぐ更新**」ボタンを押すと、車両は自動的にアップデートのインストールを開始します。以下の条件が満たされている必要があります。

- 車両の電源が OFF になっている。
- シフトが P（パーキング）に入っている。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）が作動している。
- エクステリアランプが消灯している。
- ボンネットが閉まっている。
- バッテリーの充電が十分である。
- アップデートするシステムが作動中でない。



- すぐにアップデートするには、「**今すぐ更新**」を押します。
- アップデートをキャンセルするには、「**更新取消し**」を押します。

ソフトウェアアップデート



画面でアップデートの進行状況を確認できます。

アップデートが完了すると、Bluelinkアプリや車両の画面にソフトウェアのアップデートが完了したことを示す通知が届きます。

i 情報

バッテリー節約のため、画面は3分後に自動的にOFFになります。画面が自動的にOFFになった場合、EV START/STOPボタンを押すとアップデートの進行状況を確認できます。

i 情報

- ソフトウェアのアップデートが開始されると完了まで自動で行われます。車両システムは完了後に OFF にされるためユーザーは車両から離れることができます。
- アップデートの詳細は、インストール済みのソフトウェアバージョンにより異なる場合があります。
- OTA ソフトウェアのアップデートについては、Hyundai Mobility Japan 公式ホームページでお知らせをご確認ください。
- アップデートに失敗すると、アップデートのリカバリーが自動的に開始されます。ソフトウェアのアップデートを再度試みる際は、リカバリーが正常に終了した場合でも、弊社認定修理業者にご連絡いただくことを推奨します。

- アップデートやリカバリーが失敗した場合は、Hyundai カスタマーセンターにご連絡いただくことを推奨します。
- アップデートが完了すると、新機能や改良点が含まれている場合があります。詳細については、Hyundai Mobility Japan 公式ホームページの「OTA ソフトウェアアップデート」ページを確認するか、インフォテインメント画面の QR コードをスキャンしてください。

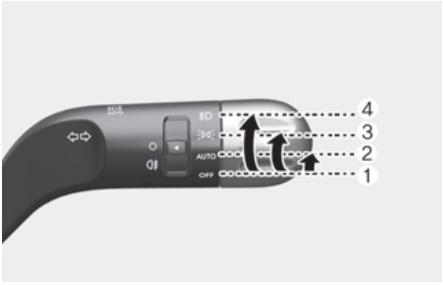
知識

- アップデート中には、以下の制限事項に注意してください。
  - アップデート中は車両を使用することができません。アップデートに十分な時間を確保し、アップデートを開始する前に車両を安全な場所に停車してください。
  - リモート始動など、リモート機能は使用できません。
  - 車両の充電は利用できません。アップデートが完了してから車両を充電してください。
  - 後部座席乗員通知機能は動作しない場合があります。後席に乗員がいないか確認してください。(この機能を装備している場合)
  - デジタルキー (NFC カード付) 機能のアップデートがある場合は、デジタルキーを使用してドアをロック / ロック解除することはできません。デジタルキー (NFC カード付) 機能のアップデート中は、スマートキーを使用してドアをロック / ロック解除してください。
- アップデートを開始する前にアップデートに必要な車両条件が変更されると、アップデートが自動的にキャンセルされます。
- アップデートが開始されると、アップデートをキャンセルすることはできません。
- 12 V バッテリーを充電するための高電圧関連モジュールは、アップデート中に動作する場合があることにご注意ください。
- 車両ソフトウェアに社外コーディングを行ったり、社外ソフトウェアに入れ替えたりした場合は、OTA ソフトウェアアップデート機能を使用することはできません。
- アップデート中にボンネットを開けたり、バッテリーを交換したりしないでください。アップデートが失敗する可能性があります。
- 車両 OBD（車載式故障診断装置）端子に何らかの診断ツールが接続されている場合、車両のアップデートを行うことができません。OBD 端子に接続された診断ツールを取り外し、車両を再始動することで、車両のアップデートを行うことができます。
- アップデートが正常に完了しなかった場合は、弊社認定修理業者にご連絡いただくことを強く推奨します。

エクステリアライト

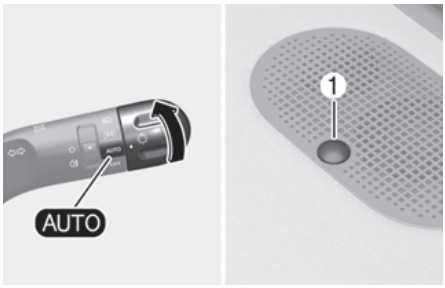
ライト操作

ライトを操作するには、操作レバーの端にあるノブを次のいずれかの位置に回します。



(1) OFF
(2) AUTO ライト
(3) ポジションランプ
(4) ヘッドライト

AUTO ヘッドライト



ポジションランプとヘッドライトは、インストルメントパネルの前にある環境光センサー(1)によって測定された日照量に応じて、自動的にON/OFFが切り替わります。

AUTOヘッドライト機能が作動中であっても、夜間、霧、雨天時に走行するときや、トンネルや駐車場などの暗い場所に進入するときは、手動でヘッドライトを点灯させることを推奨します。

知識

- インストルメントパネル前方にあるセンサー（1）を覆ったり濡らしたりしないでください。
- ウィンドウクリーナーでセンサーを清掃しないでください。清掃剤が薄い被膜となって残り、センサーの動作に支障をきたすおそれがあります。
- フロントガラスにフィルムを貼付したり、周囲にクロームメッキ加工等を施されていたりする場合、自動ヘッドライトシステムが正常に機能しない可能性があります。

ポジションランプ



ポジションランプ、ナンバープレートライト、およびインストルメントパネルライトが点灯します。

ヘッドライト

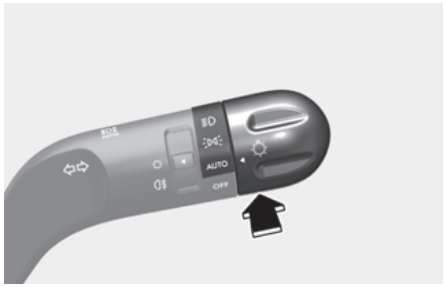


ヘッドライト、ポジションランプ、ナンバープレートライト、インストルメントパネルライトが点灯します。

i 情報

ヘッドライトが点灯するには、EV START/STOPボタンをON位置にする必要があります。

ハイビーム操作



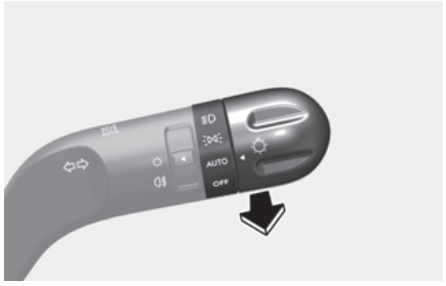
ハイビームヘッドライトを点灯させるには、レバーを前方に押します。レバーは元の位置に戻ります。

ヘッドライトのハイビームがONになると、ハイビームインジケーターが点灯します。

ハイビームヘッドライトをOFFにするには、レバーを手前(2)に引きます。ロービームがONになります。

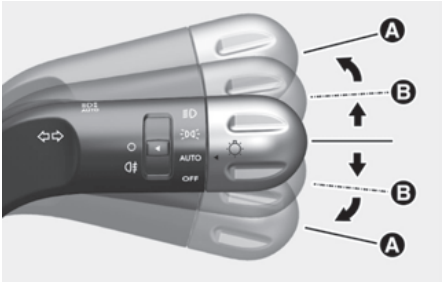
⚠ 警告

他の車両が接近している時は、ハイビームを使用しないでください。ハイビームを使用すると、他の運転者の視界を妨げることがあります。



ハイビームヘッドライトを点滅させるには、レバーを手前に引いてから離します。レバーを引いている間は、ハイビームがONのままになります。

方向指示器と車線変更信号



方向転換を知らせるには、レバーを押し上げて左折し、レバーを押し下げて右折します[A]。

インジケーターが点灯したままで点滅しない場合や、異常に点滅する場合は、方向指示器の電球が切れている可能性があり、交換が必要です。弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

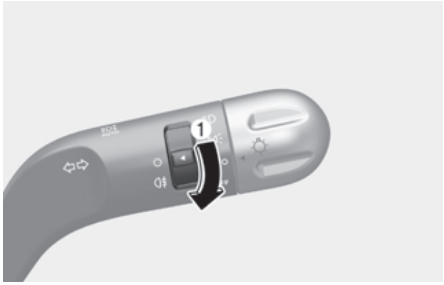
ワンタッチ方向指示器

ワンタッチ方向指示器を使用するには、ウィンカーレバーを位置[B]まで上げる、または下げてから離します。

車線変更ライトが3回、5回、または7回点滅します。

ワンタッチ方向指示器の機能を有効にしたり、点滅回数を選択したりするには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ライト** > **ワンタッチ方向指示器** > **オフ/3回点滅/5回点滅/7回点滅**を選択します。

リアフォグライト



リアフォグライトを点灯させるには、以下に従います。

ヘッドライトスイッチをヘッドライト位置にし、ヘッドライトスイッチ(1)をリアフォグライトスイッチ位置まで操作します。

リアフォグライトを消灯させるには、次のいずれかを実行します。

- ヘッドライトスイッチを OFF にする。
- ヘッドライトスイッチ（1）をもう一度リアフォグライト位置に操作します

バッテリーセーバー機能

バッテリーの放電を防ぐため、運転者が車両の電源をOFFにし、運転席ドアを開けると、自動的にポジションランプが消灯します。

この機能により、運転者が夜間に道路脇に駐車すると、ポジションランプが自動的に消灯します。

車両の電源がOFFになっているのときにもポジションランプを点灯させ続けるには、以下を実施します。

1. 運転席ドアを開けます。
2. ヘッドライトスイッチを使用して、ポジションランプを OFF にし、再度 ON にします。

ヘッドライトレベリングデバイス



乗員数やラゲッジエリアの積載重量に応じてヘッドライトのビームレベルを調整するには、ビームレベリングスイッチを操作します。

スイッチ位置の数字が大きいほど、ヘッドライトのビームレベルは低くなります。ヘッドライトビームは常に適切なレベリング位置を維持してください。

適切なレベルでない場合、他の道路利用者がヘッドライトを眩しく感じるおそれがあります。さまざまな荷重に適切なレベリングスイッチ位置の例を以下に示します。記載されている以外の荷重条件では、最も近い状況にスイッチ位置を合わせてください。

荷重条件	スイッチ位置
運転者のみ	0
運転者+助手席	0
定員(運転者含む)	1
定員(運転者含む)+最大許容荷重	2
運転者 + 最大許容荷重	3

⚠ 警告

正しく動作しない場合は、弊社認定修理業者にシステムの点検をご依頼いただくことを推奨します。配線の点検や交換をご自身で行わないでください。

ヘッドライトエスコート機能

ヘッドライトが点灯している状態で、EV START/STOPボタンをACC位置またはOFF位置にすると、ヘッドライト(および/またはポジションランプ)は約5分間点灯したままになります。

運転席ドアを開閉すると、15秒後にヘッドライトが消灯します。また、車両の電源がオフの状態で、運転席ドアを開閉した場合も、15秒後にヘッドライト(および/またはポジションランプ)が消灯します。

ヘッドライト(および/またはポジションランプ)を消灯するには、スマートキーのロックボタンを2回押すか、ヘッドライトスイッチをOFF位置、またはAUTO位置にします。

ヘッドライトエスコート機能を有効にするには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ライト** > **ヘッドライトエスコート**を選択します。

i 情報

運転者が運転席以外のドアから降車した場合、バッテリーセーバー機能は作動せず、ヘッドライトエスコート機能は自動的にOFFになりません。

バッテリーの放電を防ぐため、降車前にヘッドライトスイッチを使用して手動でヘッドライトを消灯してください。

ルームライト自動点灯 / 消灯

ルームライト自動点灯/ 消灯は、以下の条件で点灯または消灯します。

- すべてのドアを閉めてロックした後に、ドアのロックを解除してドアを開けると、車内ボタンライトがしばらく点灯します。
- 車両の電源を入れると、車内ボタンライトが常時点灯します。
- 車両の電源を切った後も、車内ボタンライトはしばらく点灯します。ドアが開閉またはロックされると、車内ボタンライトは即座に消灯します。

車内ボタンライトを有効にするには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ライト** > **車室内ボタン照明常時点灯**を選択します。

デイタイムランニングライト（DRL）

デイタイムランニングライト（DRL）を使用すると、日中、特に夜明け後や日没前に、車の前方が他者から見やすくなります。

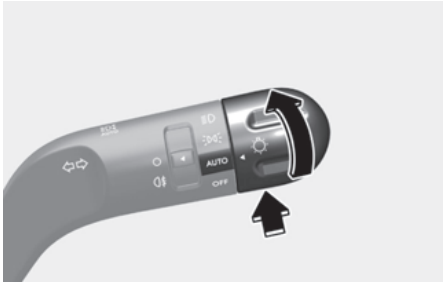
これは、車両電源をONにすると、自動的にONになります。

以下の場合、DRLシステムはOFFになります。

- ヘッドライトが点灯している。
- パーキングブレーキが作動している。
- 車両の電源が OFF である。

ハイビームアシスト（HBA）

装備されている場合



ハイビームアシストは、対向車両や先行車両のライトの明るさに応じて、ハイビームとロービームを自動的に切り替えます。

検知センサー



[A] フロントビューカメラ

フロントビューカメラは、走行中の周囲の明るさや光を検知するセンサーとして使用されます。

検知センサーの場所の詳細については、上の画像を参照してください。

知識

- ハイビームアシストが最適な性能を維持できるように、フロントビューカメラは常に良好な状態を保ってください。
- フロントビューカメラの制約の詳細については、第 7 章の「前方衝突防止アシスト（FCA)」を参照してください。

設定



EV START/STOPボタンがONの位置にある状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ライト** > **ハイビームアシスト**を選択しハイビームアシストをONにするか、選択解除して機能をOFFにします。

⚠ 警告

必ず車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。

作動

- インフォテインメントシステムで「**ハイビームアシスト**」を選択すると、ハイビームアシストは以下のように作動します。
  - ヘッドライトスイッチを **AUTO** 位置にし、方向指示器レバーを奥（インストルメントクラスター側）へ押し込みます。ハイビームアシスト（AUTO）インジケーターが点灯します。
  - ハイビームアシストを有効にすると、車速が 30km/h を超えたときにハイビームおよびハイビーム（≡D）インジケーターが点灯します。車速が 20km/h 未満の場合は、ハイビームは点灯せず、インジケーターが白く点灯します。
- ハイビームアシスト作動時は、以下のようになります。
  - ハイビームが消えているときに方向指示レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。方向指示レバーから手を放すと、ハイビームアシストが再び作動します。
  - ハイビームアシストによりハイビームが点灯しているときに、方向指示レバーを手前に引くと、ロービームが点灯し、ハイビームアシストが OFF になります。
  - 方向指示レバーを前方に押すとハイビームが点灯し、ハイビームアシストが OFF になります。
  - ヘッドライトスイッチを **AUTO** から別の位置（ヘッドライト / ポジション /OFF）に移動すると、対応するライトが点灯し、ハイビームアシストが OFF になります。

- ハイビームアシスト作動中は、以下の条件でハイビームがロービームに切り替わります。
  - 対向車両のヘッドライトを検知した。
  - 前方車両のテールライトを検知した。
  - バイクや自転車のヘッドライトまたはテールライトを検知した。
  - ハイビームが不要なほど周囲が明るい。
  - 街灯などの光を検知した。

i 情報

インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

故障と制約

故障



ハイビームアシストが正常に動作しない場合、「**運転者アシストシステムを点検してください。**」という警告メッセージが表示され、インストルメントクラスターに⚠警告灯が点灯することがあります。弊社認定修理業者にシステムの点検をご依頼いただくことを推奨します。

制約

以下のような状況では、ハイビームアシストが正常に動作しない場合があります。

- 対向車両または先行車両のヘッドライトが損傷しているか、検出範囲外である。
- 対向車両や先行車両のヘッドライトがほこりや雪、水で覆われている。
- 対向車両や先行車両のヘッドライトが消えており、フォグライトが点灯している。
- 車両のライトと同じような形状のライトが前方にある。
- ヘッドライトが適切に修理または交換されていない。
- ヘッドライトの照準が適切でない。
- 狭くカーブした道路、でこぼこ道、上り坂、下り坂などを走行している。
- 交差点やカーブした道路で先行車両が一部見えていない。
- 前方（工事現場）に仮置の反射板や警告灯がある。

- 信号機、反射標識、LED 標識、反射板が前方にある。
- 道路が濡れていたり、雪や氷で覆われている。
- カーブから車両が突然現れる。
- タイヤがパンクしているか、けん引されているために車両が傾いている。
- 排気ガス、煙、霧、雪、吹雪、路面の水しぶき、フロントガラスの結露などにより、対向車両のヘッドライトや先行車両が検知されていない。

i 情報

フロントビューカメラの制約の詳細については、第7章の「前方衝突防止アシスト(FCA)」を参照してください。

⚠ 警告

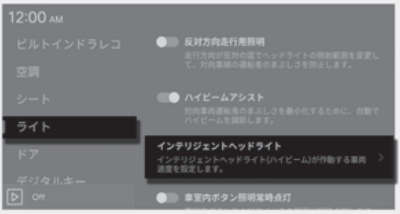
- 常に道路状況を確認し、必要に応じて、安全運転のための適切な行動を取ってください。自動車を安全に運転することは、運転者の責任です。
- ハイビームアシストが正常に作動しない場合は、方向指示レバーを操作してハイビームとロービームを切り替えてください。
- ハイビームアシストは、車両の始動直後またはフロントビューカメラの初期化時に 15 秒間作動しない場合があります。

インテリジェントフロントライトシステム（IFS）

装備されている場合

インテリジェントフロントライトシステムは、夜間の運転時に状況に応じてハイビームを使用し、運転者の視界を確保します。

設定



EV START/STOPボタンをON位置にした状態で、設定メニューから**設定** > **車両** > **ライト** > **インテリジェントハイビーム**（または**スマートハイビーム**）を選択すると、インテリジェントフロントライトシステムがONになり、選択を解除するとOFFになります。

⚠ 警告

安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

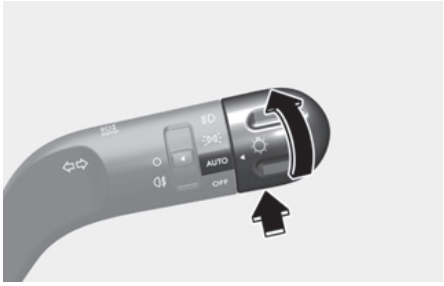
i 情報

欧州仕様

左ハンドルの国から右ハンドルの国に入る、またはその逆の場合は、運転者側のヘッドライトを消灯させるためにTravelモードをONにする必要があります。

TravelモードをONにするには、インフォテインメントシステムから**設定** > **車両** > **ライト** > **Travelモード**を選択します。

作動



インテリジェントフロントライトシステムは、インフォテイメントシステムで**設定 > 車両 > ライト > インテリジェントヘッドライト**を選択すると作動します。

- ヘッドライトスイッチを **AUTO** 位置にして、ヘッドライトレバーを奥（インストルメントクラスター側）へ押し込みます。クラスターディスプレイのインテリジェントフロントライトシステム（AUTO）インジケーターが点灯し、システムが有効になります。
- システムが有効になると、インフォテインメントシステムの設定速度に応じてインテリジェントフロントライトシステムが作動します。初期設定では、車速が 40km/h（25mph）を超えると作動します。
- ハイビーム LED は、フロントビューカメラが対向車両や先行車両を検知すると、部分的に消灯します。
- 高速走行中（約 100 km/h（60mph）以上）にインテリジェントフロントライトシステムが対向車両や先行車両を検知した場合、システムは、運転者側のヘッドライトは消灯し、助手席側のヘッドライトのみを制御します。

故障と制約

故障



インテリジェントフロントライトシステムが正常に機能しない場合、「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに数秒間表示されることがあります。メッセージが消えると、インストルメントクラスターのAFSと⚠警告灯が点灯します。弊社認定修理業者にシステムの点検をご依頼いただくことを推奨します。

停止



フロントビューカメラが覆われていたり、遮られていたりすると、インテリジェントフロントライトシステムが一時的に正常に機能しない場合があります。「**カメラ視野が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに表示されることがあります。

異物などが取り除かれると、システムは正常に作動します。

⚠ 警告

- インストルメントクラスターに警告メッセージや警告灯が表示されていないときでも、インテリジェントフロントライトシステムが正常に作動しない場合があります。
- インテリジェントフロントライトシステムは、検知する物体がない見通しのいい場所（他車のいない駐車場など）や、エンジンを始動した直後に検知センサーが遮られた場合、正常に作動しない場合があります。

制約

次の場合、インテリジェントフロントライトシステムが正常に作動しないことがあります。

- 対向車両または先行車両のヘッドライトが損傷しているか、検出範囲外。
- 対向車両や先行車両のヘッドライトがほこり、雪、または水で覆われている。
- 対向車両や先行車両のヘッドライトが消えており、フォグランプが点灯している。
- 車両のライトと似た形状のライトが前方にある。
- ヘッドライトが適切に修理、交換されていない。
- ヘッドライトの照準が不適切。
- 狭くカーブした道路、でこぼこ道、上り坂、下り坂などを走行している。
- 交差点やカーブした道路で先行車両の一部しか見えない。
- 信号機、反射標識、LED 標識、反射板が前方にある。
- 前方（工事現場）に仮置の反射板や警告灯がある。
- 道路が濡れていたり、雪や氷で覆われている。
- カーブから車両が突然現れる。
- タイヤがパンクしているか、けん引されているために車両が傾いている。
- 街灯が多いか、周囲が明るい。
- 排気ガス、煙、霧、雪などにより、他車のライトが検知されない。
- フロントガラスに異物が付着している。

知識

損傷防止のために、次の点を守ってください。

- カメラセンサーやカメラセンサーアセンブリーを絶対に分解しないでください。
- 弊社認定修理業者が交換または修理した検知センサーのみを使用してください。
- フロントガラスにアクセサリーやステッカーを取り付けたり、着色したりしないでください。
- カメラは常に乾いた状態を保ってください。
- ダッシュボード上に反射物（白い紙、鏡など）を置かないでください。
- カメラレンズのお手入れに、酸性またはアルカリ性洗浄剤を含む洗剤を使用しないでください。マイルドな洗浄剤または中性洗剤のみを使用し、水で念入りに洗い流してください。

⚠ 警告

- 常に道路状況を確認し、必要に応じて、安全運転のための適切な行動を取ってください。自動車を安全に運転することは、運転者の責任です。
- インテリジェントフロントライトシステムが正常に作動しない場合は、方向指示レバーを操作してハイビームとロービームを切り替えてください。

ルームライト

⚠ 警告

暗い場所を運転するときは、ルームライトを使わないでください。ルームライトで視界が遮られ、事故の原因となることがあります。

車両の電源がOFFの状態でルームライトを長時間使用しないでください。バッテリーが放電してしまいます。

自動消灯

ルームライトは、車両の電源をOFFにしてドアを閉めてから約20分後に自動的に消灯します。ドアが開いている場合は、車両の電源をOFFにしてから25分後に消灯します。スマートキーでドアをロックし、車両が盗難警報システムの警備段階に入ると、ルームライトは5秒後に消灯します。

フロントライト



- ：スイッチを押すと、マップライトが点灯または消灯します。このライトは、夜間のマップライトとして、または運転手と助手席のパーソナルライトとして便利なスポットビームを照射します。
- ：ボタンを押すと、前席と後席のルームライトが点灯します。
- ：ボタンを押すと、ムードライトが点灯します。もう一度押すと、消灯します。
- ：前席ドアまたは後席ドアを開けると、フロントルームライトまたはリアルームライトが点灯します。スマートキーによってドアのロックが解除されると、ドアが開かれていない限り、フロントライトとリアライトが約 30 秒間点灯します。ドアを閉めると、フロントルームライトとリアルームライトが約 30 秒後にゆっくり消灯します。ただし、EV START/STOP ボタンが ON 位置にある場合や、すべてのドアがロックされている場合は、フロントライトとリアライトが消灯します。EV START/STOP ボタンが ACC または OFF 位置にある状態でドアを開けると、フロントライトとリアライトは約 5 分間点灯します。

リアライト

ルームライト



パーソナルランプ（装備されている場合）



:ボタンを押すと、リアルームライトが点灯または消灯します。

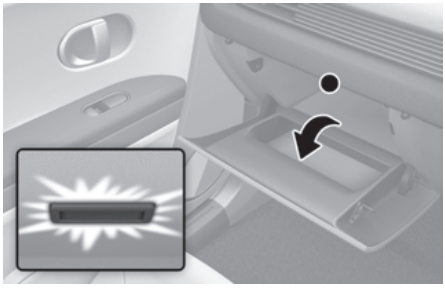
バニティミラーライト



スイッチを押すと、ライトの点灯/消灯が切り替わります。

- ：このボタンを押すと、ライトが点灯します。
- ○：このボタンを押すと、ライトが消灯します。

グローブボックスライト



グローブボックスを開くと、グローブボックスライトが点灯します。

グローブボックスが閉じられない場合、ライトは20分後に消灯します。

知識

バッテリーの不要な放電を防ぐため、使用後はグローブボックスを閉じてください。

ドアムードライト



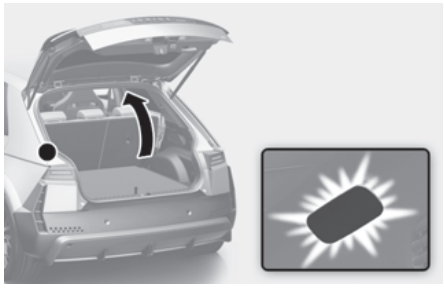
ドアムードライトの明るさと色を設定するには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ライト** > **室内ムード照明**を選択します。

- **ドライブモード連動**が選択されている場合、ドアムードライトの色は、選択したドライブモードに従って変わります。
- 車室内ムード照明を使用しない場合は、インフォテインメントシステムで「**明るさ**」を「**0**」に設定します。

i 情報

- インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムに付属のマニュアルおよびクイックリファレンスガイドを参照してください。
- ドアムードライトの色は、一部の状況下では、内装の色や設定したムードカラーによっては異なって見える場合があります。

ラゲッジルームライト



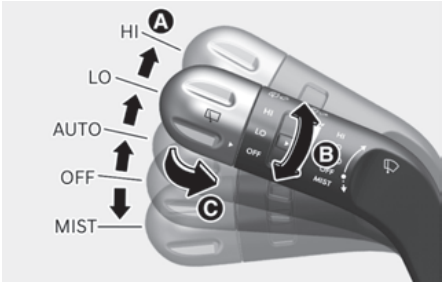
ラゲッジルームライトはテールゲートを開くと点灯し、テールゲートを閉じると消灯します。

知識

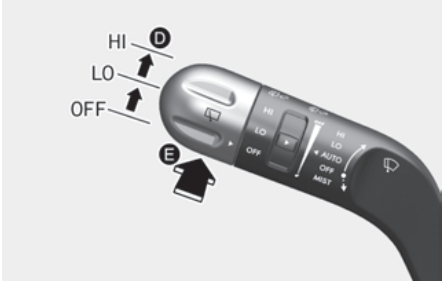
バッテリーの不要な放電を避けるため、使用後はテールゲートを閉じてください。

ワイパーとウォッシャー

フロントワイパー / ウォッシャー



リアワイパー



A.ワイパースピードコントロール

- **HI**: ワイパー高速
- **LO**: ワイパー低速
- **INT**: 間欠作動 ※ 速度設定を変更するには、スピードコントロールノブを回します。

  AUTO（装備されている場合）: オートワイパー
- **OFF**:OFF
- **MIST**: ワンタッチワイパー作動

B.間欠作動時間調節／オートワイパー作動時間調節

C.ウィンドウの清掃(フロント)

D.リアワイパーコントロール

- **HI**: ワイパー高速
- **LO**: ワイパー低速
- **OFF**:OFF

E.ウィンドウの清掃(リア)

フロントワイパー

車両の電源がONになると、以下のように動作します。

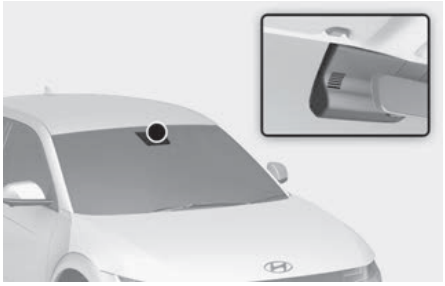
- **HI**: 高速作動
- **LO**: 低速作動
- **INT**: 間欠作動 ※ 速度設定を変更するには、スピードコントロールノブを回します。
- **AUTO**：フロントガラスの上端に設置されたレインセンサーが雨量を感知し、適切な間隔でワイピングサイクルを制御します。雨量が増えるほどワイパーが高速になります。雨が止むとワイパーが止まります。※ 速度設定を変更するには、スピードコントロールノブを回します。
- **OFF**: 作動停止
- **MIST**: ワンタッチ作動の場合は、レバーを下方向に押してから離します。レバーをこの位置で保持すると、ワイパーは連続して作動します。

i 情報

フロントガラスに雪や氷が大量に付着している場合は、ワイパーやウォッシャーシステムの破損防止のため、フロントガラスの除霜を約10分間、または雪や氷がなくなるまで行ってください。

AUTO（自動）制御

装備されている場合



フロントガラスの上端に設置されたレインセンサーが雨量を感知し、ワイピングサイクルの間隔を制御します。

感度設定を変えるには、感度コントロールノブを回します。

EV START/STOPボタンがON位置にある状態で、ワイパースイッチをAUTOモードに設定すると、ワイパーが1回作動してシステムのセルフチェックが行われます。ワイパーを使用しないときは、**OFF**位置にしてください。

⚠ 警告

オートワイパー使用時は、けが防止のために以下を遵守してください。

- レインセンサーに面したフロントガラスの上端には触れないでください。
- フロントガラスの上端を湿らせた布や濡れた布で拭かないでください。
- フロントガラスに圧力をかけないでください。

知識

- 洗車時は、ワイパースイッチを **OFF** 位置にして、オートワイパー作動を停止してください。
- 助手席側のフロントガラス上端にあるセンサーカバーを外さないでください。

フロントウォッシャー



OFF位置で、レバーをゆっくり手前に引くと、フロントガラスにウォッシャー液が噴射され、ワイパーが1~3回作動します。噴射とワイパーは、レバーを離すまで作動し続けます。ウォッシャーが機能しない場合は、ウォッシャー液リザーバーにウォッシャー液を補充しなければならない可能性があります。

ウォッシャー液使用時の内気循環

ウォッシャー液を使用する場合、ウォッシャー液の好ましくない臭いが車内に入るのを抑えるために、内気循環モードに切り替わり、エアコンディショナーが外気温に応じて自動的に作動します。この機能の作動中に外気導入モードを選択した場合、一定時間後に機能が再開されます。寒冷な気象状況や車両電源停止時など、条件によっては作動しないことがあります。

詳細については、本章の「エアコンディショナーシステムの追加機能」を参照してください。

⚠ 警告

外気温が氷点下の場合は、必ずデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてください。ウォッシャー液がフロントガラス上で凍結して視界が遮られ、衝突や重大な傷害、死亡の原因になることを防ぐことができます。

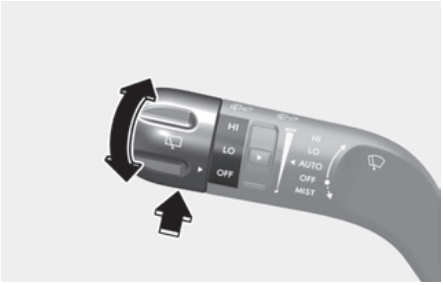
冬季や寒冷な気象状況では、ウォッシャー液を適切に使用してください。

知識

損傷防止のために、次の点を守ってください。

- フルードリザーバーが空の時やフロントガラスが乾いているときは、ウォッシャーを作動させないでください。
- フロントガラスが乾いているときはワイパーを作動させないでください。
- ワイパーを手で動かそうとしないでください。
- 冬季や寒冷な気象状況では、不凍性のウォッシャー液を使用してください。

リアワイパーとウォッシャー



リアワイパー＆ウォッシャースイッチは、ワイパーとウォッシャーのスイッチレバーの端にあります。スイッチを希望の位置に回して、リアワイパーとウォッシャーを操作します。

- **HI**: ワイパー高速
- **LO**: ワイパー低速
- **OFF**:OFF

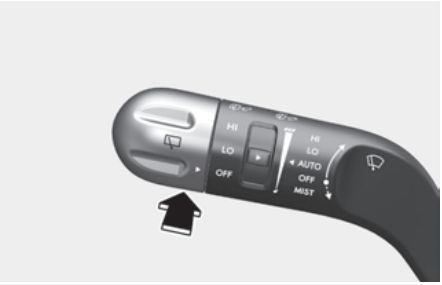
自動リアワイパーモード

リアワイパーモードは、フロントワイパーモードをONにした状態で車両をバックさせると作動します。

この機能は、インフォテインメントシステムの**設定** > **車両** > **便利機能** > **後退時リアワイパー作動**で選択できます。

詳細については、第5章の「ウォッシャー液使用時の内気循環」を参照してください。

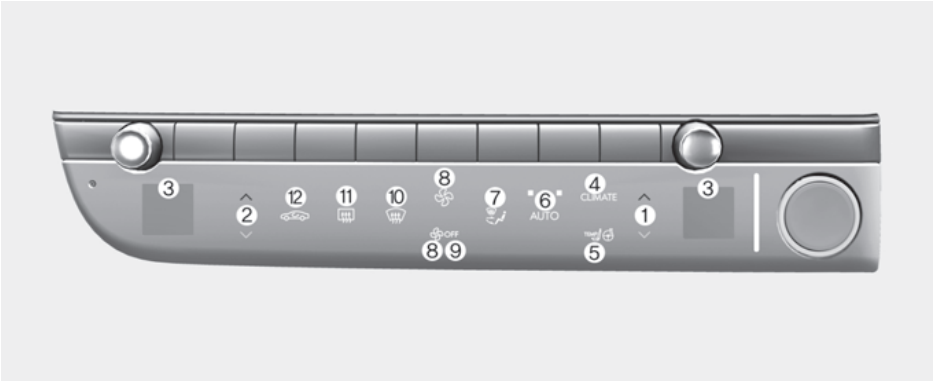
リアウォッシャー



レバーを前方に押すと、リアウォッシャー液が噴射され、リアワイパーモードが1～3回作動します。噴射とワイパーは、レバーを離すまで作動し続けます。

エアコンディショナーシステム

空調パネル



インフォテインメントシステム（空調）



空調システムのボタンは車両の仕様により異なる場合があります。

(1) 運転席の温度調節
(2) 助手席の温度調節
(3) 風向の表示
(4) 空調インフォテインメントシステムの表示
(5) 空調連動自動制御インフォテインメント画面
(6) AUTO(自動制御)
(7) モード選択
(8) ファン速度制御
(9) OFF
(10)フロントガラスデフロスター
(11)リアウィンドウデフォッガー
(12)エアインテークコントロール

(13)周囲温度の表示
(14)運転者のみ
(15)A/C(エアコンディショナーシステム)
(16)SYNC
(17)空気清浄モード

i 情報

清潔で柔らかいマイクロファイバー製の布を使用して、タッチスクリーンの指紋を優しく拭き取ります。

エアコンディショナーシステム



CLIMATEボタンを押して、インフォテインメント画面に空調情報が表示されます。

オートマチックエアコンディショナー

オートマチックエアコンディショナーは、必要な温度を設定することによって制御されます。

1. 車両の電源を ON にした状態で、**AUTO** ボタンを押します。モード、ファン速度、空気取り入れ口、空調は、温度設定によって自動的に制御されます。

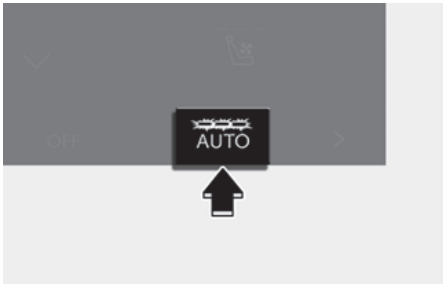
   自動操作中、**AUTO** ボタンを押すことにより、ファン速度を 3 段階にコントロールできます。

高	最大レベルのファン速度設定範囲でエアコンディショナーを制御します。
中	中レベルのファン速度設定範囲でエアコンディショナーを制御します。
低	最低レベルのファン速度設定範囲でエアコンディショナーを制御します。

タイプ A



タイプ B

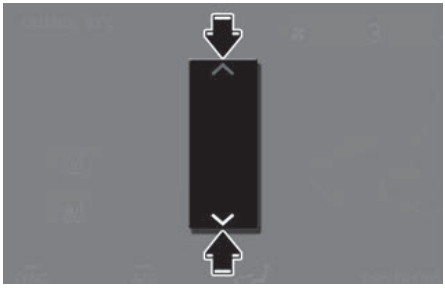


2. 温度調節ボタンを押して、お好みの温度に設定します。温度が最低に設定されている場合、エアコンディショナーシステムは継続的に作動します。設定された温度まで十分に冷やされたまたは、暖められた後は温度を一定に維持するように作動します。

タイプ A



タイプ B

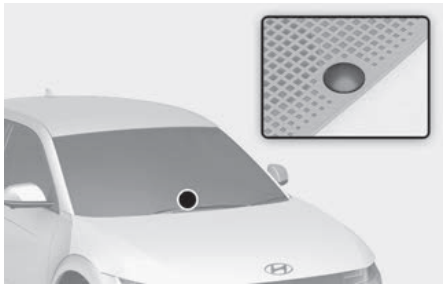


自動操作を OFF にするには、次のいずれかのスイッチを選択します。

- ファン速度制御
- A/C（エアコンディショナーシステム）
- モード選択
- フロントガラスデフロスター

選択した機能は手動制御へ切り替えられますが、他の機能は自動的に継続作動している場合があります。

知識



エアコンディショナーシステムを適切に制御できるように、センサーの近くには何も置かないでください。

マニュアルエアコンディショナー

1. 車両の電源を ON にした状態で、モード選択スイッチを希望の位置に設定します。

情報

冷暖房の効果を向上させるには、次を選択します。

- 暖房：
- 冷房：

2. 温度調節を目的の温度にセットします。
3. エアインテークコントロールを内気循環モードまたは外気の位置に設定します。
4. ファン速度制御を目的の速度にセットします。
5. エアコンディショナーシステムを使用する場合は、システムを ON にします。
6. **AUTO** ボタンを押して、システムの完全自動制御に変更します。

モード選択

タイプ A

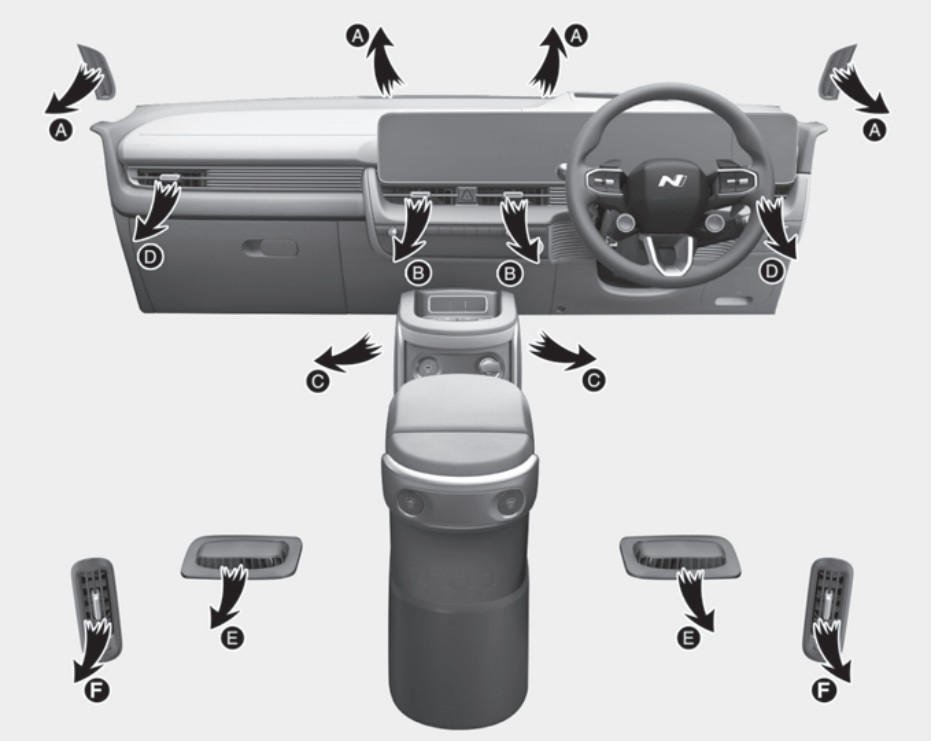


タイプ B



モード選択スイッチは、換気システムを通る風の方向を制御します。

風向



記号	操作	方向
	空気の流れは上半身と顔に向けられます。さらに、各吹き出し口を制御して、その吹き出し口からの風向を調節することも可能です。	B、D、F
	上半身と足元に向けて風を送ります。	B、C、D、E、F
	上半身、足元、フロントガラスに向けて風を送ります。	A、B、C、D、E、F
	風のほとんどを足元に向けて、少量をフロントガラスとサイドウィンドウのデフロスターに向けて送ります。	A、C、D、E
	風のほとんどを足元とフロントガラスに向けて、少量をサイドウィンドウのデフロスターに向けて送ります。	A、C、D、E
	風のほとんどをフロントガラスに向けて、少量をサイドウィンドウのデフロスターに向けて送ります。	A、D

フロントガラスデフロスター [A]、[D]

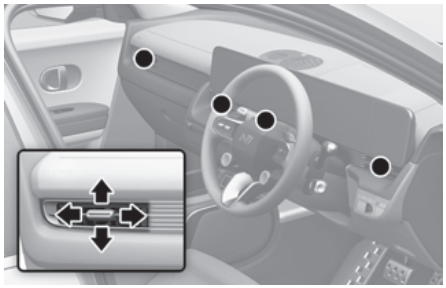


フロントガラスデフロスターボタンを押して(インジケーターON)、フロントガラスデフロスターをONにします。フロントガラスのデフロスターが設定されている場合、外気導入モードが自動的に選択され、検出された周囲温度に応じてエアコンディショナーシステムがONになります。

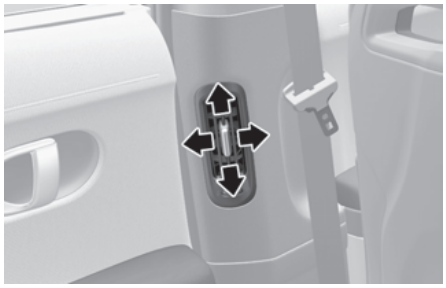
フロントガラスデフロスターボタンをもう一度押して(インジケーターOFF)、この機能をOFFにします。各空調を設定すると、フロントガラスのデフロスターを選択する前の設定に戻ります。

インストルメントパネルベント

フロント



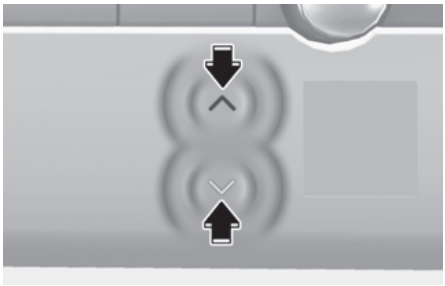
リア



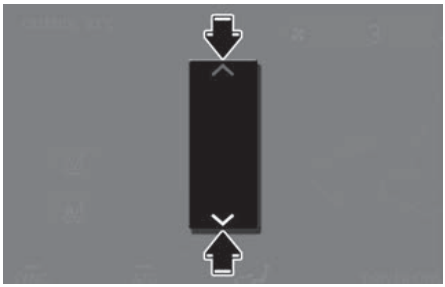
- インストルメントパネルの吹き出し口からの風は、送風口調整レバーで上下左右に向けることができます。
- 送風口調整レバーを ⊗ の位置まで押すと、送風を止めることができます。

温度制御

タイプ A



タイプ B



^ボタンを押すと温度が上がります。v ボタンを押すと温度が下がります。

温度変換（° C ↔ ° F）

温度の単位を° Cから° Fに、または° Fから° Cに変更するには：

インフォテインメントシステムで**設定** > **一般** > **単位設定** > **温度の設定** > **° C/° F** を選択します。

運転者のみ



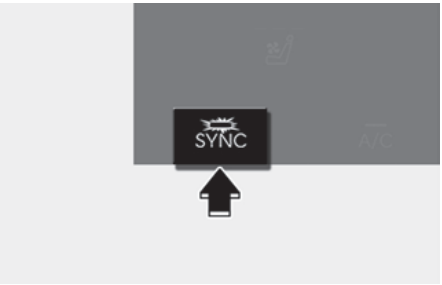
DRIVER ONLYボタンを押すと（インジケーターライトオン）、風のほとんどが運転席の方に向かいます。

i 情報

DRIVER ONLYの使用中でも、室内の空気を快適に保つために、風の一部が他のシート位置に向けられることがあります。

フロントガラスデフロスターを使用する場合、**DRIVER ONLY**の作動に関係なく、フロントガラスの両側の風は作動し続けます。

SYNC（運転席側と助手席側の温度を等しく調整します）



温度、風向、ファン速度を均等に調整する

SYNCボタンを押し(インジケーターが点灯する)、運転席側と助手席側の温度、風向、ファン速度を均等に調整します。

温度を個別に調整する

もう一度**SYNC**ボタンを押すと(インジケーター消灯)、運転席側と助手席側の温度を個別に調整できます。

エアインテークコントロール

内気循環モード



内気循環モードを選択すると、車内の空気が空調システムを通して取り込まれます。

外気導入モード



外気導入モードを選択すると、外気が車外から車内に入り、空調システムを通過します。

i 情報

システムを外気導入モードで使用することを推奨します。

(エアコンディショナーシステムを選択せずに)内気循環モードでヒーターを長時間作動させると、フロントガラスやサイドウィンドウに曇りが発生したり、車内の空気が悪くなったりする可能性があります。

さらに、選択した内気循環モードで空調を長期間使用すると、車室内の空気が過度に乾燥します。

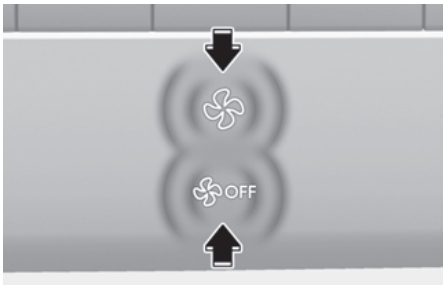
⚠ 警告

重大な傷害や死亡事故を防ぐために、以下の点を守ってください。

- 内気循環モードで空調システムを継続して使用すると車内の湿度が上昇し、フロントガラスやサイドウィンドウが曇り、視界が不明瞭になる場合があります。
- エアコンディショナーシステムを ON にしたまま車内で寝ないでください。
- 内気循環モードでエアコンディショナーシステムを継続して使用すると、ふらつきや眠気により車両制御の喪失を引き起こす可能性があります。運転中はエアインテークコントロールを外気導入モードに設定することを推奨します。

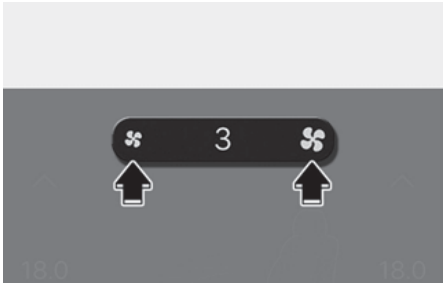
ファン速度制御

タイプ A



ボタンを押すとファン速度が上がり、風量が増えます。OFFボタンを押すとファン速度が下がり、風量が減ります。

タイプB

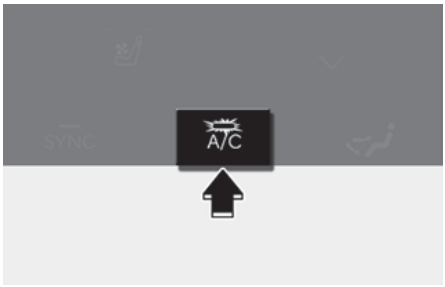


ボタンを押すとファン速度が下がり、風量が減ります。ボタンを押すとファン速度が上がり、風量が増えます。

i 情報

EV START/STOPボタンがOFFの位置にあるときにファン速度を操作すると、バッテリーが放電する場合があります。

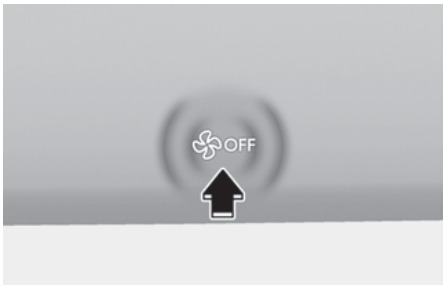
エアコンディショナーシステム



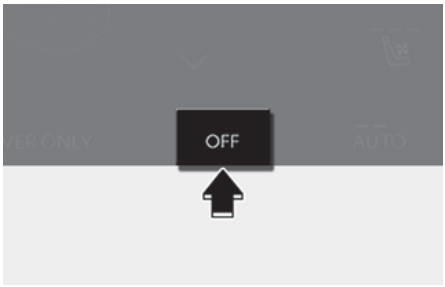
A/Cボタンを押すと、手動でシステムのON(インジケーターライト点灯)とOFFができます。

OFF モード

タイプ A



タイプ B



OFFまたは**OFF**ボタンを押すと、空調システムがOFFになります。ただし、EV START/STOPボタンがONの位置であれば、モード選択やエアインテークコントロールは作動させることができます。

空気清浄モード

空気清浄モードを選択すると、車両に搭載された粉塵センサーで車内の粉塵濃度を測定し、車内の空気の状態を空調情報画面に表示します(1)。必要に応じて、汚染された外気を防ぎ、室内エアフィルターが粉塵を濾過して車内の空気を清浄し、新鮮な空気を得ることができます。



車内の空気の状態表示

空調システムがONになると、空気の状態が以下の4レベルで表示されます。

ON	空気清浄モード	OFF		ON	
	車内の空気の状態	良い(青)	普通(緑)	悪い (オレンジ)	非常に悪い (赤)
	大気質指標 ($\mu g/m^3$)	0～15	16～35	36～75	76以上

車内の空気の状態が悪い場合は、空気清浄モードがエアコンディショナーシステム、換気、ファン速度の増加によって車内の空気を清浄にします。

i 情報

- 空気清浄モードの効率を最大限に高めるには、24ヶ月ごとに室内エアフィルターを交換する必要があります。(厳しい走行条件に該当する場合、記載されている距離より交換時期が早まる場合があります)
- 大気汚染度の高い都心部や粉塵や悪路などの過酷な条件で走行した場合や、大量の粉塵に長時間さらされて車内の粉塵濃度が画面に「よい」と表示されない場合は、室内エアフィルターを点検してください。室内エアフィルターが汚れていると、画面で粉塵濃度が「悪い」または「非常に悪い」と出る可能性があります。
- 空気清浄モードの性能を最適な状態に維持するために、純正品の室内エアフィルターを使用することを推奨します。
- 空気清浄モードの性能を最適な状態に維持するために、純正品の室内エアフィルターを使用してください。

  集塵効率や除塵性能が低い室内エアフィルターを使用した場合や、仕様を満たさない室内エアフィルターを使用した場合、画面で粉塵濃度が「悪い」または「非常に悪い」と出る可能性があります。
- 表示される粉塵濃度は車内でリアルタイムに測定しているため、測定値は大気中の粉塵濃度とは異なります。
- 表示される数値は、測定場所によって異なる場合がありますので、参考程度にお考えください。
- 粉塵濃度の値は、光学的手法で粉塵数を測定して粉塵濃度に換算した結果です。
- 粉塵濃度は 0 から 199 の範囲で表示されます。
- 粉塵濃度の測定値は、他の機器や製品の測定基準と異なる場合があります。
  - 粉塵濃度が高い場合は、表示される粉塵濃度は実際の濃度レベルと異なる場合があります。
- 粉塵の拡散は遅いため、濃度レベルの測定タイミングが遅れることがあります。
- 粉塵センサーの周辺で動きがあると、センサーが正常に作動しません。表示される粉塵濃度が実際の濃度レベルと異なる場合があります。
- 次のような環境では、粉塵濃度が実際のレベルと異なって出される場合があります。
  - 毛皮製品がある、または虫やペットがいる
  - 掃除機を使用した
  - 湿度が高い
  - ドアやウィンドウを開けて外気を取り込んでいる
  - 工事現場、工場から排出された外気が侵入する
  - 蒸気や微粒子を発生させる製品（加湿器、スプレーなど）を使用した
  - 散布や掃除などで発生した粉塵であっても、大きい（PM10 以上）場合は粉塵センサーが反応しないことがあります。そのような粉塵は室内エアフィルターで除去されます。
- 芳香剤、消臭剤、洗浄剤など臭いの原因となる製品によって、粉塵の濃度レベルが変化することがあります。
- 電磁波や電気ノイズの影響を受ける環境では、一時的に粉塵濃度が高く表示されることがあります。
- 車両の電源を ON にしたときは、粉塵センサーのリセットに時間がかかる場合があります。
- 室内エアフィルターを定期的に交換しないと、画面で粉塵濃度が「悪い」または「非常に悪い」と出る可能性があります。

作動

冷房 / ベンチレーション

1. モードを の位置に設定します。
2. 外気導入または内気循環の位置に設定します。
3. 温度調節器を任意の位置に設定します。
4. ファン速度制御を目的の速度にセットします。

暖房

1. モードを の位置に設定します。
2. 外気導入または内気循環の位置に設定します。
3. 温度調節器を任意の位置に設定します。
4. ファン速度制御を目的の速度にセットします。
5. 必要に応じて、温度を高めに設定した状態でエアコンディショナーシステムを ON にすると、車内に入る前の空気を除湿することができます。

フロントガラスが曇る場合は、モードを位置に設定します。

操作のヒント

- ベンチレーションシステムを通じてほこりや排気ガスが車内に侵入するのを防ぐには、一時的にエアインテークコントロールを内気循環モードにします。不快な空気がなくなったら、車内の新鮮な空気を保つためにコントロールを外気導入モードに戻してください。これは、運転者の注意力と快適性を保つのに役立ちます。
- フロントガラスの内側の曇りを防ぐには、エアインテークコントロールを外気導入モードに設定し、ファン速度を任意の位置に設定し、エアコンディショナーシステムを ON にして、温度コントロールを任意の温度に調整します。

エアコンディショナーシステム

お使いのヒョンデ車両のエアコンディショナーシステムにはR-1234yf冷媒が充填されています。

1. 車両を始動します。エアコンディショナーシステムボタンを押します。
2. モードを の位置に設定します。
3. エアインテークコントロールを外気導入モードまたは内気循環モードに設定します。
4. 必要に応じてファン速度制御と温度制御を調整します。

最大限に冷却する場合は、温度制御を最低位置に設定してから、ファン速度制御を最高設定にします。

エアコンディショナーシステム操作のヒント

- 暑い天候で直射日光の当たる場所に駐車していた場合は、短時間でもウィンドウを開けて車内の熱気を逃がしてください。
- 十分な冷却が行われた後、内気循環モードから外気循環モードに戻します。
- 雨天時や高湿度時にウィンドウ内側の湿気を軽減するには、ウィンドウやサンルーフを閉めた状態でエアコンディショナーシステムを作動させて車内の湿度を下げます。
- エアコンディショナーシステムの性能を最大限に発揮するために、1ヶ月に1回、数分間だけでもエアコンディショナーシステムを使用してください。
- エアコンディショナーシステムを過度に使用すると、外気とフロントガラスの温度差により、フロントガラスの外側が曇り、視界が悪化することがあります。この場合、モード選択を 位置にし、ファン速度制御を最低速度に設定します。

システムのメンテナンス

室内エアフィルター

室内エアフィルターはグローブボックスの後ろに取り付けられています。エアコンディショナーシステムを介して車両に入る粉塵やその他の汚染物質をろ過します。

室内エアフィルターの交換は、メンテナンススケジュールに従い、弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。粉塵や悪路、および/またはペットを乗せたり同乗者が車内で煙草を吸うなどの過酷な条件で走行する場合は、室内エアフィルターの頻繁な点検と交換が必要です。

i 情報

- メンテナンススケジュールに従ってフィルターを交換してください。埃っぽい道や悪路など、過酷な状況で走行する場合は、より頻繁な室内エアフィルターの点検・交換が必要です。
- 風量が突然減少した場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

エアコンディショナーシステムの冷媒量とコンプレッサーの潤滑油量の確認

冷媒量が少ないと、空調性能が低下します。また、過充てんもエアコンディショナーシステムの性能を低下させます。

そのため、異常な動作が見つかった場合は、弊社認定修理業者にシステムを点検してもらうことを推奨します。

知識

オイルや冷媒は適切な種類と量を使用することが重要です。そうしないと、コンプレッサーの損傷やシステムの異常動作が起こるおそれがあります。損傷を防ぐため、車両のエアコンディショナーシステムの点検修理は、トレーニングを受けた認定技術者のみに依頼してください。

⚠ 警告

R-1234yfを充てんしている車両



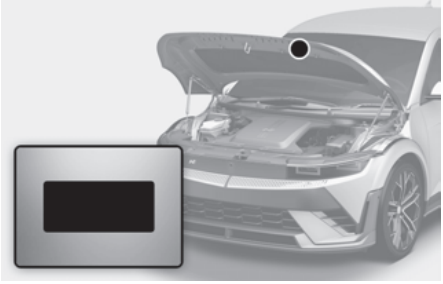
重大な傷害を防ぐため、エアコンディショナーシステムの点検修理は、トレーニングを受けた認定技術者のみに依頼してください。

R-1234yfはわずかな可燃性を持つ、特定不活性ガスです。

冷媒の回収には、R-1234yf用の回収装置を使用してください。R-1234yfは大気開放することが可能ですが、大気開放を行う場合には、火気を取り扱う場所や引火

性若しくは発火性のものを堆積した場所又はその付近を避け、できるだけ通風のよい場所で少しづつ放出するなど、取扱いには相応の注意が必要です。

エアコン用冷媒のラベル



お使いの車両に充填されているエアコンディショナーシステムの冷媒は、ボンネット内に貼られたラベルで確認できます。



エアコンディショナーシステム用冷媒のラベルには、記号や仕様が次のように記載されています。

(1) 冷媒の分類
(2) 冷媒の量
(3) コンプレッサー用潤滑剤の分類
(4) 注意マーク
(5) 引火性のある冷媒
(6) エアコンディショナーシステムの点検修理には認定技術者が必要

フロントガラスの除霜と防曇

⚠ 警告

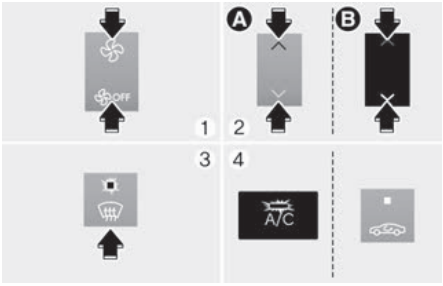
極端に湿度の高い天候では、冷却操作中に除霜レベル㊈の位置を使用しないでください。フロントガラスの外側が曇って視界が悪化し、事故が発生して重大な傷害または死亡に至るおそれがあります。

モード選択ボタンを上半身レベル--の位置に設定し、ファン速度を下げてください。

- 除霜性能を最大限に発揮させるためには、温度調節スイッチを最高温度設定にし、ファン速度制御を最高設定にします。
- 除霜や防曇の際に足元に温風を当てたい場合は、足元の霜取り位置を選択します。
- 走行前に、フロントガラス、リアウィンドウ、アウトサイドミラー、すべてのサイドウィンドウに付着した雪や氷を取り除いてください。
- ボンネットや吸気口に付着した雪や氷を取り除くことで、ヒーターやデフロスターの効率を高め、フロントガラス内側が曇りにくくなります。

エアコンディショナーシステム

フロントガラス内側を防曇するには



[A] 空調パネル
[B] インフォテインメントシステム（空調）

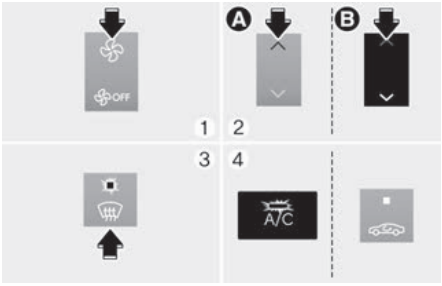
(1) ファン速度を選択します。素早く防曇をするには、ファン速度を最高位置に設定します。

(2) 任意の温度を選択します。

(3) デフロスター㊈ボタンを押します。

(4) 外気導入モードが自動的に選択されます。エアコンディショナーは自動的に作動します。エアコンディショナー、外気導入モード位置が自動的に選択されない場合は、対応するスイッチを手動で調整します。

フロントガラス外側を除霜するには



[A] 空調パネル
[B] インフォテインメントシステム（空調）

(1) ファン速度を最高位置にセットします。

(2) 温度を最も高い位置に設定します。

(3) デフロスター㊈ボタンを押します。

(4) 検出された周囲温度に応じてエアコンディショナーがONになり、外気導入モードが自動的に選択されます。

防曇ロジック

フロントガラスの内側を曇りにくくするため、吸気口やエアコンは特定の条件に従って自動的に制御されます。防曇ロジックをキャンセルまたは初期化するには、次の手順を実行します。

1. EV START/STOP ボタンを ON の位置にします。
2. デフロスター（）または（）を 3 秒以上長押しします。

エアインテークコントロールボタンのインジケーターが3回点滅し、防曇ロジックが無効になったことを示します。もう一度手順を繰り返すと、防曇ロジックが再度有効になります。

バッテリーが放電したり切断されたりした場合は、防曇ロジック状態に初期化されます。

リアウィンドウの除霜（ヒーター）

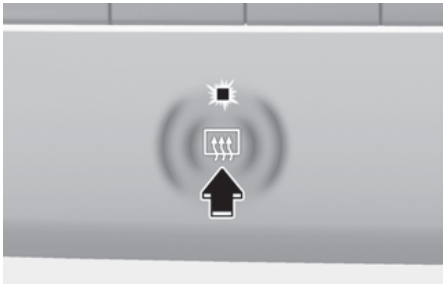
リアウィンドウデフォッガー

知識

リアウィンドウデフォッガーの損傷を防ぐため、ウィンドウの清掃に鋭利な器具や研磨剤を含むウインドウクリーナーを絶対に使わないでください。

デフォッガーは、車両電源がONの状態にある間、ウィンドウを加熱して、リアウィンドウの内側と外側に付着した霜、霧、薄氷を除去します。

- リアウィンドウデフォッガーを有効にするには、センターコントロールパネルにあるリアウィンドウデフォッガーボタンを押します。リアウィンドウデフォッガーボタンのインジケーターは、デフォッガーが ON の時に点灯します。



- デフォッガーを OFF にするには、リアウィンドウデフォッガーボタンをもう一度押します。

i 情報

- リアウィンドウに大量の積雪がある場合は、リアデフォッガーを作動させる前に雪を払い落としてください。
- リアウィンドウデフォッガーは、約20 分後、または EV START/STOP ボタンが OFF 位置になると、自動的にオフになります。

アウトサイドミラーデフォッガー

アウトサイドミラーデフォッガーは、リアウィンドウデフォッガーをONにすると作動します。

エアコンディショナーシステムの追加機能

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

エアコンディショナーシステム自動乾燥

エアコンディショナーシステム自動乾燥機能は、エアコンディショナーシステム内の湿気を乾燥させ、エアコンディショナーシステムの臭いを抑えます。ブロワーモーターは、車両電源をOFFにしてから30分後に自動的に作動します。

エアコンディショナーシステム自動乾燥機能のON/OFFを切り替えるには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **空調** > **空調の便利機能** > **エアコン自動乾燥**を選択します。

機能設定後に作動条件が満たされると、インフォテインメントシステムに作動条件が表示され、ブロワーモーターが自動的に作動します。

ファン速度レベル3および外気導入モードに設定され、風向が足元へ調整されます。

作動条件

エアコンディショナーシステム自動乾燥機能は、以下の条件で作動します。

- エアコンディショナーシステムを一定時間作動させた後で、車両電源が OFF になっている。
- バッテリ残量が十分で、外気温が一定以上である。

非作動条件

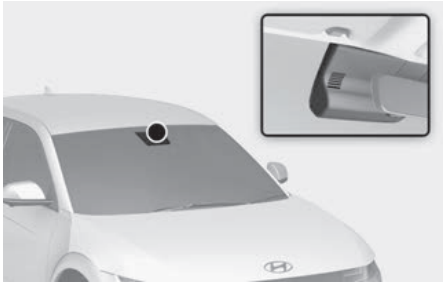
エアコンディショナーシステム自動乾燥機能は、以下の条件で作動を停止します。

- エアコンディショナーシステム自動乾燥機能が 10 分間作動した。
- EV START/STOP ボタンが押される、または車両電源が ON の状態である。
- 空調システムがリモートで操作される。

i 情報

エアコンディショナーシステム自動乾燥機能はエアコンディショナーシステムの臭いを軽減しますが、すべての臭いを除去できるわけではありません。

オートデフロスター



オートデフロスターは、フロントガラス内側の湿気を自動的に感知することにより、フロントガラス内側が曇る可能性を低減します。

オートデフロスターは、エアコンディショナーシステムがONの時に作動します。

i 情報

外気温が-10° Cを下回ると、オートデフロスターが正常に作動しない場合があります。

オートデフロスターが作動すると、インジケーターが点灯します。

車内が高湿度であることが検知されると、オートデフロスターが有効になります。

次の手順が自動的に実行されます。

ステップ1.エアコンディショナーシステムがONになり、外気導入モードが選択されます。

ステップ2.除霜レベルが選択されます。

ステップ3.ファン速度が高速レベルに設定されます。

オートデフロスターがONの状態で、エアコンディショナーシステムがOFFになったり手動で内気循環モードを選択したりすると、オートデフロスターはキャンセルされます。

オートデフロスター ON/OFF 切り替え

エアコンディショナーシステム

EV START/STOPボタンがON位置にあるときに、フロントガラスデフロスターボタンを3秒間押します。オートデフロスターがOFFになると、ADS OFF記号が空調情報画面に表示され、3回点滅します。

オートデフロスターがONになると、空調情報画面には表示されず、ADS OFF記号が6回点滅します。

インフォテインメントシステム

オートデフロスターのON/OFFを切り替えるには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **空調** > **窓の結露防止** > **オートデフロスター**を選択します。

i 情報

- オートデフロスターが作動している間は、内気循環モードを選択しないでください。
- オートデフロスターの作動時は、風量調整、温度調節、エアインテークコントロールの選択がすべて無効になります。

知識

フロントガラスの上部にあるセンサーカバーを取り外さないでください。損傷は車両保証の対象外となる場合があります。

自動除湿

装備されている場合

車内の空気の質を高め、フロントガラスの曇りを軽減するために、外気温に応じて約5～30分後に内気循環モードが自動的にOFFになり、エアインテークが外気導入モードに変更されます。

自動除湿の ON/OFF 切り替え

自動除湿のON/OFFを切り替えるには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **空調** > **自動換気** > **自動除湿**を選択します。

ウォッシャー液使用時の内気循環

装備されている場合

内気循環モードは、フロントガラスウォッシャー使用時に自動的に作動し、車内に入るウォッシャー液の匂いを軽減します。

内気循環モードに移行しても、不快な匂いが車内に流れ込むことがあります。

また、寒冷気候のときはフロントガラスの曇りを防ぐために、内気循環モードは選択できないことがあります。

ウォッシャー液連動の ON/OFF

ウォッシャー液連動は、SETUPボタンを押してから、インフォテインメントシステムで**車両** > **空調** > **外気遮断** > **ウォッシャー液連動**を選択することで、ON/OFFを切り替えることができます。

トンネル進入時の内気循環

装備されている場合

トンネル通過時に車内への汚染空気の流入を防ぐため、ウィンドウと空調システムは以下のようにナビゲーションの地図情報と車速を利用して動作します。

この機能は、インフォテインメントシステムから有効にすることができます。以下を選択します。**設定** > **車両** > **空調** > **外気遮断**

- **トンネル進入時に作動**：車の窓は自動的に閉まり、空調システムはトンネルに入る約 7 秒前に内気循環モードに切り替わります。

トンネルを通過後、ウィンドウは元の位置まで開きます。ウィンドウが開く前にパワーウィンドウスイッチを操作した場合は、ウィンドウは元の位置に戻りません。

作動条件

- 空調システムのフレッシュモードが選択されている。
- ウィンドウが開いている。

  ウィンドウが自動的に閉まるのは、全席にウィンドウ自動アップ / ダウン機能が装着されている場合のみです。

i 情報

- GPS と車速の時間差により、機能の作動時間が異なる場合があります。
- この機能は、連続したトンネルを通過するまで作動します。
- トンネルに入る際、内気循環モードのためにフロントガラスが曇る場合があります。フロントガラスのデフロスターボタンを使用してください。
- この機能は短いトンネルでは作動しません。
- GPS が正常に動作していない場合、この機能が有効にならないことがあります。
- インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムに付属のマニュアルおよびクイックリファレンスガイドを参照してください。

⚠ 警告

ウィンドウを閉めるときに体の一部を挟まないように注意してください。

収納部

⚠ 警告

ライター、プロパンボンベ、その他の可燃性/爆発物を車両に保管しないでください車両が長時間にわたって極度の高温にさらされた場合、これらの荷物が引火や爆発を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

走行中は、収納部カバーを必ずしっかりと閉じてください。車両内の荷物は、車両と同じ速度で動いてます。急停止や急ハンドル操作をしたときや衝突があったときに、収納物が収納部から飛び出して、運転者や乗員に当たって負傷するおそれがあります。

⚠ 注意

盗難防止のため、トランクに貴重品を入れないでください。

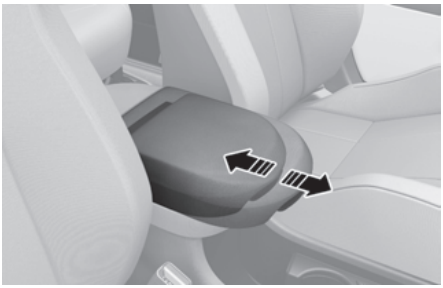
センターコンソールストレージ



開け方:

ボタンを押します。

スライド式アームレスト



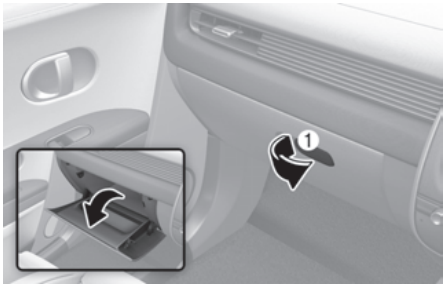
アームレストを前方に移動させるには、次の手順を実行します。

アームレストの前部をつかみ、前方に引きます。

アームレストを後方に移動させるには、次の手順を実行します。

アームレストの前部をつかみ、後方に押します。

グローブボックス



開け方:

レバー(1)を引きます。

⚠ 警告

使用後は必ずグローブボックスのドアを閉めてください。

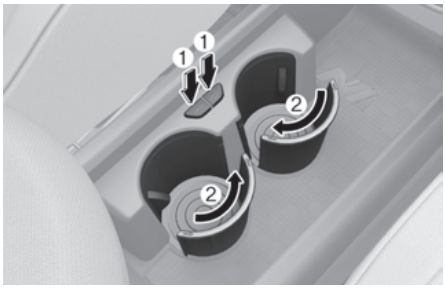
グローブボックスのドアが開いていると、乗員がシートベルトを着用していても、衝突の際に重大な傷害を負う可能性があります。

内装機能

カップホルダー

カップホルダーには、カップや小型の飲料カップを置くことができます。

前席



ボタン(1)を押します。カップサポーターが、フロントコンソールから展開します。

使用後はカップサポーター(2)を押し込んで格納してください。

後席アームレスト



アームレストを下に引いて、カップホルダーを使用します。

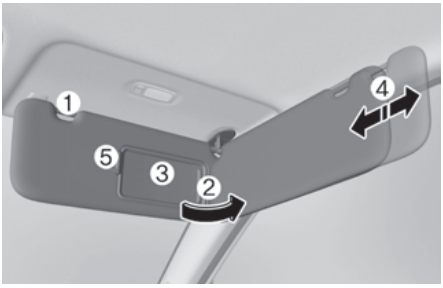
⚠ 警告

- 飲み物をこぼさないために、カップホルダー使用時の急発進や急ブレーキは避けてください。高温の液体がこぼれると、やけどのおそれがあります。運転者がやけどすると、車両操作ができなくなるおそれがあり、事故につながる可能性があります
- カップホルダーには柔らかいカップのみを使用してください。

⚠ 注意

- 運転中は飲み物がこぼれないように密封しておいてください。液体がこぼれた場合、車両の電気 / 電子システムに入り、電気 / 電子部品を損傷する可能性があります。
- こぼれた液体を清掃するときは、カップホルダーに熱風を吹き付けたり熱風で乾燥させたりしないでください。内装が損傷するおそれがあります。
- 缶やボトルは直射日光の当たらない場所に保管し、高温の車内に置かないでください。破裂するおそれがあります。

サンバイザー



サンバイザーを使用するには、引き下げます。

サンバイザーを使用してサイドウィンドウからの日差しを遮るには、サンバイザーを後方に引いてブラケット(1)から外し、ウィンドウに向かって横(2)に回します。

バニティミラーを使用するには、サンバイザーを引き下げ、ミラーカバー(3)をスライドさせます。

必要に応じてサンバイザーを前後(4)に調整します(装備されている場合)。チケットホルダー(5)はチケットの保持に使用します。

使用後は、バニティミラーのカバーをしっかりと閉め、サンバイザーを元の位置に戻してください。

⚠ 警告

サンバイザー使用時には視界や車道を遮らないようにしてください。

⚠ 注意

サンバイザーのバニティミラーの横にあるタブ(5)は、有料道路のチケットやセルフパーキングのチケットの保持に使用できます。チケットホルダーにチケットを挿入する際は、破損しないように注意してください。チケットホルダーにチケットを複数枚入れることはお控えください。保持タブも破損することがあります。

シガーソケット

フロント



リア



シガーソケットは、携帯電話など、車両の電気システムに対応した機器に電源を供給するように設計されています。

車両の電源をONにした状態では、機器が消費する電力が180W未満になるようにしてください。

⚠ 警告

感電しないように注意してください。シガーソケットに指や異物(ピンなど)を入れたり、濡れた手でシガーソケットに触れたりしないでください。

⚠ 注意

シガーソケットの損傷を防ぐために、以下のことに注意してください。

- シガーソケットは走行中のみ使用し、使用後はアクセサリープラグを外してください。電源 OFF 時にアクセサリープラグを長時間使用すると、バッテリーが放電してしまう可能性があります。
- 電気容量が 180W 未満である 12V の電気アクセサリのみを使用してください。
- シガーソケットを使用するときは、エアコンやヒーターの作動レベルを最低に調整してください。
- 使用しないときは、カバーを閉じてください。
- 電子機器の中には、車両のシガーソケットに差し込むと電子的干渉を起こすものがあります。
- プラグは一番奥まで押し込んでください。一番奥まで差し込まれていないと(接触不良だと)プラグが過熱し、ヒューズが切れるおそれがあります。
- 逆電流保護を搭載した機器のみを接続してください。機器のバッテリからの電流により、車両の電気 / 電子システムが誤作動するおそれがあります。

USB 充電器

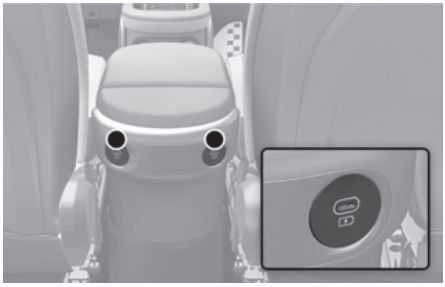
フロント



フロント



リア



USB充電器は、USBケーブルを使用して小型電子機器のバッテリーを充電するように設計されています。

EV START/STOPボタンがACCまたはONまたはSTART位置にあるときに、電子機器を充電することができます。

i 情報

- バッテリーの充電状態は、電子機器上で確認できます。
- 使用後は、USB ポートから USB ケーブルを取り外してください。
- スマートフォンやタブレット PC は、充電中に温度が上昇することがあります。これは充電システムの故障を示すものではありません。
- 充電に USB ケーブルを使用しないスマートフォンやタブレット PC は、専用の充電器を使用して充電する必要があります。
- オーディオ端末を ON にしたり、インフォテインメントシステムでメディアを再生したりするために、充電端子を使用しないでください。
- 携帯電話メーカーや市販の Type-C から A へのコンバーターを使用すると、充電できない場合があります。

⚠ 注意

- USB 充電器は走行中に使用してください。EV START/STOP ボタンが ON 位置（車両電源停止時）で USB 充電器を長時間使用すると、バッテリーが放電してしまう可能性があります。
- USB 充電器の損傷を防ぐために、以下のことに注意してください。
  - USB ポートに異物を入れたり液体をこぼしたりしないでください。USB 充電端子が破損する可能性があります。
  - 消費電流が 3,000mA（3.0 A）を超える機器は使用しないでください。
- USB 変換アダプター（タイプ C からタイプ A）を使用して電子機器を充電する場合は、ご使用の車両に指定の純正アダプターを使用してください。一般的に使用されているアダプターには、過電流防止や安定性維持のための対策が施されていない場合があります。

  指定外のケーブルを使用すると、車両の USB 充電器や接続機器が破損するおそれがあります。HYUNDAI 車用アクセサリーの詳細については、弊社認定修理業者にお問い合わせください。
- 純正部品以外のものを使用すると、USB ポートやインフォテインメントシステムを損傷するおそれがあります。損傷は車両保証の対象外となる場合があります。

クラスターディスプレイサイドパネル



クラスターディスプレイサイドパネルは、駐車券や領収書などの軽いものを磁力で貼り付けるパッドになっています。

知識

携帯電話のような重いものは貼り付けないでください。走行中に落下して製品が破損することがあります。

⚠ 警告

安全のため、携帯電話や、重量があるものや尖っているものはクラスターディスプレイサイドパネルに貼り付けないでください。

落下の際に運転に支障をきたし、それにより事故につながったり、死亡、重大な傷害、または物的損害につながったりするおそれがあります。

スマートフォンワイヤレス充電システム

装備されている場合



[A] インジケーター
[B] 充電パッド

スマートフォンの充電

スマートフォンワイヤレス充電システムで充電できるのは、Qi対応のスマートフォン(φ)のみです。お使いのスマートフォンがQi技術に対応しているかどうかは、スマートフォンメーカーのWebサイトでご確認ください。

画面を上に向けて、Qi対応のスマートフォンをワイヤレス充電ユニットに置くと、ワイヤレス充電が始まります。

1. すべてのドアが閉まっていて、EV START/STOP ボタンが ON または START 位置にあるときに、スマートフォンワイヤレス充電器を使用できます。
2. インフォテインメントシステムでワイヤレス充電機能をオンにします。
   - **設定** > **車両** > **便利機能** > **モバイル機器用ワイヤレス充電システム**を選択します。
3. スマートフォンをワイヤレス充電パッドの中央に置きます。スマートフォンの充電中はインジケーターがオレンジに点灯し、充電が完了すると青に変わります。

i 情報

- ワイヤレス充電パッドから、スマートキーを含む他のアイテムを取り除きます。
- フリップタイプのスマートフォンの場合、ワイヤレス充電システムを使用する際は、スマートフォンを折り畳んだ状態で背面をワイヤレス充電ユニットの中央に置いてください。

スマートフォンが充電されない場合：

- スマートフォンをワイヤレス充電パッドから一度離して、もう一度置き直します。
- インジケーターがオレンジであることを確認します。

ワイヤレス充電システムに故障があると、インジケーターが10秒間オレンジに点滅します。

車両の電源をOFFにして前席ドアを開けた後でも、スマートフォンがワイヤレス充電パッドに置かれたままの場合、クラスターディスプレイのメッセージで警告されます。

知識

- スマートフォンワイヤレス充電システムは、Qi 規格（φ）を満たしていないスマートフォンには対応していない場合があります。
- スマートフォンを充電パッドに置くときは、最適な充電性能を得るために、スマートフォンをマットの中央に置いてください。スマートフォンの位置がずれていると、充電速度が低下したり、スマートフォンの熱伝導が高くなったりすることがあります。
- 車両を始動したりドアをロック / ロック解除したりするときにスマートキーを使用すると、ワイヤレス充電が一時的に停止することがあります。
- 一部のスマートフォンの充電時には、スマートフォンの充電が完了しても充電インジケーターが青に変わらない場合があります。

- スマートフォンワイヤレス充電システム内部の温度が異常に上昇すると、ワイヤレス充電が一時的に停止することがあります。温度が下がるまで、ワイヤレス充電は再開されません。
- スマートフォンワイヤレス充電システムとスマートフォンとの間に硬貨などの金属物があると、ワイヤレス充電が一時的に停止することがあります。
- 一部のメーカーのスマートフォンでは、ワイヤレス充電ユニットにスマートフォンを置いたままにしていても、警告されない場合があります。これはスマートフォンの特性によるものであり、ワイヤレス充電の故障ではありません。
- 充電中に Android Auto などのスマートフォンアプリを使用すると、スマートフォンの過熱により充電処遅延または中断する場合があります。これは、ワイヤレス充電システムのせいではなく、スマートフォン自体の過熱によるものです。そのため、スマートフォンと充電パッドの接続を解除してください。
- スマートフォンに厚みのあるケースが装着されていると、充電されない場合があります。
- スマートフォンと充電パッドの接触が不完全だと、ワイヤレス充電が正常に作動しないことがあります。
- EV START/STOP ボタンが OFF 位置にあるときも、充電は停止します。
- ワイヤレス充電機能を搭載していないスマートフォンや金属製のものを充電パッドに置くと、小さな雑音が聞こえることがあります。この小さな音は、充電パッドに置かれたものの互換性を車両で識別するために生じます。車両やスマートフォンへの影響はありません。
- スマートフォンの内部構造によっては、スマートフォンの充電ができない場合があります。このような場合は、ワイヤレス充電パッドの上でスマートフォンを左右に動かして充電できるか試してください。また、スマートフォン内部に磁石が取り付けられている折りたたみ式スマートフォンの場合は、ワイヤレス充電パッドの左側に近づけて充電できるか試してください。
- ワイヤレス充電の速度は、スマートフォンメーカーのワイヤレス充電方式や製品仕様によって異なります。お使いのスマートフォンのワイヤレス充電最大速度は、スマートフォンメーカーのユーザーマニュアルでご確認いただけます。
- 充電中にスマートフォンが熱を持つのは一般的な現象です。Android Auto や Apple CarPlay を使用していると、熱を持つのが速くなり、充電は遅くなる場合があります。

ビークルトゥロード（V2L）



V2L(ヴィークルトゥロード)は、後席中央下部に設置されています。V2Lは、車内で多様な家庭用電化製品を使用するのに十分な電力を供給する便利な機能です。

詳細については、第1章の「V2L機能を使用するV2L機能を使用する」を参照してください。

時計

時計はインフォテインメントシステムで設定できます。

⚠ 警告

走行中に時計を調整しないでください。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

コートフック

リア



このフックは、大きなものや重いものを掛けるためのものではありません。

⚠ 警告

柔らかい衣類のみを吊るすようにし、衣類のポケットには、重いもの、先の尖ったもの、壊れやすいものを入れないでください。事故の際やカーテンエアバッグが膨らんだときに、物が動いて重大な傷害を負う可能性があります。



フロアマットアンカー

前席用のフロアマットを車両に取り付けるときは、必ずフロアマットアンカーを使用してください。前席用フロアカーペットのアンカーは、フロアマットが前方にずれないようにするためのものです。

⚠ 警告

フロアマットがブレーキやアクセルペダルに干渉することによる重大な傷害や死亡事故を防ぐために、以下を実施してください。

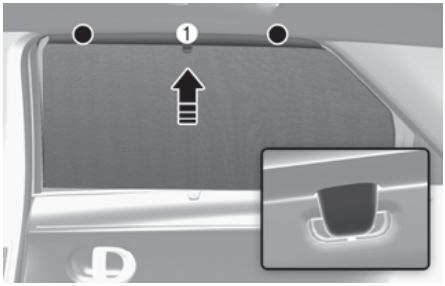
- フロアマットを設置する前に、カーペットの上にある保護フィルムを取り除いてください。
- 運転前に、フロアマットが車両のフロアマットアンカーにしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 車両のフロアマットアンカーにしっかりと固定できないフロアマットは使用しないでください。
- フロアマットを重ねないでください（たとえば、敷かれたフロアマットの上に全天候型ラバーマットなど）。各位置に取り付けられるフロアマットは、1枚だけにする必要があります。

⚠ 警告

HYUNDAIでは、ペダル操作の干渉を避けるために、車両で使用するように設計されたHYUNDAI純正フロアマットを取り付けることを推奨します。

後席サイドウィンドウサンシェード

リアサイドウィンドウのサンシェードを使用して、リアウィンドウのガラス越しに入ってくる外光を遮ります。



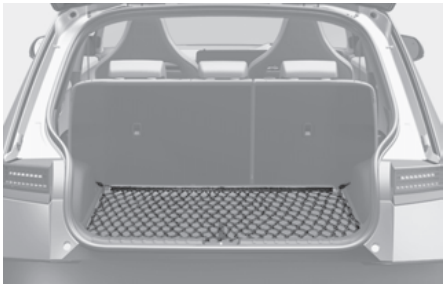
1. サンシェードをハンドル（1）で持ち上げます。
2. サンシェードを両側のフックに掛けます。サンシェードを一方のフックだけに掛けると、サンシェードにシワができることがあります。

知識

- リアサイドウィンドウのサンシェード以外のものをフックに掛けないでください。
- 使用後にリアサイドウィンドウのサンシェードを引っ張ったり元の位置に戻そうと力を加えたりすると、サンシェードにシワができたり形が崩れたりすることがあります。サンシェードを下げるときは必ずハンドルを押し下げ、ゆっくりと元の位置に戻してください。
- ドアに異物（硬貨、おもちゃ、菓子など）が挟まっていると、サンシェードが正常に機能しないことがあります。ドアに異物が入らないように注意してください。

ラゲッジネットホルダー

装備されている場合



ラゲッジスペースで荷物が動かないようにするには、ラゲッジスペースのサイドトリムにある4つのホルダーを使用して、ラゲッジネットを装着します。

ラゲッジネットがラゲッジボードのホルダーにしっかりと取り付けられていることを確認してください。

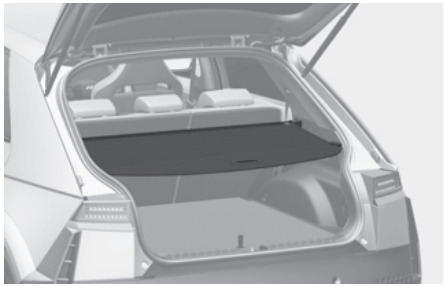
必要に応じて、弊社認定修理業者からラゲッジネットを入手されることを推奨します。

⚠ 警告

- 目をけがしないように注意してください。ラゲッジネットを伸ばしすぎないでください。ラゲッジネットが縮む際の経路上に顔や身体を近づけないでください。ストラップに摩耗や損傷の兆候が見られる場合は、ラゲッジネットを使用しないでください。
- 軽いものだけにラゲッジネットを使用して、ラゲッジスペース内で動かないようにしてください。

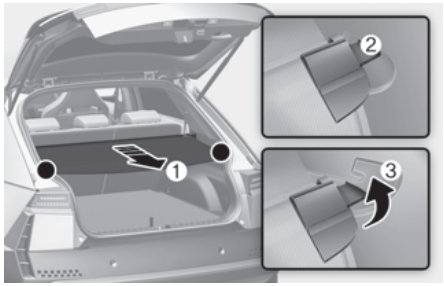
ラゲッジスクリーン

装備されている場合



ラゲッジスクリーンを使用して、ラゲッジスペースに収納されているものにカバーを掛けます。

ラゲッジスクリーンの使用



1. ハンドル（1）でラゲッジスクリーンを車両後方に引きます。
2. ガイドピン（2）をガイド（3）に差し込みます。

i 情報

ガイドピンがガイドから抜けないように、ハンドルを中心にしてラゲッジスクリーンを引き出します。

ラゲッジスクリーンを使用しないときは、以下のようにします。

1. ラゲッジスクリーンを後方に引き、ガイドから外します。
2. ラゲッジスクリーンが自動的にスライドして戻ります。

i 情報

ラゲッジスクリーンが完全に引き出されていない場合､自動的にスライドして戻らないことがあります｡ラゲッジスクリーンを完全に引き出してから､ゆっくりとスクリーンが収納されるようにしてください。

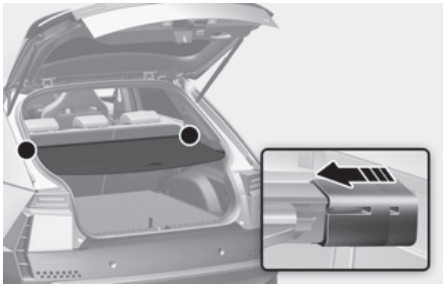
知識

- ラゲッジスクリーンが破損したり、変形したりすることがありますので、使用中は荷物を載せないでください。
- 後席を前後にスライドさせたり後席のシートバックをリクライニングさせたりすると、ラゲッジスクリーンや後席自体が破損するおそれがあります。
- ラゲッジスクリーンのハンドルを完全に引いた状態でハンドルを離すと、スクリーンが急に巻き上がって破損することがあるので注意してください。

⚠ 警告

- ラゲッジスクリーンの上に荷物を置かないでください。このような物体は車内に投げ込まれ、事故やブレーキングの際に車両の乗員を傷つける可能性があります。
- トランクルームには絶対に人を乗せないでください。荷物専用です。
- 車両のバランスを保ち、できるだけ前方が重くなるように配置してください。

ラゲッジスクリーンの取り外し



1. ラゲッジスクリーンの片側を内側に押して、ばねを押し縮め、スクリーンを車両から外します。
2. ばねを押し縮めた状態で、ラゲッジスクリーンを引き抜きます。

インフォテインメントシステム

知識

- 非純正 HID ヘッドライトは取り付けないでください。車両のオーディオ機器や電子機器が正常に作動しない可能性があります。
- 内装部品の損傷や色あせにつながるおそれがあるため、香水、美容オイル、日焼け止めクリーム、ハンドクリーナー、芳香剤などの化学物質を内装部品に付着させないようにしてください。

USB ポート



車両の電源が入った状態でUSBポート選択ボタンを押します。電子機器を充電する場合は、ボタンの上部(1)を押します。メディアストレージデバイスを充電して音楽を聴く場合は、ボタンを押して下部(2)に切り替えます。(1)または、(2)どちらかのインジケーターが点灯していれば、USBポートを使用することができます。

- USB ケーブルを使用して車両の USB ポートにオーディオ機器を接続できます。
- MP3 や USB などのメディアストレージデバイスを USB ポートに接続すると、車両のスピーカーから音楽を聴いたり、インフォテインメントシステムで再生したりすることができます。
- 小型電子機器の充電が可能です。

i 情報

- USB ポートから充電できない機器もあります。
- パワーアウトレットに接続したポータブルオーディオ機器を使用すると、再生時にノイズが発生することがあります。このような場合は USB ケーブルを外し、ポータブルオーディオ機器の電源を使用してください。

知識

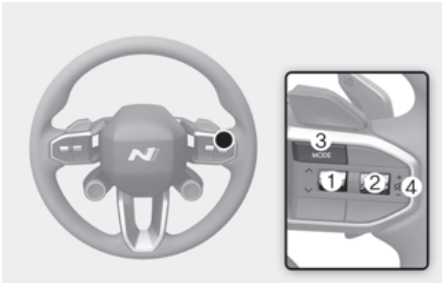
- USB Type-A やメモリー機器を車両に接続する場合は、車両専用の純正変換アダプター（C → A タイプ）をご使用ください。一般的に使用されているアダプターには、ノイズ低減、過電流防止、安定性維持のための対策が施されていない可能性があります。指定外のケーブルを接続すると、車両の USB ポートや接続機器が破損するおそれがあります。HYUNDAI 車用アクセサリーの詳細については、弊社認定修理業者にお問い合わせいただくことを推奨します。
- 純正部品以外のものを使用すると、USB ポートやインフォテインメントシステムを損傷するおそれがあります。損傷は車両保証の対象外となる場合があります。

アンテナ



シャークフィンアンテナは、送信データ(AM/FMなど)を受信します。

ステアリングホイールリモートコントロール



知識

オーディオリモコンのボタンを同時に複数操作しないでください。

SEEK/PRESET（1）

SEEK/PRESETスイッチを上または下に0.8秒以上押したままにすると、次のモードで機能します。

- RADIO モード

  自動選局ボタンとして機能します。ボタンを離すまで選局を続けます。
- MEDIA モード

  早送り / 巻戻しボタンとして機能します。

SEEK/PRESETスイッチを上または下に押すと、次のモードで機能します。

- RADIO モード

  プリセット選局ボタンとして機能します。
- MEDIA モード

  トラック移動ボタンとして機能します。

VOLUME（2）

レバーを上下に押して音量を調節します。

MODE（3）

MODEボタンを押して、選択したメディアソースを切り替えます。まだメディアソースを選択していない場合は、選択メニューが表示されます。メディアソースを選択している場合は、**MODE**ボタンを長押しすることで、選択メニューにアクセスできます。

MUTE（4）

VOLUMEスイッチを押して、サウンドの有無を切り替えます。

インフォテインメントシステム



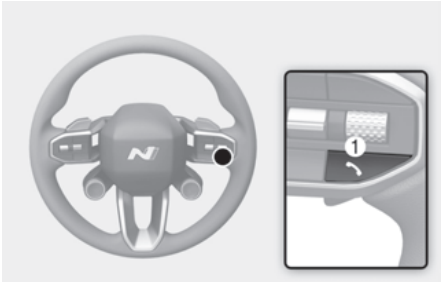
インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

音声認識



インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

Bluetooth® ワイヤレス技術





(1) 発話 / 受話 / 通話終了ボタン
(2) マイク

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムマニュアルまたはクイックガイドを参照してください。

⚠ 注意

運転者が運転に集中できるよう、運転中のこれらの機能の使用は最小限にしてください。注意が散漫になると衝突事故を引き起こし、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

6. 運転にあたって

運転する前に 6-4
乗車する前に 6-4
始動する前に 6-4
EV START/STOP ボタン 6-5
EV START/STOP ボタン位置 6-6
車両始動方法 6-7
車両電源停止方法 6-9
リモート始動 6-9
シフト操作 6-10
シフト操作 6-10
クラスターディスプレイメッセージ 6-14
安全な運転のための注意事項 6-15
N ブレーキ回生 6-16
使用方法 6-16
制約 6-17
最適化モード 6-18
ワンペダルドライブ 6-18
i-PEDAL 6-19
スマート回生ブレーキ 6-20
スマート回生ブレーキの ON/OFF 6-21
作動条件 6-21
レベル設定 6-22
一時停止 6-23
フロントセンサー（フロントレーダー） 6-23
システム警告 6-23
注意事項 6-24
ブレーキシステム 6-27
パワーアシストブレーキ 6-27
ディスクブレーキ摩耗インジケーター 6-28
高性能ブレーキ 6-28
電動パーキングブレーキ（EPB） 6-29
オートホールド 6-32
ブレーキディスククリーニング 6-34
アンチロックブレーキシステム（ABS） 6-35
車体姿勢制御機能（ESC） 6-36
シャシー統合制御システム（VSM） 6-39

ヒルアシストコントロール（HAC）.....6-40
急制動警報システム（ESS）.....6-41
マルチコリジョンブレーキ（MCB）.....6-41
ブレーキアシスタントシステム（BAS）.....6-42
注意事項 6-42
四輪駆動（4WD）.....6-43
緊急時の注意事項.....6-46
電子制御式リミテッドスリップデファレンシャル（e-LSD）.....6-47
警告メッセージ 6-48
N ボタン.....6-49
ドライブモード統合制御システム 6-50
ドライブモード 6-50
ドライブモードの特徴.....6-52
N モード.....6-53
パフォーマンスオプション設定 6-54
N e-Shift 6-54
N Active Sound+ 6-56
N ローンチコントロール 6-57
N ペダル 6-58
N トルクディストリビューション.....6-60
N グリンブースト.....6-60
N レース 6-62
N バッテリプレコンディショニング 6-63
N ドリフトオプティマイザー Pro.....6-65
トラック SOC（装備されている場合）.....6-66
N ロードセンス（装備されている場合）.....6-67
電子制御式サスペンション（ECS）.....6-67
アクティブエアフラップ.....6-68
故障 6-68
特殊状況下の運転 6-69
危険状況下 6-69
車両脱出時操作方法 6-69
スムーズなコーナリング 6-70
夜間時 6-70
雨天時 6-70
冠水時 6-70

6. 運転にあたって

高速道路走行時 6-71
横転リスクの軽減 6-71
冬季の運転 6-72
積雪や凍結時 6-72
注意事項 6-74
車両重量 6-75
過積載 6-76

運転する前に

乗車する前に

- ウィンドウ、アウトサイドミラー、車外のライトのいずれにも汚れや使用の妨げとなるものがないことを確認します。
- 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
- タイヤに偏摩耗や損傷がないか目視で点検します。
- 車両の底部に液漏れの兆候がないか点検します。
- 車両を後退させる場合は、後方に障害物がないことを確認します。

始動する前に

- ボンネット、テールゲート、ドアがしっかりと閉じられ、ロックされていることを確認します。
- シートとステアリングホイールの位置を調整します。
- インサイドミラーとアウトサイドミラーを調節します。
- すべてのライトが機能することを確認します。
- シートベルトを着用します。乗員全員がシートベルトを着用していることを確認します。
- 車両電源がオンの状態で、インストルメントパネルのゲージとインジケーター、インストルメントクラスターのメッセージを確認します。
- 積み込んだ荷物が適切に置かれ、しっかりと固定されていることを確認します。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、次の点を守ってください。

- 必ずシートベルトを着用してください。車両が動いているときは、乗員全員がベルトを正しく着用しなければなりません。詳細については、第 3 章の「シートベルトシートベルト」を参照してください。
- 常時慎重に運転してください。他の運転者や歩行者が不注意な行動を取ったり、操縦を誤ったりする可能性を想定してください。
- 運転に集中してください。不注意な運転は事故を招きます。
- 自車と先行車両の間に十分なスペースを確保してください。

⚠ 警告

飲酒後や薬の服用後には決して運転しないでください。

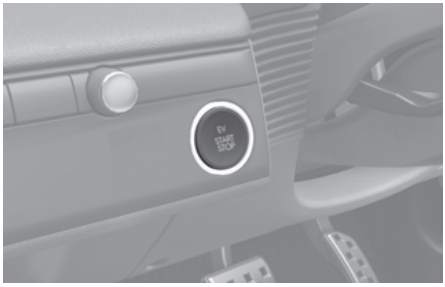
飲酒や薬の服用後に運転するのは危険で、事故、重大な傷害、死亡につながるおそれがあり危険です。

飲酒運転は毎年、高速道路での死亡原因の多くを占めています。少量のアルコールでも、反射神経、知覚、判断力に影響を与えます。一口でも飲酒すると、変化する状況や緊急事態への対処能力が奪われ、飲量が増えるほど反応速度は遅くなります。

薬剤の影響下での運転は、アルコールの影響下での運転と同じかそれ以上に危険です。

飲酒後や薬の服用後の運転は、重大な事故を招く可能性がはるかに高くなります。お酒を飲んだとき、薬を服用したときは、運転しないでください。飲酒した、または薬を服用した人が運転する車には同乗しないでください。代行運転を利用するか、タクシーを呼んでください。

EV START/STOP ボタン



フロントドアが開いているときはEV START/STOPボタンが点灯し、ドアが閉まるとその数秒後に消灯します。

⚠ 警告

緊急時に車両の電源を停止するには、次の手順を実行します。

EV START/STOPボタンを2秒以上長押しするか、EV START/STOPボタンを素早く3回(3秒以内に)押します。

車両がまだ動いている場合は、シフトポジションをN(ニュートラル)に入れてEV START/STOPボタンを押すと、ブレーキペダルを踏まずに車両を再始動できます。

⚠ 警告

- 緊急時でない限り、車両の走行中に決して EV START/STOP ボタンを押さないでください。車両の電源が切れて、パワーステアリングやブレーキシステムが作動しなくなります。車両の方向制御やブレーキが機能しなくなって事故につながるおそれがあります。
- 運転席を離れる場合は、シフトポジションが P（パーキング）に入っていること、パーキングブレーキがかかっていること、EV START/STOP ボタンが「OFF」になっていることを必ず確認し、スマートキーを携帯して離れてください。注意事項を守らなかった場合、車両が想定外の挙動をするおそれがあります。
- 走行中は決してステアリングホイールの間に手を入れて、EV START/STOP ボタンなどの制御スイッチを操作しないでください。手や腕がステアリングホイールの間にあることが原因で車両を制御できなくなり、事故を引き起こすおそれがあります。

EV START/STOP ボタン位置

ボタンの位置	操作	注記
OFF	車両の電源をオフにするには、P(パーキング)に入れてEV START/STOPボタンを押します。 シフトポジションがD(ドライブ)、R(リバース)、またはN(ニュートラル)の位置にあるときにEV START/STOPボタンを押すと、シフトポジションは自動的にP(パーキング)に切り替わります。	
ACC	EV START/STOPボタンがOFFのときに、ブレーキペダルを踏まずにこのボタンを押します。 一部の電装品を使用できます。	EV START/STOPボタンを「ACC」の位置にしたまま1時間以上経過すると、放電を防ぐために自動でバッテリーの電源が切れます。
ON	EV START/STOPボタンを「ACC」の位置にし、ブレーキペダルを踏まずにこのボタンを押します。 車両が始動する前に警告灯の点灯を確認できます。	バッテリーの放電を防ぐため、走行しないときはEV START/STOPボタンを「ON」のままにしないでください。
START	車両を始動するには、シフトポジションをP(パーキング)に入れてブレーキペダルを踏み、EV START/STOPボタンを押します。	ブレーキペダルを踏まずにEV START/STOPボタンを押しても車両は始動せず、EV START/STOPボタンが次の順序で切り替わります。**OFF** > **ACC** > **ON** > **OFF**または**ACC**

i 情報

バッテリーの放電を防ぐため、シフトポジションをP(パーキング)に入れた状態でEV START/STOPボタンが一定時間「ACC」または「ON」のままになっていると、EV START/STOPボタンは「OFF」に切り替わります。この機能が働くとテールライトが消灯します。テールライトをもう一度点灯させるには、ステアリングコラムに装備されているヘッドライトスイッチをOFFにしてから再度ONに切り替えます。

車両始動方法

⚠ 警告

- 車両を操作する際は、必ず運転に適した靴を履いてください。ハイヒールやスキーブーツ、サンダル、ビーチサンダルなど、運転に適さない履物は、ブレーキペダルやアクセルペダルを操作する際の妨げになるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏んだまま車両を始動しないでください。

  車両が動いて事故につながるおそれがあります。

i 情報

- 車内にスマートキーがなければ、EV START/STOP ボタンを押しても車両は始動しません。
- スマートキーが車内にあったとしても、運転者から離れた位置にあると始動しない場合があります。
- EV START/STOP ボタンが「ACC」または「ON」の位置のときにドアが開くと、システムはスマートキーが車内にあるか確認します。スマートキーが車内にない場合は インジケーターが点滅し、「**スマートキーが車室内にありません**」という警告が表示されます。すべてのドアが閉まると、数秒間警告チャイムが鳴ります。EV START/STOP ボタンが ACC 位置のとき、または車両が READY(READY) モードのときは、スマートキーを車内にお持ちください。

知識

予約空調またはリモート空調の動作中に、スマートキーまたはデジタルキー(UWBをサポートするスマートフォン)を持って車内に入ると、車両はREADYモード(READYインジケーターが点灯)になります。

乗車して、NFCデジタルキーを車載認証パッド(ワイヤレス充電パッド)の上に置いてから、ドアを閉めてブレーキペダルを踏んだ場合も車両はReadyモードに入ります。

ドアを閉め、ブレーキペダルを踏んでも、スマートキーまたはデジタルキー(装備されている場合)が車内で検知されなかった場合、警告メッセージが表示されます。

車両がReadyモードに入ると、P(パーキング)から他のシフトポジションにシフトチェンジした際に車両が動き出す可能性があるためご注意ください。

車両始動方法

1. スマートキーを常に携帯します。
2. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
3. シフトポジションが P（パーキング）に入っていることを確認します。
4. ブレーキペダルを踏みます。
5. EV START/STOP ボタンを押します。車両が始動すると、READY インジケーターが点灯します。

i 情報

- 車両を始動する際は必ずブレーキペダルを踏んでください。車両の始動中にアクセルペダルを踏まないでください。ウォームアップ中のモーターを空回りさせないでください。
- 周囲温度が低いと、インジケーターが通常よりも長い時間点灯する場合があります。

知識

車両の損傷を防ぐために、次のことに注意してください。

- 走行中に READY インジケーターが消灯した場合は、シフトポジションを P（パーキング）にしないでください。

  交通状況や路面状況次第では、走行中にシフトポジションを N（ニュートラル）に入れ、EV START/STOP ボタンを押して車両の再始動を試すことができます。
- 車両を始動させるために後ろから押したり、けん引したりしないでください。

知識

車両の損傷を防ぐために、次のことに注意してください。

ストップライトのヒューズが切れていない限り、EV START/STOPボタンを10秒以上押さないでください。

ストップライトのヒューズが切れている場合、車両は正常に始動しません。同じ定格の新しいヒューズに交換します。
ヒューズを交換できない場合は、EV START/STOPボタンを「ACC」の位置にして10秒以上長押しすると、車両を始動できます。

READYインジケーターがOFFの状態でブレーキペダルを何度も踏むと、12Vバッテリーが放電する可能性が高くなります。

安全のため、必ずブレーキペダルを踏んで車両を始動させてください。

i 情報

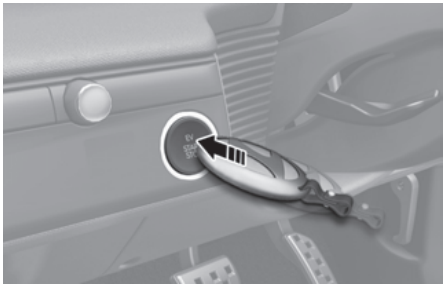
仮想エンジンサウンドシステム（VESS）

VESSは、歩行者に注意を促すためにエンジン音を発生させます。VESSは車両が走行可能な状態のときに動作します。シフトポジションがP（パーキング）のときは、VESSは機能しません。

⚠ 注意

- EV 車両は従来の車両のようなエンジン音がしないため、周囲の状況に注意して慎重に運転してください。
- 駐車や信号待ちの後に動き出す際は、周囲（子ども、障害物など）を確認してから発進してください。
- 後退する際は後方を目視で確認してください。歩行者が車両の音に気付かない場合があります。

スマートキーが正常に動作しない場合の車両始動



スマートキーの電池が切れかけている場合や正常に機能しない場合は、スマートキーを上の図のように向けた状態で、EV START/STOPボタンを押すと車両を始動できます。

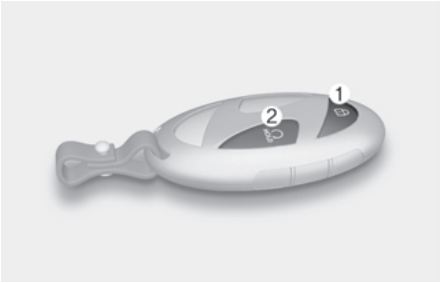
車両電源停止方法

1. 車両を停止させ、ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
2. シフトポジションを P（パーキング）に入れます。
3. EV START/STOP ボタンを押して「OFF」にし、パーキングブレーキをかけます。
4. インストルメントクラスターの「READY」インジケーターライトが消灯していることを確認します。

⚠ 注意

インストルメントクラスターの「READY」インジケーターライトが点灯したままの場合は、車両の電源がOFFになっていません。シフトポジションがP(パーキング)以外に入っていると、車両が動くおそれがあります。

リモート始動



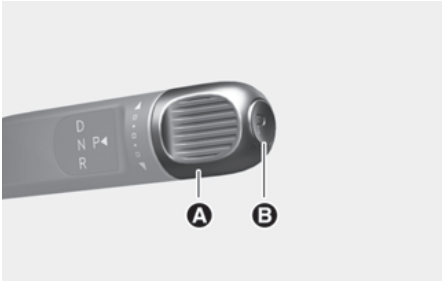
スマートキーのリモートスタートボタンで車両を始動できます。

車両を離れた場所から始動するには、次の手順を実行します。

1. 車両から 10m 以内の距離で、ドアロックボタン（1）を押します。
2. ドアをロックした後、4 秒以内にリモートスタート（2）ボタンを 2 秒以上押します。
3. リモートスタート機能を OFF にするには、リモートスタート（2）ボタンを 1 度だけ押します。

- スマートキーが車両から 10m 以上離れていると、リモートスタート（2）ボタンが機能しない場合があります。
- ボンネットやテールゲートが開いている場合、車両をリモート始動することはできません。
- リモート始動機能を作動させるには、シフトポジションが P（パーキング）に入っている必要があります。
- 登録されているスマートキーを持たずに乗車すると、「**始動を維持するにはスマートキーを所持してください**」と表示され、シフト操作（D レンジに入れる等）すると車両の電源はオフになります。
- 車両をリモート始動してから 10 分以内に乗車しなかった場合、車両の電源は OFF になります。

シフト操作



[A] 変速シフトダイヤル
[B] **P** ボタン

シフト操作

シフトを変更するには、ブレーキペダルを踏みながら変速シフトダイヤルを回します。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、次の点を守ってください。

- 必ず車両周辺に人（特に子ども）がいないか確認してからシフトポジションを D（ドライブ）または R（リバース）に入れてください。
- 運転席を離れる前に、必ずシフトポジションが P（パーキング）に入っていることを確認し、パーキングブレーキをかけてから EV START/STOP ボタンを押して OFF の位置にしてください。注意事項を守らなかった場合、車両が突然想定外の挙動をするおそれがあります。

変速ダイヤル / 変速シフトダイヤル

P（パーキング）



P(パーキング)にシフト変更する前に、必ず車を完全に停止させてください。

シフトポジションをP(パーキング)に入れるには、ブレーキペダルを踏みながらPボタンを押します。

シフトポジションがR(リバース)、N(ニュートラル)、D(ドライブ)の状態で車両の電源をOFFにすると、シフトは自動でP(パーキング)に切り替わります。

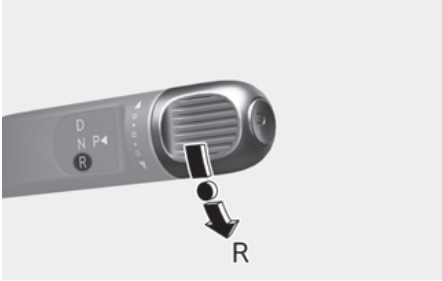
⚠ 警告

- 車両が動いている間にシフトポジションを P（パーキング）に入れると、車両を制御できなくなるおそれがあります。
- 坂道で駐車する場合は、車両が坂を下って行かないようにシフトポジションを P（パーキング）に入れ、パーキングブレーキをかけ、ホイールを縁石の方に向けてください。
- P（パーキング）をパーキングブレーキの代わりに使わないでください。

i 情報

電動パーキングブレーキ(EPB)装着車の場合、シフトをP(パーキング)にシフトチェンジすると自動的に電動パーキングブレーキ(EPB)が作動します。

R（リバース）



車両を後進させる際に使用するシフトポジションです。

シフトポジションをR(リバース)に入れるには、ブレーキペダルを踏みながら変速シフトダイヤルをR(リバース)に切り替えます。

ただし、車両が動いている場合は、変速機の損傷を防ぐためにシフトポジションが自動でP(パーキング)に切り替わらない場合があります。

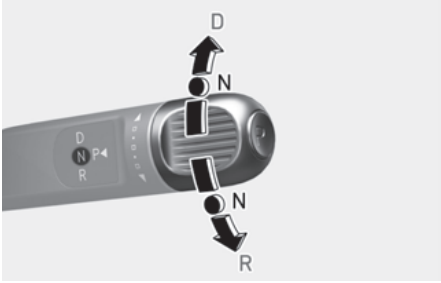
変速シフトダイヤルの回転方向はホイールの回転方向と同じです。

知識

- R（リバース）またはD（ドライブ）で停車中に運転席ドアを開けると、シフトは自動的にP（パーキング）にシフトチェンジします。

  運転席ドアを開け、運転席のシートベルトを外した場合でも、車両がR（リバース）またはD（ドライブ）で動いているときは、変速機の損傷を防ぐため、シフトが自動的にP（パーキング）にならないことがあります。
- 変速機の損傷を防ぐため、R（リバース）にシフトインまたはシフトアウトする前に、必ず完全に停止してください。

N（ニュートラル）



シフトポジションをN(ニュートラル)に入れるには、ブレーキペダルを踏みながら変速シフトダイヤルをN(ニュートラル)に切り替えます。

シフトポジションをN(ニュートラル)から別のシフトに切り替える場合は、必ずブレーキペダルを踏んでください。

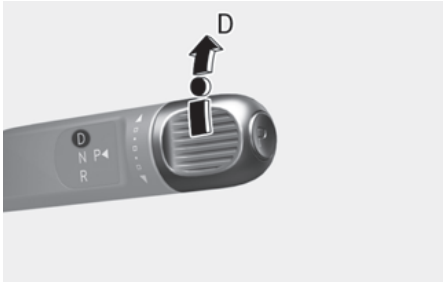
N(ニュートラル)の状態で車両の電源をOFFにすると、シフトポジションは自動でP(パーキング)に切り替わります。

車両の電源をOFFにした状態でN(ニュートラル)を維持する必要がある場合は、以下に記載されている「車両の電源がOFFの状態でN(ニュートラル)を維持する方法車両の電源がOFFの状態でN(ニュートラル)を維持する方法」セクションを参照してください。

N(ニュートラル)に切り替えるには、変速シフトダイヤルを時計回りまたは反時計回りに一段回転させます。

シフトポジションがD(ドライブ)に入っている場合は、ダイヤルを反時計回りに回します。シフトポジションがR(リバース)に入っている場合は、ダイヤルを時計回りに回します。

D (ドライブ)



シフトポジションをD(ドライブ)に入れるには、ブレーキペダルを踏みながら変速シフトダイヤルをD(ドライブ)に切り替えます。

路面状況に応じてPEシステム(電力システム)が自動で回生ブレーキシステムを作動させます。

i 情報

PEシステムは、モーター、インバーター、変速機で構成されています。

知識

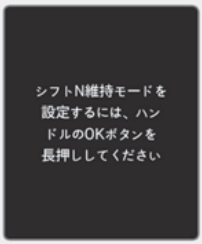
- R（リバース）または D（ドライブ）で停車中に運転席ドアを開けると、シフトは自動的に P（パーキング）にシフトチェンジします。

  運転席ドアを開け、運転席のシートベルトを外した場合でも、車両が R（リバース）または D（ドライブ）で動いているときは、変速機の損傷を防ぐため、シフトが自動的に P（パーキング）にならないことがあります。
- 変速機の損傷を防ぐため、必ず車両を完全に停止させてからシフトポジションを D（ドライブ）に入れてください。

⚠ 注意

急勾配で停止した後は、シフトポジションをD(ドライブ)に入れても、アクセルペダルかブレーキペダルを踏まないと車両が後退して事故につながるおそれがあります。

車両の電源が OFF の状態で N（ニュートラル）を維持する方法





車両をACCにした後もN(ニュートラル)を維持するには、次の手順を実行します。

1. 車両が始動している状態でオートホールドをオフにし、電動パーキングブレーキを解除します。
2. ブレーキペダルを踏みながら変速シフトダイヤルを N（ニュートラル）に切り替えます。
3. ブレーキペダルから足を外すと「**シフト N 維持モードを設定するには、ステアリングホイールの OK ボタンを長押ししてください**」というメッセージがクラスターディスプレイに表示されます。

4.ステアリングホイールの **OK** ボタン [A] を 1 秒以上長押しします。

5.「**車両の電源がオフになると N（ニュートラル）に維持されます**」というメッセージがクラスターディスプレイに表示されたら、ブレーキペダルを踏みながら EV START/STOP ボタンを押します。

3 分以内に運転席ドアを開けると、シフトは P（パーキング）にシフトチェンジし、EV START/STOP ボタンは OFF の位置に切り替わります。

知識

- シフトが N（ニュートラル）に入っている場合、EV START/STOP ボタンは ACC の位置になります。ACC の位置ではドアをロックできません。長時間 ACC のままにすると、バッテリー（12V）が放電するおそれがあります。
- 自動洗車機に入る前に、電動パーキングブレーキ（EPB）を手動で解除してください。電動パーキングブレーキ（EPB）が作動すると、車両や自動洗車機が損傷するおそれがあります。

i 情報

電動パーキングブレーキ(EPB)が作動しているときは、ブレーキペダルを踏みながらEPBスイッチを押します。電動パーキングブレーキ(EPB)は、シフトをN(ニュートラル)に入れても自動解除されないため、手動で解除する必要があります。

P（パーキング）への自動シフト切り替え

次の条件にあてはまる場合、安全上の理由からシフトポジションが自動でP(パーキング)に切り替わります：

- シフトが R（リバース）、D（ドライブ）、N（ニュートラル）に入った状態で車両の電源が OFF になったとき。
- シフトが R（リバース）、D（ドライブ）、N（ニュートラル）に入った状態で停止中に、車両の電源が ON のまま運転席ドアが開いたとき。
- シフトが N（ニュートラル）、車両の電源を ON にした状態で運転席ドアが開いたとき。

シフトをP(パーキング)に入れる必要のある状況では、必ずインストルメントクラスターの表示でシフトポジションがP(パーキング)に入っていることを確認してください。

シフトロックシステム

安全のために、この車両にはシフトロックシステムが搭載されており、ブレーキペダルが踏まれていない状態で、シフトをP(パーキング)かN(ニュートラル)から、R(リバース)やD(ドライブ)にシフト変更できないよう設定されています。

P(パーキング)もしくはN(ニュートラル)から、R(リバース)もしくはD(ドライブ)にシフト変更するには、以下の手順を実施します。

1. ブレーキペダルを踏んだままにします。
2. 車両を始動します。
3. ブレーキペダルを踏み、シフトを R（リバース）または D（ドライブ）にシフトします。

i 情報

充電ケーブルを接続したままシフトチェンジすることはできません。

バッテリー（12V）の放電時

バッテリーが放電すると、シフトの変更はできません。

車両をジャンプスタートさせます（第8章の「ジャンプスタート（12Vバッテリー）ジャンプスタート（12Vバッテリー）」を参照）。またはHYUNDAI認定修理業者に連絡することを推奨します。

駐車

常に、車が完全に停止するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。シフトをP（パーキング）に入れて電動パーキングブレーキ（EPB）をかけ、EV START/STOPボタンをOFFの位置にします。車両を離れる際はキーを携帯してください。

クラスターディスプレイメッセージ

ブレーキを踏んでシフトを変更してください

ブレーキペダルを踏まずにシフトポジションを切り替えると、このメッセージが表示されます。

ブレーキペダルを踏んでからシフトポジションを切り替えてください。

停車後シフトを P にしてください

走行中にシフトをP（パーキング）に入れると、このメッセージが表示されます。

車両を停止させてからP（パーキング）にシフトしてください

選択されているシフトです

このメッセージは、現在選択されているシフトを再度選択したときに表示されます。

P（パーキング）のシフトポジションが正常に動作していないと、このメッセージが表示されます。

弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

P ボタンを点検してください

P（パーキング）ボタンに問題があると、このメッセージが表示されます。

P（パーキング）ボタンを押していないのにこのメッセージが表示された場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

電子式変速システムを点検してください

変速シフトダイヤルに不具合があると、このメッセージが表示されます。

弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

変速シフトダイヤルを点検してください

変速シフトダイヤルに不具合があると、このメッセージが表示されます。

弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

変速シフトダイヤルが元の位置に戻っていません

変速シフトダイヤルを切り替えたあと通常の位置に戻らない場合に、このメッセージが表示されます。

弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

シフトを P にできません！駐車時は、パーキングブレーキをかけてください

P（パーキング）ボタンが正常に作動していない場合にこのメッセージが表示されます。

弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

安全な運転のための注意事項

- シフトを P（パーキング）または N（ニュートラル）から別の位置に切り替える際に、決してアクセルペダルを踏み込まないでください。
- 車両が動いているときは決してシフトポジションを P（パーキング）に入れないでください。

  車両を完全に停止させてからシフトポジションを R（リバース）または D（ドライブ）に切り替えてください。
- 走行中はシフトポジションを N（ニュートラル）に切り替えないでください。事故のリスクが高まるおそれがあります。

  また、車両が動いている間にシフトポジションを D（ドライブ）に戻すと、変速機に重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 上り坂や下り坂を走行するときは、前進では D（ドライブ）、後退では R（リバース）のシフトポジションを必ず選択してください。D（ドライブ）または R（リバース）を選択したら、運転前にインストルメントクラスターに表示されるシフトポジションを確認してください。選択したシフトと逆方向に車両が動くと、車両の電源が OFF になり、ブレーキ機能の低下により重大な事故が発生するおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。軽くでもペダルを踏み続けているとブレーキのオーバーヒートや摩耗、さらには故障の原因となります。
- 車両から離れる際は必ずパーキングブレーキをかけてください。シフトポジションを P（パーキング）にするだけで車両の停止状態を維持しようとしないでください。
- 滑りやすい路面を走行するときは細心の注意を払ってください。特にブレーキやアクセルの操作、シフトポジションの切り替えは慎重に行ってください。滑りやすい路面では急な加減速によって駆動輪がトラクションを失い、車両が制御不能になって事故につながるおそれがあります。
- 最適な性能を引き出し、高い電費を維持するには、スムーズなアクセル操作が重要です。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、次の点を守ってください。

- 必ずシートベルトを着用してください。衝突事故では、ベルトを着用していない乗員は適切にベルトを着用していた乗員と比べて、重大な傷害や死亡に至る確率がはるかに高くなります。
- カーブを曲がるときや旋回時は速度を落としてください。
- 急な車線変更や高速での急旋回のような、急なステアリングホイール操作はしないでください。
- 高速道路での走行速度で車両の制御を失うと、横転する危険性が大幅に高まります。
- タイヤが 2 本以上道路から逸脱し、道に戻ろうとして大きくステアリングホイールを切った場合に車両の制御を失いやすくなります。
- 車両が車線から逸脱した場合はステアリングホイールを切りすぎないようにし、減速してから車線に戻ってください。
- 弊社の車両にお乗りいただく際は、速度制限を守った運転を推奨します。

N ブレーキ回生

Nブレーキ回生では、パドルシフトを操作して車両の回生ブレーキ強度を制御します。これにより、車両のエネルギー効率を向上させ、運転者により優れた走行性能を提供します。

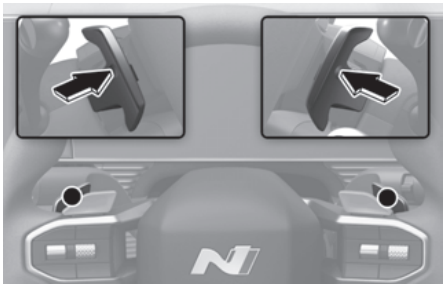
i 情報

Nブレーキ回生は電気モーターを使用してブレーキをかけます。電気モーターは、減速中の車両から発生する運動エネルギーを電気に変換し、高電圧バッテリーに充電します。

使用方法

パドルシフターの操作

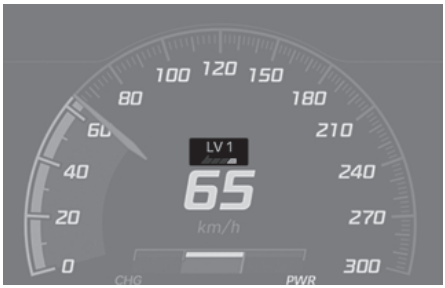
以下の図のようにパドルシフターを操作して、回生ブレーキシステムを使用します。



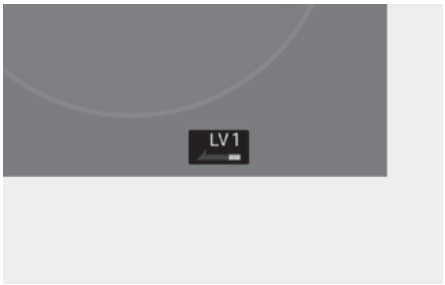
- 左側パドルシフト（+）を１回引くと、回生ブレーキの強度レベルが１つ上がります。これにより、減速強度を増加させることができます。
- 右側パドルシフト（-）を１回引くと、回生ブレーキの強度レベルが１つ下がります。これにより、減速強度を減少させることができます。
- 左側パドルシフト（+）を 0.5 秒以上引き続けると、回生ブレーキの強度レベルが上がり続けます。パドルシフターを引き続けることで車両を停止させることができます。（詳細については、本章の「ワンペダルドライブ」を参照してください）
- （スマート回生ブレーキシステムが ON の状態で）右側パドルシフト（-）を１秒以上引き続けると、スマート回生ブレーキシステムは OFF になります。（詳細については、本章の「スマート回生ブレーキスマート回生ブレーキシステム」を参照してください。）

回生ブレーキ量の確認

タイプ A



タイプ B



選択している回生ブレーキレベルは、インストルメントクラスターに表示されます。回生ブレーキレベルを1に下げた後に車両の電源をOFFにし、再度電源をONにすると、ブレーキレベルは2に変更されます。

制約

以下のような場合は、パドルシフターを使用して回生ブレーキ強度を変更することはできません。

- 両側のパドルシフターを同時に引いた場合。
- ブレーキペダルの操作により車両が減速中の場合。
- スマートクルーズコントロールが作動している場合。
- バッテリーが完全に充電された状態で回生ブレーキが継続的に作動した場合。

回生ブレーキレベルの初期設定と変更可能範囲は、選択しているドライブモードによって異なります。

ドライブモード	変更可能範囲
ECO	0~3
NORMAL	0~3
SPORT	0~3

詳細については、本章の「ドライブモード統合制御システム」を参照してください。

最適化モード

Nブレーキ回生の最適化モードは、ESCと運転モード(Nモード)の設定を基に設定されます。

ブレーキペダル踏み込み時の主な回生ブレーキ

- **一般的な回生ブレーキ**：日常の運転に適しています。まず後輪が制動力を発生させ、それにより総制動量が増強され、同時に前輪の回生ブレーキが作動します。
- **回生ブレーキの最適化**：サーキット走行時、ブレーキの熱容量を向上させるために、ブレーキ操作の早い段階から前後輪が生成する制動力を最適化します。

i 情報

Nブレーキ回生は、ブレーキペダルの踏み込みを必要としないi-PEDALやスマート回生ブレーキシステムのように、個別に作動します。

回生ブレーキ最大化（RBM）

回生ブレーキ最大化は、次の運転モードに基づいて作動します。

運転モード		ESC		
		ESC Normal	ESC Sport	ESC 2nd Off
運転モード(DMIC)	ECO	NORMAL		
	NORMAL			
	SPORT	NORMAL	RBM	RBM
Nモード		NORMAL	RBM	RBM
N専用モード		X	RBM	RBM

ワンペダルドライブ

ワンペダルドライブはパドルシフトを操作して、惰性走行中の回生ブレーキの強度を制御します。これにより、運転者はブレーキペダルの操作をせずに車両を停止することができます。

i 情報

惰性走行とは、ブレーキペダルやアクセルペダルから足を離した状態で車両が走行することです。惰性走行では、車両からの動力の代わりに走行エネルギーの慣性を利用します。

ワンペダルドライブの使用

惰性走行中に左側パドルシフト(+)を0.5秒以上引き続けると、ワンペダルドライブモードが利用可能になります。

- 車両速度が 3km/h 以上のときにパドルシフターを離すと、前回設定した回生ブレーキレベルに戻ります。
- 車両速度が 3km/h 未満の場合は、運転者がパドルシフターを離しても車両制御によりブレーキがかかったままの状態となります。
- 車両が停止した後にパドルシフターを離すと、車両の停止状態が維持されます。

⚠ 注意

- 車両や道路状況により、ワンペダルドライブ機能が有効であっても、車両が停止しない場合があります。周囲を確認して、ブレーキペダルを踏んで減速してください。
- ブレーキレベルを上げるために左側パドルシフト（+）を引いた状態で運転者がアクセルを踏むと、i-PEDAL 機能と同様にワンペダルドライブ機能が作動します。この場合、車両速度はパドルシフターを使用して制御できなくなります。

ワンペダルドライブの制約

以下のような状況では、ワンペダルドライブ機能が有効であっても、車両が停止しない場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで、車両を停止させてください。

- 坂道を走行時、または車両が走行と停止を繰り返している場合。
- 車両が坂道の終わりを走行している場合。
- 凍った路面、濡れた路面、泥の路面など、滑りやすい路面を走行している場合。
- ホイールアライメントが適切でない場合。
- ホイールスリップまたはホイールスピンが発生した場合。
- 積載重量が大きすぎる場合。
- 車両が片側に傾いている場合。
- タイヤが過度に摩耗している場合。

電動パーキングブレーキ（EPB）の自動作動

ワンペダルドライブ機能を使用して車両を停止すると、電動パーキングブレーキ(EPB)が自動的に作動します。

車両停止後、以下の条件のいずれかが満たされると、電動パーキングブレーキ(EPB)は自動的に作動します。

- 運転者がシートベルトを着用しておらず、運転席のドアが開いている。
- シフトがN（ニュートラル）に入っている。
- ボンネットが開いている。
- テールゲートが開いている。
- 車両が停止してから5分が経過。
- その他の理由でワンペダルドライブが制限されている。

i-PEDAL

i-PEDALはアクセルペダルだけで運転者が車両を加速、減速、停止するのを補助します。

i-PEDALのON/OFF

- **i-PEDALのON**：

  回生ブレーキレベルが3の時に左側パドルシフト（+）を1回引きます。i-PEDALがONになり、インストルメントクラスターに「i-PEDAL」と表示されます。スマート回生ブレーキシステムがONの間はi-PEDALは使用できません。最初にスマート回生ブレーキシステムをOFFにしてから、i-PEDALを使用します。

- **i-PEDALのOFF**：

  本機能がONの状態で、右側パドルシフト（-）を1回引きます。または、本機能がONの状態で、シフトをR（リバース）に入れてから、D（ドライブ）に入れます。i-PEDALが解除され、回生ブレーキレベルが3に設定されます。

⚠ 注意

車両や道路状況によっては、i-PEDAL機能が有効であっても車両が停止しない場合があります。周囲を確認し、ブレーキペダルを踏んで車両速度を制御してください。

滑りやすい路面ではi-PEDALを使用しないでください。

i-PEDAL の制約

以下のような場合、i-PEDALが適切に作動していても、車両が停止しない場合があります。必要に応じてブレーキを踏んで、車両を停止してください。

- 坂道を走行時、または車両が走行と停止を繰り返している場合
- 車両が坂道の終わりを走行している場合
- 凍った路面、濡れた路面、泥の路面など、滑りやすい路面を走行している場合
- ホイールアライメントが適切でない場合
- ホイールスリップまたはホイールスピンが発生した場合
- 積載重量が大きすぎる場合
- 車両が横に傾いている場合
- タイヤが過度に摩耗している場合

スマート回生ブレーキ

スマート回生ブレーキは、車間距離、道路勾配、速度カメラを認識し、惰性走行中の回生ブレーキレベルを制御します。不必要なペダルの踏み込みを減らし、エネルギー効率と運転者の利便性を向上させます。

i 情報

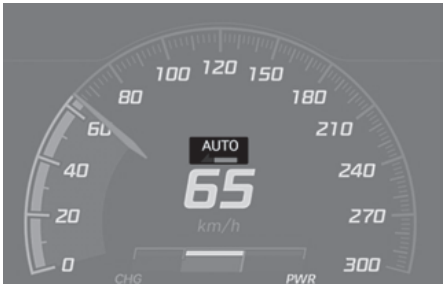
- 惰性走行とは、ブレーキペダルやアクセルペダルから足を離した状態で車両が走行することです。惰性走行では、車両からの動力の代わりに走行エネルギーの慣性を利用します。
- N ブレーキ回生は電気モーターを使用してブレーキをかけます。電気モーターは、減速中の車両から発生する運動エネルギーを電気に変換し、高電圧バッテリーに充電します。

スマート回生ブレーキのON/OFF

以下のようにパドルシフターを操作して、スマート回生ブレーキを使用します。

- **スマート回生ブレーキシステムを ON にする**：READY インジケーターが ON の状態で、シフトを D（ドライブ）にし、右側パドルシフト（−）を 1 秒以上引き続けます。

タイプ A



タイプ B



スマート回生ブレーキがONになり、回生ブレーキレベルは「AUTO」と表示されます。

- **スマート回生ブレーキシステムを OFF にする**：スマート回生ブレーキシステムが ON の状態で右側パドルシフト（−）を 1 秒以上引き続けます。インストルメントクラスターには「AUTO」の代わりに回生ブレーキレベルが表示され、スマート回生ブレーキシステムは OFF になります。
- **ワンペダルドライブを使用する**：スマート回生ブレーキシステムが ON の状態で、左側パドルシフト（+）を 0.5 秒以上引き続けます（詳細は本章の「ワンペダルドライブ」を参照してください。）

スマート回生ブレーキがONの間はi-PEDALを使用できません。最初にスマート回生ブレーキシステムをOFFにしてから、i-PEDALを使用します。

作動条件

回生ブレーキレベルが「AUTO」と表示されている状態で、車速が10km/hを上回っている場合、システムは以下の条件で回生ブレーキレベルを自動制御します。

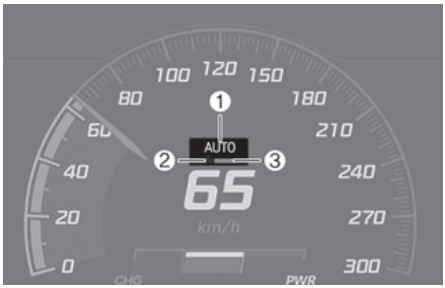
- 道路勾配が変わった。
- 先行車両との車間距離が減少または増加した。
- 先行車両の速度が減少または増加した。

⚠ 注意

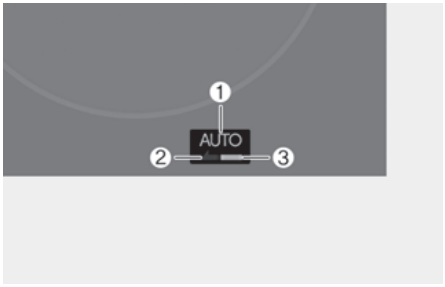
- 前方安全警告灯が点灯していると、スマート回生ブレーキは正しく作動しません。ブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 道路勾配に応じて回生ブレーキ強度を調整する機能は、回生ブレーキレベルが 0 の場合にのみ有効になります。回生ブレーキレベルが 1 以上であれば、道路勾配によってブレーキ強度が大きく変化することはありません。

レベル設定

タイプ A



タイプ B



スマート回生ブレーキがONのときは、インストルメントクラスターに「AUTO」(1)と表示されます。状況に応じて、システムは回生ブレーキレベル(2)を調整します。先行車両を検知すると、スカイブルーのインジケーター(3)が点灯します。

スマート回生ブレーキのデフォルト設定

スマート回生ブレーキのデフォルトのブレーキレベルは変更可能です。デフォルトのブレーキレベルを最低に設定すると、システムが自動的にブレーキ強度を調整します。

スマート回生ブレーキシステムのデフォルトレベルを変更するには、システムがONの状態で右側パドルシフト(-)を1回引きます。

スマート回生ブレーキの強度設定

スマート回生ブレーキの回生ブレーキ強度は、運転者の好みに合わせて調整できます。ブレーキ強度を調整することで、減速度を変更します。



スマート回生ブレーキシステムの回生ブレーキレベルを調整するには、SETUPボタンを押してから、インフォテインメントシステムで**EV** > ⚙ > **スマート回生ブレーキ**を選択します。

一時停止

スマート回生ブレーキは、以下の条件で一時的に制限/軽減されます。システムがOFFになっている間は、周囲に注意を払い、ブレーキペダルを踏んで減速する必要があります。

- シフトを N（ニュートラル）、R（リバース）、P（パーキング）にした。
- スマートクルーズコントロールが ON になった。
- ESC（車体姿勢制御機能）が作動している。
- ABS が作動している。

フロントセンサー（フロントレーダー）



[A] フロントレーダー

フロントレーダーは先行車両との車間距離を認識し、回生ブレーキ強度を制御します。フロントレーダーが雪や雨、他の異物で遮られると、センサーの性能が低下し、スマート回生ブレーキがOFFになることがあります。センサーは常に清潔な状態にしてください。

システム警告



フロントレーダーが異物で遮られたことなどが原因でスマート回生ブレーキがOFFになった場合、「**スマート回生ブレーキを点検してください**」という警告メッセージが表示されます。また、「AUTO」の代わりに回生ブレーキレベルが表示されます。

このような異物が取り除かれるとシステムは正常に作動するようになり、右側パドルシフト(-)を1秒以上引き続けるとシステムがONになります。

フロントレーダーを覆ったり、遮ったりしていた異物を取り除いても、スマート回生ブレーキが正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者で点検を受けることを推奨します。

注意事項

- 道路上の先行車両との車間距離は常に確認してください。スマート回生ブレーキは、安全な運転に代わるものではなく、あくまでも補助的な機能です。
- 常に先行車両との安全な車間距離を保ち、道路状況に合わせて車両速度を調整してください。スマート回生ブレーキは、予期せぬ突発的な状況や複雑な運転状況は認識できない場合があります。

一般的な注意事項

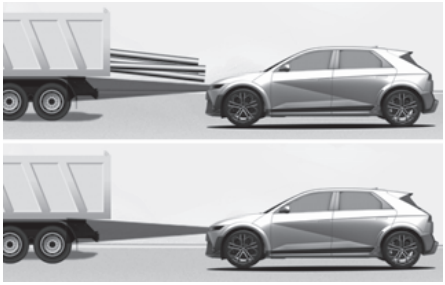
- 常に先行車両との安全な車間距離を保ち、道路状況に応じて車両速度を調整してください。
- 常に不測の事態に備え、必要時はブレーキペダルを踏んで減速してください。スマート回生ブレーキは、急停車、急停車する車両、反対車線から来る車両には反応できません。
- 先行車両が頻繁に車線を変更する場合は、前方を注視して危険な状況に備えてください。この場合、スマート回生ブレーキの反応が遅くなり、隣接車線の車両の動きに不適切に反応する場合があります。
- 車両を停止させる際は、必ずブレーキペダルを踏んでください。
- 以下の場合は、ブレーキペダルを踏んで減速してください。
  - 車両後部に荷物を積んでいるため、車両後方に荷重がかかっている。
  - ステアリングホイール操作をしている。
  - 車線の中央を走行していない。
  - 狭い道やカーブの多い道を走行している。
- スマート回生ブレーキは、強い電磁波にさらされると一時的に OFF になることがあります。

フロントセンサーに関する注意事項

- センサーやその周囲に物理的な衝撃が加わらないようにしてください。衝撃によってセンサーの位置がずれた場合、システムが正常に作動せず、インストルメントクラスターに警告が表示されないことがあります。センサーが物理的な衝撃を受けた場合は、弊社認定修理業者で点検を受けることを推奨します。
- センサーとその周辺、センサーカバー、車両グリルは常に清潔に保つ必要があります。
- センサーや検知範囲にモールやステッカーなどのアクセサリーを取り付けたり、車両のグリルを変更したりしないでください。センサー性能に影響を与えることがあります。
- センサーカバーには必ず純正部品を使用し、塗装はしないでください。
- 洗車の際は、センサーカバーを傷つけないように柔らかい布を使用してください。
- センサーやその周囲に高圧水を噴射しないでください。

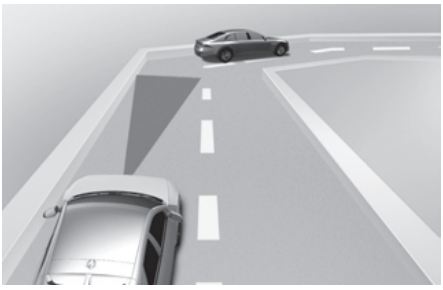
車両認識に関する注意事項

- スマート回生ブレーキの反応が遅い場合や、車両が坂道やカーブの終わりを通過している場合、フロントセンサーが先行車両を突然認識することがあります。このとき、回生ブレーキ強度が増加して車両が減速することがあります。

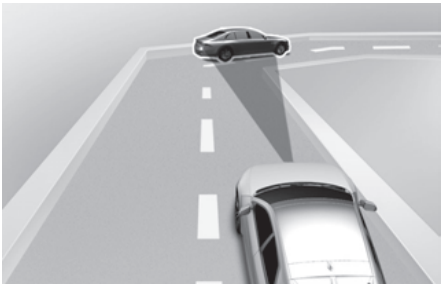


- 次のような状況では、同じ車線を走っていてもフロントセンサーが先行車両を認識できないことがあります。
  - 二輪自動車や自転車などの横幅の狭い車両
  - 道路の片側に寄っている車両
  - 低速走行中または急減速中の車両
  - 荷物を積載していないトレーラーなど、後方部分が小さい車両
- 先行車両の先に停車車両があり、先行車両が車線を変更する場合、フロントセンサーが停止車両を認識できないことがあります。

カーブでの注意事項



- カーブで惰性走行している場合、フロントセンサーが前方車両を認識できないことがあります。回生ブレーキ強度が自動的に低下し、車両が加速する場合があります。



- カーブした道路では、フロントセンサーが他の車線の車両を同一車線の先行車両と認識する場合があります。この場合、回生ブレーキ強度が増加して車両が減速することがあります。周囲の状況を確認し、アクセルを踏んで不必要な減速を防いでください。
- フロントセンサーが突然先行車両を認識した場合、回生ブレーキ強度が増加し、車両が減速することがあります。

坂道での注意事項



- 車両が坂道の終わりや勾配が変化しているところを惰性走行している場合、フロントセンサーが先行車両を認識できなかったり、突然認識したりする場合があります。それによって回生ブレーキ強度が調整され、車両速度が変化することがあります。
- 坂道を上り下りするときは、周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

車線変更時の注意事項



[A] 自車
[B] 車線変更を行う車両

- 隣の車線を走る車両が自車の前方に進入してくる場合、フロントセンサーはその車両が完全に検知範囲内に入って初めてその車両を認識できます。
- フロントセンサーは、突然進入してきた車両の認識が遅れる場合があります。

ブレーキシステム

パワーアシストブレーキ

この車両にはパワーアシストブレーキが装着されており、通常運転時に自動でブレーキを補助します。

車両の電源が入っていない場合や走行中にOFFになる場合、パワーアシストは作動しません。通常よりも強くブレーキを踏み込むことで、車を停止できます。パワーブレーキの補助があるときよりも制動距離は長くなります。

i 情報

- 特定の走行条件や天候でブレーキペダルを踏み込むと、一時的にノイズが聞こえることがあります。これは正常な現象であり、ブレーキに問題があることを示しているわけではありません。
- 凍結防止剤がブレーキに付着すると、ブレーキディスクやパッドに異常摩耗やノイズが発生する場合があります。交通状況が安全なことを確認してからブレーキをかけ、ブレーキディスクとパッドに付着した凍結防止剤を除去します。

⚠ 警告

次の点を守ってください。

- ブレーキペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。これはブレーキの発熱を招き、過度のブレーキ摩耗を引き起こし、停止距離が増加します。速度を落とすために、左側のパドルシフトレバーで回生ブレーキのレベルを上げてください。
- 長い坂道や急勾配を下る際は、過度にブレーキ操作をしなくても減速できるように、パドルシフトで回生ブレーキのレベルを上げてください。ブレーキを踏み続けるとブレーキが高温になり、一時的にブレーキの性能が落ちるおそれがあります。
- ブレーキが濡れた状態では制動距離が長くなるため、安全に減速できなくなるおそれがあります。N ブレーキ回生の 0 ステップを選択し、他の車両と安全な距離を保ちながらブレーキペダルを 10 回程度軽めに踏んで、ブレーキシステムを乾かしてください。この手順を実施すると N ブレーキ回生の働きが抑制されて走行距離が短くなる場合がありますが、システムの故障ではありません。洗車した後や濡れた路面を運転した後は、ブレーキシステムを点検してください。

知識

- 車両の電源が OFF（READY インジケーターが OFF）の場合はブレーキペダルを踏んだままにしないでください。バッテリー放電のおそれがあります。
- ブレーキを踏んでいる間に異音や振動が発生するのは正常な状態です。
- 次の場合、通常の操作でも電動ブレーキの踏み込み音やモーターの振動が発生する場合があります。
  - 急ブレーキをかけたとき
  - 短時間の間に繰り返しブレーキペダルを踏んだとき
  - ブレーキを踏んでいる間に ABS が作動したとき

ディスクブレーキ摩耗インジケーター

ブレーキパッドの摩耗によりブレーキパッドの交換が必要になると、フロントまたはリアブレーキから甲高い警告音が鳴ります。この警告音は、ブレーキを踏むたびに発生する場合や一時的に発生する場合があります。

知識

ブレーキを修理しなくても済むように、ブレーキパッドが摩耗した状態で運転を続けないでください。

i 情報

同軸上(フロントまたはリア)のブレーキパッドは必ず左右セットで交換してください。

高性能ブレーキ

この車両には高性能ブレーキ(摩擦係数の高い材料を採用)が装備されているため、ブレーキ作動中にきしり音やきしみ音などのノイズが発生します。これは高性能ブレーキでは一般的な現象であり、摩擦によってディスク表面に円形の模様ができる場合があります。ブレーキ性能には影響しません。

知識

- ブレーキ音が時々発生するのは一般的なことです。継続的にきしんだり、きしり音がする場合は、ブレーキパッドが摩耗している可能性があります。弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- ブレーキ作動中に、ステアリングホイールが継続的に振動したり、激しく揺れたりする場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

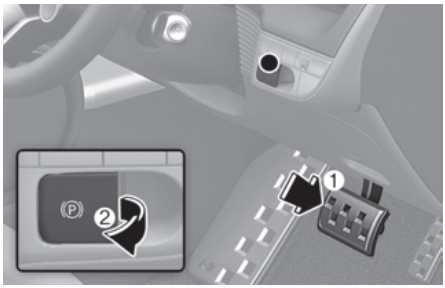
頻繁に加減速すると部品が変形し、ディスクブレーキが摩耗してブレーキ時の振動の原因になります。過度なブレーキ操作を避けて、ブレーキが損傷しないようにしてください。ブレーキの過度の使用による摩耗、異音、振動または変形が、高速走行やサーキットでのレースなどでのブレーキ操作の繰り返しが原因である場合、保証の対象外になる場合があります。

電動パーキングブレーキ（EPB）

パーキングブレーキの使用方法

電動パーキングブレーキ（EPB）を使用するには、次の手順を実行します。

1. ブレーキペダル（1）を踏んだままにします。
2. EPB スイッチ（2）を引きます。



パーキングブレーキの警告灯が点灯するのを確認します。

次の場合は、自動的に電動パーキングブレーキ（EPB）が作動する可能性があります。

- 他のシステムからの要求があった。
- オートホールドの作動中に運転者が車両の電源を OFF にした。
- シフトが P（パーキング）に入った。

緊急ブレーキ

走行中にブレーキペダルに問題があった場合、EPBスイッチを引き続けると緊急ブレーキが作動します。EPBスイッチを引いている間のみブレーキ操作が可能です。制動距離は普通よりも長くなります。

⚠ 警告

重大な傷害または死亡に至る危険性を下げるため、緊急時を除き、車両の走行中に電動パーキングブレーキ(EPB)を作動させないでください。ブレーキシステムに損傷を与え、衝突事故を引き起こすおそれがあります。

i 情報

緊急ブレーキをかけると、パーキングブレーキ警告灯が点灯し、カチッという音がすることがあります。

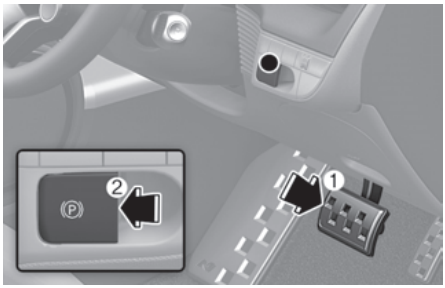
知識

緊急ブレーキで電動パーキングブレーキ(EPB)を使用した際に異音や焦げたような臭いが続く場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

パーキングブレーキの解除

電動パーキングブレーキ（EPB）を解除するには、次の手順を実行します。

1. EV START/STOP ボタンを押して ON または START 位置にします。
2. ブレーキペダル（1）を踏みながら EPB スイッチ（2）を押します。



パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認します。

電動パーキングブレーキ（EPB）を自動で解除するには、次の手順を実行します。

- シフトが P（パーキング）または N（ニュートラル）の場合

  車両が始動している状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトを P（パーキング）または N（ニュートラル）から R（リバース）または D（ドライブ）にします。ドア、ボンネット、テールゲートが閉まっていること、シートベルトを締めていることを確認してください。

i 情報

- EV START/STOP ボタンが OFF 位置でもバッテリーから電圧が供給されている状態であれば、電動パーキングブレーキ（EPB）を作動できますが、解除することはできません。
- 下り坂を走行する際や車両を後退させる際は、ブレーキペダルを踏んでから、EPB スイッチを操作してパーキングブレーキを手動で解除してください。

知識

- 電動パーキングブレーキ（EPB）が解除されてもパーキングブレーキ警告灯が点灯している場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）が作動している状態で走行しないでください。ブレーキパッドやブレーキディスクの過度な摩耗につながるおそれがあります。

警告メッセージ

電動パーキングブレーキ（EPB）を解除する場合は、シートベルトを締め、ドア、ボンネット、テールゲートを閉めてください。



運転席のシートベルトが外れていたり、ボンネット、テールゲート、ドアが開いていたりする場合や、電動パーキングブレーキ(EPB)が作動した状態で運転しようとした場合は、警告音が鳴り、メッセージが表示されます。

⚠ 警告

意図しない車両の動きによる重大な傷害を防ぐために、以下に従ってください。

- 駐車する前に必ず完全に停止し、ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトを P（パーキング）に入れ、EPB スイッチを引き上げ、EV START/STOP ボタンを OFF 位置にしてください。車両を離れる際はキーを携帯してください。
- 車両の取り扱いに慣れていない人を決して EPB スイッチに触れさせないでください。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）の解除操作は、必ずシートに座り、しっかりとブレーキペダルを踏んだ状態で行ってください。

知識

パーキングブレーキがかかったまま運転すると、ブレーキシステムがオーバーヒートして部品の摩耗や損傷を早めるおそれがあります。

i 情報

- 電動パーキングブレーキ（EPB）を操作したり解除したりすると、カチッという音が聞こえる場合があります。これは正常な状態で、電動パーキングブレーキ（EPB）が正しく動作していることを示しています。
- 駐車場の係員などに車両のキーを預ける場合は、必ず電動パーキングブレーキ（EPB）の操作方法を伝えてください。

電動パーキングブレーキ（EPB）の故障

EV START/STOPボタンをON位置にすると、電動パーキングブレーキ警告灯が点灯し、EPBシステムが正常に作動していれば、警告灯は3秒後に消灯します。

パーキングブレーキ警告灯が点灯したままの場合、走行中に点灯する場合、またはEV START/STOPボタンをONにしても点灯しない場合、電動パーキングブレーキ(EPB)が故障しているおそれがあります。

このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

ESCが正常に作動していないことを示すESCインジケーターが点灯しているときに、EPB警告灯が点灯する場合がありますが、電動パーキングブレーキ(EPB)が故障しているわけではありません。

i 情報

- EPB スイッチを引いても、パーキングブレーキ警告灯が点灯も点滅もしない場合、電動パーキングブレーキ（EPB）が作動していない可能性があります。
- パーキングブレーキ警告灯が点灯し続ける場合やパーキングブレーキ警告灯が点灯しているときにパーキングブレーキの警告灯が点滅する場合は、EPB スイッチを一度押してから引きます。同じ操作をもう一度繰り返してください。パーキングブレーキ警告灯が消灯しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

パーキングブレーキ警告灯



EV START/STOPボタンがSTARTまたはONの位置のときにパーキングブレーキが作動すると、この警告灯が点灯します。

運転する前に、必ずパーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキの警告灯がOFFになっていることを確認してください。

電源が入っている状態でパーキングブレーキを解除しても警告灯が消灯しない場合は、ブレーキシステムが故障しているおそれがあります。

可能であればただちに走行を中止してください。それが難しい場合は、細心の注意を払って車両を安全な位置に移動させ、走行を中止してください。

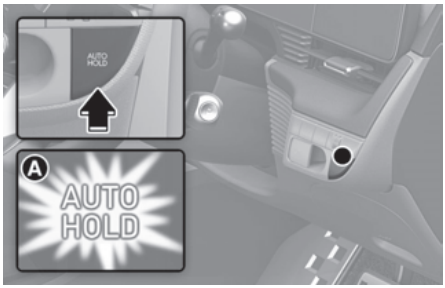
オートホールド

オートホールドは、ブレーキペダルで車両を完全に停止させた後にブレーキペダルから足を離しても、車両の停止状態を維持する機能です。

i 情報

車両を再起動すると、オートホールドは前回の設定が適用されます。

オートホールド作動



[A] 白

1. 運転席ドア、ボンネット、テールゲートを閉じ、ブレーキペダルを踏んだまま **AUTO HOLD** ボタンを押します。
   AUTO HOLD インジケーターが白色に点灯し、システムが作動待機中になります。
2. ブレーキペダルを踏んで車両を完全に停止させると、オートホールドによってブレーキ圧がかかったままになり、車両の停止状態が維持されます。インジケーターが白色から緑色に変わります。
   - ブレーキペダルから足を離しても車両の停止状態が維持されます。
   - 電動パーキングブレーキ（EPB）が作動すると、オートホールドは解除されます。

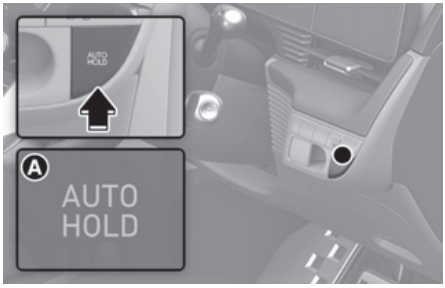
オートホールド解除

シフトがD(ドライブ)かR(リバース)に入っている状態でアクセルペダルを踏むと、オートホールドが自動で解除され、車両が動き始めます。AUTO HOLDインジケーターが緑色から白色に変わります。

⚠ 警告

アクセルペダルを踏んでオートホールドを解除する前に、必ず車両周辺を確認してください。

オートホールド停止



[A] ライト消灯

1. ブレーキペダルを踏んだままにします。
2. **AUTO HOLD** ボタンを押します。

AUTO HOLDインジケーターが消灯します。

⚠ 警告

急発進を防ぐために、以下を行う前に、必ずブレーキペダルを踏んでオートホールドを解除してください。

- 下り坂での走行
- R（リバース）での後退
- 駐車

i 情報

次の場合、オートホールドは作動しません。

- 運転席ドアまたはボンネットが開いている。
- テールゲートが開いている。
- シフトが P（パーキング）に入っている。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）が作動している。
- 次の場合、オートホールドは自動で電動パーキングブレーキ（EPB）に切り替わります。
  - 運転席ドアまたはボンネットが開いている。
  - テールゲートが開いている。
  - 車両が 10 分以上停止している。
  - 車両が急勾配で止まっている。
  - 車両が何度か動いた。

  パーキングブレーキ警告灯が点灯し、AUTO HOLD インジケーターが緑色から白色に変わり、電動パーキングブレーキ（EPB）が自動で作動したことを示すため、警告音が鳴りメッセージが表示されます。運転を再開する前に、ブレーキペダルを踏み、車両の周囲を確認してから、EPB スイッチでパーキングブレーキを手動で解除してください。

知識

AUTO HOLDインジケーターが黄色に変わった場合や、運転席ドア、ボンネット、テールゲートの開口検知システムに異常がある場合は、オートホールドは正常に作動しません。弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

知識

運転席ドアまたはボンネットの開口検知システムに不具合がある場合は、オートホールドが正常に作動しないことがあります。

弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

警告メッセージ

パーキングブレーキが自動で入りました。

オートホールドが作動しているときに電動パーキングブレーキ(EPB)を作動させると、警告音が鳴り、メッセージが表示されます。

オートホールドを切ります。ブレーキを踏んでください。

オートホールドから電動パーキングブレーキ(EPB)への切り替えが正常に行われていない場合、警告音が鳴り、メッセージが表示されます。

⚠ 注意

警告メッセージが表示されている場合、オートホールドと電動パーキングブレーキ(EPB)が正常に作動しない可能性があります。

安全のため、ブレーキペダルを踏んでください。

ブレーキを踏んで AUTO HOLD を解除してください

AUTO HOLDボタンを押してオートホールドを解除する際にブレーキペダルを踏んでいないと、警告音が鳴り、メッセージが表示されます。

ブレーキペダルを踏みながら**AUTO HOLD**ボタンを押してください。

ブレーキディスククリーニング

走行中のブレーキ操作時にノイズが発生したり、ブレーキディスクが錆びたりした場合は、ブレーキディスククリーニング機能を使用します。ノイズや錆を減らすのに役立ちます。ブレーキディスククリーニングの作動中は回生ブレーキが抑制されるため、電気エネルギー効率が低下する可能性があります。

AUTO HOLDボタンを3秒以上長押しします。

- ブレーキディスククリーニングは、インストルメントクラスターに「**ブレーキディスク洗浄オン**」と表示されると作動を開始します。
- ブレーキディスククリーニングモードの作動時は、走行中に周囲の状態に十分注意しながら、強めのブレーキングを実施してください。(目安は約 80km/h 程度から停止状態までのブレーキングを 10 回程度または、これに相当する制動量を車両が検知するまで)

  速度や回数は走行状況により異なりますが、ノイズや錆を減らすことが可能です。
- ブレーキディスククリーニング機能は、作業が完了すると自動的に OFF になります。また、作業完了前でも、車両の電源を OFF にするか、**AUTO HOLD** ボタンを 3 秒以上長押しすることで OFF にすることができます。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

⚠ 警告

アンチロックブレーキシステム（ABS）または車体姿勢制御機能（ESC）は、不適切または危険な運転操作による事故を防ぐものではありません。緊急ブレーキ時の車両の制御は進歩しましたが、常に、前方車両との車間距離は十分に維持してください。劣悪な道路状況では、常に速度を落として走行してください。

次のような路面状況では、ABSやESCを装備している車両の制動距離が、装備していない車両よりも長くなる可能性があります。

次の条件にあてはまる場合は、車両の速度を落として運転してください。

- 悪路や砂利道、雪道。
- 路面にくぼみがある道や平坦でない道。
- 車両にタイヤチェーンが装着されている。

ABSやESCの備わった車両の安全機能を、高速運転や、高速コーナーリングで試さないでください。衝突事故を引き起こし、運転者自身や周囲の人を危険にさらすおそれがあります。

ABSはブレーキによるスリップの防止を助ける電動ブレーキシステムです。ABSはハンドリングしながらのブレーキングを可能にします。

ABS の使用方法

非常時にABSの効力を最大限引き出すため、運転者自身でブレーキ圧の調整および踏み直しを行わないでください。ブレーキペダルをできるだけ強く踏んでください。

ABSは車両が停止するまでの時間や距離を短くするものではありません。

常に安全な車間距離を保ってください。

ABSは高速でカーブを曲がろうとしたり、急に車線を変更したりするような急な方向転換によるスリップは防ぐことはできません。常に路面状況や天候に応じた安全な速度で運転してください。

ABSには車両姿勢の安定性を維持する機能はありません。ブレーキ操作時には、常に適切なハンドリング操作を行ってください。ステアリングホイールの切り過ぎや急な操作も、対向車線への飛び出しや道路からの逸脱の原因になります。

荒れた路面や平坦でない道でアンチロックブレーキシステムが作動すると、従来のブレーキシステムが装備された車両よりも制動距離が長くなる場合があります。

EV START/STOPボタンをONにすると、数秒間ABS（Ⓐ）警告灯が点灯します。

点灯している間にABSの自己診断が行われ、異常が見つからなければ消灯します。点灯し続ける場合は、できるだけ早く弊社認定修理業者にお問い合わせいただくことを推奨します。

⚠ 警告

ABS（Ⓐ）警告灯が点灯したままの場合、ABSに問題がある可能性があります。その場合でもパワーブレーキは正常に機能します。重大な傷害や死亡の危険性を減らすため、できるだけ早く弊社認定修理業者にお問い合わせいただくことを推奨します。

知識

凍結路のような摩擦が少ない路面で連続的にブレーキをかけると、ABSが連続して作動し、ABS(Ⓐ)警告灯が点灯する場合があります。安全な場所まで移動し、車両の電源をOFFにします。

車両を再始動します。ABS(Ⓐ)警告灯が消灯していれば、ABSシステムは正常です。

消灯しない場合は、できるだけ早く弊社認定修理業者にお問い合わせいただくことを推奨します。

i 情報

車両のバッテリー放電でジャンプスタートを行う際に、同時にABS(Ⓐ)警告灯が点灯する場合があります。ABSの故障ではありません。走行する前にバッテリーを充電してください。

車体姿勢制御機能（ESC）



車体姿勢制御機能(ESC)システムは、車両がコーナーを曲がるときに、その安定性を高めます。

ESCはステアリングの状態と実際の車両の動きを確認します。ESCは、車両のいずれかのブレーキの圧を調整し、EV制御システムに介入して、運転者が意図する進路を維持できるよう制御します。これは安全運転の代わりになるものではありません。常に路面状況に合わせた速度で走行してください。

⚠ 警告

道路の状況を考慮せずに速度を出しすぎたり、高速でコーナーを曲がったりしないでください。ESCシステムは事故を防止するものではありません。

旋回時の速度の出しすぎ、急な操作、濡れた路面でのハイドロプレーニング現象は、重大な衝突につながるおそれがあります。

ESC 作動

ESC が ON の状態

EV START/STOPボタンをONの位置にすると、ESCとESC OFFのインジケーターが3秒間ほど点灯します。両方のライトが消灯したらESCが有効になります。

次の中からESCの状態を選択できます。

- ESC NORMAL オン（ESC ON）
- ESC SPORT オン（ESC SPORT インジケーターが点灯）
- ESC オフ（ESC OFF インジケーターが点灯）

作動中の状態



ESCインジケーターは、ESC作動中に点滅します。

- ホイールがロックされる可能性のある状況でブレーキを踏むと、ブレーキから作動音がしたり、ESC の作動による振動をブレーキペダルから感じたりする場合があります。
- ESC が作動すると、アクセルを踏んでも通常通りに反応しない場合があります。

ESC OFF 条件

ESC作動解除

- 状態 1（ESC SPORT）



ESC OFF ボタンを短く押してください。ESC SPORTインジケーターが点灯し、「**車体姿勢制御機能が制限されています**」というメッセージが表示されます。

ESCのトラクションコントロール機能（電気自動車制御管理）は制限されますが、ESCのブレーキ制御機能（ブレーキ管理）は引き続き作動します。

- 状態 2（ESC OFF）



ESC OFF ボタンを続けて3秒間押し続けてください。ESC OFFのインジケーターと「**車体姿勢制御機能がオフになりました**」というメッセージのいずれかまたは両方が表示され、警告チャイムが鳴ります。ESCのトラクションコントロール機能（EV制御管理）とESCのブレーキ制御機能（ブレーキ管理）の両方が解除されます。

ESCがOFFになっているときにEV START/STOPボタンが押されてOFFの位置になった場合、ESCはOFFのままとなります。車両を再始動すると、ESCは自動的に再度ONになります。

インジケーターライト

ESC インジケーターライト（点滅）



ESC OFF 時のインジケーターライト（点灯）



EV START/STOPボタンがONの位置になると、ESCインジケーターが点灯し、ESCシステムが正常に作動していればその後消灯します。

ESCが動作しているときは常に、ESCインジケーターが点滅します。

ESCをOFFにしていないにも関わらず、ESCインジケーターが点灯している場合は、できるだけ早く弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

ESC OFFのインジケーターは、ESCがOFFになっているときに点灯します。

⚠ 警告

ESCの点滅は、ESCが作動していることを示しています。

- 速度を落とし、決して加速しようとしないでください。
- ESC インジケーターが点滅している間は、絶対に ESC を OFF にしないでください。車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

知識

異なったサイズのホイールとタイヤで走行すると、ESCシステムの故障の原因となるおそれがあります。タイヤ交換の前に、タイヤとホイールがすべて車両に適したサイズであることを確認してください。異なったサイズのホイールとタイヤを装着した車両を決して運転しないでください。

ESC OFF 方法

運転中

ESC OFFモードは、車両が雪や泥にはまったときにESCの動作を一時的に停止することによって車両を自由にし、ホイールのトルクを維持する場合にのみ、短時間使用してください。

運転中にESCをOFFにするには、平坦な路面を走行しているときにESC OFF ボタンを押します。

知識

変速機の損傷を防ぐために、次のことに注意してください。

- ESC、ABS、パーキングブレーキの警告灯が表示されているときは、片方の車軸のホイールを過度に回転させないようにしてください。過度に回転させた場合の修理は車両の保証には含まれません。これらの警告灯が点灯している間は、モーター出力を下げ、ホイールを過度に回転させないでください。
- ダイナモメーターで車両を操作するときは、必ず ESC を OFF（ESC OFF のインジケーターが点灯している）にしてください。

i 情報

ESCをOFFにしても、ABSや標準ブレーキシステムの動作には影響しません。

ドライブモード選択

ESCがオンの場合、ステアリングホイールの**DRIVE MODE**、**N1**、**N2**ボタンで選択したドライブモードに応じてESCの特性が変化します。

モードボタン	選択したモード	ESC の特性
DRIVE MODEボタン	ECO	NORMAL
	NORMAL	NORMAL
	SPORT	SPORT
Nボタン	SPORT+(N)	NORMAL/SPORT/OFF

詳細は、本章の「ドライブモード統合制御システムドライブモード統合制御システム」を参照してください。

CUSTOM モード

インフォテインメントシステム画面からお好みのドライブモードを選択できます。

- CUSTOM モードメニューで「ESC > NORMAL/SPORT/OFF」を選択します。
- インフォテインメントシステム画面をタッチすると CUSTOM モードメニューに直接移動できます。詳細については、別途提供されるインフォテインメントシステムマニュアルを参照してください。

N1または**N2**ボタンがCUSTOMモードに設定されている場合に、ESC OFF設定をCUSTOMモードに保存すると、**N1**または**N2**ボタンを押してもCUSTOMモードをオンにすることはできません。**N1**または**N2**ボタンを押すと、「**CUSTOM 1(または2)モード設定ではESCが解除されます。ボタンを再度長押しして確認してください**」というメッセージがメーターの液晶ディスプレイに表示されます。ESC OFFが設定されたCUSTOMモードをONにするには、**N1**または**N2**ボタンを長押しします。

シャシー統合制御システム(VSM)

シャシー統合制御システムは、車体姿勢制御機能(ESC)システムの機能です。4本のタイヤのトラクションが突然不均衡になる可能性のある濡れた道、滑りやすい道、悪路での急加速時や急ブレーキ時に車両を安定させます。

⚠ 警告

シャシー統合制御システム(VSM)を使用する際は、次のことを守ってください。

- 速度と先行車両との車間距離を常に確認してください。VSM は、安全運転の代わりになるものではありません。
- 道路状況を考慮し、速度を出しすぎないようにします。VSM は事故を防止するものではありません。悪天候時や滑りやすい道、起伏のある道で速度を出しすぎると、重大な事故につながるおそれがあります。

VSM の作動

作動中の状態

ステアリングサポート(VSMの機能の一つ)が作動すると、ステアリングホイールに対応する感覚を感じることがあります。これは正常であり、VSMが機能していることを示しています。

i 情報

次のような時、VSMは動作しません。

- 斜面など、傾斜のある道を走行している。
- 車両を後進させている。
- ESC OFF のインジケーターが点灯している。
- MDPS（電動パワーステアリング）警告灯が点灯している、または点滅している。

VSM OFF の条件

VSMの動作を解除するには、ESC OFF ボタンを押します。ESC OFF(🚗OFF)インジケーターが点灯します。

VSMを再びONにするには、再度ESC OFF ボタンを押します。ESC OFF(🚗OFF)のインジケーターが消灯します。

⚠ 警告

ESC OFF(🚗OFF)インジケーターまたはMDPS(🚗!)警告灯が点灯し続けている場合や点滅している場合は、VSMシステムに不具合がある可能性があります。警告灯が点灯したら、できるだけ早く弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

知識

サイズの異なるホイールやタイヤで走行すると、VSMシステムの故障の原因となるおそれがあります。タイヤ交換の前に、タイヤとホイールのサイズが一致しているか、確認ください。サイズの異なるタイヤとホイールが装着された車両は絶対に運転しないでください。

ヒルアシストコントロール(HAC)

ヒルアシストコントロール(HAC)は、坂道で停車後の発進時に車両が後退するのを防ぎます。このシステムは、約2秒間、自動的にブレーキを操作し(HAC作動時にアクセルペダルが少し踏まれている場合は最大で5秒間)、2秒後またはアクセルペダルが踏まれたらブレーキを解除します。

⚠ 警告

- 坂道を発進するときは常に、アクセルペダルを踏む準備をしておいてください。ヒルアシストコントロール(HAC)が作動するのは約 2 秒間だけです。
- シフトが P(パーキング)または N(ニュートラル)にシフトされている場合、ヒルアシストコントロール(HAC)は動作しません。
- ヒルアシストコントロール(HAC)は、車体姿勢制御機能(ESC)が OFF のときも作動します。ただし、ESC が正常に作動していない場合は、作動しません。

急制動警報システム（ESS）

急制動警報システム(ESS)は、急ブレーキ時にストップライトを点滅させることによって後続の運転者に警告します。

作動

次の場合にストップライトが素早く点滅します。

- 車両が急停車した（減速力が 7m/s² を超え、走行速度が 55km/h を超えている）
- ABS が作動している

ストップランプ点滅後の作動

次の場合にストップライトの点滅後、ハザードランプが自動的に点灯します。

- 走行速度が 40km/h 以下であり、急ブレーキの状況が終了している。
- ABS が無効になっているとき。

次の場合にハザードランプが消灯します。

- 車両が一定時間、低速で走行した。
- 手動でボタンを押してハザードランプを OFF にすることができます。

⚠ 注意

ハザードランプがすでに点灯しているときは、急制動警報システム(ESS)は作動しません。

マルチコリジョンブレーキ（MCB）

マルチコリジョンブレーキは、エアバッグが展開するような事故の際に自動的にブレーキを制御し、事故が拡大する危険性を減らします。

MCB の作動

- エアバッグが展開したときから、マルチコリジョンブレーキが一時的にブレーキペダルとアクセルペダルの踏み込みの強度を監視します。次の条件を満たした場合にシステムが動作します。
  - 衝突時の速度が 180km/h を下回っている。
  - ブレーキペダルとアクセルペダルがほとんど踏まれていない。
- マルチコリジョンブレーキの作動中に、運転者が一定のレベルを超えてブレーキペダルを踏んだ場合は、このブレーキ力の方がマルチコリジョンブレーキシステムによる自動ブレーキよりも優先されます。ただし、運転者がブレーキペダルから足を離した場合は、マルチコリジョンブレーキシステムによる自動ブレーキが維持されます。

MCB の停止

次の状況のとき、マルチコリジョンブレーキは解除されます。

- 一定のレベルを超えてアクセルペダルが踏まれている
- 車両が停止した
- 車体姿勢制御機能（ESC）または電子機器が故障している
- システムが正常に動作できないような状況にある
- マルチコリジョンブレーキシステムによってブレーキが自動的に制御されてから 10 秒経過した

⚠ 警告

- マルチコリジョンブレーキは、衝突後の車速を下げますが、2 次的な衝突を防ぐわけではありません。アクセルペダルを踏むことで衝突した場所から遠ざかり、さらなる危険な状況を回避することもできます。
- マルチコリジョンブレーキによる車両の停止後、ブレーキの制御も停止されます。状況に応じて、運転者はブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏み、さらなる事故を回避する必要があります。

ブレーキアシスタントシステム（BAS）

ブレーキアシスタントシステムは、走行中に急ブレーキが必要になった場合に、ブレーキペダルを瞬間的に強く踏み込むと、追加の圧力を供給します。

ブレーキアシスタントシステムは、ABS（アンチロックブレーキシステム）制御が開始されるまでの時間を短縮し、ABSが介入するまで追加の圧力を供給することで、結果的に制動距離を短縮します。

⚠ 警告

運転者の運転操作状況、走行状態、速度、ブレーキペダルの踏み込み具合、路面状況によっては作動しない場合があります。

注意事項

⚠ 警告

車両を停車する時には、常に車両が完全に止まるまでブレーキペダルを踏んでください。シフトをP(パーキング)に入れてから電動パーキングブレーキ(EPB)を作動させ、EV START/STOPボタンをOFF位置にします。

電動パーキングブレーキ(EPB)をかけずに、または不完全にかけて駐車すると、意図せずに車両が走りだし、運転者などのけがにつながるおそれがあります。車両から離れる前に、必ず電動パーキングブレーキ(EPB)をかけてください。

⚠ 注意

濡れたブレーキは十分に注意してください。水たまりの中を走行したり洗車したりすると、ブレーキが濡れることがあります。ブレーキが濡れているときは、車両は急には止まれません。ブレーキが濡れていると、車両は片側に寄ることがあります。

ブレーキを乾かすには、ブレーキの効きが通常の状態に戻るまで少しずつブレーキをかけてください。ブレーキ動作が正常に戻らない場合は、安全が確認でき次第、すぐに停止してください。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

ブレーキペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。軽く載せているだけでもペダルに常時圧力がかかっている状態となり、ブレーキのオーバーヒート、摩耗、故障の原因になります。

走行中にタイヤがパンクしたときは、静かにブレーキをかけ、減速しながら車両をまっすぐ前方に向けます。安全な速度まで十分に減速したら、車両を安全な場所に停車してください。

停車時に車両が前方に進んでしまうのを防ぐため、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。

四輪駆動（4WD）

四輪駆動(4WD)が作動していると、駆動力が前輪と後輪に適切に配分されます。急勾配の坂道や未舗装道、滑りやすい道といった厳しい道路状況で車両の駆動力を最大化することによって、走行性能を向上させます。

電動4WDの利点

1. 直進安定性の向上
2. カーブでの走行性能の向上
3. 濡れた道や砂の多い道といった厳しい状況下での確かな安定性
4. 運転モードの自動制御によるエネルギー効率の向上

i 情報

4WDの車両は、必要な状況に応じてモーターの作動状態が変更されます。運転モード(2WD/4WD)の自動変更により、エネルギー効率と走行安定性が向上します。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡の危険性を減らすために、次の点を守ってください。

- カーブを曲がるときや旋回時は速度を落としてください。
- 急な車線変更や高速での急旋回のような、急なステアリングホイール操作はしないでください。
- 高速で走行中に車両を制御できなくなると、横転する危険性が非常に高くなります。
- タイヤが 2 本以上道路から逸脱し、道に戻ろうとして大きくステアリングホイールを切った場合に車両の制御を失いやすくなります。
- 車両が車線から逸脱した場合はステアリングホイールを切りすぎないようにし、減速してから車線に戻ってください。

知識

- 車両の底部を超える高さの水の中を走行しないでください。
- 泥や水から抜け出したら、ブレーキの状態を確認してください。ブレーキが正常な状態に戻るまで、ゆっくり走行しながらブレーキペダルを数回踏みます。
- 砂地や泥地、水の中などのオフロードを走行する場合は、定期整備の実施間隔を短くしてください（第 9 章の「厳しい使用条件に伴う点検整備」を参照してください）。
- オフロードの走行後は、必ず念入りに（特に車両の底部を）洗車してください。
- 車両に装着するタイヤは、必ず 4 本ともサイズと種類が同じものを使用してください。
- フルタイム 4WD の車両は、積載車で搬送してください。

4WD の安全な動作のために

運転する前に

- 全乗員がシートベルトを着用していることを確認します。
- 背筋を伸ばし、通常よりステアリングホイールの近くに座ります。快適に運転できるようにステアリングホイールの位置を調節します。

積雪路面や凍結路面での運転

- アクセルペダルを静かに踏んで、ゆっくり動き出します。
- スノータイヤやタイヤチェーンを使用します。
- 前方車両との間に十分な車間距離を維持します。
- 回生ブレーキの使用は、下り坂でのステアリングに役立ちます。ただし、惰性走行して回生ブレーキを使用しているときに車両を調節するのは難しい場合があるため、回生ブレーキレベル 3 での使用はできる限り避けてください。
- 横滑りを防ぐため、猛スピードの運転、急加速、急ブレーキ、急カーブはしないでください。
- 上り坂で車両を停止した場合、再度発進することは困難です。他の車両との間に十分な車間距離を維持し、ゆっくりと走行してください。

i 情報

スノータイヤを使用する場合は、4本のホイールすべてに装着します。

タイヤチェーンを使用する場合は、後輪のタイヤに取り付けます。

ただし、走行速度は30km/h未満を維持し、走行距離は最小限に抑える必要があります。タイヤチェーンを取り付けた状態で高速走行や長期間の走行を行うと、4WDシステムの誤動作や損傷につながるおそれがあります。

スノータイヤおよびタイヤチェーンの詳細については、本章の後半の「冬季の運転」を参照してください。

砂地や泥地での運転

- ゆっくりとした一定の速度を保ちます。
- 泥地での運転時には、必要に応じてタイヤチェーンを使用します。
- 前方車両との間に十分な車間距離を維持します。
- 減速し、常に道路状況を確認するようにします。
- 動きがとれない状態になるのを防ぐため、猛スピードの運転、急加速、急ブレーキ、急カーブはしないでください。

知識

雪、砂地、泥地で車両が動けなくなった場合は、駆動輪の下に滑り止め材を敷きトラクションを確保するか、ホイールを前後にゆっくり回転させて揺れを起こし、車両を動かします。

上り坂または下り坂での運転

- 上り坂での運転
  - 発進する前に、上り坂の走行が可能かどうか確認します。
  - できるだけまっすぐに走行します。
- 下り坂での運転
  - できるだけまっすぐに走行します。

⚠ 警告

急勾配の上り坂または下り坂では、細心の注意を払ってください。勾配、地形、水や泥の状態によっては、車両が横転する場合があります。

急勾配の坂道の起伏のある場所を横切るように走行しないでください。ホイールの角度がわずかに変化しただけで車両が不安定になることがあります。また、車両が前進をやめると、安定していた車両も安定性を失う場合があります。車両が横転して重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

その他の運転条件

- 運転の前にオフロードの状態を熟知しておいてください。
- オフロードで運転するときは常に注意を払い、危険区域を避けてください。
- 強風のときは、ゆっくり運転してください。
- コーナリングのときは減速してください。4WD の車両の重心は、従来の 2WD の車両より高くなっています。
- オフロードで運転する場合、常にステアリングホイールをしっかりと握ってください。

⚠ 警告

オフロードで運転しているときは、ステアリングホイールの内側をつかまないでください。地面上の物体との衝突によりステアリングホイールの跳ね返りや急なステアリング操作が発生し、腕をけがをするおそれがあります。また、ステアリングホイールを制御できず、重大な傷害または死亡につながるおそれもあります。

緊急時の注意事項

タイヤ

タイヤを交換するときは、必ず4本ともサイズ、種類、トレッドパターン、ブランド、負荷能力が同じものを装着してください。

⚠ 警告

車両に標準装着されていたタイヤサイズと、種類が異なるタイヤおよびホイールは、使用しないでください。車両の安全性や性能に影響を及ぼす可能性があり、ステアリングの故障や横転が発生して重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告



4WDの車両をジャッキで持ち上げているときは、絶対に車両を始動したり電源を入れたりしないでください。車両がジャッキから転がり落ち、お客様や近くにいる人が重大な傷害を負い死亡に至るおそれがあります。

けん引

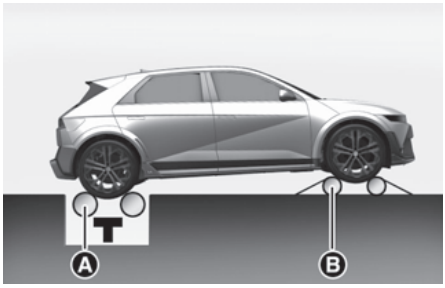
4WDの車両は、ホイールリフトおよびドーリー、またはフラット搬送台を使用して、すべてのホイールを地面から離した状態でけん引する必要があります。詳細については、第8章の「けん引」を参照してください。

車両の点検

- 車両を車両リフト上で動作させる必要がある場合は、4本のどのホイールの回転も止めないでください。4WDシステムが損傷するおそれがあります。
- 車両リフト上で車両の電源を入れるときは、絶対にパーキングブレーキをかけないでください。4WDシステムが損傷するおそれがあります。

ダイナモメーター試験

4WDの車両は、四輪駆動車専用のシャーシダイナモメーターで試験する必要があります。



[A] 回転試験機（スピードメーター）
[B] 一時的フリーローラー

4WDの車両は、2WDの回転試験機で試験することはできません。2WDの回転試験機を使用する必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 当該車両に推奨されるタイヤの空気圧を確認します。
2. 図に示されているように、スピードクラスターディスプレイ試験のために回転試験機に後輪を置きます。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. 図に示されているように、一時的フリーローラーに前輪を置きます。

⚠ 警告

ダイナモメーター上で車両のシフトが入っているときは、車両の前から離れていてください。車両が前に飛び出して、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

電子制御式リミテッドスリップデファレンシャル（e-LSD）

電子制御式リミテッドスリップデファレンシャルは、ホイールのデファレンシャル機能を制御する機構を備えたものです。

電子制御式リミテッドスリップデファレンシャルはホイールのデファレンシャル機能を制御することで、次のことを実現します。

- 高速旋回時のハンドリング性能の向上
- 発進性能の向上
- 左右ホイールの路面との摩擦の違いによる、雨や雪の路面でのスリップ防止

⚠ 警告

片側のホイールをジャッキアップした状態で駆動させないでください。これは、電子制御式リミテッドスリップデファレンシャルを装備した車両にとって、非常に危険です。

ドライブモード選択

電子制御式リミテッドスリップデファレンシャルの特性は、ステアリングホイールの**DRIVE MODE**、**N1**、**N2**ボタンで選択したドライブモードに応じて変化します。

モードボタン	選択したモード	e-LSD の特性
DRIVE MODE ボタン	ECO	NORMAL
	NORMAL	NORMAL
	SPORT	SPORT
Nボタン	SPORT+(N)	SPORT+(N)

詳細は、本章の「ドライブモード統合制御システム」を参照してください。

i 情報

Nドリフトオプティマイザーが作動している場合、電子制御式リミットスリップデファレンシャルはドリフト専用に作動します。

CUSTOM モード

インフォテインメントシステム画面からお好みのドライブモードを選択できます。

- ステアリングホイールの **N1** または **N2** ボタンを押して CUSTOM モードを選択します。

  インフォテインメントシステム画面に CUSTOM モードメニューが表示されます。CUSTOM モードメニューで「e-LSD > NORMAL/SPORT」 を選択します。
- インフォテインメントシステム画面をタッチすると CUSTOM モードメニューに直接移動できます。詳細については、別途提供されるインフォテインメントシステムマニュアルを参照してください。

警告メッセージ

電子制御式リミテッドスリップデファレンシャルが過熱したため一時的にオフになりました

関連部品が過熱すると、電子制御式リミテッドスリップデファレンシャルが一時的にオフになります。車両が冷却されるまで待機してください。

e-LSD システムを停止します。すべてのタイヤが同一か確認してください。

異なるタイヤ(サイズ、種類など)が装着されている場合、このメッセージが表示されます。電動リミテッドスリップデファレンシャルを使用するには、同じタイヤを装着してください。

e-LSD システムを点検してください。

電動リミテッドスリップデファレンシャルが正常に作動しない場合、この警告メッセージがクラスターディスプレイに表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者にシステムの点検をご依頼いただくことを推奨します。

N ボタン

N1/N2 ボタン設定





(1) 左側の N ボタン
(2) 右側の N ボタン

N1/N2ボタンを約0.8秒押すと、インフォテインメントシステムでこのボタンに機能を設定できるようになります。

N1/N2ボタンはそれぞれ、次のものに設定できます。

(1) N mode selection
(2) ラップタイマー開始 / 記録
(3) ラップタイマー終了 / 初期化
(4) N Active Sound+
(5) N e-Shift
(6) N ローンチコントロール

i 情報

N1とN2ボタンの両方に同時に同じ設定を選択することもできます。

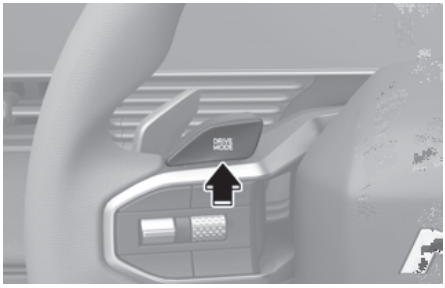
ただし、**N1(N2)**ボタンを「(2)ラップタイマー開始/記録」に設定した場合、N2(N1)ボタンは自動的に「(3)ラップタイマー終了/初期化」に設定されます。

詳細については、別途提供されるインフォテインメントシステムマニュアルを参照してください。

ドライブモード統合制御システム

ドライブモード

DRIVE MODE ボタン



N1/N2 ボタン



(1) 左側の N ボタン
(2) 右側の N ボタン

i 情報

N1または**N2**ボタンがインフォテインメントシステムの「ドライブモード」に設定されている場合、**N1**または**N2**ボタンを押してドライブモードを選択できます。

詳細については、別途提供されるインフォテインメントシステムマニュアルを参照してください。

ドライブモードはドライバーの好みや道路の状況によって選んでください。モーターを再始動すると、システムはNORMALモードにリセットされます。



ステアリングホイールの**N1**または**N2**ボタン、またはドライブモードボタンを押すたびにモードが切り替わります。

NORMALモードが選択されている場合、インストルメントクラスターには表示されません。

ECO モード

ドライブモードがECOモードに設定されると、モーターと変速機の制御ロジックがエネルギー効率を高めるように変更されます。

- ECO モードを選択すると、ECO インジケーターが点灯します。
- 車両が ECO モードに設定されているときに、一度車両の電源を OFF にしてから再始動すると、ドライブモードは NORMAL モードに切り替わります。

i 情報

エネルギー効率は、運転者の運転の傾向や道路状況によって異なります。

ECO モードが作動すると、次のことが行われます。

- アクセルペダルを静かに踏み込むと、加速応答性が若干下がることがあります。
- エアコンの性能が制限されることがあります。

これらはECOモードが作動しているときの正常な状態であり、エネルギー効率を高めることができます。

ECO モードの動作制限：

ECOモードが作動しているときに次の状況が発生した場合は、ECOインジケーターに変化がなく、システムの動作が制限されます。

- クーラントの温度が低い：

  車両の性能が正常になるまで、システムが制限されます。
- 坂道を上っている：

  トルクが限られているため、坂道を上る際はパワーを得る目的でシステムが制限されます。

  シフトチェンジする際もシステムは制限されます。
- アクセルペダルを数秒間深く踏み込んだ：

  運転者が加速することを望んでいると判断され、システムが制限されます。

SPORT モード

SPORTモードは、ステアリング操作、モーター、変速機の制御ロジックを自動的に調整することで、走行性能を向上させるように走行ダイナミクスを制御します。

- **DRIVE MODE** ボタンを押して SPORT モードを選択すると、SPORT インジケーターが点灯します。
- SPORT モードが作動すると：
  - 加速時のシフトアップタイミングが遅くなります

i 情報

SPORTモードでは、エネルギー効率が低下する場合があります。

ドライブモードの特徴

各コンポーネントの特徴は、選択したドライブモードによって異なります。

ドライブモード	NORMAL	ECO	SPORT
特徴	普通の運転モード	電気エネルギー高効率モード	スポーティーな運転モード
ボタンの有効化	DRIVE MODEボタンを押す		
インストルメントクラスターのインジケーター	-	ECO	SPORT
空調システム*1	NORMAL	ECO (ECO/NORMAL)	NORMAL
回生ブレーキレベル	0-3		

*1: インフォテインメントシステムの**設定** > **車両** > **ドライブモード** > **ECO モード空調制御**で、ドライブモードごとに走行条件を設定できます。

i 情報

- インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムに付属のマニュアルおよびクイックリファレンスガイドを参照してください。
- ブレーキモードは個別に調整できます。インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **ドライブモード** > **ブレーキモード**に移動し、使用するモードを選択します。

  N ブレーキ回生最適化モードに設定した場合、ブレーキモードが最適化され、モード設定は無効になります。

N モード

N1/N2 ボタン



(1) 左側 N1 ボタン
(2) 右側 N2 ボタン

Nボタンを押すと、Nモードが開始します。(N ボタン初期設定時)車両を再始動すると、運転モードはNORMALモードにリセットされます。

i 情報

運転モードは、インフォテインメントシステムで**N1/N2**ボタンを選択すると設定できます。詳細については、**N1/N2**ボタン設定の「Nボタン」を参照してください。

N モード

Nモードでは、高性能車両のパフォーマンスを左右する各コンポーネントに適した運転モードが、SPORTとSPORT+から選択されます。

- **N** ボタンを押して N モードを選択すると、インジケーターが点灯します。
- N モード（SPORT/SPORT+）では、ステアリング操作とモーターの制御ロジックを走行性能が向上するように自動で調整し、よりダイナミックな走行を実現します。

i 情報

SPORT/SPORT+モードでは、エネルギー効率が低下する場合があります。

CUSTOM モード

ドライブモードでは、2つのCUSTOMモード(CUSTOM 1/CUSTOM 2)を選択できます。

CUSTOMモードでは、運転者の好みに応じてドライブモードを選択できます。

- モーター：ECO/NORMAL/SPORT/SPORT+
- ステアリング：NORMAL/SPORT/SPORT+
- サスペンション：NORMAL/SPORT/SPORT+
- e-LSD：NORMAL/SPORT/SPORT+
- ESC：NORMAL/SPORT/OFF
- NAS+：Ignition/Evolution/Supersonic

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムに付属のマニュアルおよびクイックリファレンスガイドを参照してください。

パフォーマンスオプション設定

1. インフォテインメントシステムのメイン画面で N モード（1）を選択します。



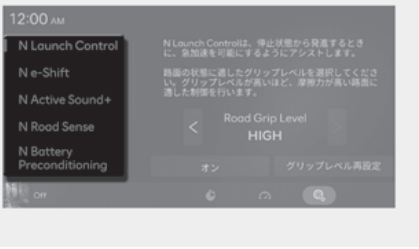
2. 画面を左（2）にスワイプします。



3. **パフォーマンスオプション**（3）を選択します。



4. インフォテインメント画面の左側に、パフォーマンスオプション機能が表示されます。各機能を選択して、詳細設定を行います。



N e-Shift

N e-Shiftシステムは、モーターと変速機のみで構成されたEV用に設計されています。N e-Shiftシステムを使用すると、VCUモーターの制御により内燃機関に搭載されたオートマチックトランスミッションのシフト感覚を体験することができます。

設定

- ステアリングホイールの **N2** ボタンが初期設定されています。（ボタン設定は変更できます。詳細は、「N ボタン」を参照してください）
- N モード画面で**パフォーマンスオプション** > **N e-Shift** を選択して、**オン** ボタンを押します。



- N e-Shift をオンにすると、N アクティブサウンド + が自動的に Ignition モードに変わります。

基本機能

- N e-Shift を使用すると、内燃機関に搭載されたトランスミッションのシフト感覚を体験することができます。
  - シフトパターン：モードごとに差別化されたパターン、ブレーキ減速率の低減、シフトの調整など
  - シフト感覚：モードごとに差別化されたシフトアップ / ダウン、ダウンシフト REV マッチングの低減、WOT PUSH UP など
  - 自動 / 手動モード：左右のパドルシフトレバーを調整すると、自動シフトモードから手動シフトモードに切り替わります（手動モードをキャンセルするには、左のパドルシフトを 2 秒間保持し、自動モードに切り替えます）
- サウンド効果：シフトごとにシミュレートされたエンジン回転数 / モータートルクに対応した内部 / 外部サウンド

  高性能サウンド効果：アフターファイヤの音、チップアウト / バブリング音、P/ON でのシフトアップ効果音
- インターフェースリアリゼーション：自動 / 手動モード（パドルシフト）、メーター（モーター回転数、シフト段階）

N e-Shift メーターの回転数ゲージ



i 情報

- この機能は、車両が Ready モードのときにのみオンになります。
- この機能は、ECO モードを除くすべての運転モードで使用できます。
- N e-Shift は、スマートクルーズコントロール、N ドリフトオプティマイザー、N グリンブースト、N ローンチコントロール、リモートスマートパーキングシステムが作動している場合や、EV システムが故障していたり、高電圧バッテリ残量が低くなっていたりする場合は使用できません。
- N e-Shift をオンにすると、ECO モード、N グリンブースト、スマートクルーズコントロール（速度制限アシスト）はオフになります。各機能をオフにすると、N e-Shift を再度オンにできます。
- 車両が故障を検知すると N e-Shift は作動を中断する場合があります。
- シミュレーションされたギアシフト感覚は、車両の状態（満充電や放電状態など）によって異なる可能性があります。運転者安全機能（TCS/ESC など）によっても作動が中断される場合があります。

i 情報

パドルシフトは、手動シフトとして、N e-Shiftシステムでも使用されます。左側パドルシフト[+]はシフトアップに使用され、右側パドルシフト[-]はシフトダウンに使用されます。

N Active Sound+

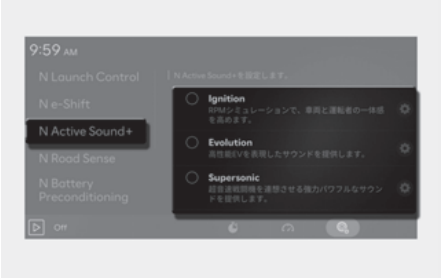
N Active Sound+システムは、EVのパフォーマンスに合わせて最適化された仮想サウンドを生成し、よりダイナミックな走行サウンドを提供します。運転者は外部の走行サウンドの設定を調整することもできます。

設定

Nモード画面で**パフォーマンスオプション** > **N Active Sound+**を選択して、走行サウンドを設定します。

N車両には、3種類の特別な走行サウンドが用意されています。

- **Ignition**：内燃機関の回転数をシミュレートしたエキゾーストサウンドやバブリングサウンド、車両と運転者の一体感を作り出します。
- **Evolution**：未来の高性能 EV をシミュレートした回転音で、運転者に新しい体験をもたらします。
- **Supersonic**：超音波ジェット機をシミュレートした力強い音で、ソニックブームのサウンド効果を与えます。



⚙ボタンを押すとサウンドを調節できます。

- 音量（内部）：音量を調節します。
- 外部スピーカー：高性能 N サウンドを作り出し、外部に対するサウンド効果を実現します。
- ハイパフォーマンス効果音：高性能の N 走行体験を最適化します。



設定は、Nモード画面の**Custom**モードで**NAS+**ボタンを押すたびに変更されます。



i 情報

ステアリングホイールのN1/N2ボタンにN Active Sound+システムのショートカットを設定している場合、N1/N2ボタンでサウンドの切替が可能です。

基本機能

- コントローラー（ADP）を使用することで、走行情報（回転数 / 速度 / トルク / アクセルペダル）に基づいた最適なサウンドを楽しむことができます。
- N e-Shift（仮想シフト）に関連付けられたシフトサウンドを使用できます。
- サウンドを選択し、個別の調節を行うことができます。
- バックファイア、ソニックブーム、ローンチコントロールなど、効果の高いサウンド効果を使用できます。
- 外部スピーカーを使用して、車両の外にサウンドを流すことができます。

外部スピーカーの位置



N ローンチコントロール

Nローンチコントロールは、車両が完全に停止しているときに最大の加速度を提供します。

Nローンチコントロールを使用している場合、Nグリンブーストが自動的にオンになり、車両の加速度を最大にします。

設定

1. N モード画面の**パフォーマンスオプション** > **N Launch Control** から、走行している路面状態に合わせて、ロードグリップレベル（LOW/MEDIUM/HIGH）を選択します。その後、**オン**ボタン（1）を押します。



i 情報

グリップレベル再設定（2）を押すと、ロードグリップレベルが HIGH に変わります。

2. 前提条件が満たされているときに、左足でブレーキペダルを完全に踏み込んだ状態で、右足でアクセルペダルを短時間だけ完全に踏み込むと、N ローンチコントロールが準備完了状態になります。

   作動の前提条件

   - 運転モードが N モード（カスタムモーターモードが Sport +）
   - ESC SPORT または OFF、シフトポジション：D

- ステアリングホイールがまっすぐになっている。モーター警告サイン：なし
- ホイール速度が正常。モーター温度が正常。

N ローンチコントロールの準備が完了すると、メーターに「**Launch Control Ready**」というメッセージが表示されます。



3. 準備が完了すると、（ロードグリップレベルで HIGH を選択している場合）プレトルクが自動で適用されます。
4. ブレーキペダルを離した後 8 秒以内に走行を開始します。

i 情報

- N ローンチコントロールは、アクセルペダルを離すと解除されます。
- N ローンチコントロールを使用する場合は、2 分以上車両を冷却する必要があります。

i 情報

Nグリンブースト、速度制御アシスト、Nドリフトオプティマイザー、N e-Shift、Nペダル、Nトルクディストリビューションが作動しているとき、またはモーター制御ユニットが過熱状態のときは、Nローンチコントロールの使用が制限されます。

機能と制御

プレトルク

走行前、事前にホイールと走行システムにトルクをかけることで、運転者は加速の準備時間を最小化し、ブレーキペダルを離してから加速するまでの時間を短くすることができます。

ロードグリップレベル制御

ホイールのスリップとトルクを3段階で制御し、路面状況に応じた走行を行います。

ロードグリップレベル	N グリンブーストとの自動連携	プレトルク
低	非適用	非適用
中	適用	非適用
高	適用	適用

N ペダル

Nペダルは、3段階の回生ブレーキを適用することで、急速で直線的な減速を支援します。アクセルペダルを使用していないときは、荷重移動や旋回タックイン性能が向上します。

⚠ 注意

- N ペダルは専用に設計されたレーストラックでのみ使用してください。
- N ペダルはお住いの国や地域の規則を順守していない場合があります。
- 運転者には、安全な走行のために、お住いの国や地域の規則を順守する責任があります。
- 最高速度で走行中は、アクセルペダルの踏み込みに対して車両が過敏に反応する場合がありますので、慎重に走行してください。

設定

- Motor モード（N モードまたは CUSTOM モード（モーター Sport + モード））と ESC モード（SPORT または OFF）に設定されている状態で、N モード画面で **N Track** > **N Pedal** を選択し、ステアリングホイールの **OK** ボタンを押します。



N モード画面で**パフォーマンスオプション** > **N Pedal** を選択して、**オン**ボタンを押します。



- 使用方法：既存の回生ブレーキレベル切替操作用のパドルシフトを使用することで、N ペダルを 3 段階から選択できます。
  - N ペダルオフ：レベル 0、レベル 1、レベル 2、レベル 3、i-PEDAL（5 段階）
  - N ペダルオン：レベル 1、レベル 2、レベル 3（3 段階）

i 情報

- N グリンブースト、スマートクルーズコントロール（速度制限アシスト）、リモートスマートパーキングシステムが作動しているとき、または EV のサービス警告灯が点灯しているときは、N ペダルの使用が制限されます。

  （N ペダルが作動しているときは、N グリンブーストと N ローンチコントロールは一時的に解除されます。N ペダルをオフにすると、N グリンブーストと N ローンチコントロールは再度オンになります。）
- 走行状況や高電圧バッテリ残量などによって、回生ブレーキや応答速度が変化する場合があります。

システム

回生ブレーキ、応答速度、前後ホイールの分配率に応じて3段階用意されています。（Nペダル：レベル1～3）

N トルクディストリビューション

Nトルクディストリビューションは、運転者が駆動力を前後ホイールに直接分配するのを支援します。

⚠ 注意

Nトルクディストリビューションは専用に設計されたレーストラックでのみ使用してください。

設定

Nモード画面で**N Track** > **N Torque Distribution**を選択し、インフォテイメントシステム内の**確認**ボタンをクリックします。



⚠ 注意

安全のため、Nトルクディストリビューションの設定は、車両が完全に停止しているときに調整してください。

分配率は11段階あるため、動作の程度(前輪最大-前輪50%/後輪50%-後輪最大)に応じて異なる走行状態を実現できます。

i 情報

- N e-shift、スマートクルーズコントロール（速度制限アシスト)、リモートスマートパーキングシステムが作動しているときや、高電圧バッテリ残量が低かったり、EV のサービス警告灯が点灯していたりするときは、N トルクディストリビューションの使用が制限されます。
- N トルクディストリビューションが作動しているときは、N ローンチコントロールは解除されます。

N グリンブースト

Nグリンブーストは、迅速な加速が必要な状況で、一定時間バッテリとモーターのパフォーマンスを最大にすることができます。出力を上げ、応答を迅速にすることで、加速感を最大化するよう設計されています。

タイプA(Nモード)

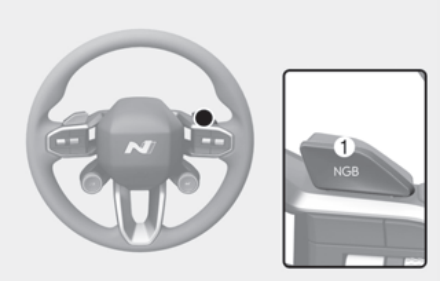


タイプ B（NORMAL モード）



設定

- ステアリングホイールの NGB ボタン (1) を押します。



- 10 秒間出力を 41ps（609ps > 650ps）増やし、モーターの応答速度を最大にすることができます。
- 10 秒間使用した後、10 秒間待機すれば再度使用できます。

i 情報

- これは、バッテリ SOC が 30% 未満の場合は作動しない場合があります。また、バッテリ温度が 20° C 未満の場合も、出力を最大にすることが難くなります。
- インバーターの温度が高い状態では、作動が制限される場合があります。

i 情報

NローンチコントロールとNレースのEnduranceモードが作動しているときは､Nグリンブーストの使用が制限されます。

⚠ 注意

- 運転者には、N グリンブーストの使用時、車両を制御できるように周囲の状況に注意してください。
- N グリンブーストの使用中に危険な運転をしないでください。
- N グリンブーストの連続使用は、変速機、モーター、ドライブシャフトなどの車両コンポーネントに過負荷がかかる可能性があるため、慣らし運転の後に使用することを推奨します。

N レース

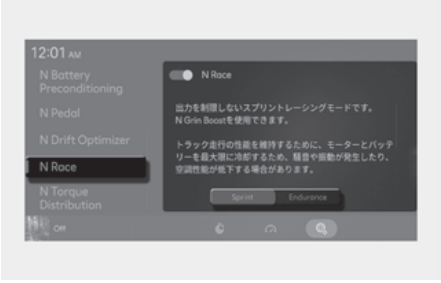
Nレースでは、バッテリ/モーター冷却を強化することで、トラック走行中に発生する可能性がある出力制限を最小限に抑えます。

設定

Nモード画面で**N Track** > **N Race**を選択し、インフォテイメントシステム内の**確認**ボタンを押します。



または、Nモード画面で**パフォーマンスオプション** > **N Race**を選択し、SprintモードかEnduranceモードを選びます。



- 設定：N モードまたは CUSTOM モード（モーター SPORT+）
- 次の機能を一度に使用できます。
  - N ローンチコントロール、N ドリフトオプティマイザー、N トルクディストリビューション
  - N グリンブースト（Sprint モード）、N e-Shift

サブ機能

- Sprint モード：出力制限がありません。N グリンブーストを利用できます。
- Endurance モード：レース用のモードで、部分的に出力を制限することで、走行距離を増やします。N グリンブーストの使用が制限されます。

i 情報

スマートクルーズコントロール(速度制限アシスト)、リモートスマートパーキングシステム、ユーティリティモード、Nバッテリプレコンディショニングが作動しているときは、Nレースの使用が制限されます。

⚠ 注意

トラックを走行する場合は、モーターとバッテリを最大限冷却してください。ノイズと振動が増加し、エアコン性能が減少する場合があります。Nレースを頻繁に使用すると、バッテリの耐久性が弱まる可能性があります。

N バッテリプレコンディショニング

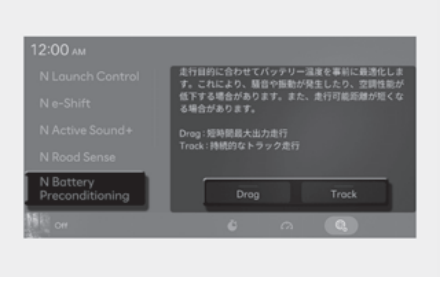
Nバッテリプレコンディショニングシステムでは、DRAG/TRACKモードを選択し、走行目的に応じて最適化されたバッテリ温度で暖房/冷房を行います。

設定

Nモード画面で**Battery**タップを選択して、機能を有効にできます。



または、Nモード画面で**パフォーマンスオプション** > **N Battery Preconditioning**を選択します。



現在の温度と目標温度に応じて、暖房/冷房が調整され、それに応じて推定時間が表示されます。

推定時間は車両が停車中で、エアコンがOFFの状態を基準にしています。これは、走行状態や外部の状況によって変化する場合があります。

基本機能

機能	DRAG	TRACK
目的	ドラッグレースやトラックでのタイムアタックなど、短時間で最大出力を要する走行	トラックでの連続走行(1セッション)など、長時間に渡って高負荷を要する走行
目標温度	30～40° C(最大加速に適した温度)	20～30° C(セッション後半の出力低下を防ぐ低温)
補足	現在のバッテリ温度(色付きバー)と完了までの推定時間が表示されます	

運転条件

機能	運転モード	SOC	車両の状態	その他
DRAG	Nレースを除くすべての運転モード	40%以上	EV準備完了	コンディショニング後、最適な温度を維持するためにさらに30分間作動します。
TRACK	↑	↑	EV準備完了または急速充電*1	↑

*1: 充電中の温度上昇を最小限に抑えるため、充電時間が長くなる場合があります

i 情報

この機能は、EVシステムの警告灯点灯または、ユーティリティモードに入るとキャンセルされます。

プレコンディショニング完了後、トラック走行時にNレースをオンにすることを推奨します。

プレコンディショニングを完了せずにトラックを走行すると、バッテリ温度によってはパフォーマンスが低下する可能性があります。

N ドリフトオプティマイザー Pro

Nドリフトオプティマイザーでは、ドリフト走行中の4WD駆動分配、ホイールスピンの制御、ESC、e-LSD、サスペンション、ステアリングの設定を行うことができます。

基本機能

- カーブを走行中、後輪駆動によるドリフト走行の開始と維持、および前輪への積極的な分配による直進時のスピン低減と加速の向上を支援します。
- 車両位置を予測して、アクセルペダルから発生する駆動力を最適化するのに役立ちます。
- e-LSD と TCS/ESC を制御し、駆動輪の過度のスピンアウトやホイールスピンを回避できます。
- 電動ダンパーとステアリングのドリフトモードを設定することで、操舵バランスとステアリングの重さが最適化されます。

i 情報

- **RTO（回生トルクオーバーステア）**

  カーブ走行中にアクセルペダルを離した場合、回生ブレーキにより後輪の動きを作り出し、ドリフトを支援します。
- **トルクキック**

  カーブ走行中に左右のパドルシフトを同時に引いて離すと、マニュアルギアシフトのクラッチキックに似た走行トルクが生成されます。

⚠ 注意

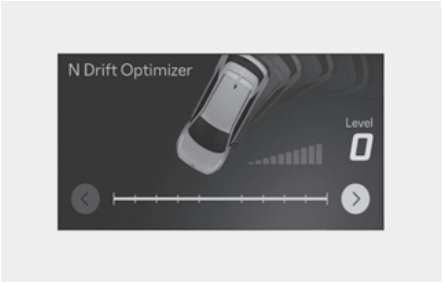
- ドリフトモードを連続使用すると、ドライブシャフト、ブレーキ、変速機ユニットなどの部品が損傷するおそれがあります。
- N ドリフトオプティマイザー Pro はレーストラックでのみ使用してください。
- N ドリフトオプティマイザー Pro を使用する場合、周囲の状況に十分注意してください。
- 運転者は、安全な走行のために、お住いの国や地域の規則を遵守するよう心がけてください。
- これにより、タイヤの早期損傷や摩耗が発生する可能性があります。

基本設定

- オンにする方法：
  - モーターモード：SPORT+、ESC OFF、BRAKE ON、シフト P/N/D
  - インフォテインメントシステムで **N モード** > **N Drift Optimizer** を選択し、インフォテイメントシステム内の **OK** ボタンを押します。



  - レベル 1（初心者）からレベル 10（上級者）まで、希望のアシストレベルにスライドを調整します。



  - 画面上で OFF にした後に再度 N ドリフトオプティマイザーを ON にすると、前回選択したレベルで復帰します。しかし、車両の電源を切ると、レベル 1 に戻ります（安全のため初心者向けの設定となります）。
- オフにする方法：
  - ドライブモードに変更します。
  - インフォテインメントシステムのスイッチを OFF にします。
  - ESC を ON にします。

i 情報

- N レースや N バッテリプレコンディショニングの作動中でも N ドリフトオプティマイザーを使用できます。
- N グリンブースト、リモートスマートパーキングシステム、スマートクルーズコントロールが作動しているとき、または EV のサービス警告灯が点灯しているときは、N ドリフトオプティマイザーの使用が制限されます。
- N ドリフトオプティマイザーが作動しているときは、N ローンチコントロール、N e-Shift、N ペダル、N グリンブースト、N トルクディストリビューションは自動的に解除されます。

⚠ 注意

- 運転者は、N ドリフトオプティマイザーの使用中、周囲の状況に十分配慮し、安全を心がけてください。
- サーキットやそれに準ずる周囲に障害物のない安全な環境で使用されることを推奨します。

トラック SOC（装備されている場合）

トラックSOCは補助機能であり、トラック走行時に、ラップごとのバッテリ消費量を自動で表示します。

一般的なDTEはサーキット走行条件を満たしていません。ラップごとのバッテリ消費量を自動で知らせることで、EVバッテリーの不足に関する運転者の不安を軽減します。

作動条件

- 車両のインフォテインメントで初期設定されているトラックに進入すると、自動的にオンになります。
- トラックウィジェットが開き、トラック SOC と、「**前回のラップで〇〇％のバッテリを使用しました**」というメッセージが表示されます。



- 自動 / 手動ラップタイマーに連携させると、最高記録で使用された SOC 消費量が表示されます。



N ロードセンス（装備されている場合）

Nロードセンスは、前方にある連続カーブの道路標識をフロントカメラが感知した場合に、Nモードに誘導する機能です。

基本機能

走行中にフロントカメラが連続カーブの標識を感知した場合、「**連続カーブ標識が検出されました**」というメッセージがメーターに表示されます。ステアリングホイールの**OK**ボタンを押すと、Nモードがオンになります。





電子制御式サスペンション（ECS）

電子制御式サスペンションは、高性能EVに特化した電子サスペンションを適用することで、N特性を実現します。

- 高性能 EV の N 特性を実現するために、ダンパー制御量が最適化されます。
- 通常走行からサーキット走行に至るまで、さまざまな走行状況でユニークな体験を提供します。
- 道路状況に応じて各ホイールの減衰力を制御することで、高性能車両の乗り心地を体験できます。

i 情報

ECSとは電子制御式サスペンションのことです。

アクティブエアフラップ



アクティブエアフラップシステムは、フロントバンパーの下のエアフラップを制御して、車両の部品を冷やし、エネルギー効率を高めます。

i 情報

アクティブエアフラップシステムは、車両の状態(駐車中、走行中、充電中など)に関係なく作動することがあります。

故障



異物が原因でエアフラップが一時的に開いている場合、あるいは雪や雨などでコントローラーが汚れている場合は、アクティブエアフラップシステムが正常に動作しないことがあります。

画面に「**アクティブエアフラップを点検してください**」と表示されたら、安全な場所に車両を止め、エアフラップの状態を確認してください。

異物の除去など必要な作業を済ませて10分待ってから車両を始動します。ポップアップが表示されたままの場合は、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。

⚠ 注意

- ポップアップの有無にかかわらず、エアフラップが同じ位置にない場合は、車両を止め、10 分待ってから車両を始動し、エアフラップを点検します。
- アクティブエアフラップシステムは、モーターにより駆動されます。動作を妨げたり、過度に力を加えたりしないでください。故障につながるおそれがあります。

特殊状況下の運転

危険状況下

水、雪、凍結、泥、砂などの危険な路面状況に遭遇したときは、以下の点に注意してください。

- 慎重に運転し、制動距離を長めにとってください。
- 急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
- 雪、泥、砂で車両が動けなくなったときは、不必要なホイールスピンが生じないように、ゆっくりと加速してください。
- 凍結した路面や雪、泥にはまって車両が動けなくなった場合は、砂、岩塩、タイヤチェーンや滑りにくい物をホイールの下に入れて滑り止めにします。

⚠ 警告

滑りやすい路面を走行しているときに突然タイヤ速度が変わると、タイヤが横滑りすることがあります。滑りやすい路面を走行するときは注意してください。

車両脱出時操作方法

雪道や砂地、泥地から脱出するために車両を揺り動かす必要がある場合は、まず、ステアリングホイールを左右に回して前輪の周囲をならします。次に、R(リバース)と前進シフトを繰り返し、車両を前後に動かします。

ホイールスピンが起こらないようにしてください。また、車両を空転させないでください。

数回試しても脱出できないときは、車両のオーバーヒートや変速機の損傷を避けるために、けん引車で車両を脱出させてください。

⚠ 警告

- 車両を揺り動かす前に、ESC システムを OFF にする必要があります。車両が動けない状態で過度のホイールスピンが発生すると、タイヤの温度が急激に上昇する可能性があります。タイヤが損傷すると、パンクしたり破裂したりすることがあります。これは危険な状態であり、生命の危険または重大な傷害を負うおそれがあります。車両の周囲に人や物が存在するときは、この方法を実行しないでください。
- 車両を脱出させようとすると、車両が急速にオーバーヒートし、モーターコンパートメントの発火などの損傷につながるおそれがあります。タイヤやモーターのオーバーヒートを防ぐため、できるだけホイールスピンが生じないようにしてください。56km/h を超えるホイールスピンが発生しないようにしてください。
- 車両を数回揺り動かしても脱出できないときは、モーターのオーバーヒート、変速機の損傷、タイヤの損傷が発生することを回避するために、けん引車で車両を脱出させてください。

スムーズなコーナリング

特に道路が濡れているときは、曲がり角でのブレーキ操作やパドルシフト操作は避けてください。理想を言えば、曲がり角では常に緩やかな速度で通過する必要があります。

夜間時

夜間の運転は、日中の運転より多くの危険を伴います。覚えておくべき重要なポイントを次に示します。

- 特に街灯がないような場所では、夜間は周囲が見づらくなるため、ゆっくりと走行し、他の車両との間に十分な車間距離を維持します。
- 他の車両のヘッドライトの光が眩しくないよう、ミラーを調節します。
- ヘッドライトはきれいな状態を保ち、適切な向きにします。ヘッドライトが汚れていたり、向きが適切でなかったりすると、夜間の視認性が悪くなります。
- 対向車両のヘッドライトを直接見つめないでください。一時的に目がくらみ、目が再び暗さに慣れるまで数秒かかることになります。

雨天時

雨天時や濡れた道路の運転には危険が伴います。雨天時や、滑りやすい路面を運転するときに考慮すべきポイントを次に示します。

- ゆっくりと走行し、十分な車間距離を維持します。雨が激しくなると、周囲が見えづらくなり、ブレーキを踏み車両が止まるまでの停止距離も長くなります。
- クルーズコントロールはオフにします（装備されている場合）
- フロントガラスに縞状の跡や拭き残しが現れるようになったら、フロントワイパーブレードを交換します。
- タイヤに十分な溝が残っていることを確認します。タイヤに十分な溝が残っていない場合、濡れた路面で急停車すると、横滑りして事故につながるおそれがあります。

  詳細については、第９章の「タイヤ交換」を参照してください。
- 周囲に自車の存在を気付いてもらえるように、ヘッドライトを点灯します。
- 大きな水たまりを通過するときにスピードを出しすぎると、ブレーキに影響するおそれがあります。水たまりを通過しなければならないときは、ゆっくり走行してください。
- ブレーキが濡れた可能性がある場合、正常な状態に戻るまで、走行しながらブレーキを軽く踏み込みます。

ハイドロプレーニング

水の溜まった路面でスピードを出しすぎると、車両が路面とほとんど、またはまったく接触しなくなり、水の上に乗った状態が発生します。路面が濡れているときはゆっくり走行するのが一番の対策です。

タイヤの溝の残りが減るにつれて、ハイドロプレーニングのリスクが高くなります。第9章の「タイヤ交換」を参照してください。

冠水時

水の高さがホイールハブの底部を超えないという確信がある場合を除き、冠水している場所を通るのは避けてください。水の中はゆっくり走行してください。ブレーキ機能が低下する場合がありますので、十分な停止距離を確保してください。

水の中を走行した後は、ゆっくり走行しながらブレーキを静かに数回踏んで、ブレーキを乾かします。

高速道路走行時

タイヤ

指定通りにタイヤ空気圧を調整します。空気圧不足は、タイヤのオーバーヒートや損傷につながるおそれがあります。

摩耗したタイヤや損傷したタイヤは装着しないでください。トラクションの低下やブレーキ動作の失敗につながるおそれがあります。

i 情報

タイヤの空気圧が指定の最大空気圧を超えないようにしてください。

クーラントと高電圧バッテリー

高速道路を高速で走行すると、より多くの電気エネルギーが消費され、ゆっくりとした適度な速度での走行よりも効率が下がります。高速道路を走行するときは、電気エネルギーを節約するために適度な速度を維持してください。

運転前に必ず、クーラントレベルと電気エネルギーレベルの両方を点検してください。

横転リスクの軽減

お客様の多目的乗用車は、スポーツユーティリティービークル(SUV)と定義されています。一般的に、SUVは最低地上高が高く、ホイールベースが短いため、さまざまなオフロード用途に対応できます。特殊な設計特性により一般車両より重心が高いため、急カーブ時に横転しやすくなります。SUVが横転するリスクは、他の車種よりはるかに高くなります。運転者も同乗者も、必ずシートベルトを正しく確実に着用してください。横転事故では、シートベルトを装着していた人より未装着の人の方が、死に至る確率がはるかに高くなっています。

運転者は、横転の危険を軽減するために、するべきことがあります。できる限り急なカーブや急な操作を避け、車両のルーフに重い荷物を載せないようにします。また、絶対に車両を改造しないでください。

⚠ 警告

SUVの横転率は、他のタイプの車両よりはるかに高くなっています。横転または制御不能状態を防ぐために、次の点を守ってください。

- 曲がり角では、セダン形などよりも速度を落としてください。
- 急な旋回や急激な操作は避けてください。
- 重心が高くなるような車両の改造は、絶対に行わないでください。
- タイヤを適切な空気圧にしてください。
- ルーフに重い荷物を載せないでください。

シートベルトを着用してください。横転事故では、シートベルトを装着していた人より未装着の人の方が、死に至る確率がはるかに高くなっています。

冬季の運転

積雪や凍結時

前方車両との間に十分な車間距離を維持する必要があります。

ブレーキは静かにかけてください。猛スピードの運転、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、非常に危険な行為です。積雪路面や凍結路面で急ブレーキをかけると、車両が横滑りするおそれがあります。

深い雪の中で車両を運転するには、スノータイヤを使用するか、タイヤにタイヤチェーンを取り付ける必要があります。

常に非常用装備を整えておいてください。タイヤチェーン、けん引ストラップまたはチェーン、懐中電灯、緊急発炎筒、砂、シャベル、ブースターケーブル、ウィンドウスクレーパー、手袋、グラウンドシート、作業服、毛布などを携帯することを推奨します。

スノータイヤ

⚠ 警告

スノータイヤは、サイズとタイプが車両の標準タイヤと同等でなければなりません。そうしないと、車両の安全性と取り扱いに悪影響が及ぶ可能性があります。

路面温度が7 °C以下の場合はスノータイヤを使用してください。スノータイヤ装着時は、必ず元のノーマルタイヤと同じ空気圧にしてください。スノータイヤ装着時は、必ず元のノーマルタイヤと同じ空気圧にしてください。4輪すべてにスノータイヤを装着し、あらゆる気象条件下でも安定した運転ができるようにしてください。

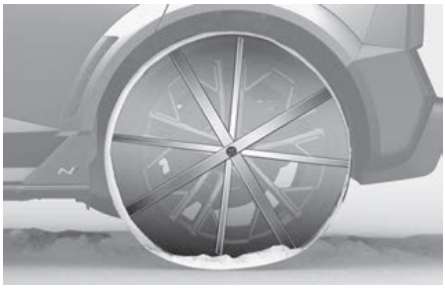
乾いた路面でのスノータイヤの接地能力は、元々装着されていたノーマルタイヤほど高くない場合があります。タイヤの限界速度などについては、タイヤ販売店で確認してください。

ノーマルタイヤ

装備されている場合

- ノーマルタイヤは、乾燥路面での走行性能を最大化するために使用します。
- 気温が 7° C を下回っている場合や、積雪路面や凍結路面を走行している場合は、ノーマルタイヤではグリップ力が大幅に低下するため、ブレーキ性能とトラクションが損なわれることになります。
- 気温が 7° C を下回っている場合や、積雪路面や凍結路面を走行している場合は、安全に走行するために、お客様の車両の標準タイヤと同サイズのスノータイヤまたはオールシーズンタイヤを装着してください。スノータイヤとオールシーズンタイヤには、どちらも M+S の刻印があります。
- M+S 表示のあるタイヤを使用する場合は、安全に走行するために、同じメーカーが製造した、トレッドが同じタイヤを使用してください。
- 車両の標準ノーマルタイヤより最高許容速度が低い M+S 表示付きタイヤで走行する場合は、M+S 表示付きタイヤで許容される速度を超えないように注意してください。

タイヤチェーン



ラジアルタイヤのサイドウォールは他のタイプのタイヤよりも薄いため、一部のタイプのタイヤチェーンを装着すると損傷する場合があります。したがって、タイヤチェーンではなくスノータイヤの使用を推奨します。タイヤチェーンを使用しなければならない場合は、HYUNDAI推奨部品(布製スノーチェーン)を使用し、タイヤチェーン付属の説明書を確認してから、タイヤチェーンを取り付けてください。不適切なタイヤチェーンの使用による車両の損傷は、メーカー保証の対象外です。

⚠ 警告

布製スノーチェーンを使用すると、車両のハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。

- 30km/h、またはタイヤチェーンメーカーの推奨制限速度のいずれか低い方の速度以下で走行してください。
- 慎重に運転し、道路上の隆起やくぼみ、急カーブなどの危険要因を回避してください。車両がバウンドするおそれがあります。
- 急カーブや、ブレーキ時のホイールロックを回避してください。

i 情報

- 布製スノーチェーン、左右のリアタイヤに装着してください。布製スノーチェーンを装着すると、駆動力は高まりますが、横滑りの防止にはならないという点に留意する必要があります。
- スパイクタイヤについては、使用が制限されている可能性があるため、装着する前にまず、地方条例を確認してください。

チェーンの取り付け

布製スノーチェーンを取り付けるときは、メーカーの指示に従って、できるだけしっかりと取り付けてください。チェーンを装着した状態では、低速(30km/h以下またはタイヤチェーンメーカーの推奨制限速度以下)で走行してください。布製スノーチェーンがボディまたはシャーシに接触するのが聞こえたら、車を止めて、チェーンを増し締めします。それでも接触する場合は、接触音が止まるまで減速します。除雪された路面を走行し始めたらすぐにタイヤチェーンを取り外してください。

布製スノーチェーンを装着するときは、車両の往来のない平らな場所に車両を止めます。車両のハザードランプを点灯させ、車両の後方に停止表示器材(三角停止表示板等)を置きます(使用可能な場合)。スノーチェーンを装着する前に、必ずシフトをP(パーキング)に入れ、パーキングブレーキを作動させ、車両の動力を切ってください。

知識

布製スノーチェーンを使用する場合:

- チェーンのサイズが合わない場合や装着が不適切な場合は、車両のブレーキライン、サスペンション、車体、ホイールを損傷するおそれがあります。
- チェーンが車体に接触する異音が聞こえた場合は、接触しないようにチェーンを締め直します。
- 車体の損傷を防ぐため、0.5 ~ 1.0km走行したらチェーンを締め直してください。

注意事項

バッテリーとケーブルを点検する

冬の気温はバッテリーの性能に影響を及ぼす可能性があります。第9章に記載された手順でバッテリーとケーブルを点検してください。バッテリーの充電レベルは、弊社認定修理業者またはサービスステーションで点検できます。

ロックの凍結を防ぐ

承認されている解氷剤またはグリセリンをキーホールにスプレーします。ロックの開口部がすでに氷で覆われている場合は、承認されている解氷剤を氷にスプレーして、氷を除去します。ロックの内部が凍結している場合は、加熱したキーでロックを解いてください。温めたキーを使用するときは、けがをしないように注意してください。

承認されているウィンドウウォッシャー不凍液を使用する

ウィンドウウォッシャーの容器にウィンドウウォッシャー不凍液を入れます。ウィンドウウォッシャー不凍液は、弊社認定修理業者またはほとんどのカー用品店でご購入いただけます。

パーキングブレーキを凍結させないでください。

状況により、パーキングブレーキが作動した状態で凍結することがあります。凍結しやすい状況は、リアブレーキの周りまたは近くに雪や氷が溜まっている場合や、ブレーキが濡れている場合などです。パーキングブレーキが凍結する恐れがある場合は、シフトをP(パーキング)に入れてパーキングブレーキを一時的にかけ、予め後輪をタイヤ止めで固定してからパーキングブレーキを解除します。

下回りに氷や雪を蓄積させない

状況によっては、フェンダーの下に雪や氷が溜まり、ステアリング操作の妨げになることがあります。厳冬期にこのような状況下で運転する場合は、前輪とステアリング部品が雪や氷でブロックされていないか、定期的に車両の下廻りを点検する必要があります。

非常用装備を整えておく

気象条件に応じて、適切な非常用装備を携帯してください。推奨される装備品は、タイヤチェーン、けん引ストラップまたはチェーン、懐中電灯、発炎筒、砂、シャベル、ブースターケーブル、ウィンドウスクレーパー、手袋、グラウンドシート、作業服、毛布などです。

モーターコンパートメントには、物や用具を置かない

モーターコンパートメントに物や用具を置くと、モーターの故障につながるおそれがあります。このような損傷は、メーカー保証の対象外です。

車両重量

運転席側ドアシルに貼られている2枚のラベル(タイヤ、荷重情報ラベル、認証ラベル)に、設計上の積載重量が記載されています。

車両に荷を積む前に、車両の定格重量を特定するため、次の用語(車両の仕様および認証ラベルの用語)に慣れておいてください。

基本車両重量

これは、高電圧バッテリーとすべての標準装備を含む車両の重量です。乗員、荷物、オプション装備は含まれません。

空車重量

これは、弊社認定修理業者から納車された新しい車両とアフターマーケット装備の重量です。

荷物の重量

この数値には、荷物とオプション装備など、基本車両重量に追加されたすべての重量を示します。

総軸荷重（Gross Axle Weight：GAW）

これは、車両装備重量とすべてのペイロードが含まれる、各車軸(フロントおよびリア)に配置される総重量です。

定格総軸荷重（Gross Axle Weight Rating：GAWR）

これは、1つの車軸（フロントまたはリア）で運ぶことができる最大許容重量です。これらの番号は証明ラベルに記載されています。各車軸の総荷重がGAWRを超えることはできません。

車両総重量（Gross Vehicle Weight：GVW）

これは、基本車両重量に実際の荷物の重量と乗員の重量を加えたものです。

定格車両総重量（Gross Vehicle Weight Rating：GVWR）

これは、完全積載車両の最大許容重量です（すべてのオプション、装備、乗員、荷物を含む）。GVWRは運転席側ドアシルに貼られている認証ラベルに記載されています。

過積載

⚠ 警告

車両の定格総軸荷重（GAWR）と定格車両総重量（GVWR）は、運転席側（または助手席側）のドアに貼られた認証ラベルに記載されています。これらの定格を超えると、事故や車両の損傷につながるおそれがあります。車両に載せる前に、積載物（および乗員）の重さを量って荷重重量を計算することができます。過積載にならないように注意してください

7. 運転者アシストシステム

運転者アシストシステムに関する知識 7-3
前方衝突防止アシスト（FCA） 7-3
　設定 7-7
　作動 7-10
　故障と制約 7-21
車線逸脱防止アシスト（LKA） 7-30
　設定 7-30
　作動 7-31
　故障と制約 7-34
後側方衝突防止アシスト（BCA） 7-36
　設定 7-38
　作動 7-39
　故障と制約 7-41
安全降車警告（SEW） 7-45
　設定 7-46
　作動 7-47
　故障と制約 7-48
降車安全アシスト（SEA） 7-49
　設定 7-50
　作動 7-51
　故障と制約 7-52
マニュアル速度制限アシスト（MSLA） 7-54
　作動 7-55
運転者注意警告（DAW） 7-57
　設定 7-57
　作動 7-58
　故障と制約 7-59
後側方モニター（BVM） 7-62
　設定 7-62
　作動 7-63
　故障 7-63
スマートクルーズコントロール（SCC） 7-64
　設定 7-65
　作動 7-66
　故障と制約 7-75

ナビゲーションベーススマートクルーズコントロール（NSCC）..... 7-80
設定 7-80
作動 7-80
制約 7-82
車線維持アシスト（LFA）..... 7-84
設定 7-85
作動 7-85
故障と制約 7-87
高速道路走行アシスト（HDA）..... 7-88
設定 7-89
作動 7-90
故障と制約 7-96
サラウンドビューモニター（SVM）..... 7-98
設定 7-99
作動 7-100
故障と制約 7-104
斜め後方衝突防止アシスト（RCCA）..... 7-105
設定 7-106
作動 7-107
故障と制約 7-110
前方 / 側方 / 後方車間距離警報（PDW）..... 7-113
設定 7-114
作動 7-114
故障と制約 7-116
前方 / 側方 / 後方駐車衝突防止アシスト（PCA）..... 7-118
設定 7-119
作動 7-120
故障と制約 7-122
リモートスマートパーキングアシスト 2（RSPA 2）..... 7-126
設定 7-128
操作 7-129
故障と制約 7-145
適合宣言書 7-152
フロントレーダー 7-152
フロントコーナーレーダー／リアコーナーレーダー 7-152

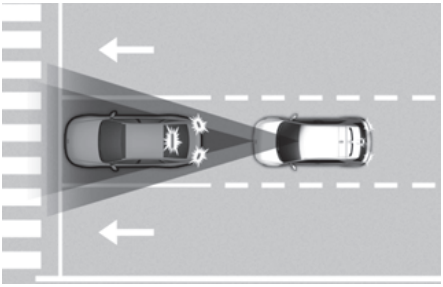
運転者アシストシステムに関する知識

インフォテインメントソフトウェアのバージョンにより、運転者アシストシステムの各機能の説明が取扱説明書と異なる場合があります。

前方衝突防止アシスト（FCA）

装備されている場合

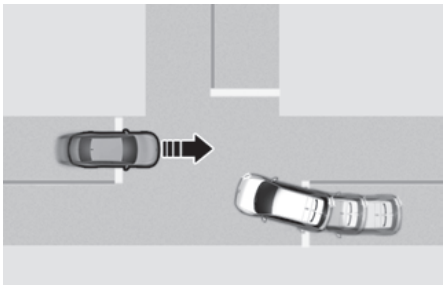
基本機能



前方衝突防止アシストは、道路の前方にいる車両、二輪自動車、歩行者、または自転車を検知し、インストルメントクラスターの警告メッセージと警告音で、衝突の可能性を通知することができます。また、衝突速度を低減したり、衝突を回避したりするために、車両のブレーキをアシストすることがあります。

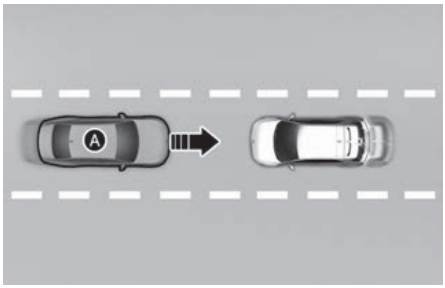
加えてフロントコーナーレーダーが装備されている場合、前方衝突防止アシストは高速走行時に前方および隣接車線の車両を検知します。前方衝突防止アシストは、車線変更時に衝突が起こりそうになった場合、衝突を回避するために緊急ブレーキをかけることがあります。(装備されている場合)

交差点対向車対応機能



交差点対向車対応機能は、交差点で方向指示器を出して右折する際に(右ハンドル)緊急ブレーキをかけることで、隣の対向車線を走行する車両や二輪自動車との衝突を回避しやすくします。

追越時対向車対応機能

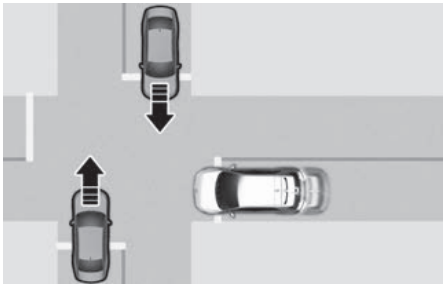


[A] 対向車両

追越時対向車対応機能は、対向車の接近を検知した場合に、衝突時の速度を低減しやすくします。

ジャンクション交差機能

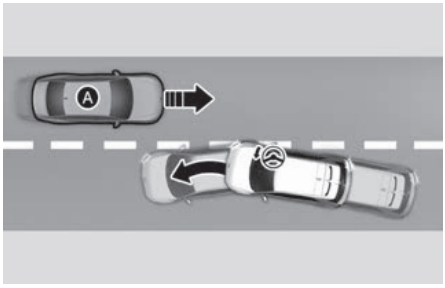
装備されている場合



ジャンクション交差機能は、交差点の通過時に緊急ブレーキをかけることで、左側または右側から近づいてくる車両との衝突を回避しやすくします。

車線変更対向車対応機能

装備されている場合

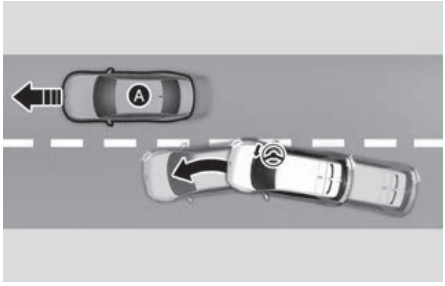


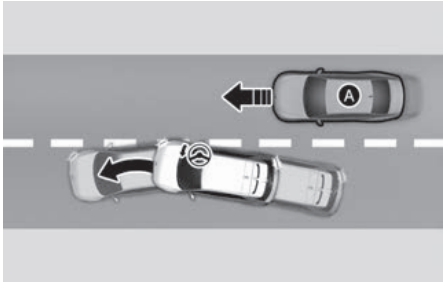
[A] 対向車両

車線変更対向車対応機能は、車線変更時に運転者のステアリングをアシストすることで、対向の車両や二輪自動車との衝突を回避しやすくします。

側方接近車対応機能

装備されている場合



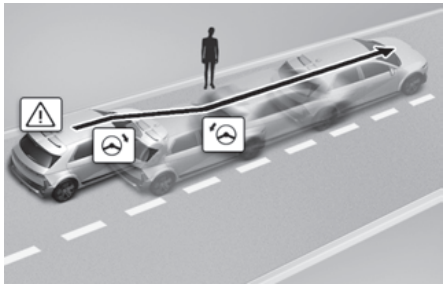


[A] 前側方の車両

側方接近車対応機能は、車線変更時に運転者のステアリングをアシストすることで、隣の車線前方を走る二輪自動車との衝突を回避しやすくします。

回避ステアリングアシスト機能

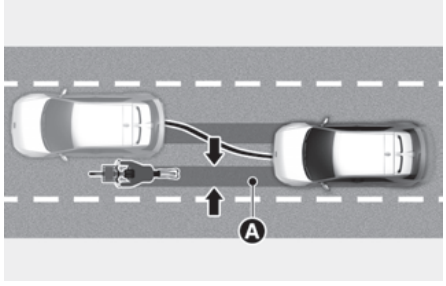
装備されている場合



- 運転者ステアリングアシスト

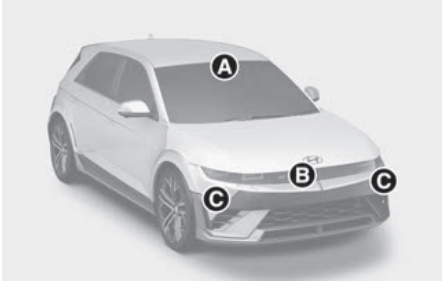
  回避ステアリングアシスト機能は、同じ車線の前方にいる車両、二輪自動車、歩行者または自転車との衝突を回避しやすくします。衝突のリスクを検知すると、運転者に警告し、運転者が衝突を回避するためにステアリング操作を行う場合は、運転者のステアリングホイール操作をアシストします。
- 回避ステアリングアシスト

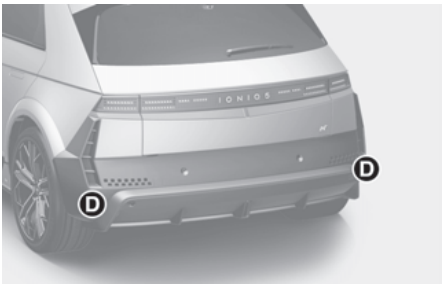
  回避ステアリングアシスト機能は、同じ車線の前方にいる二輪自動車、歩行者または自転車との衝突を回避しやすくします。衝突のリスクを検知すると、運転者に警告し、車線内に衝突を回避するためのスペースがある場合は、運転者のステアリング操作をアシストします。
- 回避ステアリングアシスト機能は、衝突の危険があり、検知した前方の歩行者または自転車と自車との間に十分な作動領域がある場合に作動します。



[A] 回避ステアリングアシスト機能の作動領域

検知センサー





[A] フロントビューカメラ
[B] フロントレーダー
[C] フロントコーナーレーダー（装備されている場合）
[D] リアコーナーレーダー（装備されている場合）

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

⚠ 注意

検知センサーの性能を最適な状態に維持するために、次の点を守ってください。

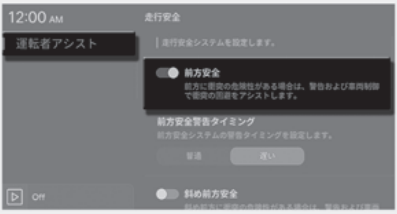
- 検知センサーやセンサーアセンブリーの分解は決して行わないでください。損傷するおそれがあります。
- 検知センサーを交換または修理した場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- フロントガラスにアクセサリーやステッカーを取り付けたり、フロントガラスに色を付けたりしないでください。
- フロントビューカメラは乾燥した状態に保つように特に注意してください。
- ダッシュボードの上に反射物（白い紙、鏡など）を置かないでください。
- フロントガラスの近くに物を置いたり、アクセサリーを設置したりしないでください。空調システムの除霜および防曇機能に影響を及ぼし、運転者アシストシステムが作動しなくなるおそれがあります。
- フロントレーダーカバーの近くにナンバープレートフレーム、バンパーステッカー、フィルム、バンパーガードなどを取り付けないでください。
- ナンバープレートの位置を変えないでください。フロントレーダーの検知・制御性能に影響を及ぼす可能性があります。
- フロントレーダーおよびカバーは、常に汚れや異物が付着していない状態にしてください。

  車両の清掃には必ず柔らかい布を使用してください。高圧の水を直接センサーやセンサーカバーに噴射しないでください。
- レーダーまたはその周囲に何らかの損傷または衝撃を与えると、メーターに警告メッセージが表示されていなくても、前方衝突防止アシストが正しく動作しない可能性があります。弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

- 損傷したフロントレーダーカバーの修理や交換には、必ず純正品を使用してください。フロントレーダーカバーを塗装しないでください。
- レーダーを搭載した車両
  - フロントコーナーレーダーやリアコーナーレーダーの近くに、ナンバープレートフレーム、バンパーステッカー、フィルム、バンパーガードなどを取り付けないでください。
  - バンパーを交換したり、フロントコーナーレーダーやリアコーナーレーダーの周辺に損傷を与えたり、塗装したりした場合、正常に機能しなくなる可能性があります。
  - トレーラーやキャリアなどが取り付けられている場合、リアコーナーレーダーの性能に悪影響を及ぼしたり、前方衝突防止アシストが正しく作動しなかったりするおそれがあります。

設定

前方安全



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行安全**を選択し、各機能を使用するかどうかを設定します。

- 「**前方安全**」を選択すると、前方衝突防止アシストにより、衝突の危険性に応じて警告メッセージや警告音で運転車に警告します。ブレーキアシストは、衝突の危険性に応じて適用されます。「前方安全」が選択されていない場合、前方衝突防止アシストは OFF になります。クラスターディスプレイの 警告灯が点灯します。

斜め前方安全

装備されている場合



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **斜め前方安全**を選択すると、ジャンクション交差機能がONになり、選択解除するとOFFになります。

前方 / 側方安全

装備されている場合



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **前方/側方安全**を選択し、各機能を使用するかどうかを設定します。

- 「**前方 / 側方安全**」を選択すると、前方衝突防止アシストにより、衝突の危険性に応じて警告メッセージと警告音で運転者に警告します。ブレーキアシストは、衝突の危険性に応じて適用されます。「**前方 / 側方安全**」が選択されていない場合、前方安全は OFF になります。クラスターディスプレイの 警告灯が点灯します。

運転者は、インフォテインメントシステムで前方衝突防止アシストのON/OFF状態を確認できます。前方衝突防止アシストがONのときに または 警告灯が点灯したままになっている場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

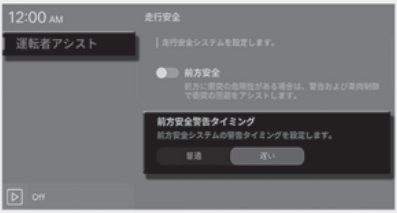
⚠ 警告

車両を再始動すると、前方衝突防止アシストは常にONになります。「**前方安全**」の選択を解除した場合、運転者は常に周囲に注意を払い、安全に運転する必要があります。

⚠ 注意

- **前方安全**の設定には、「基本機能」、「交差点対向車対応」、「追越時対向車対応」があります。**前方 / 側方安全**には「車線変更対向車対応」、「車線変更側方車対応」および「回避ステアリングアシスト」が含まれます。
- 「**前方安全**」が選択されていない場合、ジャンクション交差機能は**前方安全**または**前方 / 側方安全**が選択されていても作動しません。(装備されている場合)

前方安全の警告タイミング



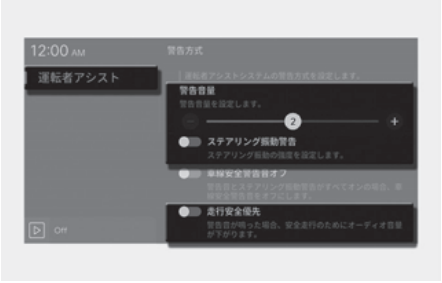
車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行安全** > **前方安全警告タイミング**を選択し、前方衝突防止アシストの初期警告作動時間を変更します。警告時間は「**普通**」または「**遅い**」のいずれかに設定できます。

- 通常走行時には「**普通**」を使用します。警告タイミングが早いようであれば、「**遅い**」に変更してください。
  - 「**遅い**」を選択すると、前方衝突防止アシストはより遅いタイミングで運転者に警告します。

⚠ 注意

- 警告タイミングとして「**普通**」を選択していたとしても、前方車両が急停車した場合には、警告作動時間が遅めに感じられる可能性があります。
- 交通量が少なく、ゆっくり走行している場合は、警告タイミングとして「**遅い**」を選択します。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **ステアリング振動警告**（装備されている場合）：ステアリングホイールの振動を設定できます。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。
- **警告音量**と**ステアリング振動警告**を同時に OFF させることはできません。一方の警告が OFF になると、もう一方の警告が ON になります。

作動

基本機能

前方衝突防止アシストの基本機能は、衝突の危険性に応じて警告を発し、車両の制御をアシストすることです。これには「衝突警告」、「緊急ブレーキ」、「車両の停止およびブレーキ制御の解除」が含まれます。

衝突警告



- 運転者に衝突を警告するために、クラスターディスプレイに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 前方の二輪自動車を検知した場合、自車の速度が約 10 ～ 200km/h のときに、この機能が作動します。
- 自車の速度が約 10 ～ 85km/h のときに前方の歩行者または自転車乗員を検知すると、この機能が作動します。

緊急ブレーキ



緊急ブレーキが作動することを運転者に通知するために、クラスターディスプレイに「**緊急ブレーキ**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。

緊急ブレーキは以下の条件で作動します。

- 車両または二輪自動車：

	走行中の車両	停車中の車両
弱いブレーキ力	約10～200km/h	
作動範囲	約10～130km/h	約10～75km/h (10-100km/h)*1

*1: 前方衝突防止アシストが、走行車線を変更しても衝突回避が困難と判断した場合、より早い段階でブレーキ操作がアシストされます。(装備されている場合)

- 歩行者や自転車乗員：

  この機能は、自車の速度が約 10 ～ 65km/h のときに作動します。

⚠ 注意

- この機能の作動範囲は、前方の交通状況や車両周辺の状況によって狭まる可能性があります。
- 夜間走行時は、二輪自動車の認識性能が低下するため、前方衝突防止アシスト機能が一時的に制限されたり、作動しない場合があります。

車両の停止およびブレーキ制御の解除



- 緊急ブレーキにより車両が停止すると、クラスターディスプレイに「**注意して運転してください**」という警告メッセージが表示されます。

  安全のため、運転者は直ちにブレーキペダルを踏み、周囲を確認する必要があります
- ブレーキ制御は、緊急ブレーキにより車両が約 2 秒間停止した後に解除されます。

i 情報

衝突警告または緊急ブレーキ作動中は、ハザードランプボタンを押すことによって、警告音を止めることができます。

交差点対向車対応機能

交差点対向車対応機能は、衝突の危険性に応じて警告を発し、車両を制御しやすくします。これには「衝突警告」、「緊急ブレーキ」、「車両の停止およびブレーキ制御の解除」が含まれます。

衝突警告



- 運転者に衝突を警告するために、クラスターディスプレイに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- この機能は、自車の速度が約 10 ~ 30km/h で、対向の車両や二輪自動車の速度が約 30 ~ 70km/h のときに作動します。

緊急ブレーキ



- 緊急ブレーキが作動することを運転者に通知するために、クラスターディスプレイに「**緊急ブレーキ**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 緊急ブレーキが作動する状況では、対向車両との衝突を回避するために、この機能によってブレーキが強いブレーキ力でアシストされます。
- この機能は、自車の速度が約 10 ~ 30km/h で、対向の車両や二輪自動車の速度が約 30 ~ 70km/h のときに作動します。

i 情報

交差点対向車対応機能は右折時のみ作動します。

車両の停止およびブレーキ制御の解除



- 緊急ブレーキにより車両が停止すると、クラスターディスプレイに「**注意して運転してください**」という警告メッセージが表示されます。

  安全のため、運転者は直ちにブレーキペダルを踏み、周囲を確認する必要があります
- ブレーキ制御は、緊急ブレーキにより車両が約 2 秒間停止した後に解除されます。

i 情報

衝突警告または緊急ブレーキ作動中は、ハザードランプボタンを押すことによって、警告音を止めることができます。

追越時対向車対応機能

追越時対向車対応機能は、衝突の危険性に応じて警告を発し、車両を制御します。これには「衝突警告」、「緊急ブレーキ」、「車両の停止およびブレーキ制御の解除」が含まれます。

衝突警告



- 運転者に衝突を警告するために、前方安全 警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- この機能は、自車の速度が約 30 ~ 130km/h（ジャンクション交差機能を搭載している場合は 10 ~ 130km/h）で、検知された対向車両の速度が約 10km/h 以上のときに作動します。

緊急ブレーキ



- 運転者に緊急ブレーキが作動することを警告するために、前方安全 警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**緊急ブレーキ**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 緊急ブレーキが作動する状況では、対向車両との衝突を回避するために、この機能によってブレーキが強いブレーキ力でアシストされます。
- この機能は、自車の速度が約 30 ~ 130km/h で、対抗車両の速度が約 10km/h 以上のときに作動します。

車両の停止およびブレーキ制御の解除



- 緊急ブレーキにより車両が停止すると、インストルメントクラスターに「**注意して運転してください**」という警告メッセージが表示されます。安全のため、運転者は直ちにブレーキペダルを踏み、周囲を確認する必要があります
- ブレーキ制御は、緊急ブレーキにより車両が約 2 秒間停止した後に解除されます。

⚠ 注意

自車または対向車が直進していない場合、追越時対向車対応機能の警告や制御が遅れたり、作動しなかったりすることがあります。

i 情報

ハザードランプボタンを押して、衝突警告や緊急ブレーキシステムの警告音を止めることができます。

ジャンクション交差機能

装備されている場合

ジャンクション交差機能は、衝突の危険性に応じて警告を発し、車両を制御します。これには「衝突警告」、「緊急ブレーキ」、「車両の停止およびブレーキ制御の解除」が含まれます。

衝突警告



- 運転者に衝突を警告するために、前方安全（）警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- この機能は、自車の速度が約 10 ～ 55km/h で、交差車両の速度が約 10 ～ 60km/h のときに作動します。

緊急ブレーキ



- 運転者に緊急ブレーキが作動することを警告するために、前方安全（）警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**緊急ブレーキ**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 緊急ブレーキが作動する状況では、交差車両との衝突を回避するために、ブレーキが強いブレーキ力でアシストされます。
- この機能は、自車の速度が約 10 ～ 55km/h で、交差車両の速度が約 10 ～ 40km/h のときに作動します。

車両の停止およびブレーキ制御の解除



- 緊急ブレーキにより車両が停止すると、インストルメントクラスターに「**注意して運転してください**」という警告メッセージが表示されます。

  安全のため、運転者は直ちにブレーキペダルを踏み、周囲を確認する必要があります
- ブレーキ制御は、緊急ブレーキにより車両が約 2 秒間停止した後に解除されます。

⚠ 注意

交差車両との衝突角度が一定範囲を超えた場合、ジャンクション交差機能の警告や制御が遅延したり、作動しなかったりする可能性があります。

i 情報

ハザードランプボタンを押して、衝突警告や緊急ブレーキシステムの警告音を止めることができます。

車線変更対向車対応機能

装備されている場合

車線変更対向車対応機能は、衝突の危険性に応じて警告を発し、車両を制御します。これには「衝突警告」と「緊急ステアリング」が含まれます。

衝突警告



- 運転者に衝突を警告するために、インストルメントクラスターに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- この機能は、自車の速度が約 40 ～ 145km/h、対向の車両や二輪自動車の速度が約 10km/h 以上、自車との相対速度が約 200km/h 未満のときに作動します。

緊急ステアリング



- 運転者に緊急ステアリングが作動することを警告するため、緊急ステアリング警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**緊急ステアリング**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 緊急ステアリングが作動する状況では、対向車両との衝突を回避するために、ステアリング操作がアシストされます。
- この機能は、自車の速度が約 40 ~ 145km/h、対向の車両や二輪自動車の速度が約 10km/h 以上、自車との相対速度が約 200km/h 未満のときに作動します。

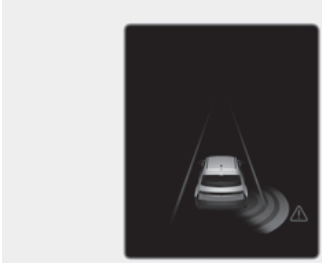
側方接近車対応機能

装備されている場合

側方接近車対応機能は、衝突の危険性に応じて警告し、車両を制御します。これには「衝突警告」と「緊急ステアリング」が含まれます。

衝突警告





- 運転者に衝突を警告するために、緊急ステアリング警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- この機能は、車両速度が約 40 ~ 145km/h のときに作動します。

緊急ステアリング





- 運転者に緊急ステアリングが作動することを警告するため、緊急ステアリング 警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**緊急ステアリング**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 緊急ステアリングが作動する状況では、側方車との衝突を回避するために、ステアリングがアシストされます。
- この機能は、自車の速度が約 40 ~ 145km/h で、前側方の車両や二輪自動車が走行している場合に作動します。

⚠ 注意

- 側方接近車対応機能は、前方の先行車の速度が 0km/h の場合には作動しません。
- フロントコーナーレーダーとリアコーナーレーダーの検知範囲は標準的な道路幅に基づいて決められています。そのため、狭い道路では、側方接近車対応機能が 2 車線離れた他の車両を検知して、警告を発することがあります。一方、広い道路では、側方接近車対応機能が隣接車線を走行する車両を検知できず、警告を発しないことがあります。
- 衝突防止アシストは、次の状況では解除されます。
  - 車両が一定の距離だけ隣接車線に入った。
  - 車両が衝突する危険性がなくなった。
  - ステアリングホイールを急に切った。
  - ブレーキペダルを踏んだ。
  - 前方衝突防止アシストシステムが作動している。
- 側方接近車対応機能作動後または車線変更後は、車線の中央を走行してください。車両が車線の中央を走行していない場合、側方接近車対応機能は作動しません。

i 情報

- さらなる事故が予想される場合、側方接近車対応機能はステアリング操作をアシストせず、衝突の警告のみを行います。
- 衝突警告は右折時に作動します。

回避ステアリングアシスト機能

装備されている場合

回避ステアリングアシスト機能では、「緊急ステアリング」により警告を発し、車両を制御します。

緊急ステアリング（運転者ステアリングアシスト）



- 運転者に緊急ステアリングが作動することを警告するため、緊急ステアリング警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**緊急ステアリング**」というメッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 前方の車両、二輪自動車、歩行者、自転車と衝突する危険性がある場合、運転者が衝突を回避しようとしてステアリング操作を行うと、これをアシストします。
- この機能は、車両速度が約 40 ～ 85km/h のときに作動します。

緊急ステアリング（回避ステアリングアシスト）



- 運転者に緊急ステアリングが作動することを警告するため、緊急ステアリング警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**緊急ステアリング**」というメッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 前方の歩行者や自転車、二輪自動車と衝突する危険性が高く、緊急ブレーキを作動させる車速が作動範囲内にある場合、走行車線上に衝突を回避できるスペースがあれば、ステアリング操作をアシストして衝突防止を支援します。
- 認識された歩行者または自転車が車両と同方向、または逆方向に移動している時に作動します。さらに、車両が回避動作を行うのに十分な空間がある。ただし、歩行者または自転車が横方向に移動している場合には作動しないことがあります。
- この機能は、車両速度が約 65 ～ 75km/h のときに作動します。

⚠ 注意

- 緊急ステアリングの作動中は、ステアリングホイールが自動的に操作されます。
- 衝突リスクがなくなると、緊急ステアリングは自動的に解除されます。運転者は必要に応じてステアリング操作を行う必要があります。

- ステアリングホイールを強く握っている場合や、反対方向に操作した場合、緊急ステアリングが作動しなかったり、作動中に解除されたりする可能性があります。
- 車両、二輪自動車、歩行者、自転車との衝突を回避するためにステアリングアシストが作動するときに、別の対象（車両、二輪自動車、歩行者、自転車）との衝突が予期される場合、回避ステアリングアシストは解除されます。
- 走行中の車線内に衝突を回避するためのスペースが十分にない場合、回避ステアリングアシストが作動しない可能性があります。
- 夜間走行では、二輪自動車の検知性能が低下し、前面衝突防止アシスト機能が一時的に制限または解除される場合があります。

i 情報

警告メッセージの詳細については、本章の「作動前方衝突防止アシストの動作」の衝突警告を参照してください。

⚠ 警告

前方衝突防止アシストを使用するときは次の点を守ってください。

- 安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。
- 前方衝突防止アシストはすべての状況で作動するとは限らず、すべての衝突を回避できるわけではありません。
- 周囲の状況に注意して、安全な運転を心がけてください。前方衝突防止アシストのみに依存しないでください。むしろ、安全な制動距離を維持し、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速したり、停車したりしてください。
- 前方衝突防止アシストを故意に人や物などに対して作動させることは絶対にしないでください。重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。
- 運転者が衝突を回避するためにブレーキペダルを踏んだ場合、前方衝突防止アシストが作動しない場合があります。
- 道路状況や運転条件によっては、前方衝突防止アシストによる運転者への警告が遅れる場合や、警告が行われない場合があります。
- 前方衝突防止アシストの作動中は、車両が急停車して乗員がけがをしたり、固定されていない物が動いたりする可能性があります。必ずシートベルトを着用し、物は固定してください。
- 他のシステムの警告メッセージが表示されているか、警告音が鳴っている場合は、前方衝突防止アシストの警告メッセージが表示されなかったり、警告音が鳴らなかったりする可能性があります。
- 周囲の騒音が大きい場合、前方衝突防止アシストの警告音が聞こえないおそれがあります。
- 道路や周囲の状況によっては、前方衝突防止アシストが OFF になったり、正常に動作しなかったり、不要なときに作動したりする場合があります。
- 前方衝突防止アシストに問題がある場合でも、車両の基本的なブレーキ機能は正常に機能します。
- 緊急ブレーキの作動中に、運転者がアクセルペダルを非常に強く踏んだ場合や、急なステアリング操作を行った場合、前方衝突防止アシストは自動的に解除されます。

⚠ 注意

- 車両の状態により異なりますが、前方および周辺の車両、二輪自動車、歩行者、自転車の状況によっては、前方衝突防止アシストが作動する速度範囲が狭まる場合があります。前方衝突防止アシストが運転者に警告のみを行う場合や、作動しない場合があります。
- 前方衝突防止アシストは、車両や二輪自動車の状態、走行方向、速度、周辺の状況に基づいて衝突の危険性を判断し、一定の条件のもとで作動します。
- 前方衝突防止アシスト機能は、車両速度が速すぎたり、前方の車両との距離が遠すぎたりすると、制限されたり解除されたりすることがあります。
- 周囲の車両との衝突が予測される場合、車線変更対向車対応、車線変更側方車対応、および回避ステアリングアシストは、ステアリング操作のアシストを行わず、運転者に対する警告のみを行います。

i 情報

- 衝突が起こりそうなときに運転者がかけたブレーキが十分でない場合は、前方衝突防止アシストによってブレーキがアシストされることがあります。
- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

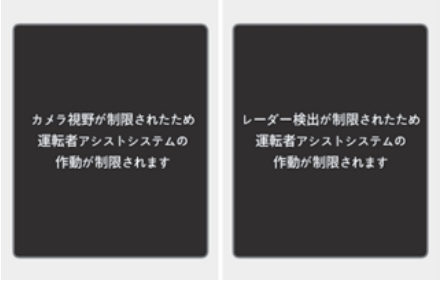
故障と制約

故障



前方衝突防止アシストが正常に作動していない場合、インストルメントクラスターに「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージが表示され、警告灯が点灯します。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

解除



フロントビューカメラが設置されているフロントガラス、フロントレーダーカバー、バンパー(搭載されている場合)またはセンサーが、雪や雨などの異物で覆われている場合、検知性能が低下し、前方衝突防止アシストが一時的に制限または解除される可能性があります。

このような場合、インストルメントクラスターに「**カメラ視野が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」または「**レーダー検出が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージが表示され、、、または⚠警告灯が点灯します。

雪、雨などの異物が取り除かれると、前方衝突防止アシストは正常に動作するようになります。

障害物(雪、雨または異物など)を取り除いた(トレーラー、キャリアなどをリアバンパーから取り外すことを含む)後も前方衝突防止アシストが正常に動作しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- クラスターディスプレイに警告メッセージや警告灯が表示されない場合でも、前方衝突防止アシストが正常に動作しないことがあります。
- 前方衝突防止アシストは、車両の電源を ON にした状態でも物体が検知されない場所（平坦で見通しの良い場所など）では、正常に動作しない可能性があります。
- カメラが遮られていたり、不具合がある状態で車両の電源を切り、再始動しても、その状態は維持されます。そのため、前方衝突防止アシストが正しく作動しない可能性があります。

制約

前方衝突防止アシストは、次の状況において正しく動作しない場合や、突然作動する場合があります。

- 検知センサーまたはその周辺が汚れているか、損傷している
- 周囲の環境の影響で、フロントカメラ周辺の温度が高い、または低い
- フロントガラスの着色、フィルム、コーティング、損傷、または付着した粘着性の異物（ステッカー、虫など）により、カメラレンズが悪影響を受けている
- フロントガラスの湿気が除去されていないか、凍結している
- ウォッシャー液が連続的に噴射されているか、ワイパーが ON になっている
- 大雨や大雪、または濃霧の中を走行している
- フロントカメラの視野が太陽光によって遮られている
- 街灯や対向車両のライトが濡れた路面（水たまりなど）に反射している
- ダッシュボードの上に物が置かれている
- 車両がけん引されている
- 周囲が非常に明るい
- 周囲が非常に暗い（トンネル内など）
- 明るさが突然変化した（トンネルへの出入りなど）
- 外が暗いときにヘッドライトが点灯していないか、明るさが十分でない
- 蒸気、煙、日陰の中を走行している
- 車両、二輪自動車、歩行者、自転車の一部のみが検知されている
- 前方の車両がバス、大型トラック、通常と異なる形の貨物を積んだトラック、トレーラーなどである
- 前方の車両または二輪自動車にテールライトが付いてない、通常と異なる場所に付いているなど
- 外が暗いときにテールライトが点灯していないか、明るさが十分でない

- 前方の車両の後部が小さいか、車両の外観が通常と異なる（車両が傾いている、横転している、車両の側面が見えているなど）
- 前方の車両または二輪自動車の地上高が低い、または高い
- 車両、二輪自動車、歩行者、または自転車が突然、前に割り込んだ
- フロントレーダー周囲のバンパーが衝撃を受けたか損傷があり、フロントレーダーの位置がずれている
- フロントレーダーの周囲の温度が低すぎる、または高すぎる
- トンネルまたは鉄橋を走行している
- 車両や構造物が少ない広々した場所（砂漠、牧草地、郊外など）を走行している
- 金属物質が含まれる場所（建設現場や鉄道など）の近くを走行している
- フロントレーダーによく反射するもの（ガードレール、車両など）が近くにある
- 前方の自転車乗員が、フロントレーダーに反射しない素材でできている
- 前方の車両または二輪自動車が遅れて検知された
- 前方の車両または二輪自動車が障害物で突然遮られた
- 前方の車両または二輪自動車が急に車線変更または減速した
- 前方の車両または二輪自動車の形が歪んでいる
- 前方の車両または二輪自動車の速度が速すぎる、または遅すぎる
- 前方の車両または二輪自動車が、衝突を回避しようとして自車と反対方向にをステアリングを操舵した
- 前方に車両または二輪自動車がいる状態で、低速で車線変更を行った
- 前方の車両または二輪自動車が雪で覆われている
- 車線を離れようとしているか、車線に戻ろうとしている
- 走行が不安定である
- ロータリーを走行中で、先行車両が検知されない
- 蛇行運転を繰り返している
- 前方の車両または二輪自動車が通常ではない形状をしている
- 前方の車両または二輪自動車が上り坂または下り坂を走行している
- 歩行者または自転車乗員が完全に検知されていない（歩行者が屈んでいる、まっすぐ立って歩行していない、など）
- 歩行者や自転車乗員が、検知を妨げるような衣服や装備を身に着けている



上の図は、センサーが、車両、二輪自動車、歩行者、自転車を検知できる状態を示しています。

- 前方の歩行者または自転車乗員が非常に速く動いている
- 前方の歩行者または自転車の乗員が小柄であるか、低姿勢をとっている
- 前方の歩行者または自転車の乗員に運動障がいがある
- 前方の歩行者または自転車が、運転方向を横切るように動いている
- 前方に歩行者や自転車のグループがいる
- 歩行者や自転車の乗員が背景に溶け込む服を着ているため、検知しにくい
- 歩行者や自転車の乗員が、周囲にある形の似た構造物と区別しにくい
- 交差点の近くで、歩行者、自転車乗員、道路標識案内、構造物などのそばを走行している
- 駐車場内を走行している

- 料金所、建設現場、未舗装道路、部分的に舗装された道路、段差のある道路、スピードバンプなどを走行している
- 坂道、カーブした道路などを走行している
- 路肩に木や街灯が並んだ道路を走行している
- 不利な道路状況により、走行中に過度の車両振動が起きている
- 重い荷物、異常なタイヤ空気圧などにより、車両の高さが低い、または高い
- 木や草が生い茂っている狭い道を走行している
- 強い電波や電気ノイズのある場所など、電磁波の干渉がある場所を走行している

ジャンクション交差、車線変更対向車対応、側方接近車対応、回避ステアリングアシスト機能

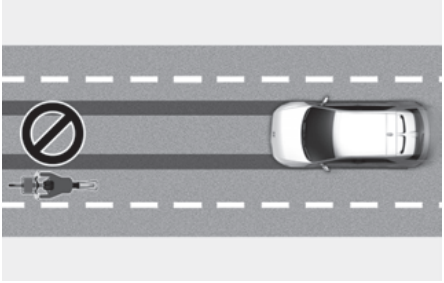
- フロントコーナーレーダーやリアコーナーレーダーの周囲の温度が高い、または低い
- リアコーナーレーダーの周囲にトレーラーやキャリアが取り付けられている
- フロントコーナーレーダーまたはリアコーナーレーダーが雪、雨、汚れなどで覆われている
- フロントコーナーレーダーまたはリアコーナーレーダーの周囲のバンパーが、バンパーステッカー、バンパーガード、バイクラックなどで覆われている
- フロントコーナーレーダーまたはリアコーナーレーダーの周囲のバンパーが衝撃を受けたか損傷があり、レーダーの位置がずれている
- フロントコーナーレーダーまたはリアコーナーレーダーが、他の車両、壁、または柱によって遮断されている
- 高速道路のスロープを走行している
- ガードレールまたは壁が二重構造になっている道路を走行している
- 他の車両または二輪自動車が自車のすぐ後ろを走行しているか、すぐ近くを通過している
- 他の車両または二輪自動車が自車のすぐ後ろを走行しているか、すぐ近くを通過している
- 他の車両または二輪自動車の近くを通過している
- 隣の車両または二輪自動車と同じタイミングで走行を開始し、加速した
- 隣の車線の車両または二輪自動車が自車から 2 車線離れた場所に移動した、または 2 車線離れた場所にいた車両または二輪自動車が隣の車線に移動してきた
- 二輪自動車または自転車が検知された
- フラットトレーラーなどの車両が検知された
- バスやトラックなどの大型車両が検知された
- 歩行者、動物、ショッピングカート、ベビーカーなどの、動いている小さい障害物が検知された
- スポーツカーなどの車高の低い車両が検知された
- 雨、雪、ホコリ、砂、油、水たまりなどの異物のために、車線が見にくい
- 車線標示の色が道路と区別できない、または路面が濡れている
- 道路の車線付近に標示があるか、道路上の標示が車線標示に似ている
- 車線標示に中央分離帯、木、ガードレール、遮音壁などの影がかかっている
- 車線が増加または減少しているか、車線標示が交差している
- 道路に車線が 2 つ以上ある
- 車線が複雑である、または建設現場などで車線の代わりに構造物を置いている
- ジグザグ車線、横断歩道、道路標識などの路面表示がある
- 交差点など、車線が急に消失する
- 車線が広すぎる、または狭すぎる

- 縁石または、車線のない路肩がある
- 前方の車両が、片側が車線にかかる状態で走行している
- 前方の車両との距離が極めて近い
- 中央のバス専用レーンの左側または右側を走行している、または中央のバス専用レーンを走行している

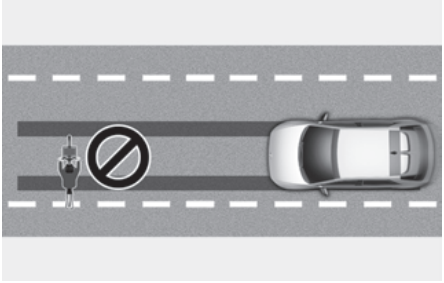
回避ステアリングアシストの制約

以下のような状況では、回避ステアリングアシスト機能が正常に動作しない場合があります。

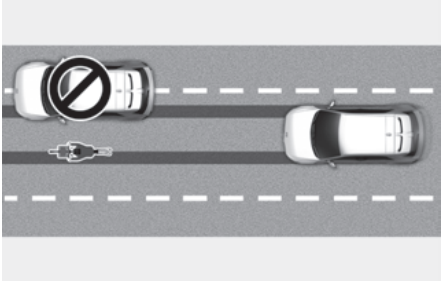
- 歩行者または自転車が作動領域外にいる



- 歩行者または自転車が横方向に移動している

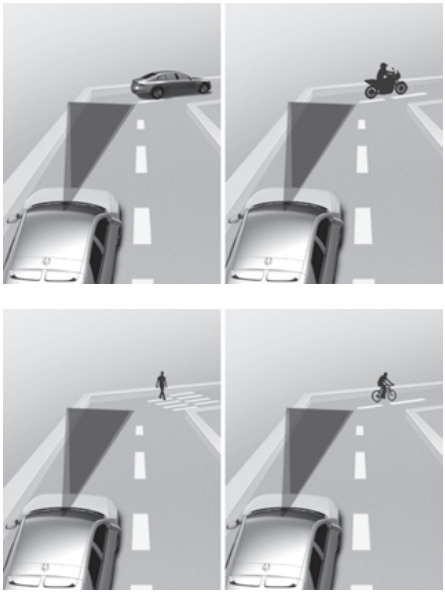


- 歩行者または自転車が作動領域内にいるが、回避動作を行うのに十分な空間がない



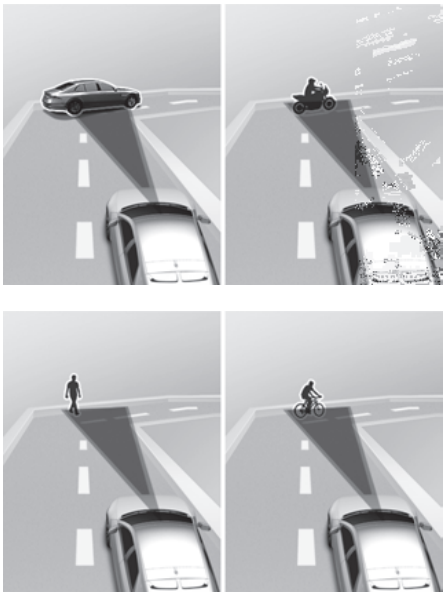
⚠ 警告

- **カーブした道路での走行**



カーブした道路の走行によりセンサーの性能に悪影響を受けた場合、前方衝突防止アシストが前方の車両、二輪自動車、歩行者、自転車を検知しないことがあります。その結果、必要なときに警告、ブレーキまたはステアリングアシスト（装備されている場合）が作動しないおそれがあります。

カーブを走行する場合は、安全な制動距離を維持し、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速して安全な車間距離を保つ必要があります。



前方衝突防止アシストは、カーブした道路の走行時に、隣の車線または車線の外側の車両、二輪自動車、歩行者、自転車を検知することがあります。

この場合、前方衝突防止アシストは、運転者に対する警告や、ブレーキまたはステアリングアシスト（装備されている場合）を不必要に行うことがあります。常に車両周辺の交通状況を確認してください。

- **坂道での走行**









センサーの性能に悪影響を及ぼすことがある上り坂や下り坂の走行時には、前方衝突防止アシストが前方の他の車両、二輪自動車、歩行者、自転車を検知しない場合があります。

その結果、警告、ブレーキアシスト、ステアリングアシスト（搭載されている場合）が不必要に作動したり、必要なときに作動しなかったりするおそれがあります。

また、前方にいる車両、二輪自動車、歩行者、自転車を突然検知した場合、車両が急減速する可能性があります。

上り坂や下り坂の走行中は常に前方に注意を払い、安全な車間距離を保てるように、必要に応じてハンドル操作を行い、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

- **車線変更**



[A] 自車
[B] 車線変更を行う車両

隣の車線から車線変更してきた車両や二輪自動車は、センサーの検知範囲に入るまで検知されません。前方衝突防止アシストは、突然車線変更を行った車両や二輪自動車をすぐに検知しない可能性があります。その場合は、安全な制動距離を維持し、必要に応じてステアリング操作を行ったり、ブレーキペダルを踏んで減速したりして安全な車間距離を保つ必要があります。



[A] 自車
[B] 車線変更を行う車両
[C] 同じ車線の車両

前方の車両が車線から出ていく場合、前方衝突防止アシストは、新たに前方に来た車両や二輪自動車をすぐに検知できない可能性があります。その場合は、安全な制動距離を維持し、必要に応じてステアリング操作を行ったり、ブレーキペダルを踏んで減速したりして安全な車間距離を保つ必要があります。



- 前方の車の荷台に、後方へと伸びる貨物がある場合、または、前方車両の地上高が高い場合は、さらに特別な注意が必要です。前方衝突防止アシストは、車両からはみ出している荷物を検知できないことがあります。このような場合は、最後尾の物体から安全な制動距離を維持し、必要に応じてステアリング操作を行ったり、ブレーキペダルを踏んで減速したりして、安全な車間距離を維持してください。

⚠ 警告

- トレーラーや他の車両をけん引する場合は、必ず前方衝突防止アシストを OFF にしてください。
- 前方衝突防止アシストは、形状や特徴が車両、二輪自動車、歩行者、自転車に似ている物体を検知した場合に作動する可能性があります。
- 前方衝突防止アシストは自転車やその他の車輪付きのもの（キャリーケース、ショッピングカート、ベビーカー）などに対しては作動しません。
- 前方衝突防止アシストは強い電磁波の干渉を受けた場合、正常に作動しない可能性があります。
- 前方衝突防止アシストは車両の始動後またはフロントカメラの初期化後 15 秒間は作動しない可能性があります。

i 情報

側後方検出の限界とリアコーナーレーダーの警告については､本セクションの「後側方衝突防止アシスト(BCA)」を参照してください。

車線逸脱防止アシスト（LKA）

装備されている場合

車線逸脱防止アシストは、一定速度以上で走行中に車線標示（または路肩）を検知し、ウィンカーレバーを使用せずに車線を逸脱した場合に警告を発し、走行車線から離れないようステアリングを自動的にアシストすることができます。

検知センサー



[A] フロントビューカメラ

フロントビューカメラは、車線標示（または路肩）を検知するセンサーとして使用されます。

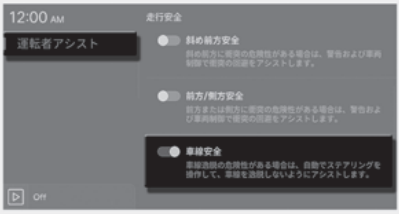
検知センサーの詳細な位置については、上の図を参照してください。

⚠ 注意

フロントビューカメラに関する注意事項の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト（FCA）前方衝突防止アシスト（FCA）」を参照してください。

設定

車線安全



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行安全** > **車線安全**を選択し、各機能を使用するかどうかを設定します。

車線安全を選択した場合、車線逸脱防止アシストは、車線からの逸脱を検知すると、車両が車線からはみ出さないように自動的に運転者のステアリング操作をアシストします。**車線安全**の選択を解除すると、車線逸脱防止アシストはOFFになり、クラスターディスプレイに黄色の インジケーターが表示されます。

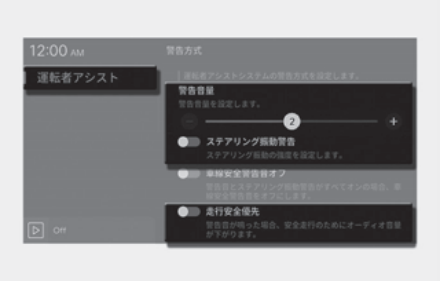
⚠ 警告

- 車線逸脱防止アシストは、車両が車線の中央を走行しているときにはステアリングホイールを制御しません。
- 運転者は常に周囲に注意を払う必要があります。**車線安全**が選択されていない場合、車線逸脱防止アシストはアシストできません。

i 情報

車両を再始動すると、車線逸脱防止アシストがONになり、「**車線安全**」が選択されます。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **ステアリング振動警告**（装備されている場合）：ステアリングホイールの振動を設定できます。
- **車線安全警告音 OFF**：警告音量とステアリング振動警告の両方が ON の場合でも、車線安全の警告音は鳴りません。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。
- **警告音量**と**ステアリング振動警告**を同時に OFF させることはできません。一方の警告が OFF になると、もう一方の警告が ON になります。

作動

ON/OFF



- 車両の電源を ON にした状態では必ず、車線逸脱防止アシストが ON になります。車線逸脱防止アシストが ON になっている状態で車線走行アシスト /⊕\ ボタンを長押しすると、この機能が OFF になります。
- 車線逸脱防止アシストが OFF になると、/🚗\ インジケーターが黄色に変わります。

i 情報

- 車線逸脱防止アシストの作動準備が整うと、クラスターディスプレイの /🚗\ インジケーターが灰色に変わります。
- 車線逸脱防止アシストが作動すると、メーターの /🚗\ インジケーターが緑色に点灯します。

警告と制御

車線逸脱防止アシストは、車線逸脱警告と車線逸脱防止アシストによって警告を発し、車両を制御します。

左



右



車線逸脱警告

- 車両が予測された車線から逸脱しそうな場合、運転者に警告するために、クラスターディスプレイの インジケーターが緑色に点滅するとともに、逸脱方向の車線が点滅し、警告音が鳴ります。
- 車線逸脱防止アシストは、車両速度が約 60 ~ 200km/h のときに作動します。

車線逸脱防止アシスト

- 車両が目の前の車線から逸脱しようとしていることを運転者に警告するために、クラスターディスプレイの インジケーターが緑色に点滅し、車両が車線内に留まるようステアリングホイールで調整が行われます。
- 車線逸脱防止アシストは、車両速度が約 60 ~ 200km/h のときに作動します。

ハンズオフ警告



運転者がステアリングホイールから数秒間手を離すと、クラスターディスプレイに「**ステアリングを持ってください**」という警告メッセージが表示され、段階的に警告音が鳴ります。

⚠ 警告

- ステアリングホイールを非常に強く握っている場合や、一定の程度を超えてステアリングホイールを切っている場合は、ステアリングホイールがアシストされない可能性があります
- 車線逸脱防止アシストは常に作動するわけではありません。車両を安全に操縦し、車線内走行を維持するのは運転者の責任です。
- 道路状況によっては、ハンズオフ警告メッセージが遅れて表示される場合があります。運転中は常時、両手でステアリングホイールを握ってください。
- ステアリングホイールを握る力が非常に弱い場合、車線逸脱防止アシストは運転者がハンドルに手を置いていることを認識しない可能性があるため、ハンズオフ警告メッセージが表示されることがあります。
- ステアリングホイールに物を取り付けている場合、ハンズオフ警告が正常に機能しない可能性があります。

i 情報

車線逸脱防止アシストはステアリングをアシストしますが､運転者がステアリングホイールを操作することも可能です。車線逸脱防止アシストがステアリングホイールをアシストする場合､状況に応じてステアリングホイールが重く､または軽く感じられます。

i 情報

- インストルメントクラスター設定の詳細については、第４章の「クラスターディスプレイクラスターディスプレイ」を参照してください。
- 車線標示（または路肩）が検知されると、メーターの車線が灰色から白色に変わり、インジケーターが緑色に点灯します。

車線を検知できない場合



車線が検知された場合



- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。
- 高速道路車線変更アシストが ON になっている場合、メーター内の車線が緑色に変わることがあります。

故障と制約

故障



車線逸脱防止アシストが正常に動作していない場合、クラスターディスプレイに「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージと車線逸脱防止アシスト/🚗警告灯が黄色で表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを`推奨します。

解除



フロントビューカメラが設置されているフロントガラスが、雪や雨などの異物で覆われていると、検知性能が低下し、車線逸脱防止アシストが一時的に制限または解除されることがあります。

こうしたことが起こると、「**カメラ視野が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージが表示され、インストルメントクラスターにマスター⚠警告灯または車線逸脱防止アシスト/🚗警告灯が表示されます。

雪、雨または異物が取り除かれると、車線逸脱防止アシストは適正に作動するようになります。

異物を取り除いても車線逸脱防止アシストが適切に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- インストルメントクラスターに警告メッセージが表示されない場合でも、車線逸脱防止アシストが正常に作動しないことがあります。
- カメラが遮られていたり、不具合がある状態で車両の電源を切り、再始動しても、その状態は維持されます。そのため、車線逸脱防止アシストが正しく作動しない可能性があります。

制約

車線逸脱防止アシストは、次の状況において正しく動作しない場合や、突然作動する場合があります。

- 車線が汚れているか、次の理由で検知しにくくなっている
  - 区画線（または路肩）が雨、雪、汚れ、油などで覆われている
  - 道路と車線標示（または路肩）の色を区別しにくい
  - 車線近くの道路に標示（または路肩）があるか、道路上の標示（または路肩）が車線標示（または路肩）に似ている
  - 車線標示（または路肩）が不明瞭または損傷している
  - 車線標示（または路肩）に中央分離帯、木、ガードレール、遮音壁などの影がかかっている
- 車線が増加または減少しているか、車線標示（または路肩）が交差している
- 道路に車線標示（または路肩）が 2 つ以上ある
- 車線標示（または路肩）が複雑である、または工事エリアなどで車線の代わりに構造物を置いている
- ジグザグ車線、横断歩道、道路標識などの路面表示がある
- 交差点など、車線が急に消失する
- 車線（または道路幅）が広すぎる、または狭すぎる
- 車線のない路肩がある
- 車道上に料金所、歩道、縁石などの境界構造がある
- 先行車両との車間距離が非常に短い、または先行車両のせいで車線標示（または路肩）が見えない

i 情報

フロントビューカメラの制約の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト（FCA）前方衝突防止アシスト（FCA）」を参照してください。

⚠ 警告

車線逸脱防止アシストを使用するときは次の点を守ってください。

- 運転者には、安全に運転し、車両を制御する責任があります。車線逸脱防止アシストのみに頼ることはせず、危険運転はしないでください。
- 道路や周囲の状況によっては、車線逸脱防止アシストの作動が解除される場合や、正常に作動しない場合があります。運転中は常に注意してください。
- 車線が正常に検知されない場合は、「制約制約」 を参照してください。
- トレーラーや他の車両をけん引する場合は、安全のため必ず車線逸脱防止アシストを OFF にしてください。
- 高速で走行している場合は、ステアリングホイールは制御されません。車線逸脱防止アシストの使用中は、必ず制限速度に従ってください。
- 他のシステムの警告メッセージが表示されているか、警告音が鳴っている場合は、車線逸脱防止アシストの警告メッセージが表示されなかったり、警告音が鳴らなかったりする可能性があります。
- 周囲の騒音が大きい場合、車線逸脱防止アシストの警告音が聞こえないおそれがあります。
- ステアリングホイールに物を取り付けている場合、ステアリングが正常にアシストされない可能性があります。
- 車線逸脱防止アシストは、車両の始動後、またはフロントカメラの初期化後 15 秒間は作動しない可能性があります。

- 車線逸脱防止アシストは、次の場合には作動しません。
  - 方向指示器またはハザードランプを ON または OFF にしてから一定時間以内
  - 車線逸脱防止アシストを ON にしたとき、または車線変更の直後に、車両が車線の中央を走行していない
  - 車体姿勢制御機能（ESC）または車両安定性管理（VSM）が作動している
  - 車両が急カーブを走行している
  - 車両速度が 55km/h 未満、または 210km/h を超えている。
  - 急に車線変更を行った
  - 急ブレーキをかけた

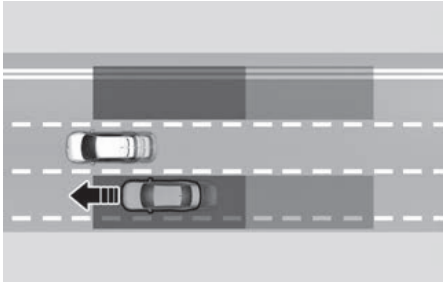
後側方衝突防止アシスト（BCA）

装備されている場合

後側方衝突防止アシストは、運転者の死角領域に接近する車両を検知し、警告灯と警告音で衝突の可能性を通知します。

縦列駐車スペースから出る際に衝突の危険性がある場合、後側方衝突防止アシストが車両のブレーキをアシストして衝突を回避することがあります。

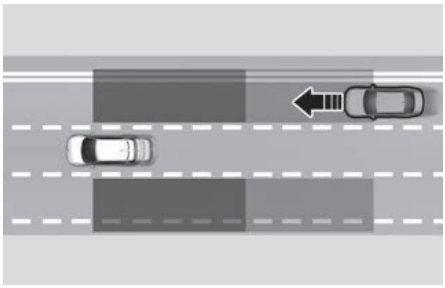
後側方衝突防止アシストは、死角領域に車両がいることを検知し、運転者に通知します。



⚠ 注意

検知範囲は、自車の速度によって異なります。死角領域に車両がいたとしても、自車が高速走行している場合には、後側方衝突防止アシストが警告を発しないことがあります。

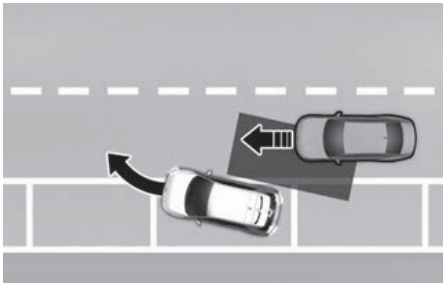
後側方衝突防止アシストは、死角領域から車両が高速で近づいてくることを検知し、運転者に通知します。



⚠ 注意

警告タイミングは、高速で近づいてくる車両の速度によって異なる場合があります。

駐車スペースから前進する際、後側方衝突防止アシストは、死角領域から近づいてくる車両と衝突するリスクがあると判断した場合に、衝突を回避するためにブレーキをかけます。



検知センサー



[A] リアコーナーレーダー

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

⚠ 注意

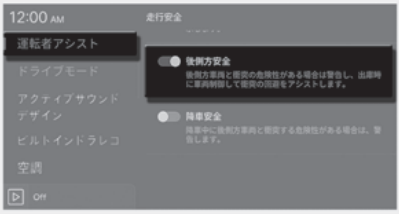
検知センサーの性能を最適な状態に維持するために、次の点を守ってください。

- 検知センサー本体の分解は決して行わないでください。損傷するおそれがあります。
- リアコーナーレーダーまたはレーダー付近が損傷または何らかの衝撃を受けると、メーターに警告メッセージが表示されなくても、後側方衝突防止アシストが正常に作動しない場合があります。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。
- リアコーナーレーダーを交換または修理した場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- リアコーナーレーダーが設置されているリアバンパーの修理を行う際は、必ず純正品を使用してください。
- リアコーナーレーダーを搭載したリアバンパー純正部品の性能は実証されています。リアバンパーを交換したり塗装したりすると、後側方衝突防止アシストの性能が低下する場合があります。部品の交換や改造が必要な場合は、必ず認定品をご使用ください。
- リアコーナーレーダーの近くにナンバープレートのフレームやバンパーステッカー、フィルム、バンパーガードなどを取り付けないでください。

- バンパーを交換したり、リアコーナーレーダーの周辺に損傷を与えたり、塗装したりすると、後側方衝突防止アシストが正常に機能しないおそれがあります。
- トレーラーやキャリアなどを取り付けている場合、リアコーナーレーダーの性能に悪影響を及ぼしたり、後側方衝突防止アシストが作動しなかったりすることがあります。

設定

後側方安全



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行安全** > **後側方安全**を選択し、各機能を使用するかどうかを設定します。

- 「**後側方安全**」を選択した場合、後側方衝突防止アシストは、衝突の危険性に応じて、警告メッセージや警告音で運転者に通知します。駐車場から出る際には、衝突の危険性に応じてブレーキアシストが適用されます。



後側方衝突防止アシストをOFFにして車両を再始動すると、「**後側方安全システムが停止しています**」というメッセージがインストルメントクラスターに表示されます。

「**後側方安全**」を選択すると、アウトサイドミラーの警告灯が3秒間点灯します。また、車両の電源が入った状態で、「**後側方安全**」を選択すると、アウトサイドミラーの警告灯が3秒間点灯します。

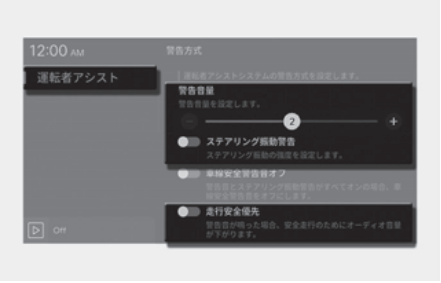
⚠ 警告

運転者は常に周囲に注意を払い、安全な運転を心がけてください。「**後側方安全**」が選択されていない場合、後側方衝突防止アシストは作動しません。

i 情報

車両を再始動した場合、後側方衝突防止アシストは、前回の設定のままになっています。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

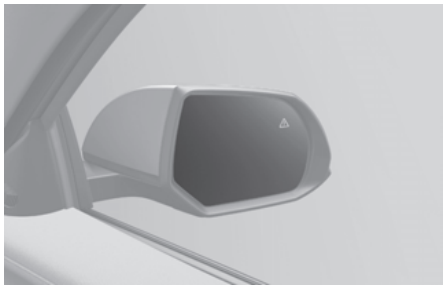
- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **ステアリング振動警告**（装備されている場合）：ステアリングホイールの振動を設定できます。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。
- **警告音量**と**ステアリング振動警告**を同時に OFF させることはできません。一方の警告が OFF になると、もう一方の警告が ON になります。

作動

衝突警告



車両の検知を運転者に警告するため、サイドミラーの警告灯が点灯します。車両検知は以下の条件で作動します。

- 車両速度：20km/h 以上
- 後側方にある車両：10km/h 以上

衝突警告は、検知された車両がいる方向に方向指示器を出しているときに作動します。

- 運転者に衝突を警告するため、サイドミラーの警告灯が点滅し、同時に、警告音が鳴ります。
- 方向指示器を OFF にすると、衝突警告は解除され、後側方衝突防止アシストは車両検知の状態に戻ります。

衝突警告は以下の条件で作動します。

- 車両速度：40km/h 以上
- 後側方にある車両：10km/h 以上

⚠ 警告

- リアコーナーレーダーの検知範囲は標準的な道路幅に設定されています。そのため、狭い道路では、後側方衝突防止アシストが 2 車線離れた他の車両も検知して、警告を発することがあります。一方、広い道路では、後側方衝突防止アシストが隣接車線を走行している車両を検知できず、警告を発しないことがあります。
- ハザードランプを ON にしている場合、方向指示器を出しても衝突警告は作動しません。

i 情報

運転席が左側にある場合、衝突警告は左折時に作動しやすくなることがあります。左側の車線の車両との車間距離を適切に維持してください。運転席が右側にある場合、衝突警告は右折時に作動することがあります。右側の車線の車両との車間距離を適切に維持してください。

インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

衝突防止アシスト（縦列駐車からの出庫時）



- 衝突の危険を運転者に警告するために、アウトサイドミラーの警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに警告メッセージが表示されます。同時に、警告音が鳴ります。
- 後側方領域内にいる車両との衝突を回避するために、緊急ブレーキがアシストされます。
- 後側方衝突防止アシストは、自車の速度が 3km/h 以下で、後側方領域内にいる車両の速度が 5km/h 以上のときに作動します。
- 緊急ブレーキにより車両が停止すると、クラスターディスプレイに「**注意して運転してください**」という警告メッセージが表示されます。

  安全のため、運転者は直ちにブレーキペダルを踏み、周囲を確認する必要があります



- ブレーキ制御は、緊急ブレーキにより車両が約 2 秒間停止した後に解除されます。

⚠ 警告

後側方衝突防止アシストを使用するときは、次の点を守ってください。

- 安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。
- 他のシステムの警告メッセージが表示されているか、警告音が鳴っている場合、後側方衝突防止アシストの警告メッセージが表示されず、警告音が鳴らないことがあります。
- 周囲の騒音が大きい場合、後側方衝突防止アシストの警告音が聞こえない場合があります。
- 運転者が衝突を回避するためにブレーキペダルを踏んだ場合、後側方衝突防止アシストが作動しない場合があります。
- 後側方衝突防止アシストの作動中に、運転者がアクセルペダルを強く踏み込んだり急にステアリングホイールを切ったりすると、この機能によるブレーキ制御は自動的に解除されます。
- 後側方衝突防止アシストの作動中は、車両が急停車して乗員がけがをしたり、固定されていない物が動いたりするおそれがあります。必ずシートベルトを着用し、物は固定してください。
- 後側方衝突防止アシストに問題があっても、車両の基本的なステアリングホイール操作とブレーキ機能は正常に作動します。
- 後側方衝突防止アシストはすべての状況で作動するとは限らず、すべての衝突を回避できるわけではありません。
- 道路状況や運転条件によっては、後側方衝突防止アシストによる運転者への警告が遅れる場合や、警告が行われない場合があります。
- 運転者は常に車両の制御を維持する必要があります。後側方衝突防止アシストに依存しないでください。安全な車間距離を保ち、必要な場合はブレーキペダルを踏んで減速や停車を行ってください。
- 後側方衝突防止アシストを人、動物、ものなどに対して作動させることは絶対にしないでください。重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

車体姿勢制御機能(ESC)の作動状態によっては、ブレーキ制御が正常に作動しない場合があります。

次の場合、警告のみが行われます。

- 車体姿勢制御機能（ESC）警告灯が点灯している
- 車体姿勢制御機能（ESC）が別の機能に使われている

故障と制約

故障



後側方衝突警告が正常に作動しない場合、インストルメントクラスターに「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター⚠警告灯がインストルメントクラスターに表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを`推奨します。



アウトサイドミラー警告灯が正常に機能していない場合は、インストルメントクラスターに「**サイドミラーの警告灯を点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター⚠警告灯が点灯します。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを`推奨します。

解除



リアコーナーレーダーまたはセンサーの周囲のリアバンパーが、雪や雨などの異物で覆われている場合や、トレーラーやキャリアが取り付けられている場合、検知性能が低下し、後側方衝突防止アシストが一時的に制限されたり、解除されたりする可能性があります。

こうしたことが起こると、「**レーダー検出が制限されたため後側方安全システム作動が制限されます**」という警告メッセージがクラスターディスプレイに表示されます。

後側方衝突防止アシストは、このような異物やトレーラー等を除去してから再始動すると正常に作動します。

異物を除去しても後側方衝突防止アシストが正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- インストルメントクラスターに警告メッセージが表示されていない場合でも、後側方衝突防止アシストが正常に作動しないことがあります。
- 後側方衝突防止アシストは、車両の電源を ON にした直後に物体が検知されない場所（平坦で見通しの良い場所など）、または車両の電源を ON にした直後に検知センサーが異物で遮られた場合には、正常に作動しない可能性があります。

⚠ 注意

アフターパーツやアタッチメントの取り付けや取り外しを行う際は、後側方衝突防止アシストをOFFにしてください。取り付けや取り外しの完了後に、後側方衝突防止アシストをONにしてください。

制約

後側方衝突防止アシストは、次の状況において正しく作動しない場合や、突然作動する場合があります。

- 大雪や大雨などの悪天候時
- リアコーナーレーダーが雪、雨、汚れなどで覆われている
- リアコーナーレーダーの周囲の温度が高い、または低い
- 高速道路のスロープを走行している
- 舗装道路（または周囲の地面）に通常とは異なる金属が含まれている（地下鉄の建設などが原因）
- 遮音壁、ガードレール、中央分離帯、進入禁止バリアー、街灯、標識、トンネル、壁など、車両付近に固定された物体（二重構造を含む）がある
- 車両や構造物が少ない広々した場所（砂漠、牧草地、郊外など）を走行している
- 木や草が生い茂っている狭い道を走行している
- 水たまりなど、濡れた路面を走行している
- 他の車両が自車のすぐ後ろを走行しているか、すぐ近くを通過している
- 他の車両の速度が非常に速く、自車の近くを短時間で通過している
- 他の車両の近くを通過している
- 車線を変更している
- 隣の車両と同じタイミングで走り出した、または加速した
- 隣接車線の車両が自車から 2 車線離れた場所に移動した、または 2 車線離れた場所にいた車両が隣接車線に移動してきた
- リアコーナーレーダーの周囲に、トレーラーやキャリアなどのアタッチメントが取り付けられている
- リアコーナーレーダーの周囲のバンパーが、バンパーステッカー、バンパーガード、バイクラックなどで覆われている
- リアコーナーレーダーの周囲のバンパーが衝撃や損傷を受けたか、レーダーの位置がずれている
- 重い荷物、異常なタイヤ空気圧などにより、車両の高さが低い、または高い

後側方衝突防止アシストは、次の対象が検知された場合に、正しく作動しない場合や、突然作動する場合があります。

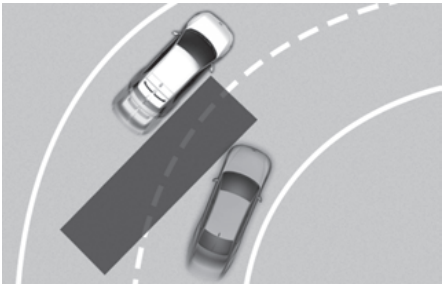
- バイクまたは自転車が検知された
- フラットトレーラーなどの車両が検知された
- バスやトラックなどの大型車両が検知された
- 歩行者、動物、ショッピングカート、ベビーカーなどの、動いている障害物が検知された
- スポーツカーなどの車高の低い車両が検知された

次のような場合、ブレーキ制御が作動しないことがあるため、運転者が注意を払う必要があります。

- 凹凸の激しい道路、平坦でない道路、またはコンクリートパッチの上を走行中に車両が激しく振動する
- 雪、水たまり、氷が原因で滑りやすい路面を走行している
- タイヤ空気圧が低い、またはタイヤが損傷している
- ブレーキシステムが改造されている
- 車両を急に車線変更をさせた

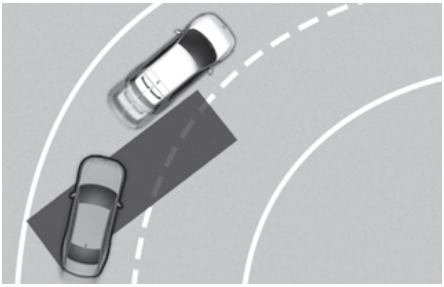
⚠ 警告

- **カーブした道路での走行**



後側方衝突防止アシストは、カーブした道路を走行中は適切に作動しない場合があります。隣接車線の車両が検知されない可能性があります。

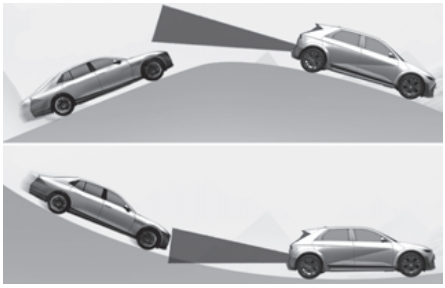
運転中は常に道路や走行状況に注意してください。



後側方衝突防止アシストは、カーブした道路を走行中は適切に作動しない場合があります。同じ車線の車両が認識される可能性があります。

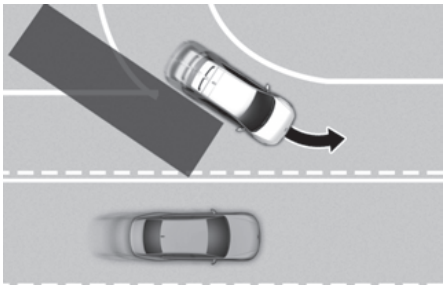
運転中は常に道路や走行状況に注意してください。

- 坂道での走行



後側方衝突防止アシストは、坂道を走行中は適切に作動しない場合があります。隣接車線の車両を検知しなかったり、地面や構造物を誤って検知したりする場合があります。運転中は常に道路や走行状況に注意してください。

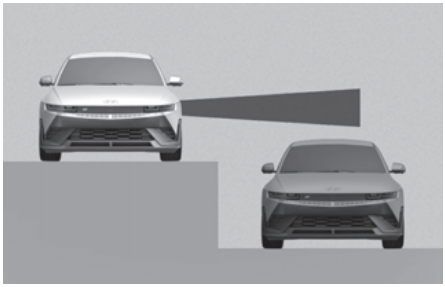
- 道路が合流、分岐される場所での走行



後側方衝突防止アシストは、道路が合流または分岐される場所を走行中は適切に作動しない場合があります。隣接車線の車両が検知されない可能性があります。

運転中は常に道路や走行状況に注意してください。

- 車線の高さが異なる場所での走行



後側方衝突防止アシストは、車線の高さが異なる場所を走行中は適切に作動しない場合があります。車線の高さの異なる道路上にいる車両を検知しない可能性があります（ガード下の合流地点、立体交差など）。

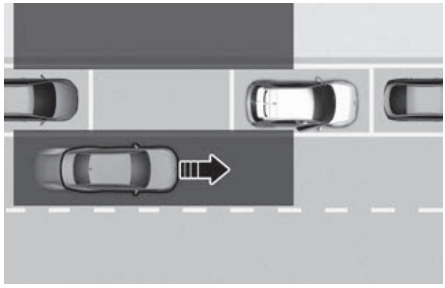
運転中は常に道路や走行状況に注意してください。

⚠ 警告

- トレーラーや他の車両をけん引する場合は、必ず後側方衝突防止アシストをOFF にしてください。
- 後側方衝突防止アシストは、強い電磁波の干渉を受けた場合には正常に作動しないことがあります。
- 車両の始動後、またはフロントビューカメラやリアコーナーレーダーが初期化されてから約 3 秒間は、後側方衝突防止アシストが作動しない場合があります。

安全降車警告（SEW）

装備されている場合



車両が停止中に、安全降車警告が車両のリアコーナーに接近する車両を検知し、同乗者がドアを開けた場合、衝突を回避するため、安全降車警告が警告メッセージと警告音で通知します。

⚠ 注意

警告タイミングは、近づいてくる車両の速度によって異なる場合があります。

検知センサー



[A] リアコーナーレーダー

検知センサーの詳細な位置については、上図を参照してください。

⚠ 注意

リアコーナーレーダーに関する注意事項の詳細については、本章の「後側方衝突防止アシスト（BCA）」を参照してください。

設定

安全降車警告



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **運転者アシスト** > **走行安全** > **降車安全**を選択すると、安全降車警告がONになり、選択解除するとOFFになります。

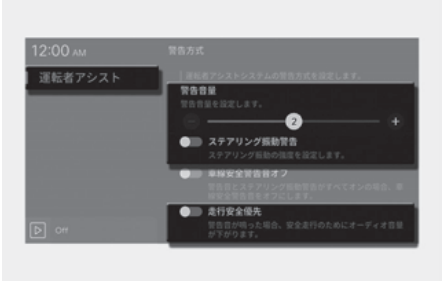
⚠ 警告

運転者は常に周囲に注意を払う必要があります。「**降車安全**」の選択を解除した場合、安全降車警告は作動しません。

i 情報

車両を再始動した場合、安全降車警告は前回の設定のままになっています。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

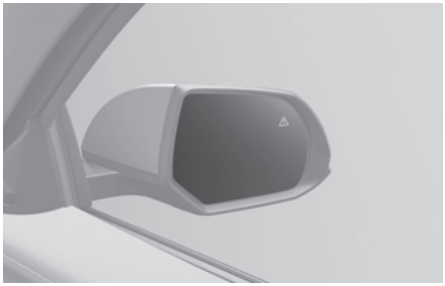
i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

作動

安全降車警告

降車時の衝突警告





- ドアを開けたときに後方から近づいてくる車両を検知すると、メーターに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 安全降車警告は、自車の速度が 3km/h 未満で、後方から近づいてくる車両の速度が 6km/h を超えているときに、運転者に警告します。

⚠ 警告

安全降車警告を使用するときは次の点に注意してください。

- 安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。
- 他のシステムの警告メッセージが表示されているか、警告音が鳴っている場合、安全降車警告の警告メッセージが表示されなかったり、警告音が鳴らなかったりすることがあります。
- 周囲の騒音が大きい場合、安全降車警告の警告音が聞こえないことがあります。
- 安全降車警告はすべての状況で作動するとは限らず、すべての衝突を回避できるわけではありません。
- 道路状況や運転条件によっては、安全降車警告による運転者への警告が遅れる場合や、警告が行われない場合があります。常時車両の周囲を確認してください。
- 運転者と乗員は、降車の際、事故にあわないよう注意してください。降車前には必ず周囲を確認してください。

i 情報

- 安全降車警告は、車両の電源を OFF にしてから約 3 分間は作動しますが、ドアをロックするとすぐに OFF になります。
- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

故障と制約

故障



安全降車警告が正常に作動していない場合は、メーターに「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター警告灯(⚠)が表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。



アウトサイドミラー警告灯が正常に機能していない場合は、メーターに「**サイドミラーの警告灯を点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター(⚠)警告灯が表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

解除



リアコーナーレーダーやセンサーの周囲のリアバンパーが、雪や雨などの異物で覆われている場合や、トレーラーやキャリアが取り付けられている場合、検知性能が低下し、安全降車警告が一時的に制限されたり、解除されたりすることがあります。

こうしたことが起こると、「**レーダー検出が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージがクラスターディスプレイに表示されます。

異物やトレーラーなどを取り除いて車両を再始動すると、安全降車警告は正常に作動するようになります。

該当するものを取り除いても安全降車警告が正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- メーターに警告メッセージが表示されない場合でも、安全降車警告が正常に作動しないことがあります。
- 安全降車警告は、車両の電源を ON にした直後に物体が検知されない場所（平坦で見通しの良い場所など）にいる場合や、車両の電源を ON にした直後に検知センサーが異物で遮られた場合に、正常に作動しないことがあります。

⚠ 注意

トレーラーやキャリアなどのアタッチメントの取り付けや取り外しを行う際は、安全降車警告をOFFにしてください。取り付けや取り外しの完了後、安全降車警告をONにしてください。

制約

安全降車警告は、次の状況において正しく作動しない場合や、突然作動する場合があります。

- 木や草が生い茂っている場所で降車した
- 道路が濡れている場所で降車した
- 近づいてくる車両の速度が非常に速いまたは非常に遅い

i 情報

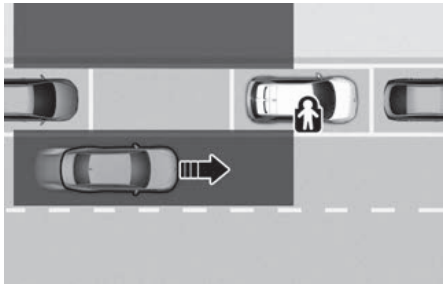
リアコーナーレーダーの制約の詳細については、本章の「後側方衝突防止アシスト(BCA)」を参照してください。

⚠ 警告

- 強い電磁波の干渉を受けている場合、安全降車警告が正しく作動しないことがあります。
- 安全降車警告は、車両の始動後またはリアコーナーレーダーの初期化後 3 秒間は作動しません。
- レーダーが遮られたり誤作動している状態で車両の電源を OFF にして再始動しても、その状態が維持されます。そのため、安全降車警告が正しく作動しない場合があります。

降車安全アシスト（SEA）

装備されている場合



車両が停止中に、降車安全アシストが車両のリアコーナーに接近する車両を検知し、同乗者がドアを開けた場合、衝突を回避するため、降車安全アシストが警告メッセージと警告音で通知します。



電子チャイルドロック(🔒)ボタンがLOCKの位置にあるときに後方から近づいてくる車両が検知された場合は、運転者が電子チャイルドロックボタンを押してもロック解除されず、後席ドアを開けることはできません。

⚠ 注意

- 警告タイミングは、近づいてくる車両の速度によって異なる場合があります。
- 電子チャイルドロックボタンの代わりに降車安全アシストを使用しないでください。後席乗員を保護するには、電子チャイルドロックボタンを使用します。詳細については、第 5 章の「ドアロック」を参照してください。

検知センサー



[A] リアコーナーレーダー
検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

⚠ 注意

リアコーナーレーダーに関する注意事項の詳細については、本章の「後側方衝突防止アシスト(BCA)」を参照してください。

設定

降車安全アシスト



車両の電源をONにした状態で、設定メニューから**設定** > **運転者アシスト** > **走行安全** > **降車安全**を選択すると、降車安全アシストがONになり、選択解除するとOFFになります。

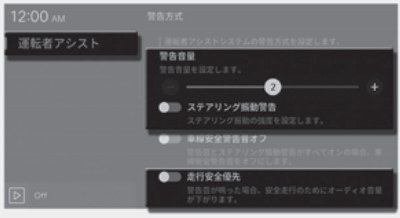
⚠ 警告

運転者は常に周囲に注意を払う必要があります。「**降車安全**」を選択解除した場合、降車安全アシストは運転者をアシストできません。

i 情報

車両を再始動した場合、降車安全アシストは前回の設定になっています。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

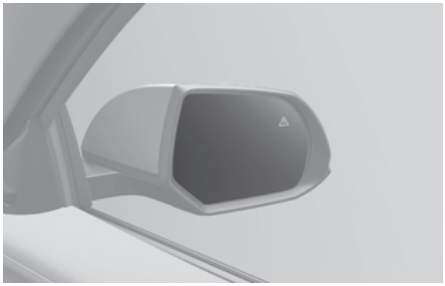
i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

作動

警告と制御

降車時の衝突警告





- ドアを開けたときに後方から近づいてくる車両を検知すると、メーターに「**衝突警告**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。
- 降車安全アシストは、自車の速度が3km/h 未満で、後方から近づいてくる車両の速度が 6km/h を超えているときに、運転者に警告します。

電子チャイルドロックに関連した降車安全アシスト



- 電子チャイルドロックの作動中に後方から近づいてくる車両が検知された場合、運転者が電子チャイルドロックボタンで後席ドアをロック解除しようとしても、ロック解除することはできません。アウトサイドミラーの警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに「**後側方を確認してからもう一度お試しください**」という警告メッセージが表示されます。
- 降車安全アシストは、自車の速度が3km/h 未満で、後方から近づいてくる車両の速度が 6km/h を超えているときに、運転者に警告します。
- 電子チャイルドロック（）ボタンの詳細については、第 5 章の「電子チャイルドロック」を参照してください。

⚠ 注意

警告メッセージの表示後10秒以内に運転者が再度電子チャイルドロック()ボタンを押した場合､降車安全アシストは､運転者が後方の状況を確認したうえでドアをロック解除したものと判断します｡電子チャイルドロックはOFFになり(ボタンのインジケーターが消灯)､後席ドアがロック解除されます｡電子式リアドアロックボタンをOFFにする前に､必ず周囲を確認してください。

i 情報

後席ドアが外側から開けられた場合、降車安全アシストの動作にかかわらず、ドアが開きます。

⚠ 警告

降車安全アシストを使用するときは次の点を守ってください。

- 安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。
- 他のシステムの警告メッセージが表示されているか、警告音が鳴っている場合、降車安全アシストの警告メッセージが表示されなかったり、警告音が鳴らなかったりすることがあります。
- 周囲の騒音が大きい場合、降車安全アシストの警告音が聞こえないおそれがあります。
- 降車安全アシストはすべての状況で作動するわけでも、すべての衝突を回避できるわけでもありません。
- 道路状況や運転条件によっては、降車安全アシストによる運転者への警告が遅れる場合や、警告が行われない場合があります。常時車両の周囲を確認してください。
- 運転者と乗員には、降車時に事故が起こらないようにする責任があります。降車前には必ず周囲を確認してください。
- 降車安全アシストを故意に作動させることは絶対にしないでください。重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

i 情報

- 降車安全アシストは、車両の電源をOFFにしてから約3分間動作しますが、ドアをロックするとすぐにOFFになります。
- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、設定メニューから選択したテーマによって異なる場合があります。

故障と制約

故障



降車安全アシストが正常に作動していない場合、インストルメントクラスターに「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター(⚠)警告灯が点灯します。ただし、これは故障ではありません。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。



アウトサイドミラー警告灯が正常に機能していない場合は、インストルメントクラスターに「**サイドミラーの警告灯を点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター(⚠)警告灯が点灯します。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

解除



リアコーナーレーダーまたはセンサーの周囲のリアバンパーが雪や雨などの異物で覆われている場合や、トレーラーやキャリアが取り付けられている場合、検知性能が低下し、降車安全アシストが一時的に制限されたり、解除されたりする可能性があります。

こうしたことが起こると、「**レーダー検出が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに表示され、マスター(⚠)警告灯が点灯します。ただし、これは故障ではありません。

異物やトレーラーなどを除去して車両を再始動すると、降車安全アシストは正常に作動するようになります。

異物を取り除いても降車安全アシストが正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- インストルメントクラスターに警告メッセージが表示されない場合でも、降車安全アシストが正常に動作しないことがあります。
- 降車安全アシストは、車両の電源をONにした直後に物体が検知されない場所（平坦で見通しの良い場所など）にいる場合や、車両の電源をONにした直後に検知センサーが異物で遮られた場合に、正常に作動しないことがあります。

⚠ 注意

トレーラーやキャリアなどのアタッチメントの取り付けや取り外しを行う際は、降車安全アシストをOFFにしてください。取り付けや取り外しの完了後、降車安全アシストをONにしてください。

制約

降車安全アシストは、次の状況において正しく動作しない場合や、突然作動する場合があります。

- 木や草が生い茂っている場所で降車した
- 道路が濡れている場所で降車した
- 近づいてくる車両の速度が非常に速いまたは非常に遅い

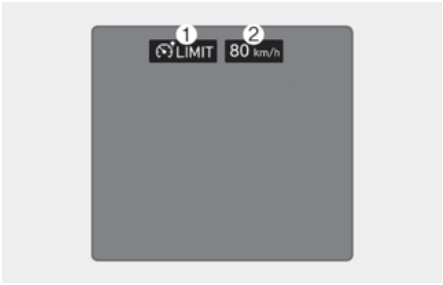
i 情報

リアコーナーレーダーの制約の詳細については、本章の「後側方衝突防止アシスト(BCA)」を参照してください。

⚠ 警告

- 強い電磁波の干渉を受ける場合、降車安全アシストが正常に動作しないことがあります。
- 降車安全アシストは、車両の始動後またはリアコーナーレーダーの初期化後3秒間は作動しません。
- レーダーが遮られたり誤作動している状態で車両の電源を OFF にして再始動しても、その状態が維持されます。そのため、降車安全アシストが正しく作動しない場合があります。

マニュアル速度制限アシスト（MSLA）



(1) 速度制限インジケーター
(2) 設定速度

特定の速度を超えて走行しないように、制限速度を設定することができます。

事前に設定した制限速度を超えて走行した場合、制限速度内に戻るまで、マニュアル速度制限アシストが作動します(設定した制限速度が点滅し、チャイムが鳴ります)。

作動

制限速度の設定

1. 目的の速度に達したら、走行アシスト（）ボタンを長押します。インストルメントクラスターに速度制限（LIMIT）インジケーターが表示されます。



2. ＋ スイッチを上に押すか、－ スイッチを下に押して、設定したい速度でスイッチを離します。
   - スイッチを上または下に短く押すと、設定速度が 1km/h ずつ増加または減少します。
   - スイッチを上または下に長押しすると、設定速度が 10km/h ずつ増加または減少します。



3. 設定した制限速度がクラスターディスプレイに表示されます。

   設定した制限速度を超えた速度で走行したい場合は、アクセルペダルを一定以上踏み込みます。

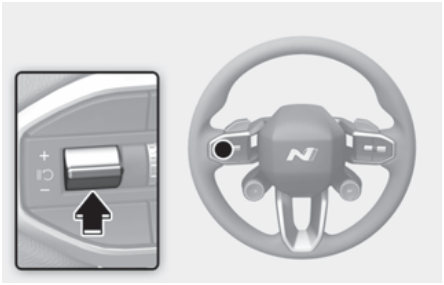
   車両速度が制限速度内に戻るまで、設定した制限速度が点滅し、チャイムが鳴り続けます。



i 情報

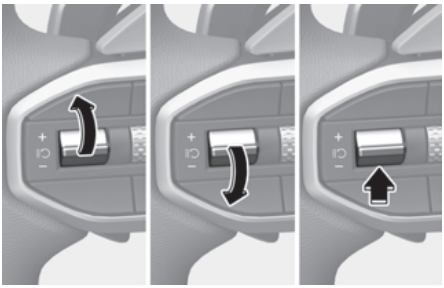
アクセルペダルを一定以上踏み込まない場合、車両速度は制限速度内に維持されます。

一時停止



RESスイッチを押すと、設定した制限速度が一時停止します。設定した制限速度の表示は消えますが、速度制限(LIMIT)インジケーターは点灯したままになります。

再開



マニュアル速度制限アシストを一時停止した後で再開するには、+、−、RESスイッチを操作します。

+スイッチを上に押すか、−スイッチを下に押すと、車両速度は現在クラスターディスプレイに表示されている速度に設定されます。

RESスイッチを押すと、車両速度は事前に設定した速度で再開されます。

停止



走行アシスト(CANCEL)ボタンを押すと、マニュアル速度制限アシストがオフになります。速度制限(LIMIT)インジケーターは消灯します。

マニュアル速度制限アシストを使用しないときは、必ず走行アシスト(CANCEL)ボタンを押してマニュアル速度制限アシストをオフにします。

⚠ 警告

マニュアル速度制限アシストを使用するときは次の点を守ってください。

- 必ずお住まいの国の最高速度を下回る車両速度に設定してください。
- 誤って速度が設定されないように、マニュアル速度制限アシストを使用しないときは常にオフにしてください。速度制限（LIMIT）インジケーターが消灯していることを確認してください。
- マニュアル速度制限アシストは、適切かつ安全な運転の代わりになるものではありません。常に安全に運転するのは運転者の責任です。想定外の事態や突発的な状況に注意してください。常に道路状況に注意してください。

運転者注意警告（DAW）

装備されている場合

不注意運転警告

運転者注意警告は、走行中に運転者の運転パターンを監視します。運転者注意レベルが一定レベルを下回ると、運転者注意警告が休憩を促し、安全走行をサポートします。

前方車両出発通知機能

前方車両出発通知機能は、前方に検知した車両が発進したときに、運転者に通知します。

検知センサー



[A] フロントビューカメラ

フロントビューカメラは、走行中の運転パターンや前方車両の発進を検知するセンサーとして使用されます。

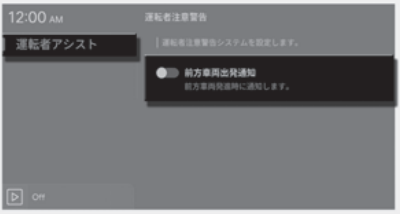
検知センサーの詳細な位置については、上の図を参照してください。

⚠ 注意

- 運転者注意警告の性能を十分に発揮できるように、常時フロントビューカメラを良好な状態に維持してください。
- フロントビューカメラに関する注意事項の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト（FCA）前方衝突防止アシスト（FCA)」を参照してください。

設定

前方車両出発通知



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両**>**運転者アシスト** > **運転者注意警告**を選択してから**前方車両出発通知**を有効にして、各機能を使用するかどうかを設定します。

- 「**前方車両出発通知**」を選択した場合、前方に検知した停車中の車両が発進したときに、運転者に通知します。

作動

不注意運転警告

運転者注意警告の基本的な機能は、運転者に「**しばらく休憩してください**」と警告することです。

休憩



- 運転者の注意レベルが一定レベルを下回ると、クラスターディスプレイに「**しばらく休憩してください**」というメッセージが表示され、警告音とともに運転者注意警告灯が点滅し、運転者に休憩を取るよう促します。
- 運転者注意警告は、運転時間の合計が 4 分より短い場合、または休憩後の走行時間が 4 分を超えていない場合は、休憩を提案しません。

⚠ 警告

安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。

⚠ 注意

- 運転者注意警告は、運転者の運転パターンや癖に応じて、疲労を感じていない場合でも休憩を促すことがあります。
- 運転者注意警告は補助的な機能であり、運転者の注意力が低下しているかどうかが判断できない場合があります。
- 運転者注意警告に休憩を促されていなくても、疲労を感じている場合は、安全な場所で休憩を取ってください。

前方車両出発通知機能



前方車両出発通知は、前方に検知した停車中の車両が発進したときに、インストルメントクラスターに「**前方車両が発進しました**」というメッセージを表示し、警告音を鳴らすことで運転者に通知します。

⚠ 警告

- 他のシステムの警告メッセージが表示されている場合や、警告音が鳴っている場合、前方車両出発通知の警告メッセージが表示されなかったり、警告音が鳴らなかったりすることがあります。
- 運転者には、安全に運転し、車両を制御する責任があります。

⚠ 注意

- 前方車両出発通知は補助的な機能であり、前方で停車中の車両が発進した場合に必ず運転者に警告するとは限りません。
- 発進する前に、必ず車両の前方および道路状況を確認してください。

i 情報

インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

故障と制約

故障



運転者注意警告が適切に作動していない場合、クラスターディスプレイに「**運転者アシストシステムを点検してください。**」という警告メッセージが数秒間表示され、インストルメントクラスターにマスター⚠警告灯と運転者注意警告灯が表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

解除



フロントビューカメラが設置されているフロントガラスが、雪や雨などの異物で覆われていると、検知性能が低下し、運転者注意警告が一時的に制限または解除されることがあります。このような場合、インストルメントクラスターに警告メッセージ、マスター⚠警告灯、および不注意運転警告灯が表示されます。雪、雨または異物が取り除かれると、運転者注意警告は適切に作動するようになります。異物を取り除いても運転者注意警告が適切に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- 運転者注意警告は、車両の電源を ON にしても物体が検知されない場所（平坦で見通しの良い場所など）では、適切に作動しないことがあります。
- カメラが遮られていたり、不具合がある状態で車両の電源を切り、再始動しても、その状態は維持されます。そのため、運転者注意警告が正しく作動しない場合があります。

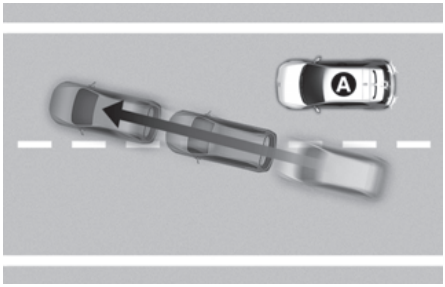
制約

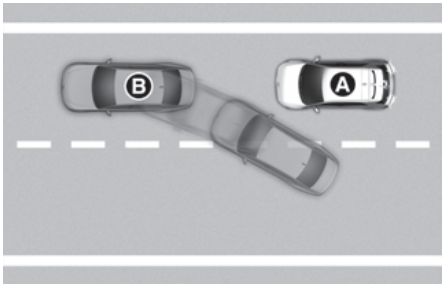
運転者注意警告は、次の状況で適切に作動しない場合があります。

- 乱暴に運転している。
- 故意に何度も車線を越えている。
- 車線逸脱防止アシストなどの運転者アシストシステムによって車両が制御されている。
- 車線が不鮮明または消去されている。

前方車両出発通知機能

- **車両が割り込んできた場合**

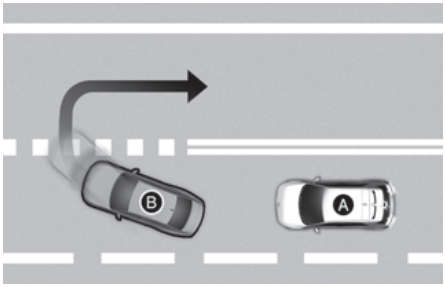




[A] 自車
[B] 前方の車両

前方に車両が割り込んできた場合、前方車両出発通知が適切に作動しないことがあります。

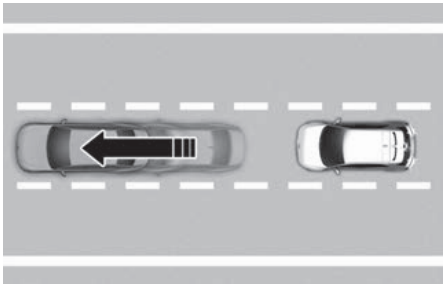
- **前方の車両が急なステアリング操作を行った場合**



[A] 自車
[B] 前方の車両

前方の車両が急左折、急右折、U ターンなどの急なステアリング操作を行った場合、前方車両出発通知が適切に作動しないことがあります。

- **前方の車両が急発進した場合**



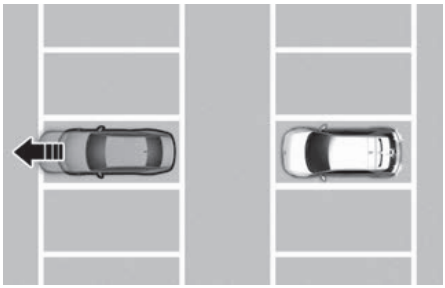
前方の車両が急発進した場合、前方車両出発通知が適切に作動しないことがあります。

- **前方の車両との間に歩行者または自転車が存在する場合**



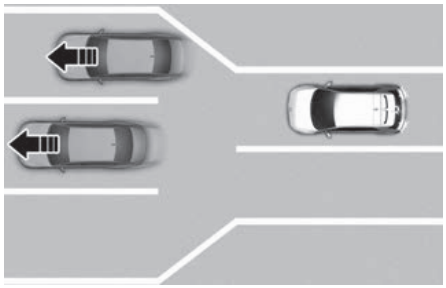
前方の車両との間に歩行者や自転車が存在する場合、前方車両出発通知が適切に作動しない場合があります。

- **駐車場にいる場合**



前方に駐車していた車両が発進して自車から離れていく場合、前方車両出発通知は、駐車車両の発進を運転者に通知することがあります。

- **料金所や交差点などを走行している場合**



車両の多い料金所や交差点、頻繁に車線が合流または分岐する場所では、前方車両出発通知が適切に作動しない場合があります。

⚠ 警告

運転者注意警告は、車両の始動後、またはフロントビューカメラの初期化後15秒間は作動しない場合があります。

i 情報

フロントビューカメラに関する注意事項の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト(FCA)前方衝突防止アシスト(FCA)」を参照してください。

後側方モニター（BVM）

装備されている場合

左

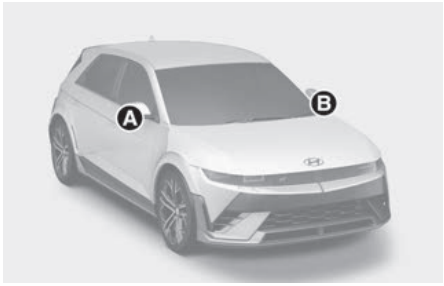


右



後側方モニターはワイドサイドビューカメラを採用しており、方向指示器をONにするとインストルメントクラスターに車両の後側方領域を表示して安全な車線変更を支援します。

検知センサー



[A] ワイド右サイドビューカメラ（ミラーの下部に設置されているカメラ）
[B] ワイド左サイドビューカメラ（ミラーの下部に設置されているカメラ）

検知センサーの詳細な位置については、上の図を参照してください。

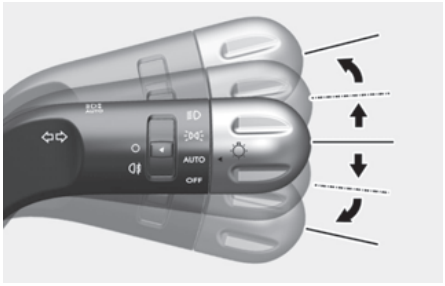
設定

機能設定

車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行安全**を選択し、**後側方モニター**を有効にして、後側方モニター機能をONにします。

作動

スイッチ操作



方向指示器スイッチ

後側方モニターは､方向指示器のONとOFFに連動してONとOFFが切り替わります。

後側方モニター

作動条件

左側または右側の方向指示器がONになると､その方向の映像がインストルメントクラスターに表示されます。

OFF の条件

- 方向指示器を OFF にすると、インストルメントクラスターに表示された映像も消えます。
- ハザードランプが ON のときは、方向指示器の状態にかかわらず後側方モニターは OFF になります。
- インストルメントクラスターに他の重要な警告が表示されている場合、後側方モニターは OFF になることがあります。

故障

後側方モニターが正常に機能しない場合や､クラスターディスプレイがちらつく場合､またはカメラの映像が正常に表示されない場合は､弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- クラスターディスプレイに表示される映像は、物体との実際の距離とは異なります。安全のため、車両の周囲を直接確認してください。
- カメラのレンズは常にきれいにしておいてください。レンズが異物で覆われているとカメラの性能に悪影響を及ぼし、後側方モニターが正常に作動しないおそれがあります。

スマートクルーズコントロール（SCC）

装備されている場合

スマートクルーズコントロールは先行車を検知し、先行車との車間距離と設定速度の維持をサポートします。

追い越し時の加速アシスト

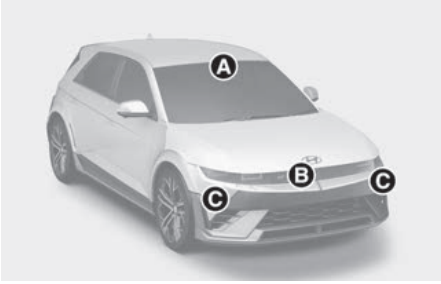
スマートクルーズコントロールは、運転者が先行車を追い越そうとしていると判断すると、加速をサポートします。

運転スタイル連動

装備されている場合

スマートクルーズコントロールは、運転者の運転スタイル（車間距離、加速度、反応速度など）に基づいて作動します。

検知センサー



[A] フロントビューカメラ
[B] フロントレーダー
[C] フロントコーナーレーダー（装備されている場合）

フロントビューカメラとフロントレーダーは、先行車を検知する検知センサーとして使用されます。

検知センサーの詳細な位置については、上の図を参照してください。

⚠ 注意

スマートクルーズコントロールの性能を十分に発揮できるように、常にフロントカメラとフロントレーダーを良好な状態に維持してください。

フロントビューカメラとフロントレーダーの注意事項の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト（FCA）前方衝突防止アシスト（FCA）」を参照してください。

設定

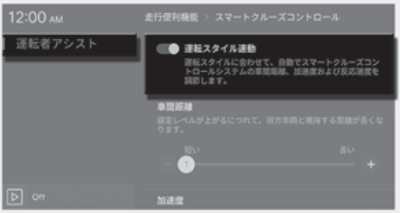
スマートクルーズコントロール



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行便利機能** > **スマートクルーズコントロール**を選択すると、車間距離、加速度、反応速度を手動で変更できます。

運転スタイル連動

装備されている場合

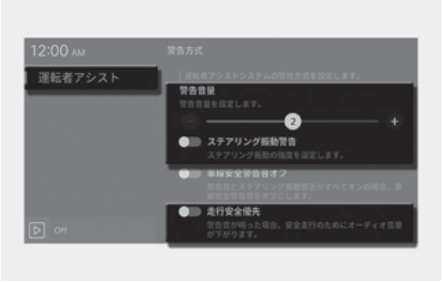


車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで「**車両** > **運転者アシスト** > **走行便利機能** > **スマートクルーズコントロール** > **運転スタイル連動**」を選択すると、運転者の運転スタイル（車間距離、加速度、反応速度など）に基づいてスマートクルーズコントロールが作動します。

i 情報

- スマートクルーズコントロールが、「**運転スタイル連動**」を選択した状態で作動している場合、車間距離（㉖）ボタンを長押しすると、「**運転スタイル連動**」が解除されます。もう一度車間距離（㉖）ボタンを長押しすると、「運転スタイル連動」が有効になります。
- 運転スタイル連動の設定は車両走行時に継続的に学習します。
- 運転スタイル連動を解除すると、車間距離、加速度、反応速度などの運転スタイルは同じ段階に維持されます。
- 運転スタイル連動の ON/OFF 時に表示される車間距離、加速度、反応速度など、運転者の運転スタイルの段階が同じでも、制御する運転スタイルが異なる場合があります。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

作動

作動条件

基本機能

スマートクルーズコントロールは、次の条件が満たされた場合に作動します。

- シフトを D（ドライブ）に入れている。
- 車両速度が次の作動速度の範囲内である。
  - 10 ～ 200km/h：先行車両がいない場合
  - 0 ～ 200km/h：先行車両がいる場合
- ESC（車体姿勢制御機能）または ABS（アンチロックブレーキシステム）が作動している。

スマートクルーズコントロールは、次の条件下では作動しません。

- 車両がパワーダウンモードになっている。(インジケーターが点灯)
- 運転席のドアが開いている。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）がかけられている。
- ESC（車体姿勢制御機能）または ABS（アンチロックブレーキシステム）が車両を制御している。
- 前方衝突防止アシストのブレーキ制御が作動している。
- リモートスマートパーキングアシスト 2 (RSPA- 2) のブレーキ制御が作動している。(装備されている場合)

i 情報

他の車両の後ろに停止しているときに、運転者がブレーキペダルを踏んでいるとスマートクルーズコントロールをONにすることができます。

アクセルアシストの作動条件

追い越し時のアクセルアシストは、スマートクルーズコントロールの作動中に左に方向指示器(左ハンドルの場合)または右に方向指示器(右ハンドルの場合)を出し、次の条件が満たされている場合に作動します。

- 車両速度が 60km/h を超えている。
- 先行車両が検知された。

追い越し時の加速アシストは以下の状況では作動しません。

- ハザードランプが点灯している。
- 先行車両との車間距離を維持するために車両の速度が減速された。

⚠ 警告

- 前方に車両がいる状態で左に方向指示器（左ハンドルの場合）または右に方向指示器（右ハンドルの場合）を出すと、車両が一時的に加速する場合があります。常に道路状況に注意してください。
- 追い越し時の加速アシストは、お住まいの国の走行方向にかかわらず、条件を満たした場合に作動します。走行方向が異なる国でこの機能を使用する場合は、常に道路状況を確認してください。

ON にする

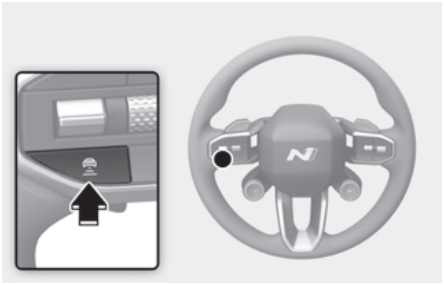


- スマートクルーズコントロールを ON にするには、走行アシストボタンを押します。速度は現在クラスターディスプレイに表示されている速度に設定されます。
- 先行車両が存在しない場合は設定速度が維持され、存在する場合は車間距離を維持するために減速することがあります。先行車両が加速した場合、設定速度まで加速してから一定速度で走行します。

i 情報

走行アシストボタンを押したときの車両速度が0～30km/hの場合、スマートクルーズコントロールの速度は30km/hに設定されます。

車間距離設定



ボタンを押すたびに、**距離4** > **距離3** > **距離2** > **距離1** > **距離4**の順で車間距離設定が繰り返されます。

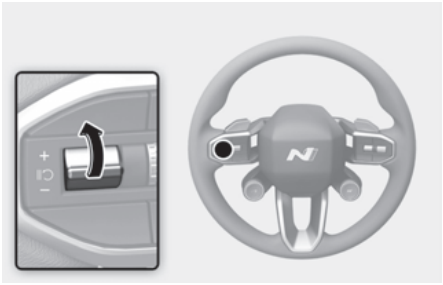
90km/hで走行している場合、車間距離は次の距離で維持されます。

- 車間距離 4：約 52.5m
- 車間距離 3：約 40m
- 車間距離 2：約 32.5m
- 車間距離 1：約 25m

i 情報

車両を再始動した場合や、スマートクルーズコントロールを一時的に解除した場合は、前回の車間距離設定になっています。

設定速度を上げる



- + スイッチを上に押してすぐに離します。スイッチをこのように操作するごとに、設定速度が 1km/h ずつ増加します。
- + スイッチを上に長押ししながら、メーターに表示される設定速度を確認します。このようにスイッチを長押しすると、設定速度が 10km/h ずつ増加します。希望の速度が表示されたときにスイッチを放すと、スイッチを放した時点の速度に設定されます。設定速度は 200km/h まで上げることができます。

⚠ 警告

+スイッチを使用する前に運転条件を確認してください。+スイッチを上に長押しすると、車両が急加速する可能性があります。

設定速度を下げる



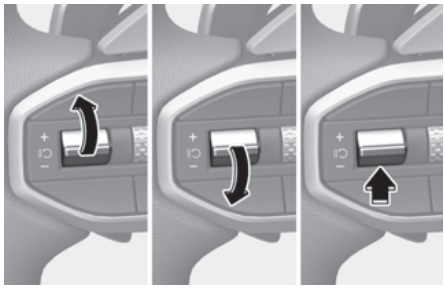
- ー スイッチを下に押してすぐに離します。スイッチをこのように操作するごとに、設定速度が 1km/h ずつ減少します。
- ー スイッチを下に長押ししながら、メーターに表示される設定速度を確認します。このようにスイッチを長押しすると、設定速度が 10km/h ずつ減少します。希望の速度が表示されたときにスイッチを放すと、スイッチを放した時点の速度に設定されます。設定速度は 30km/h まで下げることができます。

一時解除



スマートクルーズコントロールを一時的に解除するには、IIつスイッチを押すか、ブレーキペダルを踏みます。

再開



一時的に解除したスマートクルーズコントロールを再開するには、＋、ー、IIつのいずれかのスイッチを操作します。

＋スイッチを上に押すか、ースイッチを下に押すと、車両速度は現在クラスターディスプレイに表示されている速度に設定されます。

IIつスイッチを押すと、車両速度は事前に設定した速度で再開されます。

⚠ 警告

IIつスイッチを使用する前に運転条件を確認してください。IIつスイッチを押すと急加速または急減速する場合があります。

OFF にする



スマートクルーズコントロールをOFFにするには、走行アシスト(🚗)ボタンを押します。

i 情報

車両にマニュアル速度制限アシストが装備されている場合は、走行アシスト(🚗)ボタンを長押しするとスマートクルーズコントロールがOFFになります。その代わり、マニュアル速度制限アシストがONになります。

⚠ 注意

スイッチとボタンは同時に使用しないでください。スマートクルーズコントロールが正しく作動しない場合があります。

表示と制御

スマートクルーズコントロールの作動状態は、クラスターディスプレイの走行アシストビューで確認できます。第4章の「クラスターディスプレイ」を参照してください。

スマートクルーズコントロールは、状態によって次のように表示されます。

作動中



一時解除中



- 作動中の状態

(1) 先行車両の有無および選択した車間距離レベル

(2) 設定速度

(3) 先行車両の有無および目標車間距離

- 一時的に解除された場合

(1) 自車(灰色)

(2) 前回の設定速度(灰色)

(3) 先行車の有無(灰色)(装備されている場合)

情報

- 先行車両との実際の車間距離に応じて、クラスターディスプレイに車間距離が表示されます。
- 目標車間距離は、車両速度と設定した車間距離レベルによって変化します。車両速度が遅い場合、車間距離が変化しても目標車間距離はそれほど変化しないことがあります。
- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

一時的な加速



スマートクルーズコントロールの作動中に、設定速度を変更することなく一時的に加速したい場合は、アクセルペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏んでいる間、メーターで設定速度、車間距離レベル、目標車間距離が点滅します。

ただし、アクセルペダルを十分に踏んでいない場合、車両が減速することがあります。

警告

一時的に加速した場合、先行車両がいても速度と車間距離が自動的に制御されないため、注意してください。

運転スタイル連動の作動

装備されている場合



運転スタイル連動の作動中は、運転スタイルに応じた車間距離レベルと目標車間距離が白く表示されます。

一時解除



スマートクルーズコントロールは、次の場合に自動的に一時的に解除されます。

- 車両速度が 210km/h を超えている。
- 車両が一定時間停車している。
- アクセルペダルを一定時間踏み続けている。
- スマートクルーズコントロールの作動条件が満たされていない。

スマートクルーズコントロールが自動で一時的に解除されると、「**スマートクルーズコントロールが解除されました**」という警告メッセージがメーターに表示され、警告音で運転者に知らせます。

i 情報

スマートクルーズコントロールが有効な状態で停車しているときにこの機能が一時的に解除されると、電動パーキングブレーキ(EPB)がかかることがあります。

⚠ 警告

スマートクルーズコントロールが一時的に解除されると、先行車両との車間距離は維持されなくなります。走行中は常に前方に注意し、安全な車間距離を保てるように、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

作動条件が満たされない場合



スマートクルーズコントロールの作動条件が満たされていないときに走行アシストボタン、+、−、⥀スイッチのいずれかを操作した場合、メーターに「**スマートクルーズコントロールの作動条件外です**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ります。

渋滞の場合



交通渋滞では、先行車が止まると自車も止まります。同様に、先行車両が発進すると自車も発進します。また、停車後一定時間が経過すると、インストルメントクラスターに「前方車両発進時スイッチ/ペダルを操作してください」というメッセージが表示されます。アクセルペダルを踏むか、+、−、または⥀スイッチを操作して発進してください。

前方の道路状況に関する警告



次の状況では、クラスターディスプレイに「**前方に注意してください**」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴ることで、運転者に前方の道路状況について警告します。

- 一定速度以下で走行中にスマートクルーズコントロールが先行車両との車間距離を維持しているときに、先行車両が視界から消えた。

⚠ 警告

前方に突然車両や物体が現れた場合に備えて常に注意し、安全な車間距離を保てるように、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

衝突警告



スマートクルーズコントロールの作動中に先行車両との衝突リスクが高くなると、インストルメントクラスターに「衝突警告」という警告メッセージが表示され、警告音が鳴り、運転者に警告します。走行中は常に前方に注意し、安全な車間距離を保てるように、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

⚠ 警告

次の状況では、スマートクルーズコントロールが衝突リスクを運転者に警告しない場合があります。

- 先行車両との車間距離が短いか、先行車両が自車より速いまたはほぼ同じ速度で走行している。
- 先行車両の速度が非常に遅いか、停止している。
- スマートクルーズコントロールをオンにした直後にアクセルペダルを踏んだ。

⚠ 警告

スマートクルーズコントロールを使用するときは次の点を守ってください。

- スマートクルーズコントロールは、適切かつ安全な運転の代わりになるものではありません。常に速度および先行車両との車間距離等、周囲の状況に注意して運転してください。
- スマートクルーズコントロールは、想定外の事態、突発的な状況、または複雑な運転状況を認識しないことがあるため、常に運転条件に注意し、車両速度を制御してください。
- 誤って速度が設定されないように、スマートクルーズコントロールを使用しないときは OFF にしてください。
- スマートクルーズコントロール作動中は、たとえ車両が停止していても、ドアを開けたり、車両から離れたりしないでください。
- 常に選択した速度と車間距離を意識して運転してください。
- 道路状況や運転条件に応じて安全な車間距離をとってください。高速走行中に先行車両との車間距離が近すぎる場合、重大な衝突事故が起こるおそれがあります。
- 先行車両との車間距離を維持しているときに先行車両がいなくなった場合、スマートクルーズコントロールが突然設定速度まで加速することがあります。想定外の状況が突然発生することを防ぐため、常に注意してください。
- 車両速度は、上り坂で低下し、下り坂で上昇することがあります。
- 車両が突然割り込んできた場合などに備えて、常に状況に注意してください。
- トレーラーやその他車両をけん引しているときは、安全のためスマートクルーズコントロールを OFF にしてください。
- 自車がけん引されているときは、スマートクルーズコントロールを OFF にしてください。

- 強い電磁波の干渉を受ける場合、スマートクルーズコントロールが正常に動作しないことがあります。
- スマートクルーズコントロールが前方の障害物を検知せず、衝突につながるおそれがあります。突然想定外の状況が発生するのを防ぐため、常に前方に注意して運転してください。
- 先行車両が頻繁に車線変更を行っている場合、スマートクルーズコントロールの反応が遅れたり、隣接車線にいる車両に反応したりすることがあります。突然想定外の状況が発生するのを防ぐため、常に注意して運転してください。
- 警告メッセージが表示されない場合や警告音が鳴らない場合でも、常に周囲に注意して安全に運転してください。
- 他のシステムの警告メッセージが表示されているか、警告音が鳴っている場合、スマートクルーズコントロールの警告メッセージが表示されなかったり、警告音が鳴らなかったりする可能性があります。
- 周囲の騒音が大きい場合、前方衝突防止アシストの警告音が聞こえないおそれがあります。
- 車両メーカーは、運転者が引き起こした交通違反や交通事故に対して一切責任を負いません。
- 必ずお住まいの地域の最高速度を下回る車両速度に設定してください。
- 運転者の運転スタイルが変わった場合、車間距離、加速度、反応速度が変わる可能性があります。

⚠ 注意

- 車間距離、加速度、反応速度など、運転者の実際の運転スタイルを十分に反映するように車両を運転する必要があります。
- 運転スタイル連動は、運転者の運転スタイルを判断する際に、運転者が交代したかどうかを考慮しません。
- 雪、雨、霧、または急斜面などの特殊な条件で走行している場合、運転者の運転スタイルに基づいた走行が行われないことがあります。

i 情報

- スマートクルーズコントロールは、車両の始動後またはフロントビューカメラもしくはフロントレーダーの初期化後数秒間は作動しません。
- スマートクルーズコントロールがブレーキを制御しているときに音が聞こえる場合があります。
- 運転スタイル連動には、走行安全に影響を及ぼすような運転スタイルや運転条件は反映されない場合があります。
- 運転スタイル連動には、車間距離、加速度、反応速度以外の運転スタイルは反映されません。

故障と制約

故障



スマートクルーズコントロールが正常に作動しない場合、「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージとマスター⚠警告灯がインストルメントクラスターに表示されることがあります。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。

解除



フロントレーダーカバーまたはセンサーが雪や雨などの異物で覆われている場合、検知性能が低下し、スマートクルーズコントロールが一時的に制限されたり、解除されたりする可能性があります。

その場合、インストルメントクラスターに警告メッセージが一定時間表示されます。

雪、雨または異物が除去されると、スマートクルーズコントロールは正常に動作するようになります。

⚠ 警告

クラスターディスプレイに警告メッセージが表示されない場合でも、スマートクルーズコントロールが正常に作動しないことがあります。

⚠ 注意

スマートクルーズコントロールは、車両の電源をONにしても物体が検知されない場所(平坦で見通しの良い場所など)では、正常に作動しない可能性があります。

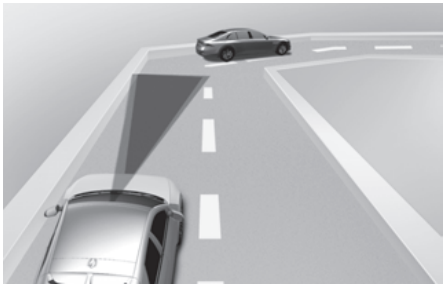
制約

スマートクルーズコントロールは、次の状況において正しく動作しない場合や、突然作動する場合があります。

- 検知センサーまたはその周辺が汚れているか、損傷している
- ウォッシャー液が連続的に噴射されているか、ワイパーが ON になっている
- フロントガラスの着色、フィルム、コーティング、損傷、または付着した粘着性の異物（ステッカー、虫など）により、カメラレンズが悪影響を受けている
- フロントガラスの湿気が除去されていないか、凍結している
- フロントカメラの視野が太陽光によって遮られている
- 街灯や対向車両のライトが濡れた路面（水たまりなど）に反射している
- フロントカメラの周囲の温度が高すぎる、または低すぎる
- ダッシュボードの上に物が置かれている
- 周囲が非常に明るい
- 周囲が非常に暗い（トンネル内など）
- 明るさが突然変化した（トンネルへの出入りなど）
- 外が暗いときにヘッドライトが点灯していないか、明るさが十分でない

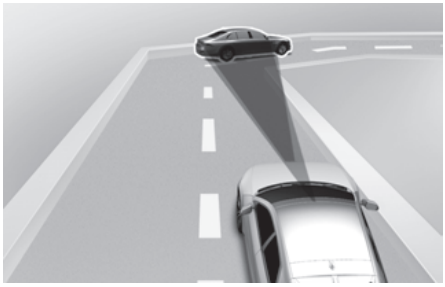
- 大雨や大雪、または濃霧の中を走行している
- 蒸気、煙、日陰の中を走行している
- 車両の一部のみが検知されている
- 先行車両にテールライトが付いてない、通常と異なる場所に付いている
- 外が暗いときにテールライトが点灯していないか、明るさが十分でない
- 先行車両の後部が小さいか、車両の外観が通常と異なっている。(車両が傾いている、横転しているなど)
- 先行車両の最低地上高が低すぎる、または高すぎる
- 車両が突然前に割り込んだ。
- 車両がけん引されている
- トンネルまたは鉄橋を走行している
- 金属物質が含まれる場所(建設現場や鉄道など)の近くを走行している
- ガードレールや近くの車両などの物体がフロントレーダーに反射している。
- フロントレーダー周囲のバンパーが衝撃を受けたか損傷があり、フロントレーダーの位置がずれている
- フロントレーダーの周囲の温度が低すぎる、または高すぎる
- 車両や構造物が少ない広々した場所(砂漠、牧草地、郊外など)を走行している
- 前方の車両がフロントレーダーに反射しない素材でできている。
- 高速道路のインターチェンジまたは料金所の近くを走行している。
- 雪、水たまり、氷が原因で滑りやすい路面を走行している
- カーブした道路での走行
- 先行車両の検知が遅れた
- 先行車両が突然障害物によって遮られた
- 先行車両が急に車線変更または減速を行った
- 先行車両の形が歪んでいる。
- 先行車両の速度が速い、または遅い。
- 先行車両がいる状態で、低速で車線変更を行った。
- 先行車両が雪で覆われている
- 走行が不安定である
- ロータリーを走行中で、先行車両が検知されない
- 蛇行運転を繰り返している
- 駐車場内を走行している
- 建設現場、未舗装道路、部分的に舗装された道路、段差のある道路、スピードバンプなどを走行している
- 坂道、カーブした道路などを走行している
- 路肩に木や街灯が並んだ道路を走行している
- 不利な道路状況により、走行中に過度の車両振動が起きている
- 重い荷物、異常なタイヤ空気圧などにより、車両の高さが低い、または高い
- 木や草が生い茂っている狭い道を走行している
- 強い電波や電気ノイズのある場所など、電磁波の干渉がある場所を走行している

- **カーブした道路での走行**



カーブでは、スマートクルーズコントロールが同じ車線内の車両を検知せず、設定速度まで加速する場合があります。また、先行車両を突然検知した場合、車両が急に減速する可能性があります。

カーブでは適切な設定速度を選択し、道路状況や運転条件に応じてブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏んでください。



隣接車線の車両が原因で車速が低下する可能性があります。

アクセルペダルを踏んで適切な設定速度を選択してください。スマートクルーズコントロールが安全に動作できる道路状況であることを確認してください。

- **坂道での走行**



上り坂や下り坂での走行中は、スマートクルーズコントロールが車線内を走行している車両を検知せず、設定速度まで加速する場合があります。また、先行車両を突然検知した場合、車両は急減速します。

坂道では適切な設定速度を選択し、前方の道路状況や運転条件に応じてブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏んでください。

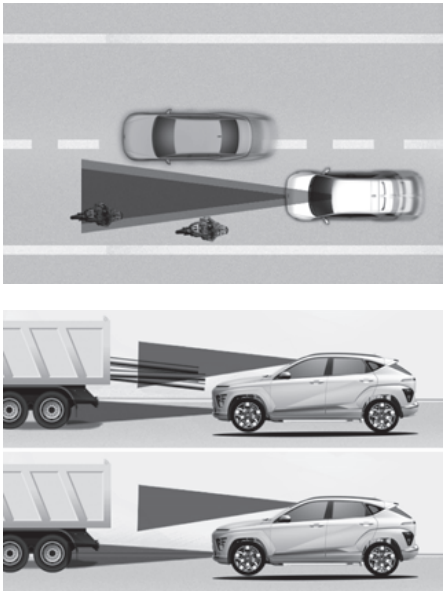
• **車線変更**



[A] 自車
[B] 車線変更を行う車両

隣接車線から車線変更してきた車両は、センサーの検知範囲に入るまでは検知されません。スマートクルーズコントロールは、突然車線変更を行った車両をすぐに検知しない可能性があります。この場合、安全な制動距離を維持する必要があり、安全距離を保つために、必要に応じてブレーキペダルを踏んで走行速度を下げてください。

• **検知が制限される状況**



次の場合、センサーが車線内の車両、歩行者、動物を検知できない可能性があります。

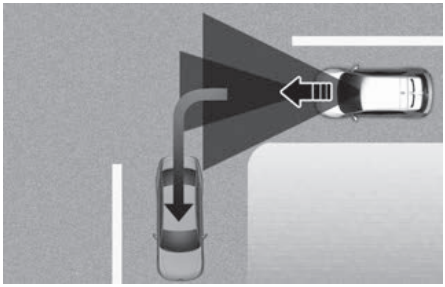
- 道路の片側に寄っている車両
- 低速走行中または急減速中の車両
- 最低地上高の高い車両、または車両後部から荷物がはみ出している車両
- 荷物の重さで車両前部が持ち上がっている車両
- 自車から約 2m 以内の車両
- 近づいてくる車両
- 停車中の車両
- トレーラーなど、後部が小さい車両
- バイクや自転車など、幅の狭い車両
- 特殊車両
- 動物や歩行者

- 前方の道路状況や運転条件に従ってブレーキペダルを踏み、車両速度を調節してください。

  次の場合、センサーは先行車両を検知できない可能性があります。

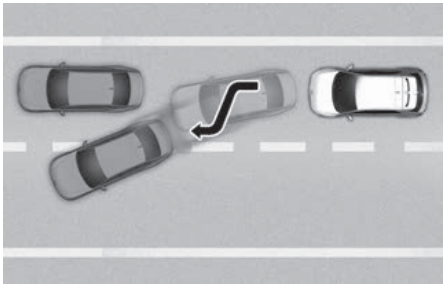
  - 自分でステアリングを操作している。
  - 狭い道路や急カーブを走行している。
- 交差点で先行車両が見えなくなると、車両が加速することがあります。

  運転中は常に道路や走行状況に注意してください。

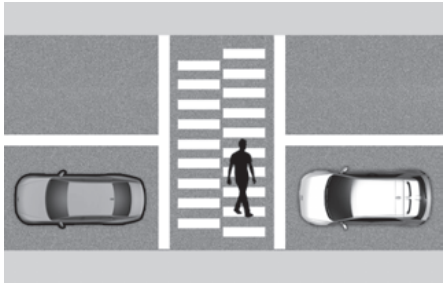


- 先行車両が車線から出ていく場合、スマートクルーズコントロールは、新たに先行車両となった車両をすぐに検知できない可能性があります。

  運転中は常に道路や走行状況に注意してください。



- 先行車両との車間距離を保持しているときは、常に歩行者に注意してください。



ナビゲーションベーススマートクルーズコントロール（NSCC）

装備されている場合

ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは、スマートクルーズコントロール作動時にナビゲーションシステムの道路情報を利用して、高速道路走行中のみ、道路状況に応じた一定速度での走行を支援します。

i 情報

- ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは、一部の高速道路でのみ使用できます。
- ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは、高速道路の本線で作動します。インターチェンジやジャンクションでは作動しません。
- 今後のナビゲーションシステムのアップデートにより、高速道路走行アシストシステムが利用できる高速道路の範囲は拡張していきます。

高速道路カーブ区間自動速度調節

車両速度が高速になると、ナビゲーションのカーブ区間情報に基づき、高速道路カーブ区間自動速度調節機能が一時的に車両を減速させるか、加速を制限して、カーブでの安全運転を支援します。

設定



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行便利機能** > **高速道路走行速度自動調節**を選択すると、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールがONになり、選択解除するとOFFになります。

i 情報

ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールに問題がある場合は、インフォテインメントシステムでこの機能を設定することはできません。

作動

作動条件

ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは、次の条件がすべて満たされたときに動作可能になります。

- インフォテインメントシステムから「**高速道路走行速度自動調節**」を選択します。
- スマートクルーズコントロールが動作している。
- 高速道路の本線を走行している。

i 情報

スマートクルーズコントロールの操作方法の詳細については、本章の「スマートクルーズコントロール(SCC)」を参照してください。

表示と制御

ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールが作動すると、次のようにインストルメントクラスターに表示されます。



作動待機中

動作条件が満たされると、NAVインジケーターが緑色に点灯します。

作動中

速度が制御されている間は、NAVインジケーターが緑色に点滅します。

運転者による一時的なキャンセルまたは中断

スマートクルーズコントロールが一時的に解除されているときや、ナビゲーションシステムが経路を検索しているときなど、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールが車両を制御できない場合は、NAVインジケーターが灰色に点灯します。

運転者がアクセルペダルを踏むと、NAVインジケーターが白色に点滅します。

⚠ 警告



次の場合、「**注意して運転してください**」という警告メッセージが表示されます。

- ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールで、車両を安全な速度まで減速させることができない。

i 情報

インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

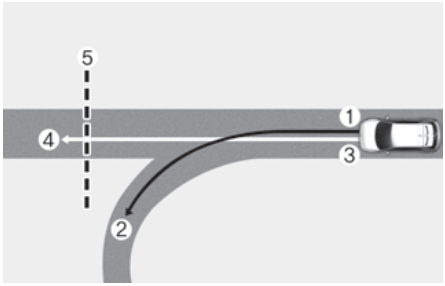
高速道路カーブ区間自動速度調節

- 高速道路上の前方にあるカーブに応じて車両を減速し、カーブを通過すると、スマートクルーズコントロールの設定速度になるまで加速します。
- 車両が減速される時間は、車両速度と道路のカーブの度合いによって変わります。走行速度が速ければ速いほど、減速は早く開始します。

制約

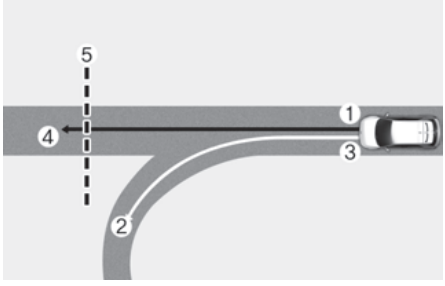
次の場合、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは正しく動作しないことがあります。

- ナビゲーションが正しく動作していない
- インフォテインメントシステムの動作異常により、地図情報が送信されない
- ナビゲーションの道路情報が更新されていない
- リアルタイムの GPS データまたは地図情報にエラーがあり、地図情報と実際の道路が異なっている
- 走行中にナビゲーションが経路を検索している
- トンネルなどの場所で、GPS 信号が遮られている
- 車両がサービスステーションまたはサービスエリアに入った
- Android Auto または CarPlay が動作している
- ナビゲーションが現在の車両位置を検知できない（例えば、一般道路に隣接する陸橋を含む高架道路や、近隣の道路が並行して存在する）
- 走行中にナビゲーションが更新されている
- 走行中にナビゲーションが再起動されている
- 区間制限速度が、道路状況に従って変更されている
- 工事中の道路を走行している
- 規制された道路を走行している
- 大雨や大雪など、悪天候である
- 急カーブな道路を走行している



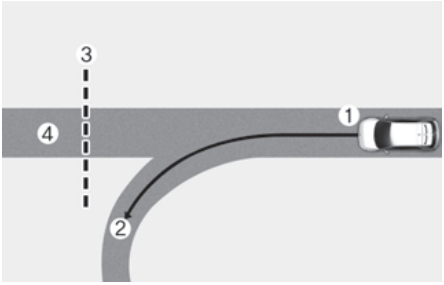
(1) 設定経路
(2) 分岐車線
(3) 走行経路
(4) 本線
(5) カーブ区間

- ナビゲーションの設定経路（分岐車線）と走行経路（本線）が異なっている場合、走行経路が本線として認識されるまで、高速道路カーブ区間自動速度調節機能が作動しないことがあります。
- ナビゲーションの設定経路ではなく本線を維持することで車両の走行経路が本線として認識されると、高速道路カーブ区間自動速度調節機能が作動します。カーブまでの距離と現在の車両速度によっては、車両の減速が十分でない場合や急減速になる場合があります。



(1) 設定経路
(2) 分岐車線
(3) 走行経路
(4) 本線
(5) カーブ区間

- ナビゲーションの経路（本線）と走行経路（分岐車線）が異なっている場合、本線のカーブ情報に基づいて、高速道路カーブ区間自動速度調節機能が作動します。
- 高速道路のインターチェンジやジャンクションに進入したことにより経路から外れて走行していると判断された場合、高速道路カーブ区間自動速度調節機能は作動しません。



(1) 走行経路
(2) 分岐車線
(3) カーブ区間
(4) 本線

- ナビゲーションに目的地が設定されていない場合、本線のカーブ情報に基づいて、高速道路カーブ区間自動速度調節機能が作動します。
- 本線から逸脱した場合でも、高速道路のカーブ区間のナビゲーション情報により、高速道路カーブ区間自動速度調節機能が一時的に作動することがあります。

⚠ 警告

- ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは、安全運転の代わりになるものではなく、便利機能にすぎません。常に周辺状況に注意し、道路交通法を遵守して安全な運転を心がけてください。
- ナビゲーションの制限速度情報は、道路の実際の制限速度情報とは異なる場合があります。運転者は、実際の走行道路または車線の制限速度を確認してください。
- 高速道路の本線を離れると、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは自動的に解除されます。運転中は常に道路や走行状況に注意してください。
- ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは、先行車両の有無と車両の運転状況が原因で作動しない場合があります。運転中は常に道路や走行状況に注意してください。
- トレーラーその他車両をけん引しているときは、安全のためナビゲーションベーススマートクルーズコントロールを OFF にしてください。
- 高速道路の料金所を通過すると、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールは第１車線に基づいて作動します。他のいずれかの車線に進入した場合、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールが正しく作動しないことがあります。
- ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールの作動中に運転者がアクセルペダルを踏むと、車両は加速します。この機能が車両を減速させることはありません。ただし、アクセルペダルを十分に踏んでいない場合、車両が減速することがあります。
- ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールの作動中に運転者が加速させ、アクセルペダルから足を離した場合、車両が十分に減速しないことや、安全な速度まで急減速することがあります。
- カーブの度合いによっては、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールが作動しないことがあります。

i 情報

- ナビゲーションの案内と、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロール動作の開始と終了のタイミングとの間に、時間的なずれが生じる可能性があります。
- インストルメントクラスターとナビゲーションの速度情報が異なる場合があります。
- スマートクルーズコントロールの設定速度より低い速度で走行している場合でも、前方のカーブ区間によって加速が制限されることがあります。
- 本線を離れてインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリアなどに進入しているときにナビゲーションベーススマートクルーズコントロールが作動している場合、一定時間、この機能が作動することがあります。
- でこぼこ道や狭い車線などの道路状況により、ナビゲーションベーススマートクルーズコントロールによる減速が不十分だと感じる場合があります。

車線維持アシスト（LFA）

装備されている場合

車線維持アシストは、道路上の車線標示や先行車を検知し、自車を車線中央に誘導します。

検知センサー



[A] フロントビューカメラ

フロントビューカメラは、検知センサーとして使用され、車線標示と先行車両を検知します。

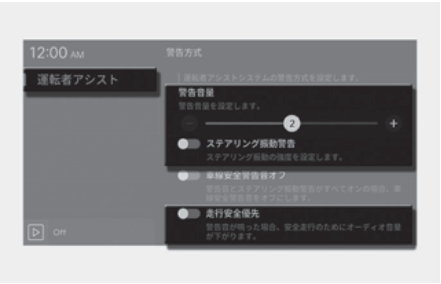
検知センサーの詳細な位置については、上の図を参照してください。

⚠ 注意

フロントビューカメラに関する注意事項の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト（FCA）前方衝突防止アシスト（FCA）」を参照してください。

設定

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

作動

車線維持アシストの ON/OFF



車両の電源をONにした状態で、ステアリングホイールにある車線走行アシストボタンを短く押し、車線維持アシストをONにします。インストルメントクラスターに⊖インジケーターが灰色または緑色で表示されます。

OFFにするには、再度ボタンを押します。

車線維持アシスト（LFA）



先行車および/または両側の区画線が検出され、車速が200km/h未満の場合、インストルメントクラスターに緑色の⊖インジケーターが表示され、車線維持アシストが車両を車線中央に維持するためにステアリングホイール操作をアシストします。

⚠ 注意

ステアリングホイールがアシストされなくなると、⊖インジケーターが白色で点滅し、灰色に変わります。

ハンズオフ警告



運転者がステアリングホイールから数秒間手を離すと、「**ステアリングを持ってください**」という警告メッセージが表示され、段階的に警告音が鳴ります。

第1段階：警告メッセージ

第2段階：警告メッセージ（赤色のステアリングホイール）と警告音



ハンズオフ警告後もステアリングホイールを両手で握らないでいると、「**車線維持アシストシステムが解除されました**」という警告メッセージが表示され、車線維持アシストが自動的に解除されます。

⚠ 警告

- ステアリングホイールを非常に強く握っている場合や、一定の程度を超えてステアリングホイールを切っている場合は、ステアリングホイールがアシストされない可能性があります
- 車線維持アシストシステムは、常に作動しているわけではありません。車両を安全に操縦し、車線内走行を維持するのは運転者の責任です。
- 道路状況によっては、ハンズオフ警告メッセージが遅れて表示される場合があります。運転中は常時、両手でステアリングホイールを握ってください。
- ステアリングホイールを握る力が非常に弱いと、車線維持アシストが運転者がステアリングホイールに手を置いていることを認識できず、ハンズオフ警告メッセージが表示されることがあります。
- ステアリングホイールに物を取り付けている場合、ハンズオフ警告が正常に機能しない可能性があります。

i 情報

- インストルメントクラスターの設定の詳細については、第４章の「クラスターディスプレイ」を参照してください。
- 左右の車線標示が検知されると、インストルメントクラスター上の車線が灰色から白色に変わります。

車線を未検知した場合



車線が検知された場合



- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。
- 車線が検知されない場合、先行車両の有無または車両の運転状況によっては、車線維持アシストによるステアリングホイールの制御が制限されることがあります。
- 車線維持アシストがステアリングホイール操作をアシストしていても、運転者はステアリングホイールを制御することができます。
- 車線維持アシストがステアリングホイール操作をアシストしている場合、そうでない場合と比べてステアリングホイールが重たかったり、軽かったり感じる場合があります。

故障と制約

故障



車線維持アシストが正常に作動していない場合、インストルメントクラスターに「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター⚠警告灯が表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

制約

車線維持アシストの制約の詳細については、本章の「車線逸脱防止アシスト(LKA)」を参照してください。

i 情報

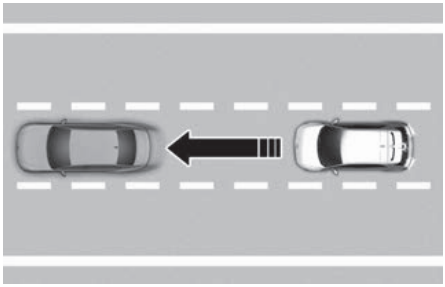
車線維持アシストの注意事項の詳細については、本章の「故障と制約」を参照してください。

高速道路走行アシスト（HDA）

装備されている場合

高速道路走行アシスト

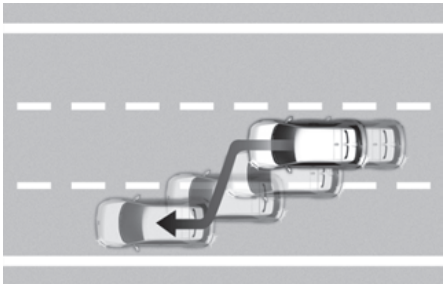
高速道路走行アシストは、高速道路を走行中に前方の車両と車線を検知し、先行車両との車間距離や設定速度の維持、および車線中央走行をサポートします。



高速道路車線変更アシスト

装備されている場合

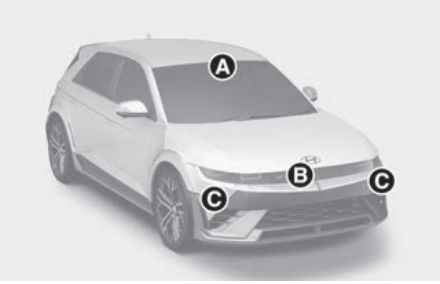
高速道路車線変更アシスト機能は、車線変更が可能と判断した場合に、方向指示器のスイッチを操作した方向への車線変更をサポートします。

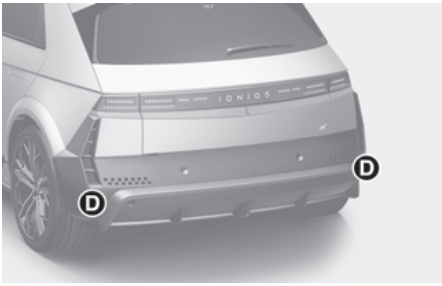


情報

- 高速道路走行アシストは特定の高速道路でのみ利用できます。
- 今後のナビゲーションシステムのアップデートにより、高速道路走行アシストシステムが利用できる高速道路の範囲は拡張していきます。
- 高速道路走行アシストは、高速道路の本線で作動します。インターチェンジやジャンクションでは作動しません。

検知センサー





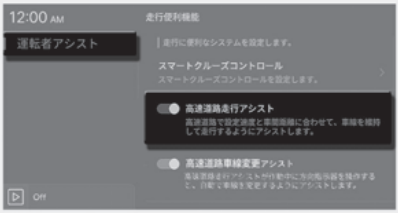
[A] フロントビューカメラ
[B] フロントレーダー
[C] フロントコーナーレーダー（装備されている場合）
[D] リアコーナーレーダー（装備されている場合）

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

⚠ 注意

検知センサーに関する注意事項の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト(FCA)」を参照してください。

設定



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **走行便利機能** > **高速道路走行アシスト**を選択または選択解除し、各機能を使用するかどうかを設定します。

基本機能

「**高速道路走行アシスト**」を選択すると、先行車両との車間距離の保持、設定速度の維持、車線中央走行をサポートします。

高速道路車線変更アシスト

装備されている場合

「**高速道路車線変更アシスト**」を選択すると、車線変更をサポートします。

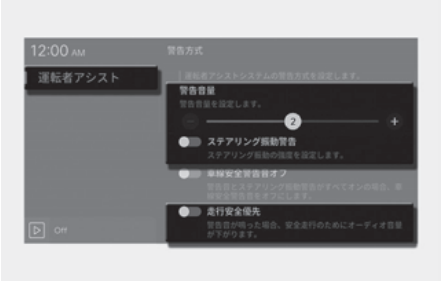
i 情報

- **高速道路走行アシスト**の選択が解除されている場合、**高速道路車線変更アシスト**の設定は変更できません。
- これらの機能に問題が発生すると、設定を変更できなくなります。弊社認定修理業者で車両を点検することを推奨します。
- 車両を再始動した場合は、前回の設定を維持します。

⚠ 警告

安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **走行安全優先**：運転者アシストシステムの警告音が鳴ると、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

作動

基本機能

作動状態の表示

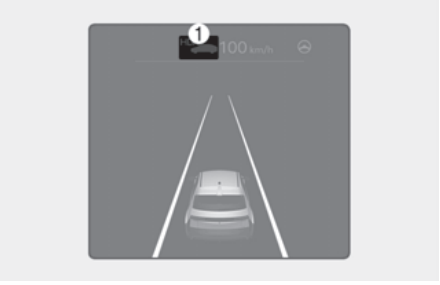
高速道路走行アシストの作動状態は、インストルメントクラスターの走行アシスト表示で確認できます。第4章の「表示モード表示モード」を参照してください。

高速道路走行アシストは、作動状態に応じて以下のように表示されます。

作動状態



作動待機中



1. 高速道路走行アシストインジケーターは、先行車両の有無、選択した車間距離レベルが表示されます。
   - 高速道路走行アシスト（HDA）インジケーター
     - 緑色点灯：作動状態
     - 灰色点灯：作動待機中
     - 白色点滅：アクセルペダルが踏まれている状態
     - 表示なし：OFF

2. 設定速度
3. 車線維持アシストインジケーター
4. 先行車両の有無、および選択されている車間距離
5. 車線検知の有無

i 情報

- 表示の詳細については、本章の「スマートクルーズコントロール（SCC）」および「車線維持アシスト（LFA）」を参照してください。
- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

作動

高速道路走行アシストは、次の場合に作動します。

- 高速道路の本線を走行中に、高速道路走行アシストのボタンを押して高速道路走行アシストを ON にした
- 車線維持アシストとスマートクルーズコントロールの動作中に、高速道路の本線に進入した。

停車後の再始動



高速道路走行アシストの作動中は、先行車両が停車すると、自車も停車します。停車後30秒以内に先行車両が発進した場合、自車も発進します。さらに、車両が停止して30秒が経過すると、「**前方車両発進時スイッチ/ペダルを操作してください**」というメッセージがインストルメントクラスターに表示されます。アクセルペダルを踏むか、+スイッチ、−スイッチ、またはRESスイッチを操作して発進してください。

ハンズオフ警告



運転者が数秒間ステアリングホイールから手を離すと、「**ステアリングを持ってください**」という警告メッセージが表示され、段階的に警告音が鳴ります。

第1段階：警告メッセージ

第2段階：警告メッセージ（赤色のステアリングホイール）と警告音



ハンズオフ警告後も運転者がステアリングホイールを両手で握らないでいる場合、「**高速道路走行アシストシステムが解除されました**」という警告メッセージが表示され、高速道路走行アシストと車線変更アシストが自動的に解除されます。

走行速度制限

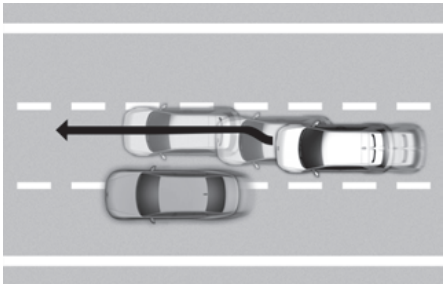


ハンズオフ警告によって高速道路走行アシストが解除されると、走行速度が制限されます。

走行速度制限機能が作動している間、「**ハンドル把持を検出できません。自動走行速度が制限されます**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに表示され、警告音が鳴り続けます。

車線内の片側に寄せた走行

装備されている場合



車速が60km/h以上の場合、検知した周囲の車両が近距離を走行していると、その車両と反対方向にステアリングホイール操作を制御し、安全走行をサポートします。両側の車線に接近して走行している車両が存在する場合は、車線の反対側に自車を寄せることはしません。

高速道路走行アシストの作動待機中状態

高速道路走行アシストシステムの作動中にスマートクルーズコントロールが一時的に解除された場合、高速道路走行アシストシステムは作動待機中の状態になります。このとき、車線維持アシストは通常通り作動します。

i 情報

- 走行速度制限機能により、60km/h 未満で走行するように支援されます。このとき、前走車がいると、車両が減速します。減速後に自動的に加速することはできません。
- 走行速度制限機能は、次の場合に解除されます。
  - 運転者がまたステアリングホイールを握ったとき
  - 運転者が車線走行アシスト（/）ボタンを押して車線維持アシストを ON にしたとき
  - +、−、RES スイッチまたは ボタンを操作したとき、またはアクセルペダルやブレーキペダルを踏んだとき

高速道路車線変更アシスト

装備されている場合

作動状態の表示

高速道路車線変更アシストの作動状態は、クラスターディスプレイの走行アシスト表示で確認できます。第4章の「表示モード表示モード」を参照してください。

高速道路車線変更アシスト機能は、機能状態に応じて以下のように表示されます。

準備完了または作動中状態



作動待機中または解除状態



1. 高速道路車線変更アシスト（ ）インジケーター
   - 緑色点灯：準備完了
   - 緑色点滅：作動状態
   - 灰色点灯：作動待機中
   - 白色点滅：解除状態（一定時間のみ表示）
2. 車線
   - 車線は、高速道路車線変更アシストインジケーター（1）と同じように表示されます。ただし、作動待機中の場合は、車線が検知されているかどうかが表示されます。
3. 緑色の矢印と陰影
   - 機能が作動開始してから一定時間が経過し、車線変更が完了するまでの間、緑色の矢印が表示されます。
4. メッセージ
   - ウィンカーレバーを使用してもこの機能が作動しない場合、メッセージが表示されます。
   - この機能が作動中に解除された場合、メッセージが表示されます。

高速道路車線変更アシスト ON

次の条件が満たされると、高速道路車線変更アシスト機能がONになります。

- 走行アシストボタンまたは車線走行アシストボタンを使用して、高速道路走行アシストを ON にすると、「**高速道路車線変更アシスト**」も ON になり、「**OK ボタンを押すと車線変更アシストがオンになります**」というメッセージがインストルメントクラスターに表示されます。

作動準備完了



高速道路車線変更アシスト機能がONになっていて、次の条件がすべて満たされた場合に、この機能は作動可能になります。

- 高速道路走行アシストが作動している
- 車線維持アシストが作動している
- 車両の電源が ON になった後で、自車の後方エリアに車両が複数回、検知された
- 車両速度が 70km/h を超えている。
- クラスターディスプレイにハンズオフ警告が表示されていない
- ハザードランプが OFF になっている

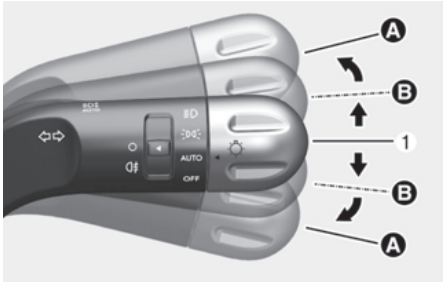
i 情報

- 車線変更アシスト機能が ON になっている（インジケーターが点灯している）間は、方向指示器またはハザードランプが点灯していても、車線維持アシストは解除されません。
- 次の道路状況で走行している場合、車線変更アシスト機能は自動的に OFF になります。
  - 車線数が 1 車線
  - 中央分離帯やガードレールなどの構造物がない道路
  - 前方の道路に歩行者や自転車に乗っている人がいる
- この機能が準備完了状態になり、車両速度が 65km/h を下回ると、作動待機中に変わります。
- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

⚠ 警告

高速道路車線変更アシストが作動中にOFFになると、ステアリングアシスト機能が一時的に解除されます。運転中は常に注意してください。

作動



高速道路車線変更アシスト機能は、準備完了状態（インジケーターが緑色）で、以下の条件をすべて満たしているときに、ウィンカーレバーを[A]または[B]の位置まで上下に操作すると作動します。

- 運転者がステアリングホイールに手をかけている
- 車線変更の方向に衝突リスクがない
- 車線変更の方向に一重の点線の車線がある
- 前方衝突防止アシストと後側方衝突防止アシストの警告がない
- 車両が車線の中央を走行している（車線の片側に寄って走行してはいけません）
- 走行中の道路、または車線を変更しようとしている道路が、この機能を使用できる道路である

i 情報

- ウィンカーレバーを［A］に入れた場合

  車線に入る前にウィンカーレバーを中央（1）に戻すと、高速道路車線変更アシストは解除されます。車線に入った後にウィンカーレバーを中央（1）に戻すと、高速道路車線変更アシストが車線を変更し、車線変更が完了すると方向指示器が消灯します。
- ウィンカーレバーを［B］の位置に入れた場合

  ウィンカーレバーを［B］の位置に一定時間入れると、緑色の矢印が表示されます。このとき、ウインカーレバーを離して元の位置（1）に戻しても、車線変更はアシストされます。

  この機能によって車線変更を行っている間は、ウィンカーレバーを持っていなくても方向指示器が点滅し、車線変更が完了すると消灯します。

作動待機中

高速道路車線変更アシスト機能は、準備完了状態の条件のいずれかが満たされていない場合、または次のいずれかの道路に進入している、または走行している場合に、作動待機中の状態になります。

- 高速道路の本線にある料金所から一定の距離内にある道路
- 前方の道路がインターチェンジやジャンクションなしで終わっている
- 急カーブのある道路
- 車線が狭い道路

解除

次の場合に機能が解除されます。

- ウィンカーレバーを［A］にして、高速道路車線アシスト作動中、車線に入る前に中央（1）に戻した
- ウィンカーレバーを、車線変更とは反対の方向に入れた
- ステアリングホイールが急激に操作した

⚠ 警告

- 機能の動作中に次のいずれかが起きると、機能は解除されます。
  - 高速道路走行アシストシステムをOFF にする
  - 車線維持アシストまたはスマートクルーズコントロールが OFF になるか、一時的に解除される
  - クラスターディスプレイにハンズオフ警告メッセージが表示される
  - ハザードランプが ON になる
  - 前方衝突防止アシストまたは後側方衝突防止アシストの警告メッセージが表示される
  - 前方衝突防止アシストと後側方衝突防止アシストの警告がないにもかかわらず、隣接車線での衝突の可能性が検知される
  - 車線変更先の車線が消失している
  - 方向指示器に問題が発生している
  - 高速道路車線変更アシストが OFF になっている。（OFF になる場合：インフォテインメントシステムでこの機能を OFF にした、道路が一車線道路に変わった、前方に交差点または横断歩道がある、中央分離帯やガードレールなどの構造物がない道路に進入した、走行車線に歩行者や自転車が存在する）
  - 車両速度が 65km/h を下回っている。
- この機能の動作中に機能解除された場合、運転状況により、車両は車線の中央を走行することがあります。また、ステアリングアシスト機能も停止することがあります。運転中は常に道路や走行状況に注意してください。
- この機能は、交差点や横断歩道など、歩行者や自転車が通行している道路では正しく作動しないことがあります。運転中は常に道路や走行状況に注意してください。

故障と制約

故障





高速道路走行アシストが正常に作動していない場合は、インストルメントクラスターに「**運転者アシストシステムを点検してください**」およびマスター⚠警告灯が表示されます。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- 運転者は、安全運転のために車両を制御する責任があります。
- 運転中は常時、両手でステアリングホイールを握ってください。
- 高速道路走行アシストは、車両運転時に運転者をサポートするための補助機能であり、完全な自動運転システムではありません。常に道路状況を確認し、必要に応じて、安全運転のための適切な行動を取ってください。
- 常に道路から目を離さず、交通法規に違反しないようにするのは運転者の義務です。車両メーカーは、運転者が引き起こした交通違反や交通事故に対して一切責任を負いません。
- 高速道路走行アシストシステムは、すべての交通状況を認識できるわけではありません。高速道路走行アシストは、機能の制限により、衝突の可能性を検知しないことがあります。常に、この機能の制約に注意してください。車両、バイク、自転車、歩行者、不特定の物体、ガードレールや料金所といった構造物などの車両と衝突する可能性のある障害物が検知されないことがあります。
- 次の状況のとき、高速道路走行アシストは自動的に OFF になります。
  - サービスエリア、交差点、ジャンクションなど、高速道路走行アシストが作動しない道路を走行している
  - ナビゲーションがアップデート中または再始動中など、適切に作動していない
- 高速道路走行アシストは、道路状況（ナビゲーション情報）や周囲の状況によっては、意図せずに作動したり OFF になったりすることがあります。
- 車線維持アシスト機能は、フロントビューカメラが車線を正しく検知できない場合や、ハンズオフ警告が点灯している場合に、一時的に解除されることがあります。
- 周囲の騒音が大きい場合、高速道路走行アシストの警告音が聞こえないことがあります。
- 一定速度を以上の速い速度でカーブを運転すると、車両が片側に寄ったり、走行車線から逸脱したりする場合があります。
- トレーラーや他の車両をけん引する場合は、安全のため必ず高速道路走行アシストを OFF にしてください。
- ハンズオフ警告メッセージは、ステアリングホイールの握り方や道路状況によって、早く表示されたり遅く表示されたりする場合があります。運転中は常時、両手でステアリングホイールを握ってください。
- 安全のため、高速道路走行アシストを使用する前に、取扱説明書をお読みください。
- 高速道路走行アシストは、車両が始動されたときや、検知センサーまたはナビゲーションが初期化されているときは、動作しません。

制約

高速道路走行アシストは、次の状況において正しく作動しない場合や、作動しない場合があります。

- ナビゲーションがアップデートされていないため、地図情報と実際の道路が異なっている
- リアルタイムの GPS データまたは地図情報にエラーがあり、地図情報と実際の道路が異なっている
- 経路検索、音声認識などの機能を同時に実行しており、インフォテインメントシステムに負荷がかかりすぎている。
- トンネルなどの場所で、GPS 信号が遮られている
- 運転者がコースから外れた、または、ナビゲーションの初期化により目的地までの経路が変更もしくはキャンセルされた。

- 車両がサービスステーションまたはサービスエリアに入った
- Android Auto または CarPlay が動作している
- ナビゲーションが現在の車両位置を検知できない（例えば、一般道路に隣接する陸橋を含む高架道路や、近隣の道路が並行して存在する）
- 白色の一重の点線の車線または路肩を検知できない
- 工事などのため、道路が一時的に規制されている
- 道路に中央分離帯やガードレールなどの構造物がない
- 車線変更の方向に変更可能な車線がある
- トレーラーまたはキャリアを取り付けている。

i 情報

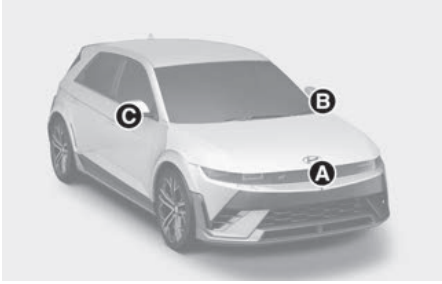
フロントカメラ、フロントレーダー、フロントコーナーレーダーおよびリアコーナーレーダーの制約の詳細については、本章の「前方衝突防止アシスト（FCA）」を参照してください。

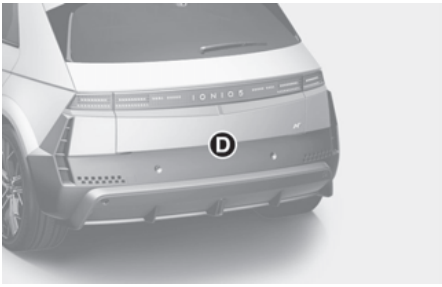
サラウンドビューモニター（SVM）

装備されている場合

サラウンドビューモニターは、ワイドビューカメラを使用し、インフォテインメントシステムの画面に車両周辺の映像を表示し、安全な駐車や運転をアシストします。

検知センサー



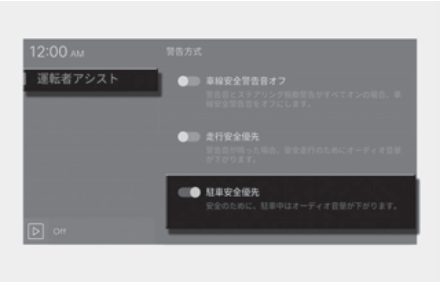


[A] ワイドフロントビューカメラ
[B] ワイドサイドビューカメラ（アウトサイドミラー下）
[C] ワイドサイドビューカメラ（アウトサイドミラー下）
[D] ワイドリアビューカメラ

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

設定

警告方式



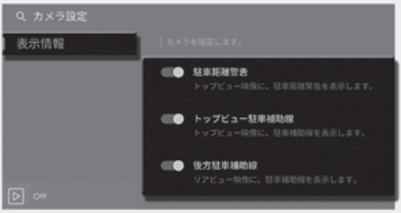
車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **駐車安全優先**：サラウンドビューモニターが作動している場合、車両は他のすべてのオーディオ音量を下げます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

カメラ設定



- サラウンドビューモニターの「**表示情報**」を変更するには、サラウンドビューモニターの作動中に画面上の設定アイコン（⚙）をタッチするか、車両の電源を ON にした状態でインフォテインメントシステムの**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全** > **カメラ設定**を選択します。
- 「**表示情報**」では、**駐車距離警告**、**トップビュー駐車補助線**、**後方駐車補助線**の設定を変更できます。

駐車距離警告

駐車距離警告を選択すると、サラウンドビューモニター画面の右側に駐車距離警告が表示されます。

トップビュー駐車補助線

トップビュー駐車補助線を選択すると、フロントトップビューおよびリアトップビューを表示した際に、サラウンドビューモニター画面のトップビューエリアに駐車ガイドラインが表示されます。

- 駐車距離警告が運転者に警告している場合にのみ、映像が表示されます。

i 情報

リアトップビュー駐車ガイダンスの水平ガイドラインは、車両から2mのテールゲート開口距離を示しています。

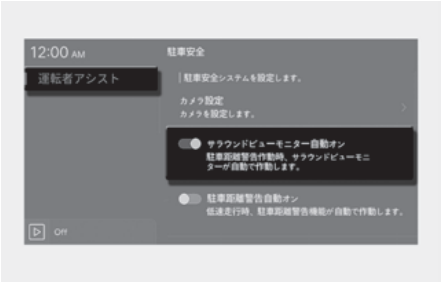
後方駐車補助線

後方駐車補助線を選択すると、リアビューに駐車補助線が表示されます。

i 情報

水平ガイドラインは、0.5m、1m、2.3mの距離を示しています。

サラウンドビューモニター自動オン



この機能を使用するには、車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全** > **サラウンドビューモニター自動オン**を選択します。

i 情報

サラウンドビューモニター自動オンの詳細については、本章の「サラウンドビューモニター(SVM)作動」を参照してください。

作動

パーキング / ビューボタン



パーキング/ビューボタン(1)を押すと、サラウンドビューモニターがONになります。

OFFにするには、再度ボタンを押します。

フロントビュー



シフトがN(ニュートラル)またはD(ドライブ)に入っているときに、画面にフロントビューが表示され、駐車をサポートします。

ビュー変更ボタン(2)を使用すると、トップビュー、フロントビュー、サイドビュー、3Dビューを選択できます。

作動条件

- シフトが R（リバース）から N（ニュートラル）または D（ドライブ）にシフトチェンジされ、車両速度が 10km/h 以下である。
- シフトが P（パーキング）、N（ニュートラル）、D（ドライブ）の状態で、車両速度が 10km/h 以下のときに、パーキング / ビューボタン（1）を押した。
- **サラウンドビューモニター自動オン**機能が作動している。

  インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全** > **サラウンドビューモニター自動オン**を選択すると、駐車中にフロントビューが表示されます。
- サラウンドビューモニター画面のビュー切り替えボタン（2）を押すことで、トップビュー、フロントビュー、サイドビュー、ワイドビューを選択できます。

i 情報

フロントビューを有効にすると、前回使用したビューモードが表示されます。

OFF の条件

- シフトを N（ニュートラル）または D（ドライブ）から P（パーキング）または R（リバース）にシフトチェンジした。
- パーキング / ビューボタン（1）またはインフォテインメントシステムボタン（4）を押した。
- 車両速度が 10km/h を超えた。
- 前に戻る（3）ボタンを選択した。

i 情報

車速が10km/hを超えると、サラウンドビューモニターがOFFになることがあります。ただし、減速して10km/hを下回っても、サラウンドビューモニターが再びONにならない場合があります。

リアビュー



リアビューが画面に表示され、駐車をサポートします。

ビュー変更ボタン(2)を使用すると、トップビュー、リアビュー、サイドビュー、3Dビューを選択できます。

作動条件

- シフトが R（リバース）に入っている。
- シフトが P（パーキング）、N（ニュートラル）または D（ドライブ）の状態で、車両速度が 10km/h 以下のときに、パーキング / ビューボタン（1）を押してからビュー変更ボタン（2）でリアビューを選択した。

OFF の条件

シフトがP(パーキング)、N(ニュートラル)、D(ドライブ)のときに以下を実行した場合

- パーキング / ビューボタン（1）またはインフォテインメントシステムボタン（4）を押した。
- N（ニュートラル）または D（ドライブ）から P（パーキング）にシフトチェンジした。
- サラウンドビューメニューで戻る（<）ボタン（3）が選択された。
- 車両速度が 10km/h（6mph）を超えている。

シフトがR(リバース)のときに以下を実行した場合

- シフトが P（パーキング）に入った。

i 情報

- シフトが R（リバース）の場合、インフォテインメントシステムボタン（4）を押しても、リアビューはオフになりません。
- リアビューを有効にすると、前回使用したビューモードが表示されます。

走行中フロントビュー

運転者は画面のフロントビューを確認することで安全に走行できます。

走行中、ビュー変更ボタン(2)を使用してリアビューを選択できます。

作動条件

- シフトが N（ニュートラル）、または D（ドライブ）の状態で、速度が 10km/h を超えているときに、パーキング / ビューボタン（1）を押した。

OFF の条件

- パーキング / ビューボタン（1）またはインフォテインメントシステムボタン（4）を押した。
- シフトを N（ニュートラル）または D（ドライブ）から P（パーキング）または R（リバース）にシフトチェンジした。
- 前に戻る（<）（3）ボタンを選択した。

i 情報

- 走行中フロントビューをオンにすると、前回使用したビューモードが表示されます。
- 走行中フロントビューは、一度オンにすると車両速度が 10km/h を下回ってもオフになりません。
- 走行中フロントビューをオンにすると、フロントトップビューとサイドビューは全車速においてオフになります。走行中リアビュー

走行中リアビュー

これにより後退時に運転者をアシストします。

作動条件

- シフトが N（ニュートラル）または D（ドライブ）の状態で、車両速度が 10km/h を超えているときに、パーキング / ビューボタン（1）を押してからビュー変更ボタン（2）でリアビューを選択した。

ビュー変更ボタン(2)を使用してリアビューまたは3Dビューを選択できます。

OFF の条件

- シフトが P（パーキング）に入った。
- パーキング / ビューボタン（1）またはインフォテインメントシステムボタン（4）を押した。

i 情報

- 走行中リアビューをオンにすると、前回使用したビューモードが表示されます。
- リアビューパーキングラインは、走行中リアビューでは作動しません。
- 走行中リアビューは、一度オンにすると車両速度が 10km/h を下回ってもオフになりません。
- 走行中リアビューをオンにすると、リアトップビューとリアサイドビューは全車速においてオフになります。

3D ビュー



3Dビューは、さまざまな角度からの車両周辺の映像を表示します。

画面をタップすることで角度を変更できます。再度3Dビューボタンを押すと、最初の角度に戻ります。

作動条件

ビュー変更ボタン(2)を押して3Dビューを選択しているときに、以下を実行した場合

- 車両速度が 10km/h を下回る状態で、シフトを P（パーキング）、N（ニュートラル）または D（ドライブ）に入れた。
- シフトが R（リバース）のときにサラウンドビューモニターを ON にした。

OFF の条件

シフトがP(パーキング)、N(ニュートラル)、D(ドライブ)のときに以下を実行した場合

- シフトを N（ニュートラル）または D（ドライブ）から P（パーキング）にシフトチェンジした。
- パーキング / ビューボタン（1）またはインフォテインメントシステムボタン（4）を押した。
- 車両速度が 10km/h を超えた。

シフトがR(リバース)のときに以下を実行した場合

- シフトを P（パーキング）に入れた。

i 情報

- 3D ビューではガイドラインが表示されません。
- フロント / リアビューまたは 3D ビューで表示されるトップビュー画面は、4 つの広角カメラから入力された元の映像を車両を見下ろした 360 度映像に変換して表示したものです。
- トップビューは、フロント / リアワイドビューでは表示されません。
- トップビューエリア内でピンチイン / アウトすることでトップビューを拡大 / 縮小できます。

故障と制約

故障

サラウンドビューモニターが正常に作動しない、画面がちらつく、カメラ映像が適正に表示されないなどの場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

制約

- 冬季に長時間停車したり屋内駐車場に駐車したりすると、排気ガスにより一時的に映像がぼやけることがあります。
- 以下の状況において、画面が正常に表示されなかったり、画面の左上にアイコンが表示されたりする場合があります。
  - テールゲートが開いている
  - 運転席または助手席のドアが開いている
  - アウトサイドミラーが格納されている。

⚠ 警告

- 車両を動かす前に、必ず周囲を見て、物や障害物がないことを確認してください。画面で見ているものが実際の車両の位置とは異なっている場合があります。
- 画面上の映像は、対象物からの実際の距離とは異なる場合があります。安全のため、車両の周囲を直接確認してください。
- サラウンドビューモニターは、平坦な場所で使用するように設計されています。そのため、縁石やスピードバンプなど高低差のある道路で使用すると、画面の画像が適切に表示されないことがあります。
- カメラのレンズは常にきれいにしておいてください。レンズが異物で覆われていると、カメラの性能に悪影響を及ぼして、サラウンドビューモニターが正しく動作しないおそれがあります。ただし、高アルカリ性または揮発性有機溶剤（ガソリンやアセトンなど）が含まれる強力な洗浄剤などの化学溶剤は使用しないでください。カメラのレンズが損傷するおそれがあります。

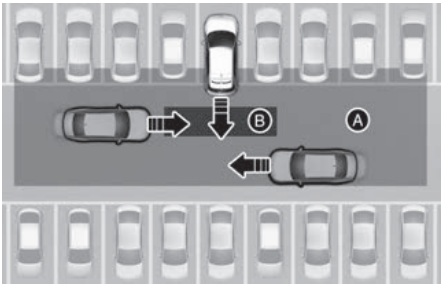
i 情報

サラウンドビューモニターは、車両に設置されたカメラを使って、インフォテインメントシステムの画面を通して車両周辺の映像を表示します。周囲の環境によっては、画面に表示される映像が不自然に見える場合があります。

斜め後方衝突防止アシスト（RCCA）

装備されている場合

斜め後方衝突防止アシストは、車両後退時に左側後方または右側後方から近づいてくる車両を検知し、衝突の可能性を警告メッセージと警告音で運転者に知らせます。また、衝突を回避するために車両のブレーキをアシストします。



[A] 斜め後方衝突警告の動作範囲
[B] 斜め後方衝突防止アシスト動作範囲

⚠ 注意

警告タイミングは、近づいてくる車両の速度によって異なる場合があります。

検知センサー



[A] リアコーナーレーダー
検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

i 情報

リアコーナーレーダーに関する注意事項の詳細については、本章の「後側方衝突防止アシスト(BCA)後側方衝突防止アシスト(BCA)」を参照してください。

設定

斜め後方安全



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全** > **斜め後方安全**を選択すると、斜め後方衝突防止アシストがONになり、選択解除するとOFFになります。

⚠ 警告

車両を再始動した際は必ず、斜め後方衝突防止アシストがONになります。車両の再始動後に「OFF」を選択した場合、運転者は常に周囲に注意を払い、安全運転を心がける必要があります。

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。
- **ステアリング振動警告**（装備されている場合）：ステアリングホイールの振動を設定できます。

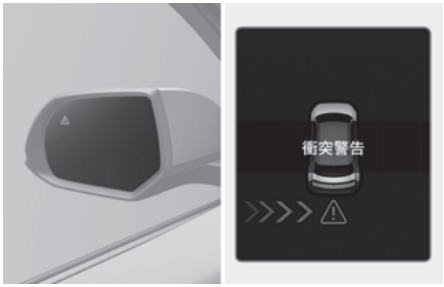
i 情報

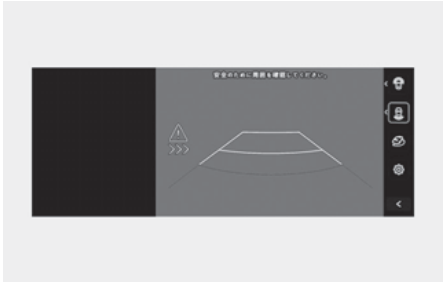
- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。
- **警告音量**と**ステアリング振動警告**を同時に OFF させることはできません。一方の警告が OFF になると、もう一方の警告が ON になります。

作動

斜め後方衝突防止アシストは、衝突の危険性に応じて警告し、車両の制御をサポートします。これには「衝突警告」、「緊急ブレーキ」、「車両の停止およびブレーキ制御の解除」が含まれます。

衝突警告





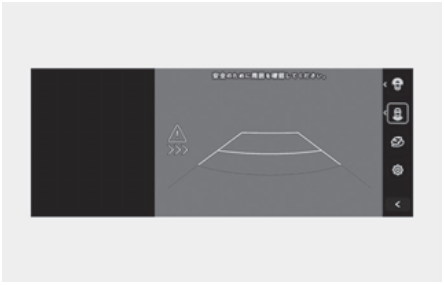
- 自車の左側後方または右側後方から車両が近づいていることを運転者に警告するために、アウトサイドミラーの警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに警告が表示されます。同時に、警告音が鳴ります。リアビューモニターが作動しているときは、インフォテインメントシステム画面にも警告が表示されます。
- 斜め後方衝突防止アシストは、次の条件がすべて満たされた場合に作動します。
  - シフトが R（リバース）に入っている
  - 車両速度が 8km/h を下回っている
  - 近づいてくる車両が、自車の左右側面から約 25m 以内のところにいる
  - 左側または右側から近づいてくる車両の速度が 5km/h を超えている

i 情報

- 作動条件が満たされると、たとえ自車の速度が 0km/h であっても、車両が左側または右側から近づいてくると警告が発せられる場合があります。
- インストルメントクラスターの画像や色は、メーターのタイプや、インフォテインメントシステムで選択したテーマによって異なる場合があります。

緊急ブレーキ





- 自車の左側後方または右側後方から車両が近づいていることを運転者に警告するために、アウトサイドミラーの警告灯が点滅し、インストルメントクラスターに警告メッセージが表示されます。同時に、警告音が鳴ります。インフォテインメントシステムにも警告が表示されます。
- 緊急ブレーキは、左側または右側から近づいてくる車両との衝突を防ぐようにアシストします。
- 斜め後方衝突防止アシストは、次の条件がすべて満たされた場合に作動します。
  - シフトが R（リバース）に入っている
  - 車両速度が 8km/h を下回っている
  - 近づいてくる車両が、自車の左右側面から約 1.5m 以内のところにいる
  - 左側または右側から近づいてくる車両の速度が 5km/h を超えている
  - 緊急ブレーキが左側または右側から近づいてくる車両との衝突を防ぐようにアシストしている

⚠ 警告

ブレーキ制御は、次の場合に終了します。

- 近づいてくる車両が検知範囲外にある
- 近づいてくる車両が自車の後ろを通った
- 近づいてくる車両が自車に向かって走行していない
- 近づいてくる車両が減速した
- 運転者が十分な力でブレーキペダルを踏んだ

車両の停止およびブレーキ制御の解除



- 緊急ブレーキにより車両が停止すると、クラスターディスプレイに「**注意して運転してください**」という警告メッセージが表示されます。
- 安全のため、運転者は直ちにブレーキペダルを踏み、周囲を確認する必要があります
- ブレーキ制御は、緊急ブレーキにより車両が約 2 秒間停止した後に解除されます。
- 緊急ブレーキ時に、運転者がブレーキペダルを過度に踏み込むと、斜め後方衝突防止アシストによるブレーキ制御は、自動的に解除されます

⚠ 警告

斜め後方衝突防止アシストを使用する場合は、次の点を守ってください。

- 安全のため、車両を安全な場所に駐車してから設定を変更してください。
- 他のシステムの警告メッセージが表示されているか、警告音が鳴っている場合は、斜め後方衝突防止アシストの警告メッセージが表示されなかったり、警告音が鳴らなかったりすることがあります。
- 周囲の騒音が大きい場合、斜め後方衝突防止アシストの警告音が聞こえないことがあります。
- 運転者が衝突を回避しようとしてブレーキペダルを踏んだ場合、斜め後方衝突防止アシストは作動しないことがあります。
- 斜め後方衝突防止アシストの作動中は、車両が急停止して乗員がけがをしたり、固定されていない物が移動したりするおそれがあります。必ずシートベルトを着用し、物は固定してください。
- 斜め後方衝突防止アシストに問題がある場合でも、車両の基本的なブレーキ機能は正常に働きます。
- 斜め後方衝突防止アシストの作動中に運転者がアクセルペダルを過度に踏み込むと、この機能によるブレーキ制御は自動的に解除されます。
- 斜め後方衝突防止アシストは、あらゆる状況下で作動するとは限らず、すべての衝突を回避できるわけではありません。
- 道路状況や運転条件によっては、斜め後方衝突防止アシストによる運転者への警告が遅れたり、行われなかったりすることがあります。
- 周囲の状況に注意して、安全な運転を心がけてください。斜め後方衝突防止アシストだけに頼らないでください。むしろ、安全な制動距離を維持し、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速したり、停車したりしてください。
- 絶対に、人、動物、物体などに対して故意に斜め後方衝突防止アシストを作動させないでください。重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

車体姿勢制御機能(ESC)の作動状態によっては、ブレーキ制御が正常に作動しない場合があります。

次の場合、警告のみが行われます。

- 車体姿勢制御機能（ESC）警告灯が点灯している
- 車体姿勢制御機能（ESC）が別の機能に使われている

i 情報

斜め後方衝突防止アシストによってブレーキがアシストされた場合、運転者はすぐにブレーキペダルを踏み、車両の周囲を確認する必要があります。

- 運転者が十分な力でブレーキペダルを踏むと、ブレーキ制御は終了します。
- シフトを R（リバース）に入れた後で、左側または右側の車両の接近に対して一度、ブレーキ制御が動作します。

故障と制約

故障



斜め後方衝突防止アシストが正常に作動していない場合、インストルメントクラスターに「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、マスター⚠警告灯が点灯します。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。



アウトサイドミラー警告灯が正常に作動していない場合、インストルメントクラスターに「**サイドミラーの警告灯を点検してください**」という警告メッセージが数秒間表示され、メーターにマスター⚠警告灯が点灯します。このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

解除



後方レーダーの周りのリアバンパーやセンサーが雪や雨などの異物で覆われている場合や、トレーラーやキャリアが取り付けられている場合は、検知性能が低下し、斜め後方衝突防止アシストが一時的に制限されたり解除されたりすることがあります。

こうしたことが起こると、「**レーダー検出制限！運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに表示されます。

異物の除去、またはトレーラーなどの取り外しを行うと、斜め後方衝突防止アシストは正常に作動するようになります。

異物を除去しても斜め後方衝突防止アシストが正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

- クラスターディスプレイに警告メッセージが表示されていなくても、斜め後方衝突防止アシストが正しく動作しない場合があります。
- 斜め後方衝突防止アシストは、車両の電源を ON にした状態でも物体が検知されない場所（平坦で見通しの良い場所など）では、正常に作動しない可能性があります。

⚠ 注意

トレーラーやキャリアなどのアタッチメントの取り付けや取り外しを行う際は、斜め後方衝突防止アシストをOFFにしてください。作業が終了したら、斜め後方衝突防止アシストをONにしてください。

制約

次の場合、斜め後方衝突防止アシストは、正常に作動しなかったり、突然作動したりすることがあります。

- 木や草が生い茂っている場所から離れる
- 濡れた道路から離れる
- 近づいてくる車両の速度が速い、または遅い

次のような場合、ブレーキ制御が作動しないことがあるため、運転者が注意を払う必要があります。

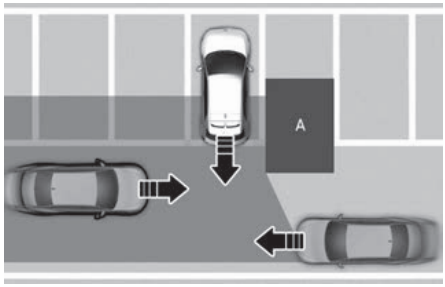
- 凹凸の激しい道路、平坦でない道路、またはコンクリートパッチの上を走行中に車両が激しく振動する
- 雪、水たまり、氷が原因で滑りやすい路面を走行している
- タイヤ空気圧が低い、またはタイヤが損傷している
- ブレーキシステムが改造されている
- リモートスマートパーキングアシストが動作している（装備されている場合）

i 情報

リアコーナーレーダーの制約の詳細については、本章の「後側方衝突防止アシスト(BCA)後側方衝突防止アシスト(BCA)」を参照してください。

⚠ 警告

- **車両や構造物の近くでの走行**

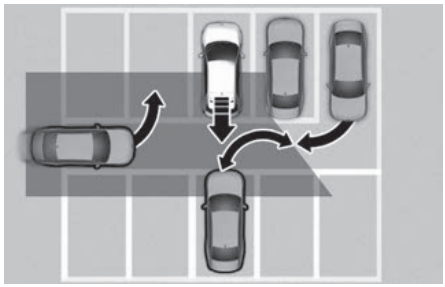


[A] 構造物

斜め後方衝突防止アシストは、車両や構造物の近くを走行するときに機能が制限されたり、左右から近づいてくる車両を検知しなかったりする場合があります。その場合、運転者への警告が行われず、必要に応じたブレーキの制御も行われないことがあります。

後退時は常に周囲を確認してください。

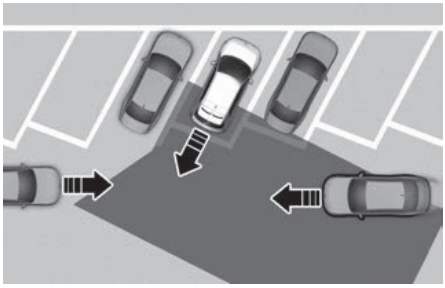
- **車両が入り組んだ駐車環境にある場合**



斜め後方衝突防止アシストは、自車の近くで駐車場に入る車両や駐車場から出る車両（自車の隣から出発する車両、後方で駐車場に出入りする車両、自車に近づきながら進路変更する車両など）を検知することがあります。その場合、不必要に運転者への警告が行われ、ブレーキが制御されることがあります。

後退時は常に周囲を確認してください。

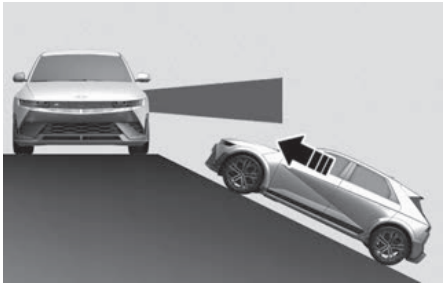
- **車両を斜めに駐車する場合**



斜め後方衝突防止アシストは、斜めに後退するときに機能が制限され、左右から近づいてくる車両を検知しない場合があります。その場合、運転者への警告が行われず、必要に応じたブレーキの制御も行われないことがあります。

後退時は常に周囲を確認してください。

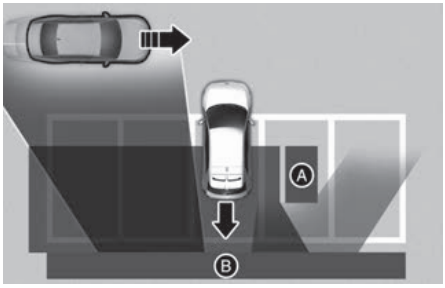
- **車両が坂道上または坂道の近くにある場合**



斜め後方衝突防止アシストは、車両が上り坂または下り坂にある、または坂の近くにあるときに機能が制限され、左右から近づいてくる車両を検知しない場合があります。その場合、運転者への警告が行われず、必要に応じたブレーキの制御も行われないことがあります。

後退時は常に周囲を確認してください。

- **構造物がある駐車スペースへの入庫**

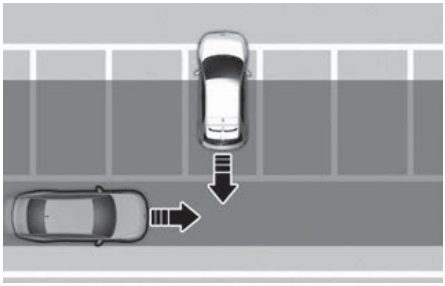


[A] 構造物
[B] 壁

斜め後方衝突防止アシストは、後方または横に壁や構造物のある駐車スペースに後退駐車しているときに自車の前を通過する車両を検知する場合があります。その場合、不必要に運転者への警告が行われ、ブレーキが制御されることがあります。

後退時は常に周囲を確認してください。

- **車両を後ろ向きに駐車する場合**



斜め後方衝突防止アシストは、駐車スペースに後退駐車しているときに自車の後ろを通過する車両を検知する場合があります。その場合、不必要に運転者への警告が行われ、ブレーキが制御されることがあります。

後退時は常に周囲を確認してください。

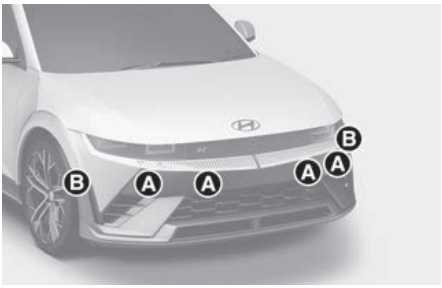
⚠ 警告

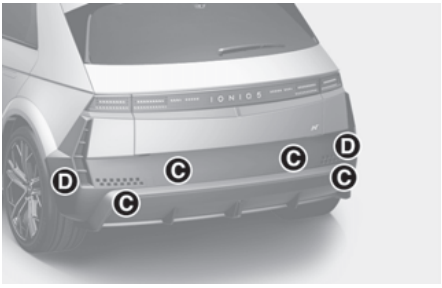
- トレーラーをけん引する場合は、安全のため必ず斜め後方衝突防止アシストを OFF にしてください。
- 斜め後方衝突防止アシストは、強い電磁波の干渉を受けた場合、正常に作動しないことがあります。
- 斜め後方衝突防止アシストは、車両の始動後またはリアコーナーレーダーの初期化後 3 秒間は作動しないことがあります。
- センサーが遮られたり誤作動している状態で車両の電源を OFF にして再始動しても、その状態が維持されます。そのため、斜め後方衝突防止アシストが正しく作動しない可能性があります。

前方 / 側方 / 後方車間距離警報（PDW）

前方/側方/後方車間距離警報は、フロント、サイド、リアの超音波センサーを使用して、自車が停止しているとき、または低速で走行しているときに、人、動物、または物体が一定の距離内にある場合に検出して警告します。

検知センサー



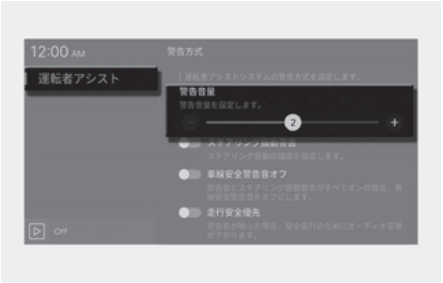


[A] フロント超音波センサー
[B] フロントサイド超音波センサー
[C] リアサイド超音波センサー
[D] リア超音波センサー

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

設定

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

駐車距離警告自動 ON

自動PDW(駐車距離警告)機能を使用するには、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両**> **運転者アシスト** > **駐車安全** > **駐車距離警告自動オン**を選択します。

i 情報

駐車距離警告自動ONを選択すると、パーキングセーフティ(P)ボタン表示灯が点灯したままになります。

作動

パーキングセーフティボタン



パーキングセーフティ(P)ボタンを押すと、前方/後方車間距離警報がONになります。OFFにするには、再度ボタンを押します。

- シフトを R（リバース）に入れると、車間距離警報が自動的に ON になります（パーキングセーフティボタンの表示灯が点灯します）。

前方車間距離警報

前方車間距離警報は以下の条件で作動します。

- 後方車間距離警報が ON になっていて、シフトを R（リバース）から D（ドライブ）にシフトした。
- シフトが D（ドライブ）に入っていて、パーキングセーフティ（P）ボタンのインジケーターが点灯している。
- 機能が OFF のときに、D（ドライブ）にシフトチェンジした。

  （インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全** > **駐車距離警告自動オン**が選択されている場合のみ）

i 情報

- 前方車間距離警報は、車両の前進速度が 10km/h を下回っているときにのみ作動します。
- 前方駐車距離警報は、車速が 30km/h を超えると解除されます。10km/h 以下に減速しても再作動しない場合があります。

  (インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全** > **駐車距離警告自動オン**が選択されていない場合のみ)

対象からの距離	警告インジケータ		警告音
	クラスターディスプレイ	インフォテインメント	
60-120 cm			断続的にブザーが鳴る(前方内側)
30-60cm			高頻度でブザーが鳴る
30cm 以内			連続してブザーが鳴る

- 各超音波センサーが検知範囲内の人や物体を検知するたびに、対応する表示灯が点灯します。また、警告音も鳴ります。
- 同時に 2 つ以上のものが検知された場合、最も近いものについて警告音で知らせます。
- 図の表示灯の形は、実際の車両のものとは異なる場合があります。
- 前方外側の警告は、シフトが R（リバース）のときに ON になります。

側方車間距離警報

側方車間距離警報は以下の条件で作動します。

- シフトが R（リバース）に入っている。
- シフトを R（リバース）から D（ドライブ）にシフトチェンジした。
- シフトが D（ドライブ）に入っていて、パーキングセーフティ（P）ボタンのインジケーターが点灯している。
- 機能が OFF のときに、D（ドライブ）にシフトチェンジした。

  (インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全** > **駐車距離警告自動オン**が選択されている場合のみ)

i 情報

- 側方車間距離警報は、車両の前進速度が 10km/h 以下の場合に作動します。
- 側方車間距離警報は、前方または後方車間距離警報が ON の場合にのみ作動します。

対象からの距離	警告インジケータ		警告音
	クラスターディスプレイ	インフォテインメント	
60-120 cm			-
30-60cm			-
30cm 以内			連続してブザーが鳴る

- 各超音波センサーが検知範囲内の人や物体を検知するたびに、対応する表示灯が点灯します。
- 車両の進路側面から 30cm 以内にある物体を検知すると、警告音が鳴ります。

- 車両進路の外側に物体が検知された場合、警告表示灯が点灯します。
- 図の表示灯の形は、実際の車両のものとは異なる場合があります。

後方 / 側方車間距離警報

後方/側方車間距離警報は、以下の条件で作動します。

- シフトがR（リバース）に入っている。

i 情報

側方車間距離警報は、前方または後方車間距離警報がONの場合にのみ作動します。

対象からの距離	警告インジケータ		警告音
	クラスターディスプレイ	インフォテインメント	
60-120 cm			断続的にブザーが鳴る
30-60 cm			高頻度でブザーが鳴る
30cm 以内			連続してブザーが鳴る

- 各超音波センサーが検知範囲内の人や物体を検知するたびに、対応する表示灯が点灯します。また、警告音も鳴ります。
- 同時に 2 つ以上のものが検知された場合、最も近いものについて警告音で知らせます。
- 図の表示灯の形は、実際の車両のものとは異なる場合があります。

故障と制約

故障

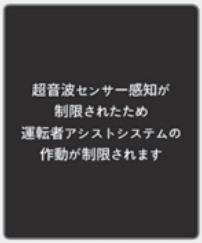
車両の始動後、シフトをR(リバース)に入れるとブザーが鳴り、車間距離警報が適正に作動していることを知らせます。

ただし、以下のいずれか1つでも該当する場合は、まず、超音波センサーが損傷していないか、異物によって遮られていないかを点検してください。点検後も適正に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

- 警告音が鳴らない。
- ブザーがとぎれとぎれに鳴る。
- 「**運転者アシストシステムを点検してください。**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに表示されている。



解除



このような場合、インストルメントクラスターに「**超音波センサー感知が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージが表示されます。雪、雨または異物が取り除かれると、車間距離警報は適正に作動するようになります。障害物(雪、雨または異物など)を取り除いた(トレーラー、キャリアなどをリアバンパーから取り外すことを含む)後も車間距離警報が適正に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

i 情報



駐車距離警告の作動中に、この機能が正常に作動していない場合や、超音波センサーが遮られている場合は、マスター(⚠)警告灯が該当するセンサーの方向に表示されます。この警告はクラスターディスプレイのユーティリティビューで確認できます。

制約

- 次の場合は、車間距離警報が適正に作動しないことがあります。
  - センサーに過度の水滴または霜が付着している。
  - センサーが雪や水などの異物で遮られている。(該当するものを取り除くと車間距離警報が適正に作動します)
  - 気温が極端に高いまたは低い
  - センサーまたはセンサー本体が分解された。
  - センサーの表面が強い力で押された、または、硬いもので衝撃を受けた。
  - センサーの表面が鋭利なもので傷ついた。
  - センサーやセンサーの周辺部分に高圧洗浄機を直接噴射した。
- 次の場合は、車間距離警報が誤作動を起こすことがあります。
  - 大雨、または水が噴霧されている。
  - センサーの表面に水が流れている。
  - 他の車両のセンサーの影響を受けている。
  - センサーが雪や氷で覆われている。
  - でこぼこ道、砂利道、茂みを走行している。
  - 超音波を発生させるものがセンサーの近くにある。
  - 元の位置とは違うところにナンバープレートが取り付けられている。
  - 車両のバンパーの高さ、または超音波センサーの取り付け位置が変わった。
  - 超音波センサーの隣に装備やアクセサリーが取り付けられている。

- 次のようなものは検知されないことがあります。
  - ロープ、チェーン、小さなポールなど、鋭利なものや細いもの
  - 角柱の角などの細長い物体
  - 布、スポンジ状の素材、雪など、センサーの周波数を吸収する傾向のあるもの。
  - 長さが 100cm より短く、直径が 14cm より小さいもの。
  - 超音波センサーにとても近いところに存在する歩行者、動物、物体
  - フロントサイド超音波センサーとリアサイド超音波センサーの間のサイドスペースにある物体、またはサイドスペースに接近する物体

⚠ 警告

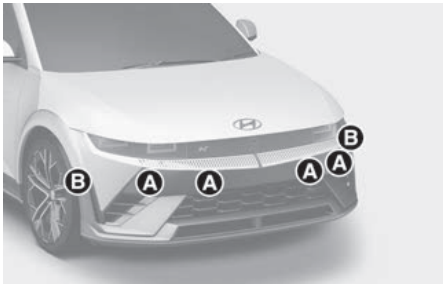
- 車間距離警報は、補助的な機能です。車間距離警報の動作は、複数の要因（環境条件を含む）からの影響を受けることがあります。駐車する前と駐車しているときに必ずフロントビューとリアビューを確認するのは運転者の責任です。
- 車間距離警報の誤作動による事故および車両の損傷は、新車保証の対象外です。
- 物体や歩行者（特に子供）の近くで運転するときは、細心の注意を払ってください。物体の距離やサイズ、材質により超音波センサーの有効性が制限される場合があるため、検知されないものもあります。
- 車間距離警報は、検知した順に警告するものではありません。車両の速度や人、動物、物体の形状によって異なります。
- 車間距離警報が正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

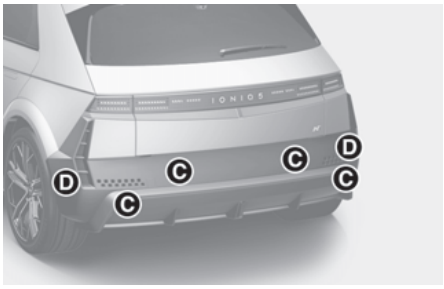
前方 / 側方 / 後方駐車衝突防止アシスト（PCA）

装備されている場合

前方/側方/後方駐車衝突回避アシストは、低速走行時に歩行者や物体と衝突する可能性を減らすために、運転者に警告したり、ブレーキを補助したりします。

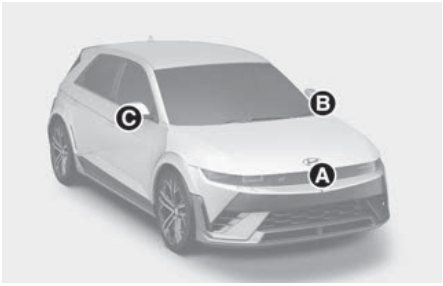
検知センサー

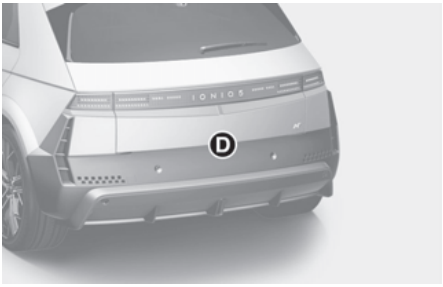




[A] フロント超音波センサー
[B] フロントサイド超音波センサー
[C] リアサイド超音波センサー
[D] リア超音波センサー

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。



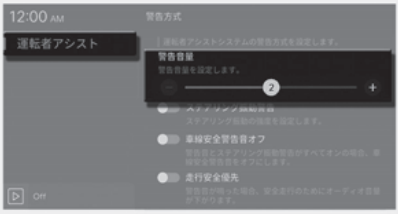


[A] ワイドフロントビューカメラ
[B] ワイドサイドビューカメラ（アウトサイドミラー下）
[C] ワイドサイドビューカメラ（アウトサイドミラー下）
[D] ワイドリアビューカメラ

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

設定

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムで**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

駐車安全

車両の電源をONにした状態で、設定メニューから**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **駐車安全**を選択または選択解除して、各機能を使用するかどうかを設定します。

- 「前方 / 側方安全」を選択すると、前方および側方の歩行者や物体と衝突しそうな場合に、駐車衝突防止アシストが運転者に警告し、ブレーキをアシストします。
- 「後方安全」を選択すると、後方の歩行者や物体と衝突しそうな場合に、駐車衝突防止アシストが運転者に警告し、ブレーキをアシストします。

i 情報

「前方/側方安全」は、「後方安全」を選択しているときのみ選択できます。車両を再始動すると、「後方安全」は選択された状態になり、「前方/側方安全」は前回の設定を維持します。

作動

ON/OFF



パーキングセーフティ(P)ボタンを2秒以上長押しすると、「後方衝突防止アシスト」または駐車衝突防止アシストのON/OFFを切り替えることができます。

作動条件

駐車衝突防止アシストが車両後方の歩行者や物体との衝突の危険性を検知した場合、警告音とインストルメントクラスター上の警告メッセージで運転者に警告します。サラウンドビューモニターが動作しているときは、インフォテインメント画面に警告が表示されます。

衝突しそうな場合は、駐車衝突防止アシストがブレーキをアシストします。

インフォテインメントシステムの「**駐車安全**」メニューから「**後方安全**」を選択します。駐車衝突防止アシストは、次の条件が満たされた場合に有効になります。

後方安全

- テールゲートとドアが閉じている。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）が解除されている。
- トレーラーが接続されていない。
- シフトが R（リバース）に入っている
- 車両の速度が 10km/h 以下（歩行者の検出）
- 車両の速度が 4km/h 以下（物体の検出）
- リアビューカメラやリア超音波センサーなどの駐車衝突防止アシストのコンポーネントが正常な状態である。

前方 / 側方安全

- 前方 / 側方安全は、インフォテインメントシステムの駐車安全設定メニューから選択できます。
- テールゲートとドアが閉じている。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）が解除されている。
- トレーラーが接続されていない。
- シフトが R（リバース）または D（ドライブ）に入っている。
- 車両の速度が 4km/h 以下（対歩行者および物体）
- リアビューカメラやリア超音波センサーなどの駐車衝突防止アシストのコンポーネントが正常な状態である。

駐車衝突防止アシストが作動すると、インストルメントクラスターの車両イメージの後ろに線が表示されます。

- 後方安全：車両イメージの後



- 前方 / 側方安全：車両イメージの前



i 情報

駐車衝突防止アシストは、シフトをR(リバース)またはD(ドライブ)に入れた後、一度しか作動しません。駐車衝突防止アシストを再度作動させるには、再度他のシフトからR(リバース)または(ドライブ)に入れ直します。

OFF の条件

前方 / 側方安全

ブレーキアシストは、D(ドライブ)にシフトチェンジしてから2秒後、およびR(リバース)にシフトチェンジしてから5分後に解除されます。すぐにブレーキペダルを踏み、車両の周囲を確認する必要があります。

ブレーキアシストは、以下のような状況でも解除されます。

- シフトを P（パーキング）または R（リピース）に入れた。
- ブレーキペダルが十分な力で踏み込まれた。

後方安全

ブレーキアシストは5分後に解除されます。すぐにブレーキペダルを踏み、車両の周囲を確認する必要があります。

ブレーキアシストは、以下のような状況でも解除されます。

- シフトを P（パーキング）または D（ドライブ）に入れた
- ブレーキペダルが十分な力で踏み込まれた。

i 情報

後退中に駐車衝突防止アシストが作動すると、ブレーキの制御は5分後に解除され、電動パーキングブレーキ(EPB)がかけられます。

故障と制約

故障



駐車衝突防止アシストやその他の関連機能が正しく作動していない場合は、「**運転者アシストシステムを点検してください**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに表示され、駐車衝突防止アシストが自動的にOFFになります。弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

解除



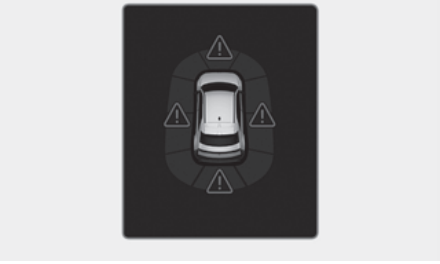


「**カメラ視野が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」や「**超音波センサー感知が制限されたため運転者アシストシステムの作動が制限されます**」という警告メッセージがインストルメントクラスターに表示されます。

- カメラまたは超音波センサーが雪や雨などの異物で覆われている。
- 大雪や大雨などの悪天候時

このような場合、駐車衝突防止アシストがOFFになったり、正しく作動しなかったりするおそれがあります。カメラと超音波センサーを遮るものがないか確認してください。

i 情報



後方駐車衝突防止アシスト(PCA)作動中に超音波センサーが故障したり、遮られたりした場合、該当する方向にマスター(⚠)警告灯が表示されます。インストルメントクラスターのユーティリティ情報ビューでメッセージを確認できます。

制約

次の場合、駐車衝突防止アシストは、歩行者や物体が存在していても、ブレーキアシストや運転者への警告を行わないことがあります。

- 車両に関する問題
  - 純正品以外の器具やアクセサリーが取り付けられている
  - 事故やその他の原因により、車両が不安定になっている
  - バンパーの高さ、またはリア超音波センサーの取り付け位置が変わった
  - ワイドリアビューカメラまたは超音波センサーが損傷している
  - ワイドリアビューカメラまたは超音波センサーに雪や汚れなどの異物が付着している
  - 大雨、濃霧、大雪などの悪天候や、光源によって、ワイドリアビューカメラの視界がぼやけている
  - 重い荷物、異常なタイヤ空気圧などにより、車両の高さが低い、または高い
- 周囲に関する問題
  - 周囲が非常に明るい、または非常に暗い。
  - 外気温が非常に高い、または非常に低い
  - 風が強い（20km/h を超える）、またはリアバンパーに対して垂直に風が吹いている。
  - 車両のクラクション、大きな音を出すバイク、トラックのエアブレーキなど、過度の騒音を発生させるものが車両の近くに存在している。
  - 似た周波数の超音波センサーが車両の近くに存在している。
  - 道路が滑りやすい、または傾斜している。
  - フロントビューカメラの歩行者の画像と背景の区別がつかない。

- 歩行者や物体に関する問題
  - 歩行者の検知が困難である
  - 車両と歩行者の地面の高さに違いがある
  - 車両の後方端付近に歩行者がいる
  - 歩行者がまっすぐに立っていない
  - 検知する歩行者の身長がとても低いまたはとても高い
  - 歩行者や自転車の乗員が背景に溶け込む服を着ているため、検知しにくい
  - 歩行者の衣服が超音波をうまく反射しない
  - 物体のサイズ、厚さ、高さ、形状により、超音波がうまく反射されない（たとえば、低い物、幅が狭い物、円形の柱、小さな柱、四角い柱の角、茂み、縁石、カート、壁の端など）
  - 歩行者や物体が動いている
  - 車両の後部から非常に近いところに歩行者や物体が存在している
  - 歩行者や物体の後ろに壁などの大きな物体がある
  - 物体が車両の前方中央や後方中央に位置していない
  - 物体がリアバンパーと平行ではない
  - センサーが歩行者と物体を検知できていない
- 運転状況に関する問題
  - 運転者がR（リバース）またはD（ドライブ）にシフトチェンジした直後に車両を運転した
  - 運転者が車両を加速させた、または旋回した
  - 車両始動直後に車両を運転した。

⚠ 警告

駐車衝突防止アシストを使用する場合は、次の点を守ってください。

- 安全運転を心がけ、周囲に十分注意してください。
- 運転中は、警告の有無にかかわらず、常に道路や交通状況に注意してください。
- 車両を動かす前に必ず車両の周囲をよく見て、歩行者や物が存在しないことを確認してください。
- 特定の状況下では、駐車衝突防止アシストの性能が変化する場合があります。車両速度が 4km/h を超えている場合は、歩行者が検知されたときにのみ駐車衝突防止アシストが実行されます。運転にあたっては、必ず周囲をよく見て注意してください。
- 駐車衝突防止アシストは、特定の状況下では動作が異なる場合があります。車両が前進と後退を繰り返すと、駐車衝突防止支援システムがブレーキをアシストしなかったり、運転者に警告しなかったりすることがあります。運転にあたっては、常に注意してください。
- 物体の距離やサイズ、材質によりリア超音波センサーの有効性が制限されることがあるため、物体によっては検知されないものがあります。
- 駐車衝突防止アシストは、道路と周囲の状況によっては、正しく動作しない場合や、不必要に動作する場合があります。
- 駐車衝突防止アシストだけに頼らないでください。車両の損傷やけがにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 衝突を防止しようとして急ブレーキをかけると、きしり音が聞こえる場合があります。
- シートベルトの警告チャイムなど他の警告音がすでに鳴っている場合は、駐車衝突防止アシストの警告が鳴らないことがあります。
- バンパーが損傷している場合や、交換または修理した場合は、駐車衝突防止アシストが正しく動作しないことがあります。
- 駐車衝突防止アシストは強い電磁波の干渉を受けた場合、正常に動作しない可能性があります。
- 大音量でオーディオシステムを使用している場合、駐車衝突防止アシストの警告音が乗員の耳に届かないことがあります。
- トレーラーをけん引しているときは、駐車衝突防止アシストを OFF にしてください。けん引中に後退した場合、トレーラーが検知されて駐車衝突防止アシストが作動します。
- 車体姿勢制御機能（ESC）の作動状態によっては、ブレーキ制御が正常に作動しない場合があります。

  次の場合、警告のみが行われます。

  - 車体姿勢制御機能（ESC）警告灯が点灯している
  - 車体姿勢制御機能（ESC）が別の機能に使われている

⚠ 注意

検知センサーの最適な性能を維持するために､次の点を守ってください。

- ワイドリアビューカメラと超音波センサーを常にきれいな状態にしてください。
- カメラレンズの洗浄時には、酸またはアルカリ洗浄剤を含む洗剤を使用しないでください。マイルドな洗浄剤または中性洗剤のみを使用し、水で念入りに洗い流してください。
- ワイドリアビューカメラ、リア超音波センサー、またはそれらの周囲に高圧洗浄機を直接噴射しないでください。広角カメラまたは超音波センサーが故障するおそれがあります。
- 広角カメラや超音波センサーの近くにバンパーステッカーやバンパーガードなどを設置したり、バンパーに塗装したりしないでください。駐車衝突防止アシストの性能に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 広角カメラや超音波センサーを分解したり衝撃を与えたり絶対にしないでください。
- ワイドリアビューカメラや超音波センサーに不必要な力を加えないでください。適切に位置合わせされている広角カメラや超音波センサーを無理にずらすと、駐車衝突防止アシストが正常に動作しないおそれがあります。弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

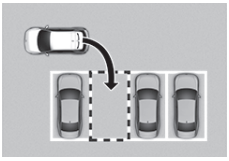
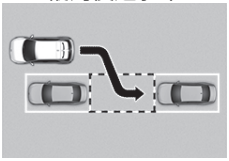
駐車衝突防止アシストが歩行者や物体を検知できるのは､次の場合です。

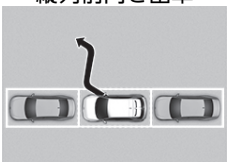
- 歩行者が車両の後ろに立っている。
- 車両などの大きな障害物が車両の後部中央に駐車している。

リモートスマートパーキングアシスト 2（RSPA 2）

装備されている場合

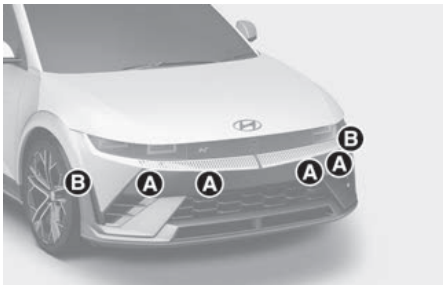
リモートスマートパーキングアシストは、車両のセンサーを使用し、ステアリングホイール、車両速度、シフトを制御して、車両の外からリモートで駐車スペースに駐車および出庫するのを支援します。

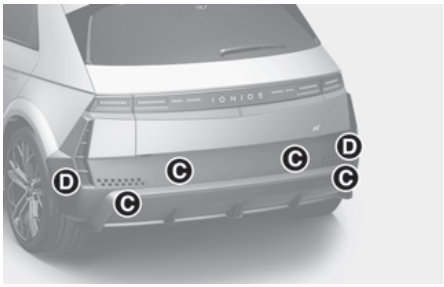
機能	説明
リモート操作	リモート操作による前進または後退 
スマートパーキングまたはリモートパーキング	直角後退駐車 
	斜め後退駐車 
	縦列後退駐車 

機能	説明
スマート出庫	縦列前向き出庫 

- リモートパーキングおよびリモート操作機能は、スマートキーを使用して車両の外部から操作できます。
- スマートパーキングおよびスマート出庫機能は、車両の内部から実行できます。
- スマートパーキングおよびリモートパーキング機能は、運転者が直角後退駐車、斜め後退駐車、縦列後退駐車を行うのを支援します。
- スマート出庫は、運転者が縦列前向き出車を行うのを支援します。
- リモートスマートパーキングアシストが作動すると、駐車距離警告やサラウンドビューモニターも作動します。詳細については、本章の「前方 / 側方 / 後方車間距離警報（PDW）」と「サラウンドビューモニター（SVM）」を参照してください。
- リモートスマートパーキングアシストは、広角カメラで駐車ラインを認識することで駐車を支援します。

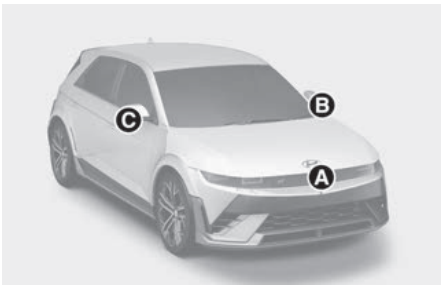
検知センサー





[A] フロント超音波センサー
[B] フロントコーナー超音波センサー
[C] リアコーナー超音波センサー
[D] リア超音波センサー

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。





[A] ワイドフロントビューカメラ
[B] ワイドサイドビューカメラ（アウトサイドミラー下）
[C] ワイドサイドビューカメラ（アウトサイドミラー下）
[D] ワイドリアビューカメラ

検知センサーの詳細な位置については、上の画像を参照してください。

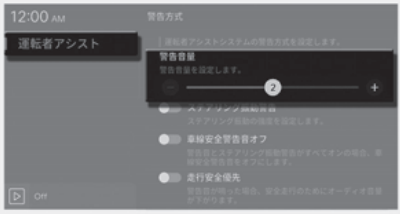
⚠ 注意

検知センサーの最適な性能を維持するために、次の点を守ってください。

- 超音波センサーやセンサーアセンブリーの分解は決して行わないでください。損傷するおそれがあります。
- 車両のバンパーの高さや超音波センサーの取り付けを変えたり、あるいはバンパーや超音波センサーが損傷した場合、リモートスマートパーキングアシストが、誤作動を起こすおそれがあります。工場出荷時に取り付けられていない機器やアクセサリーも、センサーの性能を妨げる可能性があります。
- 超音波センサーが凍っていたり、雪、汚れ、水分が付着したりしている場合は、柔らかい布で付着物を除去しないと作動しない場合があります。
- 超音波センサーを押したり引っかいたり、たたいたりしないでください。センサーが損傷するおそれがあります。
- 超音波センサーまたはその周囲に高圧洗浄機を直接噴射しないでください。
- カメラのレンズは常にきれいにしておいてください。レンズが異物で覆われていると、カメラの性能に悪影響を及ぼす場合があり、リモートスマートパーキングアシストが正しく作動しないおそれがあります。
- アウトサイドミラーに強い衝撃が加わった場合は、アウトサイドミラーを手動で調整したり、リモートスマートパーキングアシストを使用したりしないでください。衝突事故が発生した場合や、アウトサイドミラーを手動で作動させた場合は、リモートスマートパーキングシステムが正しく作動しないおそれがあります。

設定

警告方式



車両の電源をONにした状態で、インフォテインメントシステムでの設定から**設定** > **車両** > **運転者アシスト** > **警告方式**を選択して以下を選択します。

- **警告音量**：警告音量が調節できます。

i 情報

- 警告方式を変更すると、他の運転者アシストシステムの警告方式も変更されることがあります。
- 車両を再始動しても警告方式は前回の設定を維持します。
- 車両の機能や仕様によっては、設定メニューがご利用いただけない場合があります。

操作

リモートスマートパーキングアシストボタン

パーキング / ビューボタン	スマートキー
	

場所	名称	記号	説明
車両内部	パーキング/ビューボタン	P	パーキング/ビューボタンを長押しして、リモートスマートパーキングアシストをONにします。前方/後方駐車距離警告も自動的にONになります。ただし、状況によって機能が異なる場合があります。詳細については、次のページに記載されている各機能の説明を参照してください。スマートパーキングまたはスマート出庫機能がONのときに駐車/ビューボタンを長押しすると、その機能が作動します。
スマートキー	リモート始動ボタン	HOLD	車両電源停止時にドアをロックし、リモート始動ボタンを押して車両をリモートで始動します。リモートパーキングまたはリモート操作機能の作動中にリモート始動ボタンを押すと、機能の動作が終了します。
	前進ボタン	P	リモートパーキング機能の使用時は、ボタンが押されている間、押された方向に関係なく駐車を支援します。リモート操作機能を使用すると、ボタンを押している間、車両はボタンの方向に移動します。
	後退ボタン	P	

リモート操作

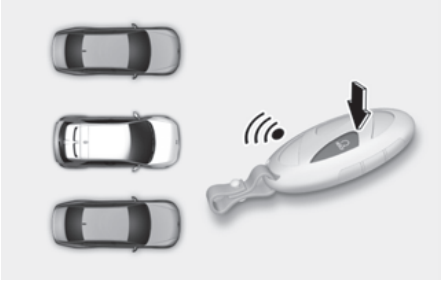
作動順序

リモート操作機能は、次の順序で作動します。

1. リモートで前進または後退する準備をする
2. リモートで前進または後退する

1. リモートで前進または後退する準備をする

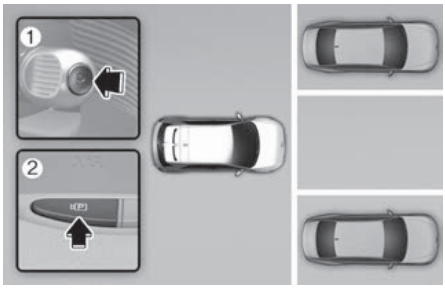
リモート操作機能を作動させる方法は2つあります。



方法1.車両電源OFFのときにこの機能を使用する。

- 車両から一定の範囲内にいるときにスマートキーのドアロック（🔒）ボタンを押し、すべてのドアをロックします。
- 車両が始動するまで、リモート始動ボタン（HOLD）を長押しします（4 秒以内）。

車両のリモート始動についての詳細は、第6章の「リモート始動リモート始動」を参照してください。



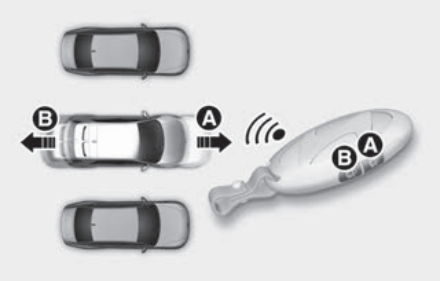
方法2.車両電源がONのときにこの機能を使用する。

1. リモート操作機能を使用したいスペースの前に車両を止め、シフトを P（パーキング）に入れます。
2. パーキング / ビュー（P）ボタンを長押しして、スマートパーキングシステムを ON にします。
   - 「**リモート制御中**」というメッセージがインフォテインメントシステムに表示されます。
3. スマートキーを携帯して降車し、ドアをすべて閉めます。インフォテインメントシステムで「同意」を選択する必要があります。

i 情報

- インフォテインメントシステムで「同意」を選択する必要があります。リモート操作機能を使用するには、インフォテインメントシステムが正しく作動する必要があります。
- 方法 2 は、車両が 5km/h を超える速度で走行した後に使用することができます。
- リモートスマートパーキングアシストによって駐車が完了した後で、再度この機能が ON になった場合、リモート操作機能は方法 2 で実行されます。

2. リモートで前進または後退する



1. スマートキーの前進（）ボタンまたは後退（）ボタンのいずれかを長押しします。
   - リモートスマートパーキングアシストが自動的にステアリングホイール、車両速度、シフトを制御します。車両は、押されているボタンの方向に動きます。
   - リモート操作機能の作動中にボタンを離すと車両は停止し、機能制御は一時停止します。ボタンを長押しすると、この機能は作動を再開します。
2. 車両が目的の場所に位置するまで、前進（）ボタンまたは後退（）ボタンを押し続けます。
3. リモート操作が完了したら、スマートキーを携帯して車両に乗り込むか、車両の外からスマートキーのリモート始動（）ボタンを押します。
   - メッセージがインフォテインメントシステムに表示されます。車両は自動的に P（パーキング）にシフトされ、パーキングブレーキがかかります。
   - リモート始動（）ボタンを押すと、車両の電源が OFF になります。運転者が車内にいる場合、車両は ON の位置を保持します。

i 情報

- リモート操作では、車両の外でスマートキーを使って車両をリモートで制御できます。
- リモート操作機能を使用しているときは、すべてのスマートキーが車両の外に出ていることを確認してください。
- リモート操作機能は、スマートキーが車両から 4m 以内にある場合にのみ動作します。スマートキーの前進ボタンまたは後退ボタンを押しても車両が動かない場合は、車両までの距離を確認して再度ボタンを押してください。
- スマートキーの検知範囲は、送電塔や放送局など電波の影響を受ける周囲の状況によって変わる場合があります。
- 方法 1 でリモート前進すると、出車状態と認識され、車両は 4m 移動して周囲の駐車ライン、歩行者、動物、物体の有無を確認します。確認後は、前方の状況に応じてステアリングホイールが制御されます。
- 方法 2 でリモート前進すると、駐車状態と認識され、前方の状況に応じて即座にステアリングホイールを制御し、駐車スペースへの進入や車両の位置調整を支援します。ただし、車両の周囲の駐車ライン、歩行者、動物、物体の形状、位置などによって、性能が低下することがあります。
- リモートで後退させるには、方法 1 と方法 2 のいずれの場合も、まずステアリングホイールの向きを調節し、次に車両をまっすぐに動かすだけです。
- リモートスマートパーキングアシストで車両を駐車しているとき、駐車スペースの輪止めにより車両の位置調整性能が低下する場合があります。

⚠ 警告

- リモート操作機能を使用する際は、すべての乗員が降車していることを確認してください。
- 狭い駐車スペースに駐車している際に車両のバッテリーが放電したり、リモートスマートパーキングシステムが誤作動したりした場合、リモート操作機能は作動しません。常に、車両の乗降に十分な広さのある場所に駐車してください。
- 駐車スペースによっては、リモート操作機能を使用して進入した場所で降車できない場合があることに注意してください。
- 駐車後、周囲の車両が移動して周囲の状況が変わる場合があります。この場合、リモート操作機能が動作しなくなることがあります。
- 車両を離れる前に、ウィンドウとサンルーフを閉め、車両の電源が OFF になっていることを確認してからドアをロックしてください。

リモート操作機能の作動状態

作動状態	スマートキーの LED
制御中	緑色のLEDが点滅し続ける
リモート前進/後退一時停止	赤色のLEDが点滅し続ける
OFF	赤色のLEDが4秒間点灯してから消灯する
リモート前進/後退終了	緑色のLEDが4秒間点灯してから消灯する

i 情報

- ハザードランプによる作動状態は、お住まいの国の規則に基づいて適用できない場合があります。
- 車両からの作動範囲内（約 4m）にスマートキーがない場合、スマートキーの LED は点灯も点滅もしません。スマートキーは、作動範囲内で使用してください。

リモート操作機能を作動中に OFF にする方法

- 方法（2）を実行している運転者をインフォテインメントシステムが誘導しているときに、パーキング / ビュー（P）ボタンを押します。
- 方法 2 を実行している運転者をインフォテインメントシステムが誘導しているときに、シフトを P（パーキング）から別の位置に切り替えます。
- パーキングセーフティ（P）ボタンを押すか、インフォテインメントシステムで「解除」を選択します。
- 車両がリモート操作機能によって制御されているときに、スマートキーのリモート始動（HOLD）ボタンを押します。リモート操作機能が OFF になります。このとき、車両の電源が OFF になります。
- スマートキーを携帯して車両に乗ります。リモート操作機能が OFF になります。このとき、車両の電源は ON のままです。

次の場合、機能が一時停止します。

- 車両が動いている方向に、歩行者、動物、物体が存在する
- ドアやテールゲートが開いている。
- 前進（）ボタンまたは後退（）ボタンが長押しされない
- スマートキーのボタンをいくつも同時に押した
- 車両から 4m 以内のところでスマートキーを操作していない
- 操作中のスマートキーに加えて、別のスマートキーのボタンも押された（リモート始動ボタンを除く）
- 車両が後退方向に制御されているときに、駐車衝突防止アシストまたは斜め後方衝突防止アシストが作動した。
- スマートキーが押されたときにリモート操作機能で車両が 7m 動いた（ボタンを 1 回押すごとの最大移動距離）。
- 前進 / 後退制御中に駐車衝突防止アシストが作動した。

次の場合、機能が解除されます。

リモート操作機能が解除されると、車両は自動的に停止し、シフトがP(パーキング)に切り替わり、EPB(電動パーキングブレーキ)がかけられます。

- ステアリングホイールが操作された
- シフトを切り替えた
- 車両が動いているときに、電動パーキングブレーキ（EPB）が作動した
- ボンネットが開いた
- ドアがすべて閉まっているときに、ブレーキペダルまたはアクセルペダルが踏まれた
- 運転席ドアが開いていて、ブレーキペダルが踏まれたときにスマートキーが車両の外部に出ていた
- 急加速が起こった
- 車両が横滑りした
- ホイールが障害物にはまって、動かなくなった
- リモート操作機能が作動してから約 3 分 50 秒経過した
- 道路の傾斜が動作可能範囲を超えている
- この機能が 1 分以上、一時停止している
- リモート操作機能作動後の車両の総移動距離が 14m を超えた
- ステアリングホイール、シフト、ブレーキ、運転制御が適切に作動していない
- スマートキーに問題があるか、スマートキーのバッテリー残量が不足している
- 道が滑りやすいため、ABS、TCS、または ESC システムが作動している
- 盗難警報システムの警報が鳴っている
- 充電口が開いた

スマートパーキング、リモートパーキング

スマートパーキングを含むパーキング機能では駐車/ビュー(P)ボタンを使用し、リモートパーキングではスマートキーを使用します。

作動順序

パーキング機能は、次の順序で作動させます。

1. 駐車の準備をする
2. 駐車スペースを探索する
3. 駐車タイプと動作モードを選択する
4. スマートパーキング
5. リモートパーキング

1. 駐車の準備をする



1. 車両の電源が ON になっているときに、ブレーキペダルを踏み、シフトを D（ドライブ）または N（ニュートラル）に切り替えます。
2. パーキング / ビュー（P）ボタンを長押しして、リモートスマートパーキングアシストを ON にします。

i 情報

- インフォテインメントシステムで「同意」を選択する必要があります。パーキング機能を使用するには、インフォテインメントシステムを正しく操作する必要があります。
- 車両の電源を ON にした状態で 5km/h を超える速度で走行する場合は、シフトを N（ニュートラル）にシフトチェンジしてパーキング機能を使用することができます。

2. 駐車スペースを探索する



駐車中の車両から約100cmの距離を取りながら、ゆっくり前進します。

駐車ラインや駐車している車両周辺のスペースを検出して、駐車スペースを探索します。

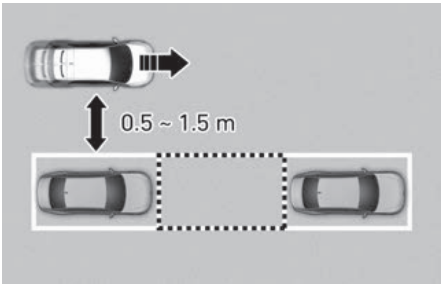
駐車スペースの探索が完了すると、探索が完了したことを知らせるメッセージがインフォテインメントシステムに表示され、音が鳴ります。

インフォテインメントシステムに「駐車タイプの選択」と表示され、サラウンドビューモニターのトップビュー画面に選択された駐車スペースが表示されます。

i 情報

- リモートスマートパーキングアシストは、駐車ラインが視認できる場合、または駐車中の車両がある場合のみ駐車スペースの探索を実施できます。出庫により空いたスペースや未出庫の車両の前にある空いたスペースは、駐車スペースとして探索できません。
- 駐車スペースの探索中に車両速度が 20km/h を超えた場合は、減速するように伝えるメッセージがインフォテインメントシステムに表示されます。車両速度が 30km/h を超えると、パーキング機能が OFF になります。
- 駐車スペースに加えて、車両を動かすのに十分なスペースがあれば、駐車スペースの探索が完了します。
- 駐車スペースの探索が完了したことを知らせる音が鳴った場合でも、周囲の状況に応じてすぐに探索完了をキャンセルすることができます。

i 情報



- 距離が 0.5m を下回っている、または 1.5m を超えている場合は、リモートスマートパーキングシステムで駐車スペースを探索できないことがあります。
- 駐車中の車両から一定の距離を取らない場合は、駐車スペース探索の性能が低下することがあります。
- パーキング機能は、超音波センサーの異常な動作または周囲の状況の影響を受けて、駐車スペースがあっても探索できない場合や、駐車には適さないスペースを探索する場合があります。
- 駐車スペースが斜面にある場合や、斜めの場合は、表示される駐車タイプが実際に選択されるべき駐車タイプとは異なる場合があります。このような場合は、駐車タイプを選択せず、別の駐車スペースを探索してください。

3. 駐車タイプと動作モードを選択する



- 駐車タイプ – 直角後退（左 / 右）、縦列後退（左 / 右）

  ブレーキペダルを踏んで車両を停止し、インフォテインメントシステムにタッチして任意の駐車タイプを選択します。

i 情報

- 駐車タイプの選択画面の表示後、停止せずに運転を続けると、リモートスマートパーキングアシストが前の段階に戻り、駐車スペースを探索します。
- 駐車タイプを選択する前にパーキング / ビュー（P）ボタンを押したために意図せずパーキング機能が解除された場合は、車両の停止中に再度ボタンを長押しすれば、駐車タイプの選択段階に戻ることができます。

⚠ 警告

運転者は、駐車タイプを選択する前に、その駐車スペースが適切な場所かどうか確認する必要があります。

リモートスマートパーキングアシストで探索された駐車スペースが狭い場合や、駐車に適さない場合は、駐車タイプを選択せずに車両を動かして別の駐車スペースを探索してください。



- 動作モード – リモートパーキング、スマートパーキング

  駐車タイプを選択すると、インフォテインメントシステムにリモートパーキング機能およびパーキング機能の説明が表示され、運転者を誘導します。このリモートスマートパーキングアシストの操作手順に従ってください。

i 情報

- 選択した希望の機能に応じた操作手順が画面に表示されます。
- パーキング機能による誘導中は、ブレーキペダルから足を離さないでください。車両が動くと、リモートスマートパーキングアシストが OFF になります。

i 情報



リモートスマートパーキングアシストでリモートパーキング機能を作動できない場合は、インフォテインメントシステムにスマートパーキングの説明のみ表示されます。

4. スマートパーキング





1. ブレーキペダルを踏んで車両を停止しているときに、パーキング / ビュー（P）ボタンを押します。
2. パーキング / ビュー（P）ボタンを押している間にブレーキペダルを離します。
   - リモートスマートパーキングアシストが自動的にステアリングホイール、車両速度、シフトを制御します。
   - スマートパーキング機能作動中にパーキング / ビュー（P）ボタンを長押ししなかった場合は、機能が停止し、制御が一時停止します。駐車 / ビュー（P）ボタンをもう一度長押しすると、機能は再度動作を開始します。
3. 駐車が完了するまで、パーキング / ビュー（P）ボタンを長押しします。
   - 車両が目的の駐車位置に到達すると、駐車が完了したことを知らせるメッセージがインフォテインメントシステムに表示されます。車両は自動的に P（パーキング）にシフトされ、EPB（電子パーキングブレーキ）がかかります。
4. 車両の位置や場所を変更する必要がある場合は、手動で駐車を完了させてください。

i 情報

- ドアが開いている場合やシートベルトが着用されていない場合、スマートパーキング機能は動作しません。
- 駐車位置の表示灯がサラウンドビューモニター画面に表示されます。この表示灯は、スマートパーキング機能によって初めて車両が駐車スペースに進入するときまで表示されます。
- スマートパーキング機能の作動中にブレーキペダルを踏むことで、車両速度を調節できます。ただし、アクセルペダルを踏んでも車両は加速されません。
- 駐車環境によっては、車両が輪止めで停止した場合、駐車が完了することがあります。

5. リモートパーキング



1. ブレーキペダルを踏み、シフトを P（パーキング）に切り替えます。
2. スマートキーを携帯して降車し、ドアをすべて閉めます。
3. スマートキーの前進（）ボタンまたは後退（）ボタンのいずれかを押します。
   - ボタンを押している間、リモートスマートパーキングシステムが自動的にステアリングホイール、車両速度、ギアシフトを制御します。
   - リモートパーキング機能の作動中にボタンを長押ししなかった場合は、車両が停止し、機能制御が一時停止します。ボタンを長押しすると、この機能は作動を再開します。
4. 駐車が完了するまで、前進（）ボタンまたは後退（）ボタンを長押しします。
   - 車両が目的の駐車位置に到達すると、駐車が完了したことを知らせるメッセージがインフォテインメントシステムに表示されます。車両が自動的に P（パーキング）にシフトチェンジし、EPB（電子パーキングブレーキ）をかけて、車両の電源を OFF にします。
5. 車両の位置や場所を変更する必要がある場合は、手動で駐車を完了させてください。

i 情報

- リモートパーキング機能の作動中は、すべてのスマートキーが車両の外に出ているようにしてください。
- リモートパーキング機能は、スマートキーが車両から 4m 以内にある場合にのみ作動します。スマートキーのリモート前進ボタンまたは後退ボタンを押しても車両が動かない場合は、車両までの距離を確認して再度ボタンを押してください。
- スマートキーの検知範囲は、送電塔や放送局など電波の影響を受ける周囲の状況によって変わる場合があります。
- 駐車位置インジケーターがサラウンドビューモニター画面に表示されます。このインジケーターは、リモートパーキング機能によって初めて車両が駐車スペースに進入するときまで表示されます。
- 駐車環境によっては、車両が輪止めで停止した場合、駐車が完了することがあります。

⚠ 警告

- リモートパーキング機能を使用する際は、すべての乗員が降車していることを確認してください。
- リモートパーキング機能を終了させた、または OFF にした後は、車両を離れる前にウィンドウとサンルーフを閉め、車両の電源が OFF になっていることを確認してからドアをロックしてください。

パーキング機能の動作状態

- スマートパーキング機能

作動状態	ウインカー
制御中	最初の後退が終了するまで、駐車方向のウインカーが点滅する

- リモートパーキング機能

作動状態	スマートキーの LED	ハザードランプ	ウインカー
制御中	緑色のLEDが点滅し続ける	-	最初の後退が終了するまで、駐車方向のウインカーが点滅する
リモート前進/後退一時停止	赤色のLEDが点滅し続ける	点滅する	-
OFF	赤色のLEDが4秒間点灯してから消灯する	3回点滅してから消灯する	-
リモート前進/後退終了	緑色のLEDが4秒間点灯してから消灯する	1回点滅してから消灯する	-

i 情報

- ハザードランプと方向指示器による作動状態は、お住まいの国の規則によっては適用されない場合があります。
- 車両からの作動範囲内（約 4m）にスマートキーがない場合、スマートキーの LED は点灯も点滅もしません。スマートキーは、作動範囲内で使用してください。

パーキング機能を作動中に OFF にする方法

- 次の段階で、パーキング／ビュー（P）ボタンを押します。
  - 駐車スペースを探索する
  - 駐車タイプの選択
- 次の段階で、シフトを R（リバース）にシフトチェンジします。
  - 駐車スペースを探索する
  - 駐車タイプの選択
  - 動作モードの選択
- 駐車安全（P）ボタンを押すか、インフォテインメントシステムの「解除」を選択し、パーキング機能を OFF にします。
- スマートパーキング機能が作動しているとき
  - ブレーキペダルを踏んで車両を停止し、シフトチェンジすると、パーキング機能が OFF になります。このとき、電子パーキングブレーキ（EPB）はかかりません。
- リモートパーキング機能が作動しているとき
  - スマートキーのリモート始動（HOLD）ボタンを押します。パーキング機能が OFF になります。

i 情報

スマートキーを携帯して車両に乗ります。パーキング機能がOFFになります。このとき、車両の電源はONのままです。

次の場合、機能が一時停止します。

- スマートパーキング
  - 車両が動いている方向に、歩行者、動物、物体が存在する
  - ドアやテールゲートが開いている。
  - 運転者がシートベルトを着用していない
  - 車両が後退方向に制御されているときに、駐車衝突防止アシストまたは斜め後方衝突防止アシストが作動した
  - パーキング / ビュー（P）ボタンが長押しされていない
  - ブレーキペダルを踏んで車両を停止させている
  - 前進 / 後退制御中に駐車衝突防止アシストが作動した。
- リモートパーキング
  - 車両が動いている方向に、歩行者、動物、物体が存在する
  - ドアやテールゲートが開いている。
  - 前進（）ボタンまたは後退（）ボタンが長押しされない
  - スマートキーのボタンをいくつも同時に押した
  - 車両から 4m 以内のところでスマートキーを操作していない
  - 操作中のスマートキーに加えて、別のスマートキーのボタンも押された
  - 駐車衝突防止アシストまたは斜め後方衝突防止アシストが作動した
  - 前進 / 後退制御中に駐車衝突防止アシストが作動した。

パーキング機能が一時停止になると、車両が自動的に停止します。一時停止になる状況がなくなると、この機能は再度動作します。

次の場合、機能が解除されます。

- スマートパーキング
  - ステアリングホイールが操作された
  - シフトを切り替えた
  - 車両が動いているときに、電動パーキングブレーキ（EPB）が作動した
  - ボンネットが開いた
  - 運転者がシートベルトを着用せずにドアを開けた
  - 急加速が起こった
  - 車両が横滑りした
  - ホイールが障害物にはまって、動かなくなった
  - 車両の前方と後方に同時に歩行者、動物、物体が存在している
  - スマートパーキング機能が作動してから約 3 分 50 秒経過した
  - 道路の傾斜が動作可能範囲を超えている
  - この機能が 1 分以上、一時停止している
  - ステアリングホイール、シフト、ブレーキ、運転制御が適切に作動していない
  - 道が滑りやすいため、ABS、TCS、または ESC システムが作動している
  - 充電口が開いた

スマートパーキング機能が解除されると、車両が自動的に停止し、シフトをP(パーキング)に切り替え、EPB(電子パーキングブレーキ)をかけます。

- リモートパーキング
  - ステアリングホイールが操作された
  - シフトを切り替えた
  - 車両が動いているときに、電動パーキングブレーキ（EPB）が作動した
  - ボンネットが開いた
  - ドアがすべて閉まっているときに、ブレーキペダルまたはアクセルペダルが踏まれた
  - 運転席ドアが開いていて、ブレーキペダルが踏まれたときにスマートキーが車両の外部に出ていた
  - 急加速が起こった
  - 車両が横滑りした
  - ホイールが障害物にはまって、動かなくなった
  - 車両の前方と後方に同時に歩行者、動物、物体が存在している
  - リモートパーキング機能が作動してから約 3 分 50 秒経過した
  - 道路の傾斜が動作可能範囲を超えている
  - この機能が 1 分以上、一時停止している
  - ステアリングホイール、シフト、ブレーキ、運転制御が適切に作動していない
  - スマートキーに問題があるか、スマートキーのバッテリー残量が不足している
  - 道が滑りやすいため、ABS、TCS、または ESC システムが作動している
  - 盗難警報システムの警報が鳴っている
  - 充電口が開いた

リモートパーキング機能が解除されると、車両が自動的に停止し、シフトをP(パーキング)に切り替え、EPB(電子パーキングブレーキ)をかけます。

スマート出庫

作動順序

スマート出庫機能は、次の順序で作動させます。

1. 出車の準備をする
2. スペースを確認する
3. 出車方向を選択する
4. スマート出庫

1. 出車の準備をする



1. 車両の電源が ON になっているときに、ブレーキペダルを踏み、シフトを P（パーキング）または N（ニュートラル）に切り替えます。
2. パーキング / ビュー（P）ボタンを長押しして、リモートスマートパーキングアシストを ON にします。

i 情報

- インフォテインメントシステムで「同意」を選択する必要があります。スマート出庫機能を使用するには、インフォテインメントシステムを正しく操作する必要があります。
- 車両の電源を ON にした状態で 5km/h 未満で走行し、P（パーキング）または N（ニュートラル）にシフトすると、スマート出庫機能が使用可能になります。
- リモートスマートパーキングアシストによって縦列駐車が完了した後で、再度この機能を ON にすると、スマート出庫機能を使用することができます。

2. スペースを確認する



ブレーキペダルを踏んで車両を停止させている場合は、車両のセンサーが近くの物体からの距離を検知し、出車するスペースがあるかどうか確認します。

スペースの確認が完了すると、探索が完了したことを知らせるメッセージがインフォテインメントシステムに表示され、音が鳴ります。

⚠ 警告

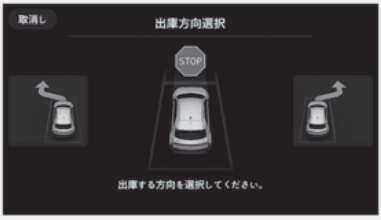
- スペースを確認している間、車両の出車方向に存在する歩行者、動物、物体と衝突する危険性がある場合は、安全のため、スマート出庫機能を OFF にしておくことができます。
- スペースの確認が完了していても、死角領域にある物体はセンサーで検知できません。運転者は、死角領域を直接目視して、この機能の使用を続行する必要があります。

i 情報

パーキング機能は、超音波センサーの異常な動作または周囲の状況の影響を受けて、駐車スペースがあっても探索できない場合や、駐車には適さないスペースを探索する場合があります。

詳細については、本章の「リモートスマートパーキングアシスト2(RSPA 2)リモートスマートパーキングアシスト2(RSPA 2)」を参照してください。

3. 出車方向を選択する



ブレーキペダルを踏んで車両を停止し、インフォテインメントシステムにタッチして希望する出車方向を選択します。

⚠ 警告

運転者は、出車方向を選択する前に、その出車スペースが適切かどうか確認する必要があります。

リモートスマートパーキングアシストで探索された出車スペースが狭い場合や、出車には適さない場合は(周囲の車両が垂直に駐車されている場合など)、スマート出庫機能を使用しないでください。

4. スマート出庫



1. ブレーキペダルを踏んで車両を停止しているときに、パーキング / ビュー (🅿) ボタンを押します。
2. 駐 / ビュー (🅿) ボタンを押している間に、指示に従ってブレーキペダルを離します。
   - リモートスマートパーキングアシストが自動的にステアリングホイール、車両速度、シフトを制御します。
   - スマート出庫機能の動作中にパーキング / ビュー (🅿) ボタンを長押ししなかった場合は、車両が停止し、機能制御が一時停止します。駐車 / ビュー (🅿) ボタンをもう一度長押しすると、機能は再度動作を開始します。
3. 出庫が完了するまで、パーキング / ビュー (🅿) ボタンを長押しします。
   - 車両が目的の出車位置に到達すると、出車が完了したことを知らせるメッセージがインフォテインメントシステムに表示されます。

i 情報

- ドアが開いている場合やシートベルトが着用されていない場合、スマート出庫機能は作動しません。
- スマート出庫機能の作動中にブレーキペダルを踏むことで、車両速度を調節できます。ただし、アクセルペダルを踏んでも車両は加速されません。
- ブレーキペダルを踏んでいるときに出車が完了した場合は、スマート出庫機能が終了し、D（ドライブ）にシフトされます。
- アクセルペダルを踏んでいるときに出車が完了した場合は、一旦アクセルペダルから足を離し、それからアクセルペダルを操作する必要があります。
- 出車の完了後 4 秒以内に、ブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏むなどの操作が行われなかった場合、車両は自動的に P（パーキング）に切り替わりし、EPB（電子パーキングブレーキ）をかけます。
- スマート出庫機能の終了後は、走行する前に必ず周囲を確認してください。

スマート出庫の作動状態

作動状態	ウインカー
制御中	出車が完了するか、スマート出庫が解除されるまで、出車方向の方向指示器が点滅します。

スマート出庫機能を作動中に OFF にする方法

- 次の段階で、パーキング／ビュー（P）ボタンを押します。
  - スペースを確認する
  - 出車方向を選択する
- 次の段階で、シフトを R（リバース）にシフトチェンジします。
  - スペースを確認する
  - 出車方向を選択する
- 駐車安全（P）ボタンを押すか、インフォテインメントシステムの「解除」を選択し、スマート出庫機能を OFF にします。
- スマート出庫機能の作動中に、ブレーキペダルを踏んで車両を停止し、シフトチェンジすると、スマート出庫機能が OFF になります。このとき、電子パーキングブレーキ（EPB）はかかりません。

次の場合、機能が一時停止します。

- 車両が動いている方向に、歩行者、動物、物体が存在する
- ドアやテールゲートが開いている。
- 運転者がシートベルトを着用していない
- 車両が後退方向に制御されているときに、駐車衝突防止アシストまたは斜め後方衝突防止アシストが作動した
- パーキング / ビュー（P）ボタンが長押しされていない
- ブレーキペダルを踏んで車両を停止させている
- 前進 / 後退制御中に駐車衝突防止アシストが作動した。

スマート出庫機能が一時停止になると、車両が停止します。一時停止になる状況がなくなると、この機能は再度動作します。

次の場合、機能が解除されます。

- スマート出庫
  - ステアリングホイールが操作された
  - シフトを切り替えた
  - 車両が動いているときに、電動パーキングブレーキ（EPB）が作動した
  - ボンネットが開いた
  - 運転者がシートベルトを着用せずにドアを開けた
  - 急加速が起こった
  - 車両が横滑りした
  - ホイールが障害物にはまって、動かなくなった
  - 車両の前方と後方に同時に歩行者、動物、物体が存在している
  - スマート出庫機能が作動してから約 3 分 50 秒経過した
  - 道路の傾斜が動作可能範囲を超えている
  - この機能が 1 分以上、一時停止している
  - ステアリングホイール、シフト、ブレーキ、運転制御が適切に作動していない
  - 道が滑りやすいため、ABS、TCS、または ESC システムが作動している
  - 充電口が開いた

スマート出庫機能が解除されると、車両が自動的に停止し、シフトをP(パーキング)に切り替え、EPB(電子パーキングブレーキ)をかけます。

故障と制約

故障

故障



リモートスマートパーキングアシストが正しく作動していない場合は、インフォテインメントシステムに「**システム点検必要**」という警告メッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、リモートスマートパーキングシステムの使用を中止し、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

解除



リモートパーキングシステムの作動中に機能が解除される可能性があります。その際は、駐車指示に関係なく、「**システムオフ**」という警告メッセージが表示される場合があります。状況によっては、他のメッセージが表示されることもあります。リモートパーキングシステムを使用して車両を駐車している間は、インフォテインメントシステムに表示される指示に従ってください。リモートスマートパーキングアシストを使用する際は、常に周囲に注意してください。

作動待機中



次の状況では、「**パーキングシステムの条件を満たしていません**」というメッセージが表示されます。

- リモートスマートパーキングアシストの作動待機中に、パーキング / ビュー（P）ボタンを長押しすると、「**パーキングシステムの条件を満たしていません**」というメッセージが表示されます。しばらくしてから、パーキング / ビュー（P）ボタンを再度長押しして、リモートスマートパーキングアシストが作動するかどうかを確認してください。
- スマートキーのバッテリ残量が少ない場合。スマートキーのバッテリ残量を確認してください。

制約

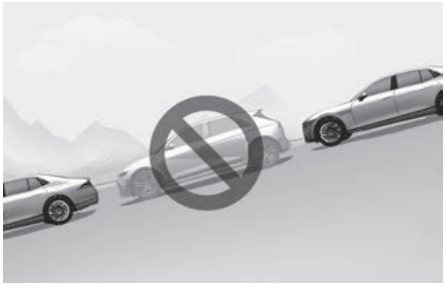
次のような状況下では、リモートスマートパーキングアシストの駐車/出車動作が制限される場合があります。また、衝突の危険性が生じたり、リモートスマートパーキングアシストがOFFになったりする場合もあります。必要に応じて手動で駐車または出車を行ってください。

- ステアリングホイールに物が取り付けられている
- スノーチェーン、スペアタイヤ、サイズの違うホイールが車両に取り付けられている
- タイヤ空気圧が、標準のタイヤ空気圧より低い、または高い
- 車両より長い、または幅の広い荷物が積まれている、あるいはトレーラーが取り付けられている
- ホイールアラインメントに問題が発生している
- 車両が一方にひどく傾いている
- 車両にトレーラーヒッチが取り付けられている
- 元の位置とは違うところにナンバープレートが取り付けられている
- リモートスマートパーキングアシストが有効になるときに、超音波センサーの上または下に人、動物、物体が存在する
- 駐車スペースがカーブしている、または斜めになっている
- 駐車スペースの近くに人、動物、物体（ごみ入れ、自転車、バイク、ショッピングカート、細い柱）などの障害物が存在する
- 駐車スペースの近くに丸い柱や細い柱、消火器などの物体で囲まれた柱がある
- 路面がでこぼこしている（縁石やスピードバンプなど）
- 道路が滑りやすい
- トラックなどのような、より地上高の高いまたは大型の車両の近くに駐車スペースがある
- 駐車スペースが傾斜している
- ラインのある駐車スペースの路面が雪や水たまりで濡れている、または駐車スペース内に道路標識がある
- ラインのある駐車スペースの路面が亀裂により凹凸がある
- 駐車ラインが細すぎる、または太すぎる
- 駐車ラインが一部消えている、またはぼやけている
- 駐車ラインが、人、動物、雪や箱などの物で遮られている
- 強風が吹いている
- 平坦でない道、砂利道、茂みなどでリモートスマートパーキングアシストを使用している
- 超音波センサーの性能が、非常に高温または低温の気候の影響を受けている
- 超音波センサーが雪または水で覆われている
- 超音波を発生させるものが近くにある
- 伝送機能を備えた無線機器が超音波センサーの近くで作動している
- 車両が別の車両の駐車距離警告の影響を受けている。
- バンパーが衝撃を受けたために、センサーが不適切に取り付けまたは配置された状態になっている
- カメラが正しく取り付けられていない、またはアウトサイドミラーの損傷により位置がずれている
- 次のような物体により、超音波センサーが検知できない
  - ロープ、チェーン、小さなポールなど、鋭利なものや細いもの
  - 長さが 100cm より短く、直径が 14cm より小さいもの
  - 布、スポンジ状の素材、雪など、センサーの周波数を吸収する傾向のあるもの
  - 角柱の角のような細いもの
  - 超音波センサーの近くにいる人、動物、物体

- 次のような状況により、カメラが駐車ラインや物体を正しく認識できない、または認識できない
  - 周囲に小さな物体（縁石など）、鋭利な物体、細い物体（ロープなど）がある
  - 人、動物、物体が車両に近すぎる、または遠すぎる
  - 物体がピックアップトラックのような高い位置にある
  - カメラが汚れや水滴で遮られている
  - カメラが明るい光に晒されている
  - 周囲が非常に暗い
  - 表面で光が反射している

リモートスマートパーキングアシストは､次のような状況下では正常に作動しないことがあります。

- 斜面に駐車する



斜面では、手動で駐車および出庫します。

- 平坦でない道に駐車する



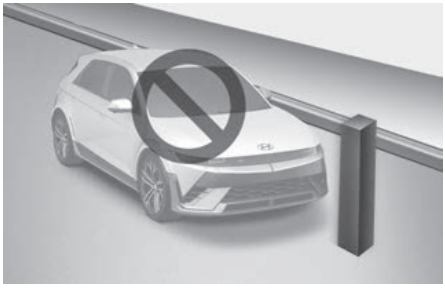
砂利や石の破片などの路面状況により車両がスリップしたり動けなくなったりした場合は、リモートスマートパーキングアシストが解除されることがあります。

- トラックの後ろに駐車する



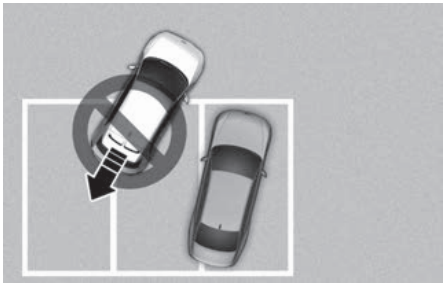
バスやトラックなど、地上高の高い車両の周囲でリモートスマートパーキングアシストを使用しないでください。事故につながるおそれがあります。

- 柱の近くに駐車する



駐車スペースの近くに、細い物体、丸い柱や四角い柱、消火器などの物体で囲まれた柱があると、リモートスマートパーキングアシストの性能が低下したり、障害物と衝突したりする場合があります。運転者は、手動で駐車する必要があります。

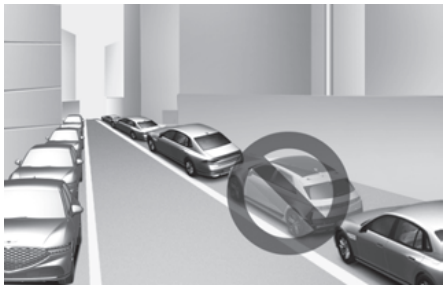
- 位置調整されていない車両の隣に駐車する



位置調整されていない車両の隣に駐車する際にリモートスマートパーキングアシストを使用すると、並んで駐車されない場合があります。

ただし、駐車ラインがあり、それを正しく検出できれば、駐車ラインに沿って駐車されます。

- 壁の近くの駐車スペースから出車する、または狭いスペースに駐車する



- 壁に近く狭い駐車スペースから出車する場合、リモートスマートパーキングアシストは正しく作動しないことがあります。出車するときは必ず、歩行者、動物、物体が存在していないか確認してください。
- 安全のため、リモートスマートパーキングアシストは、駐車に最低限必要なスペースより狭い駐車スペースしかない場所では、駐車スペースの探索を行いません。

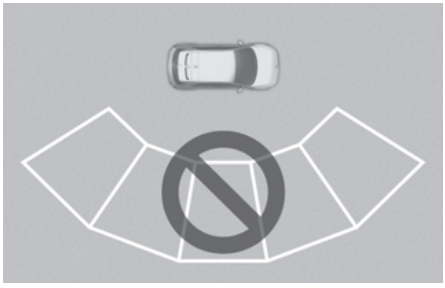
  リモートスマートパーキングアシストは、狭いスペースに駐車する際は正常に作動しないことがあります。駐車するときは必ず、歩行者、動物、物体が存在していないか確認してください。

- 雪の中で駐車する



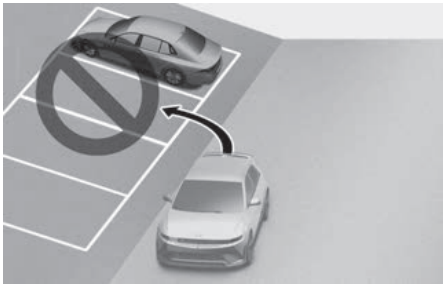
雪が超音波センサーやワイドビューカメラの作動の妨げになる場合があります。また、駐車中に道路が滑りやすいと、リモートスマートパーキングシステムが解除されることがあります。

- 通常とは異なる駐車スペース



リモートスマートパーキングアシストは、駐車ラインが平行でない場合、正常に機能しません。センサーは駐車スペースを認識しますが、駐車しないでください。

- 傾斜した駐車スペース



リモートスマートパーキングアシストは、傾斜や湾曲した路面では、正常に機能しません。センサーは駐車スペースを認識しますが、駐車しないでください。

- 斜めに駐車する



斜めの駐車スペースではリモート前進機能が正しく作動しない場合があります。

⚠ 警告

リモートスマートパーキングアシストを使用する場合は､次の注意点を守ってください。

- 運転者には、リモートスマートパーキングアシストの使用中、安全に駐車および出車を行う責任があります。
- リモートスマートパーキングアシストを使用するときは、安全のため、車両が動く方向から離れるようにしてください。
- リモートスマートパーキングアシストを使用するときは、周辺の障害物にご注意ください。歩行者、動物、物体がセンサーの近くやセンサーの死角領域に存在している場合、衝突のおそれがあります。
- リモートスマートパーキングシステムの作動中に突然、歩行者、動物、物体が現れた場合、衝突事故が発生するおそれがあります。
- 酒気を帯びているときは、リモートスマートパーキングアシストを使用しないでください。
- 子供や他の人にスマートキーを使わせないでください。
- リモートスマートパーキングアシストを長時間連続して使用すると、その性能に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 車両が片側に傾いているなど、車両のホイールアラインメント調整が必要な場合は、リモートスマートパーキングアシストが正常に作動しないことがあります。弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。
- リモートスマートパーキングアシストによってブレーキがかかったときや、運転者がブレーキペダルを踏んだとき、きしり音が聞こえる場合があります。
- リモートスマートパーキングアシストは、歩行者、動物、物体との衝突を避けるために急ブレーキをかけることがあります。
- リモートスマートパーキングアシストは、車両を安全に動かすのに十分な広さのある駐車スペースでのみ使用してください。
- リモートスマートパーキングシステムが正常に作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

知識

- リモートスマートパーキングシステムの作動中に、前進 / 後進駐車距離警告の 3 段階目の警告音（連続したブザー音）が鳴った場合は、検知された障害物が車両の近くにあることを意味します。このとき、リモートスマートパーキングアシストは、一時的に作動を停止します。車両の周囲に歩行者、動物、物体が存在していないことを確認してください。
- ブレーキの作動によっては、車両が動いている間、ストップライトが点灯する場合があります。
- 低温の気候下で長時間駐車した車両をリモート始動する場合、車両の状態によっては、リモートパーキング機能の作動が遅れたり、解除されたりすることがあります。

適合宣言書

フロントレーダー

装備されている場合

無線周波コンポーネントは、次のとおり適合しています。



フロントコーナーレーダー／リアコーナーレーダー

装備されている場合

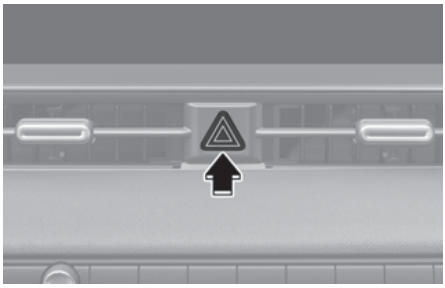
無線周波コンポーネントは、次のとおり適合しています。



8. 緊急事態

ハザードランプ 8-2
運転中の緊急事態 8-2
運転中に車両がストールした場合 8-2
交差点または横断歩道でストールした場合 8-2
運転中にタイヤがパンクした場合 8-3
車両が始動しない場合 8-3
12V バッテリーの確認 8-3
ジャンプスタート（12V バッテリー） 8-4
タイヤ空気圧監視システム（TPMS） 8-7
タイヤ空気圧の確認 8-8
タイヤ空気圧監視システム 8-8
タイヤ空気圧低下警告灯 8-9
タイヤ空気圧低下位置インジケーターとタイヤ空気圧インジケーター 8-9
TPMS インジケーター 8-10
TPMS 搭載タイヤの交換 8-11
タイヤがパンクした場合（タイヤモビリティキット装備車） 8-12
はじめに 8-12
タイヤモビリティキットの安全な使い方に関する注意事項 8-13
タイヤモビリティキットのコンポーネント 8-14
タイヤモビリティキット使用方法 8-16
タイヤ空気圧の調整方法 8-19
けん引 8-20
けん引サービス 8-20
脱着可能なトラクションフック 8-21
緊急用品 8-22
消火器 8-22
救急箱 8-22
発炎筒 8-23
三角表示板 8-23
タイヤ空気圧ゲージ 8-23
Hyundai エマージェンシーコールシステム 8-24
Hyundai エマージェンシーコールシステム 8-28

ハザードランプ



ハザードランプは、他の車両に対して、車両への接近、追い越し、または通過時に特に注意を払う必要があるという警告を発する役割があります。

緊急で修理を行う場合や、車両を路肩近くに停車させる場合に使用します。

ハザードランプをオン/オフするには、ハザードランプボタンを押します。EV START/STOPボタンの位置は問いません。このハザードランプボタンはダッシュボード中央にあります。ウィンカーがすべて同時に点滅します。

- ハザードランプは、車両電源が ON (READY インジケータがオン) かどうかを問わず動作します。
- ハザードランプが ON のときは、ウィンカーは動作しません。

運転中の緊急事態

運転中に車両がストールした場合

- 直進しながら徐々に速度を落としてください。慎重に道路から降りて安全な場所に移動してください。
- ハザードランプを ON にします。
- 車両の再始動を試してみてください。車両が始動しない場合、弊社認定修理業者にご連絡いただくか、認定技術者にサポートをご依頼いただくことを推奨します。

交差点または横断歩道でストールした場合

車両が交差点または横断歩道でストールした場合、安全を確認した上でシフトをN(ニュートラル)に入れ、車両を押して安全な場所に移動させます。

車両の電源が入っていないときにN(ニュートラル)のままにする方法は、第6章「車両の電源がOFFの状態でN(ニュートラル)を維持する方法車両の電源がOFFの状態でN(ニュートラル)を維持する方法」を参照してください。

運転中にタイヤがパンクした場合

運転中にタイヤがパンクした場合は以下を実施してください。

- アクセルペダルから足を離し、そのまま走行しながら車両を自然に減速させます。すぐにブレーキをかけたり、路肩に寄せようとしたりしないでください。車両の制御を失い、事故につながるおそれがあります。ブレーキをかけて安全な速度まで減速したら、路肩に寄せます。走行車線上からできる限り離れ、安定した水平な場所に停車してください。高速道路の分岐点にいる場合、2 つのレーンの間の中央分離帯に停車しないでください。
- 停車した状態で、ハザードランプボタンを押し、シフトを P（パーキング）に入れ、パーキングブレーキをかけてから、EV START/STOP ボタンを OFF の位置にします。
- 乗員全員を降車させてください。乗員は車両が行き来していない側から出るようにしてください。
- パンクしたタイヤを交換する際は、この章の後半に記載する手順に従ってください。

車両が始動しない場合

12V バッテリーの確認

- シフトが P（パーキング）に入っていることを確認します。シフトが P（パーキング）に入っていないと、車両は始動しません。
- 12V バッテリーがしっかりと接続されていることを確認します。
- ルームライトを点灯させます。車両を始動しても、ライトの光が弱い場合や点灯しない場合は、12 V バッテリーが放電しています。

車両を始動させようとして車両を押したり引いたりしないでください。車両が損傷するおそれがあります。

ジャンプスタート（12V バッテリー）

ジャンプスタートは正しく行わないと危険です。このセクションのジャンプスタート手順に従って、重大な傷害や車両への損傷を回避してください。適切なジャンプスタートの方法がわからない場合は、弊社認定修理業者またはけん引サービスに依頼することを強く推奨します。

⚠ 警告

お客様や周囲の方の重大な傷害や死亡につながる事故を防ぐため、バッテリーの近くで作業を行う際やバッテリーを取り扱う際は、次の注意事項に従ってください。

バッテリーを取り扱う際は、必ず説明をお読みになり、細心の注意を払ってその指示に従ってください。



酸の飛散から目を保護できるように設計された保護メガネを着用してください。



バッテリーに炎、火花、喫煙具を近づけないでください。



バッテリーセル内には常に高可燃性の水素が存在しており、点火した場合は爆発するおそれがあります。



バッテリーは子どもの手の届かないところに置いてください。



バッテリーには強腐食性の硫酸が含まれています。酸が目、皮膚、衣類に付着しないようにしてください。

酸が目に入ってしまった場合は、清潔な水で最低15分間洗浄し、すぐに医療機関を受診してください。酸が皮膚に付着した場合は、付着箇所を十分に洗い流してください。痛みや焼けるような感覚がある場合は、すぐに医療機関を受診してください。



- プラスチックケースのバッテリーを持ち上げる際、ケースに過度の圧力がかかるとバッテリー内の酸が漏れてくるおそれがあります。バッテリーキャリアを使用して持ち上げるか、手を対角に添えて持ち上げてください。
- バッテリーが凍っている場合は、車両をジャンプスタートさせないでください。
- 車両のバッテリーケーブルがバッテリーに接続されている状態では、絶対に充電しないでください。

- エレクトリカルイグニッションシステムの作動時は高電圧になります。

  走行中、または EV START/ STOP ボタンが ON の位置にある状態でこれらのコンポーネントに絶対に触れないでください。
- エレクトリカルイグニッションシステムの作動時は高電圧になります。READY インジケーターがオンの状態、または EV START/ STOP ボタンが ON の位置にある状態では、絶対にこれらの部品に触れないでください。
- (+) と (−) のブースターケーブルを接触させないでください。火花が発生するおそれがあります。
- 残量が少ないバッテリーや凍結したバッテリーを使用してジャンプスタートを行うと、バッテリーが破裂または爆発するおそれがあります。
- (−) 端子に直接ブースターケーブルを接続しないでください。(−) 端子から離れた位置にある金属部分に、ブースターケーブルを接続してください。(−) 端子に直接ブースターケーブルを接続すると、爆発する可能性があります。
- ジャンプスタートには、必ず 12V バッテリーのみを使用してください。それ以外の電圧のバッテリーを使用してジャンプスタートを行うと、バッテリーの損傷や爆発につながるおそれがあります。

ジャンプスタートの手順

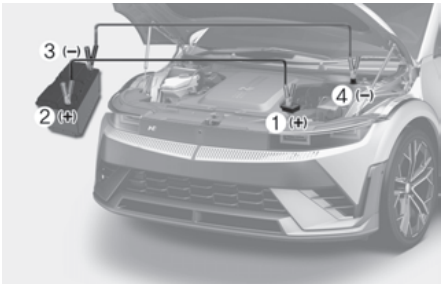
i 情報

車両をジャンプスタートさせる際は、モーターコンパートメント内のジャンプスタート用の端子を使用してください。

1. ブースターケーブルが届くように、車両を近くまで（ただし接触しないように）移動させます。
2. 車両の電源が OFF であったとしても、モーターコンパートメント内のファンなどの可動部分に触らないように常に注意します。
3. カーラジオ、ライト、エアコンなどの電子機器の電源を切ります。車両のシフトレバーを P（パーキング）にいれ、パーキングブレーキをかけます。両方の車両の電源をオフにします。
4. ボンネットを開けます。
5. モーターコンパートメントのヒューズボックスカバーを取り外します。

⚠ 注意

ジャンプスタートを行う前に、逆極性接続が発生しないようにプラス（+）端子とマイナス（−）端子を正しく識別してください。



6. 図に示された順番通りにブースターケーブルを接続します。まず、ブースターケーブルの片方を、12V バッテリーがあがった車両のバッテリーの赤いプラス（+）端子に接続します（1）。

7. ブースターケーブルのもう一方の端を、救援車両のバッテリーの赤いプラス（+）端子に接続します（2）。
8. 2 本目のブースターケーブルを、救援車両のバッテリーの黒いマイナス（−）端子、またはボディアースに接続します（3）。
9. 2 本目のブースターケーブルのもう一方の端を、12V バッテリーがあがった車両のバッテリーの黒いマイナス（−）端子、またはボディアースに接続します（4）。

   ブースターケーブルは、適切なバッテリー端子、あるいは適切なアース以外と接触しないようにしてください。接続時にはバッテリーに寄りかからないようにします。

⚠ 警告

ブースターケーブル端子が正しい充電端子、またはボディアース以外に接触しないようにしてください。火花が発生してバッテリーが爆発し、けがや車両の損傷につながるおそれがあります。

10. 救援車両を始動して、数分間そのまま動作させます。その後、本車両を始動します。
11. 自分の車両を最低でも 30 分間は READY 状態にするか走行し、電源を OFF にしても自力で始動できるようにバッテリーを十分に充電します。放電しきったバッテリーは、完全に充電するのに 60 分ほどかかります。車両の動作時間が短い場合、バッテリーで再始動できない場合があります。

数回試みても車両が始動しない場合は、サービス点検が必要な可能性があります。この場合、認定技術者にサポートをご依頼ください。バッテリーが上がった原因が不明な場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

接続時と反対の順番で、ブースターケーブルの接続を外します。

1. ブースターケーブルを、12V バッテリーがあがった車両のバッテリーの黒いマイナス（−）端子、またはボディアースから外します（4）。
2. ブースターケーブルのもう一方の端を、救援車両のバッテリーの黒いマイナス（−）端子、またはボディアースから外します（3）。
3. 2 本目のブースターケーブルを、救援車両のバッテリーの赤いプラス（+）端子から外します（2）。
4. ブースターケーブルのもう一方の端を、12V バッテリーがあがった車両のバッテリーの赤いプラス（+）端子から外します（1）。

i 情報



不適切な方法で廃棄されたバッテリーは、環境および人の健康に有害な影響を与えることがあります。バッテリーを廃棄する際は、地域の法律または規制に従ってください。

知識

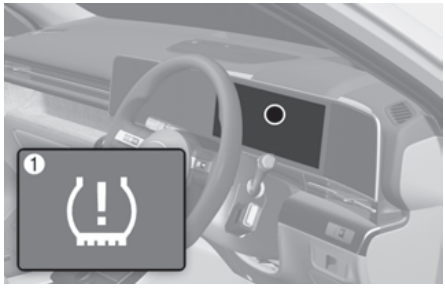
車両の損傷を防ぐため、以下を遵守してください。

- 車両をジャンプスタートさせるには、12V 電源（バッテリーまたはジャンパーシステム）のみを使用すること。
- 押し掛けで車両をスタートさせないこと。
- 車両のジャンプスタートが終わった後は、必ずバッテリーカバーとケーブルをしっかりと取り付けてください。そうしないと、関連部品の損傷、騒音のトラブル、または異物の侵入につながる可能性があります。

⚠ 警告

車両をジャンプスタートさせる際は、プラス(+)ケーブルとマイナス(−)ケーブルを接触させないでください。火花が発生してけがをするおそれがあります。

タイヤ空気圧監視システム（TPMS）





(1) タイヤ空気圧低下インジケーター/TPMS 誤動作インジケーター
(2) タイヤ空気圧低下位置インジケーターとタイヤ空気圧インジケーター（クラスターディスプレイに表示される）

タイヤ空気圧の確認



- タイヤ空気圧はメーター上のユーティリティビューモードで確認できます。

  第 4 章の「制御」を参照してください。
- タイヤ空気圧は数分走行すると表示されます。停車中にタイヤ空気圧が表示されない場合は、「**走行中に表示されます**」と表示されます。
- 表示されたタイヤ空気圧の値は、タイヤ空気圧ゲージで測定した値とは異なる場合があります。
- タイヤ空気圧単位は、インフォテインメントシステムで変更できます。
  - **設定** > **一般** > **単位** > **タイヤ空気圧単位** > **psi/kPa/bar** を選択します。

i 情報

インフォテインメントシステムはアップデート後に変更されることがあります。詳細については、インフォテインメントシステムに付属のマニュアルおよびクイックリファレンスガイドを参照してください。

タイヤ空気圧監視システム

⚠ 警告

空気圧は高すぎても低すぎてもタイヤの寿命が短くなり、車両の操作性に悪影響を及ぼし、タイヤに突然の不具合を発生させ、車両が制御不能になり衝突事故を引き起こすおそれもあります。

1ヶ月に1回、すべてのタイヤ(該当する場合はスペアタイヤを含む)の冷間時の空気圧を点検し、車両プラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されている、車両メーカーが推奨する空気圧まで空気を入れます。(車両プラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されているものとは異なるサイズのタイヤを装着している場合、そのタイヤの適切な空気圧を確認してください)

追加の安全機能として、車両にタイヤ空気圧監視システム(TPMS)が装備されています。このシステムでは、いずれかのタイヤ空気圧が著しく低下した場合に、タイヤ空気圧低下インジケーターが点灯します。タイヤ空気圧低下インジケーターが点灯したら、なるべく早く停車してタイヤを点検し、適切な空気圧まで空気を入れてください。タイヤ空気圧が著しく低下した状態で走行すると、タイヤが過熱し、タイヤの不具合につながる場合があります。

空気圧が低いと電費が悪くなり、タイヤのトレッドの寿命も短くなります。また、車両の操作性や停止能力にも影響する可能性があります。

TPMSはタイヤの適切なメンテナンスの代わりになるものではありません。空気圧の低下がTPMSのタイヤ空気圧低下インジケーターを点灯させるレベルに達していない場合でも、適切なタイヤ空気圧を維持することは運転者の責任であることにご留意ください。

車両には、システムが適切に動作しない場合に警告する、TPMS誤動作インジケーターも搭載されています。TPMS誤動作インジケーターは、タイヤ空気圧低下インジケーターと連動しています。システムが誤動作を検知すると、インジケーターが約1分間点滅し、その後点灯したままになります。このシーケンスは、誤動作が存在する限り、その後の車両始動時にも継続します。

誤動作インジケーターが点灯した場合、システムはタイヤ空気圧低下を適切に検知または通知できないおそれがあります。TPMSの誤動作にはさまざまな原因がありますが、その一例は、車両に取り付けた交換または代替用のタイヤまたはホイールが、TPMSの適切な動作を妨げている場合です。

車両のいずれかのタイヤまたはホイールを交換した後は必ずTPMS誤動作インジケーターを確認し、交換または代替用タイヤまたはホイールを使用してもTPMSが継続して適切に動作することを確認します。

知識

次の場合は、弊社認定修理業者にシステムのチェックをご依頼いただくことを推奨します。

- タイヤ空気圧低下インジケーター/TPMS 誤動作インジケーターが、EV START/ STOP ボタンを ON の位置にしてから 3 秒間、または走行中に点灯しない。
- TPMS 誤動作インジケーターが、約 1 分間点滅した後に点灯状態になる。
- タイヤ空気圧低下位置インジケーターが点灯したままになっている。

タイヤ空気圧低下警告灯

タイヤ空気圧低下警告灯



タイヤ空気圧低下位置インジケーターとタイヤ空気圧インジケーター



タイヤ空気圧監視システムの(!)警告インジケーターが点灯し、クラスターディスプレイに警告メッセージが表示された場合、1本以上のタイヤの空気圧が大幅に低下しています。タイヤ空気圧低下位置インジケーターにより、対応するタイヤ位置が点灯されて空気圧が大幅に低下しているタイヤがわかります。

いずれかのインジケーターが点灯した場合、直ちに減速し、急カーブを避け、制動距離を長めに予測します。なるべく早く停止し、タイヤを確認してください。運転席側のセンターピラー外側パネルにある車両のプラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されている適切な空気圧まで、タイヤに空気を入れます。

サービスステーションまで走行できない場合、またはタイヤに空気を入れても抜けてしまう場合は、空気圧が低下したタイヤをスペアタイヤと交換してください。

空気圧が低下しているタイヤの修理と交換が終わるまで、タイヤ空気圧低下位置インジケーターは点灯したままになり、TPMS誤動作インジケーターは、約1分間点滅した後に点灯したままになります。

⚠ 注意

タイヤ空気圧が気温の高い時期に推奨空気圧に調整されていた場合、冬季または寒冷時にタイヤ空気圧低下インジケーターが点灯する場合があります。これは気温の低下に比例してタイヤ空気圧が低下しているためであり、TPMSの誤動作ではありません。

温暖地から寒冷地に、または寒冷地から温暖地に移動したり、外気温が大幅に変化したときは、タイヤ空気圧を点検し、推奨空気圧に調整してください。

⚠ 警告

空気圧低下による損傷

タイヤ空気圧が低下しすぎると、車両が不安定になり、制御不能になったり、制動距離が長くなったりする可能性があります。

空気圧が低いタイヤで走行を続けると、タイヤが過熱して不具合が発生するおそれがあります。

TPMS インジケーター



タイヤ空気圧監視システムに問題が発生すると、TPMS誤作動(!)インジケーターが約1分間点滅し、その後点灯状態に変わります。

なるべく早く弊社認定修理業者にシステムの点検をご依頼いただくことを推奨します。

知識

TPMSの誤動作がある場合、タイヤの空気圧が低下していても、タイヤ空気圧低下位置インジケーターは表示されません。なるべく早く弊社認定修理業者にシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。

知識

車両が電源ケーブルまたは無線送信機(警察署、政府機関、行政機関、放送局、軍事施設、空港、送電塔など)の近くにある場合、TPMS誤作動インジケーターが約1分間点滅し、その後点灯に変わることがあります。

また、スノーチェーンを使用している場合や、電子機器(パソコン、充電器、リモートスターター、ナビゲーションなど)が車両の近くにある場合、TPMS誤作動インジケーターが点灯することがあります。これは、TPMSの正常な動作を妨げる可能性があります。

TPMS 搭載タイヤの交換

タイヤがパンクした場合、タイヤ空気圧低下インジケーターと位置インジケーターが点灯します。できるだけ早く弊社認定修理業者にパンク修理をご依頼いただくことを推奨します。

知識

空気圧が低下したタイヤの修理や、空気を入れるために、弊社認定修理業者が承認していないパンク修理業者に依頼したり、この車両用として承認されていない同等品を使用することは推奨しません。弊社認定修理業者が承認していないタイヤシーラントや、この車両用として承認されていない同等品を使用すると、タイヤ空気圧センサーが損傷するおそれがあります。

目視だけではタイヤ空気圧の低下を特定できない場合があります。必ず高品質のタイヤ空気圧ゲージを使用してください。(走行後など)熱くなっているタイヤは、冷えたタイヤに比べて空気圧の測定値が高くなることに注意してください。

冷えたタイヤとは、車両が3時間静止状態で、その3時間の間の走行距離が1.6km未満であることを意味します。

空気圧の測定はタイヤが冷えてから行ってください。推奨空気圧まで空気を入れる前に、必ずタイヤが冷えていることを確認してください。

⚠ 警告

- TPMS は、釘や路上の破片などの外的要因によって引き起こされる突発的で深刻なタイヤの損傷を警告するものではありません。
- 車両が不安定だと感じたら、直ちにアクセルペダルから足を離し、弱い力で徐々にブレーキをかけ、車両をゆっくりと路肩に寄せます。

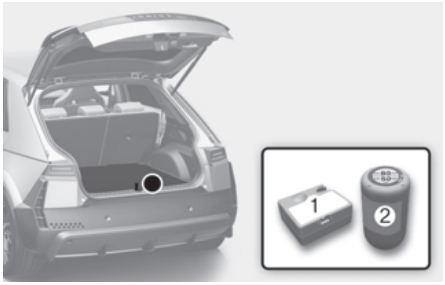
⚠ 警告

タイヤ空気圧監視システム(TPMS)コンポーネントを改変、改造、または無効にすると、タイヤ空気圧の低下やTPMSの誤動作を運転者に警告するシステムの機能が妨げられ、保証が無効になるおそれがあります。

⚠ 警告

- 車両を改造しないでください。TPMSの機能を妨げるおそれがあります。
- 市販のホイールには TPMS センサーが搭載されていません。安全上の理由から、弊社認定修理業者からご購入いただいた交換部品を使用することを推奨します。
- 市販のホイールを使用する場合、弊社認定修理業者が承認した TPMS センサーか、この車両用として承認されている同等品を使用してください。車両に TPMS センサーが搭載されていない、または TPMS が適切に動作しない場合、各地域の法律、または規制に適合しない場合があります。

タイヤがパンクした場合（タイヤモビリティキット装備車）



安全な動作のため、使用する前に本書に記載の手順をよく読み、遵守してください。
(1) コンプレッサー
(2) シーラントボトル

タイヤモビリティキットはタイヤを一時的に修理するための手段です。できるだけ早く弊社認定修理業者にタイヤの点検を依頼するか、お客様の車両用として承認されている同等品に交換することを推奨します。

⚠ 注意

2本以上のタイヤがパンクした場合、タイヤモビリティキットは使用しないでください。タイヤモビリティキットに付属するシーラントは1つで、タイヤ1本のパンクにしか対応できません。

⚠ 警告

タイヤのサイドウォールのパンク修理にはタイヤモビリティキットを使用しないでください。タイヤの不具合により事故が発生する場合があります。

⚠ 警告

パンクしたタイヤはなるべく早めにパンク修理を行なうか、タイヤ交換を実施してください。タイヤモビリティキットで空気を入れた後も、タイヤの空気圧が低下する可能性は常にあります。

はじめに

タイヤモビリティキットがあれば、タイヤがパンクしても車両の運転を継続することができます。

コンプレッサーとシーリングコンパウンドシステムにより、釘などの異物によって発生した乗用車用タイヤのパンクを効果的かつ容易に封止し、タイヤに空気を入れることができます。

タイヤが適切に封止されていることを確認したら、タイヤを交換してもらうために、弊社認定修理業者またはタイヤのディーラーまで最大80km/hの速度で十分注意しながら運転することができます（最長距離50km）。

一部のタイヤや特に穴が大きい、またはサイドウォールに損傷があるタイヤは、完全に封止できないことがあります。

タイヤの空気圧が低下してタイヤの性能に悪影響を及ぼすおそれがあります。

この理由から、特に車両の積載荷重が大きい場合やトレーラーを使用している場合は、急ハンドルなどの運転操作を避ける必要があります。

タイヤモビリティキットはタイヤの恒久的な修理方法として設計または意図されておらず、タイヤ1本にしか使用できません。

この手順では、パンクを簡単かつ確実に、一時的に封止する方法について、段階を追って説明します。

「タイヤモビリティキットの安全な使い方に関する注意事項タイヤモビリティキットの安全な使い方に関する注意事項」を参照してください。

⚠ 警告

タイヤがパンクした状態、または空気圧が不十分な状態で運転したためにタイヤが激しく損傷している場合は、タイヤモビリティキットを使用しないでください。

タイヤモビリティキットを使用して封止できるのは、タイヤのトレッド領域内に位置するパンク部のみです。

タイヤモビリティキットの安全な使い方に関する注意事項

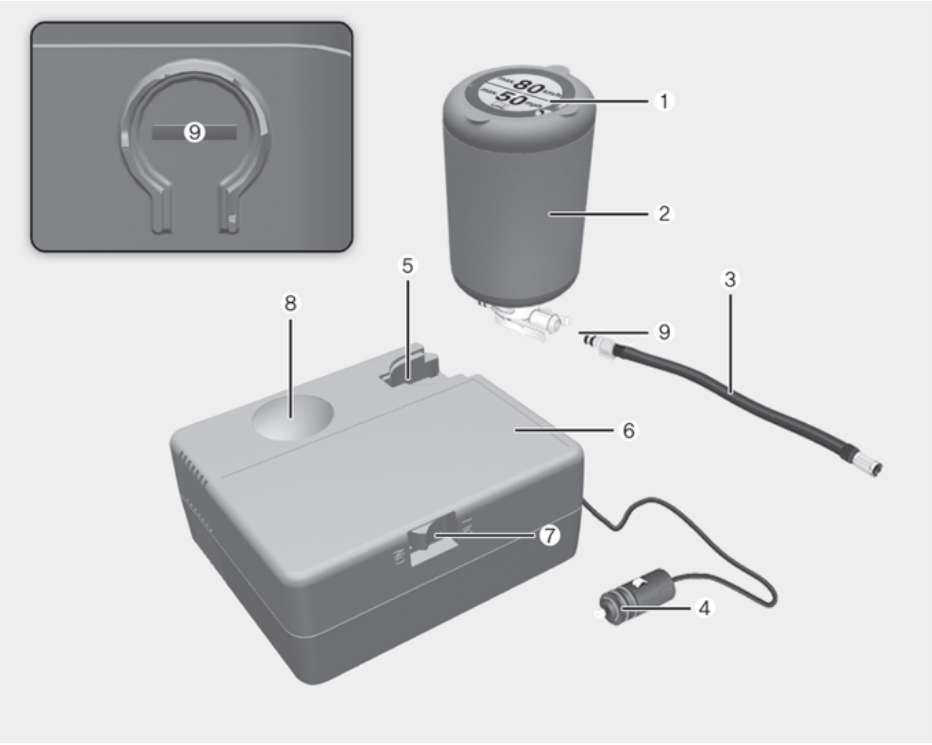
⚠ 警告

- タイヤモビリティキットは、乗用車のタイヤの一時的な補修、および空気圧の点検にのみ使用します。タイヤモビリティキットを使用してシールできるのは、タイヤのトレッド部のパンクのみです。
- タイヤとホイールが損傷している場合、安全のため、タイヤモビリティキットは使用しないでください。
- タイヤの損傷が約 4mm を超えている場合、タイヤモビリティキットを使用しても効果がない場合があります。
- タイヤモビリティキットを使用してもタイヤが走行可能な状態にならない場合、弊社認定修理業者にご連絡いただくことを推奨します。
- タイヤがパンクした状態、または空気圧が不十分な状態で運転したためにタイヤが激しく損傷している場合は、タイヤモビリティキットを使用しないでください。
- タイヤモビリティキットの使用中は、絶対にその場を離れないでください。
- シーラントが皮膚に付着した場合、大量の水でその部位をしっかりと洗い流します。直ちに医師の診察を受けてください。
- シーラントが目に入った場合、15 分以上目を洗い流します。直ちに医師の診察を受けてください。
- シーラントを飲み込んだ場合、口をゆすぎ、大量の水を飲んでください。ただし、本人に意識がない場合は何も与えず、直ちに医師の診察を受けさせてください。
- シーラントに長時間さらされた場合、腎臓などの身体組織の損傷を招くおそれがあります。

⚠ 注意

- 車の往来から離れた場所で、タイヤモビリティキットを使用して修理作業ができるように、車両を道路脇に止めます。
- 平地であっても、車両が動かないように、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- 二輪自動車、自転車、その他の種類のタイヤには使用しないでください。
- タイヤに刺さっている釘やネジなどの異物は除去しないでください。
- 車両が屋外にある場合は、車両をオンのままにしておきます（¢ インジケーターがオン）。そうしないと、コンプレッサーを動作させた結果、最終的に車両のバッテリーが消耗する場合があります。
- コンプレッサーを一度に 10 分以上連続して動作させないでください。オーバーヒートするおそれがあります。
- 周囲温度が -30° C 以下の場合はタイヤモビリティキットを使用しないでください。

タイヤモビリティキットのコンポーネント



(1) 速度制限ラベル
(2) シーラントボトルと速度制限ラベル
(3) 充てんホース
(4) シガーソケットへの直接接続用のコネクターとケーブル
(5) シーラントボトル用ホルダー
(6) コンプレッサー
(7) オン / オフスイッチ
(8) タイヤ空気圧を表示するための圧力ゲージ
(9) タイヤの空気圧を下げるデフレーションバルブ

コネクター、ケーブルおよび接続ホースは、コンプレッサーのハウジングに保管されています。

所定の順番を必ず守ってください。そうでない場合、高圧下でシーラントが漏れ出すおそれがあります。

⚠ 警告

期限切れのシーラント

有効期限が切れた(シーラント容器に記載された有効期限を過ぎた)タイヤシーラントは使用しないでください。タイヤの不具合の危険が増加します。

⚠ 警告

シーラント

- お子さまの手の届かない場所に置いてください。
- 目に入らないように注意してください。
- 飲み込まないでください。

タイヤモビリティキット使用方法

⚠ 注意



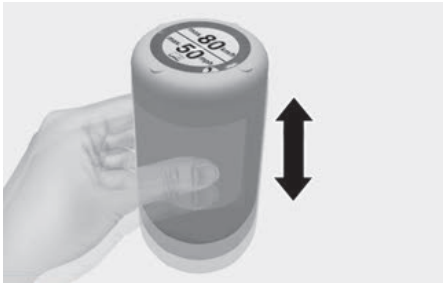
速度制限ラベル(1)をシーラントボトル(2)から取り外し、ステアリングホイールなどの車内の目立つ場所に貼り付けて、速度を出し過ぎないように、運転者の注意を促します。

⚠ 注意

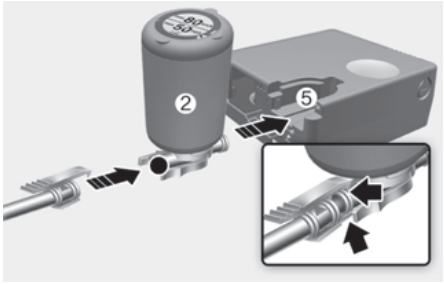
空気圧調整のみ必要な場合は、本章の「タイヤ空気圧の調整方法タイヤ空気圧の調整方法」を参照してください。

タイヤモビリティキットを使用する前に、シーラントに関する説明を読んで十分に理解してください。

1. シーラントボトル（2）をよく振ります。



2. シーラントボトル（2）のキャップとシーラントボトルホルダー（5）のキャップを外し、ボトルをシーラントボトルホルダーにねじ込みます。



3. 充てんホースのコンプレッサーバルブがロックされていることを確認します。
4. バルブのキャップを外し、充填ホース（3）をタイヤのバルブにねじ込みます。



⚠ 注意

シーラント充てんホースをバルブにしっかりと差し込みます。しっかり差し込んでいないと、シーラントが逆流し、充てんホースが詰まる可能性があります。

5. コンプレッサーの電源が OFF になっていることを確認してから、コンプレッサーの電源コード（4）を車両のシガーソケットに接続します。



6. 車両の電源を ON にした状態で（READY インジケータが点灯）、コンプレッサースイッチを入れてから約 5 ～ 7 分ほど作動させてシーラントを適切な圧力まで充填します（第 2 章の「タイヤとホイールタイヤとホイール」を参照してください）。充填後のタイヤの空気圧は重要ではないので、あとで確認 / 修正します。

   タイヤを膨らませすぎないように注意し、充填中のタイヤに近づかないようにしてください。

⚠ 注意

タイヤ空気圧

タイヤの空気圧を充てんしても 200kPa（29psi）を超えない場合、車両の運転を行なわないでください。タイヤの突然の不具合により、事故が発生する場合があります。

7. コンプレッサーの電源を切ります。
8. シーラントボトルのコネクターとタイヤのバルブからホースを外します。

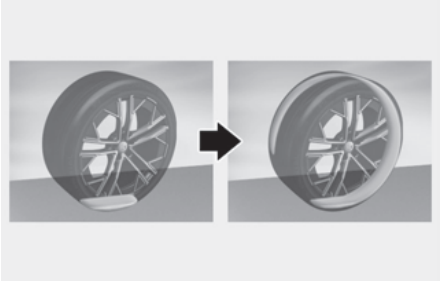
   タイヤモビリティキットを車内の収納場所に戻してください。

9. すぐに約 7 ～ 10km（または約 10 分間）走行し、シーラントをタイヤに均等に行き渡らせます。

   シーラントをタイヤへ均等にいきわたらせるためには、20km/h ～ 80km/h の間でお住いの地域や国の定める法定速度を遵守して走行してください。

   運転中に異常な振動、乗り心地の悪さ、または異音を感じた場合、速度を落とし、安全に道路脇に停車できるまで慎重に運転します。

   ロードサイドアシスタンスサービスまたはけん引サービス業者を呼びます。



10. 約 7 ～ 10km（または約 10 分間）ほど走行したら、安全な場所に停車します。
11. コンプレッサーの充填ホース（3）をタイヤバルブに直接接続します。



12. コンプレッサーの電源コードを車両のシガーソケットに接続します。

13.タイヤの空気圧を推奨空気圧に調整します。

車両の電源を ON にした状態で（READY インジケータがオン）、以下の手順で作業を進めます。

- 空気圧を上げるにはコンプレッサーの電源を入れます。空気圧を確認する場合、コンプレッサーの電源を OFF にしてから行います。
- 空気圧を下げるには：コンプレッサーのボタン（9）を押します。

知識

コンプレッサーは10分以上作動させないでください。オーバーヒートして損傷をうけるおそれがあります。

i 情報

コンプレッサーの動作中、圧力ゲージは実際の読み取り値より高い値を示す場合があります。正確な値を読み取るには、コンプレッサーの電源を切る必要があります。

⚠ 注意

空気圧が維持されない場合、ステップ9を参照し、もう一度車両を走らせます。

その後、ステップ10～13を繰り返します。

約4mm以上の大きさの損傷には、タイヤモビリティキットを使用しても効果がない場合があります。

タイヤモビリティキットを使用してもタイヤが走行可能な状態にならない場合、弊社認定修理業者にご連絡いただくことを推奨します。

⚠ 警告

タイヤ空気圧は220kPa（32psi）以上にしてください。それ以下の場合、運転を継続しないでください。

ロードサイドアシスタンスサービスまたはけん引サービス業者を呼びます。

⚠ 注意

タイヤ空気圧センサー（TPMSが搭載されている場合）

新品のタイヤと交換する場合、タイヤ空気圧センサーおよびホイールに付着したシーラントを除去し、タイヤ空気圧センサーを点検する必要があります。この作業は、弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

修理または交換したタイヤとホイールを車両に取り付ける場合、ホイールのナットを18～20kgf·m（130～145lbf·ft、176～196N·m）で締め付けます。

タイヤ空気圧の調整方法

1. 車両を安全な場所に駐車します。
2. コンプレッサーの充填ホース（3）をタイヤバルブに直接接続します。



3. コンプレッサーの電源コードを車両のシガーソケットに接続します。
4. タイヤの空気圧を推奨空気圧に調整します。

   車両の電源を ON にした状態で（READY インジケータがオン）、以下の手順で作業を進めます。

   - 空気圧を上げるにはコンプレッサーの電源を入れます。空気圧を確認する場合、コンプレッサーの電源を OFF にしてから行います。
   - 空気圧を下げるには：コンプレッサーのボタン（9）を押します。

知識

コンプレッサーは10分以上作動させないでください。オーバーヒートして損傷をうけるおそれがあります。

i 情報

- コンプレッサーの動作中、圧力ゲージは実際の読み取り値より高い値を示す場合があります。正確な値を読み取るには、コンプレッサーの電源を切る必要があります。
- 修理または交換したタイヤとホイールを車両に取り付ける場合、ホイールのナットを 18 ~ 20kgf·m（130 ~ 145lbf·ft、176 ~ 196N·m）で締め付けます。

⚠ 注意

タイヤ空気圧の調整のみが必要な場合は、シーラントを使用しないでください。

⚠ 警告

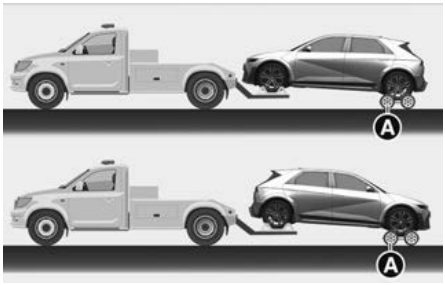
タイヤ空気圧は220kPa(32psi)以上にしてください。それ以下の場合、運転を継続しないでください。

ロードサイドアシスタンスサービスまたはけん引サービス業者を呼びます。

けん引

けん引サービス





[A] ドーリー

緊急けん引が必要な場合、弊社認定修理業者または民間のレッカーサービスに依頼することを推奨します。

車両への損傷を避けるには、適切な吊り下げおよびけん引手順が必要になります。ホイールドーリーまたはフラット搬送台の使用を推奨します。

4WD車両の場合、ホイールリフトとドーリー、またはフラット搬送台を使用して、すべてのホイールを地面から離した状態でけん引してください。

車両をけん引する前に短い距離を移動する場合の注意事項

レッカー車に積み込む場合や車両の位置を変える必要がある場合に限り、10 m以内の短い距離を5 km/h以下で動かすことができます。

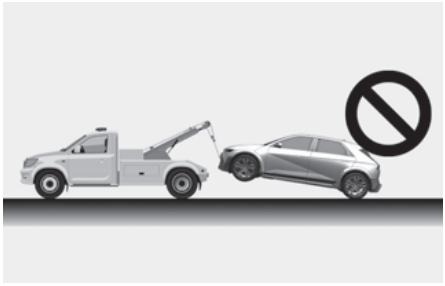
この時、シフトはN(ニュートラル)に入れ、パーキングブレーキは解除しなければなりません。変速機とパーキングブレーキを操作できない場合は、後輪を持ち上げた状態で車両を移動させます。

知識

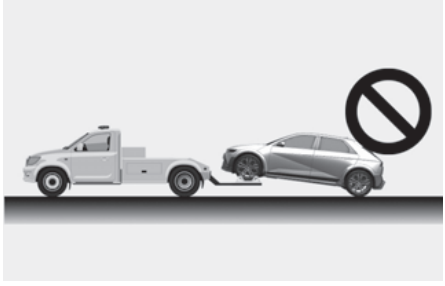
けん引フック、車体、シャーシ部品を使って車両を吊り上げないでください。車両が損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

- クレーン装置を使用して車両をけん引しないでください。ホイールリフトまたはフラット搬送台のみを使用してください。

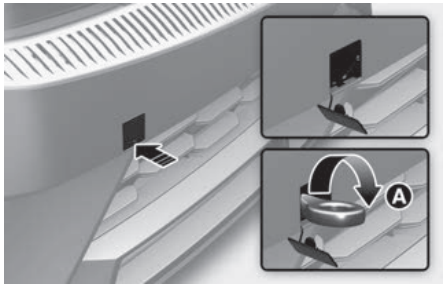


- トレーラーヒッチまたは車体およびシャシー部を使用してリフトしないでください。
- 後輪を地面に置いた状態で車両をけん引しないでください。車両が損傷するおそれがあります。

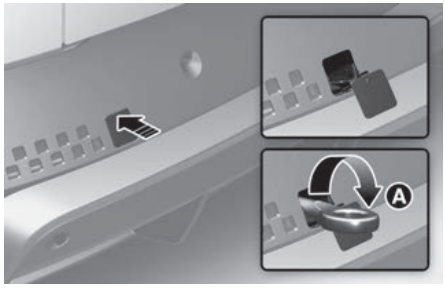


脱着可能なトラクションフック

フロント



リア



[A] 取り付け

1. テールゲートを開き、工具箱からトラクションフックを取り出します。
2. バンパーの穴カバーを取り外します。
   - フロント：バンパー穴カバーの下部を押します。
   - リア：バンパー穴カバーの上部を押します。
3. トラクションフックを穴に取り付け、完全に固定されるまで時計回り [A] に回します。

4.使用後はトラクションフックを取り外し、カバーを取り付けます。

知識

トラクションフックをしっかり締め付けないと、車両の損傷や関連部品の変形につながるおそれがあります。

⚠ 注意

トラクションフックはしっかり締め付けてください。そうしないと、けん引中に車両が外れ、重大な傷害や事故を引き起こす可能性があります。

緊急用品

装備されている場合

この車両には、緊急時に対応できるように緊急用品が装備されている場合があります。

消火器

知識

この車両には、車両の電気系統が原因で発生した火災時に使用する粉末タイプの消火器が装備されている場合があります。水、または他の不適切な消火器を使用すると、感電や付随的な損傷を引き起こすおそれがあります。車両に装備されている消火器で消火できない場合は、火から離れ、消防署に連絡してください。その際、火災がEVから発生したことを必ず伝えてください。

火災の規模が小さく、消火器の使い方を把握している場合は、十分に注意して次の手順に従ってください。

1. 消火器の上部にある安全ピン（ハンドルが誤って押されないようにするピン）を抜きます。
2. ノズルを火元に向けます。
3. 火から約 2.5m 離れて立ち、ハンドルを握って消火剤を放射します。手を離すと放射が止まります。
4. 火元を狙い、ほうきで掃くようにノズルを前後に動かします。一度消えたと思っても再発火する可能性があるため、注意して消火を確認します。

救急箱

はさみ、包帯、ばんそうこうなど、応急処置に必要な備品が用意されています。

発炎筒

発炎筒は、車両に問題が発生して路肩に停車した場合に、路上での緊急対応中に周囲の運転者に注意を促すために使用します。

三角表示板

問題が発生して道路脇に駐車する場合などに、三角表示板を道路上に置いて、緊急事態が発生していることを後続車両に警告します。

タイヤ空気圧ゲージ

装備されている場合

タイヤの空気は日常的な使用により少しずつ抜けていくため、定期的に空気を入れる必要がありますが、これは空気が漏れているわけではなく正常な損耗です。タイヤ空気圧は温度とともに上昇するため、必ずタイヤが冷たいときに確認してください。

タイヤ空気圧を確認するには、次の手順を実行します。

1. タイヤのリムにある空気入れバルブのキャップを回して外します。
2. タイヤのバルブにゲージを押し当てます。作業を開始するときに多少空気が漏れますが、ゲージをしっかり押し当てないとさらに空気が漏れてしまいます。
3. 空気が漏れないようにしっかり押し当てることで、ゲージが作動します。
4. ゲージの空気圧を確認し、タイヤの空気圧が適切かどうかを判断します。
5. タイヤの空気圧を指定空気圧に調整します。第 2 章の「タイヤとホイールタイヤとホイール」を参照してください。
6. 空気入れバルブのキャップを取り付けます。

⚠ 警告

- 事故が発生した場合は、車両を安全な場所に駐車してください。高電圧バッテリーの漏電を防ぐため、車両の電源を OFF にして、高電圧バッテリースイッチ内の黄色いラベルを引いて高電圧バッテリーをシャットダウンしてください。また、12V バッテリーのケーブルを外してシャットダウンしてください。(+) と (−) の両方のケーブルを外してください。
- むき出しの電気ケーブルを触らないでください。高電圧ケーブル（オレンジ色）、コネクター、その他の電気部品に触らないでください。
- 事故が起こった場合、損傷した高電圧バッテリーから致死性のガスや液体が漏れる可能性があります。ガスや液体を浴びたり触れたりしないように注意してください。可燃性または有毒ガスが車内に漏れ出た場合は、ウィンドウを開けて安全な場所に避難してください。漏れた液体が目に入った場合は、清潔な水で洗い流してください。液体が皮膚に付着した場合は、塩水で洗ってください。その後、すぐに医師の診察を受けてください。
- 車両が浸水した場合は、直ちに車両の電源を OFF にして、安全な場所に避難してください。安全のため、消防署に電話をかけるか、弊社認定修理業者にご連絡いただくことを推奨します。
- 高電圧バッテリーに火が燃え移った場合は、さらに火災が広がる可能性があります。このような状況で車両をけん引する際は、消防車に同行してもらってください。

Hyundai エマージェンシーコールシステム

装備されている場合

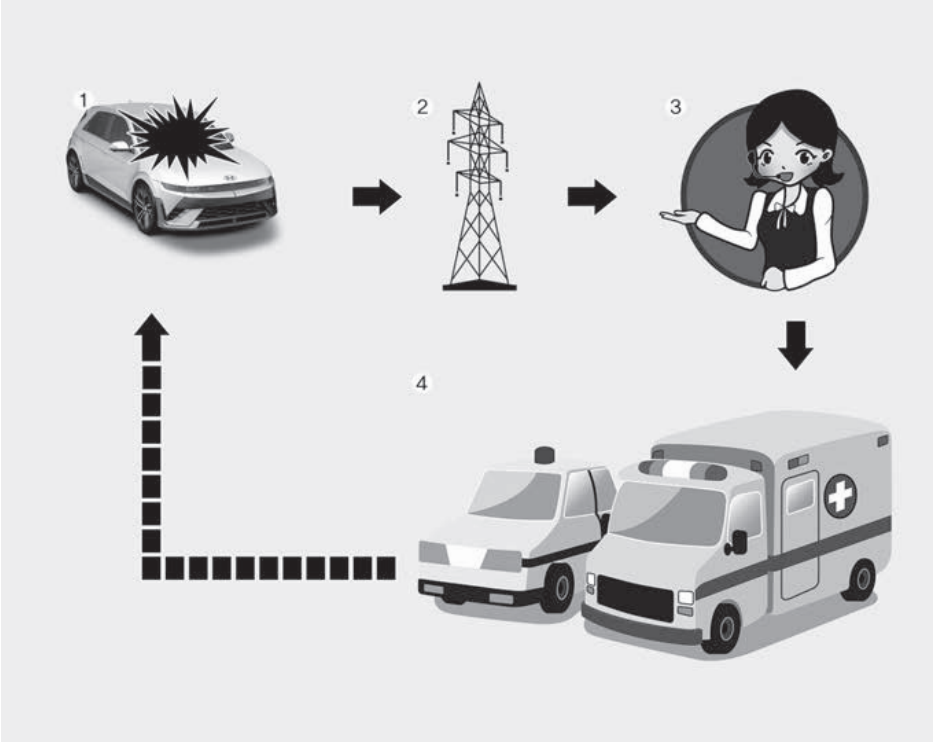
この車両は、コールセンターに緊急通報を行うためのHyundaiエマージェンシーコールシステムに接続されているデバイスを搭載しています。Hyundaiエマージェンシーコールシステムは、道路で交通事故またはその他の事故が発生した場合に行われる、自動緊急通報サービスです。

道路上で事故が発生した場合、システムはコールセンターの担当者に連絡します。

Hyundaiエマージェンシーコールシステムは、車両の位置、車種、車台番号(VIN)などの情報を含むデータをコールセンターに送信します。

Hyundaiエマージェンシーコールシステムをご利用になるには、指定された期日内に、弊社認定修理業者から提供された書類をご提出ください。

エマージェンシーコールサービスは車両の初期登録から5年間は無料でご利用いただけます。その後は有料でのサービスとなります。



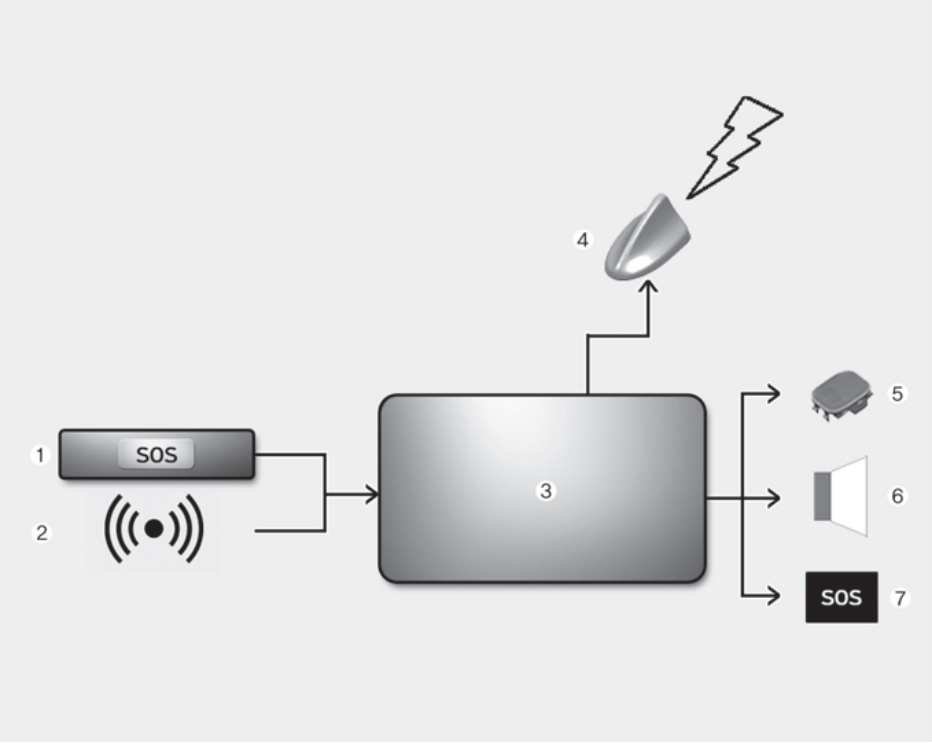
1. 交通事故
2. ワイヤレスネットワーク
3. コールセンター
4. レスキュー

i 情報

- 取扱説明書に記載されている Hyundai エマージェンシーコール装置とは、Hyundai エマージェンシーコールシステムと接続するために車両に取り付けられた装置を言います。
- 「その他の事故」とは、道路上で負傷者や援助を必要とする事故を言います。事故が発生した場合、車両を停止させ、SOS ボタンを 0.8 秒以上押す必要があります。電話をかけると、システムは車両（電話をかけた場所）の情報を収集し、コールセンターの担当者につないで緊急通報の原因を報告します。

Hyundaiエマージェンシーコールシステムに格納されているデータは、運転者と乗員を支援して適切なレスキュー作業を実施するためにHyundaiカスタマーセンターに送られ、レスキュー作業が完了するとデータは削除されます。

Hyundai エマージェンシーコールシステムの説明



(1) SOS ボタン
(2) 衝突信号
(3) 緊急通報システム
(4) アンテナ
(5) マイク
(6) スピーカー
(7) インストルメントクラスター

Hyundaiエマージェンシーコールシステムは、車両電源がONの状態にあるときは、常にONになります(READYインジケーターON)。重大な事故が発生すると、車載センサーによって自動的に有効になります。システムに何らかの問題が生じると、インストルメントクラスターのSOSインジケーターライトが点灯します。

Hyundaiエマージェンシーコールシステムは手動で起動することもできます。このシステムを手動で作動させたい場合は、本章の「手動事故報告」を参照してください。

Hyundaiエマージェンシーコールシステムは、以下の場合無効になります。

- SOS 警告インジケーターが通常の走行状態で点灯している。
- システムの設定が変更または削除されている。ご自身や第三者がシステムを変更する場合、走行安全やシステムの動作に影響を及ぼすおそれがあります。

このような場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

Hyundai エマージェンシーコールシステム



(1) SOS ボタン

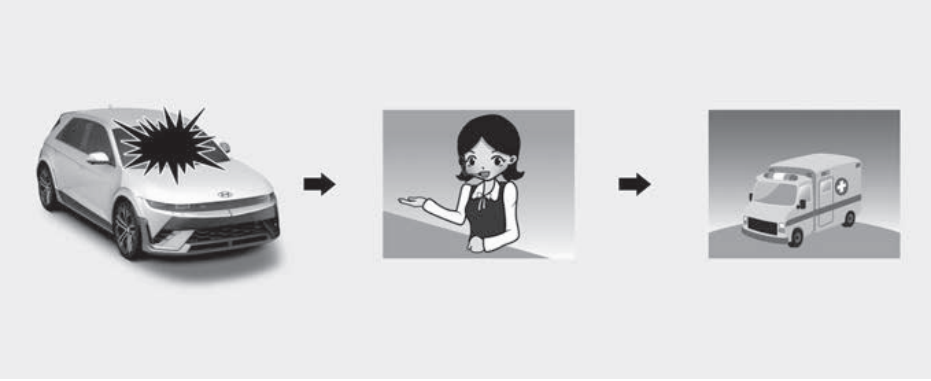
運転手または同乗者は、ボタン(1)を0.8秒以上押すことで、エマージェンシーコールを作動させることができます。

システムに何らかの問題が生じると、インストルメントクラスターのSOS警告インジケーターライトが点灯します。

i 情報

- Hyundai エマージェンシーコールシステムのバッテリーは、衝突などの緊急事態により車両の主電源が遮断された場合に1時間電力を供給します。
- Hyundai エマージェンシーコールシステムの内部バックアップバッテリーは、4年後に点検して必要に応じて交換することを推奨します。

自動事故報告



Hyundaiエマージェンシーコールシステムは、車両事故が発生した場合、自動的にコールセンターに緊急通報を行い、適切な救助を行います。

適切なエマージェンシーサービスとサポートを行うため、Hyundaiエマージェンシーコールシステムは交通事故を検出すると自動的にデータをコールセンターに伝送します。

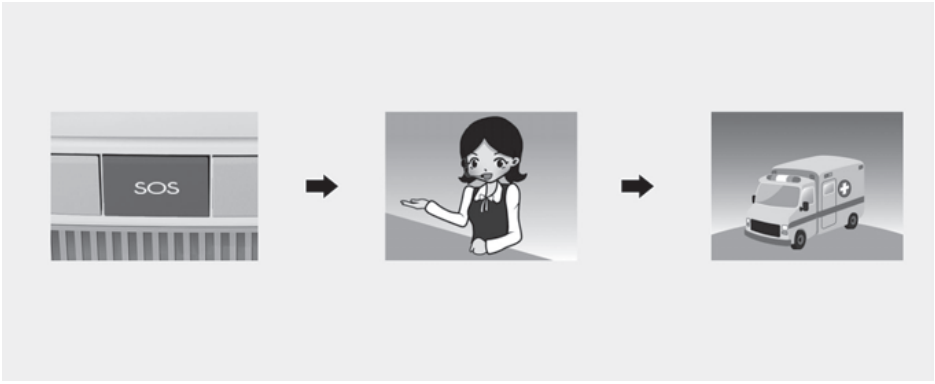
この場合、SOSボタン(1)を押しても緊急通報を切ることはできず、緊急通報を受けた緊急サービス担当者が緊急通報を切断するまで、Hyundaiエマージェンシーコールシステムは接続状態を保ちます。

軽微な事故の場合、Hyundaiエマージェンシーコールシステムは緊急通報を起動しないことがあります。ただし、SOSボタン(1)を0.8秒以上押せば、手動で緊急通報を行うことはできます。

i 情報

緊急通報が自動的に行われた後は、1時間経つまでSOSボタン(1)を押しても手動で緊急通報を行うことができません。

手動事故報告



運転手または同乗者は、SOSボタン(1)を0.8秒以上押せば、コールセンターに手動で緊急電話をかけることができます。

Hyundaiエマージェンシーコールシステムを通じた緊急サービスへの通報をキャンセルできるのは、通報が接続される前にSOSボタン(1)をもう一度押した場合に限ります。

Hyundaiエマージェンシーコールシステムは、手動で緊急通報を有効にすると(適切な緊急サービスとサポートのため)、自動的に交通事故データ/またはその他の事故データをコールセンターの担当者に送信します。

交通事故などの緊急通報を手動で作動させるには、以下の手順に従ってください。

1. 運転者と道路上の他の同乗者の安全を確保するため、交通規則を守りながら車両を停止させます。
2. SOS ボタン（1）を 0.8 秒以上押してください。SOS ボタン（1）を押すと、無線電話通信網が作動します。車両とその位置に関するデータは、装置の技術的要件に基づいて収集されます。その後、Hyundai エマージェンシーコールシステムの担当者につながり、緊急通報を行います。
3. コールセンターのオペレーターに緊急事態を伝えます。緊急通報の原因を確認した後、コールセンターのオペレーターは適切な緊急サービスやサポートを提供することができます。

緊急通報が上記の手順に従って実施されなかった場合、弊社認定修理業者にご相談いただくことを推奨します。

⚠ 注意

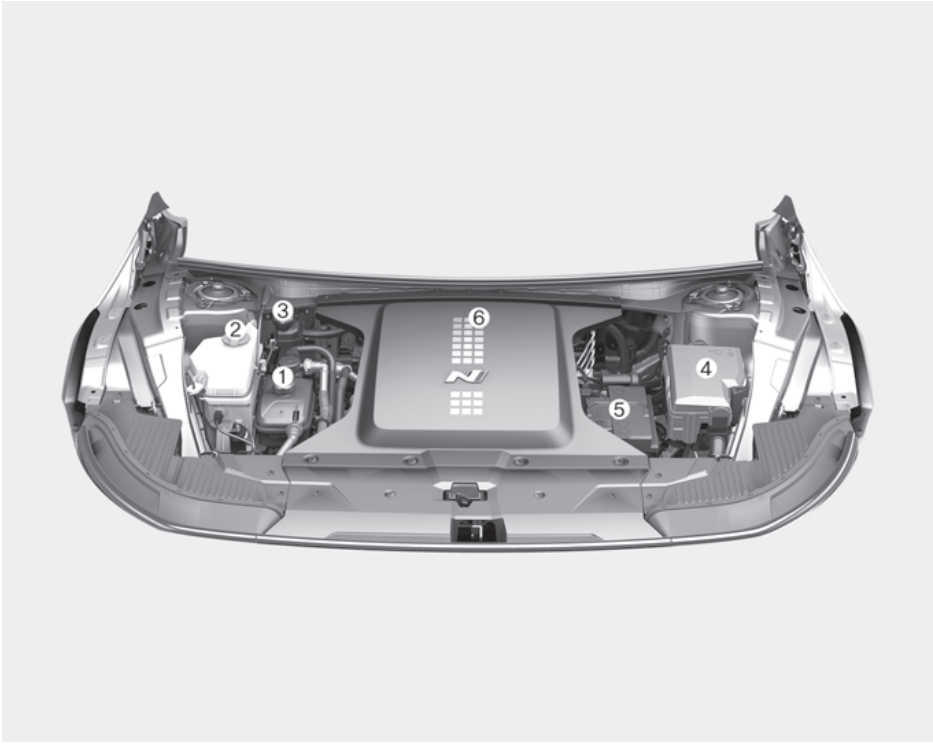
モバイルネットワークの状況により、このシステムをご利用いただけない場合があります。

9. メンテナンス

モーターコンパートメント 9-3
メンテナンスサービス 9-4
お客様の責任 9-4
メンテナンスの注意事項 9-4
メンテナンス 9-5
メンテナンススケジュール 9-6
メンテナンスサービスの実施について 9-8
標準の点検整備スケジュール 9-9
標準の点検整備スケジュール 9-10
厳しい使用条件に伴う点検整備 9-12
点検整備項目に関する説明 9-13
冷却システム 9-13
クーラント 9-13
変速機のフルード 9-13
ブレーキホースとブレーキライン 9-13
ブレーキフルード 9-13
ブレーキディスク、ブレーキパッド、ブレーキキャリパー、ブレーキローター 9-13
サスペンションマウンティングボルト 9-13
ステアリングシフトボックス、ステアリングリンケージ、ステアリングブーツ、ロアアームボールジョイント 9-13
ドライブシャフトとドライブシャフトブーツ 9-13
エアコンの冷媒 9-13
クーラント 9-14
クーラントの交換 9-16
ブレーキフルード 9-17
レベル点検 9-17
変速機のフルード 9-18
ウォッシャー液 9-18
レベル点検 9-18
室内エアフィルター 9-19
点検 9-19
交換 9-19
ワイパーブレード 9-20
点検 9-20

交換 9-20
バッテリー（12V） 9-22
最適なバッテリーサービスのために 9-23
バッテリー容量ラベル 9-24
バッテリー再充電 9-24
アイテムのリセット 9-25
タイヤとホイール 9-26
タイヤのお手入れ 9-26
タイヤの推奨空気圧 9-26
空気圧点検 9-27
タイヤローテーション 9-28
ホイールアラインメントとタイヤバランス 9-28
タイヤ交換 9-29
ホイール交換 9-30
タイヤのトラクション 9-30
タイヤのメンテナンス 9-30
タイヤサイドウォールラベル 9-30
ノーマルタイヤ 9-32
偏平率の低いタイヤ 9-33
ヒューズ 9-33
インストルメントパネルのヒューズ交換 9-34
モーターコンパートメントヒューズボックスのヒューズ交換 9-35
ヒューズ／リレーボックスの説明 9-37
電球 9-48
ヘッドライト、ポジションランプ、方向指示器、デイタイムランニングライト（DRL）交換 9-49
サイドリピーターライト交換 9-50
リアコンビネーションライト交換 9-50
ハイマウントストップライト交換 9-51
ナンバープレートライト交換 9-51
ルームライト交換 9-51
お手入れ方法 9-53
外装 9-53
内装 9-58

モーターコンパートメント



実際のモーターコンパートメントは、イラストと異なる場合があります。

(1) クーラントリザーバー
(2) ウォッシャー液リザーバー
(3) ブレーキフルードリザーバー
(4) ヒューズボックス
(5) バッテリー（12V）
(6) 室内エアフィルター

メンテナンスサービス

点検整備を行う際は、車両の損傷と作業中の怪我を防ぐために、常に細心の注意を払ってください。

車両の点検や整備は、弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。弊社認定修理業者は、お客様に満足度の高いサービスを提供できるよう、弊社の高いサービス品質基準を満たしており、弊社から技術的なサポートを受けています。

お客様の責任

メンテナンスを実施し、記録を保管する責任はお客様にあります。

次のページに示す点検整備スケジュール表に基づきお客様の車両が適切にメンテナンスを行ったことを示す書類を、必ず保管してください。この情報は、車両保証の修理及び、整備要件が遵守されていることを証明するうえで必要となります。

保証に関する詳細な情報は、別冊のメンテナンスノートに記載されています。

不適切なメンテナンスを行ったり、必要なメンテナンスを怠ったりしたことで保証での修理ができなくなる場合があります。

メンテナンスの注意事項

不適切、不完全、または不十分な修理は、車両操作上の問題を引き起こし、車両の損傷、事故、または人身傷害につながるおそれがあります。本章では、簡単に実施できる点検整備項目の手順のみを扱っています。

絶対に車両の改造を行わないでください。このような改造は車両の性能、安全性、耐久性に悪影響を与えかねないうえ、車両の限定保証の条件に違反可能性があります。

知識

保証期間中におけるお客様による不適切な整備は、保証範囲に影響を与える可能性があります。詳細については、車両と一緒に別途お渡しした保証書をお読みください。修理や整備の手順にご不明な点がある場合は、弊社認定修理業者のご依頼いただくことを推奨します。

メンテナンス

⚠ 警告

車両の整備作業には危険が伴う可能性があります。作業を実施するための十分な知識や経験、適切な工具や機器をお持ちでない場合は、弊社認定修理業者に作業をご依頼いただくことを推奨します。整備作業の実施にあたっては、次の注意事項に必ず従ってください。

- 平らな場所に車両を停めます。シフトポジションを P（パーキング）に入れ、パーキングブレーキをかけ、EV START/STOP ボタンを OFF の位置にします。
- 車両が動かないようにタイヤ（前輪および後輪）をタイヤ止めで固定します。

  可動部品に巻き込まれる可能性があるため、ゆったりとした衣類やアクセサリーは身につけないでください。
- バッテリー部品に炎、火花、喫煙具を近づけないでください。

⚠ 警告

整備作業の前に、必ずEV START/STOPボタンをOFFの位置にして車両の電源を落としてください。

所有者又は弊社認定修理業者が車両の安全性と信頼性を保証するために、以下の表に表示された頻度で点検整備を実行する必要があります。

何らかの不良を発見した場合は、できる限り早急に弊社認定修理業者にご連絡ください。

お客様によるメンテナンス内容は通常、保証対象外となっており、人件費や部品、潤滑剤を使用した場合、お客様自身で費用を負担いただくことになります。

車両の電気制御システムは、人工心臓や人工臓器に誤作動などの悪影響を及ぼすおそれがあります。電気制御システムが人工臓器に与える影響については、必ず医療機器メーカーにお問い合わせください。

メンテナンススケジュール

時期	項目
運転前 運転後	• クーラントリザーバー内のクーラントレベルを点検します。 • フロントガラスウォッシャー液レベルを点検します。 • 空気圧が不足しているタイヤがないか確認します。
発進前 走行中	• ステアリングホイールの振動を点検します。ステアリングホイールの操作が重くなっていたり軽くなっていたりしないか、ステアリングホイールのセンターがずれていないかに注意してください。 • 平坦な道を走行しているときに、常に車両がわずかに曲がったり、ハンドルが片側に「取られ」たりしないか注意してください。 • 停止時に、異常な音がしないか、一方にハンドルが取られないか、ブレーキペダルの遊びが大きくなっていないか、固く踏みにくくなっていないかを点検します。 • シフトの操作時にスリップや変化があった場合は、シフトのフルードレベルを点検します。 • シフト P（パーキング）が機能するか点検します。 • パーキングブレーキを点検します。 • 車両の下から液体が漏れていないか（使用時または使用後にエアコンから排出される水は正常です）を点検します。
毎月	• クーラントリザーバー内のクーラントレベルを点検します。 • すべてのエクステリアライトの作動状態を点検します。これには、ストップライト、方向指示器、ハザードランプを含みます。 • スペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検し、摩耗、不均等なすり減り、損傷がないか点検します。 • ホイールナットに緩みがないか点検します。
半年毎	• ラジエーター、ヒーター、エアコンのホースに漏れや損傷がないか点検します。 • フロントガラスのウォッシャースプレーとワイパーの作動状態を点検します。ウォッシャー液で湿らせた清潔な布で、ワイパーブレードを掃除します。 • ヘッドライトの光軸を点検します。 • シートベルトの装着や機能性に問題がないか点検します。
1 年毎	• 車体とドアのドレインホールを掃除します。 • ドアのヒンジとボンネットのヒンジに潤滑剤を塗布します。 • ドアおよびボンネットのロックとラッチに潤滑剤を塗布します。 • ドアのゴム製ウェザーストリップに潤滑剤を塗布します。 • エアコンを点検します。 • シフトのリンク機構やコントロール機構を点検して潤滑剤を塗布します。 • バッテリー（12V）と端子を清掃します。 • ブレーキフルードレベルを点検します。

⚠ 警告

クーラントレベルを点検する際に、モーターコンパートメントが高温になっている場合は注意してください。クーラントが開口部から吹き出し、深刻な火傷や怪我を引き起こすことがあります。

メンテナンスサービスの実施について

次の条件に該当しない場所で通常運転している場合は、標準の点検整備スケジュールに従ってください。次のいずれかの条件に該当する場合は、「厳しい使用条件に伴う点検整備」に従ってください。

- 常温で 8km 未満、氷点下で 16km 未満の短距離を繰り返し走行
- 荒れた道、ホコリの多い道、ぬかるんだ道、未舗装道、砂利道、融雪剤が散布された道での走行
- 塩や他の腐食性の物質を散布している地域または極寒地での走行
- 極度にホコリが多い状況での走行
- 交通量が多く、気温が 32°C を超える地域で、50% を超える電気エネルギーを消費しながらの走行
- 上り坂、下り坂、山道での走行の繰り返し
- トレーラーのけん引、キャンピングカーの使用、ルーフの上に積載した状態での走行
- パトカー、タクシー、その他商用牽引車としての走行
- 高速度、急加速、急減速が多い状況での走行
- 停止と発進の繰り返しが多い状況での走行

上記のような状況で走行する場合は、次の標準の点検整備スケジュールよりも頻繁に点検、交換、補充を行う必要があります。表に示す期間または距離が経過した後も、所定の点検整備間隔に従ってください。

標準の点検整備スケジュール

次のメンテナンスサービスは、万全な車両性能を保証するために行います。

保証が維持されるように、すべての車両メンテナンスの領収書を保管してください。走行距離と時間の両方が示されている場合、点検頻度はいずれか早い方になります。

I:点検し、必要により調整、修正、清掃、交換してください。

R:交換してください。

点検整備間隔		月または走行距離のいずれか早い方							
	月	12	24	36	48	60	72	84	96
	km×1,000	15	30	45	60	75	90	105	120
点検整備項目									
冷却システム		「クーラントのレベルと漏れ」は毎日点検							
		初回は60,000kmまたは48ヶ月で点検、その後は30,000kmまたは24ヶ月ごとに点検							
クーラント *1	標準	初回は200,000kmまたは10年で交換、その後は40,000kmまたは24ヶ月ごとに交換。							
	低伝導性	60,000km又は36ヶ月ごとに交換*2							
変速機のフルード					I				I
12Vバッテリーの状態		I	I	I	I	I	I	I	I
すべての電気システム			I		I		I		I
ブレーキライン、ホース、接続部		I	I	I	I	I	I	I	I
ブレーキペダル			I		I		I		I
パーキングブレーキ			I		I		I		I
ブレーキフルード		I	R	I	R	I	R	I	R
ブレーキディスクとブレーキパッド		I	I	I	I	I	I	I	I

*1: クーラントを交換・補充するときは、弊社認定修理業者にご依頼いただくことを推奨します。
*2:他の整備のときに合わせて、指定の間隔より前に交換しても構いません。

標準の点検整備スケジュール

I:点検し、必要により調整、修正、清掃、交換してください。
R:交換してください。

点検整備間隔	月または走行距離のいずれか早い方								
	月	12	24	36	48	60	72	84	96
	km×1,000	15	30	45	60	75	90	105	120
点検整備項目									
ステアリングギアのラック、リンケージ、ブーツ		I	I	I	I	I	I	I	I
ドライブシャフトおよびブーツ			I		I		I		I
タイヤ(空気圧&トレッドウェア)		I	I	I	I	I	I	I	I
フロントサスペンションボールジョイント		I	I	I	I	I	I	I	I
シャーシと車体のボルトおよびナット		I	I	I	I	I	I	I	I
エアコンの冷媒		I	I	I	I	I	I	I	I
エアコンコンプレッサー		I	I	I	I	I	I	I	I
室内エアフィルター			R		R		R		R
Hyundaiエマージェンシーコールシステムのバッテリー(装備されている場合)		4年ごとに交換							
電子制御式リミテッドスリップデファレンシャル(e-LSD)オイル		点検•整備不要							

EV 専用のメンテナンス

I:点検し、必要により調整、修正、清掃、交換してください。
R:交換してください。

点検整備間隔	月または走行距離のいずれか早い方									
	月	12	24	36	48	60	72	84	96	108
	km×1,000	15	30	45	60	75	90	105	120	135
点検整備項目										
高電圧バッテリー	絶縁抵抗チェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	電圧偏差チェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I
冷却システム	空冷式 クーラント量チェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	水冷式 クーラント量チェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	水冷式 EWP動作ステータスチェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	水冷式 3ウェイバルブ動作チェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I
DTC	故障コードチェック(全DTCスキャン)	I	I	I	I	I	I	I	I	I
車両下部	バッテリー下部損傷チェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I
	高電圧ケーブル損傷チェック	I	I	I	I	I	I	I	I	I

厳しい使用条件に伴う点検整備

主に厳しい走行条件で使用する車両では、次の項目の点検整備頻度を増やす必要があります。

適切なメンテナンス間隔については、以下の表を参照してください。

R:交換してください。

I:点検し、必要により調整、修正、清掃、交換してください

点検整備項目	メンテナンス作業	点検整備間隔	運転状況
変速機のフルード	R	120,000kmごと	B、D、G、H
ステアリングギアのラック、リンケージ、ブーツ	I	使用条件に応じてより頻繁に点検	C、D、E、F、G
フロントサスペンションボールジョイント	I	使用条件に応じてより頻繁に点検	B、C、D、E、F
ディスクブレーキ、ブレーキパッド、ブレーキキャリパー、ブレーキローター	I	使用条件に応じてより頻繁に点検	B、C、D、E、F、G、H、I、J
ドライブシャフトおよびブーツ	I	使用条件に応じてより頻繁に点検	B、C、D、E、F、G、H、I
室内エアフィルター	R	使用条件に応じてより頻繁に交換	B、D、F

厳しい走行条件

A.常温で8km未満、氷点下で16km未満の短距離を繰り返し走行

B.荒れた道、ホコリの多い道、ぬかるんだ道、未舗装道、砂利道、融雪剤が散布された道での走行

C.塩や他の腐食性の物質を散布している地域または極寒地での走行

D.極度にホコリが多い状況での走行

E.交通量が多く、気温が32°Cを超える地域で、50%を超える電気エネルギーを消費しながらの走行

F.上り坂、下り坂、山道での走行の繰り返し

G.トレーラーのけん引、キャンピングカーの使用、ルーフの上に積載した状態での走行

H.パトカー、タクシー、その他商用牽引車としての走行

I.高速度、急加速、急減速が多い状況での走行

J.停止と発進の繰り返しが多い状況での走行

点検整備項目に関する説明

冷却システム

冷却システムのコンポーネント(ラジエーター、クーラントリザーバー、ホース、接続部)に、漏れや損傷がないか点検します。損傷部品をすべて交換します。

クーラント

クーラントは、点検整備スケジュールに記載された間隔で交換してください。

変速機のフルード

変速機のフルードは、点検整備スケジュールに記載された間隔で点検を行ってください。

ブレーキホースとブレーキライン

適切に取り付けられているか、擦り切れ、ヒビ割れ、劣化、漏れがないかを目視で確認します。劣化部品や損傷部品はただちにすべて交換してください。

ブレーキフルード

ブレーキフルードリザーバー内のブレーキフルードレベルを点検します。フルードレベルは、リザーバーの側面にあるMIN～MAXのマークの間におさめてください。DOT 4仕様に適合するハイドロリックブレーキフルードのみを使用します。

ブレーキディスク、ブレーキパッド、ブレーキキャリパー、ブレーキローター

パッド、ディスク、ローターが過度に摩耗していないか点検します。キャリパーからフルードが漏れていないか点検します。

パッドやライニングの摩耗限度に関する詳しい情報については、http://service.hyundai-motor.comでご確認ください。

サスペンションマウンティングボルト

サスペンションの接続部に緩みや損傷がないか点検します。指定トルクになるように締め直します。

ステアリングシフトボックス、ステアリングリンケージ、ステアリングブーツ、ロアアームボールジョイント

車両を停止させてOFFにし、ステアリングホイールに過度な遊びがないか点検します。リンケージに曲がりや損傷がないか点検します。ダストブーツとボールジョイントに劣化、ヒビ割れ、損傷がないか点検します。

損傷部品をすべて交換します。

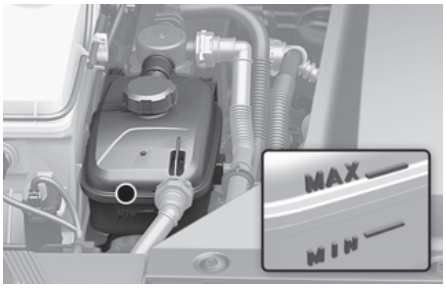
ドライブシャフトとドライブシャフトブーツ

ドライブシャフト、ブーツ、クランプにヒビ割れ、劣化、損傷がないか点検します。損傷部品をすべて交換し、必要な場合は、グリースを再充てんします。

エアコンの冷媒

エアコンの配管と接続部に漏れや損傷がないか点検します。

クーラント



冷却システムおよびヒーターのすべてのホースの状態と接続を点検します。膨張や劣化のあるホースをすべて交換します。

モーターコンパートメント内の部品が冷えているときに、クーラントレベルがクーラントリザーバー側面にあるMAXマークとMINマークの間におさまるように充てんします。

クーラントレベルが低い場合は、不凍液を混ぜた蒸留水(脱イオン水)をMAXマークまで補充します。頻繁な充填が必要な場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

電気自動車用に指定されたクーラント液のみを使用してください。

⚠ 警告



冷却ファンの回転するファンブレードに手、衣類、工具を近づけないでください。冷却ファンの電気モーターは、車両の電源を停止しているときでも稼働や始動を続ける場合があるため、重大な傷害につながるおそれがあります。

冷却ファンの電気モーターは、クーラントの温度、冷媒の圧力、車両速度によって制御されています。車両のクーラントの温度が低下すると、電気モーターは自動的に停止します。これは正常な状態です。

⚠ 警告



- モーターコンパートメントが冷えているときに、クーラントレベルを確認します。クーラントレベルは温度の影響を受けるため、クーラントの温度が高い状態でクーラントリザーバーのキャップを外すと、高温のクーラントや蒸気がその圧力で吹き出し、重大な傷害が発生するおそれがあります。
- クーラントを補充した後、クーラントキャップが確実に閉まっていることを確認してください。走行中にモーターがオーバーヒートするおそれがあります。

⚠ 警告

クーラントを補充した後､クーラントキャップが確実に閉まっていることを確認してください｡走行中にモーターがオーバーヒートするおそれがあります。

1. クーラントキャップのラベルが前面にまっすぐに貼られていることを確認します。



2. クーラントキャップの内側の小さな突起がしっかりと噛み合っていることを確認します。



推奨クーラント

- クーラントを補充するときは、イオン交換水、蒸留水、軟水のいずれかのみを使用します。工場で充填されたクーラントには絶対に硬水を混ぜないでください。
- クーラントが正しく混合されていない場合、重大な異常やモーターの損傷が発生するおそれがあります。
- アルコールまたはメタノール系のクーラントを使用したり、これらを指定クーラントと混合したりしないでください。
- 不凍液の混合率が 60% 超または 35% 未満の溶液を使用しないでください。溶液の有効性が損なわれる可能性があります。

混合率については、次の表を参照してください。

周囲温度	混合比（容積）	
	不凍液	水
-15 ° C	35	65
-25 ° C	40	60
-35 ° C	50	50
-45 ° C	60	40

i 情報

混合比に迷ったら、両方が同量になる水50%不凍液50%の混合が最も簡単な混合方法です。

クーラントの交換

クーラントの交換は、整備スケジュールに従い、弊社認定修理業者に行っていただくことを推奨します。

⚠ 警告

ウォッシャー液リザーバーにクーラントまたは不凍液を使用しないでください。

フロントガラスにクーラントが噴射された場合、視界がひどくぼやけ、車両を制御できなくなり、事故につながるおそれがあります。

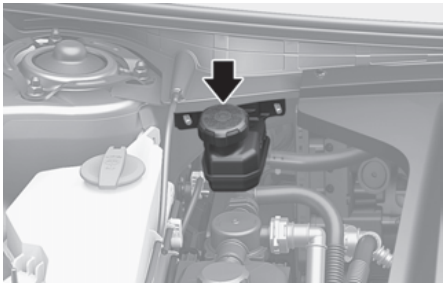
また、クーラントは塗装や車体のトリムを損傷させるおそれもあります。

知識

モーター部品の損傷を防ぐため、クー ラントを補充する前にクーラントキャップの周囲に厚手のタオルを当て、溢れたクーラントがモーターにかかることを防いでください。

ブレーキフルード

レベル点検



リザーバー内のフルードレベルを定期的に点検します。フルードレベルは、リザーバーの側面にあるMAX～MINのマークの間におさめてください。

リザーバーキャップを外してブレーキフルードを補充する前に、リザーバーキャップの周囲を念入りに掃除して、ブレーキフルードの汚染を防ぎます。

フルードレベルが低い場合、指定ブレーキフルードをMAXレベルまで補充します。レベルは走行距離の増加に伴い低下します。これはブレーキライニングの摩耗による正常な状態です。フルードレベルが極めて低い場合や頻繁な補充が必要な場合は、弊社認定修理業者にブレーキシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。

⚠ 警告

ブレーキフルードが目に入らないようにしてください。ブレーキフルードが目に入った場合は、清潔な水で最低15分間洗浄し、すぐに医療機関で受診してください。

知識

- 塗装が損傷するおそれがあるため、車両の塗装面にブレーキフルードが付着しないようにしてください。
- 品質を保証できないため、長時間空気に触れたまま放置したブレーキフルードは絶対に使用しないでください。適切な方法で廃棄してください。
- 種類の異なるブレーキフルードを使用しないでください。鉱物油がブレーキシステムに数滴入るだけでも、ブレーキシステム部品を損傷させるおそれがあります。

i 情報

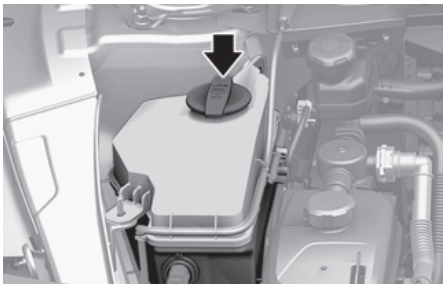
指定のブレーキフルードのみを使用してください(第2章の「推奨潤滑剤および容量推奨潤滑剤および容量」参照してください)。

変速機のフルード

変速機のフルードは、点検整備スケジュールに記載された間隔で点検を行ってください。

ウォッシャー液

レベル点検



ウォッシャー液リザーバーのフルードレベルを点検し、必要に応じてフルードを補充します。ウォッシャー液が手元にない場合は、真水を使用できます。ただし、寒冷地では凍結を防止するために不凍性能のあるウォッシャー溶剤を使用してください。

⚠ 警告

重大な傷害や死亡につながる事故を防ぐために、ウォッシャー液を交換する際は、次に示す安全のための注意事項に従ってください。

- ウォッシャー液リザーバーにクーラントまたは不凍液を使用しないでください。フロントガラスにクーラントが噴射された場合、視界がひどくぼやけ、車両を制御できなくなり、事故につながったり、塗装や車体のトリムを損傷させたりするおそれがあります。
- ウォッシャー液やウォッシャー液リザーバーに火花や炎を近づけないでください。ウォッシャー液にはアルコールが含まれている場合があり、引火のおそれがあります。
- ウォッシャー液は飲用しないでください。また、皮膚に触れることがないようにしてください。ウォッシャー液は、人や動物に有害です。
- ウォッシャー液は子どもや動物の届かないところに置いてください。

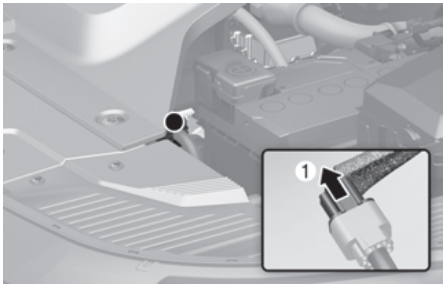
室内エアフィルター

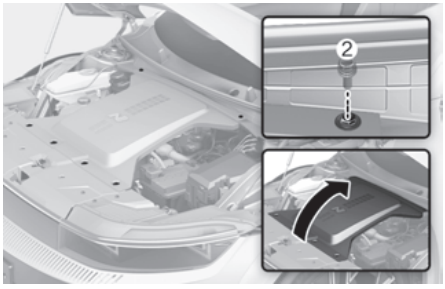
点検

室内エアフィルターは、点検整備スケジュールに従って交換してください。大気汚染が深刻な都市や、ホコリの多い荒れた道で長期にわたり走行をしている場合は、より頻繁に点検して、早めに交換してください。室内エアフィルターの交換は、次の手順で行い、他の部品を傷つけないように注意してください。

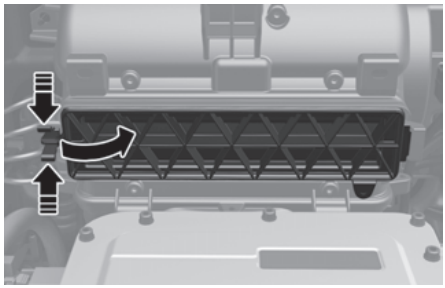
交換

1. ボンネットを開けた状態で、右側の外部スピーカーコネクター（1）を取り外します。ボルト（2）を外して、モーターコンパートメントカバーを取り外します。



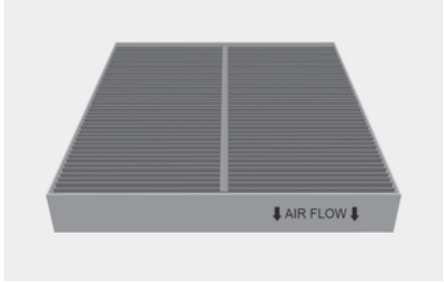


2. カバー左側のロックを押したままにします。



3. カバーを引き出します。
4. 室内エアフィルターを交換します。
5. 取り外しと逆の順序で組み立てます。

知識



- 新しい室内エアフィルターは、雑音の発生や効果の低下を防ぐため、矢印の記号（↓）が下になるように正しく取り付けてください。
- 室内エアフィルターを交換した後は、必ずフロントトランクカバーがしっかりと閉まっていることを確認してください。

そうしないと、モーターコンパートメントの損傷、雑音トラブル、異物混入の原因となります。

ワイパーブレード

点検

フロントガラスやワイパーブレードが異物で汚れると、フロントガラスワイパーが効果的に機能しなくなる場合があります。

一般的な汚れの原因は、虫、樹木のヤニ、商用車の洗車に使用されるホットワックストリートメントなどです。ブレードがしっかり拭かない場合は、適切な洗浄剤または中性洗剤でウィンドウとブレードの両方を掃除し、清潔な水で念入りに洗い流してください。必要に応じてブレードを交換します。

知識

ワイパーブレード、ワイパーアーム、その他コンポーネントの損傷を防ぐために、次のことを避けてください。

- ガソリン、灯油、シンナー、その他溶剤をこれらのコンポーネントに、またはその近くで使用すること。
- ワイパーを手で動かそうとすること。

交換

ワイパーを作動させても十分に綺麗にならなくなった場合は、ブレードが摩耗またはひび割れしている可能性があり、交換が必要です。

知識

損傷防止のために、次の点を守ってください。

- 指定外のワイパーブレードは絶対に使用しないでください。
- ワイパーを持ち上げる際は、上部拭き取り位置にある状態で行ってください。
- 走行前には、必ずワイパーアームをフロントガラスに戻してください。

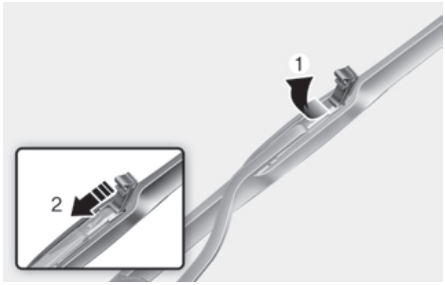
フロントワイパーブレードの交換

ワイパーが最下部の静止位置にある状態ではワイパーを持ち上げることができない「隠す」設計になっています。

1. 車両の電源を OFF にしてから 20 秒以内に、ワイパーが上部位置に移動するまで、ワイパーレバーを MIST 位置まで約 2 秒間押し下げて保持します。



2. ワイパーをフロントガラスから持ち上げます。
3. ワイパーブレードのクリップ（1）を引き上げます。次にワイパーブレード（2）を引き下げます。ワイパーブレードをワイパーアームから外します。



4. 新しいワイパーブレードアセンブリーを、取り外しとは逆の手順で取り付けます。



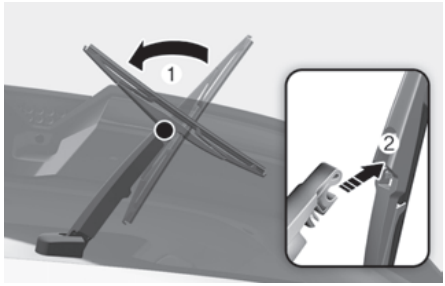
5. ワイパーをフロントガラスに丁寧に戻します。
6. EV START STOP ボタンが ON 位置の状態で、ワイパースイッチを ON 位置に回し、ワイパーを最下部の静止位置に戻します。

知識

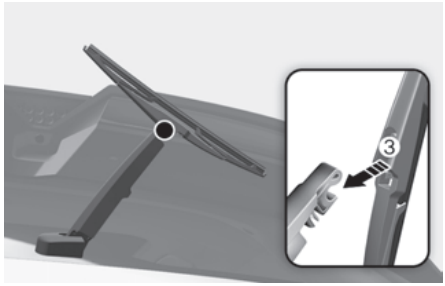
- フロントガラスの損傷を防ぐため、ワイパーブレードを外したときにフロントガラスにワイパーが触れないようにします。
- モーターの損傷を防ぐため、ウォッシャー液がない状態でワイパーを作動させた場合やブレードが凍結している場合は、約 10 秒間ワイパーが動かない場合があります。

リアワイパーブレードの交換

1. ワイパーアームを持ち上げて、ワイパーブレード（1）を回します。
2. ワイパーブレード（2）を引き出します。



3. 所定の位置（3）にカチッと収まるまで、ブレードの中央部をワイパーアームのスロットに差し込んで新しいブレードを取り付けます。



4. 交換が完了したら、ワイパーアームをリアウィンドウの上に下ろし、車両を ON にしてワイパーを操作し、ブレードが正しく取り付けられているかを確認します。

バッテリー（12V）

⚠ 警告

お客様や周囲の方の重大な傷害や死亡につながる事故を防ぐため、バッテリーの近くで作業を行う際やバッテリーを取り扱う際は、次の注意事項に従ってください。

バッテリーを取り扱う際は、必ず説明をお読みになり、細心の注意を払ってその指示に従ってください。



酸の飛散から目を保護できるように設計された保護メガネを着用してください。



バッテリーに炎、火花、喫煙具を近づけないでください。



バッテリーセル内には常に高可燃性の水素が存在しており、点火した場合は爆発するおそれがあります。



バッテリーは子どもの手の届かないところに置いてください。



バッテリーには強腐食性の硫酸が含まれています。酸が目、皮膚、衣類に付着しないようにしてください。

酸が目に入ってしまった場合は、清潔な水で最低15分間洗浄し、すぐに医療機関を受診してください。酸が皮膚に付着した場合は、付着箇所を十分に洗い流してください。痛みや焼けるような感覚がある場合は、すぐに医療機関を受診してください。



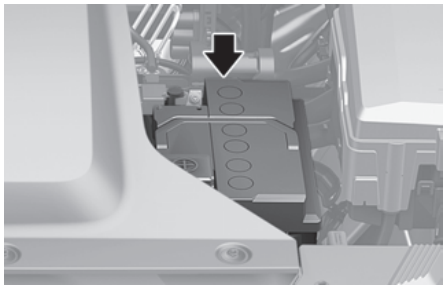
- プラスチックケースのバッテリーを持ち上げる際、ケースに過度の圧力がかかるとバッテリー内の酸が漏れてくるおそれがあります。バッテリーキャリアを使用して持ち上げるか、手を対角に添えて持ち上げてください。
- バッテリーが凍っている場合は、車両をジャンプスタートさせないでください。
- 車両のバッテリーケーブルがバッテリーに接続されている状態では、絶対に充電しないでください。
- エレクトリカルイグニッションスイッチの作動時は高電圧になります。READY インジケーターがオンの状態、または EV START/ STOP ボタンが ON の位置にある状態では、絶対にこれらの部品に触れないでください。

知識

バッテリーの損傷を防ぐため､車両のバッテリーを取り扱う際は必ず次の指示に従ってください。

- 低温地域で車両を長期間使用しない場合は、バッテリーを外して室内に保管してください。
- 低温地域では、バッテリーケースの破損を防ぐため、必ず満充電してください。
- バッテリー端子に液体がかからないようにしてください。バッテリーの性能が低下したり、怪我をしたりするおそれがあります。トランクに液体を載せるときは注意してください。
- バッテリーを傾けないでください。
- 未承認の電子機器をバッテリーに接続すると、バッテリーが放電するおそれがあります。未承認の機器は絶対に使用しないでください。

最適なバッテリーサービスのために



- バッテリーをしっかりと取り付けてください。
- バッテリーの上部は清潔で乾燥した状態にしてください。
- 端子や接続部は常に清潔に保ち、しっかりと装着し、端子用グリースを塗布してください。
- バッテリーから電解液をこぼした場合は、水と重曹の混合溶液ですぐに洗い流してください。
- 車両を長期間使用しない場合は、バッテリーケーブルを外してください。

バッテリー容量ラベル



i 情報

実際の車両のバッテリーラベルは、イラストと異なる場合があります。

1. AGM70L-DIN：バッテリーのHYUNDAI モデル名
2. 12V：公称電圧
3. 70Ah（20HR）：公称容量（アンペア時）
4. RC 120 分：公称予備容量（分）
5. CCA 760A（SAE/EN）：コールドテスト電流（アンペア）

i 情報

パワーテールゲートを装備した車両では、バッテリー交換後にパワーテールゲートを初期化する必要があることにご注意ください。詳細については、第5章の「パワーテールゲート」を参照してください。

バッテリー再充電

バッテリー充電器の使用方法

お使いの車両には、メンテナンス不要のカルシウム系バッテリーが搭載されています。

- 短時間でバッテリーが放電する場合は（車両を使用していないときにヘッドライトやルームライトを点灯したままにしていたなど）、10 時間程度のゆっくりとした充電（普通充電）を行ってください。
- 車両の使用中に電気負荷が高くなってバッテリーが徐々に放電する場合は、20 ~ 30A で 2 時間充電してください。

⚠ 警告

車両のバッテリーを充電するときは、爆発や酸による火傷で重大な傷害または死亡に至る危険性を避けるため、必ず次の指示に従ってください。

- メンテナンスやバッテリー充電の前に、すべてのアクセサリーを OFF にし、車両を停止してください。
- バッテリーに炎、火花、喫煙具を近づけないでください。
- 必ず屋外または換気のよい場所で作業してください。
- 充電中のバッテリーを確認するときは、保護メガネを着用してください。
- バッテリーを車両から取り外し、換気のよい場所に置く必要があります。
- 充電中のバッテリーの状態を観察し、バッテリーセルが激しく沸騰し始めたら、充電を中止するか充電速度を落としてください。

- マイナス側のバッテリーケーブルは、バッテリーを取り外すときは最初に外し、取り付けるときは最後に取り付けてください。バッテリー充電器は次の順番で取り外してください。
  1. バッテリー充電器のメインスイッチを OFF にします。
  2. バッテリーのマイナス端子からマイナスクランプを外します。
  3. バッテリーのプラス端子からプラスクランプを外します。
- 交換用バッテリーは、弊社認定修理業者からご購入いただくことを推奨します。

⚠ 注意

バッテリー上部のキャップを開いたり、取り外したりしないでください。内部電解質が漏洩し、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

AGMバッテリー

吸収ガラスマット(AGM)バッテリーはメンテナンス不要です。点検の際は、必ず弊社認定修理業者にご依頼ください。充電には、AGMバッテリー専用の全自動バッテリー充電器のみ使用できます。

ジャンプスタート時

ジャンプスタートを行った後の復帰したバッテリーで、車両の電源を切る前に20～30分走行してください。バッテリーが十分に充電される前に電源を切ると、車両を再始動できない可能性があります。ジャンプスタートの手順については、第8章の「ジャンプスタート(12Vバッテリー)」を参照してください。

i 情報



不適切な方法で廃棄されたバッテリーは、環境および人の健康に有害な影響を与えることがあります。バッテリーを破棄する際は、地域の法律または規制に従ってください。

アイテムのリセット

バッテリーが放電またはバッテリー電源が切れた後は、以下の項目の設定リセットが必要な場合があります。

- 走行情報 / 再充電後 / 累積情報（第 4 章参照）
- パワーウィンドウ（第 5 章参照）
- 空調システム（第 5 章参照）
- スマートパワーテールゲート（第 5 章参照）
- 時計（インフォテインメントシステムのマニュアル参照）
- インフォテインメントシステム（インフォテインメントシステムのマニュアル参照）

タイヤとホイール

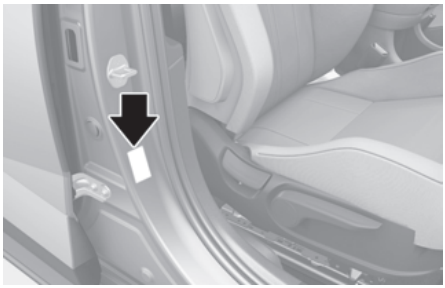
⚠ 警告

タイヤが損傷すると車両が制御不能になり、事故につながるおそれがあります。事故による重大な傷害または死亡のリスクを減らすために、次の点を守ってください

- 1ヶ月に１回タイヤを点検し、空気圧は適切か、摩耗や損傷はないかを確認します。
- ご使用の車両の冷えたタイヤの推奨空気圧は、本マニュアルおよび運転席側センターピラーにあるタイヤラベルに記載されています。タイヤ空気圧を計測する際は必ずタイヤ空気圧ゲージを使用してください。空気圧が過度に超過または不足している場合、不均等に摩耗し、操舵不良につながります。
- タイヤの空気圧を点検するときは、スペアタイヤの空気圧も毎回点検してください。
- 摩耗したタイヤ、不均等にすり減ったタイヤ、損傷したタイヤを交換します。摩耗したタイヤにより、ブレーキやハンドルが効かなくなったり、トラクションがかからなくなったりするおそれがあります。
- タイヤ交換には、必ず工場出荷時に車両に装着されていた各タイヤとサイズ、種類、構造、トレッドパターンが同じタイヤを使用してください。推奨サイズ以外のタイヤとホイールを使用すると、ハンドルの操作性に異常が生じたり、車両が制御不能になったり、車両のアンチロックブレーキシステム（ABS）に悪影響を及ぼしたりして重大な事故につながるおそれがあります。

タイヤのお手入れ

適切な維持管理、安全、電費性能の最大化のために、常にタイヤの推奨空気圧を維持し、推奨される最大積載量と荷重配分をお守りいただく必要があります。



すべての仕様（サイズおよび空気圧）は、運転席側センターピラーに貼られたラベルに記載されています。

タイヤの推奨空気圧

タイヤが冷えた状態で、すべてのタイヤ（スペアタイヤを含む）の空気圧を点検してください。「冷えた状態のタイヤ」とは、3時間以上走行していないか、直近の走行距離が1.6km未満の車両のタイヤをいいます。

一般的に、タイヤが温まると冷えた状態から28～41kPa（4～6psi）高くなります。タイヤ空気圧は冷えた状態で基準値に合わせるものです。走行後に空気圧が高くなっていたとしても空気圧を調整しないでください。タイヤが冷えたときに空気圧不足になるおそれがあります。タイヤの推奨空気圧については、第2章の「タイヤとホイールタイヤとホイール」を参照してください。

⚠ 警告

最良の乗り心地と操作性を維持し、タイヤの摩耗を最小限に抑えるために、推奨空気圧は必ず維持してください。

空気圧が超過または不足しているとタイヤの寿命が短くなり、車両の操作に悪影響を及ぼし、タイヤの突発的な損傷を引き起こして車両を制御できなくなり、事故につながるおそれがあります。

空気圧が過度に不足したタイヤは発熱し、破裂、トレッドの剥離、その他のタイヤの損傷を引き起こすことにより、車両の制御が失われ、事故につながる可能性があります。このリスクは、気温が高い場合や、高速で長時間走行している場合に極めて高くなります。

⚠ 注意

- 空気圧不足は、過度の摩耗、操作不良、電気エネルギー性能の低下につながります。また、ホイールが変形してしまうおそれもあります。適切なレベルのタイヤ空気圧を維持してください。頻繁にタイヤに空気を充填する必要がある場合は、弊社認定修理業者に点検をご依頼いただくことを推奨します。
- 空気圧超過は、乗り心地の悪化やタイヤトレッド中央部の過度の摩耗を引き起こし、道路上の危険物から損傷を受ける可能性を増大させます。

空気圧点検

タイヤ(スペアタイヤを含む)は月に1回以上点検してください。

点検方法

タイヤの空気圧を計測する際は、タイヤ空気圧ゲージを使用します。タイヤが適切な空気圧であるかを目視のみで判断することはできません。ラジアルタイヤは空気圧不足であっても適切に膨らんでいるように見える場合があります。

タイヤバルブステムからバルブキャップを外します。タイヤゲージをバルブにしっかりと押し込んで、空気圧を計測します。冷えたタイヤの空気圧が、タイヤと荷重情報ラベルの推奨空気圧に一致している場合は、調整の必要はありません。空気圧が不足している場合は、推奨空気圧になるまで空気を充てんします。忘れずにバルブキャップをバルブステムに装着してください。バルブキャップを装着しないと、バルブコアにチリや湿気が入り、空気漏れを起こすおそれがあります。バルブキャップを紛失した場合は、できるだけ早く新しいキャップを取り付けてください。

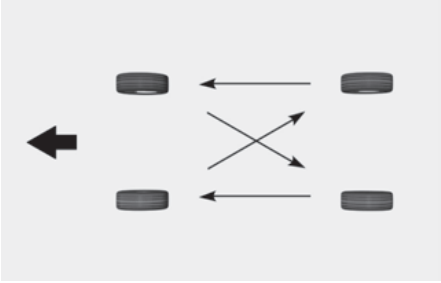
空気を入れすぎた場合は、タイヤバルブ中央部の金属ステムを押して空気を抜きます。タイヤゲージを使用してタイヤの空気圧を再点検します。忘れずにバルブステムにバルブキャップを装着してください。バルブキャップを装着しないと、バルブコアにチリや湿気が入り、空気漏れを起こすおそれがあります。バルブキャップを紛失した場合は、できるだけ早く新しいキャップを取り付けてください。

タイヤローテーション

摩耗具合を均等にするために、弊社では12,000kmごとに、または異常な摩耗が起こった場合には早急にタイヤローテーションを行うことを推奨しています。

ローテーションの際は、タイヤバランスが適正か点検します。

タイヤローテーションの際は、不均等にすり減ったタイヤや損傷したタイヤがないか点検します。異常な摩耗は、通常、不適切なタイヤ空気圧やホイールアラインメント、ホイールバランス不良、急ブレーキや無理なコーナリングによって発生します。タイヤのトレッドやサイドウォールに異常な膨らみや損傷がないか点検します。いずれかの症状が見つかった場合は、タイヤを交換してください。繊維やコードが露出している場合はタイヤを交換してください。ローテーション後は、忘れずに前輪と後輪のタイヤ空気圧を仕様に合わせ、ナットのトルクを点検します(適正トルク:18~20kgf·m[177~196N·m])。



タイヤローテーションの際は、毎回ディスクブレーキパッドが摩耗していないか点検してください。

i 情報

非対称タイヤの外側と内側は見分けがつくようになっています。非対称タイヤを取り付ける際は、「OUTSIDE」マークがある側を必ず外側に向けてください。「INSEIDE」マーク側を外側に向けて取り付けると、車両の性能に悪影響を及ぼします。

⚠ 警告

- コンパクトなスペアタイヤをタイヤローテーションに使用しないでください。
- いかなる場合も、バイアスプライタイヤとラジアルプライタイヤを混在させないでください。操作性に異変が起こり、車両が制御不能になって事故につながるおそれがあります。

ホイールアラインメントとタイヤバランス

タイヤを長くお使いいただき、総合的なパフォーマンスが最良の状態で車両をご使用いただくために、車両のホイールは工場で入念にアライメント調整とバランス調整を行ってあります。

たいていの場合、ホイールアラインメントを再度行っていただく必要はありません。ただし、タイヤの異常な摩耗を見つけた場合や一方にハンドルが取られると感じた場合などは、アラインメントのリセットが必要になることがあります。

滑らかな路面を走行中に車両の振動を感じた場合は、ホイールの再調整が必要になることがあります。

知識

ホイールウェイトが不適切な場合、車両のアルミホイールが損傷するおそれがあります。承認済みのホイールウェイトのみを使用してください。

タイヤ交換



[A] トレッドウェアインジケーター

タイヤが均等にすり減った場合は、トレッドウェアインジケーターがトレッドを横切る太い帯として露出します。トレッドウェアインジケーターはタイヤのトレッドが1.6mm未満に減ると露出します。この状態になった場合は、タイヤを交換してください。

タイヤの交換は、トレッド全体にインジケーターが露出するまで待たないでください。

⚠ 警告

死亡や重大な傷害のリスクを軽減するために、次のことを必ずお守りください。

- 摩耗したタイヤ、不均等にすり減ったタイヤ、損傷したタイヤを交換します。タイヤの摩耗により、ブレーキやハンドルが効かなくなったり、トラクションがかからなくなったりするおそれがあります。
- タイヤは必ず、工場出荷時に車両に装着されていたタイヤと同じサイズのタイヤに交換してください。推奨サイズ以外のタイヤとホイールを使用すると、ハンドルの操作性に異常が生じたり、車両が制御不能になったり、車両のアンチロックブレーキシステム（ABS）に悪影響を及ぼしたりして重大な事故につながるおそれがあります。
- タイヤ（またはホイール）を交換する際は、前輪 2 本または後輪 2 本のタイヤ（またはホイール）をペアで交換することを推奨します。タイヤを 1 本だけ交換すると、車両の操作性に深刻な影響を及ぼすおそれがあります。
- タイヤは、たとえ使用していなくても、時間とともに品質が低下します。トレッドの残存具合にかかわらず、弊社では通常使用で 6 年を経過したタイヤの交換を推奨しています。
- 暑さによる熱や頻繁な高荷重によって、劣化が速まる場合があります。この警告に従わなかった場合、タイヤの突発的な故障を引き起こして車両を制御できなくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

スペアタイヤが破損して車両を制御できなくなり事故につながるのを防ぐため、元のタイヤはできるだけ早く修理または交換してください。コンパクトなスペアタイヤは、緊急時にのみ使用するものです。コンパクトなスペアタイヤを使用しているときは、時速80km/hを超える速度で運転しないでください。

ホイール交換

何らかの理由で金属製ホイールを交換する際は、新しいホイールの直径、リム幅、オフセットが工場出荷時のものと同じであることを確認してください。

タイヤのトラクション

摩耗したタイヤや空気圧が不適切なタイヤを装着して、または滑りやすい路面を走行している場合は、タイヤのトラクションが低下する可能性があります。トレッドウェアインジケーターが露出している場合はタイヤを交換してください。操作不良に陥る確率を下げるため、路面が雨で濡れている場合や雪、氷で覆われている場合は常に減速してください。

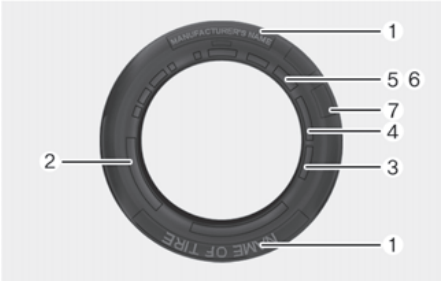
タイヤのメンテナンス

適正な空気圧のほかにも、正しいホイールアラインメントによってタイヤの摩耗を低減することができます。タイヤが不均等にすり減っている場合は、弊社認定修理業者にホイールアラインメントの点検を依頼してください。

新しいタイヤを取り付けた時は、バランスが取れているか確認してください。バランスの取れたタイヤは乗り心地を高め、寿命が延びます。また、ホイールからタイヤを外した場合は、バランスの再調整を必ず行ってください。

タイヤサイドウォールラベル

この情報は、タイヤの基本特性および安全基準認定の識別番号(TIN)を示しています。TINは、リコールが発生した場合のタイヤの特定に使用することができます。



1. メーカーまたはブランド名

メーカーまたはブランド名が表示されています。

2. タイヤサイズの呼称

タイヤのサイドウォールには、タイヤサイズの呼称が刻印されています。この情報は車両の交換タイヤを選択する際に必要になります。タイヤサイズの呼称に含まれる文字と数字の意味を次に説明します。

タイヤサイズの呼称の例:

(これらの数字は一例です。タイヤサイズの呼称はお使いの車両によって異なります。)

275/35ZR21 103Y

275:タイヤ幅(ミリメートル)

35:偏平率タイヤ断面の幅に対する高さの比率。

ZR:タイヤ構造コード(ラジアル)

タイヤの速度区分リム径(インチ)

103:ロードインデックス。タイヤが耐えることができる最大荷重を指数化したものです。

Y:速度区分記号。詳細については、本セクションの速度記号表を参照。

ホイールサイズの呼称

ホイールには、交換時に必ず必要になる重要な情報も刻印されています。ホイールサイズの呼称に含まれる文字と数字の意味を次に説明します。

ホイールサイズの呼称の例:

9.5J X 21

9.5:リム幅(インチ)。リム幅(インチ)

J:リムカウンターの呼称

タイヤの速度区分リム径(インチ)

タイヤの速度区分

乗用車用タイヤに現在使用されている様々な速度区分を次の表に示します。速度区分はタイヤサイドウォールのタイヤサイズの呼称に含まれています。この記号は、タイヤで安全に走行できる最高速度に対応しています。

速度区分記号	最高速度
S	180km/h
T	190km/h
H	210km/h
V	240km/h
W	270km/h
Y	300km/h

3. タイヤ寿命の確認(TIN : タイヤ識別番号)

製造年週から6年を経過したタイヤは(スペアタイヤを含む)すべて新しいタイヤに交換してください。製造年週はタイヤサイドウォール(場合によってはタイヤ内側)に刻印されたDOTコードに記載されています。DOTコードは、タイヤに刻印された数字と英文字を含む一連の数字です。製造年週は、DOTコードの末尾4桁(文字)で示されます。

DOT :XXX XXXXXX OOOO

DOTの最初の部分は、工場コード番号、タイヤサイズ、トレッドパターンを示し、末尾4桁の数字は製造された週と年を示しています。

例:

DOT XXX XXXXXX 3025は、タイヤが2025年の第30週に製造されたことを表します。

4. タイヤプライの構造と材料

タイヤのラバーコーティングが施された繊維のレイヤー数とプライ数です。タイヤメーカーは、タイヤの素材(スチール、ナイロン、ポリエステルなど)も示す必要があります。「R」はラジアルプライ構造、「D」はダイアゴナルまたはバイアスプライ構造、「B」はベルテッドバイアスプライタイヤを意味します。

5. 最大許容空気圧

この数字は、タイヤに充填できる最大空気圧を示しています。最大許容空気圧を超えないでください。

6. 最大荷重量

この数字は、タイヤで運ぶことのできる最大荷重をキログラムとポンドで示しています。車両のタイヤを交換する際は、工場で装着されたタイヤと同じ荷重量のタイヤを必ず使用してください。

7. 統一タイヤ品質等級基準

品質等級基準は、タイヤサイドウォールのトレッドショルダーと最大断面幅の間に刻印されています。

例:

TREADWEAR 200

TRACTION AA

TEMPERATURE A

TREADWEAR（トレッドウェア）

トレッドウェアグレードは、政府指定テストコースの安定した条件下でテストをした際のタイヤの摩耗率を基にした比較評価です。例えば、政府指定コースにおいて、TW150のタイヤはTW100のタイヤよりも1.5倍の耐摩耗率であるという意味です。

ただし、相対的なタイヤ性能は、実際の使用条件に左右され、運転の癖、整備方法、路面状態、気候などの様々な要素によって、基準を大きく逸脱する場合があります。

これらのグレードは、乗用車用タイヤのサイドウォールに刻印されています。標準またはオプションとして車両に装着できるタイヤのグレードは、異なる場合があります。

TRACTION（トラクション）- AA、A、B、C

トラクショングレードは、最高から最低グレードまでをAA、A、B、Cで表記しています。これらのグレードは濡れた路面でのタイヤの制動力を表しており、政府指定テスト用路面（アスファルトおよびコンクリート）の安定した条件下で測定されています。Cと刻印されたタイヤは、トラクション性能が低い可能性があります。

⚠ 警告

タイヤのトラクショングレードは、直進時のブレーキトラクションの測定テストに基づいており、加速、コーナリング、ハイドロプレーニング、最大トラクション特性は考慮されていません。

Temperature（テンパチャー）- A、B、C

テンパチャーグレードは、A（最高）、B、Cに分類され、指定屋内試験場のテストホイールを使用し、安定した条件下でテストをした際のタイヤの耐熱性と熱拡散性を表します。

高温状態が続くと、タイヤの素材が劣化してタイヤの寿命が縮む可能性があるほか、極端な温度はタイヤの突発的な故障につながるおそれがあります。グレードBおよびAは、試験場のテストホイールを使用した性能が法律によって要求される最低水準よりも高いことを表します。

⚠ 警告

このタイヤのテンパチャーグレードは、適正空気圧の荷重超過ではないタイヤを使用して確認されています。スピードの出し過ぎ、空気圧不足、空気圧超過、過積載は、単独または複数が原因になって熱による破裂やタイヤの突発的な故障につながるおそれがあります。これにより、車両が制御不能になり、事故につながるおそれがあります。

ノーマルタイヤ

弊社では、乾いた路面で優れた性能を発揮するように、一部のモデルのノーマルタイヤを指定しています。ノーマルタイヤの性能は、雪氷路面では著しく低下します。ノーマルタイヤには、タイヤサイドウォールにタイヤのトラクション等級M+S（マッド＆スノー）の刻印がありません。雪氷路面を走行する予定がある場合は、スノータイヤやオールシーズンタイヤをすべての車輪に装着することをお勧めします。

偏平率の低いタイヤ

装備されている場合

偏平率の低いタイヤでは偏平率が50よりも低くなります。

偏平率の低いタイヤはハンドル操作やブレーキ操作に最適化されているため、サイドウォールが標準的なタイヤよりも少し硬くなっています。また、偏平率の低いタイヤ幅が広くなる傾向にあり、その結果、路面との接触面積が大きくなります。場合によっては、標準的なタイヤに比べてロードノイズが大きくなることもあります。

⚠ 注意

偏平率の低いタイヤのサイドウォールの高さはノーマルタイヤよりも低くなっています。このため、偏平率の低いホイールやタイヤは破損しやすくなっています。次の指示をお守りください。

- 荒れた道や未舗装道を走行する際は、タイヤとホイールを損傷させないように注意してください。走行後は、タイヤとホイールを点検してください。
- くぼみ、スピードバンプ、マンホール、縁石の上を通過する際は、タイヤやホイールを損傷させないように減速してください。
- タイヤが衝撃を受けた場合は、タイヤの状態を点検するか、弊社認定修理業者に連絡することを推奨します。
- 損傷を未然に防ぐため、タイヤの状態と空気圧は、3,000km または 1 か月ごとに点検してください。
- 目視だけでタイヤの損傷を識別することは困難です。少しでもタイヤの損傷を示す兆しがあった場合は、タイヤの点検と交換を実施して空気漏れによる損傷を未然に防いでください。
- 荒れた道や未舗装道の走行中、くぼみ、マンホール、縁石などの障害物の上を走行中にタイヤが損傷した場合の損傷は保証対象外です。
- タイヤの情報は、タイヤのサイドウォールに記載されています。

ヒューズ

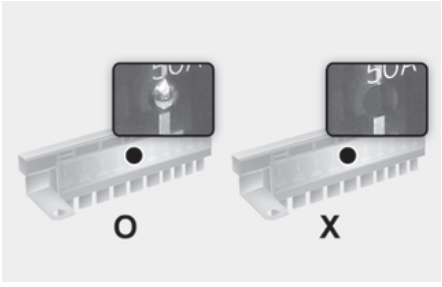
ブレードタイプ（一例）



カートリッジタイプ（一例）



マルチタイプ（一例）



車両の電気システムは、ヒューズによって過負荷による損傷から保護されています。

本車両には2(または3)枚のヒューズボックスが取り付けられており、1枚は運転席側のパネルボルスターに、もう1枚はモーターコンパートメントにあります。

ライト、アクセサリー、またはコントロールが機能しない場合は、該当する回路のヒューズを点検します。ヒューズが切れた場合は、ヒューズ内部のエレメントが溶けているか壊れています。

電気システムが機能しない場合は、最初に運転席側のヒューズボックスを点検してください。切れたヒューズを交換する前に、車両とすべてのスイッチの電源を切ってからマイナス側のバッテリーケーブルを外します。切れたヒューズを交換する際は、必ず同じ定格のヒューズを取り付けてください。

交換用ヒューズが切れた場合は、電気系統に問題が発生していることを示しています。関連するシステムの使用を避け、直ちに弊社認定修理業者にご相談いただくことを推奨します。

⚠ 警告

必ず、同じ定格のヒューズと交換してください。

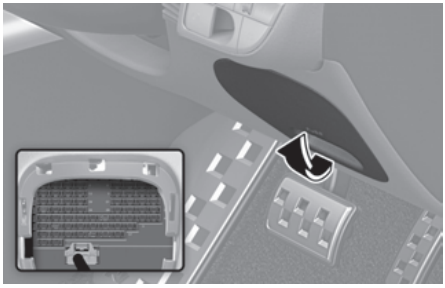
- 容量の大きいヒューズは、損傷を引き起こし、場合によっては火事になるおそれがあります。
- 一時的な修理であっても、適合するヒューズの代わりにワイヤーやアルミホイルを取り付けないでください。広範囲の配線を損傷させ、場合によっては火事になるおそれがあります。

知識

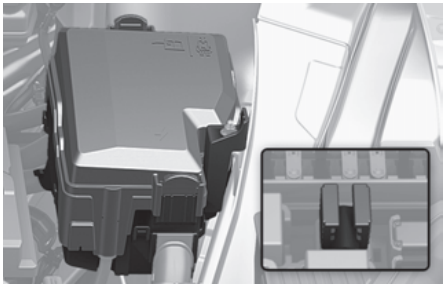
回路ショートやシステム損傷のおそれがあるため、ヒューズの取り外しに運転者や金属製のものを使用しないでください。

インストルメントパネルのヒューズ交換

1. 車両の電源を切ります。
2. その他のすべてのスイッチを切ります。
3. ヒューズボックスカバーを開きます。



4. ヒューズボックスカバーの内側にあるラベルを参照して、疑わしいヒューズの場所を特定します。
5. 疑わしいヒューズをまっすぐ引き抜きます。モーターコンパートメントのヒューズボックスに付いている取り外しツールを使用します。



6. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は交換します。予備のヒューズがインストルメントパネルのヒューズボックス（またはモーターコンパートメントのヒューズボックス）に装備されています。

7. 同じ定格の新しいヒューズを差し込み、クリップにしっかりと装着されていることを確認します。ぐらつきがある場合は、弊社認定修理業者にご相談いただくことを推奨します。

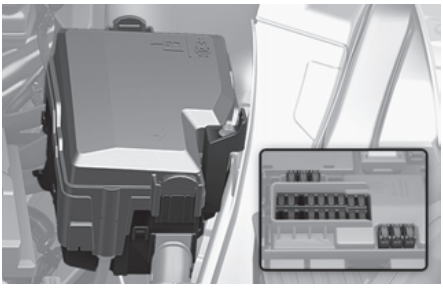
緊急時に予備のヒューズが手元にない場合は、車両操作に不要と考えられる回路の同じ定格のヒューズを使用してください。

ヘッドライトその他の電気コンポーネントが機能しないもののヒューズに問題がない場合は、モーターコンパートメントのヒューズボックスを点検してください。

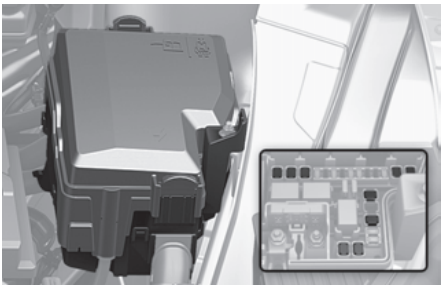
モーターコンパートメントヒューズボックスのヒューズ交換

ブレードヒューズ／カートリッジヒューズ

ブレードタイプ（一例）



カートリッジタイプ（一例）



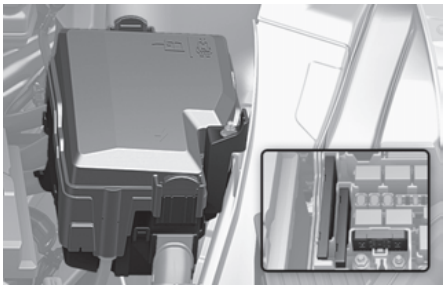
1. 車両の電源を切ります。
2. その他のすべてのスイッチを切ります。
3. ヒューズボックスカバーのタブを押して引き上げ、ヒューズボックスカバーを取り外します。
4. ヒューズボックスカバーの内側にあるラベルを参照して、疑わしいヒューズの場所を特定します。
5. 疑わしいヒューズをまっすぐ引き抜きます。モーターコンパートメントのヒューズボックスに付いている取り外しツールを使用します。

6.取り外したヒューズを点検し、切れている場合は交換します。ヒューズの取り外しや挿入を行う際は、モーターコンパートメントヒューズボックスの取り外しツールを使用してください。
7.同じ定格の新しいヒューズを差し込み、クリップにしっかりと装着されていることを確認します。ぐらつきがある場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

知識

ヒューズボックスカバーを必ず確実に取り付けてください。ヒューズに水がかかり、電気的故障の原因となります。

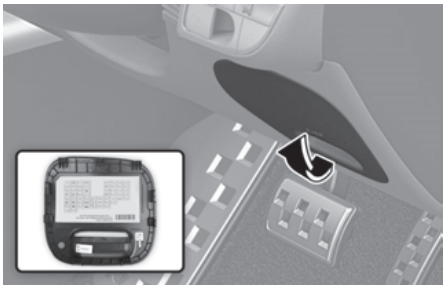
マルチヒューズ



マルチヒューズまたはMIDIヒューズが切れている場合は、弊社認定修理業者にご相談いただくことを推奨します。

ヒューズ／リレーボックスの説明

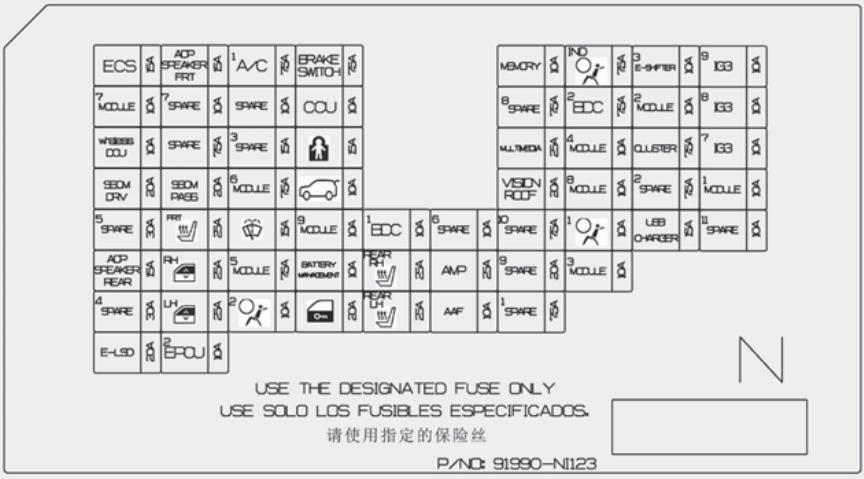
インストルメントパネルのヒューズボックス



ヒューズボックスの内側には、ヒューズの名前と定格を記載したラベルが貼られています。

i 情報

本マニュアルには、お使いの車両に適用されないヒューズボックスの説明も記載されている場合があります。車両のヒューズボックスを点検する際は、ヒューズボックスのラベルを参照してください。



インストルメントパネルのヒューズボックス

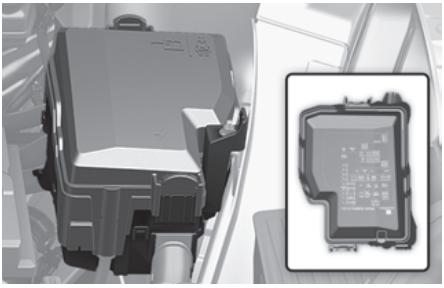
ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
ECS	ECS	15A	ECS UNIT
ADP SPEAKER FRT	ADP SPEAKER FRT	15A	FRT ADP SPEAKER
A/C 1	1 A/C	7.5A	A/C CONTROL MODULE
BRAKE SWITCH	BRAKE SWITCH	7.5A	BDC、STOP LAMP SWITCH
MEMORY	MEMORY	10A	A/C CONTROL MODULE、HUD UNIT、MOOD LAMP(MASTER UNIT、DOOR)、WPC、USB JACK、CLUSTER、ADAS PRK ECU、BDC、ADP UNIT、REAR CORNER RADAR
AIRBAG IND	IND	7.5A	OVERHEAD CONSOLE PAB LAMP
E-SHIFTER 3	3 E-SHIFTER	10A	SBW LEVER COMPLETE
IG3 9	9 IG3	10A	BMS、REAR INVERTER
MODULE 7	7 MODULE	10A	P/WDW MAIN SW、O/S HDL DRIV/PASS
CCU	CCU	10A	CCU
BDC 2	2 BDC	7.5A	BDC
MODULE 2	2 MODULE	10A	DCU、CCU、STOP LAMP SWITCH

ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
IG3 8	8 IG3	10A	ICCU、V2L、SCU、VCMS、REAR EOP、CCU
WIRELESS DCU	wireless DCU	10A	DCU
CHILD LOCK		15A	REAR DOOR LATCH LH/RH
MULTIMEDIA	MULTIMEDIA	25A	CCNC
MODULE 4	4 MODULE	10A	WPC、C/PAD SW、CCNC、DATA LINK CONNECTOR、ECM(DCM)、ADP、EXT AMP、HEAD LAMP OPTION TYPE LH/RH
CLUSTER	CLUSTER	7.5A	CLUSTER、HUD UNIT
IG3 7	7 IG3	10A	CCNC、A/C CONTROL MODULE、PTC HTR、INCAR SNSR、PM SNSR
SBCM DRV	SBCM DRV	20A	SBCM DRIV UNIT
SBCM PASS	SBCM PASS	20A	SBCM PASS UNIT
MODULE 6	6 MODULE	7.5A	DATA LINK CONNECTOR
TAILGATE OPEN		10A	TAILGATE LATCH
VISION ROOF	VISION ROOF	20A	VISION ROOF ECU
MODULE 8	8 MODULE	7.5A	MULTI FUNCTION SW、P/WDW MAIN SW

ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
MODULE 1	1 MODULE	10A	CCU、ADAR PRK ECU、BDC、CCNC、KEYBOARD、DCU、PE ROOM J/B P/OUTLET RLY COIL、EXT AMP、ADP UNIT、FR ADP SPEAKER、RR ADP SPEAKER
2nd ROW SEAT FOLDING RH		25A	Rear Seat RH Remote Folding Actuator
2nd ROW SEAT FOLDING LH		25A	Rear Seat LH Remote Folding Actuator
S/HEATER FRT		25A	FR PASS SEAT HEATER ECU
WASHER		15A	MULTI FUNCTION SW
MODULE 9	9 MODULE	10A	DATA LINK CONNECTOR、RAIN SNSR、HAZARD SW MULTI FUNCTION SW、PTGM
BDC 1	1 BDC	10A	UWB BLE MASTER/SLAVE、BDC、UWB REAR LH/RH、UWB FR LH/RH
AIRBAG 1		10A	AIRBAG CONTROL UNIT
USB CHARGER	USB CHARGER	15A	RR USB CHARGER、CTR USB CHARGER、USB JACK
ADP SPEAKER REAR	ADP SPEAKER REAR	15A	REAR ADP SPEAKER
P/WINDOW RH		25A	RR RH P/WDW SW、FR DRIV SAFETY ECU
MODULE 5	5 MODULE	7.5A	BCD
BATTERY MANAGEMENT	BATTERY MANAGEMENT	10A	BMS

ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
S/HEATER REAR RH		25A	REAR SEAT RH HEATER ECU
AMP	AMP	25A	EXT AMP
MODULE 3	3 MODULE	10A	C/PAD SW、ADAS DRV ECU、FR CAMERA (W/S GLASS)ADAS PRK ECU、RR INVERTER、RR C/RADAR、SCC RADAR ECS UNIT、FR INVERTER、ELSD ECU、FR C/RADAR
P/WINDOW LH		25A	FR PASS P/WDW SW、RR LH P/WDW SW、FR PASS SAFETY ECU(RHD)
AIRBAG 2		10A	AIRBAG CONTROL UNIT
DOOR LOCK		20A	FR DOOR ACTR DRIV/PASS RR DOOR ACTR LH/RH
S/HEATER REAR LH		25A	REAR SEAT LH HEATER ECU
AAF	AAF	10A	AAF UNIT UPR/LH/RH
E-LSD	E-LSD	20A	E-LSD ECU
EPCU 2	2 EPCU	10A	RR INVERTER

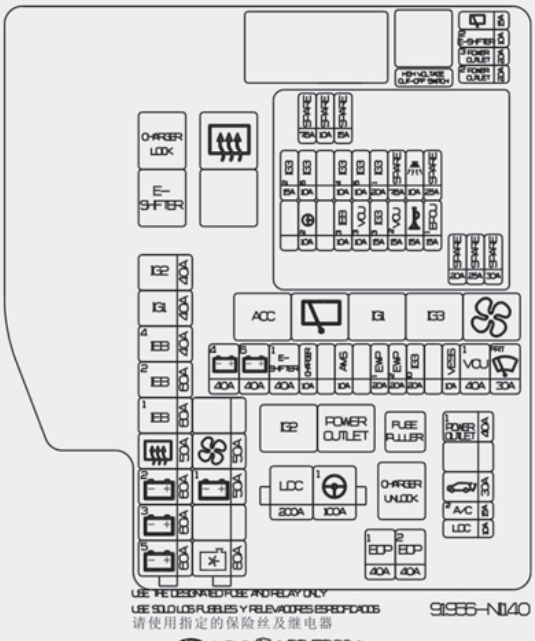
モーターコンパートメントヒューズボックス（モーターコンパートメントジャンクションブロック）



ヒューズボックスの内側には、ヒューズの名前と定格を記載したラベルが貼られています。

i 情報

本マニュアルには、お使いの車両に適用されないヒューズボックスの説明も記載されている場合があります。車両のヒューズボックスを点検する際は、ヒューズボックスのラベルを参照してください。



モーターコンパートメントヒューズボックス（モーターコンパートメントジャンクションブロック）

タイプ	ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
マルチヒューズ-1	LDC	LDC	200A	PE ROOM J/B(ヒューズ:A/CON2、PTGM、EOP2、EOP1、P/OUTLET)
	MDPS 1	1	100A	MDPS UNIT
MULTI FUSE-2	IG2	IG2	40A	PE ROOM J/B(リレー:IG2)
	IG1	IG1	40A	PE ROOM J/B(リレー:ACC、IG1)
	IEB4	4 IEB	40A	DATA LINK CONNECTOR (DIAGNOSIS)
	IEB2	2 IEB	60A	IEB UNIT
	IEB1	1 IEB	60A	IEB UNIT
	RR HTD		50A	PE ROOM J/B(リレー:RR HTD)
	B+2	2	60A	PDC(ヒューズ:CHILD LOCK、BDC1、BRAKE SW、CCU、S/HEATER RR LH / RH、DR LOCK、TAILGATE OPEN)、(リレー:AUTO CUT RLY)
	B+3	3	60A	PDC(ヒューズ:ECS、E-LSD、EPCU2、ADP SPKR RR、S/HEATER FRT ADP SPKR FR、P/WINDOW LH/RH、SBCM DRIV/PASS、DCU、MODULE7)
	B+5	5	60A	PCB BLOCK(ヒューズ:EPCU1、VCU2、WIPER1、B/A HORN、HORN)(リレー:IG3)

タイプ	ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
MULTI FUSE-3	BLOWER		50A	PE ROOM J/B(リレー:BLOWER)
	B+1	1 	50A	PDC(ヒューズ:AMP、MODULE9、BATTERY MANAGEMENT、AAF、AIR BAG2、VISION ROOF)
	COOLING FAN		80A	COOLING FAN UNIT

タイプ	ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
ヒューズ	RR WIPER		15A	PE ROOM J/B(リレー:RR WIPER)
	E-SHIFTER2	2 E-SHIFTER	10A	PE ROOM J/B(リレー: E-SHIFTER1 RLY COIL)SCU、BW LEVER COMPLETE
	POWER OUTLET3	3POWER OUTLET	20A	RR POWER OUTLET
	POWER OUTLET2	2POWER OUTLET	20A	FR POWER OUTLET
	B+4	4 	40A	PDC(IPS9、IPS12、IPS11、IPS8、IPS10)
	B+6	6 	40A	PDC(IPS3、IPS7、IPS2、IPS6、IPS5、IPS1、IPS4)
	E-SHIFTER1	1 E-SHIFTER	40A	PE ROOM J/B (リレー:E-SHIFTER1)
	CHARGER	CHARGER	10A	PE ROOM J/B(リレー:CHARGER LOCK/UNLOCK SW、COIL)ICCU、VCMS
	HEAD LAMP RH	HEAD LAMP RH	25A	Head Lamp RH
	AMS	AMS	10A	BATT SENSOR
	HEAD LAMP LH	HEAD LAMP LH	25A	Head Lamp LH
	EWP1	1 EWP	20A	EWP BATT 1
	EWP2	2 EWP	20A	EWP BATT 2

タイプ	ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
ヒューズ	IG3 10	10 IG3	20A	PE ROOM J/B(リレー:IG3)
	VESS	VESS	10A	VESS UNIT
	VCU1	1 VCU	40A	VCU
	FRT WIPER	FRT 	30A	FRT WIPER MOTOR
	POWER OUTLET1	1 POWER OUTLET	40A	PE ROOM J/B(リレー: P/OUTLET)
	POWER TAILGATE		30A	POWER TAILGATE MODULE
	A/C2	2 A/C	15A	A/C CONTROL MODULE
	EOP1	1 EOP	40A	RR EOP
	EOP2	2 EOP	40A	FRT EOP

モーターコンパートメントのヒューズボックス（PCB ブロック）

ヒューズの名前	記号	ヒューズの定格	保護回路
IG3 2	2 IG3	15A	VCU
IG3 6	6 IG3	10A	COOLING FAN、FRT EOP
IG3 4	4 IG3	10A	COOL VALVE、FRT INVERTER、EWP1、EWP2、E_COMP
IG3 5	5 IG3	10A	3WAY VALVE
IG3 1	1 IG3	20A	PDC(ヒューズ:IG3 7、IG3 8、IG3 9)
B/A HORN		10A	PCB BLOCK(リレー:B/A HORN RLY)
MDPS 2	2 	10A	MDPS
IEB 3	3 IEB	10A	IEB UNIT、DATA LINK CONNECTOR(DIAGNOSIS)
VCU 3	3 VCU	10A	VCU
IG3 3	3 IG3	15A	RR PE EWP
VCU 2	2 VCU	15A	VCU
HORN		15A	PCB BLOCK(リレー:HORN RLY)
EPCU 1	1 EPCU	15A	FRT INVERTER

電球

車両の電球交換が必要な場合は、弊社認定修理業者にご相談いただくことを推奨します。車両の電球交換は、電球に到達するために車両の他の部品を取り外す必要があるため、難しくなっています。これは、電球を交換するためにヘッドライトアセンブリーを取り外す場合に特に当てはまります。

ヘッドライトアセンブリーの取り外し/取り付けは、車両を損傷させるおそれがあります。

⚠ 警告

- 電球を交換する前に、ブレーキペダルを踏み、シフトを P（パーキング）にしてパーキングブレーキをかけ、EV START/STOP ボタンを OFF の位置にします。車両を離れる際はキーを携帯し、車両が突然動き出したり、万が一にも感電が起きたりしないようにしてください。
- 電球が熱くなっていて、指がやけどするおそれがあるので十分に注意してください。

知識

ヒューズや電気系統の損傷を防ぐ ため、必ず切れた電球と同じワット数の電球と交換してください。

知識

損傷を防ぐため、化学溶剤や強力な洗浄剤を使用してヘッドライトのレンズを洗浄しないでください。

i 情報

本車両には、湿気によるヘッドライト内部の曇りを軽減するための乾燥剤が装備されている場合があります。乾燥剤は消耗品であり、使用期間や環境によって性能が変化する場合があります。水分によるヘッドライト内部の曇りが長時間続く場合は、弊社認定修理業者にご相談いただくことを推奨します。

i 情報

走行後に洗車した場合や、雨天時に走行した場合は、ヘッドライトとテールライトが曇っているように見えることがあります。これはライト内部の温度が高く、外気温が低いことで生じます。ライトに結露した湿気は、ライトを点灯した状態で走行すると消失します。湿気が消失しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

- 正常に作動しているライトが瞬間的にちらつく場合がありますが、それは車両の電気制御システムを安定させるためです。ライトが消えたり、ちらつきが続いたりする場合は、弊社認定修理業者にシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。
- ポジションランプスイッチを ON にしてもポジションランプが点灯しない場合がありますが、ヘッドライトスイッチを ON にするとポジションランプとヘッドライトが点灯する場合があります。これは、ネットワークの障害や車両の電気制御システムの故障が原因である可能性があります。このような場合は、弊社認定修理業者にシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。

i 情報

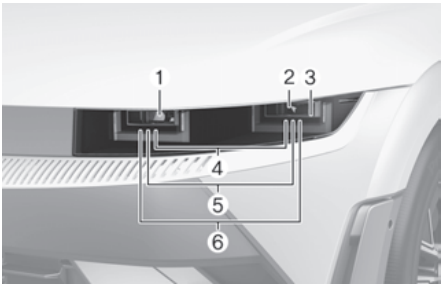
事故が発生した後や、ヘッドライトアセンブリーを取付直した後は、ヘッドライトの光軸を調整してください。

i 情報

交通の変化

ロービームの配光は非対称です。通行方向が逆の国を訪れた場合は、この非対称の部品によって対向車の運転者がまぶしく感じます。まぶしさを防ぐため、ECE規則ではいくつかの技術的な解決策を義務づけられています(例:自動変更システム、粘着シート、光軸の下方修正など)。このヘッドライトは、対向車の運転者にまぶしさを感じさせないように設計されています。そのため、通行方向が逆の国でもヘッドライトを調整する必要はありません。

ヘッドライト、ポジションランプ、方向指示器、デイタイムランニングライト（DRL）交換



(1) ヘッドライト（ロー）
(2) ヘッドライト（サブロー）
(3) ヘッドライト（ハイ）
(4) デイタイムランニングライト（DRL）
(5) ポジションランプ
(6) 方向指示器

LEDライトが作動しない場合は、弊社認定修理業者にシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。

LEDライトは一体型ユニットであるため単体で交換できません。LEDライトの点検や修理は、車両の関連部品を損傷するおそれがあるため、熟練した技術者が行う必要があります。

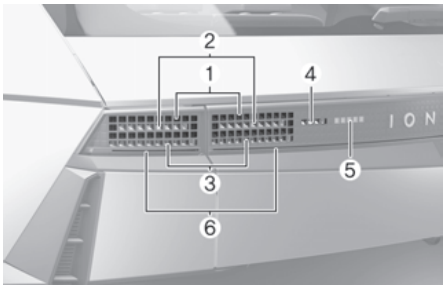
サイドリピーターライト交換



サイドリピーターライト①が点灯しない場合は、弊社認定修理業者にシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。

LEDライトは一体型ユニットであるため単体で交換できません。LEDライトの点検や修理は、車両の関連部品を損傷するおそれがあるため、熟練した技術者が行う必要があります。

リアコンビネーションライト交換



(1) テールランプ / ストップライト
(2) ストップライト
(3) 方向指示器
(4) リバースライト
(5) リアフォグライト
(6) ガーニッシュテール

LEDライトが作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

LEDライトは一体型ユニットであるため単体で交換できません。LEDライトの点検や修理は、車両の関連部品を損傷するおそれがあるため、熟練した技術者が行う必要があります。

ハイマウントストップライト交換

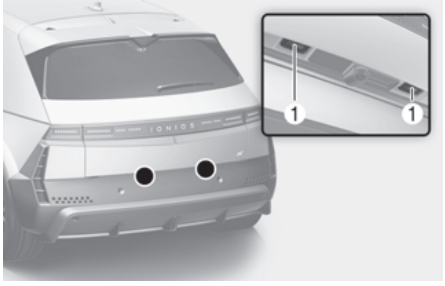


LEDライト①が作動しない場合は、弊社認定修理業者にシステム点検をご依頼いただくことを推奨します。

LEDライトは一体型ユニットであるため単体で交換できません。LEDライトの点検や修理は、車両の関連部品を損傷するおそれがあるため、熟練した技術者が行う必要があります。

ナンバープレートライト交換

ナンバープレートライト



LEDランプ(1)が作動しない場合は、弊社認定修理業者にシステムの点検をご依頼いただくことを推奨します。

LEDランプは一体型ユニットであるため、単体での交換はできません。ユニットごと交換する必要があります。

LEDランプの点検や修理は、車両の関連部品を損傷するおそれがあるため、熟練した技術者が行ってください。

ルームライト交換

マップライト、ルームライト、パーソナルライト、バニティミラーライト、グローブボックスライト、ムードライト、ラゲージルームライト

マップライト



ルームライト



パーソナルライト



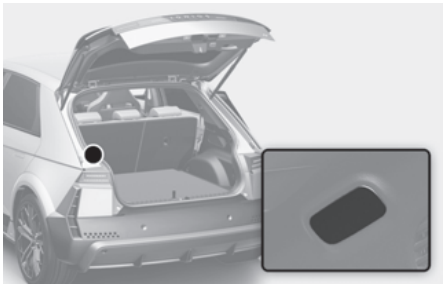
ムードライト



バニティミラーライト



ラゲッジルームライト



グローブボックスライト



LEDライトが作動しない場合は、弊社認定修理業者に車両の点検をご依頼いただくことを推奨します。

LEDライトは一体型ユニットであるため単体で交換できません。LEDライトの点検や修理は、車両の関連部品を損傷するおそれがあるため、熟練した技術者が行う必要があります。

お手入れ方法

外装

知識

ステンレス製の看板やガラス張りの建物の近くに駐車すると、バンパー、スポイラー、ガーニッシュ、ライト、アウトサイドミラーなどの車の外装プラスチック製部品が看板や建物から反射する太陽光によって損傷することがあります。外装プラスチック製部品の損傷を防ぐため、太陽光が反射するような場所での駐車を避けるか、自動車カバーを使用してください(お使いの車両に当てはまる外装プラスチック製部品)。

外装の一般的な注意事項

化学洗浄剤や化学研磨液を使用する場合は、ラベルの指示に必ず従ってください。ラベルに記載されている警告および注意事項をすべてお読みください。

手入れ

洗車

車両の塗装を錆と劣化から守るために、最低1ヶ月に1回の頻度で、ぬるま湯または冷水を使用して念入りに洗車してください。

未舗装道で車両を運転した場合は、使用後にその都度洗車してください。蓄積した塩分、チリ、泥、その他異物を除去する際は、細心の注意を払ってください。ドアおよびロッカーパネルの下端にあるドレインホールに詰まりがなく、清潔なことを確認します。

虫、タール、樹木のヤニ、鳥の糞、工場から排出される汚染物質、その他類似の付着物は、ただちに除去にないと車両の塗装を損傷させるおそれがあります。

こういった付着物は、すぐに真水で洗浄しても完全に除去できない場合があります。塗装面に使用しても問題のないマイルドな洗浄剤を使用してください。

洗車後は、ぬるま湯または冷水で車両を念入りに洗い流します。塗装面に洗浄剤が付着したまま乾燥させないようにしてください。

高圧洗浄

- 高圧洗浄機を使用する場合は、車両から十分な距離をとってください。

距離を十分にとっていなかったり、水圧が強すぎたりすると、コンポーネントの損傷や水の浸入につながるおそれがあります。

- 高圧洗浄機でカメラ、センサー、またはそれらの周囲に直接噴射しないでください。高圧洗浄機による衝撃でデバイスが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先をブーツ（ゴム製またはプラスチック製のカバー）やコネクターに近づけないでください。高圧水がかかると、損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

洗車後は、実際に道路を走行する前に低速走行によるブレーキテストを行い、水による影響が出ていないか確認してください。ブレーキ機能が損なわれている場合は、低速前進を続けながらブレーキを軽く踏み込むことで、ブレーキを乾燥させてください。

知識

- 強力な洗浄剤、化学洗浄剤、熱湯の使用や、直射日光の当たる場所や車体が温まっている時の洗車を行わないでください。
- 車両のサイドウィンドウを洗浄する際は注意してください。
- 特に、高圧洗浄機を使用する場合は、ウィンドウから水が漏れて、車内が濡れてしまうおそれがあります。
- プラスチック製部品の損傷を防ぐため、有機溶剤や強力な洗浄剤を使用して洗浄しないでください。



- モーターコンパートメントを水（高圧水を含む）で洗浄すると、モーターコンパートメントにある電気回路が故障するおそれがあります。
- 水その他の液体が車両内部の電気・電子コンポーネントに絶対に接触しないようにしてください。水や液体がフロントトランクからモーターコンパートメントに侵入して、電気・電子コンポーネントが損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

マット塗装の車両(該当する場合)

車両の塗装面を損傷させるおそれがあるため、回転式ブラシを使用する自動洗車機は使用しないでください。車両の塗装面を高温で洗浄するスチームクリーナーは、除去の難しいオイルが付着してシミが残るおそれがあります。

洗車の際は、柔らかい布(マイクロファイバータオルやスポンジなど)を使用し、マイクロファイバータオルで拭き上げてください。手洗い洗車の場合は、ワックス仕上げのできる洗浄剤を使用しないでください。車両の塗装面が(砂、チリ、ホコリ、汚染物質などで)ひどく汚れている場合は、洗車前に水で塗装面を洗い流してください。

ワックスがけ

ワックスの良質な膜は、塗装と汚れを隔てるバリアになります。これを維持することで、車両を保護することができます。

塗装面に水滴がない状態で車両のワックスがけをしてください。

ワックスがけの前には必ず洗車と水滴の拭き取りをしてください。液体またはペースト状の良質なワックスを使用し、メーカーの指示に従ってください。金属のトリムすべてにワックスがけをして、トリムを保護し、光沢を維持します。

スポットリムーバーで油、タール、その他類似の物質を除去すると、たいていは塗装面からワックスが除去されます。他の箇所のワックスがけが必要ない場合も、こういったエリアのワックスがけをもう一度行うようにしてください。

知識

- 乾いた布で車体のホコリやチリを拭き取ると、塗装面にこすり傷がつきます。
- スチールウール、研磨剤入りクリーナー、アルカリ性または腐食性の薬品を含む強力な洗浄剤をクロム合金めっきやアルマイトの部品に使用しないでください。保護コーティングを損傷させ、色あせや塗装の劣化を招くおそれがあります。

⚠ 注意

マット塗装の車両(該当する場合)

洗浄剤、研磨剤、光沢剤といった光沢保護剤を使用しないでください。ワックスがけをしてある場合、シリコンリムーバーを使用するとワックスがすぐに除去されます。塗装面にタールやタールを含む汚れが付着している場合は、タールリムーバーを使用してきれいに除去してください。ただし、塗装面に過度の圧力をかけないように注意してください。

塗装の損傷の補修

塗装面にできた深いこすり傷や飛び石による傷はただちに補修する必要があります。露出した金属はすぐに錆びて、修理費用がかさんでしまう可能性があります。

知識

車両が損傷し、金属部分の修理や交換が必要になった場合は、車体工場が非腐食性の材料で部品の修理や交換を行っているか確認してください。

知識

マット塗装の車両(該当する場合)

マット塗装の車両の場合は、損傷したエリアのみを補修することができないため、全体塗装による修復が必要になります。車体が損傷し、塗装が必要な場合は、弊社認定修理業者に車両の整備と補修をご依頼いただくことを推奨します。補修後に品質を元に戻すことは難しいため、細心の注意を払ってください。

光沢のある金属のメンテナンス

- 道路のタールや虫を除去する際は、タールリムーバーを使用し、スクレーパーなどの鋭利なものは使用しないでください。
- 光沢のある金属部品の表面を腐食から保護するには、ワックス又はクロームメッキ保護のコーティング剤を塗布して磨くことにより光沢を維持します。
- 冬期間や沿岸地域は、光沢のある金属部品にワックスや防食剤を厚めに塗布してください。必要に応じて、非腐食性のグリースなど、保護のできるコンパウンドでコーティングします。

下回りのメンテナンス

車両の下回りには、融雪剤や粉塵防止剤に使用されている腐食性物質が蓄積している可能性があります。これらの物質を除去しないと、防錆処理をしていても、フレームやフロアパネルなどの下回り部品で錆の浸食が進む可能性があります。

1ヶ月に1回、および未舗装道の走行後と冬の終わりには、車両の下回りとホイールオープニングをぬるま湯または冷水で念入りに洗い流してください。すべての泥やチリを目視で確認することは難しいため、これらのエリアには十分に注意を払ってください。路面の汚れを除去せず濡らすだけだと、かえって状態を悪化させていしまいます。ドア、ロッカーパネル、フレームメンバーの下端にはドレインホールがあり、チリが詰まらないようにする必要があります。このエリアで水が溜まっていると、錆が発生する可能性があります。

⚠ 警告

洗車後は、低速走行によるブレーキテストを行い、水による影響が出ていないか確認します。ブレーキ機能が損なわれている場合は、低速前進を続けながらブレーキを軽く踏み込むことで、ブレーキを乾燥させてください。

アルミニウムホイールのメンテナンス

アルミニウムホイールは、透明な保護皮膜で覆われています。

- アルミニウムホイールに研磨剤入り洗浄剤、ポリッシングコンパウンド、溶剤、ワイヤーブラシを使用しないでください。
- ホイールの掃除は、ホイールが冷えてから行ってください。
- マイルドな洗浄剤または中性洗剤のみを使用し、水で念入りに洗い流してください。融雪剤が散布された道路を走行した後もホイールを掃除してください。
- 高速洗車ブラシでホイールを洗わないでください。
- 酸性またはアルカリ性の薬品を含む洗浄剤は使用しないでください。

防食

車両の防食

HYUNDAIは、腐食を抑制するために、最新の設計および製造手法を用いて高品質の車両を生み出しています。しかし、これは対策の一端に過ぎません。車両の長期防食性能を発揮させるには、お客様の協力とサポートも必要になります。

一般的な腐食要因

車両を腐食させる最も一般的な要因は次のとおりです。

- 車両の下回りに蓄積させてしまった融雪剤、チリ、水分。
- 腐食性物質に対して保護されていない金属が露出したままの、石、砂利、引っ掻き傷、こすり傷、へこみによる塗装や保護コーティングの剥がれ。

腐食しやすい地域

車両が日常的に腐食性物質にさらされる地域にお住まいの場合は、防食処理が特に重要です。腐食を促進する一般的な要因には、融雪剤、粉塵防止剤、海風、工場から排出される汚染物質などがあります。

湿気による腐食

湿気は、最も腐食しやすい条件を作ります。例えば、氷点下に近い温度で湿度が高い場合は、腐食がとりわけ促進されます。このような条件下では、蒸発速度の遅い湿気によって腐食性物質が車両の表面に付着したままになります。

泥は、乾燥に時間がかかり、車両に水分を付着させたままにするので、特に腐食を発生させやすくなっています。泥は乾いているように見えても水分を含んでいて、腐食を促進させる可能性があります。

高温の場合も、部品の適切な通気が行われていないと、湿気を逃がすことができないため、そのような部品の腐食を促進する可能性があります。このようなすべての理由から、車両を清潔に保ち、泥などの物質を蓄積させないようにすることが特に重要です。これは車両の目視できる面だけでなく、とりわけ下回りにも当てはまります。

効果的に腐食を防ぐには

車両を清潔に保つ

腐食を防ぐ最も効果的な方法は、車両を清潔に保ち、腐食性物質を付着させておかないことです。車両の下回りに注意を向けることが特に重要となります。

- 腐食しやすい地域（融雪剤を使用する地域、沿岸地域、工場から汚染物質が排出される地域、酸性雨が降る地域など）にお住まいの場合は、腐食の防止に十分に注意してください。冬期間は、最低1ヶ月に１回ホースで水をかけて車両の下回りを洗い、冬が終わった時に、下回りを念入りに掃除してください。
- 車両の下回りを掃除する際は、フェンダーや他のエリアの下にある、目視できないコンポーネントに特に注意してください。洗い流すのではなく蓄積された泥を湿らせるだけだと、腐食を防ぐよりも進行を早めてしまうため、徹底した掃除を行ってください。蓄積された泥や腐食性物質の除去には、高圧水やスチームが特に効果的です。
- ドアパネル、ロッカーパネル、フレームメンバーの下部を掃除する際は、ドレインホールが開いた状態であることを確認して、水分を排出できるようにし、水分が内部でせき止められて腐食が進まないようにしてください。

ガレージを乾燥させておく

湿気が多く換気が不十分なガレージに車両を駐車しないでください。これは、腐食を促進させる環境となり、ガレージで洗車した場合、濡れた状態や雪、氷、泥の付着した状態でガレージに入庫した場合に特に当てはまります。湿気を逃がせるように十分な換気を行っている場合を除いては、ガレージを温めることも、腐食を促進させる可能性があります。

塗装とトリムの良好な状態を保つ

塗装面のこすり傷や飛び石による傷は、腐食してしまう可能性を減らすために、できるだけ早く「タッチアップ」塗装で補修してください。金属がむき出しの状態になっている場合は、有資格の車体塗装工場にご相談いただくことを推奨します。

鳥の糞は腐食性が高く、わずか数時間で塗装面を損傷させる可能性があります。鳥の糞は、絶えずできるだけ早く除去してください。

内装

内装の一般的な注意事項

香水やオイル系化粧品などの腐食性の液体がインテリアの部品に接触しないよう注意してください。損傷や変色が起きる可能性があります。内装部品に付着した場合は、すぐに拭き取ってください。車両内装の適切な掃除方法については、説明を参照してください。

知識

- 水やその他の液体が車両内部の電気／電子コンポーネントに絶対に接触しないようにしてください。損傷するおそれがあります。
- レザー製品（ステアリングホイール、シートなど）を掃除する際は、中性洗剤またはアルコール含有率の低い溶剤を使用してください。アルコール含有率の高い溶剤や酸性／アルカリ性の洗浄剤を使用すると、レザーが色あせしたり、表面が剥がれたりするおそれがあります。
- ガラスを着色する際は、着色剤が車内の電子機器に流れ込まないよう注意してください。機器の破損や不具合につながるおそれがあります。

布製装飾品や内装トリムの掃除

トリムカバー

装備されている場合

手ぼうきや掃除機でトリムカバーのホコリや粗いチリを取り除きます。必要な場合、ぬるま湯と中性洗剤を混ぜた洗浄剤でトリムカバーを掃除します(すべての洗浄剤は、使用前に目立たない部分で試してからお使いください)。

ファブリック

装備されている場合

手ぼうきや掃除機でファブリックからホコリや粗いチリを取り除きます。布製装飾品やカーペット用に推奨されているマイルドな洗浄剤で掃除してください。汚れが付着したら、すぐにファブリック用スポットクリーナーで除去します。汚れが付着したまま放置すると、ファブリックにシミが残り、変色してしまうおそれがあります。また、素材の適切なお手入れを怠ると、ファブリックの耐燃性が低下するおそれがあります。

知識

推奨される洗浄剤および手順以外を使用すると、ファブリックの外観や耐火性に影響を及ぼすおそれがあります。

レザー

装備されている場合

- レザーシートの特性
  - レザーは、天然皮革を使用しており、使用できるまでに特別な工程を経ています。天然素材の製品であるため、場所によって厚みや密度が異なります。

    温度や湿度によって伸び縮みすることにより、シワが自然にできることがあります。
  - シートは快適性を向上するために伸縮性の生地を使用しています。
  - 運転が快適で安定したものになるように体に接触する部品は湾曲しており、サイドサポートの部分が高く張り出しています。
  - 使用によって、シワが自然にできることがあります。これは、製品の欠陥ではありません。

知識

- 使用によって自然にできるシワや摩耗は保証対象外です。
- 金属製のアクセサリーがついたベルト、ジッパー、後ろポケットに入った鍵は、シートの生地を損傷させるおそれがあります。
- シートを濡らさないようにしてください。天然皮革が変質するおそれがあります。
- 色落ちするジーンズや衣類は、シートを覆う生地の表面を汚してしまう可能性があります。

- レザーシートのお手入れ
  - シートには定期的に掃除機をかけて、シートの上のホコリや砂を除去してください。これにより、レザーの摩耗や損傷を防ぎ、品質を維持することができます。
  - 乾いた柔らかい布で天然皮革製シートカバーをこまめに拭いてください。
  - 適切な皮革保護剤を使用することで、カバーの摩耗を防ぎ、色を維持することができます。皮革用のコーティング剤や保護剤を使用する場合は、必ず説明を読み、専門家にご相談ください。
  - 明るい色（ベージュ、クリームベージュなど）のレザーは、汚れやすく、シミが目立ちやすくなっています。頻繁にシートを掃除してください。
  - 濡れた布で拭かないようにしてください。表面にヒビ割れができる可能性があります。
- レザーシートの掃除
  - どのような汚れもただちに除去してください。それぞれの汚れの除去方法については、次の説明を参照してください。
  - 化粧品（日焼け止め、ファンデーションなど）

    布にクレンジングクリームをつけて、汚れた箇所を拭きます。濡らした布でクリームを拭き取り、乾いた布で水気を取り除きます。
  - 飲料（コーヒー、ソフトドリンクなど）

    中性洗剤を少量つけて、汚れが分からなくなるまで拭きます。
  - 油

    吸油性のある布で油をただちに除去し、天然レザー専用のステインリムーバーで拭き取ります。
  - チューイングガム

    氷でガムを凝固させ、少しずつ除去していきます。

アルカンターラ（合成レザー）

装備されている場合

- 柔らかいブラシや乾いた布でアルカンターラからホコリを除去します。
- ホコリを除去してから、白い綿布やスポンジに少量の水を含ませて、アルカンターラを拭きます。

i 情報

拭く際は、アルカンターラの内部まで濡れないようにしてください。

- 色やプリントがある布やスポンジを使用する際は、表面に色移りしないよう注意してください。
- アルカンターラが乾いた後に柔らかいブラシでブラッシングすることで、革本来の質感を取り戻すことができます。
- シミはすぐに取り除いてください。
- 汚れの種類に応じて、水、レモン水、純エチルアルコール、アルカンターラ用クリーナーで清掃してください。
- 汚れがひどい場合は、水またはアルカンターラ用クリーナーで薄めた中性洗剤を少量塗布してください。その後、ぬるま湯で拭き取ります。

⚠ 注意

アルコール含有率の高い溶剤(酸性/アルカリ性洗剤)でアルカンターラ製品(ステアリングホイール、シート、トリムなど)を清掃する場合や、過度なシミを除去する場合は、革の色が落ちたり、表面が剥がれたりする場合があります。

シートベルトウェビングの掃除

シートベルトウェビングは、布製家具やカーペットの掃除用に推奨されているマイルドな洗浄剤で掃除してください。洗剤に記載された指示に従ってください。シートベルトの強度が低下するため、ウェビングの漂白や染め直しを行わないでください。

ウィンドウガラスの内側の掃除

車両内側のウィンドウガラスの表面が曇った場合(油性、油質、ワックスの膜で覆われた場合)は、ガラスクリーナーを使用して掃除してください。ガラスクリーナーの容器に記載された指示に従ってください。

知識

リアウィンドウの内側をこすりったり、削ったりしないでください。リアウィンドウデフロスターのグリッドを損傷させるおそれがあります。

索引

A~Z

「EV に乗る前に」について 1-6
EV START/STOP ボタン 6-5
EV START/STOP ボタン位置 6-6
車両始動方法 6-7
車両電源停止方法 6-9
リモート始動 6-9
EV 仕様 2-11
EV について 1-7
EV 管理に関するその他の注意事項 1-10
EV の特徴 1-7
高電圧バッテリー使用時の注意事項 1-9
EV の運転 1-55
EV の走行情報の確認 1-57
車両の始動と停止 1-55
EV の充電 1-11
200V 普通充電ケーブルの使用（装備されている場合） 1-24
EV 充電時の安全上の注意事項 1-11
EV の充電に関する基本的な情報の確認 1-17
急速充電器の使用 1-22
即時充電停止 1-30
EV モード 1-31
EV 特有の機能の設定 1-41
EV の画面構成を確認する 1-31
エネルギー情報の確認 1-33
充電時目標充電量設定 1-39
次の出発時刻設定 1-35
電気使用設定（V2L） 1-40
普通充電設定 1-37
Hyundai Motor Company 1-3
Hyundai エマージェンシーコールシステム 8-24
Hyundai エマージェンシーコールシステム 8-28
N ブレーキ回生 6-16
i-PEDAL 6-19
最適化モード 6-18
使用方法 6-16
制約 6-17
ワンペダルドライブ 6-18

N ボタン 6-49
N モード 6-53
N Active Sound+ 6-56
N e-Shift 6-54
N グリンブースト 6-60
N ドリフトオプティマイザーPro 6-65
N トルクディストリビューション 6-60
N バッテリプレコンディショニング 6-63
N ペダル 6-58
N レース 6-62
N ロードセンス（装備されている場合） 6-67
N ローンチコントロール 6-57
電子制御式サスペンション（ECS） 6-67
トラックSOC（装備されている場合） 6-66
パフォーマンスオプション設定 6-54
OTA アップデート（車両システム） 5-75
ソフトウェアアップデート 5-76
ソフトウェアアップデートの準備 5-76
ソフトウェアアップデートの承認 5-75
ソフトウェアダウンロード 5-75
V2L 機能を使用する 1-47
V2L 機能使用時の安全上の注意事項 1-47
V2L の問題を解決する 1-53
車内で電気を使う 1-51
車両の外で電気を使う 1-50

ア

アクティブエアフラップ 6-68
故障 6-68
安全降車警告（SEW） 7-45
故障と制約 7-48
作動 7-47
設定 7-46
安全に関するメッセージ 1-4

イ

インストルメントクラスター 4-2
クラスターディスプレイのメッセージ 4-23
警報インジケーター 4-9
ゲージとクラスターディスプレイ 4-4
シフトインジケーター 4-8
制御 4-4
インストルメントパネルの概要 2-6
インテリジェントフロントライトシステム（IFS） 5-85
故障と制約 5-87
作動 5-86
設定 5-85
インフォテインメントシステム 5-131
Bluetooth® ワイヤレス技術 5-133
USB ポート 5-131
アンテナ 5-132
インフォテインメントシステム 5-133
音声認識 5-133
ステアリングホイールリモートコントロール 5-132

ウ

ウィンドウ 5-45
パワーウィンドウ 5-46
ウォッシャー液 9-18
レベル点検 9-18
運転者アシストシステムに関する知識 7-3
運転者注意警告（DAW） 7-57
故障と制約 7-59
作動 7-58
設定 7-57
運転する前に 6-4
始動する前に 6-4
乗車する前に 6-4
運転中の緊急事態 8-2
運転中に車両がストールした場合 8-2
運転中にタイヤがパンクした場合 8-3
交差点または横断歩道でストールした場合 8-2

エ

エアコンコンプレッサーラベル 2-18
エアコンディショナーシステム 2-14
空気清浄モード 5-107
作動 5-110
システムのメンテナンス 5-111
マニュアルエアコンディショナー 5-100
エアコンディショナーシステム 5-96
エアコンディショナーシステム 5-98
オートマチックエアコンディショナー 5-98
エアコンディショナーシステムの追加機能 5-115
ウォッシャー液使用時の内気循環 5-117
エアコンディショナーシステム自動乾燥 5-115
オートデフロスター 5-116
自動除湿 5-117
トンネル進入時の内気循環 5-118
エアバッグ - 補助拘束装置 3-36
SRS コンポーネント 3-38
SRS のメンテナンス 3-52
SRS 警告灯 3-47
エアバッグシステムの仕組み 3-44
エアバッグの場所 3-40
エアバッグ警告ラベル 3-53
エアバッグ展開 3-46
エアバッグ展開時の注意 3-48
チャイルドシートは絶対に助手席には取り付けないでください 3-47
追加の安全上の注意事項 3-53
エクステリアライト 5-78
デイタイムランニングライト（DRL） 5-82
ハイビーム操作 5-79
バッテリーセーバー機能 5-80
ヘッドライトエスコート機能 5-81
ヘッドライトレベリングデバイス 5-81
方向指示器と車線変更信号 5-80
ライト操作 5-78
リアフォグライト 5-80
ルームライト自動点灯/ 消灯 5-82

オ

オープンソースソフトウェア情報 2-18
お手入れ方法 9-53
外装 9-53
内装 9-58

カ

外装の概要（フロントビュー） 2-2
外装の概要（リアビュー） 2-3

キ

緊急用品 8-22
救急箱 8-22
三角表示板 8-23
消火器 8-22
タイヤ空気圧ゲージ 8-23
発炎筒 8-23

ク

クーラント 9-14
クーラントの交換 9-16
クラスターディスプレイ 4-27
操作 4-27
表示モード 4-27

ケ

けん引 8-20
けん引サービス 8-20
脱着可能なトラクションフック 8-21
降車安全アシスト（SEA） 7-49
故障と制約 7-52
作動 7-51
設定 7-50

コ

高速道路走行アシスト（HAD） 7-88
故障と制約 7-96
作動 7-90
設定 7-89
後側方衝突防止アシスト（BCA） 7-36
故障と制約 7-41
作動 7-39
設定 7-38
後側方モニター（BVM） 7-62
故障 7-63
作動 7-63
設定 7-62
後部座席乗員通知（センサー付）（ROA） 5-30
作動 5-30
設定 5-30
注意事項 5-31

サ

サラウンドビューモニター（SVM） 7-98
故障と制約 7-104
作動 7-100
設定 7-99

シ

シート 3-4
安全上の注意事項 3-7
後席 3-10
前席 3-8
ヘッドレスト 3-13
シートヒーター 3-15
シートベルト 3-18
安全上の注意事項 3-18
シートベルト警告灯 3-19
シートベルトの追加の安全上の注意事項 3-24
シートベルトの手入れ 3-26
シートベルトレストレイントシステム 3-20
シートベンチレーション 3-17

事故や火災が発生したら 1-67
EV が浸水した場合 1-67
EV に火災が発生した場合 1-67
EV のけん引が必要な場合 1-68
EV の事故に関するその他の注意事項 1-69
室内エアフィルター 9-19
交換 9-19
点検 9-19
シフト操作 6-10
安全な運転のための注意事項 6-15
クラスターディスプレイメッセージ 6-14
シフト操作 6-10
車線維持アシスト（LFA） 7-84
故障と制約 7-87
作動 7-85
設定 7-85
車線逸脱防止アシスト（LKA） 7-30
故障と制約 7-34
作動 7-31
設定 7-30
車台番号（VIN） 2-16
車両アクセス 5-5
イモビライザーシステム 5-10
スマートキー 5-5
車両が始動しない場合 8-3
12V バッテリーの確認 8-3
車両重量 6-75
過積載 6-76
車両重量およびラゲッジ容量 2-14
車両証明ラベル 2-16
車両設定（インフォテイメントシステム） 4-31
車両の設定 4-31
車両の改造 1-5
ジャンプスタート（12V バッテリー） 8-4
充電口 5-60
収納部 5-119
グローブボックス 5-120
スライド式アームレスト 5-119
センターコンソールストレージ 5-119

重要な安全上の注意事項.....3-2
飲酒の後や薬の服用後は運転しない..... 3-3
エアバッグの注意点.....3-2
お子さまを乗せるときは.....3-2
必ずシートベルトを着用する.....3-2
車両を安全な状態に保つ..... 3-3
スピードを制御する..... 3-3
不注意運転.....3-2
情報.....1-3

ス

推奨潤滑剤および容量..... 2-15
ステアリングホイール.....5-32
ステアリングホイールヒーター.....5-34
チルト/ テレスコピックステアリング.....5-33
電動パワーステアリング（MDPS）.....5-32
ホーン.....5-35
ステアリングホイールコントロール概観図..... 2-8
スマート回生ブレーキ..... 6-20
一時停止.....6-23
作動条件..... 6-21
システム警告.....6-23
スマート回生ブレーキのON/OFF..... 6-21
注意事項..... 6-24
フロントセンサー（フロントレーダー）.....6-23
レベル設定.....6-22
スマートクルーズコントロール（SCC）.....7-64
故障と制約..... 7-75
作動.....7-66
設定.....7-65
スマートテールゲート..... 5-58
機能無効化.....5-59
検出エリア..... 5-60
使用方法..... 5-58
寸法..... 2-9

セ

前方/ 側方/ 後方車間距離警報（PDW） 7-113
故障と制約 7-116
作動 7-114
設定 7-114
前方/ 側方/ 後方駐車衝突防止アシスト（PCA） 7--118
故障と制約 7-122
作動 7-120
設定 7-119
前方衝突防止アシスト（FCA） 7-3
故障と制約 7-21
作動 7-10
設定 7-7

タ

タイヤがパンクした場合（タイヤモビリティキット装備車） 8-12
タイヤ空気圧の調整方法 8-19
タイヤモビリティキットのコンポーネント 8-14
タイヤモビリティキットの安全な使い方に関する注意事項 8-13
タイヤモビリティキット使用方法 8-16
はじめに 8-12
タイヤとホイール 2-13,9-26
空気圧点検 9-27
タイヤサイドウォールラベル 9-30
タイヤのお手入れ 9-26
タイヤのトラクション 9-30
タイヤのメンテナンス 9-30
タイヤの推奨空気圧 9-26
タイヤローテーション 9-28
タイヤ交換 9-29
ノーマルタイヤ 9-32
偏平率の低いタイヤ 9-33
ホイールアラインメントとタイヤバランス 9-28
ホイール交換 9-30
タイヤの荷重能力および速度能力 2-14
タイヤの仕様および空気圧ラベル 2-17
タイヤ空気圧監視システム（TPMS） 8-7
TPMS インジケーター 8-10

TPMS 搭載タイヤの交換.....8-11
タイヤ空気圧の確認.....8-8
タイヤ空気圧監視システム.....8-8
タイヤ空気圧低下位置インジケーターとタイヤ空気圧インジケーター8-9
タイヤ空気圧低下警告灯.....8-9

チ

チャイルドシート（CRS）.....3-26
チャイルドシート（CRS）の選択.....3-27
チャイルドシートの取り付け.....3-29
弊社の推奨：お子さまは必ず後席に乗せる.....3-26

テ

適合宣言書.....2-18,7-152
フロントコーナーレーダー／リアコーナーレーダー.....7-152
フロントレーダー.....7-152
デジタルキー（UWB 通信式）.....5-10
システム制限.....5-21
中古車 / デジタルキーメンテナンス.....5-21
デジタルキー（NFC カードキー）.....5-17
デジタルキー（スマートフォン）.....5-10
電球.....9-48
サイドリピーターライト交換.....9-50
ナンバープレートライト交換.....9-51
ハイマウントストップライト交換.....9-51
ヘッドライト、ポジションランプ、方向指示器、デイタイムランニングライト（DRL）交換.....9-49
リアコンビネーションライト交換.....9-50
ルームライト交換.....9-51
電球のワット数.....2-12
点検整備項目に関する説明.....9-13
エアコンの冷媒.....9-13
クーラント.....9-13
ステアリングシフトボックス、ステアリングリンケージ、ステアリングブーツ、ロアアームボールジョイント.....9-13
ドライブシャフトとドライブシャフトブーツ.....9-13
ブレーキディスク、ブレーキパッド、ブレーキキャリパー、ブレーキローター、サスペンションマウンティングボルト.....9-13
ブレーキフルード.....9-13
ブレーキホースとブレーキライン.....9-13

変速機のフルード 9-13
冷却システム 9-13
電子制御式リミテッドスリップデファレンシャル（e-LSD） 6-47
警告メッセージ 6-48

ト

ドアロック 5-22
自動ドアロック/ ロック解除機能 5-27
電子チャイルドロック 5-27
ドアロック解除操作（車外） 5-22
ドアロック解除操作（車内） 5-25
ドアロック操作（車外） 5-23
冬季の運転 6-72
積雪や凍結時 6-72
注意事項 6-74
盗難警報システム 5-29
特殊状況下の運転 6-69
雨天時 6-70
横転リスクの軽減 6-71
冠水時 6-70
危険状況下 6-69
高速道路走行時 6-71
車両脱出時操作方法 6-69
スムーズなコーナリング 6-70
夜間時 6-70
ドライブモード統合制御システム 6-50
ドライブモード 6-50
ドライブモードの特徴 6-52

ナ

内装機能 5-120
USB 充電器 5-123
カップホルダー 5-120
クラスターディスプレイサイドパネル 5-124
後席サイドウィンドウサンシェード 5-128
コートフック 5-127
サンバイザー 5-121
シガーソケット 5-122
スマートフォンワイヤレス充電システム 5-125

時計 5-127
ビークルトゥロード（V2L） 5-127
フロアマットアンカー 5-128
ラゲッジスクリーン 5-129
ラゲッジネットホルダー 5-129
内装の概要 2-4
斜め後方衝突防止アシスト（RCCA） 7-105
故障と制約 7-110
作動 7-107
設定 7-106
ナビゲーションベーススマートクルーズコントロール（NSCC） 7-80
作動 7-80
制約 7-82
設定 7-80

ハ

ハイビームアシスト（HBA） 5-82
故障と制約 5-84
作動 5-83
設定 5-83
ハザードランプ 8-2
バッテリー（12V） 9-22
アイテムのリセット 9-25
最適なバッテリーサービスのために 9-23
バッテリー再充電 9-24
バッテリー容量ラベル 9-24
パワーテールゲート 5-53
緊急時パワーテールゲート安全開放 5-58
作動条件 5-53
設定 5-56
操作 5-55
初期化 5-57

ヒ

ビジョンルーフ 5-49
初期化 5-51
ヒューズ 9-33
インストルメントパネルのヒューズ交換 9-34
ヒューズ／リレーボックスの説明 9-37

モーターコンパートメントヒューズボックスのヒューズ交換 9-35
ビルトインドライブレコーダー 5-64
作動 5-68
仕様 5-73
スマートフォンアプリケーションに接続する 5-72
設定 5-65
ソフトウェアアップデート 5-73
ビデオの保存場所と保存基準 5-74
録画確認 5-71

フ

ブレーキシステム 6-27
アンチロックブレーキシステム（ABS） 6-35
オートホールド 6-32
急制動警報システム（ESS） 6-41
高性能ブレーキ 6-28
シャシー統合制御システム（VSM） 6-39
車体姿勢制御機能（ESC） 6-36
注意事項 6-42
ディスクブレーキ摩耗インジケーター 6-28
電動パーキングブレーキ（EPB） 6-29
パワーアシストブレーキ 6-27
ヒルアシストコントロール（HAC） 6-40
ブレーキアシスタントシステム（BAS） 6-42
ブレーキディスククリーニング 6-34
マルチコリジョンブレーキ（MCB） 6-41
ブレーキフルード 9-17
レベル点検 9-17
フロントガラスの除霜と防曇 5-112
エアコンディショナーシステム 5-113
防曇ロジック 5-114

ヘ

ヘッドアップディスプレイ 5-62
使用時の注意事項 5-63
情報 5-62
設定 5-62
変速機のフルード 9-18

ホ

補助バッテリー+ 1-54
ボンネット 5-52
ボンネットオープン 5-52
ボンネットクローズ 5-52

マ

マニュアル速度制限アシスト（MSLA） 7-54
作動 7-55

ミ

ミラー 5-35
アウトサイドミラー 5-42
インサイドミラー 5-35
デジタルセンターミラー（DCM） 5-36

メ

メンテナンス 9-5
メンテナンススケジュール 9-6
メンテナンスサービス 9-4
お客様の責任 9-4
メンテナンスの注意事項 9-4
メンテナンスサービスの実施について 9-8
厳しい使用条件に伴う点検整備 9-12
標準の点検整備スケジュール 9-9

モ

モーターコンパートメント 9-3
モーターコンパートメント概要 2-10
モーター番号 2-17

ヨ

四輪駆動（4WD） 6-43
緊急時の注意事項 6-46

リ

リアウィンドウの除霜（ヒーター） 5-114
リアウィンドウデフォッガー 5-114
リモートスマートパーキングアシスト2（RSPA 2） 7-126
故障と制約 7-145
設定 7-128
操作 7-129

ル

ルームライト 5-89
グローブボックスライト 5-90
自動消灯 5-89
ドアムードライト 5-91
バニティミラーライト 5-90
フロントライト 5-89
ラゲッジルームライト 5-91
リアライト 5-90

ワ

ワイパーとウォッシャー 5-92
フロントウォッシャー 5-93
フロントワイパー 5-92
リアウォッシャー 5-95
リアワイパーとウォッシャー 5-94
ワイパーブレード 9-20
交換 9-20
交換 9-20